

平成21年度
(2009)

授 業 概 要
(授業シラバス)

徳島大学 全学共通教育

目次

第1章 前期	1
1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)	3
1.1 《大学入門講座》 (Introduction to University Education)	4
1.2 《高大接続科目》 (Introduction to Natural Sciences)	9
2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)	11
2.1 《歴史と文化》 (History and Culture)	13
2.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)	22
2.3 《生活と社会》 (Living and Society)	28
2.4 《自然と技術》 (Science and Technology)	36
2.5 《日本事情》 (Japanese Culture)	42
3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)	43
3.1 《ウェルネス総合演習》 (Integrated Seminar on Wellness)	44
3.2 《健康スポーツ演習 (対象:平成16年度以前 (医保は17年度以前) 入学者)》 (Health and Sports) .	46
3.3 《共創型学習》 (Creativity Development)	47
3.4 《ヒューマンコミュニケーション》 (Human Communication)	50
4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)	53
4.1 《英語》 (English)	57
4.2 《ドイツ語》 (German)	83
4.3 《フランス語》 (French)	91
4.4 《中国語》 (Chinese)	93
4.5 《日本語》 (Japanese)	99
4.6 《情報科学》 (Information Science)	101
5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)	107
5.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)	109
5.2 《基礎物理学》 (Basic Physics)	115
5.3 《基礎化学》 (Basic Chemistry)	118
5.4 《基礎生物学》 (Basic Biology)	121
6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)	123
第2章 後期	129
1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)	131
1.1 《歴史と文化》 (History and Culture)	133
1.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)	140
1.3 《生活と社会》 (Living and Society)	146
1.4 《自然と技術》 (Science and Technology)	152
1.5 《日本事情》 (Japanese Culture)	158
2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)	159
2.1 《ウェルネス総合演習》 (Integrated Seminar on Wellness)	160
2.2 《共創型学習》 (Creativity Development)	165
2.3 《ヒューマンコミュニケーション》 (Human Communication)	168
3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)	169
3.1 《英語》 (English)	173
3.2 《ドイツ語》 (German)	193
3.3 《フランス語》 (French)	201
3.4 《中国語》 (Chinese)	203
3.5 《日本語》 (Japanese)	208
3.6 《情報科学》 (Information Science)	210

4)	【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)	213
4.1	《基礎数学》 (Basic Mathematics)	215
4.2	《基礎物理学》 (Basic Physics)	220
4.3	《基礎化学》 (Basic Chemistry)	223
4.4	《基礎生物学》 (Basic Biology)	226
5)	【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)	229

第1章

前期

1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)

大学入門講座

大学入門講座 (総合科学部) ... (総科 (人文・社創・総理)) / 教務委員会委員・学生委員会委員・桑原 / 前期 集中	4
大学入門講座 (医・医) ... (医 (医)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	4
大学入門講座 (医・栄養) ... (医 (栄)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	4
大学入門講座 (医・保健) ... (医 (保)) / 吉永・谷岡・香川・近藤・川西・細井 / 前期 集中	4
大学入門講座 (歯学部) ... (歯 (歯・口)) / 教務委員会委員・学生委員会委員・吉本 / 前期 集中	5
大学入門講座 (薬学部) ... (薬 (薬)) / 教務委員会委員・学生委員会委員・滝口 / 前期 集中	5
大学入門講座 (工・建設) ... (工 (建)) / 橋本・鎌田・渡邊・佐藤 / 前期 集中	5
大学入門講座 (工・機械) ... (工 (機)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	6
大学入門講座 (工・化学) ... (工 (化)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	6
大学入門講座 (工・生物) ... (工 (生)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	6
大学入門講座 (工・電気電子) ... (工 (電)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	7
大学入門講座 (工・知能) ... (工 (知)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	7
大学入門講座 (工・光) ... (工 (光)) / 教務委員会委員・学生委員会委員 / 前期 集中	7

高大接続科目

数学 ... / 大沼 / 前期 月 3・4	9
化学—化学のしくみ— ... / 菊池 / 前期 火 7・8	9
物理学 ... / 齊藤 / 前期 木 5・6	9
生物学-基礎からの細胞生物学- ... / 渡部 / 前期 木 5・6	9

1.1 《大学入門講座》(Introduction to University Education)

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (総合科学部) (総科 (人文・社創・総理))
Introduction to University Education 教務委員会委員/総合科学部
学生委員会委員/総合科学部, 桑原 恵 教授
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までの授業とは異なる「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につける準備をします。学部、学科のカリキュラムを説明し、学生がその内容を理解した上で自ら時間割を組めるよう指導します。また、大学生活にはやく馴染めることができるよう大学内の施設や図書館の説明をしたり、生活相談、時間割作成などの説明もしています。快適な大学生活を送るための心構えも講義にあります。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。

【到達目標】

1. 高校の授業とは異なる学習姿勢や学習方法の概要、問題点を理解し、大学の授業に順応する準備をする。
2. 大学の設備や図書館を活用できるように、快適な大学生活を過ごすための情報を得る。

【授業の計画】 1. 「学ぶ意味」、「大学で学ぶとは」 2. 「学ぶ意味」、「大学で学ぶとは」 3. 「大学生生活の設計 1」、「心の健康、からだの健康」 4. 「大学生生活の設計 1」、「心の健康、からだの健康」 5. 「大学生生活の設計 2」 6. 「読むこと、話すこと、人と向き合う」、「地域や社会に貢献するとは」、「調べること、自然と向き合う」 7. 「大学を使いこなす-図書館・情報・学習支援-」 8. 「大学に軟着陸」

【教科書】 参考書は使いません。話題に対応して必要に応じてプリント等を配布します。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定します。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 この授業は、入学式後のオリエンテーション期間に人間文化学科、社会創生学科及び総合理数学科の学生に対して、それぞれの学科に所属している学生・教員が合同で行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181115>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (医・医) (医 (医))
Introduction to University Education 教務委員会委員/医学部 医学科, 学生委員会委員/医学部 医学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学生活全体を通じて、自らの健康に留意し、自主的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学科の授業科目の構成と特殊性、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。また、先輩たちから学生生活の過ごし方に関する意見を聞き、大学生活を過ごす一助とします。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、大学で学ぶことを明確に描き、そのための目標を立て自主的に専門性を追求する学習態度を身につけること。

【授業の計画】 1. 有意義な学生生活を送るために; 知っておくこと 2. 大学で学ぶ意味; 「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につける 3. 図書館の利用方法; ビデオ等で図書館の利用方法を理解する 4. 心と体の健康 1; アルコールハラスメント 5. 心と体の健康 2; 禁煙 6. ワークショップ形式による先輩からのメッセージ 7. 自己の学生生活の目標と将来について

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181099>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 教務委員会委員
- ⇒ 学生委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (医・栄養) (医 (栄))
Introduction to University Education 教務委員会委員/医学部 栄養学科, 学生委員会委員/医学部 栄養学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学生活全体を通じて、自らの健康に留意し、自主的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学科の授業科目の構成と特殊性、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。また、先輩たちから学生生活の過ごし方に関する意見を聞き、大学生活を過ごす一助とします。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、大学で学ぶことを明確に描き、そのための目標を立て自主的に専門性を追求する学習態度を身につけること。

【授業の計画】 1. 有意義な学生生活を送るために; 知っておくこと 2. 大学で学ぶ意味; 「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につける 3. 図書館の利用方法; ビデオ等で図書館の利用方法を理解する 4. 心と体の健康 1; アルコールハラスメント 5. 心と体の健康 2; 禁煙 6. ワークショップ形式による先輩からのメッセージ 7. 自己の学生生活の目標と将来について

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181100>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 寺尾 (088-633-7087, terao@nutr.med.tokushima-u.ac.jp)

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (医・保健) (医 (保))
Introduction to University Education 吉永 哲哉 教授/大学院ヘルスバイサイエンス研究部
谷岡 哲也 教授/大学院ヘルスバイサイエンス研究部
香川 典子 教授/大学院ヘルスバイサイエンス研究部
近藤 正 教授/大学院ヘルスバイサイエンス研究部
川西 千恵美 教授/大学院ヘルスバイサイエンス研究部
細井 英司 教授/大学院ヘルスバイサイエンス研究部
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学における学びは、自ら健康に留意し、将来自分を活かす道を描きながら自主的な学習態度を培うことが必要である。そのための基礎となる 知識や情報を提供する。

【授業の概要】 大学の授業科目の構成と特殊性、自己の将来の目標に向かうための学習方法、先輩たちの学生生活の過ごし方に関するメッセージを伝え、倫理観とマナーを培いながら大学生活を過ごす一助とする。

【到達目標】 大学で学ぶことを明確に描き、そのための目標を立て自主的に専門性を追求する学習態度を身につけることができる。

【授業の計画】 1. 大学で学ぶ意味 2. 専門の授業で求められること、レポートの書き方 3. 有益な情報を得るために 4. 先輩からのメッセージ (保健学科として) 5. 身体とこころの健康を保つために 6. ワークショップ形式による先輩 (在校生) からのメッセージ 7. 卒後の進路と将来像を描く

【教科書】

- ◇ 吉野源三郎:君たちはどう生きるか, 岩波書店, 1989.
- ◇ 原 孝:大学で「自分」を見つけた一社会人学生と若い学生はなぜ群れ合ったのか, プレジデント社, 2003.
- ◇ 安岡高志ほか:授業を変えれば大学は変わる, プレジデント社, 1999.
- ◇ 小笠原 喜康:大学生のためのレポート・論文術, 講談社現代新書, 講談社, 2002
- ◇ 樋口 裕一:やさしい文章術—レポート・論文の書き方, 中公新書ラクレ, 2002
- ◇ 河野 哲也:レポート・論文の書き方入門, 慶応義塾大学出版会, 2002
- ◇ 戸田山和久:論文の教室—レポートから卒論まで, NHK ブックス
- ◇ 野矢茂樹:論理トレーニング 101 題, 産業図書

【成績評価の方法】 授業の参加態度とレポートにより評価し, 単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席の場合, 課題のレポートを課す)

【受講者のメッセージ】 自己の専門性を追求するため, 目標を立て有意義な大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181098>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 吉永 (保健学科棟 B226, 088-633-9050, yosinaga@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週金曜日18:00~19:00)
- ⇒ 谷岡 (088-633-9021, tanioka@medsci.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 香川 (088-633-9065, kagawa@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12:00-13:00)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (歯学部) (歯・口)
Introduction to University Education 教務委員会委員/歯学部
学生委員会委員/歯学部, 吉本 勝彦・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立し, 今後の大学での学びを確かなものにするために, 高校までとは異なった学習の姿勢や方法の概略, 自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とする。

【授業の概要】 本講座は, 大学 (歯学部) での学びを確かなものにするために, 高校までとは異なって, 「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されている。各講義は, そのテーマに応じて適切な授業方法で行われる。大学では一般に講義形式の授業が主になるが, 本講座では, 講義を聞き, その主題についてノートを取り, グループで討論をし, その経過・まとめを口頭で報告したり文章でレポートすることなどの学習方法も取り入れて実践される。それらを通じて, 「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして, 今日, 大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指す。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて, その概要や問題点を理解し, 友人たちや教員と討論ができ, 文章としてまとめられること, また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 大学での学び方:わからないことがあれば, 情報を収集・整理・分析し, 答えを見つけ, それを発表する。教員が行っている方法を例に, いわゆる「知的生産の技術」の概略を説明する。 2. 図書館やインターネットの活用の仕方:「知的生産の技術」では情報の収集が重要である。その主役を担っている図書館やインターネットの活用の仕方を説明する。 3. 歯科医師になるに必要な心構え:患者の立場から見た良い歯医者さんとはどんな歯科医師でしょうか, 良い歯科医師になるための心構えは何でしょうか, そのような疑問に対してグループ討論を通して考える。 4. 歯学教育と全学共通教育:全学共通教育の概略を説明するとともに, 歯学教育における全学共通教育の意義を, グループ討論を通して考える。 5. 大学生活の過ごし方:安全で快適な大学生活を送るにあたって必要な事項を説明する。また, 良い歯科医師になるために, 勉学以外に何をすべきかについて考える。 6. 心と体の健康の保ち方:楽しい大学生活を送るには心と体の健康が必須である。食生活での注意事項, 飲酒と喫煙, 及び性的問題等について議論する。 7. 学生相談室と大学生活:学生相談室について, その利用の仕方も含め説明する。また, 大学生活で遭遇する様々な人権問題, 悪徳商法から身を守るための方法についても説明する。 8. 課外活動の楽しさと意義:先輩の体験談を通して, 課外活動の楽しさと意義を考える。

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し, 単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は, 課題のレポートを課す)

【受講者のメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか常に考え, 快適で有意義な大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181114>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (薬学部) (薬 (薬))
Introduction to University Education 教務委員会委員/薬学部
学生委員会委員/薬学部, 滝口 祥令・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか, これを自ら探るには, 大学生活を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために, 高校までとは異なった学習の姿勢や方法の概略, 自律的な大学生活を送る方策を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は, 学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために, 高校までとは異なって「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう, 各学部学科独自の構成になっています。各講義は, そのテーマに応じて適切な授業方法で行われ, 主として大学生活をスタートするに当たっての基本的な事柄 (生活面・学習面) についてのオリエンテーションです。その他, 薬学部では特に, 薬学とは何か, 大学では何を学び, 将来どのような職業に就き, 社会貢献をしていくべきか等について, 大学, 企業, 調剤薬局サイドの講師の先生からお話をさせていただきます。それらを通じて「自ら学ぶ」姿勢を身に付け, 今日, 大学生が社会から求められている「知的技法」を獲得するきっかけをつかむことを目指します。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて, その概要や問題点を理解し, 友人や教員との討論, 意見交換を通し, 大学で学ぶ姿勢, 目的, 目標を定める。

【授業の計画】 1. 学生生活の過ごし方薬学部での学生生活と健康管理, 学生相談室を利用するには 2. 大学で学ぶことの意味・意義自主学习「何をどう学ぶか」を自ら獲得する方法, 共通教育科目履修に関する注意, 履修科目の web 登録方法 3. 薬学を学ぶ意欲を涵養する—薬学が果たしてきた役割及び社会的重要性, 本学薬学部における実際の教育・研究動向及びその成果 4. 薬学入門—薬草を中心にした話 5. 調剤薬局で働く調剤薬局の現場で働く先輩から—大学で学んでおくこと, 調剤薬局の仕事の内容, 薬剤師の役割について聞く。 6. 企業で働く製薬企業の第一線で働く先輩から—大学で学んでおくこと, 製薬企業での仕事・研究, 新薬開発への道筋などについて聞く。 7. 環境問題について「環境科学」という視点から概観し, 認識を深める。 8. 図書館の利用方法図書館ツアー (実地見学), 図書館資料の検索方法 (OPAC の使用方法他)

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し, 単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は, 課題のレポートを課す)

【受講者のメッセージ】 大学では, 何を何のために学ぶのか, 目標をしっかりと立てて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181116>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 滝口 (088-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時薬学部研究棟2階中央薬物治療解析学E-mail takiguti@ph.tokushima)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・建設) (工 (建))
Introduction to University Education 橋本 親典・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
鎌田 磨人・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 渡邊 健・助教/工学部
佐藤 弘美・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか, これを自ら探るには, 大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために, 高校までとは異なった学習の姿勢や方法の概略, 自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は, 学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために, 高校までとは異なって「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう各学部学科に応じて構成されています。各講義は, そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが, この講座では, 講義を聞き, その主題についてノートを取り, グループで討論をしたり, その経過・まとめを口頭で報告したり, また文章でレポートすることなどの, 学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて, 「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして, 今日, 大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【キーワード】 導入授業, 大学入門, オリエンテーション

【関連科目】 『学びの技』(I.0)

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 心と体の健康 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 読書のすすめ・対話の重要性 コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 3. 学びのしくみ・学習支援室 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法等を紹介します。 5. 建設工学科のおいたちと教育目標 本学の建設工学科の創立から現在までの歴史を紹介し、本学科の教育目標を建設技術者に求められる資質と関連づけて説明する。 6. 建設関連施設の見学 建設関連施設を1, 2箇所見学し、ものづくりの流れや、大学で習得すべき事項等について説明する。 7. 防災センターの見学 徳島県立防災センターを見学し、防災への取り組み事例等を介して、大学で習得すべき事項等について説明する。 8. 自分の将来像と大学生活 グループで各自の将来像や夢について語り、夢を実現するために如何に大学で学ぶかについて討議し、検討結果を発表する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』, その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181104>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 渡邊(建設棟A506, 088-656-7320, watanabe@ce.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤(建設棟A511, 088-656-7324, sato@ce.tokushima-u.ac.jp)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座(工・機械) (工(機))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 機械工学科, 学生委員会委員/工学部 機械工学科
1単位 前期 集中

(平成19年度以前の授業科目:『大学入門講座』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか、これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主となりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを作り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指します。

【キーワード】 機械工学科, 履修計画, 大学生活

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。 2. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法等を紹介します。 3. 附属図書館からのオリエンテーション 4. 学びの相談について 5. 学生委員からの諸注意 6. 教務委員からの諸注意 7. 履修計画の作成 8. 履修計画の作成 9. 履修登録 10. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。 11. 学びと倫理 人間また技術者として、何を身に付けなければならないか、その基本を理解する。 12. 機械工学の生い立ち、教育理念・教育目標・教育方針を説明し、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 13. 進路の探し方 これからの生き方、進学、就職等の状況と心構えを説明する。 14. レポートの書き方 その意味と書き方について説明する。またプレゼンテーションの重要性を説く。 15. パソコンを使う 情報を収集・発信するためのテクニックを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』, その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181106>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高木(M620,088-656-7359,takagi@me.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 機械工学科・教務委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座(工・化学) (工(化))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 化学応用工学科

学生委員会委員/工学部 化学応用工学科

1単位 前期 集中

(平成19年度以前の授業科目:『大学入門講座』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか、これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学で学ぶために必要な術を、化学応用工学科の教員を始め、徳島大学の教員が各方面から講述します。

【キーワード】 学生生活, 学習, コミュニケーション

【到達目標】 大学での学びに関する全体像が把握できること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 大学で学ぶとはどういうことか、化学応用工学科で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を紹介する。 3. 情報を検索する方法として、基本的なインターネットの利用方法を紹介します。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介します。 5. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 6. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 7. ものづくりのすすめ(創成学習開発センターと創成科目を紹介します) 8. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181102>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 安澤(化512, 088-656-7421, mik@chem.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日15:00から17:00 工学部化学 生物棟312号室)

⇒ 鈴木(化514, 088-656-7415, suzuki@chem.tokushima-u.ac.jp)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座(工・生物) (工(生))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 生物工学科, 学生委員会委員/工学部 生物工学科

1単位 前期 集中

(平成19年度以前の授業科目:『大学入門講座』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学での学習・生活は高校までとは異なり、積極的に取り組む自己責任が要求される。自己責任の達成には、入学から卒業するまでの間に生物工学科で何を学び(学習目標)、学んだことを将来どのように生かすか(将来像)をしっかりと持つことが必要である。これからの勉学や健康的な生活を送るうえで、基本的に重要な事柄を学び、大学での学習と生活の方法、学習目標と将来像などについて全体的に理解することを目的とする。

【授業の概要】 授業では、履修の手引(講義シラバス)、学生生活の手引、学びの技はじめの一步をテキストとして使い、教員の経験を織りまぜながら、生物工学科の教育目標、カリキュラム、学習方法、成績評価、大学生に要求される能力、健康的な学生生活、また卒業後の進路について説明するとともに、討論を通じて学生自身の大学での学習目標や自分の将来像などについて考える。

【到達目標】 大学における健康で有意義な生活を達成するための学び方について理解し、将来について考える。

【授業の計画】 1. 大学生とは? 生物工学科とは? 日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定教育プログラムとは? 大学院とは? 教員や先輩の対談を含めて学習する。 2. 生物工学科の教育目標 (人格・教養と倫理観、国際コミュニケーション能力、課題解決力、研究開発力) とカリキュラム、日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定教育プログラムについて学習する。 3. 全学共通科目と専門科目、単位制、Web 登録、講義ノートのとり方、レポートのまとめ方、評価方法、ポートフォリオの作り方などについて学習する。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学習する。 5. 学びのしくみ・学習支援室の紹介、教育の理念・目標や教育方針、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 6. 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用、心と体の健康管理法とその重要性、及び注意が必要な感染症について学習する。 7. 読書の重要性、またコミュニケーションのために自分の意見を構築して発表することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力の重要性について認識する。 8. 大学生活における目標と自分の将来像について考える。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步 徳島大学工学部導入教育テキスト、平成 20 年度「履修の手引」講義概要 (シラバス)

【成績評価の方法】 到達目標の達成度をレポート、プレゼンテーションによって評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 何のため何をどのように学ぶのか考え、有意義な大学生活を送ろう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181108>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 辻 (化生棟 710, 088-656-7526, tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 学科長)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・電気電子) (工 (電))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 電気電子工学科
学生委員会委員/工学部 電気電子工学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。電気電子工学科の紹介をはじめ、国際化も視野に入れた各自の将来像を描き、それに向かうための目標について考えます。また、充実した大学生活を送るための種々の情報を修得し、それらを通じて、「自ら学び」「自ら考える」姿勢が身につくことを目標とします。

【到達目標】 大学での学びのしくみを理解し、何をなぜ学ぶかを知り、学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】 1. 健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介、酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 3. 学びにしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに、学習支援室の上手な利用方法を紹介します。4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 4. 電気電子工学科とは: 電気電子工学科の紹介、カリキュラムの概要および JABEE との関係を理解する。 5. 電気電子技術者としての将来像および各自の学習目標について考え、自分と社会の将来像を描いてみる。 6. 全学共通教育の履修・学習方法: 全学共通教育の意義・目的、単位とは何か等を理解し、履修・学習方法を考え、履修計画を作成する。 7. 専門教育科目の履修・学習方法: 各学年での専門教育学習の意味と学習方法を説明し、大学院を含めた6年間の一環教育としての履修・学習方法を考える。 8. 学生生活の道しるべ有意義な大学生活を送るための情報を活用する。 9. 施設見学: 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、『履修の手引き』、『学生生活の手引き』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181112>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

⇒ 学生委員会委員

⇒ 電気電子工学科 1 年クラス担任

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・知能)

(工 (知))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 知能情報工学科
学生委員会委員/工学部 知能情報工学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学では、高校までとは異なった、学ぶ姿勢が必要である。これからの学習において重要となる様々なことについてその全体像を把握し、深く学ぶために必要な事柄を理解してもらうことを目的とする。

【授業の概要】 大学における授業の形態、学び方、発表技術、および、レポートの作成技術について説明する。

【キーワード】 大学入学、学生生活、履修登録

【到達目標】 大学で何をなぜ学ぶかを知り、その学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】 1. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法・掲示板などを紹介する。 2. 健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。 3. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。 4. 学びのしくみ・学習支援室 教育の理念・目標や教育方針、そして学習支援室の上手な利用方法を紹介します。これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 5. スライドを作成して効果的に発表するためのプレゼンテーション・スキルを学ぶ。 6. PowerPoint 等を用いたスライドの作成法を学ぶ。 7. レポートを分りやすくまとめるためのテクニカルライティング・スキルを学ぶ。 8. Latex を用いたレポートの作成法を学ぶ。 9. 教員と大学院学生との小グループ討論 1. 大学で大事なことは何か? 10. 教員と大学院学生との小グループ討論 2. 学習及び学生生活上の指導。大学生活の上手な過ごし方。 11. 教員と大学院学生との小グループ討論 3. 4年間のマイルストーン・講義概要・創成科目の説明。就職・進路。 12. 履修方法の説明・指導。時間割の組み方。 13. 履修登録システムのガイダンス。 14. Web 履修登録 1. 入力と確認。 15. Web 履修登録 2. 修正作業。 16. 質疑応答。 総括。

【教科書】

- ◇ 履修の手引き、「学びの技」はじめの一步、学生生活の手引き
- ◇ 配布するプリント

【成績評価の方法】 授業への参加姿勢とレポートにより評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 新入生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181110>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 教務委員会委員 (オフィスアワー: 学科に掲示してある「教職員名簿」を参照)
- ⇒ 学生委員会委員 (オフィスアワー: 学科に掲示してある「教職員名簿」を参照)

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・光)

(工 (光))

Introduction to University Education

教務委員会委員/工学部 光応用工学科、学生委員会委員/工学部 光応用工学科
1 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『大学入門講座』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学は、次の「知の体系」を中心に組織的に活躍する機関である。 1. 知の体系の構築 (知の創造) 2. 知の体系の伝達 (教育・学習) 3. 知の体系の還元 (知の応用) 大学で学ぶ意味を自ら探るには、大学生活全般を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要がある。今後の大学生活での学びを確かなものにするために、高校までとは違った学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とする。

【授業の概要】 大学で行われる講義、演習、実習について紹介し、各自が学習計画、受講、勉学実行、学びの自己評価など学びの設計を行う際の指針を示す。また、大学生活における人権問題、健康管理、危機管理などについて述べる。

【到達目標】 以下『【授業の計画】』のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること。

【授業の計画】 1. 大学生活のために 心と体の健康 (健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。) 2. 学科の教育理念 (教育の理念・目標や教育方針を紹介し、これから4年間の学生生活を考える基礎を作る。) 3. 学習目標 (光応用工学科研究室見学を通じ、教育の目的、目標、勉学や研究への取り組みに関して教職員及び先輩とディスカッションを行う。) 4. 学習法、図書館、施設見学 (光応用工学科研究室見学を通じ、学習法、施設利用法などに関して教職員及び先輩とディスカッションを行う。) 5. 学習の仕組み、読書、対話 (学習計画、受講、勉学実行、学びの自己評価など) 6. 学びの相談について (学習支援室の上手な利用法を紹介する。) 7. 講義の受け方、ノートのとり方、レポートの書き方 8. 英語、プレゼンテーション (コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。)

【教科書】 「学びの技」はじめの一步、学生生活の手引き、安全マニュアル、履修の手引きなど。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 大学入学直後に集中講義を行う。授業計画1は1講時、それ以外は2講時分である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181101>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森 (光棟 407, 088-656-9417, mori@opt.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは、学科の掲示板等をご覧ください。)

⇒ (オフィスアワー: 光応用工学科事務室、随時)

【備考】 学科長、教務委員、学生委員及び学年担任 (正、副) が担当する。

1.2 《高大接続科目》 (Introduction to Natural Sciences)

高大接続科目 (Introduction to Natural Sciences)

数学

Mathematics

大沼 正樹 准教授
前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然科学入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『数学』)

【授業の目的】 自然科学系の授業を受ける際にこれまでに高校まで学習する数学について大学受験科目範囲しか学習してこなかったので心配という人はいませんか?この授業は大学入学前までの不足した数学の知識を補うための授業です。主に高校数学の数学 III の微積分法および数学 C の行列の演算と平面曲線について学習します。数学的証明の理解は大切ですが、この講義では計算方法の習得を優先的な目的とします。

【授業の概要】 授業は主にテキストに沿って講義形式で行われます。始めに数列および 1 変数関数の極限について学習します。更に基本的な平面曲線の概形と式の関係について学習し、初等関数 (三角関数, 指数関数, 対数関数等) の様々な性質と微積分法を学習します。講義の終盤には多変数関数を学習するための簡単な行列の演算を学習します。講義のレベルは初習者に合わせています。

【キーワード】 微分積分学入門

【到達目標】 基本的な平面曲線と式の関係を理解し、様々な 1 変数関数の極限計算および微積分法の計算が出来るようになる。簡単な行列の演算が出来るようになる。

【授業の計画】 1. 数列と極限 2. 1 変数関数の極限 (その 1) 3. 1 変数関数の極限 (その 2) 4. 三角関数 5. 指数関数, 対数関数 6. 微分法, 初等関数の導関数 (その 1) 7. 初等関数の導関数 (その 2) 8. 様々な 1 変数関数の導関数 9. 不定積分と原始関数 10. 置換積分法, 部分積分法 11. 定積分 (その 1) 12. 定積分 (その 2) 13. 行列とその演算 (その 1) (和, 差, 積) 14. 行列とその演算 (その 2) (逆行列, 行列式, 順列) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 石村園子著 「やさしく学べる微積分法」 共立出版株式会社 2,000 円

【成績評価の方法】 受講姿勢とレポート提出物による平常点と期末試験の得点によって評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業内での問題演習の時間を多く取ることは困難なので各自で教科書の練習問題に取り組んでください。質問は歓迎します。本講義の内容以外の高校数学でも恥ずかしながらどうぞ。卒業要件の単位として認められない学部・学科の学生がいますので履修する際に注意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180969>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大沼 088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 前期:月曜日 12時から12時50分 総合科学部1号館南棟2階 1227室)

【備考】 開講学期:前 (総科):人文・社創・総理 (医):栄・看護・検, (歯):口は教養科目群「自然と技術」に 2 単位として含めることができる。

高大接続科目 (Introduction to Natural Sciences)

化学一化学のしくみー

Introduction for Academic Chemistry

菊池 淳 助教/総合科学部
2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然科学入門』)

【授業の目的】 高校化学から大学の基礎化学でつまづきやすい事柄について、自分のわかっていることとわからないことを自ら知ることを目的にする

【授業の概要】 大学に入学したものの化学の知識に不安が・・・こんなことは無いですか? 「化学 I しか高校で習わなかった!」あるいは「受験科目に無かったのでもう勉強してない!」。こんな状態で大学の化学の授業について行けるのかな?このように考えている人はいませんか? 本授業は化学に不安を持つ新入生のための授業です。ただ座って授業を聞いているだけでは化学は身につけません。本講義は演習形式を多く取り入れて、実際に自分で考えて「化学を自分のモノにする」ことを目標としています。無理なく知識とセンスを身につけるために生徒と教官のインタラクティブな内容で講義を行ないます。

【キーワード】 化学, 基礎化学, 高校の化学

【到達目標】 大学の化学の授業で当たり前につかわれる事柄, たとえば数量単位や科学的概念について理解し, 演習をとおしてそれらを身につける

【授業の計画】 1. 物質の分類・分離 2. 元素と原子 3. 周期表と元素 4. 分子と結合 5. 化学における測定と単位 6. 気体とその振る舞い 7. 溶液とその振る舞い 8. 化学反応とは? 9. 酸と塩基 10. 酸化と

還元 11. 無機化合物とその性質 12. 有機化合物 (芳香族) 13. 有機化合物 (脂肪族) 14. 無機化学と結合論 15. 有機化学と反応論 16. 総括

【教科書】 基礎物質科学 大学の化学入門 三共出版 2,400 円

【成績評価の方法】 授業の最後で予習と復習のミニテストを行ない総合的に評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180968>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 菊池 (mkikuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

高大接続科目 (Introduction to Natural Sciences)

物理学

Physics

齊藤 隆仁 准教授
前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然科学入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『物理学』)

【授業の目的】 高校で物理を学習してこなかったで、大学での自然科学系の授業を受ける際に心配という人はいませんか?物理には、自然科学で普遍的に現れる現象のエッセンスや現象を理解する上での基本的な考え方が数多く含まれています。したがって大学における自然科学系の講義では、何らかの形で物理の知識や論理的な考え方が必要となります。ところが高校においては試験で点が取れなさそうなので敬遠したり、あるいは法則や公式を覚えて問題を解くという過程で興味を失った人もいます。この講義では高校で物理を履修していない人、あるいは履修したけれど再度勉強したいという意欲のある人を対象に行います。

【授業の概要】 高等学校の物理 I と物理 II で学ぶ「力と運動」、「エネルギーと熱」、「音と光の波」、「電気と磁気」、「原子の構造」をひとつおりの学習します。内容が多いのですが、具体的な問題を解くことには力点を置かず、(1) 物理ではどのような現象があって、どうやって記述するのか、(2) どのような考えから法則が導かれたのか、を俯瞰していきます。

【キーワード】 力と運動, エネルギーと熱, 音と光の波, 電気と磁気, 原子の構造

【到達目標】 基礎的な物理の現象を数式を用いて表すことができるとともに、その数式の意味を理解できる。さらに物理現象がどのような法則から導かれるかということを説明できる。

【授業の計画】 1. 授業の概要, 測定と単位 2. 運動のあらわし方 3. 力と運動 (わずか 3 つの法則で世界が回る 宇宙が駆ける) 4. 運動量とエネルギー (仕事よりもパワーだ) 5. 熱と気体 (熱もエネルギーである) 6. 熱と仕事 (エネルギーはなくならない) 7. 波の性質 (ゆらりゆられてどこへ行く) 8. 音の性質 (音色は波の重なり方次第) 9. 光の性質 (光の色も波まかせ) 10. 電気 (パシとくる静電気の正体は?) 11. 電流 (電気の流れをイメージする) 12. 電気と磁気 (電流が力を呼び、力が電流をつくる) 13. 等速円運動 14. 電子 (その発見と不思議な性質) 15. 原子 (究極の粒子はどこにある)

【教科書】 教科書: 「新しい高校物理の教科書」 山本明利・左巻健男著 講談社ブルーバックス 2006 年 1150 円

【成績評価の方法】 毎回の授業時間に提出するプリントにより評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 本授業の単位は卒業要件の単位としては認定されないので注意してください。

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsurigaku/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180970>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 金曜日 12時~13時, 総合科学部3号館北棟1階)

【備考】 開講学期:前

高大接続科目 (Introduction to Natural Sciences)

生物学-基礎からの細胞生物学-

Basic Cell Biology

渡部 総 准教授
2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然科学入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 本講義は、大学の専門で生物学の基本知識を前提としている学部学生で、高等学校で生物を履修しなかった学生や、部分的に未履修な項目のある学生対象とした補習的な授業である。高等学校の生物学を基本として、細胞の構造と機能、発生と細胞分化、動物の体と機能、遺伝と遺伝子工学などを中心に、基本的な知識と考え方を身につけた上で、大学基礎レベルの内容を学ぶ。

【授業の概要】 生命の基本単位としての細胞の構造と機能を理解した上で、細胞小器官, 代謝, 生命の発生, 遺伝と遺伝子, 遺伝子発現機構

全学共通教育 (2009) 〉 前期・【大学入門科目群】・《高大接続科目》

の基本、遺伝子工学などについての基本的な事項を中心に放送教材を中心に授業を行う。

【キーワード】細胞、遺伝子、遺伝、細胞増殖・分化、放送教材、発生

【到達目標】

1. 生命に関する基本的概念を身につける。生命の基本単位としての細胞の意味を理解し、体細胞クローン、体外受精、遺伝子治療などについて生命科学の諸問題を考察できるように、基本的知識と考え方を身につける
2. 基礎生物学履修に必要な基礎知識、考え方を身につける。

【授業の計画】 1. 生命の基本単位 2. 核の働き 3. 細胞膜 4. 細胞小器官 5. 組織 6. 酵素 7. 生殖細胞 8. 発生1 9. 発生2 10. 遺伝 11. 様々な遺伝 12. 肝臓 13. 幹細胞 14. 神経 15. バイオテクノロジー 16. 総括授業

【教科書】ダイナミックワイド 図説生物 総合版 東京書籍 880 円

【参考書等】「エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著、中村桂子他監修、南江堂)

【成績評価の方法】ミニレポートにより評価する

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185514>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日12:00-13:00(総合科学部1号館北棟2階3211室))

2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

日本の古代史 ... /衣川/前期 月 1・2.....	13
20 世紀前半の中国 ... /荒武/前期 月 1・2.....	13
異文化/自文化研究へのいざない ... /高橋/前期 月 1・2.....	13
世界遺産が語る地理と歴史 ... /豊田/前期 月 1・2.....	13
アジアの近代と日本 ... /葭森/前期 月 3・4.....	14
明治文学を読む ... /鳥羽/前期 月 3・4.....	14
ドイツの伝説と英雄叙事詩 ... /石川/前期 月 3・4.....	14
考古学概論 I ... /中村/前期 月 3・4.....	15
現代絵画論 ... /平木/前期 月 3・4.....	15
明治文学を読む ... /鳥羽/前期 月 9・10.....	15
戦国時代から近世社会への変化 ... /桑原/前期 火 1・2.....	16
現代世界の展開 ... /佐久間/前期 火 1・2.....	16
中東経済入門-歴史と文化基盤- ... /水島/前期 火 9・10.....	16
徳島を考える ... /高橋/前期 火 9・10.....	17
アメリカ社会の形成と展開 ... /西出/前期 水 3・4.....	17
日本中近世文学 I ... /原水/前期 水 3・4.....	17
東アジア考古学概論 I ... /東/前期 水 3・4.....	17
日本古代文学 I ... /堤/前期 水 3・4.....	18
日本語の音声 ... /岸江/前期 木 3・4.....	18
異人たちとの交流 ... /有馬/前期 木 3・4.....	18
西洋音楽の歴史 ... /宮澤/前期 木 3・4.....	19
ビジュアルコミュニケーション ... /石井/前期 木 3・4.....	19
絵画表現と技法の基礎 ... /平木/前期 木 5・6.....	19
アーツ・アンド・テクノロジー ... /石井/前期 木 5・6.....	19
現代世界の展開 ... /佐久間/前期 金 1・2.....	20
日本語について考える ... /仙波/前期 金 1・2.....	20
民族音楽入門 ... /片岡/前期 金 1・2.....	20

人間と生命

知の探求と現代 ... /石田/前期 月 1・2.....	22
心理学入門 ... /濱田/前期 月 1・2.....	22
環境問題などと科学者・マスコミ-各種の情報に惑わされない為の基礎知識- ... /小山/前期 月 1・2.....	22
心理学概説 ... /佐藤/前期 月 3・4.....	23
心理学初歩 ... /原/前期 月 3・4.....	23
心とからだの健康 ... /佐野・長宗・嵯峨山/前期 月 3・4.....	23
宗教と人間 ... /大橋・石田/前期 月 9・10.....	23
生命倫理学研究 ... /山口/前期 火 1・2.....	24
心の科学 ... /佐野/前期 火 1・2.....	24
鉄道の教育人間学 -なぜ子供は「でんしゃ」がすきなのか- ... /弘田/前期 火 9・10.....	24
古代ギリシアの人と思想 ... /吉田/前期 水 3・4.....	25
自己分析の心理学 ... /山本/前期 水 3・4.....	25
学びの心理学 ... /川野/前期 水 3・4.....	25
生体のしくみ ... /中川/前期 水 3・4.....	26
古代ギリシアの人と思想 ... /吉田/前期 木 3・4.....	26
自己発見の心理学 ... /香川/前期 木 3・4.....	26
心理学基礎 ... /境/前期 木 3・4.....	26
身の回りの微生物 ... /横井川/前期 木 3・4.....	27
科学技術と人間 ... /石田/前期 木 3・4.....	27
心理学概論 ... /福森/前期 木 5・6.....	27

生活と社会

消費生活と財産法 .../直井/前期 月 1・2	28
経済学入門 .../眞弓/前期 月 1・2	28
食生活の経済学 .../中嶋/前期 月 1・2	28
家族法の諸問題 .../直井/前期 月 3・4	28
人材マネジメント .../西村/前期 月 3・4	29
暮らしと地図 .../田中/前期 月 3・4	29
政治とメディア .../饗場/前期 月 9・10	29
憲法と人権 I .../上地/前期 火 1・2	29
環境私法の基礎 .../直井/前期 火 1・2	30
企業法入門 .../清水/前期 火 1・2	30
国際化のなかで地域問題を考える .../北村/前期 火 1・2	30
社会学のパースペクティブ .../矢部/前期 火 9・10	31
ゼミナール「意思決定と情報」 .../多田/前期 火 9・10	31
現代社会と法 .../上原/前期 水 3・4	31
人口経済学入門 .../趙/前期 水 3・4	31
ゼミナール「現代日本経済論」 .../立花/前期 水 3・4	32
社会学のパースペクティブ .../矢部/前期 水 7・8	32
憲法と人権 I .../堀井/前期 木 3・4	32
経済と法 .../泉/前期 木 3・4	32
社会科学のための統計学入門 .../矢野/前期 木 3・4	33
ゼミナール「社会科学の夢」 .../水島/前期 木 3・4	33
ボランティア論 .../樫田/前期 木 5・6	33
魔術からの解放の再魔術化 .../吉田/前期 金 9・10	34
国際協力論 2 -四国から世界へ 輝く瞳のつくり方- .../饗場/前期 集中	34

自然と技術

相対論入門 .../中山/前期 月 1・2	36
ゲノムと発生のテクノロジー .../真壁/前期 月 1・2	36
生物がつくる鉱物-生体鉱物- .../沼子/前期 月 1・2	36
第四紀の自然環境 .../西山/前期 月 1・2	37
身のまわりの物性科学 .../小山/前期 月 3・4	37
地球の科学 .../石田/前期 月 3・4	37
地球と地層の科学 .../村田/前期 月 9・10	38
環境科学入門-人間と地球の調和を目指して- .../山本/前期 火 1・2	38
アクティブラーニングと科学 .../齊藤・嵯峨山・田村/前期 火 1・2	38
化学と技術-生きている化学はおもしろい- .../和田/前期 水 3・4	39
インタラクティブシステムデザイン .../吉田/前期 水 3・4	39
ゼミナール「遺伝子と疾患」 .../伊藤・辻/前期 水 9・10	39
数理の世界 .../村上/前期 木 3・4	40
宇宙物理学入門 .../伏見/前期 木 3・4	40
化学と社会 .../三好/前期 金 1・2	40
資源と環境のはなし .../眞弓/前期 金 1・2	41
災害を知る .../中野・岡部・西山・長尾・上月・村田・村上・未澤・西村・三村・黒崎・佐藤/前期 金 9・10	41

日本事情

日本事情 I ... (留(留))/坂田/前期 水 3・4	42
日本事情 III ... (留(留))/三隅/前期 木 3・4	42

2.1 《歴史と文化》 (History and Culture)

歴史と文化 (History and Culture)

日本の古代史

Ancient Japanese History

衣川仁 准教授
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 日本古代史の政治史的な流れと、それに深く関わった政治権力 (特に皇統) の歴史をおさえ、その特質を理解することを到達目標として、「日本古代の政治と社会」について講義します。それと同時に、歴史学が考える学問であることを理解してもらいたいと思います。

【授業の概要】 9 世紀末から 11 世紀にわたる日本古代の政治史を概観します。政治史の中心にあった天皇、およびその周辺の政治勢力が、いかに支配システムを構築していったのか、史料に基づいて講義します。

【キーワード】 天皇、摂関政治、仏教、怨霊、ケガレ

【関連科目】 『歴史と文化/古代・中世日本の社会』(0.5, ⇒133 頁)

【到達目標】 平安中期以降の政治史の流れと、それに深く関わった政治権力の歴史をおさえ、その特質を理解する。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 寛平の治 3. 時平と道真 4. 延喜という「聖代」 5. 平安の地方社会 6. ケガレの構造 7. 道真の怨霊 8. 将門の乱 9. 藤原純友と海賊 10. 兵と僧の台頭 11. 師輔の権勢 12. 安和の変 13. 花山天皇の出家 14. 道長の王権 15. 試験 16. 総括

【教科書】 教科書は使用せず、プリント等を配布する予定です。参考書等は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法】 期末試験を中心に評価しますが、出席やコメントなど、平素の授業への取り組みも勘案します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 歴史の講義とはいっても、暗記ではなく考えることを意識してほしいと思います。それは試験においても同様です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181321>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時50分~14時20分)

歴史と文化 (History and Culture)

20 世紀前半の中国

20th Century China I

荒武達朗 准教授
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 本授業では 20 世紀前半の中国史、帝政の崩壊から中華人民共和国成立までを講義する。歴史事項の暗記につとめるのではなく、個々の歴史事項が歴史的な文脈の中でどういう意味を持っているのかを「考察」していきたい。

【授業の概要】 下の授業の計画を見よ。

【到達目標】 我々にとっても極めて重要な中国近現代史のアウトラインを理解する。

【授業の計画】 1. 以下の項目の順番に沿って授業を進める。 2. い 斜陽の大清帝国:西方の衝撃 (ウエスタンインパクト) 3. ろ 帝国主義の時代 4. は 1910 年代 中華民国の成立と政局の混乱 5. に 五四運動へ:民族意識の高揚 6. ほ 1920 年代 中国国民党と中国共産党:統一への試行錯誤 7. へ 北伐の完成:中国の統一 南京国民政府の成立 8. と 毛沢東と蒋介石 二つのパソナリティ 9. ち 1930 年代 日本の大陸侵略 10. り 1937 年-45 年 日本の大陸侵略 2 日中全面戦争 11. ぬ 1945-49 年 「惨勝」 国共内戦 中華人民共和国の成立 (共産党の勝利) 12. (一回の授業で語り尽くせぬ場合には、次の回へと順延していく。) 13. (テスト) 14. (総括授業)

【教科書】 教科書はプリントを準備する。参考書などは追って指示する。

【成績評価の方法】 小テスト (40 点)、期末試験・レポート (60 点)

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 授業開始直後などに出席をとる。睡眠や内職は認めない。携帯電話の使用はもつてのほかである。遠慮無く叱り付けるので、心して授業に取り組みたい。なお、近年ノートすらもとらない学生がいるが、このような態度で単位を得ることは出来ない。例年、登録者の 3 割は単位を取得できない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185515>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業日の 8 時 20 分から、荒武研究室 (総合科学部 1 号館 3 階)、直前場合は教室で、早起きすること。)

【備考】 内容を変更する場合もある。その場合は掲示にて通知する。

歴史と文化 (History and Culture)

異文化/自文化研究へのいざない

Introduction to Japanese and Foreign Cultures

高橋晋一 教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『文化人類学』)

【授業の目的】 「地球時代」を迎えた今日、われわれの生きている社会、およびそこに見られる文化は日々大きく変化し、ますます複雑なものになってきているが、文化人類学の大きな課題の一つは、このような社会・文化の複雑な網の目を解きほぐし、その奥にある社会・文化の本質を洞察することにある。本講義は、異文化および自文化の本質を客観的に捉える視点を身に付けることを通じて、同じ地球に生きる他者 (および自己) の理解に寄与することを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、文化人類学の幅広い研究領域の中から、特に基本的なテーマ、現在われわれが生きている社会・文化を理解するのに有益であると思われるテーマをいくつか取り上げ、概説する。講義では、世界の諸民族の文化のみならず、われわれの身近な生活文化 (年中行事、ポピュラー音楽、ファッションなど) も積極的に取り上げる。

【キーワード】 異文化理解、現代社会、文化人類学、グローバリゼーション、民俗学

【関連科目】 『歴史と文化/沖縄社会文化論』(0.5, ⇒136 頁)

【到達目標】 文化人類学の基本的な考え方・理論を理解し、それを元に人間社会・文化の構造や意味の分析を行うことができる。

【授業の計画】 1. 文化人類学の考え方-イントロダクション 2. 異文化理解の視点-アイヌのイヨマンテの事例より 3. ウチなる世界とソトなる世界-共同体の構造理解 4. 成人式とバンジージャンプ-儀礼論のパスバクティヴ 5. 文化と死生観-よりよく生きる/死ぬための知恵 6. 人間にとって「癒し」とは何か-医療と文化再考 7. HIP HOP STYLE!-ポピュラー音楽と文化・社会 8. 都市を「読む」-都市文化論の視点 9. 日本人とクリスマス-文化の受容と変容 10. 衣食住の文化人類学 (1)-住まいの文化 11. 衣食住の文化人類学 (2)-装いの文化、食の文化 12. 私は何人 (なにじん)?-民族とエスニシティ論 13. 世界をめぐる日本文化-グローバリゼーションとポピュラー・カルチャー 14. 開発、環境と観光-文化人類学と現代世界 15. 期末レポート提出 16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類学入門』弘文堂、2005 年
- ◇ 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2006 年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982 年
- ◇ 21 世紀研究会編『常識の世界地図』文藝春秋、2001 年

【成績評価の方法】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 受講者の理解を助けるため、授業の中では DVD、CD、パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181342>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 高橋 (1314, 088-656-7126, takahashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 月曜日 12 時~13 時 高橋研究室 (総合科学部 1 号館 3 階))

歴史と文化 (History and Culture)

世界遺産が語る地理と歴史

Discover the World Heritage: Geography and History

豊田哲也 准教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 中学・高校ではだれもが地図や年表に親しんだはずである。地理学は地図に描かれた空間的な広がりを視野に、それぞれの地域に固有な特徴はなにか、地域と地域はどのように結びついているかを考える。歴史学は年表に記された時間的な流れに注目し、さまざまな事象がいかなる背景のもとに生じたか、それら事象がどう関連しあっているかを考える。両者はいわば世界という大きな織物の横糸と縦糸にあたる。この授業ではユネスコが選定する世界遺産を題材とし、地理と歴史の 2 つの視点から地域環境や人類史における意義を考察しつつ、大きな織物の一部としてその魅力を探る。

【授業の概要】 授業では毎回異なるテーマで世界遺産を取り上げ、ビデオを見ながらその概要を学ぶ。受験知識やトリビアな雑学にとどまら

ず、自然遺産を生んだ地形のメカニズムや歴史遺産が果たした文明史的な意義を解説する。また、関連する情報の提供をウェブページ上でおこなう(下記 URL を参照)。

【キーワード】世界遺産、地理学、地形学、歴史学、文明史

【到達目標】世界遺産を題材に地理や歴史について幅広い知識教養を身につける。

【授業の計画】1. アブ・シンベル神殿(エジプト) エジプト文明は外来河川ナイルの賜物 2. グランド・キャニオン国立公園(アメリカ) 地球の歴史が見える谷 3. ペルセポリス(イラン) 世界帝国ペルシアとアレクサンドロスの戦い 4. トリーア(ドイツ) ローマ帝国が築いたドイツ最古の計画都市 5. ラサのポタラ宮殿(中国) チベット仏教の形成とダライ・ラマの系譜 6. イスタンブール歴史地区(トルコ) アジアとヨーロッパを結ぶ文明の十字路 7. ヴェネチアとその潟(イタリア) 地中海がつなぐ東西交易の展開 8. ゴアの教会と修道院(インド) ポルトガルのアジア進出とザビエルの足跡 9. パナマ旧市街(パナマ) スペインの新たな大陸制覇と運河建設の夢 10. ゴレ島(セネガル) 西アフリカの奴隷貿易基地 11. グリニッジ(イギリス) 大英帝国が定めた本初子午線 12. ヴィーン歴史地区(オーストリア) ハプスブルク帝国の栄光と苦悩 13. ハワイ諸島(アメリカ) ホットスポットがつくった世界最大の火山島 14. ラバ・ヌイ国立公園(チリ) イースター島の巨石文明が減るるとき 15. アウシュヴィッツ(ポーランド) ホロコーストの消しがたい記憶 16. 授業の総括

【教科書】

- ◇ 『最新世界史図説・タペストリー(五訂版)』 帝国書院
- ◇ 高校で使用した地図帳を持ってこることが望ましい。

【参考書等】下記 URL のウェブサイトに掲載しているほか、各回の授業時間に紹介する。

【成績評価の方法】期間中に実施する小テスト及びレポート(80%)に、授業への取り組み(20%)を加味する。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】高校での授業や受験科目で地理を履修・選択したかどうかは受講の必要条件ではない。この授業の単位は、教員免許取得(中学校・社会、高校・地歴)のための「教科に関する科目」に算入できる。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/heritage/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181305>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 豊田(2329, 088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日12時~13時 豊田研究室(総合科学部1号館3階))

【備考】授業の1~6回目は、大学開放実践センターの公開授業として受講可能。

歴史と文化 (History and Culture)

アジアの近代と日本

Modern Asian History

萩森 健介 教授

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】19 世紀後半以降の日本とそれを取り巻く世界の歴史を理解し、人類の平和と幸福のために次代を担う若者が何をなすべきかを考えてもらうことを目的とする。

【授業の概要】皆さんの未来は明るいのか?暗い話題が続く現代ではあるが、次の時代が平和で豊かでないとしたらあまりにも悲しすぎる。とはいえ当面する課題から逃げてはならない。現在起こっている問題は近代という時代、それを作った価値観から生まれている。近代の日本とアジア・アフリカの歴史を振り返りつつ、現代社会が当面する課題を見つめ次の時代へと進むためのヒントを考えたい。

【キーワード】アジア、日本、近代化、国際関係、戦争

【到達目標】幅広い観点から近代そして現代とは何かを理解し、それを踏まえてこれからの日本あるいは各自の進む方向について考え、客観的かつ説得的に文章で表現できることを目標とする。

【授業の計画】1. 君たちの未来は輝いている!? 2. 西洋と東洋の間で-日本の近代化と外交 3. 脱亜入欧から大東亜共栄へ-近代の国際情勢と戦争への道程 4. 寅さんが演じた皇軍兵士-映画『拝啓天皇陛下様』① 5. 善人が起こした戦争-映画『拝啓天皇陛下様』② 6. 戦争の加害者・被害者とは?-国家の戦争と庶民の戦争 7. 植民地からみた大日本帝国のイメージ-映画『族譜』① 8. 戦前の日本の官僚の国際感覚-映画『族譜』② 9. 映画『族譜』と創氏改名-創始改名をめぐる誤解の蓄積 10. 世界大戦は終わったのに-人類はなぜ戦いをやめないのか? 11. 民族紛争と先進国の責任-映画『ホテルルワンダ』① 12. 民族紛争の悲劇とは-映画『ホテルルワンダ』② 13. 民族紛争の原因とは-近代国家と民族対立 14. 国際化社会の光と影-経済活動が庶民生活にもたらすもの 15. 後期試験 16. 総括-平和で豊かな未来を目指して

【教科書】特にないが高校の時に使った日本史、世界史、現代社会の教科書を持参のこと

【参考書等】授業中に紹介する

【成績評価の方法】随時行う小テスト・レポートと学期末テストの成績を総合して評価する。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】歴史を自分で学ぼうとする良心、自ら考えるという態度が必要である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181297>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 葭森(アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 水曜日 12時30分から13時30分 アジア史研究室 総合科学部1号館3階中棟)

歴史と文化 (History and Culture)

明治文学を読む

Reading the Meiji Era Literature

鳥羽 耕史 准教授

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】明治期東京の下層社会についての記録文学を読み解く。その作業を通じて、明治の社会やルポルタージュについての基礎知識を得ることを目的とする。

【授業の概要】最初のガイダンスと概説講義の後、テキストを読み進める。一方的な講義ではなく、担当者を決めて発表してもらい、出席者それぞれに考えて意見を述べることを求める。

【キーワード】文学

【関連科目】『歴史と文化/戦後文学を読む』(0.0, ⇒134 頁), 『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.0), 『日本文学基礎研究 III (後期)』(1.0)

【到達目標】

1. 明治期の社会やルポルタージュについて知識を深める。
2. 明治期のテキストを自分で読解し、テーマや内容を言葉で表現できる。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 明治文学・記録文学概説 3. 著者不詳「府下貧民の真況」「窮民彙聞」 4. 桜田文吾「貧天地饑寒窟探検記抄」 5. 吳文聡「東京府下貧民の状況」 6. 著者不詳「東京の貧民」 7. 著者不詳「昨今の貧民窟」 8. 幸徳秋水筆記「世田ヶ谷の襤褸市」「東京の木賃宿」 9. 横山源之助「下層社会の新現象 共同長屋」 10. 斎藤兼次郎「下谷区万年町 貧民窟の状態」 11. 横山源之助「貧民の正月」「共同長屋探見記」 12. 横山源之助「貧街十五年間の移動」 13. 横山源之助「下級労働社会の一大矛盾」 14. まとめ 15. レポート 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書:中川清編『明治東京下層生活誌』岩波文庫, 1994 年, 798 円(税込)
- ◇ 教科書は第 1 回の授業までに生協・書店などで購入しておくこと。

【参考書等】参考書は適宜指示する。

【成績評価の方法】出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での発表と議論への参加、学期末レポートの結果により総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】テキストは次回に扱う分を指定するので、必ず読んで上で授業に臨むこと。文語文が多いため、古文が苦手な学生には難しいかもしれない。予習確認は毎回行ない、特に発表者にはしっかりとした準備を求めるので、それなりの覚悟を持って受講すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185519>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鳥羽(2326, toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 13時30分~14時30分 総合科学部1号館3階2326号室)

歴史と文化 (History and Culture)

ドイツの伝説と英雄叙事詩

German Legend and Heroic Epic

石川 榮作 教授

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】ドイツ文学作品に触れることによって、豊かな人間性を培うことを目的とします。

【授業の概要】ドイツ中世英雄叙事詩の傑作『ニーベルンゲンの歌』を徹底的に分析しながら、作品構造の特質を考察するとともに、さらには中世以降の諸作品にも触れることによって、『ニーベルンゲンの歌』の意義と魅力を探っていきます。

【キーワード】ドイツ文学、ニーベルンゲンの歌、ニーベルンゲン伝説、英雄叙事詩、ワーグナー

【関連科目】『歴史と文化/ドイツ・北欧の伝説とオペラ』(0.5, ⇒133 頁)

【到達目標】『ニーベルンゲンの歌』の作品構造の特質を理解し、その作品の意義と魅力を文章で表現することができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (文学の必要性) 2. 序および第一章 ドイツ中世叙事詩としての『ニーベルンゲンの歌』の成立 3. 第二章 『ニーベルンゲンの歌』前編 (ジーフリートの暗殺)(1) 4. 第二章 『ニーベルンゲンの歌』前編 (ジーフリートの暗殺)(2) 5. 第二章 『ニーベルンゲンの歌』後編 (クリエムヒルトの復讐)(1) 6. 第三章 『ニーベルンゲンの歌』後編 (クリエムヒルトの復讐)(2) 7. 第三章 『ニーベルンゲンの歌』後編 (クリエムヒルトの復讐)(3) 8. 第四章 悲劇の二重構造 9. 第五章 ニーベルンゲン伝説の受容 (1) 10. 第五章 ニーベルンゲン伝説の受容 (2) 11. 第五章 ニーベルンゲン伝説の受容 (3) 12. 第五章 ニーベルンゲン伝説の受容 (4) 13. 第五章 ニーベルンゲン伝説の受容 (4) 14. 結び 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】

- 石川栄著作『ニーベルンゲンの歌』を読む (講談社学術文庫)2001年 1100円
- 補助教材として適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法】 授業への取り組み (50%) と筆記試験 (50%) によって評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 芸術作品に親しむ心のゆとりがほしいものです。そういう心のゆとりこそ創造の源です。文学を大いに楽しんでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181301>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15時~16時 石川研究室 (総合科学部1号館))

歴史と文化 (History and Culture)

考古学概論 I

Outline of Archeology I

中村 豊 准教授/埋蔵文化財調査室

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 考古学は人類の遺した物質から歴史を復元する学問である。物質は文字資料とは異なっており、そのままでは黙して語らない。この「沈黙の史料」からいかにして歴史を復元するのか、この点を理解することを第 1 の目的とし、次いで、その実践としての研究のあゆみを概観する。より興味を深めるために、その実践例として、「縄文から弥生へ」「邪馬台国の時代」について講義し、大学構内遺跡の発掘についてもかきまみる。

【授業の概要】 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか、まずはじめに考古学の方法論を概説し、現代社会とのかかわりのなかで、考古学に取り組む意味・姿勢について考える。次に、文字のない時代における年代の決定方法や、食生活の復元方法、自然環境とのかかわりなど、関連諸科学との境界領域について講義する。以上をふまえた上で、日本考古学が、その成立から今日にいたるまで、どのように発展してきたのかを講義する。日本考古学の問題意識や理論が、時代背景とどのように関わってきたのか、これからどうあるべきかについて考察したい。なお、理解度を高めるために、パワーポイント等映像を適宜用いる予定である。

【キーワード】 日本考古学、方法論、考古学史、歴史意識、関連諸科学

【関連科目】 『歴史と文化/東アジア考古学概論 I』(0.5, ⇒17 頁), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 II』(0.5, ⇒136 頁)

【到達目標】

1. 考古学の方法を理解する。
2. 考古学と関連諸科学との関わりを理解する。
3. 日本考古学のあゆみと、その背後にある時代背景との関わりを理解する。

【授業の計画】 1. 考古学の方法 1 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか 2. 考古学の方法 2 型式学、層位学 3. 考古学と関連諸科学 1 年代決定法 4. 考古学と関連諸科学 2 自然環境と人間のかかわり 5. 日本考古学のあゆみ 1 近代考古学成立以前 6. 日本考古学のあゆみ 2 日本考古学の父エドワード・モースの果たした役割 7. 日本考古学のあゆみ 3 日本民族の起源への関心 8. 日本考古学のあゆみ 4 編年学派の登場 9. 日本考古学のあゆみ 5 皇国史観、古事記・日本書紀と考古学 10. 日本考古学のあゆみ 6 敗戦と考古学の転機 11. 日本考古学のあゆみ 7 戦後の考古学 12. 日本考古学の実践例 1 縄文から弥生へ 13. 日本考古学の実践例 2 邪馬台国の時代 14. 徳島大学構内遺跡と考古学 15. 21 世紀の考古学を考える 16. まとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、学期末のレポートにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 考古学に興味のある学生は、学部・専攻・文系理系を問わず歓迎します。なお、平成 19 年度前期に開講した授業題目「日本考古学概論」を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181296>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後に随時, 埋蔵文化財調査室(蔵本地区, 看護師寮1階東側)で随時)

歴史と文化 (History and Culture)

現代絵画論

Painting theory of present age

平木 美鶴 教授

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 この講義の特徴として、それぞれの理論の理解をより深め、自分のものとするために、理論に基づいた簡単な実技を設定している。実際に描くことにより感覚的な理解もしてほしい。

【授業の概要】 アカデミックな西洋絵画の歴史の流れを変えた印象派の登場から現代絵画の道が開けてくるのであるが、その後、後期印象派やキュビズム、未来派、抽象絵画の出現など 20 世紀初頭の絵画の動きは非常に活発なものがある。それ以降のシュルレアリスム、記号論、アクションペインティング、ニューヨーク派、ポップアートなど、現代絵画の基礎となる考え方を学ぶ。現代絵画を理解するための基礎講座である。

【キーワード】 絵画、美術、芸術

【関連科目】 『歴史と文化/絵画表現と技法の応用』(0.5, ⇒138 頁)

【到達目標】 描く基本を身に付ける。

【授業の計画】 1. 近現代の美術の流れ 2. 印象派・筆触分割法について 3. 後期印象派・色彩学に基づいた分割法 4. キュビズム・二次元と三次元の問題、絵画の平面化 5. 未来派・絵画と時間性 6. 抽象絵画・平面にふさわしい形態と色彩の模索 7. シュルレアリスム・反構築、深層にせまる絵画の理論と技法 8. シュルレアリスム・偶然から生まれる絵画の中の自然 9. 記号論・記号としての物の捕え方 10. アクションペインティング・身体の動きと絵画 11. 目測する 12. オブジェ・物が示す観念 13. ニューヨーク派・現代を捕える。アキュミレーション(集積) 14. ポップアート・消費社会と絵画の大衆化 15. 課題テスト 16. まとめ

【教科書】

- 教科書は、使用しない。適宜プリントを配布する。
- 準備物として水彩道具一式が必要である。

【成績評価の方法】 毎回の授業で描いた作品や授業感想等の提出を求める。レポートなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者のメッセージ】 絵を描くのが苦手であっても絵画に興味のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185526>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期木曜日, 12時~13時, マルチメディアB棟1階, 絵画表現研究室)

【備考】 教室の都合で受講者制限をする。

歴史と文化 (History and Culture)

明治文学を読む

Reading the Meiji Era Literature

鳥羽 耕史 准教授

2 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 明治期東京の下層社会についての記録文学を読み解く。その作業を通じて、明治の社会やルポルタージュについての基礎知識を得ることを目的とする。

【授業の概要】 最初のガイダンスと概説講義の後、テキストを読み進める。一方的な講義ではなく、担当者を決めて発表してもらい、出席者それぞれに考えて意見を述べることを求める。

【キーワード】 文学

【関連科目】 『歴史と文化/戦後文学を読む』(0.0, ⇒134 頁), 『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.0), 『日本文学基礎研究 III (後期)』(1.0)

【到達目標】

1. 明治期の社会やルポルタージュについて知識を深める。
2. 明治期のテキストを自分で読解し、テーマや内容を言葉で表現できる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 明治文学・記録文学概説 3. 著者不詳「府下貧民の真況」「窮民彙聞」 4. 桜田文吾「貧天地饑寒窟探検記抄」 5. 吳文聡「東京府下貧民の状況」 6. 著者不詳「東京の貧民」 7. 著者不詳「昨今の貧民窟」 8. 幸徳秋水筆記「世田ヶ谷の監獄市」「東京の木賃宿」 9. 横山源之助「下層社会の新現象 共同長屋」 10. 斎藤兼次郎「下谷区万年町 貧民窟の状況」 11. 横山源之助「貧民の正月」「共同長屋探見記」 12. 横山源之助「貧民十五年間の移動」 13. 横山源之助「下級労働社会の一大矛盾」 14. まとめ 15. レポート 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書:中川清編『明治東京下層生活誌』岩波文庫, 1994年, 798円 (税込)
- ◇ 教科書は第1回の授業までに生協・書店などで購入しておくこと。

【参考書等】参考書は適宜指示する。

【成績評価の方法】出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での発表と議論への参加、学期末レポートの結果により総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】テキストは次回に扱う分を指定するので、必ず読んで上で授業に臨むこと。文語文が多いため、古文が苦手な学生には難しいかもしれない。予習確認は毎回行ない、特に発表者にはしっかりとした準備を求めているので、それなりの覚悟を持って受講すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185520>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鳥羽 (2326, toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 13時30分~14時30分 総合科学部1号館3階2326号室)

歴史と文化 (History and Culture)

戦国時代から近世社会への変化

History of Early Edo

桑原 恵 教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】歴史学は、過去に人間が社会をどのようにつくり、そのときの社会が抱える問題を解決してきたかを知ることのできる学問である。社会の組織やそれぞれの社会の通念などは、個々の人間から見れば、既成のものようであるが、歴史的に見れば、すべて人間が作り上げたものである。講義では、歴史学を単なる暗記の学問として、過去の研究成果から得られた通説的理解のみを学生に講義することはしない。史料に基づいて、歴史学的に物事を考察する方法を講義したいと考えている。

【授業の概要】本講義では、歴史をこのような観点から捉え、近世社会の成立とその展開について講義する。講義では、出来る限り史料を提示し、その意味と歴史的意義付けについて説明しながら、講義を進めていく。そして、中世社会から近世社会への変容と、近世社会の展開によるその変容について講義する。

【キーワード】戦国時代、江戸時代、豊臣政権

【到達目標】史料に基づきながら、江戸時代の成立に際して起こった社会の変化の原因とその様相を理解する。

【授業の計画】1. 講義計画と基礎知識の確認 2. 戦国大名の領土拡大権 3. 豊臣政権の成立と戦国大名 4. 戦国時代の農村と武力 5. 豊臣政権の成立による農村の変化 6. 太閤検地とその歴史的意義 7. 武士と農民の分離 8. 江戸幕府の確立と老中制の成立 9. 農村の自治と農民の生活 10. 都市の建設と町人の活躍 11. 道頓堀や難波村の開発と町人 12. 江戸時代の経済システム 13. 商業経済の活発化と社会の変化 14. 経済の変化と社会問題 ~ 享保の改革など ~ 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は、指定しない。授業中使用するプリントと資料は適宜配布する。
- ◇ 参考となる本は、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】講義中に抜き打ちで行う小テスト、もしくは期末試験の結果をもとに評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】暗記中心のテストは実施しない。理解しやすい講義とするために、受講生の質問なども歓迎する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181317>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11時50分から12時50分 総合科学部1号館3階)

歴史と文化 (History and Culture)

現代世界の展開

Modern World History

佐久間 亮 教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】日々わたしたちが耳にする国際的事件、紛争などについて理解するためには、それらが生じた歴史的背景についての基礎知識が不可欠である。にもかかわらず、高校世界史では、現代史、とりわけ第二次世界大戦後の歴史については充分には教えられず、その知識の欠落は著しい。たとえば、アメリカの対イラク戦争に対して、なぜあれほどまでにアラブの人々が反発しているのか、少なくとも第二次大戦直後にまで遡って中東の歴史を考えなければ、理解不能だろう。この講義では、第二次世界大戦後の世界の歴史を、おもに映像とパワーポ

イントによる画像を用いながら理解してもらうことを目的とする。この知識のギャップを埋める作業は、「常識」に関するジェネレーション・ギャップを埋めることもねらいとしている。

【授業の概要】第二次世界大戦後の歴史を、3つの局面に分割して理解する見方を紹介する。第一の局面は、「冷戦」の時代である。戦後ながく続いたこの枠組みがいかなるものだったかを具体的な事件をとおして理解することがまず第一の課題である。その上で、この枠組みが崩壊して以降の「民族主義」と「神々」の復活という第二の局面に世界が直面してきたこと、そして、「9・11」後、世界がどのような方向に進みつつあるのかについて、歴史家としての展望を示したいと思う。

【キーワード】冷戦、イデオロギー、民族主義、イスラム、歴史観

【関連科目】『生活と社会/国際政治学入門』(0.5, ⇒146頁), 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤』(0.5, ⇒16頁)

【到達目標】

1. 新聞、テレビニュースで語られる世界の出来事を的確に理解できるようになること
2. 今を理解する上で歴史的パースペクティブをもつことが不可欠であることを実感すること

【授業の計画】1. 米ソ冷戦の始まり 2. 分割されたドイツの悲劇 3. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (1)-日本の台湾支配- 4. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (2)-第二次大戦後の推移- 5. アジアの「熱い戦争」 6. キューバ危機と核開発競争 7. アジアの泥沼 (1) -ベトナム- 8. アジアの泥沼 (2) -アフガニスタン- 9. ホメイニ革命から湾岸戦争まで 10. ユーゴスラビア紛争 (1)-東欧革命の余波- 11. ユーゴスラビア紛争 (2)-「民族浄化」- 12. 9. 11の衝撃 13. パレスチナ紛争とは何か (1)-歴史的起源- 14. パレスチナ紛争とは何か (2)-和解への遠い道のり- 15. 期末試験 16. 全体のまとめ

【教科書】教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】受講態度と、学期末テスト(論述形式)で評価する。

【再試験の有無】再試験はおこなわない。

【受講者のメッセージ】日々のニュースに関心をもちつつ受講してほしい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185522>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐久間 (2327, 088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時 総合科学部1号館3階)

歴史と文化 (History and Culture)

中東経済入門-歴史と文化基盤-

Introduction to Middle East Economy (History and Culture)

水島 多喜男 教授

2 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】最近中東地域に関する関心が高まっているが、依然として中東地域に対する日本の関心は石油・天然ガス問題に限られている。しかし、この地域は共通性とともに多様性をもち、一面的な理解を拒絶する世界である。授業を通じて、この地域を理解するための基礎的知識を獲得することを目的とする。

【授業の概要】この講義では、以下の点に触れながら、この地域の経済的特性を概観することにしたい。1. 中東地域の特性を形作っているイスラームの世界観と世界性、2. 中東地域の自然的、文化的、歴史的多様性、3. 資本主義の世界的性格と中東地域との緊張関係。

【キーワード】中東、イスラーム、資本主義

【関連科目】『生活と社会/中東経済入門(第二次大戦後の政治と経済)』(0.5, ⇒150頁)

【到達目標】中東に関する報道を、自分の知識と照らし合わせながら理解できるようにする。

【授業の計画】1. 定義、中東地域、アラブとアラブ諸国、イスラーム圏、2. 中東地域の地理的多様性 3. 中東地域の自然的多様性 4. 天然資源 5. 中東地域の文化的社会的多様性:宗教 6. 中東地域の文化的社会的多様性:法学派 7. 中東地域の文化的社会的多様性:経済規範 8. 中東地域への産業資本の浸透 9. 中東地域への産業資本の浸透 10. 欧米列強の中東進出 11. 欧米列強の中東進出 12. 日本と中東 13. 日本と中東 14. (予備)進捗度に遅れが出た場合に使用 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】配付する資料を使用する。

【参考書等】参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】授業への取り組みと、授業中の小レポート・課題レポートを重視する。

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】平成 16 年度に開講した授業題目『中東経済入門 1』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181312>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の後、研究室は総合科学部1号館中棟2階)

歴史と文化 (History and Culture)

徳島を考える

Geography and Culture of Tokushima

高橋 晋一 教授

2 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 今日地域の課題は多様である。大都市地域では人口集中・産業空洞化が叫ばれる一方、「地方」では過疎・人口高齢化などが深刻化し、伝統文化も大きく変容してきている。こうした地域性・地域差には、各々の地域における地理的・歴史的・文化的基盤の差異が大きく反映されている。本講義では、こうした地域的特性を分析する上で不可欠な地域構造や地域史・地域文化の観点から、「徳島」の一面を理解していくことにしたい。

【授業の概要】 本講義は、おもに地理学・文化人類学(民俗学)の観点から、オムニバス形式で「徳島」という地域社会の成立過程や特性を考察しようとするものである。

【キーワード】 徳島, 地理学, 文化人類学

【関連科目】 『歴史と文化/日本図の歴史』(0.5, ⇒133頁)

【到達目標】 「徳島」を題材に取り上げる自然・社会・文化に関わる諸現象が、日本あるいは世界といったマクロな観点から考察できること。

【授業の計画】 1. ランキングからみた徳島県(平井) 2. 南海地震と四国島の形成(平井) 3. 吉野川と阿波藍(平井) 4. 徳島市の都市発展(豊田) 5. モラエスがくらしした徳島(豊田) 6. すだちの特産地形成(豊田) 7. 本四連絡橋とストロー現象(豊田) 8. 徳島市街拡大と防災(田中) 9. 徳島県の交通(田中) 10. 和三盆糖の歴史と流通(田中) 11. 阿波踊りの文化史(高橋) 12. 四国遍路-巡ることの意味(高橋) 13. 徳島の狸文化(高橋) 14. 阿波の名所と観光(高橋) 15. 個別テーマに関するレポート作成 16. 総合討論「徳島を考える」(平井・豊田・高橋・田中)

【教科書】 教科書は使用せず、随時、資料・プリントなどを配布する。

【参考書等】 寺戸恒夫編著『徳島の地理』徳島地理学会、三好昭一郎・高橋啓編『図説 徳島県の歴史』河出書房新社、三好昭一郎著『阿波歴史研究』徳島県教育印刷など。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、小テスト、レポート提出などにより、担当の4教官が総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 各授業時・各授業担当者ごとに小テストやレポート等に関して指示があるので、注意しておくこと。「徳島をもっと知りたい」という学生は、ぜひ受講して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181315>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 火・金曜日 12:00~13:00 地理学(平井)研究室(総合科学部1号館中棟1階))

⇒ 豊田 (2329, 088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日 12:00~13:00 地理学(豊田)研究室(総合科学部1号館中棟3階))

⇒ 高橋 (1314, 088-656-7126, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 火・金曜日 12:00~13:00 地理学(平井)研究室(総合科学部1号館中棟2階))

⇒ 田中 (オフィスアワー: 前期 木曜日 12:00~13:00 ただし、出張等で不在することがあるので、できる限り事前の連絡をお願いします。)

歴史と文化 (History and Culture)

アメリカ社会の形成と展開

American History

西出 敬一 教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『外国史』)

【授業の目的】 アメリカの近代史をアメリカ的理念の形成と展開の歴史ととらえ、その流れに見られる基本矛盾を明らかにし、アメリカという国の特質を把握できるようにする。

【授業の概要】 アメリカの建国から 20 世紀までの主要な歴史的変革について具体的に分析する。その中で、史実の意味を深く分析することによって、アメリカという独特な国家が形成されるプロセスを理解できるようにする。

【キーワード】 アメリカ史, 自由主義, 民主主義

【到達目標】 アメリカ社会の特徴がその歴史の中から形成されたことを具体的に知る。

【授業の計画】 1. アメリカ史の特質 2. デモクラシーの起原 3. 奴隷制と人種差別思想の起原 4. レジスタンスと自由原理 5. 「独立宣言」

と人間の権利 6. 憲法とデモクラシー 7. フロンティア理論とインディアン 8. 南北戦争への道 9. 奴隷解放宣言とリンカーン 10. 人種差別社会の形成 11. 帝国主義への展開 12. 第一次大戦と中立主義 13. 禁酒法の時代 14. ニューディールと対日宣戦 15. グローバル帝国への道 16. アメリカ史と自由主義

【教科書】 なし

【参考書等】 『アメリカ合衆国の歴史』 ミネルヴァ書房 1998 年

【成績評価の方法】 毎回のレポートを重視する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回の講義について自分の見解をまとめることができるようにして下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181298>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ (オフィスアワー: 月・水 午後1:00~2:30)

歴史と文化 (History and Culture)

日本中世文学 I

Medieval Japanese Literature 1

原水 民樹 教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本文学』)

【授業の目的】 日本文学史の中、文学が広い享受の裾野を持ちはじめたとされる中世を取り上げ、説話・史論・歴史物語・随筆・小説・芸能などを中心に理解し、もって日本文学の特質の一端を認識することを目的とする。

【授業の概要】 説話集の諸作とその文学性、中世知識人の思想・歴史観・文学観、中世小説の種々相と魅力、能楽の完成と狂言の歴史、等について講義する。

【キーワード】 日本文学史, 中世文学, 散文

【到達目標】 日本中世散文学について的基本的理解が得られる。

【授業の計画】 1. 中世文学の概念について 2. 説話集について(宇治拾遺物語) 3. 説話集について(仏教説話集) 4. 説話集について(十訓抄・古今著聞集他) 5. 史論書(愚管抄・神皇正統記) 6. 歴史物語(今鏡・増鏡) 7. 随筆(方丈記・徒然草) 8. 日記文学(十六夜日記・とはずがたり) 9. 中世小説(公家物・庶民物) 10. 中世小説(異類物・本地物) 11. 中世小説(武人英雄物他) 12. 能の歴史 13. 能論など 14. 狂言 15. テスト 16. 総括

【教科書】 教科書 年表資料中世文学史 笠間書院 1300 円

【成績評価の方法】 学期末試験・毎回の質疑の内容・受講姿勢を総合して判断・評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 文学という存在を少しは真面目に考える学生、日本の歴史・古典文学に関心のある学生に受講してもらいたい。単位取得だけが目的の学生には退屈で辛いだけ。毎回、講義内容についての質疑を課す。教科書を購入しない学生の受講は認めない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185523>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 原水 (1 棟 3 階中棟 2322, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 水曜日 12時~13時 原水研究室(総合科学部1号館3階), メール無し)

歴史と文化 (History and Culture)

東アジア考古学概論 I

Outline of East Asian Archaeology 1

東 潮 教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『考古学』)

【授業の目的】 『三国志』魏書東夷伝の歴史環境をテーマとする講義。「東夷伝」の諸国、高句麗、夫餘、挹婁、沃沮、濊、韓、倭の考古学的研究、古代の東北アジアの歴史のなかで、倭(倭人)を位置づける。

【授業の概要】 古代東北アジアにおける、楽浪・帯方・玄菟・遼東郡の漢魏の郡県、高句麗、夫餘、挹婁、沃沮、濊、韓、倭について歴史環境を文献史料と考古資料を用いて復元する。

【キーワード】 三国志東夷伝, 倭人伝, 東北アジア

【到達目標】 古代東北アジアの歴史について学ぶ

【授業の計画】 1. 『三国志』魏書東夷伝と倭 2. 『三国志』魏書東夷伝-楽浪郡 3. 『三国志』魏書東夷伝-帯方郡 4. 『三国志』魏書東夷伝-洛陽と遼東郡 5. 『三国志』魏書東夷伝-高句麗 6. 『三国志』魏書東夷伝-夫餘 7. 『三国志』魏書東夷伝-挹婁 8. 『三国志』魏書東夷伝-濊・沃沮 9. 『三国志』魏書東夷伝-馬韓 10. 『三国志』魏書東夷伝-弁韓 11. 『三国志』魏書東夷伝-辰韓 12. 『三国志』魏書東夷伝-倭 13. 『三国志』魏書東夷伝-楽浪・帯方郡と倭 14. 『三国志』魏書東夷伝-倭と韓 15. 試験 16. 『三国志』魏書東夷伝と東北アジアの現在

【教科書】 なし、資料配付。

【参考書等】

- ◇ 井上秀雄ほか 1974 『東アジア民族史』1・2, 平凡社
- ◇ 東潮 1999 『古代東アジアの鉄と倭』 溪水社
- ◇ 東潮 2006 『加耶と倭の国際環境』 吉川弘文館

【成績評価の方法】 学期末試験による。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181333>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 総合科学部1号館3階の考古学研究室で随時おこなう。)

歴史と文化 (History and Culture)

日本古代文学 I

Ancient Japanese Literature 1

堤和博 准教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本文学』)

【授業の目的】 これからの人生を送っていくなかで、種々多様な文学作品に接することは、色々な面において有意義なものとなるはずである。しかし、日本古典文学を読むとすると、言葉が現代語と違うのは勿論のこと、何かと取り付きにくいものである。そこで、日本古典文学史上の著名な詞華集の一つである『万葉集』所載の歌歌を取り上げ、古典文学作品読解の基本を身につけることを目的とする。以上のことに加え、文章力を養うことも目的とする。

【授業の概要】 文学作品の読解とは表面上の意味を読み取る (古典で言えば単に現代語訳する) だけではすまされないのは勿論である。作品の成立した過程やその時代の状況、あるいは登場人物の人物像などを考慮に入れながら、作者が真に訴えたかったことを慎重に読み取っていかなくてはならない。『万葉集』の歌について言うと、奈良時代すでに中国文化の影響を強く蒙っていたのは言うまでもないが、平安時代の『古今集』以後の歌に比べると、その影響は小さい。そんな、日本古来の歌を読みとっていくことを目的とする。ところで、和歌に限らず文学作品はそれが生み出された時代の文化や政治などと不可分である。この授業では、舒明天皇期以降の主として政治史を視野に入れながら、どのような政治状況のもとでどのような歌が詠まれているのかを後付けていく。『万葉集』所載の歌は、概ね、舒明天皇の頃の歌から長岡京遷都頃までに詠まれたといわれる。これらの歌は普通四期に分けて捉えられるが、その四期に分かって順次講じていくこととし、最初に『万葉集』に関する基礎的な事柄を説明しておく。また、防人の歌等は別途講じる。

【キーワード】 万葉集, 日本古典文学, 日本古代史

【到達目標】

1. 『万葉集』所載のそれぞれの和歌が詠まれた頃の時代や作者の状況を把握した上で、その和歌を読解する過程及び結果が理解できる。
2. 1 で理解した内容をわかりやすく文章化できる。

【授業の計画】 1. 『万葉集』の成立過程等, 『万葉集』に関する基礎的な事柄 2. 『万葉集』第一期 舒明天皇期から壬申の乱 (672 年)(1)一有間皇子等一 3. 『万葉集』第一期 舒明天皇期から壬申の乱 (672 年)(2)一額田王等一 4. 『万葉集』第一期 舒明天皇期から壬申の乱 (672 年)(3)一中皇命等一 5. 『万葉集』第二期 壬申の乱から平城京遷都 (710 年)(1)一大津皇子・大泊皇女等一 6. 『万葉集』第二期 壬申の乱から平城京遷都 (710 年)(2)一柿本人麻呂等一 7. 『万葉集』第二期 壬申の乱から平城京遷都 (710 年)(3)一高市黒人等一 8. 『万葉集』第三期 平城京遷都から 733 年 (1) 一大伴旅人等一 9. 『万葉集』第三期 平城京遷都から 733 年 (2) 一山上憶良等一 10. 『万葉集』第三期 平城京遷都から 733 年 (3) 一高橋虫麻呂等一 11. 『万葉集』第四期 734 年から 759 年 (1) 一笠女郎等一 12. 『万葉集』第四期 734 年から 759 年 (2) 一中臣宅守・狭野茅上娘子等一 13. 『万葉集』第四期 734 年から 759 年 (3) 一大伴家持等一 14. 東歌, 防人歌, 遣新羅使人の歌 15. レポート作成, または, テスト 16. 総括授業

【教科書】 無し

【参考書等】 授業中に適宜配布, 提示する。

【成績評価の方法】 数度の小レポートと期末試験 (記述式) の合計点に欠席状況 (注) を加味する。注・授業には出席するのが当然なので, 出席しても加点しないが, 欠席すると減点する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 特に歴史に関する事柄は欠かさず聴講しないと理解しにくいので, やむを得ず欠席した場合は, 個別に質問に来ること。なお, 数度以上無断で欠席した者は, 受講の意志を無くしたものとみなす。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181324>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堤 (1315, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 月曜日 10時10分から11時55分 国文学研究室(総合科学部1号館3階)年度内に変更予定)

歴史と文化 (History and Culture)

日本語の音声

Japanese Phonetics

岸江信介 教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本語学』)

【授業の概要】 音声について学習する。日本語の音声をメインに取り扱うが, 音声を音響学的側面から扱い, 音声分析などをパソコンソフトを用いて行う。日本の諸方言の音声を取り上げて解説し, 方言音声のバリエーションについて学ぶ。特にアクセント体系などに違いについて述べる。

【到達目標】

1. 音声言語, 方言音声を音響学的分析によって音声に対する認識を新たにする。
2. コミュニケーションにおける音声の役割について考える。

【授業の計画】 1. 音声とは何か? 2. 音声生成のメカニズム 3. 音声を物理的にとらえる 4. 日本語の音声学 5. 音声と音素 6. モーラとシラビーム 7. 日本語諸方言のモーラとシラビーム 8. 日本語史における音声の変化 9. 日本語諸方言の音声 10. アクセント・イントネーション・ポーズの役割 11. 音響音声学とはなにか 12. 自分のアクセントを分析する 13. 全国諸方言アクセントの体系 14. パソコンによる音声分析を行う 15. アクセントを調べる 16. 総括 (レポートのテーマなどについて)

【教科書】 随時プリントを配布する。

【参考書等】 今石元久編 『音声分析入門』 (和泉書院)

【成績評価の方法】 出席 (30%), レポート (50%), 小テスト (20%) を評価の割合とする。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181330>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~13時 総合科学部1号館中棟3階(2307))

【備考】 社会人ボランティアの参加要請 (10 名程度) ・ ・ ・ 方言や日本語音声の地域差に興味がある社会人ボランティアの方で授業補助を下さる方を募集しています。

歴史と文化 (History and Culture)

異人たちとの交流

Chinese Literature; Nonhuman Intercourse

有馬卓也 教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『外国文学』)

【授業の目的】 本授業は中国の様々な資料 (文学・思想・歴史・画像) などを通して, 古代中国の人々の文化や意識を, テーマ別に論じるものである。そして, 文化を通して, 人間理解へと至ることを目的とする。

【授業の概要】 異人 (死者・精霊・妖怪・悪霊など) からのメッセージをモチーフとした説話は数多く存在する。それはおよそ人間が知見し得ることのできない異界という場からのものだけに, 作者の想像の結晶とも言えるが, そこには時代や地域の事情の反映が垣間見られる。つまり異界譚から, 当時の異界思想を理解することがある程度可能であり, さらにそこから埋葬形式や副葬品などが持つ意味や, 信仰・迷信・風習の存在意義なども理解し得るのである。異界譚を通して, 中国古代文化を考えていく。

【キーワード】 妖怪, 鬼, 中国文化

【到達目標】 異人譚・異界譚を通して, 古代中国を理解するとともに, 古今を通じて変わることもない人間の基本的性情を理解する。

【授業の計画】 1. ガイダンス・別れのメッセージ 2. 死を告げる使者 (1) 3. 死を告げる使者 (2) 4. 冥界譚 5. やさしき異人 6. 異人との交接 (1) 7. 異人との交接 (2) 8. 異人からの依頼 (1) 9. 異人からの依頼 (2) 10. かまど信仰・異人出生譚 11. 厄災をもたらす子ども (1) 12. 厄災をもたらす子ども (2) 13. 混乱の予兆としての異人 14. その他 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 毎回プリント (漢文) を配布する。参考書は随時提示する。

【成績評価の方法】 期末にテストを行う (漢文の読みや知識を問うような問題は出さない)。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業中の私語厳禁。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185517>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

歴史と文化 (History and Culture)

西洋音楽の歴史

History of Classical Music

宮澤 一人 教授
2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】西洋音楽の約 1000 年の長い歴史を理解し、それぞれの時代の音楽が持つ固有の美しさを体感する。

【授業の概要】先ず、西洋音楽史全体の流れを説明し、その後重要な時代や作曲家を取り上げて、それぞれの作品を鑑賞する。

【到達目標】音楽史の全体を理解し、それぞれの音楽が持つ魅力や美しさについて、文章等での確に表現する技術を身に付ける。

【授業の計画】1. 西洋音楽史の全体像、および中世の音楽 2. ルネサンスの音楽 3. バロック音楽 4. J.S. バッハ 5. ハイドンと交響曲の完成 6. モーツァルト 7. ベートーヴェン 8. ベートーヴェンと「交響的概念」 9. シューベルト 10. ベルリオーズと楽器の発展 11. ドイツ・ロマン派音楽の全盛期 12. ワグナー 13. ブラームス 14. 20 世紀の音楽 15. レポート提出 16. 総括授業

【教科書】教科書は使用しない。参考書等は授業の時に紹介する。毎回授業内容についての資料を配布する。

【参考書等】岡田暁生『西洋音楽史』中公新書 1816 ISBN4-12-101816-8

【成績評価の方法】授業中に指示するレポートの内容、授業への取り組み状況により決定する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】音楽に興味を持ち、静かに鑑賞できること、また授業中に楽譜を用いて説明を行うこともあるので、楽譜が読めることが必要である。教室の都合により、受講生を 50 名に限定する。この講義の内容は、後期の「西洋音楽の歴史」と同じである。従って前期にこの講義を受講した学生は、後期の受講はできない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181346>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み(研究室に在室中は特別な場合を除き対応可能))

【備考】前期、木曜日 3~4 講時

歴史と文化 (History and Culture)

ビジュアルコミュニケーション

Visual Communication

石井 健二 教授
2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】視覚表現の原点を探り、視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚等の五感の持つ意味を考える。

【授業の概要】人間の持つ五感を通じたビジュアルコミュニケーションについて講義する。

【キーワード】五感による表現、視覚伝達

【関連科目】『歴史と文化/絵画表現と技法の基礎』(0.5, ⇒19 頁)

【到達目標】

1. 五感による表現について認識を深める。
2. 視覚表現の原点を探る。

【授業の計画】1. 視覚表現の可能性について検討する。 2. 受講生による発表を中心に授業を進める。 3. 視覚のビジュアル表現 4. 視覚のビジュアル表現 (グループで検討) 5. 聴覚のビジュアル表現 6. 聴覚のビジュアル表現 (グループで検討) 7. 臭覚のビジュアル表現 8. 臭覚のビジュアル表現 (グループで検討) 9. 触覚のビジュアル表現 10. 触覚のビジュアル表現 (グループで検討) 11. 味覚のビジュアル表現 12. 味覚のビジュアル表現 (グループで検討) 13. 銀塩による画像伝達について 14. 非銀塩による画像伝達について 15. レポート提出の締め切り 16. 総括授業

【教科書】講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書等】講義の中で配布する。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】行わない。

【受講者のメッセージ】講義は総合科学部マルチメディア A 棟 1 階芸術講義室で行う。30 人で締め切る。視覚伝達に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181303>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み)

【備考】○開講学期:前期 ○2009 年度は、木曜日 3-4 講時開講 ○教養科目の単位となります。

歴史と文化 (History and Culture)

絵画表現と技法の基礎

Painting: Expression and Basic Technique

平木 美鶴 教授
2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】絵を描く基礎としてデッサンがある。デッサンは、物を観察し、紙に写し取る事であるが、描けそうで上手く描けないという経験は誰にでもあるのではないだろうか。三次元の世界を二次元である紙の上に形や空間を写す事は、高度な技を必要とするが、案外と難しく頭で考えるよりも無心となって描いた方が、上手く描ける場合も多い。描く時のちょっとした頭の切り替えで飛躍的に描写する力を上げる事ができる。この授業では、絵が描けない状態から描ける状態に戻すための絵画基礎理論を実習をしながら学ぶ。

【授業の概要】描かれる絵によって人間の発達段階を計る事ができるが、大人でありながら 9 歳レベルの壁を越えて、空間の描けるリアリズムに到達していない人も多く、発達と表現について理解した上で、描くための頭の切り替えを練習していく。最終的にどれだけ描写力を身に付ける事ができたか、絵で比較する。

【キーワード】絵画、美術、芸術

【関連科目】『歴史と文化/絵画表現と技法の応用』(0.5, ⇒138 頁)

【到達目標】描く基本を身に付ける。

【授業の計画】1. 絵画表現と発達について 2. 画面構成の基礎論 3. 描くためのモードの切り替え 4. R モードの体感 5. 具体的形を意識しないで描く 6. 純粋輪郭画法 7. 修正輪郭画法 8. スペースの知覚 9. 遠近法 10. 顔を描く 11. 目測する 12. 目測とスペースを使う 13. 目測とスペースを使うの応用 14. 目測とスペースを使うの応用 15. 課題テスト 16. まとめ

【教科書】

- ◇教科書は、使用しない。適宜プリントを配布する。
- ◇参考書『脳の右側で描け』ベティ・エドワード著、株式会社マール社発行
- ◇準備物として無線のノート、鉛筆 (HB か B) が必要である。

【成績評価の方法】毎回の授業で描いた作品や授業感想等の提出を求める。レポートなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】絵を描くのが苦手であっても絵画に興味のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181343>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期木曜日, 12時~13時, マルチメディアB棟1階, 絵画表現研究室)

【備考】教室の都合で受講者制限をする。

歴史と文化 (History and Culture)

アーツ・アンド・テクノロジー

Arts and technology

石井 健二 教授
2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】人類発生時のイメージの定着方法からコンピュータの普及にとまなう新しいメディアを駆使した視覚表現の可能性を含めて考察する。そして芸術表現についての関心呼び起こし、その基礎知識を提供することにより、現代のマルチメディア社会に適合できる人材養成を図ることを目的とする。

【授業の概要】芸術作品の制作を通じて、作品の保存・修復・管理及び展示方法について考察する。

【キーワード】視覚表現、古典技法

【関連科目】『歴史と文化/ビジュアルコミュニケーション』(0.5, ⇒19 頁)

【到達目標】表現された作品の展示と保存・修復に関する知識を身につける。

【授業の計画】1. 芸術作品に関する表現について、時代背景を追いながら考察し、主な表現技法についてはワークショップ (制作実習) を交えながら、技法の説明を行う。 2. 受講生による発表を中心に授業を進める。 3. デザイン処理について 4. 壁画・版画・絵画・染色・映像・総合芸術について 5. イメージの定着方法について 6. 版画・エッチング技法について 7. リトグラフ技法について 8. シルクスクリーン技法について 9. 壁画・フレスコ画技法について 10. 染色・型染め技法について 11. カリグラフィー模写実習 12. コンサベーションについて 13. マルチメディアを利用した総合芸術の可能性について 14. コンピュータによる表現の現状と今後の可能性について 15. レポート提出の締め切り 16. 総括授業

【教科書】教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】講義の中で配布する。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】行わない。

【受講へのメッセージ】講義は総合科学部マルチメディア B 棟 1 階マルチメディア講義・講義室にて行う。30 人で締め切る。アート表現に興味関心のある意欲的な学生を望む。総合科学部の学生でアーツ・アンド・テクノロジー論を受講したものは、授業内容が似ているので、受講できない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185528>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石井(マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日昼休み)

【備考】○開講学期:前期 ○2009 年度は、木曜日 5・6 講時開講 ○教養科目の単位と成ります。

歴史と文化 (History and Culture)

現代世界の展開

Modern World History

佐久間 亮 教授

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】日々わたしたちが耳にする国際的事件、紛争などについて理解するためには、それらが生じた歴史的背景についての基礎知識が不可欠である。にもかかわらず、高校世界史では、現代史、とりわけ第二次世界大戦後の歴史については充分には教えられず、その知識の欠落は著しい。たとえば、アメリカの対イラク戦争に対して、なぜあれほどまでにアラブの人々が反発しているのか、少なくとも第二次大戦直後にまで遡って中東の歴史を考えなければ、理解不能だろう。この講義では、第二次世界大戦後の世界の歴史を、おもに映像とパワーポイントによる画像を用いながら理解してもらうことを目的とする。この知識のギャップを埋める作業は、「常識」に関するジェネレーション・ギャップを埋めることもねらいとしている。

【授業の概要】第二次世界大戦後の歴史を、3 つの局面に分割して理解する見方を紹介する。第一の局面は、「冷戦」の時代である。戦後ながく続いたこの枠組みがいかなるものだったかを具体的な事件をとおして理解することがまず第一の課題である。その上で、この枠組みが崩壊して以降の「民族主義」と「神々」の復活という第二の局面に世界が直面してきたこと、そして、「9・11」後、世界がどのような方向に進みつつあるのかについて、歴史家としての展望を示したいと思う。

【キーワード】冷戦、イデオロギー、民族主義、イスラム、歴史観

【関連科目】『生活と社会/国際政治学入門』(0.5, ⇒146 頁), 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.5, ⇒16 頁)

【到達目標】

1. 新聞、テレビニュースで語られる世界の出来事を的確に理解できるようになること
2. 今を理解する上で歴史的パースペクティブをもつことが不可欠であることを実感すること

【授業の計画】1. 米ソ冷戦の始まり 2. 分割されたドイツの悲劇 3. 中国と台湾はなぜ仲が悪い(1)-日本の台湾支配- 4. 中国と台湾はなぜ仲が悪い(2)-第二次大戦後の推移- 5. アジアの「熱い戦争」 6. キューバ危機と核開発競争 7. アジアの泥沼(1)-ベトナム- 8. アジアの泥沼(2)-アフガニスタン- 9. ホメイニ革命から湾岸戦争まで 10. ユーゴスラビア紛争(1)-東欧革命の余波- 11. ユーゴスラビア紛争(2)-「民族浄化」- 12. 9, 11 の衝撃 13. パレスチナ紛争とは何か(1)-歴史的起源- 14. パレスチナ紛争とは何か(2)-和解への遠い道のり- 15. 期末試験 16. 全体のまとめ

【教科書】教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】受講態度と、学期末テスト(論述形式)で評価する。

【再試験の有無】再試験はおこなわない。

【受講へのメッセージ】日々のニュースに関心をもちつつ受講してほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185521>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐久間(2327, 088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時 総合科学部1号館3階)

歴史と文化 (History and Culture)

日本語について考える

Japanese Loanwords

仙波 光明 教授

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】日本語はどのような特色を持つ言語なのか、諸言語の中で日本語の位置づけ、日本語の発音、日本語の語彙の面から検討し、同時に、書物に書かれた内容を検証しながら読むことの大切さに気付いてもらいたい。

【授業の概要】教科書に従いつつ、世界の諸言語と対比した場合の日本語の特色、日本語の音韻構造・発音の仕方、日本語で使われる語彙の種類・特徴などについて、いくつかのトピックスを抽出しながら、テキストの内容を検証してゆく。教科書に予定している『日本語 新版(上)』(金田一春彦著 岩波新書)は二十余年前に書かれているが、この間に変わったことはないか、見直すべき点はないか、書かれていることがらは正しいのだろうか… …などを考えながら授業を進める。

【到達目標】

1. 日本語についての知識を増やす。
2. 日本語の問題を自ら調べる態度を養い、方法を身につける。
3. 正確な知識に基づいて、国語問題、日本語を巡る諸問題に対する意見を表明できる。

【授業の計画】1. オリエンテーション(授業の進め方、成績の評価等についての説明) 2. 日本語は特異な言語か、平凡な言語か(言語類型論からみた日本語) 3. 日本語の地位(世界の中の日本語、日本の中の外国語) 4. 多様な日本語(概観的に)… … テキスト「I 世界の中の日本語」から 5. 日本語の発音(音の単位の体系、音の組み合わせ方の法則など) 6. 発音の面で日本語は美しいという考え方について 7. 日本語のリズム・旋律・アクセント(アクセントの平板化はなぜ起こるのか、等) 8. 日本語の語彙の数・体系・語種 9. 単語の形態、略語等 10. 語彙(自然関係の語彙から) 11. 語彙(人間関係の語彙から) 12. 語彙(生活関係の語彙から) 13. 語彙(社会関係の語彙から) 14. 語彙(借用語=外来語について) 15. 試験 16. 補足など

【教科書】金田一春彦『日本語 新版(上)』岩波新書

【参考書等】随時紹介する。

【成績評価の方法】小テスト 50%、試験 50%を基準とする。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】シラバスの内容および授業の進捗について、ある程度の修正が行われるかもしれない。詳しくは、1 回目の授業で説明する。以上は、あくまでも予定である。この授業では、毎回、小テストを実施する。また授業に関する質問・感想・疑問等を書いて提出してもらう。このデータ(出席状況、質問、感想)は、次回の授業資料に記すかたちで受講生に公開される場合がある。ただし、受講者数などの状況によって不可能になるかもしれない。なお、6 回以上欠席した場合には、名前が上記資料から自動的に削除される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181329>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 仙波(2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 17時~18時 総合科学部1号館中棟3階(2319))

歴史と文化 (History and Culture)

民族音楽入門

Introduction to Ethnological Music

片岡 啓一 教授

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で、しかも変化に富んだものである。多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し、世界中にはさまざまな音楽が存在している。この授業では、民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し、そのことを通じて、音楽文化・音楽の本質等について一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている。

【授業の概要】民族音楽学的な視点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義。

【キーワード】民族音楽学、民族音楽、民族性、音楽文化、異文化理解

【到達目標】世界にはさまざまな音楽文化が存在すること、それらはそれぞれの国の民族性と深く結び付いていること等を自覚し、音楽文化全般に対して深い興味と関心を抱く。

【授業の計画】1. 授業の目的のところで述べたことを具現するために、講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる。2. 1. 授業の趣旨説明を行い、現代の音楽の特徴について言及する。3. 2. 日本の音楽。4. 3-4. 東アジアの音楽。5. 5. エスキモーの音楽。6. 6-8. 東南アジアの音楽。7. 9-10. インドの音楽。8. 11-13. 西アジアの音楽。9. 14. アラブの音楽。10. 15. 試験期間であるが、試験は行わずレポートを提出してもらう。11. 16. 総括授業。これまで行ってきた授業全体をふりかえり、全体のまとめとか意見交換等を行う。12. 以上の授業計画は、できるだけ予定通りに実施したいが、若干予定とずれることもあるので、その点はあらかじめご了承いただきたい。

【教科書】この授業では教科書等は使用しない。

【成績評価の方法】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

全学共通教育 (2009) 〉 前期・【教養科目群】・《歴史と文化》

【再試験の有無】 行わない。

【受講者のメッセージ】 同授業は、前期・金曜・1-2 講時と後期・月曜・3-4 講時の 2 回にわたって開講する。授業は、総合科学部内マルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施し、受講者数は、部屋の広さの関係からそれぞれの授業において 50 名以内とする。2 つの授業は全く同一なので、重複履修は認められない。又、総合科学部の学部専門科目で「芸術文化論」(平成 21 年度入学学生のための授業名称、平成 20 年度以前に入学した学生のための授業名称は「世界の諸民族の音楽」。)が開講されているが、その内容は同授業と相当程度重複するので、総合科学部の学生で上記の学部専門科目を受講する予定の者は、この授業は受講しないようにすること。それから、先行科目・関連科目についてはとりたてて指定したくないので、掲載しないままにしておいた。その点ご了承ください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185529>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー 前期 木曜の昼休み、片岡啓一研究室(マルチメディアA棟2階))

【備考】 同授業は、2009 年度(平成 21 年度)は、前期・金曜・1-2 講時に開講する。なお同授業は、後期・月曜・3-4 講時にも開講するが、内容は全く同一なので、重複履修は認められない。その点、誤解のないよう充分に注意すること。それから、今年度は試験を含めて全部で 16 回分の授業が予定されている。この授業では、15 回目の試験(16 回目は総括授業)のかわりにレポートを提出してもらうことによって単位を出す予定である。勿論、授業への出席状況とか受講姿勢等も総合的に評価する。

2.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)

人間と生命 (Humanity and Life)

知の探求と現代

Exploration of Knowledge

石田 三千雄 教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 人類は地球温暖化による危機に直面しながら、それに対する有効な対策をいまだ打ち出せないでいる。今日の地球環境危機は現在までの人類の繁栄の裏返しである。いまや人間と自然との新しい関係を打ち立てなければならない。この授業は地球環境問題を哲学的に考えるために「人類はどのような立場に立たねばならないか」という根源的な問いに答えることを目指す。

【授業の概要】 現代の環境問題に対処するためには、人間が自然をどのように考えてきたかを思想的に明らかにすることが必要である。そのために、この授業では近代自然科学によって人間が自然支配を企ててきたこと、しかし人間は単に自然支配のみを求めたのではなく、自然の中に人間を位置づけ、自然と調和する思想も育んできたこと、そして今や人間と自然との新たな関係を構築すべきときにきていることを論じる。

【キーワード】 環境、自然観、環境倫理

【先行科目】 『人間と生命/認知哲学』(1.0)

【到達目標】 現代の環境問題の根底にある思想的背景を理解し、広く哲学的・倫理的に人間と自然との関係を考える。

【授業の計画】 1. はじめに一授業全体の説明 2. 近代自然科学と人間の自然支配 (1) 3. 近代自然科学と人間の自然支配 (2) 4. 近代自然科学とディープ・エコロジー 5. ディープ・エコロジーの問題点 6. アメリカ文学に現れた環境思想の系譜 7. ヘンリー・ソローの自然観 8. カントの自然観と環境問題 9. スピノザの自然観 10. シェリングの自然観 11. ドイツの実践的自然哲学 12. マイヤー・アービヒの環境倫理 13. ジープの具体倫理学 14. 具体倫理学としての自然倫理学 15. 終わりに 16. 総括授業

【教科書】 山内・手代木・岡本他 『環境倫理の新展開』 ナカニシヤ出版、2007 年、1995 円

【成績評価の方法】 学期末試験及び出席状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者へのメッセージ】 環境問題を考える基礎的視野を養ってください。質問等は、メールでも受け付けます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181272>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日13~14時 石田研究室(総合科学部1号館3階))

【備考】 授業計画は一部変更があるかもしれません。

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学入門

Introduction to Psychology

濱田 治良 教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 「心理学の過去は長い、その歴史は短い」と言われている。すなわち、人の心についての関心は人類の誕生以来長く続いてきたが、心理学が科学として成立してから百数十年が経過したにすぎない。独立した学問として成立した後の心理学が明らかにした科学的成果は多いが、人の心についての未知なる現象はまだ数多く残されている。本講義では、特に心理学的実験を通して得られた成果を手掛かりにして人間の心と行動を理解する試みについて考察することを目的とする。

【授業の概要】 授業は一般心理学として講義する。特に「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」について、それらの基礎的なトピックスを、代表的な心理学的実験結果を紹介しながら論ずる。そして、心理学的事実を知ることによって、新たな視点から人間を捉える手掛かりにしてほしい。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】 「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」

【到達目標】 人間や動物に関する心理学的実験を通して得られた代表的なデータを理解し、そのデータから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】 1. 授業は概ね次の 4 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心にして講義を進めます。 2. 1. 知覚 3. 物理的遺伝と心理的世界、錯視の現象 4. 2. 発達 5. 発達過程の原則、遺伝と環境、遺伝係数、発達の臨界期、認知の発達、知覚の発達 6. 3. 学習 7. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤、問題解決学

習、模倣学習 8. 4. 動機づけ 9. 内発的動機づけ、外発的動機づけ、ヤーキス・ドットソンの法則、潜在学習、目標勾配

【教科書】 資料を配布しながら講義を進める。参考書として、村田孝次著「教養の心理学」培風館、今田・宮田・賀集共編「心理学の基礎」培風館を勧める。

【成績評価の方法】 期末テスト、中間テスト、レポート、出席率等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTR も使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。平成 16 年度以前に開講した授業題目「入門心理学」を受講したものは履修出来ません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181257>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12時~13時)

人間と生命 (Humanity and Life)

環境問題などと科学者・マスコミ各種の情報に惑わされない為の基礎知識一

Insincere Science

小山 保夫 教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 環境問題などに関わる科学的データ (特に、生命科学分野) を正確に捉える感覚を身に付ける。科学者、大学教員やマスコミに惑わされない為には何を身に付けるか?

【授業の概要】 研究とは何か、論文とは何か、科学的データは扱う人間により持っている意味が変わる事がある。科学的データがどの様に見えるか、どの様なプロセスを経て伝達されるのか、それらを解説する。特に、情報を発信する側の意図を的確に捉える事は重要である。「情報」に騙されない為にはどのようにしたら良いのか。

【キーワード】 科学情報、研究者、大学教員、マスコミ、研究論文

【到達目標】

1. 科学的データを正確に捉える感覚を身に付ける。
2. 時代を無事に生き抜き、大学で社会で騙されない為の知恵を付ける。

【授業の計画】 1. 基本的な知恵を付けよう。環境問題などに関係する生命科学的な情報はどの様なプロセスを経て伝達されるか。君に届く「情報」は本当に正しいのか? 2. マスコミ発表 (新聞、テレビ)、学会発表、論文発表、著書 (新書などの書籍) の内容の正しい解釈の仕方とは、学会発表って何? 論文って何? 誰でも作れるのか? 3. 教授、医学博士とは何か。どの様に研究をしているか、その分野の研究者かを調べる方法について、誰でも医学博士になれる? 君の将来の指導教員がどのような仕事をしているか、簡単に調べる方法とは? その仕事の内容の評価方法とは? 「専門家」が専門以外のことを肩書きを頼りに話す可能性と、それを聞いている市民が誤解する可能性について。 4. 研究者はどの様に実験を行い、論文をどの様に纏めるのか。審査制度のある雑誌の論文と審査制度のない雑誌の論文の違いは何か? 誰も引用しない論文って意味があるのか? 5. 個体レベルの実験と細胞レベルの実験から得られるデータの違いは何か。動物実験の結果は人に当てはまるか? 実験条件次第で、データは出すことができるか? 6. 科学者の興味、マスコミの興味、市民の興味の違いはあるか。研究論文の「考察」とは何か、それをどの様に取り扱うか。市民受け、マスコミ受けする発表の仕方とは何か? 7. 科学データの解釈はどの様にできるか。ある環境汚染物質を与えた動物から生まれて来た仔はほとんどんがメスだった場合、それをどのように考えるか。 8. 「危険」は実験で作出されるか、ある環境汚染物質を生体内蓄積濃度で細胞に作用させたら細胞が死んだ。この場合、その物質は危険か。 9. 環境ホルモンの問題は何だったのか、何なのか。最近、話を余り聞かなくなったと思わないか、今度、流行りそうな話題は何か、次は Interphone Study か? 10. 健康食品 (機能性食品?) って健康に本当に良いのか? 健康食品はどのように作られるのか? 簡単に調べることができる健康食品の危険性。 11. 科学者 (大学教員も含めて) の心の闇。次から次に出て来る論文の捏造疑惑、同じデータを使った論文の二重投稿 (例えば、日本語論文と英語論文で同じ図を使っている等)、研究業績書での虚偽記載など、研究者の置かれている環境とは。 12. 君らは、これから科学情報にどのように接すれば良いのか、科学者 (研究者、技術者) を志す場合にどのような道があるのか? 13. 高学歴ワーキングプアへの道、研究者の世界は恵まれているとは限らない現実とは? ブラックな創作童話「博士 (はくし) が 100 にいるむら」の意味するところ。脳ドーピングとは何か? 14. 身近な情報源のインターネット、インターネットで見る環境系、生命系のウェブサイト役に立つか、単なる落書きか? 信頼できるウェブサイトはどこか? 君らが正確な情報を得る上で必要な力とは? 15. 科学者 (研究者、技術者) は、マスコミは、市民は社会が直面している諸問題にどうあるべきか、君の意見を聞きたい。そして、講義を受ける前と後でどのように考え方が変わったか、考えてみよう。 16. 最後に、我々がこれからどのように生きていくか?

【教科書】 教科書を用いずに講義の際に必要なプリントは配布します。

【成績評価の方法】 講義中の論議、筆記試験(小テスト、期末テスト)、レポート、出席状況(試験の受験資格)などを総合的に判断します。成績の評価方法も受講生の数により変化しますが、学則に従って評価は行います。

【再試験の有無】 なし。

【受講者のメッセージ】 (1) 基礎の基礎から話(講義)を進めますので、遅刻は「欠席扱い」になる場合がありますので注意してください。(2) また、この講義は一つの見方を示します。よって、それが全てでは有りません。多様な見方があることを意識しながら、受講してください。自分の見方も大切に。(3) 面白いニュースがある時、また、話の進め方で講義の順番は変わります。環境問題も含みますが、それを専門に扱う講義ではありません。(4) 最後に、居眠りや私語をする学生は退席させることがあります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181267>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小山 (3N06, 088-656-7256, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで予約(および研究室のドアに表示))

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概論

Survey of Psychology

佐藤 健二 教授/人間・自然環境研究所
2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 現代社会を生きていく上で、自らの心の働き、他者の心の働きを理解することは重要である。そこで、本講義では、心の働きに関する学問である心理学の基本的な知識を学習することを目的とする。

【授業の概要】 心理学の重要分野における発想、研究結果を概説する。特に、大学生において関心の高い「こころの問題」に関連させながら、心理学の重要分野における研究結果を概説する。

【キーワード】 心理学、こころの問題、臨床心理学

【到達目標】 心理学の重要分野における発想、研究結果を理解できる。

【授業の計画】 1. 授業の進め方、心理学概観(定義、隣接領域との異同、歴史) 2. 異常心理学: 「こころの問題」とは?(不安障害など) 3. 臨床心理学: 「こころの問題」をどう治療するか? 4. 学習心理学: 「こころの問題」は誤った学習の問題か? 5. 障害児心理学: 学習心理学を用いて発達障害はどのように治療するか?(自閉性障害、ADHD など) 6. 認知心理学: どのようにすれば記憶力を高められるか? 「こころの問題」は不適切な認知の問題か? 7. 生理心理学: 心・脳・身体はどのように関係しているのか? 8. ストレス心理学: トラウマティック・ストレスは、心・脳・身体にどのような影響を与えているのか? 9. 性格心理学: 性格には、どのようなタイプがあるのか? 10. 健康心理学: 性格が健康(ガンなど)に影響を及ぼすか? 11. 社会心理学: 状況の力ほどのくらい強いか? 同調、服従、役割実験を題材に- 12. 発達心理学: 赤ちゃんは無力な存在か? 13. 感覚・知覚心理学: 人間はどのようにして外界から情報を取り入れ、処理しているのか? 14. 犯罪心理学: 犯罪はどのようにすれば防げるか? 15. 試験 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しない。
- ◇ プリントの配布、液晶プロジェクタ、VTR、OHP による資料の呈示を行う。参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末試験(客観式、持ち込み不可、60分)のみ、2/3以上の出席者のみ受験資格有り。他に授業態度の悪い者(私語が多い等)も受験資格無し。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 大学での勉強は、主体的な取り組みが必要です。予習復習、とりわけ、復習を行い、知識の定着をはかるようにしてください。その他、他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181263>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み 3号館南棟3階「臨床社会心理学研究室」)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学初歩

Psychology for Beginners

原 幸一 准教授
2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 心理学が関わる問題を取り上げ、その中でどのように問題をとらえて考えていくのかを理解する。心理学が関わっている問題は実は身近であり、様々な話題の中に心理学が関わっていることを知る。

【授業の概要】 心理学の歴史を簡単に紹介し、現在の問題となっている事柄に焦点をあてる。それらの問題が起きている背景と現状と要因について学ぶ。

【キーワード】 臨床心理学、認知発達

【到達目標】 新しい問題と古くからある課題をそれぞれ理解して、それらの関わりについて自分がその一部であることを理解する。

【授業の計画】 1. 心理学の領域、諸問題 2. 心理学の流れ、心理学における発達と臨床 3. ひきこもり 1 4. ひきこもり 2 5. 児童虐待 1 6. 児童虐待 2 7. 児童虐待 3 8. 精神障害 1 9. 精神障害 2 10. 知的障害 1 11. 知的障害 2 12. 発達障害 1 13. 発達障害 2 14. その他の諸問題 自殺、薬物など 15. テスト 16. 総括授業

【教科書】 毎回プリントを配布する。ビデオを用いることもある。

【成績評価の方法】 受講態度およびテスト

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181259>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 総合科学部3号館南棟3階3S04

人間と生命 (Humanity and Life)

心とからだの健康

Physical and Mental Health

佐野 勝徳 教授

長宗 雅美 助教/全学共通教育センター、嵯峨山 和美 助教/全学共通教育センター

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 この授業では、自分自身の健康や生活、人間関係について、社会人ボランティアと一緒に考えます。「社会の中で、健康的に生活する」とはどのようなことなのかを学ぶことを目的とします。

【授業の概要】 現代社会は多くの面で「健康」を維持しにくくなっているといえます。私達が身体的にも精神的にも健康に生活してゆく為に、何か必要なかを共に考えましょう。講義や体験学習、意見交換を通して考え、知りえたことが、皆さんの現在の生活/将来の生活に役立つことを願います。

【キーワード】 心の健康、からだの健康、自然・人・物・社会とのかかわり

【到達目標】 心とからだの健康についての理解を深める。

【授業の計画】 1. 自然・人・物・社会とのかかわり(ガイダンスおよびアイスウォーム) 2. 睡眠と生活リズム 3. 食と生活 4. ストレスと健康 5. 人とのかかわり(ヒューマン・コミュニケーション) 6. 情報化社会における人とのかかわり(ネット・コミュニケーション) 7. 社会とのかかわり(ソーシャル・コミュニケーション) 8. 社会とのかかわり(ソーシャル・コミュニケーション) 9. 心身の健康問題を考える(学生・社会人ボランティア・教員の討論を通して) 10. 若者の性 11. EQ: こころの指数 12. 心の叫び ~ 幼児・児童期を中心に ~ 13. 心の叫び ~ 思春期・青年期を中心に ~ 14. 心の叫び ~ 家庭・地域社会との関連で ~ 15. 試験 16. 総括

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【成績評価の方法】 出席状況、小テスト、期末テストによって総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181254>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐野 (088-656-7190, sano@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間と生命 (Humanity and Life)

宗教と人間

Religion and human being

大橋 眞 教授、石田 三千雄 教授

2単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 人間とは何なのかについて、様々なテーマについて宗教との関連性から思考を深めながら考えていきます。地域社会人との意見交換や、受講生の発表を聞きながら、自らの考えをまとめていきます。自分の持っていたとは異なった視点から物事を見る経験を積むことにより、学ぶということの意味を考えます。また、人間についての考察を深めることを目指します。

【授業の概要】 本講義は、人間とは何なのか、他の生物とどのように違うのかについて宗教を起点として考えていきます。他の生物で見られる物理的な力関係は、人の支配関係では必ずしも当てはまりません。このような現象を理解するために、人間社会で営まれてきた様々な現象をもとに、宗教の関係性について考えていきます。

【キーワード】 宗教、人間、支配、権力、文化

【到達目標】

1. 人間と他の生物との違いは何なのかについて考える。
2. 宗教とは、人間にとってどんな意味があるのかについて考える。

【授業の計画】 1. はじめに(教養と宗教) 2. 人間とは 3. 真理をもとめるということ 4. 人に伝えるということ 5. 支配をするということ 6. 権力 7. 正義 8. 戦争 9. 国 10. 律法と法律 11. 民主主義

12. 和とは何か? 13. 日本人の宗教観 14. 学校と大学 15. 科学とは何か? 16. 総括授業

【教科書】特になし

【参考書等】適宜参考書を紹介します。

【成績評価の方法】毎回のミニレポート 70%, 期末レポート 30% として評価する

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】地域の社会人がボランティアとして参加する授業です。コメンテーターとして、授業で取り上げるテーマについてコメントをもらいます。この授業のカテゴリーは、「人間と生命」ですが、「歴史と文化」「生活と社会」「自然と技術」にも関係する総合的な内容です。いわゆる宗教学の授業とは内容が異なります。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185632>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間と生命 (Humanity and Life)

生命倫理学研究

Introduction to Bioethics

山口裕之 准教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『倫理学』)

【授業の目的】近年、医学の進展とともに、人間の生命や身体を操作する技術もまた急激な発展を遂げている。そうした状況にあつて、さまざまな「倫理的問題」が提起され、議論されてきた。そうした諸問題を整理し、検討する。

【授業の概要】生命倫理学の成立やそこで議論されてきた事柄について検討する。

【キーワード】生命倫理、科学と哲学、インフォームド・コンセント、倫理学、生命倫理法制

【関連科目】『人間と生命/認知哲学』(0.3)

【到達目標】生命倫理学的な諸問題について理解し、自分なりに妥当だと思える判断を下すために必要な知識や考え方を学ぶ。

【授業の計画】1. 「生命倫理学」の成立: 人体実験への反省と非専門家による規制 1 2. 同上, 2 3. 「生命倫理学」の成立: 医療過誤裁判とインフォームドコンセント 1 4. 同上, 2(第 1 回小テスト) 5. 日本における生命倫理の受容と変容 1 (第 1 回小テスト解説) 6. 同上, 2 7. 脳死概念の成立と臓器移植 1 8. 同上, 2 9. 日本における臓器移植の歴史と現状 1(第 2 回小テスト) 10. 同上, 2(第 2 回小テスト解説) 11. 人工妊娠中絶: アメリカにおける中絶規制と論争 1 12. 同上, 2(レポート課題と採点基準等の説明) 13. 日本における人工妊娠中絶 1 14. 同上, 2(第 3 回小テスト) 15. まとめ (レポートと第 3 回小テストの解説)

【教科書】教科書はとくになし。

【参考書等】

- ◇ 香川知晶『生命倫理の成立』勁草書房
- ◇ 加藤尚武ほか編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社
- ◇ 小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』PHP
- ◇ 荻野美穂『中絶論争とアメリカ社会』岩波書店

【成績評価の方法】毎回授業終了時に書いてもらう「一言カード」で授業への取り組みを評価 (計 30 点)。学期中 3 回的小テスト (計 45 点)。学期末のレポート (25 点)。なお、6 回以上の欠席は自動的に不可。30 分以上の遅刻は欠席とみなす。学期末レポートの未提出は「試験欠席」として扱う。

【再試験の有無】なし。(授業への取り組みや学期中の小テストが評価の大きな部分を占めるため。)

【受講者へのメッセージ】「出席さえしていれば単位はもらえるはずだ」という考えの学生が増えているようですが、出席していても講義にきちんと取り組まない者は評価しないので、そのつもりで履修してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181270>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山口 (総合科学部 1 号館南棟 2F, 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 10:30-11:30)

人間と生命 (Humanity and Life)

心の科学

Psychology and Mind

佐野勝徳 教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】私たちは、見たり、聞いたり、考えたり、ときに悩み苦しむこともあります。そうした人間のこころのはたらきを扱うのが、心理学です。この授業は、心理学の基礎知識を学び、それを目的としています。なお、「心の科学」という授業科目にしたのは、「脳とこころの関係」に重きを置きたいと考えたからです。

【授業の概要】心理学の実験や調査・心理テストなどを取り入れながら、みなさんの発言を授業に取り入れ、「心の科学」についての理解を深めたいと思います。

【キーワード】生理心理学、認知脳科学、生体生活リズム

【関連科目】『生活と社会/社会科学のための統計学入門』(0.6, ⇒33 頁)

【到達目標】心理学の基礎知識を身につけるとともに、脳とこころの関係について理解を深める。

【授業の計画】1. 心理学と心の科学 2. 心理学が取り扱う領域 3. 心理学で用いられる研究法 (観察・調査・テスト法など) 4. 心理学で用いられる研究法 (実験法など) 5. 脳を調べる・脳のはたらきを調べる研究法 6. 神経系の基礎を学ぶ (末梢神経系) 7. 神経系の基礎を学ぶ (中枢神経系) 8. 脳とこころの不思議な関係 9. 脳とこころの不思議な関係 10. 眠りのメカニズム 11. 眠りと夢の世界 12. 生活リズムと子どもの育ち 13. ストレスの生理学 14. ストレスの心理学 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】特になし。必要な図書等は、その都度授業中に紹介します。

【成績評価の方法】講義中に実施する小テスト (数回) と学期末試験により評価する。

【再試験の有無】原則として実施しない。

【受講者へのメッセージ】皆さんが参加・発言できる授業にしたいです。積極的に授業を創り上げて下さい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181255>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐野 (088-656-7190, sano@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10:30~12:00 学習支援室)

人間と生命 (Humanity and Life)

鉄道の教育人間学 -なぜ子供は「でんしゃ」が好きなのか-

The Pedagogical Anthropology of Train

弘田陽介 助教/総合科学部

2 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『教育学』)

【授業の目的】近年、新しい形での鉄道ブームが巻き起こっている。従来のブームは、コアなマニア層による閉鎖的なものであったが、近年のそれは、大宮の新・鉄道博物館の開館が幅広い層からの賞賛をもって迎え入れられたことに見られるように、世間をも巻き込んだものとなっている。この授業では、この新たな鉄道をめぐる現象を、世代間の問題として考えてみたい。男の子をもつ親なら誰でも一度はこう考える。「なぜ子供は電車 (乗物一般) がこんなに好きなのか」と。私の家族がそうであったように、現在の鉄道熱は、実は世代間を越えた不思議な連鎖によって成り立っている。子から親へ、そしてその親へと、従来のコアなファン層とは違う、鉄道熱がわき起こっていることについて、教育人間学の領域から考えてみたい。

【授業の概要】子供の鉄道への愛を、現在の日本という視座のみならず、「近代」というタイムスパンから考察してみたい。ヨーロッパの産業革命に端を発する近代という時空間の中核となる蒸気機関は鉄道を生み、そして鉄道で運ばれる商品を生み出して行った。それは世界の時空間を一変させ、人々の生活をそれまでとはまったく異なるものへと転換させた。そのような近代の産物であり、近代を生み出した鉄道を、子供も大人も愛する。これはいかなることなのか。この不思議な愛と、その愛による大人と子供の結びつきを、鉄道黎明期の文学者・哲学者の著述や鉄道を題材とした絵本、また同じ時代に理論化された、近代の人間および社会システムを支える思想の諸研究において考察してみたい。

【キーワード】鉄道、電車、メディア、経験

【到達目標】歴史的な文献や現代の諸事象を、一つのテーマから丁寧に読解していくこと、そして、そのようなテキストを通して、私たちが生きている歴史的状况を解釈していくことを目標とする。

【授業の計画】1. イントロダクション 2. 子供の経験世界 3. 近代のメディア思想-Fr. キットラーの「メディア」概念より 4. 鉄道の歴史ヨーロッパ 5. 鉄道の歴史 日本 6. 世界のパノラマとしての鉄道 7. 子供の世界経験としての鉄道 8. 鉄道と映画の誕生 9. 鉄道と文学ヨーロッパ近代と鉄道 10. 鉄道と文学 日本近代と鉄道 11. 現在の子供世界における鉄道 12. 鉄道と心理学 13. 鉄道と資本主義 14. なぜ大人も「でんしゃ」が好きなのか? 15. レポートの発表と提出 16. 総括授業

【教科書】なし

【成績評価の方法】小発表など授業への取り組みを評価 (30 点)、学期末レポート (70 点)。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】講義形式の授業ですが、皆さんと関心を共有するために、授業内で課題発表などを行ってまいります。課題は大変かもしれませんが、今後皆さんが専門とする学科とのつながりを見つけて行ければと思います。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181234>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 弘田 (yhirota@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Eメール
アドレス byu00616@nifty.com)

人間と生命 (Humanity and Life)

古代ギリシアの人と思想 Greek Philosophers

吉田昌市・教授
2単位 前期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 古代ギリシアの思想のなかから、興味深いテーマや興味深い人物などを選んで授業を行う。歴史的な知識を得させることを目的とはしない。思想や哲学を学ぶということは、思想家、哲学者と言われる人々が残したものに触れられ、自分でものを考えはじめることであろう。そのためには、彼らが書いたものをじっくりと読み、彼らの言葉に耳を傾けることが不可欠である。この授業を、そうした意味での読み、そして聴く時間にした。

【授業の概要】 上記の目的を達成するために、あるまとまった分量のテキストを、古代ギリシアを中心とした哲学者・思想家のなかから選んで、受講生諸君に提示する。実際に読むのは受講生諸君みずからであり、教師は読むための手助けができるだけである。

【キーワード】 社会と自然、エロース、論理、知

【到達目標】 既にもっている考えや立場を一度疑い、吟味する態度を、幾分かでも身につけること。

【授業の計画】 1. 人間を越えるもの:ヘラクレイトス、プラトン『パイドン』『ティマイオス』など 2. 人間を越えるもの(続):ヘラクレイトス、プラトン『パイドン』『ティマイオス』など 3. 論理:パルメニデスとゼノン 4. 論理(続):パルメニデスとゼノン 5. いかに生きるべきか(その一):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』 6. いかに生きるべきか(その二):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』 7. いかに生きるべきか(その三):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』 8. エロースとは何か:プラトン『饗宴』より 9. エロースとは何か(その二):プラトン『饗宴』より 10. エロースとは何か(その三):プラトン『饗宴』より 11. 「無知の知」:プラトン『ソクラテスの弁明』より 12. 「無知の知」続:プラトン『ソクラテスの弁明』より 13. 「知る」とは?(その一):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論、プラトン『国家』線分の比喩、など 14. 「知る」とは?(その二):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論、プラトン『国家』線分の比喩、など 15. 成績評価のために使用する。 16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】 なし。資料となるプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 主な参考文献は次の通り。
- ◇ 広川 洋一 『ソクラテス以前の哲学者』 講談社(単行本および学術文庫版)
- ◇ 田中美知太郎 『ソクラテス』 岩波新書
- ◇ 同上 『ソフィスト』 講談社学術文庫
- ◇ F. M. コーンフォード 『ソクラテス以前以後』 岩波文庫
- ◇ A. コイレ 『プラトン』 みすず書房
- ◇ R. S. ブラック 『プラトン入門』 岩波文庫
- ◇ 藤沢令夫 『プラトンの哲学』 岩波新書
- ◇ 藤沢令夫 『ギリシア哲学と現代』 岩波新書

【成績評価の方法】 授業への取り組み方+何度か行う予定の小テスト+学期末の試験

【再試験の有無】 再試験は一度だけ行いが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【受講者へのメッセージ】 授業の内容がまだすっかり固まっていますので、上記の計画通りには行かないかもしれません。時間に余裕があれば、「国家」社会の問題:プラトン『国家』より「神話と哲学:ヘシオドス『神統記』とミレトス学派」などを追加するかもしれません。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185547>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (1230, 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜12時から13時)

人間と生命 (Humanity and Life)

自己分析の心理学

The Psychology of self-analysis

山本真由美・教授
2単位 前期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 本授業では、心理学では自己や自我をどのように考えるかを紹介し、自己について自分で分析し、自分理解を深め、社会における自己存在について考えることを目的とします。

【授業の概要】 (1) 自己、自己と他者との関係などについての講義を受け、(2) 主に質問紙による心理検査を行い、その結果から自分で自己状態を

把握し、(3) 理解した現在の自己状態を変えたいのか、変えたいのであればどのような方法があるのかを考え、(4) それらをレポートにまとめ、報告する。

【キーワード】 アイデンティティ、交流分析、自己分析、自己と他者

【到達目標】

1. 自己について説明ができる
2. 自己理解ができる
3. 心理学のパーソナリティ検査法について説明ができる

【授業の計画】 1. ガイダンス グループ分け検査実施 2. グループ発表、他者紹介とは、インタビュー実施 3. 発表原稿作成、発表方法について、グループ発表、他者紹介① 4. 交流分析(構造分析)の実施、結果整理 5. 意識と無意識について、他者紹介② 6. 自己と他者の関係について① 自意識尺度実施 結果整理 7. 自己と他者の関係について② 摂食障害から探る 他者紹介③ 8. 自己と他者の関係について③ エゴセントリズム検査実施 結果整理 9. 自己と他者の関係について④ 自閉症から探る 他者紹介④ 10. 自己と他者の関係について⑤ コミュニケーション分析実施 結果整理 11. 自己と他者の関係について⑥ 交流パターンから探る 他者紹介⑤ 12. 自己と他者の関係について⑦ 基本的自他態度検査実施 結果整理 13. 自己と他者の関係について⑧ 他者への態度 他者紹介⑥ 14. 自己について 人生脚本作成 結果整理 15. 事例から学ぶ、他者紹介⑦ 16. レポート返却、全体総括

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【成績評価の方法】 毎回のレポート、課題毎の課題分析レポートによって評価する。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181275>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー:月曜日の昼休み、研究室:総合科学部3号館3S06)

人間と生命 (Humanity and Life)

学びの心理学

Psychology for Learning

川野卓二・教授/大学開放実践センター

2単位 前期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 あなたは「大学で学ぶ」方法は、これまでと同じ方法でよいと思っていませんか。多くの学生にとって大学は最終学歴になるはずで、卒業して社会に出て行く前に、卒業後も役に立つ「学ぶ方法」を学んでおくことは大切なことだと思います。この授業では、自分自身の学びを分析し、自分を理解することを通して生涯学習社会における自己の学びについて考えることを目的とします。

【授業の概要】 学習心理学・教育心理学の基本概念を学び、大学での自らの学びにそれらを適用する方法を探ります。心理検査等を利用して、自分自身のラーニングスタイルを理解し、それに基づいた学習方法を実践し、その結果を報告することが求められます。また、他者の学習を援助することを通じて自分自身の学習を促進することも学びます。

【キーワード】 大学での学び、ラーニングスタイル、構成主義的理解

【到達目標】

1. 自己のラーニングスタイルが理解ができる。
2. 生涯学習社会を生きるための学習習慣を確立する。
3. 学んだことを分かりやすく他者に伝えることによって学びを定着させる。

【授業の計画】 1. オリエンテーションおよびグループ分け検査 2. 時間管理 3. ラーニングスタイル 4. 学習理論:古典的条件づけ 5. 学習理論:オペラント条件づけ 6. 学習理論:社会的学習理論 7. ノートのとり方 8. テキストの読み方 9. 学習グループ、レポート 10. パソコンの利用 11. インターネット、図書館の利用 12. 課題、テスト、オフィスアワー 13. グループ発表、全体発表、発表評価(1) 14. グループ発表、全体発表、発表評価(2) 15. グループ発表、全体発表、発表評価(3) 16. 全体の評価と解釈、まとめ

【教科書】 世界思想社編集部(編)(2008)「大学生 学びのハンドブック」世界思想社 1,300円

【参考書等】 参考書等は、適宜紹介します。

【成績評価の方法】 課題毎の課題分析レポート、まとめノート、学びのルーブリック、グループ発表、発表評価などによって総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 第1回目のオリエンテーションに必ず出席してください。グループ分けをします。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181242>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 毎週 月・火・水曜日 12時10分~12時40分 場所:川野研究室(6号館2階)

人間と生命 (Humanity and Life)

生体のしくみ

Basic physiology

中川 秀幸 教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 多細胞生物の細胞はその容器に入った膨大な情報をもとに、生命活動を営んでいる。生体は約 60 兆個の細胞から構成されている。この講義では生体を構成する細胞、組織、各種の器官のはたらきと、生体で作られる活性物質の作用について解説する。

【授業の概要】 人体の構造と機能を理解するうえで、もっとも基礎となる細胞の内部環境を概説し、体の恒常性とその調節機構を説明し、解説する。

【キーワード】 細胞、ホメオスタシス、生体恒常性、葉、生体のしくみ、血管平滑筋、血液、ホルモン、神経細胞、神経伝達物質

【先行科目】 『人間と生命/生物と環境』(1.0, ⇒143 頁)

【到達目標】 ヒトは多種多様な細胞から構成されていることや、一つ一つの細胞がダイナミックな生命活動を展開していることを理解する。一方、細胞の生命活動がうまくいかなかった時に、内部からと外部から助けを出すことができるのがホルモンや葉であるが、補いであることを理解する。

【授業の計画】 1. 生体の構成と大きさの意味 (1) 2. 生体の構成と大きさの意味 (2) 3. 細胞の構造と働き (1) 4. 細胞の構造と働き (2) 5. 各種器官の機能とネットワーク 6. 生体の分子 (1) 7. 生体の分子 (2) 8. 神経伝達物質とホルモン (1) 9. 神経伝達物質とホルモン (2) 10. 循環系 11. 血管の構造と働き (1) 12. 血管の構造と働き (2) 13. 化学物質と葉 14. 毒薬も葉 15. 葉と健康 16. 期末試験

【教科書】 基礎固め 生物 (松村瑛子他, 化学同人)1800 円+税。資料は適宜、配付する。

【参考書等】 元気で長生き・やまいの予防とくすり (戸田 昇編) メディカルレビュー社, 1600 円+税。エッセンシャル細胞生物学 南光堂 8000 円+税

【成績評価の方法】 学期末試験, 中間試験および出席状況などで総合評価する。

【再試験の有無】 行う

【受講へのメッセージ】 ファイルノートを用意すること。板書はかなりします。復習を薦めます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/lablist.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181239>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館2階北 活性物質生理学研究室: 随時)

人間と生命 (Humanity and Life)

古代ギリシアの人と思想

Greek Philosophers

吉田 昌市 教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 古代ギリシアの思想のなかから、興味深いテーマや興味深い人物などを選んで授業を行う。歴史的な知識を得させることを目的としない。思想や哲学を学ぶということは、思想家、哲学者と言われる人々が残したものに触発され、自分でものを考えはじめることであろう。そのためには、彼らが書いたものをじっくりと読み、彼らの言葉に耳を傾けることが不可欠である。この授業を、そうした意味での読み、そして聴く時間にしたい。

【授業の概要】 上記の目的を達成するために、あるまとまった分量のテキストを、古代ギリシアを中心とした哲学者・思想家のなかから選んで、受講生諸君に提示する。実際に読むのは受講生諸君みずからであり、教師は読むための手助けができるだけである。

【キーワード】 社会と自然、エロース、論理、知

【到達目標】 既にもっている考えや立場を一度疑い、吟味する態度を、幾分かでも身につけること。

【授業の計画】 1. 人間を越えるもの:ヘラクレス、プラトン『パイドン』『ティマイオス』など 2. 人間を越えるもの(続):ヘラクレス、プラトン『パイドン』『ティマイオス』など 3. 論理:パルメニデスとゼノン 4. 論理(続):パルメニデスとゼノン 5. いかにか生きるべきか(その一):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』 6. いかにか生きるべきか(その二):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』 7. いかにか生きるべきか(その三):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』 8. エロースとは何か:プラトン『饗宴』より 9. エロースとは何か(その二):プラトン『饗宴』より 10. エロースとは何か(その三):プラトン『饗宴』より 11. 「無知の知」:プラトン『ソクラテスの弁明』より 12. 「無知の知」続:プラトン『ソクラテスの弁明』より 13. 「知る」とは?(その一):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論、プラトン『国家』線分の比喩、など 14.

「知る」とは?(その二):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論、プラトン『国家』線分の比喩、など 15. 成績評価のために使用する。 16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】 なし。資料となるプリントを配布する。

【参考書等】

◇ 主な参考文献は次の通り。

◇ 広川 洋一 『ソクラテス以前の哲学者』 講談社 (単行本および学術文庫版)

◇ 田中美知太郎 『ソクラテス』 岩波新書

◇ 同上 『ソフィスト』 講談社学術文庫

◇ F. M. コーンフォード 『ソクラテス以前以後』 岩波文庫

◇ A. コイレ 『プラトン』 みすず書房

◇ R. S. ブラック 『プラトン入門』 岩波文庫

◇ 藤沢令夫 『プラトンの哲学』 岩波新書

◇ 藤沢令夫 『ギリシア哲学と現代』 岩波新書

【成績評価の方法】 授業への取り組み方+何度か行う予定の小テスト+学期末の試験

【再試験の有無】 再試験は一度だけ行うが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【受講へのメッセージ】 授業の内容がまだすっかり固まっていますので、上記の計画通りには行かないかもしれません。時間に余裕があれば、「国家社会の問題:プラトン『国家』より」「神話と哲学:ヘシオドス『神統記』とミレトス学派」などを追加するかもしれません。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181252>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1230, 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜12時から13時)

人間と生命 (Humanity and Life)

自己発見の心理学

Psychology for Self-Discovery

香川 順子 助教/大学開放実践センター

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 他者との交流を通して、自分について根本的なところから見直し、今後自分がどうあるべきかを分析していきます。生き生きと大学生活を送るために必要な知識とスキルを身につけると共に、自己肯定的態度、自己実現的な態度を身につけることがこの授業での目的です。

【授業の概要】 人との交流を通して自分や他者を理解していくための授業です。心理テストやワークショップを行いながら授業を進めていきます。自己理解を行う際に役立つ理論を学び、講義の中で実践へと結びつけていきます。

【キーワード】 自己分析、交流分析、心理学、コミュニケーション

【到達目標】

1. 自己理解に関する知識とスキルを身につけ、自分の経験につなげることができる。

2. 自己肯定的態度、自己実現的な態度を身につける。

【授業の計画】 1. 導入 (授業参加の留意点、事前心理テスト) 2. 自己分析の心理学 (理論的背景) 3. 交流分析による自己分析 I(心理テスト・理論の解説) 4. 交流分析による自己分析 II(自己分析) 5. 短所の見方から自分について考える 6. 過去の自分をふりかえる 7. 将来の人生に望むものを考える 8. 天職を見つけるためのワークショップ 9. 前半のふりかえり 10. コミュニケーション場面での自己分析 I(交流の構えの分析) 11. コミュニケーション場面での自己分析 II(自己主張の仕方) 12. コミュニケーション場面での自己分析 III(とらわれに気づく) 13. コミュニケーション場面での自己分析 IV(気持ちの良い交流の仕方) 14. まとめ (後半・全体のふりかえり、事後心理テスト) 15. レポート提出

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【参考書等】 芦原陸著 自分が分かる心理テスト PART1(1992), PART2(1995) 講談社

【成績評価の方法】 日々の授業における課題と、レポートにより評価を行います。

【受講へのメッセージ】 意欲的に授業へ参加し、他者と積極的に交流してください。そうすればよりよい自分探しにつながるでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181238>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 5・6限)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学基礎

Basic Psychology

境 泉洋 准教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 現代社会ではここが関連するさまざまな問題が起こっている。そうした問題に直面する以前に、その問題をどう理解し、どう対応するのかについて知っておくことの予防的意義は大きい。本講義では、心理学の基礎について学ぶと共に、そうした問題の予防・改善に心理学がどのように貢献できるかについて学習することを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、心理学の基礎について概説したうえで、学童期から思春期、青年期に至るまでに生じるさまざまな問題を取り上げ、それらの問題にたいする心理学的な立場からの理解と援助方法を概説する。

【キーワード】 心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学

【到達目標】 心理学の基礎知識を身につけると共に、本講義で取り上げる種々の問題について心理学的観点から理解し、そうした知識を自らの生活に役立てていくことを目標とする。

【授業の計画】 1. 心の科学としての心理学 2. 発達心理学 3. 性格心理学 4. 社会心理学 5. 学習心理学 6. 心理統計学 7. 臨床心理学 8. コミュニティ心理学 9. 不登校 10. 非行 11. 児童虐待 12. こころの健康 13. 軽度発達障害 14. ひきこもり 15. 定期試験 16. まとめ

【教科書】 教科書は使用しない。資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末テストの成績、出席状況等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181262>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

人間と生命 (Humanity and Life)

身の回りの微生物

Microbiology in Life Sciences

横井川 久己男 教授
2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 身の回りに存在する微生物の構造と機能を学ぶ

【授業の概要】 肉眼では認識できないほど小さな微生物は、私たちの身の回りに多数存在して人間生活と深く関わってきた。本科目では、微生物学の基礎を講述し、身の回りの多種多様な微生物の構造と機能や生理・生化学を解説する。

【キーワード】 微生物、発酵、感染症

【到達目標】 身の回りの微生物が、人間生活と密接に関わっていることを理解する。

【授業の計画】 1. 微生物学の歴史 2. 微生物の分類と命名 3. 微生物の形態 4. 微生物の増殖 5. 微生物の増殖に影響を与える環境因子 1 6. 微生物の増殖に影響を与える環境因子 2 7. 物質代謝 8. 微生物による環境浄化 9. 微生物による物質生産 10. 発酵商品と微生物 1 11. 発酵商品と微生物 2 12. 病気と微生物 13. 食中毒細菌の特徴 1 14. 食中毒細菌の特徴 2 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 参考書: 微生物学 (培風館)。

【成績評価の方法】 出席、受講姿勢、筆記試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 授業で学んだことを、必ず復習すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181277>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

人間と生命 (Humanity and Life)

科学技術と人間

Technology and Man

石田 三千雄 教授
2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 科学技術は、今日の社会の基盤を形成し、われわれの生活になくてはならないものとなっている。しかし科学技術は自然や人間に対して破壊的な力を行使し、環境問題を始めとして多くの問題を引き起こしている。われわれは科学技術の人間学的・社会的基盤を踏まえた上で、科学や技術の研究基盤、科学者・技術者の責任、市民の関与の仕方などを論じ、科学技術を適切に行使する社会のあり方、人間の生き方を明らかにする。

【授業の概要】 科学技術が人間本性に根ざし、近代合理性の大きな柱をなし、近代社会を形成してきたことをまず哲学的・思想的に明らかにしたうえで、現代の科学技術の倫理に関わる諸問題を考察する。科学

倫理や技術倫理、科学者・技術者の責任、技術の文明論的考察、生命操作技術の倫理や生命倫理学の倫理性、科学技術と公共性、市民の関与、技術倫理の課題、技術倫理教育の現状などを論じる。

【キーワード】 科学技術

【先行科目】 『人間と生命/知の探求と現代』(1.0, ⇒22 頁)

【関連科目】 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.5, ⇒24 頁)

【到達目標】 科学技術の思想のおよび社会的背景を理解でき、科学技術が現代社会の中で実際にどのように行使され、またどのような役割を果たしているかを自ら考えることができる。

【授業の計画】 1. はじめに一授業全体の説明 2. 科学技術の基盤 3. 科学倫理とは何か 4. 技術倫理とは何か 5. 人間と技術 6. 現代文明と技術 7. 現代社会の歴史的位置づけ 8. 現代科学技術の社会的基盤 9. 生命倫理学の倫理性 10. 科学的認識の倫理性 11. 科学技術者と市民 12. 科学技術と合意形成 13. 技術倫理が問われる現場 14. 技術倫理教育の現状と課題 15. 終わりに一授業のまとめ 16. 総括授業

【教科書】 石田三千雄他『科学技術と倫理』ナカニシヤ出版、2007 年、1995 円

【参考書等】 授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法】 学期末試験、レポート、授業への取り組み状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験有り

【講師へのメッセージ】 科学技術が自然や現代社会にどのような影響を与えているのかを考えるきっかけにしてください。質問等はメールでも受け付けます。前月曜の授業と同じであるので重複履修に注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185558>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13~14 時 石田研究室(総合科学部1号館3階))

【備考】 前期月曜の授業と同じであるので、重複履修に注意すること。授業計画は一部変更があるかもしれません。

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概論

Outline of Psychology

福森 崇貴 講師/総合科学部

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 人は、感じる・覚える・学ぶ・思う・悩む、など毎日「こころ」を動かしています。本講では、こうした我々の日常にみられる「こころ」の働きを心理学的観点から振り返り、心理学の各領域における主要な理論・概念について理解することを目的とします。

【授業の概要】 様々な心理学の研究領域のうち、代表的な領域を取り上げ、それぞれの領域で提唱されている理論や研究結果について紹介します。

【キーワード】 知覚心理学、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学

【到達目標】 心理学的な知識を学ぶことによって、自分を含めた「人間」を、俗説に惑わされることなく科学的に理解する力を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. 心理学とは 2. 知覚と認知 3. 学習 4. 欲求と動機づけ 5. 感情 6. 知能 7. パーソナリティ 8. 発達 9. 個人と集団 10. こころの健康 11. まとめ 12. 上記の内容を講義した後、15 回目に期末試験、16 回目に総括を行います。

【教科書】 教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法】 期末試験、授業への取り組みなどを元に総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 毎回、授業内容に関する意見を求めます。授業への積極的参加を期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185550>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福森 (オフィスアワー: 未定 総合科学部3号館3階)

2.3 《生活と社会》 (Living and Society)

生活と社会 (Living and Society)

消費生活と財産法

Consumption and Civil Law

直井 義典 准教授
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法学』)

【授業の目的】 財産法の概略を理解することによって、消費者問題に自ら対処できる力を身につけること。

【授業の概要】 日常生活と密接な関わりをもつ財産法を、ものを買う・お金を借りるといった 2 つのテーマに即して概説する。具体的には、近時特に問題が多発している製品品質の偽装・グレーゾーン金利問題やマルチ商法・キャッチセールス・通信販売等の消費者問題に対処できるよう、それらの問題に対する法的対応の基礎付けをなす民法典の関連規定に始まり、特別法についても解説を加えていく。消費者被害事例の紹介を目的とする講義ではないので注意すること

【キーワード】 民法、消費者

【到達目標】

1. 法律の条文に基づいて、論理的に問題を考える力を身につける。
2. 消費者問題に対応できる力を身につける。

【授業の計画】 1. 民法典の全体像 2. 民法典の売買規定・その 1(成立) 3. 民法典の売買規定・その 2(効力) 4. 民法典の売買規定・その 3(債務不履行) 5. 契約の解除・取消 6. 消費者保護法制・その 1(消費者契約法) 7. 消費者保護法制・その 2(特商法) 8. 消費者保護法制・その 3(割賦販売法 1) 9. 消費者保護法制・その 4(割賦販売法 2) 10. 貸金に関する民法典の規定 11. 利息制限法制・その 1(現行法の規定) 12. 利息制限法制・その 2(法規定の変遷) 13. 消費貸借に関する判例の動き・その 1 14. 消費貸借に関する判例の動き・その 2 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 教科書は使用しない。授業の際には六法を持参すること (購入すべき六法については初回に指示する)。

【参考書等】 講義中、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 出席状況・学期中に課すレポート・期末試験の成績による。

【再試験の有無】 行わない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181081>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30 ~ 12:00)

生活と社会 (Living and Society)

経済学入門

Introduction to Economic Science

眞弓 浩三 教授
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 マクロ経済学の標準的な分析手法であるヒックスの IS-LM モデルに習熟し、マクロ経済学の基礎を学ぶ。

【授業の概要】 政府や外国貿易のない IS-LM モデルにおいて均衡生産量という考え方をまず学習し、そのモデルを順次拡張し、政府や外国貿易・資本収支を導入した IS-LM モデルを学習する。さらに、このモデルを用いて財政政策や金融政策の、有効性について分析する。

【キーワード】 マクロ経済、IS-LM モデル、財政政策、金融政策

【到達目標】 IS-LM モデルのメカニズムに習熟し、現実のマクロ経済分析の基礎をかためる。

【授業の計画】 1. マクロ経済学の概要 (2 回) 2. 国民経済計算 (2 回) 3. 総需要と均衡所得 (2 回) 4. 貨幣と利子率、および所得 (3 回) 5. 財政政策とクラウディングアウトおよび金融政策 (3 回) 6. 開放経済モデル (2 回) 7. 期末試験 (1 回) 8. 総括授業 (1 回)

【教科書】

- ◇ 教科書:なし
- ◇ 参考書:ドーブッシュ他著「マクロ経済学」CAP 出版

【成績評価の方法】 期末試験で成績をつける。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回出席すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181094>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもお越しください。)

生活と社会 (Life and society)

食生活の経済学

Food Economics

中嶋 信 教授
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 日本の食生活問題を打開する展望を得るために、食料の生産・加工・流通・消費の総過程をたどりながら、生活構造を経済学的に把握する方法を身につける。また、食料の生産・消費の問題はすぐれて地球的な課題である。地球環境の持続的発展を実現する方策も検討する。

【授業の概要】 日本の現代の食生活問題を解明するために、食料供給構造および消費者の生活構造を多面的に分析する。

【キーワード】 食料問題、フードシステム、食料経済学、食料農業政策

【到達目標】

1. 日本の食生活問題、地球規模の食料問題の概要を理解できること。
2. 身近な社会問題を経済学的に把握する方法を理解すること。

【授業の計画】 1. 食料経済学の課題 食生活問題と経済学 講義の進め方 2. 食料供給構造と食生活 分析の方法 生産・流通・消費の関係 3. 食料経済の現状と課題 (1) 野菜 供給態勢の動向 市場制度と政策 4. 食料経済の現状と課題 (2) 米 需給の動向 食糧管理の制度と課題 5. 食料経済の現状と課題 (3) 畜産物 畜産近代化と食生活 近代化問題群 6. 食料経済の現状と課題 (4) 水産物 需給動向 資源浪費型構造の転換 7. 食料経済の現状と課題 (5) 加工食品 食生活社会化の意義 消費者支配 8. 食料経済の現状と課題 (6) 外食 外食産業の動向 生活社会化の条件 9. 今日の食料消費構造 消費構造把握の方法 現状評価論争 10. 食生活「近代化」と食生活問題 高度成長下の生活様式「現代的貧困」 11. 世界の食料・農業問題 食料・農業問題の本質 政策の転換 12. 日本の食料・農業政策の課題 日本の食生活問題の特質 国民の課題 13. 食生活問題の理論と運動 食生活問題の性格と問題解決の展望 14. 食生活問題研究の動向 先行研究の動向 参考文献の解説 15. 筆記試験 16. 質疑応答と授業全体のまとめ

【教科書】 テキストは用いず、プリントに従って進める。進行に併せて参考書を紹介します。

【成績評価の方法】 < 中間試験 > (3) ~ (8) に関するテーマのリポート提出、 < 期末試験 > (1), (9) ~ (14) を概括するテーマの筆記試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 専用の授業ノート (ファイル) を準備し、レジュメ、ノート、関連資料などをまとめて私的なテキストをつくること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181054>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 総合科学部 1 号館 中棟 2 階に日本経済史研究室があります。随時、相談に応じます。質問や面談予約にはメール、電話・ファクスを利用して下さい。)

生活と社会 (Living and Society)

家族法の諸問題

Family Law

直井 義典 准教授
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法学』)

【授業の目的】 家族と法に関する諸問題を、法的に分析し解決する力を身につける。

【授業の概要】 家族法を巡っては、近時多くの問題が噴出している。嫡出推定・代理母・離婚・同性愛・性転換・児童虐待・老人ホーム契約などである。しかし議論の多くは感情論にすぎない。法が国民意思の反映であり、特に家族法が市民生活と密接に関わる問題であることをふまえた場合、こうした感情論を一概に無視することはできないが、感情論がいたずらに議論を混乱させているように思われる場面も多々見られる。そこで本講義では家族を巡る現代社会の問題の内のいくつかを選択して、その法的な規律を概説することとする。

【キーワード】 家族、民法、戸籍

【到達目標】 家族を巡る問題の法的規律を理解すること。

【授業の計画】 1. 序論 (家族と法) 2. 婚姻法・その 1(我が国の規定) 3. 婚姻法・その 2(同性愛に関する法の対応) 4. 離婚法 5. 親子法・その 1(嫡出推定) 6. 親子法・その 2(嫡出否認) 7. 親子法・その 3(母子関係の成立) 8. 親子法・その 4(親権 1) 9. 親子法・その 5(親権 2) 10. 相続法・その 1(相続人) 11. 相続法・その 2(相続分) 12. 高齢化と法・その 1(能力規定) 13. 高齢化と法・その 2(老人ホーム契約) 14. 高齢化と法・その 3(グループホーム) 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 使用しない。

【参考書等】 授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法】 出席点・レポート・期末試験の成績による。

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 毎回、六法を持参すること (購入すべき六法は初回の講義の際に指示する)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181070>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~12:00)

生活と社会 (Living and Society)

人材マネジメント

Human Resource Management

西村 孝史 准教授
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『経営学』)

【授業の目的】 人材マネジメントは、人的資源管理論、人事管理論、あるいは労務管理論とも呼ばれ、人・金・モノ・情報といった経営資源の中でも人に注目した講義です。企業の中で働くとはどういうことなのか、お金さえ払えば、人は懸命に働いてくれるのかなどを考えます。同時に派遣労働や格差、ワーキングプアなど最新のトピックを事例を交えて説明します。

【授業の概要】 企業や組織が目的を達成するためにどのように人材を活用しなければならないのかを理論的側面と事例から説明します。一部の授業でゲストスピーカーもしくは DVD の視聴を考えています。

【キーワード】 人材マネジメント、モチベーション、リーダーシップ、キャリア、働き方の多様化

【到達目標】 営利組織であっても、非営利組織であっても、何からの形で人材を管理する必要があります。アルバイトでお金をもらうことやアルバイトという就業形態そのものも人材マネジメントの 1 つです。自分がどういう条件だったら働いてもいいと思うのかを授業を通じて考えてみてください。

【授業の計画】 1. イントロダクション、講義概要説明 2. 経営学の基礎: 経営学の位置づけと企業の特徴 3. 経営学の基礎: 学史的な理解 4. 人材マネジメントとは何か 5. 人材マネジメントを行うための組織構造 6. 働く人のモチベーション 1: 内容理論 7. 働く人のモチベーション 2: 過程理論 8. リーダーシップ 9. 人事制度の基礎: 配置と異動 10. 人事制度の基礎: 育成とキャリアデザイン 11. 人事制度の基礎: 人材の評価 12. 人事制度の基礎: 賃金と昇進・昇格 13. ゲストスピーカーまたは DVD 14. 働き方の多様化とワークライフバランス 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 守島基博 (2004) 『人材マネジメント入門』日経文庫

【参考書等】 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 (2007) 『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ

【成績評価の方法】 出席点が 20%、期末試験 80% を考えています (但し、受講人数によって変更の可能性があります。その場合は事前にアナウンスします)。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 教師がパワーポイントを用いて講義を行う形式です。授業中出席を兼ねたミニレポートやコメントを求めることがあります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185544>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西村 (総合科学部 1 号館 2 階中棟 (2215), 088-656-7171, t-nishim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週月曜日 12:00-16:00 研究室 (2215), それ以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえば対応できます。)

生活と社会 (Living and Society)

暮らしと地図

Maps and Daily Life

田中 耕市 准教授/徳島大学総合科学部
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地理学』)

【授業の目的】 わたしたちは普段の生活のなかで、地図に触れる機会が多い。多くの人はそれを何気なく見過ごしているが、それに注視して理解することによって新たな世界観を獲得することもできる。本授業は、地図を活用しつつ、世界の国々や地域における人々の暮らしや、それに関わる社会・経済・環境の問題を解説する。

【授業の概要】 担当者から一方的に話すのではなく、受講者にも多くの発言を求める授業である。積極的に発言して、授業に参加する姿勢が重要である。また、図を描いたりなどの実習作業や、グループディスカッションをしてもらうこともある。

【キーワード】 地理学、地図、暮らし

【到達目標】 地図を活用しつつ地域の諸問題を発見して、それに対する自分の意見を述べられるようになる。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. 地図を読む 3. デジタル地図と地理情報システム (GIS) 4. グローバリゼーションと世界の航空 5. 海外へ旅立つ 6. 韓国 1 7. 韓国 2 8. 第 1 回テスト 9. アイス

ランド 1 10. アイスランド 2 11. シンガポール 12. フィリピン 13. ギリシャ 14. ドバイ (UAE) 15. 第 2 回テスト 16. テスト解説

【教科書】 高等地図帳 (高校で利用した地図帳でよい)

【成績評価の方法】 授業での発言を重視する。他に、授業への取組、レポート、期末試験等で評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 2 回のテストを実施する予定。テストの受験が義務。授業中、受講生には積極的な発言を求めます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181080>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 木曜日 12:00-13:00)

生活と社会 (Living and Society)

政治とメディア

Politics and Media

饗場 和彦 教授

2 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『政治学』)

【授業の目的】 政治の一つの本質は「権力」にあるが、マス・メディアは「第 4 の権力」とも言われ、政治と密接な関係がある。また、自由な報道は国民の知る権利、思想/信条の自由をささげるため、民主的な政治制度においては不可欠であるが、他方、プライバシーの問題をはじめ多くの批判もある。この授業では、こうした政治とメディアの問題について、具体的なテーマを取り上げつつ、基本的な知識と考え方を学ぶ。

【授業の概要】 政治とメディアに関する基本的な概念、考え方を理解すると同時に、具体的な問題について知識を深める。筆者は以前、新聞記者をしていたので、その経験に基いた視点からも解説する。国内政治、国際政治を問わず、適宜、時事ニュースも扱う。実際の記事なども多く紹介する。

【キーワード】 政治、メディア

【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5, ⇒146 頁), 『生活と社会/国際協力論 2-四国から世界へ 輝く瞳のつくり方-』(0.5, ⇒34 頁)

【到達目標】 現代社会における政治の問題と、メディアの問題について関心を深め、基礎的な知識、考え方を修得する。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. 政治とは何か 一地球上にあなた一人しかいないなら政治は必要か (前) 一 3. 政治とは何か 一地球上にあなた一人しかいないなら政治は必要か (後) 一 4. 新聞の読み方 一各紙こんなに違う? 活字を信じすぎると (前) 一 5. 新聞の読み方 一各紙こんなに違う? 活字を信じすぎると (中) 一 6. 新聞の読み方 一各紙こんなに違う? 活字を信じすぎると (後) 一 7. 政府と市民 一日本はほとんど「茶色」になっている?(前) 一 8. 政府と市民 一日本はほとんど「茶色」になっている?(後) 一 9. メディアの功罪 一イラク戦争の実態を私たちは知っているか (前) 一 10. メディアの功罪 一イラク戦争の実態を私たちは知っているか (後) 一 11. イラクの日本人入国事件-なぜパッシングが起きたのか (前) 一 12. イラクの日本人入国事件-なぜパッシングが起きたのか (後) 一 13. 憲法改正 一あなたは護憲派? 改憲派? (前) 一 14. 憲法改正 一あなたは護憲派? 改憲派? (後) 一 15. 試験 16. まとめと補足説明

【教科書】 教科書は特に指定しない。授業中に配布する資料などにそって講義を進める。参考書などは、たとえば以下の書籍など。『政治学がわかる。』(朝日新聞社, 2003 年), 『新マスコミ学がわかる。』(朝日新聞社, 2001 年), 加藤秀治郎・中村昭雄『スタンダード政治学 (新版)』(芦書房, 1999 年), 馬淵勝他『はじめて出会う政治学』(有斐閣, 1997 年), 高木徹『戦争広告代理店』(講談社, 2002 年) など。

【成績評価の方法】 期末試験はあらかじめ問題を提示するので、試験日までに準備し、当日は持ち込み禁止で解答する。また、平常点として授業姿勢と出席状況を評価する。おおむね試験 50%, 平常点 50%。

【再試験の有無】 有り。

【受講者へのメッセージ】 日頃から新聞やテレビの報道に関心を持つように。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181079>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:35-16:05 (この時間以外でも在室時はいつでも可))

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 I

Constitution and Human Rights I

上地 大三郎/徳島弁護士会

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『法律学』)

【授業の目的】 具体的事例を通じて憲法や人権の考え方を身につけることを目的とします。憲法という、何か堅苦しいイメージがあり、自分には関係がないと思っている方も少なくないかもしれませんが、し

かし、実際には、身の回りに起こる様々な出来事が憲法に関わっているのです。そこで、この講義を通じて、少しでも憲法や人権を身近なものとして感じてもらいたいと考えています。

【授業の概要】 憲法の規定のうち、基本的な人権を中心に講義を進めます。講義については、単に知識を教えるということではなく(ただし、憲法の規定を理解する上で必要な知識として、個々の条文の意味やその歴史的背景などについては説明いたします)、裁判で問題となった事案や社会で議論されているような問題を素材として、受講者の皆さんと一緒に議論しながら憲法的な考え方を身につけることができるような講義にしたいと考えています。

【キーワード】 憲法、人権

【関連科目】 『生活と社会/憲法と人権 II』(1.0, ⇒146 頁)

【到達目標】

1. 憲法や基本的な人権の基本的な考え方を理解する。
2. 社会における様々な問題を法的に考えて処理する力(法的思考能力)を修得する。

【授業の計画】 1. 基本的な人権総論 2. 幸福追求権(憲法 13 条) 3. 法の下での平等(憲法 14 条) 4. 思想・良心の自由(憲法 19 条) 5. 信教の自由(憲法 20 条) 6. 表現の自由(1)(憲法 21 条)-名誉・プライバシーとの関係について 7. 表現の自由(2)(憲法 21 条)-いわゆる「知る権利」について 8. 職業選択の自由(憲法 22 条) 9. 財産権(憲法 29 条) 10. 生存権(憲法 25 条) 11. 教育を受ける権利(憲法 26 条) 12. 人身の自由(憲法 18 条, 31 条, 33 条~39 条) 13. 裁判を受ける権利(憲法 32 条) 14. 参政権(憲法 15 条) 15. 平和主義(憲法前文, 9 条)

【教科書】 教科書は使用しません(毎回、プリントを配布します)が、六法全書(コンパクトなもので結構です)を必ず持参して下さい。参考書等は、講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法】 毎回、講義終了後に簡単な意見・感想を書いてもらい、それとレポートの結果を総合して評価します(試験は実施しません)。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 憲法とは想像力と創造力の学問です。自分自身の頭で考えるということを心がけてほしいと思います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181075>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 上地

生活と社会 (Living and Society)

環境私法の基礎

environmental civil law

直井 義典 准教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 環境に関して発生する諸問題を法的に予防・解決する力を身につける。

【授業の概要】 騒音・日照権・公害・不法投棄など、われわれの生活環境をめぐる種々の問題が生じている。本講義ではこれらの環境問題に対する法的なアプローチ、その中でも私法的なアプローチを紹介する。

【キーワード】 不法行為、環境

【到達目標】 環境問題に対する私法的な予防・解決策の内容を理解すること。

【授業の計画】 1. 序論(環境紛争と法) 2. 環境紛争の事後的解決方法 3. 不法行為法 1(要件 1-故意・過失-) 4. 不法行為法 2(要件 2-権利侵害-) 5. 不法行為法 3(要件 3-因果関係-) 6. 不法行為法 4(要件 4-損害-) 7. 不法行為法 5(効果 1-損害賠償-) 8. 不法行為法 6(効果 2-差止請求-) 9. 共同不法行為 10. 具体的事例の分析 1(騒音) 11. 具体的事例の分析 2(水質汚濁) 12. 具体的事例の分析 3(景観訴訟) 13. 環境紛争の事前的予防 1(行政によるコントロール・NPO の役割) 14. 環境紛争の事前的予防 2(法制度設計) 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 使用しない。

【参考書等】 授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法】 出席点ならびに期末試験の成績による。

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 新聞記事に目を通し、現代社会において生じている環境問題に関心を持つことを求める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185540>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~12:00)

生活と社会 (Living and Society)

企業法入門

Introduction to Corporation and Business Law

清水 真人 講師/総合科学部

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 企業は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えています。その反面、食品偽造や粉飾決算、派遣労働者の大量解雇など、企業によって私達の生活を脅かすような重要問題も引き起こされています。企業が私達の生活を豊かにし、社会の発展に貢献するよう、私達一般市民が企業の基本的な仕組みを理解し、企業活動を監視する目を養わなければなりません。本講義では、受講生が会社法や金融商品取引法等の企業法制の基本的な枠組みを理解した上で、企業を巡る重要問題の存在を知り、それらの問題について受講生が自ら考えるようになることを目標とします。

【授業の概要】 毎回レジュメを配布し、企業法制の基本的事項について講義を行います。また、新聞記事・雑誌記事等を用いて企業活動を巡る具体的問題を取り上げながら、会社法、金融商品取引法等の法制度の基本的枠組みに沿って問題の所在を明らかにしていきます。

【キーワード】 企業法制、企業統治、企業金融、企業再編

【関連科目】 『生活と社会/経済と法』(0.5, ⇒32 頁), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5, ⇒28 頁)

【到達目標】

1. 企業法制に関する基本的知識を身に付け、企業活動を巡る諸問題が我々の生活と密接に関連していることを理解する。
2. それらの問題について自らの力で考えるようになる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 企業の形態 3. 会社の法人格と有限責任 4. 株主と株主総会 5. 会社の業務執行 6. 会社の業務監督 7. 会社の財務と損益 8. 会社の資金調達 9. 企業の結合と再編 10. 企業と一般投資家 11. 企業と一般消費者 12. 企業と労働者

【教科書】 特に指定しません。適宜資料を配布します。小型六法を各自用意して下さい。

【参考書等】

- ◇ 上村達男・金児昭『株式会社はどこへ行くのか』(日本経済新聞社, 2007)
- ◇ 神田秀樹『会社法入門』(岩波書店, 2006)
- ◇ 黒沼悦郎『金融商品取引法入門』(日本経済新聞社, 第3版, 2009)等

【成績評価の方法】 成績は受講姿勢、レポート等によって評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 企業を巡る最先端の問題を一緒に考えていきましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=186655>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 清水 (オフィスアワー: 088-656-7174(オフィスアワー:水曜7・8講時, 研究室:商法研究室(総合科学部1号館中棟2階))

生活と社会 (Living and Society)

国際化のなかで地域問題を考える

Internationalization and Regional Problems

北村 修二 教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 近年の国際化・グローバル化に伴い、わが国および世界各地で起きている地域的諸問題を取り上げ、取り組むべき課題を考察する。

【キーワード】 国際化、産業構造の変容、地域経済の再編成、地域政策、新たな社会・地域システム

【到達目標】 国際社会における地域的諸問題に、関心を持ち考察出来るよう、国際化や地域問題への関心や初歩的な見方・考え方を培う。

【授業の計画】 1. ガイダンス・講義の趣旨と進め方 2. 今問われているもの 3. 私たちと国際社会 4. 国際化の進展 5. 国際化と経済・地域格差問題 6. 国際化と環境問題 7. 国際化と人口・民族問題 8. 国際化と雇用問題 9. 国際化と産業構造の再編成 10. 国際化と地域経済の再編成 11. 国際化と地域システムの再編成 12. 地域政策とまちづくり 13. 地球環境時代の新しい社会・地域づくり(1) 14. 地球環境時代の新しい社会・地域づくり(2) 15. 試験 16. 総括

【教科書】 教科書は最初の授業で紹介するので入手すること。

【成績評価の方法】 講義時間内の小テスト(配点は 60%)と試験やレポート(配点は 40%)により評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講にあたっては、特別な知識は問わないが、国際社会での地域問題や環境問題等に関心があり、それらの課題を勉強する意志があり、かつそれが実行できる人は参加できる。オフィスアワー随時。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181065>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 北村

生活と社会 (Living and Society)

社会学のバースペクティブ
Sociological Perspectives

矢部 拓也 准教授
2 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの> と <個人的なもの> とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズが、社会学の入門書として書いた「社会学:改訂第3版」をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方を問題点を論じる。ギデンズは、アメリカ中心の社会学を英国流に書き換えながら論じている。我々は、これを日本での自分たちの生活をもとに書き換える作業をすることで、ギデンズが見逃している視点や、欧米と共通する視点を議論してゆく。また、日本の今日的な話題も加えながら授業を進めて行く。

【キーワード】 現代社会, 都市社会学, 格差

【到達目標】 自分たちの身近な生活世界と <社会> とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 基礎編 1. 社会学とは何か(1章) 3. 基礎編 2. 社会学の調査方法(20章) 4. 基礎編 3. 社会学の理論(21章) 5. 5回以降はテーマ編として、受講者と相談の上、興味あるテーマを選び取り上げてゆく。また、テキストの内容以外の現代的問題も話題にする予定である。現在の所は以下のトピックを考えている 6. 文化, 社会, 個人(2章) 7. 社会的相互作用と日常生活世界(4章) 8. ジェンダーとセクシュアリティ(5章) 負け犬の遠吠え 9. 身体-摂食, 病氣, 高齢化(6章) 10. 家族, 婚姻, 個人生活(7章) 11. 逸脱と犯罪(8章) 監視社会 12. 社会成層と階級構造(10章) 13. ニート, フリーター, 希望格差社会 14. マスメディアとポピュラー文化(14章) 15. 都市と現代アーバニズム論(17章) 16. 萌える都市アキハバラ 17. 総括授業

【教科書】 アンソニー・ギデンズ『社会学(改訂第3版)』 而立社 1998年 3600円

【成績評価の方法】 期末レポート 80%, 出席 20%。授業の進め方も含めて、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 単に座って講義を聴くのではなく、これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている。社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181086>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12~13時, 矢部研究室(総合科学部1号館南棟2階1228室))

【備考】 水7・8と同じ内容であり、重複履修はできないので注意すること

生活と社会 (Living and Society)

ゼミナール 「意思決定と情報」

Seminar: Information and Decision Making

多田 正仁 准教授
2 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『社会科学 ゼミナール』)

【授業の目的】 企業における数量的意思決定をシュミレーションゲーム方式を通じて学ぶ

【授業の概要】 毎週、電卓を持参して、シュミレーションを行い、その結果を自分で分析して、指導を受ける

【到達目標】 数量的なデータも含めた、情報に基づき、適切な意思決定が行えるようにする

【授業の計画】 1. 1-4 利益を極大にするマーケティングみくす 2. 5-8 販売テリトリーの設計 3. 9-12 製品-市場戦略と販売組織 4. 13-15 百貨店のマーチャングデザイン

【教科書】 コービン他「マーケティング意思決定演習」 中央経済社 1995年 2,300円

【成績評価の方法】 毎週の体験学習

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181055>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 多田 (2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) (オフィスアワー: 金曜16-17時)

生活と社会 (Living and Society)

現代社会と法
Modern Society and Law

上原 克之 准教授
2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 「社会あるところに法あり。」われわれの市民生活は法ぬきには考えることはできないほど、それを意識するかしないかはともかく、法に囲まれて生活している。法とは一定の、社会を見る視点であり、本授業では、法的思考を身につけることにより、現代社会をこれまでとは違った観点から見るができるようになることを目的とする。

【授業の概要】 はじめに法とは何か、近代法とは何か、また、法が他の社会規範とどのように区別されるのかを明らかにしたうえで、われわれの社会生活に関係する財産法、家族法、刑法等についての具体的な問題を検討していく。

【キーワード】 法, 道徳, 財産, 家族, 犯罪

【関連科目】 『生活と社会/経済と法』(0.5, ⇒32頁), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5, ⇒28頁)

【到達目標】

1. 法的な諸概念を正確に理解すること
2. 法的な論理を理解すること
3. 法的なものを見方を文章で説得的に展開することができること

【授業の計画】 1. 法とは何か 1) 法の分類 2. 法とは何か 2) 近代法の観念 3. 法とは何か 3) 法と道徳 4. 財産と法 1) 法的人格 5. 財産と法 2) 財産権 物権 6. 財産と法 3) 財産権 債権 7. 財産と法 4) 財産権 物権と債権の関係 8. 家族と法 1) 家族法の推移 9. 家族と法 2) 婚姻をめぐる法 10. 家族と法 3) 離婚と法 11. 家族と法 4) 相続 12. 犯罪と法 1) 概説 13. 犯罪と法 2) 罪刑法定主義 14. 犯罪と法 3) 刑法の機能 15. 犯罪と法 4) 刑事訴訟手続 16. 犯罪と法 5) 刑事訴訟手続の諸問題

【教科書】

- ◇ 教科書は特に指定しないが、法令集(六法)を持参すること
- ◇ 参考書等については、適宜指示する

【成績評価の方法】 筆記試験を中心とし、小テスト、授業への取り組みなど(20%)を総合的に評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業はあくまでも出発点であると考え、授業だけに満足せず自ら積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181082>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜日 12時から13時 総合科学部1号館3階(行政法研究室))

生活と社会 (Living and Society)

人口経済学入門

Introduction to Population Economics

趙彬 准教授
2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 日本や欧米の先進諸国は高齢・少子化に悩まされているのに対して、多くの発展途上国では人口爆発問題に苦しんでいる。経済発展の各段階において、人口においては出生率が経済・社会に与える影響が著しく異なることを理解する。

【授業の概要】 マルサスの人口論と新古典派の人口論を簡単に紹介した後、先進国における少子高齢化や福祉・年金、そして発展途上国における人口爆発など現実の問題を一つずつ取り上げて、人口との関係を解明していく予定である。人・生命・人権をミクロ単位(個人単位)として考えるのが一般的であるが、この講義ではマクロ単位(国あるいは地球単位)でそれを考察し直してほしい。医学関係の学生、またそれに興味を持っている学生は是非来てほしい。

【キーワード】 少子化, 人口爆発, 経済発展

【到達目標】

1. 経済学の方法論で先進国における少子高齢化や発展途上国における人口爆発問題を考える能力を獲得する。
2. 半年の授業が終わりに近づく頃には、「アフリカの子供にワクチンを」といった公共広告機構(AC)の広告に対して、今までと全く正反対の考え方を持つことになるだろう。善意で行った行為が必ずしも良い結果をもたらさないことを理解してほしい。

【授業の計画】 子供数決定の経済学的アプローチ/人口経済学の基礎知識/少子化高齢化の理由/少子化高齢化の影響/アフリカの発展途上国はなぜ高い出生率と貧困に苦しむのか(日本と比較して)/人口爆発の根本的な理由/出生率と女性の社会的地位の関係/発展途上国に対する経済援助の仕方の再考

【教科書】 指定しない、講義中必要に応じてレジュメを配布する。
 【成績評価の方法】 出席と期末試験あるいはレポート
 【再試験の有無】 無し
 【受講者のメッセージ】 受講学生に2回ほどディスカッションしてもらおうので、受講人数を40名とする
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181063>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00~14:30)

【再試験の有無】 無し
 【受講者のメッセージ】 単に座って講義を聴くのではなく、これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている。社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185541>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12~13時, 矢部研究室(総合科学部1号館南棟2階1228室))
 【備考】 火9・10と同じ内容であり、重複履修はできないので注意すること。

生活と社会 (Living and Society)

ゼミナール「現代日本経済論」

Seminar: Contemporary Japanese Economy 立花 敬雄 教授
 2 単位 前期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『社会科学ゼミナール』)

【授業の目的】 現代日本経済を時系列的にまた横断的に、そして総合的に考察することを目的とする。

【授業の概要】 現代経済についてのわかりやすい文献、資料を輪読することを通して、現代資本主義の経済構造の総合的理解をし、複雑で多岐に展開している現代日本経済の現況を明らかにし、将来展望を行う。

【到達目標】 現代日本経済の諸問題についての経済学的知識を習得する。

【授業の計画】 1. I 資本主義と現代 2. I 生産と経済の巨大化 3. 2 現代資本主義と国家 4. 3 世界経済の変貌 5. II 現代日本経済の諸問題 6. 1 産業構造と情報化社会 7. 2 雇用・労働問題 8. 3 金融・財政問題 9. 4 国際収支と直接投資 10. 5 生活様式と環境問題

【教科書】 プリント配布、教科書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度、レポート、等により評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者のメッセージ】 質問等は、メールでも受け付けています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181056>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 立花 (2207-2, 656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時, 総合科学部1号館)

生活と社会 (Living and Society)

社会学のパースペクティブ

Sociological Perspectives 矢部 拓也 准教授
 2 単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズが、社会学の入門書として書いた『社会学:改訂第3版』をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方をを用いて問題点を論じる。ギデンズは、アメリカ中心の社会学を英国流に書き換えながら論じている。我々は、これを日本での自分たちの生活をもとに書き換える作業をすることで、ギデンズが見逃している視点や、欧米と共通する視点を議論してゆく。また、日本の今日的な話題も加えながら授業を進めて行く。

【キーワード】 現代社会、都市社会学、格差

【到達目標】 自分たちの身近な生活世界と<社会>とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 基礎編 1. 社会学とは何か(1章) 3. 基礎編 2. 社会学の調査方法(20章) 4. 基礎編 3. 社会学の理論(21章) 5. 5回以降はテーマ編として、受講者と相談の上、興味あるテーマを選び取り上げてゆく。また、テキストの内容以外の現代的な問題も話題にする予定である。現在の所は以下のトピックスを考えている 6. 文化、社会、個人(2章) 7. 社会的相互作用と日常生活世界(4章) 8. ジェンダーとセクシュアリティ(5章)負け犬の遠吠え 9. 身体一摂食、病気、高齢化(6章) 10. 家族、婚姻、個人生活(7章) 11. 逸脱と犯罪(8章)監視社会 12. 社会成層と階級構造(10章) 13. ニート、フリーター、希望格差社会 14. マスメディアとポピュラー文化(14章) 15. 都市と現代アーバニズム論(17章) 16. 萌える都市アキハバラ 17. 総括授業

【教科書】 アンソニー・ギデンズ『社会学(改訂第3版)』而立社 1998年 3600円

【成績評価の方法】 期末レポート 80%、出席 20%。授業の進め方も含めて、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 I

Constitution and Human Rights I 堀井 秀知 非常勤講師/全学共通教育センター
 2 単位 前期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 法律は空気のようなものです。普段は意識することはありませんが、日常生活の様々な場面に法律は関わっています。空気はなくなると人は生きていくことができないように、法律がなくなると社会は成り立たなくなってしまいます。「憲法」は、これら法律の基礎となる重要なルールであり、同時に「この国のかたち」を決める基礎となる重要なルールでもあります。そこで、この講義では、具体的事例を通じて憲法や人権の考え方を身につけてもらうことを目的としています。

【授業の概要】 憲法の基礎と人権を中心に講義をすすめます。その際、実際に裁判になった事例などをベースにして、憲法の基本的な論点を講義形式で検討していく予定です。

【キーワード】 憲法、人権

【到達目標】 憲法と人権の基本的な考え方を理解し、社会人として求められる最低限の法的素養を身につける。

【授業の計画】 1. 憲法・人権総論(1) 2. 憲法・人権総論(2) 3. 法の下の平等 4. 思想・良心の自由 5. 信教の自由 6. 表現の自由(1) 7. 表現の自由(2) マスメディアと人権 8. 新しい人権(1) 自己決定権 9. 新しい人権(2) プライバシー 10. 財産権と職業選択の自由 11. 労働基本権 12. 生存権 13. 参政権 14. 裁判員制度と裁判を受ける権利(1) 15. 裁判員制度と裁判を受ける権利(2) 16. 総括 憲法改正を巡る議論

【教科書】 特に指定しませんが、六法全書(『コンパクト六法』、『デイリー六法』などの小型のもの)を持参してください。

【参考書等】 「四訂 憲法入門」(樋口陽一著 勁草書房)・「やさしい憲法入門(第4版)」(戸波江二編 法学書院)・「はじめて学ぶやさしい憲法」(長尾一祐著 実務教育出版)・「いちばんやさしい憲法入門(第3版)」(初宿正典ほか編 有斐閣)・「基本的人権の事件簿(第3版)」(棟居快行ほか編 有斐閣)・「憲法判例を読む」(戸部信喜 岩波書店)・「はじめて学ぶ憲法判例」(資格実務研究会編 実務教育出版)・「確認基本用語 300」(大沢秀介編 成文堂)

【成績評価の方法】 講義中に実施する小テストと期末のレポートの結果を総合して評価します。

【再試験の有無】 無し

【受講者のメッセージ】 法学はけして難しくありません。自分の頭で考えるうちに自然と法的な考え方が身につくようになると思います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181076>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堀井

生活と社会 (Living and Society)

経済と法

Economics and Law 泉 克幸 教授
 2 単位 前期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 法学のうち、経済との関わりが深い領域についての入門レベルの理解を直接の目的とする。また、併せて、法律の基本的な考え方や経済社会の実情に対する知識を身に付けることも目的とする。そして、これらを通じてバランス感覚(リーガルマインド)を養うことを最終的な目的とする。

【授業の概要】 本年は、「技術」や「情報」をキーワードに開講する。周知の通り、現代経済においてはコンピュータ・ネットワークを媒体に各種の情報(プログラムやゲーム、音楽や映像といったエンタテイメント等)に関連する市場、バイオテクノロジーに代表される高度先端技術に関連する市場、通信や放送等のメディアに関連する市場、などのいわゆる

るソフト産業が重要な位置を占めている。これらの技術や情報は人間の知的な創作活動から生み出されるところから「知的財産 (Intellectual Property)」と呼ばれる。本講義ではこの知的財産を巡る様々な法的問題を概説する。

【キーワード】法律、知的財産法

【到達目標】

1. Step1: 知的財産権の重要性やその基本的原理、役割などが理解できている。
2. Step2: 著作権法や特許法等における重要な概念や語句の基本的な理解ができていく。

【授業の計画】 1. 以下に示すような体系を持つ知的財産法を、特定のテーマを設けた上で講義する。 2. 1) 知的創作物に関する産業財産権法…特許権、2) 実用新案権、3) 半導体の回路配置権、4) 植物の新品種に関する権利、5) 意匠権、6) ノウハウ (企業秘密) 3. 2) 営業標識に関する工業所有権法…商標権、商号権、サービスマーク、原産地表示 4. 3) 著作者の権利…著作財産権 (複製権など)、著作者人格権 5. 4) レコード業者、放送業者、歌手・演奏家の権利…著作隣接権 6. 5) その他…不正競争防止法、知的財産法と競争法との関係、ライセンス問題、国際的動向、法改正の動きなど

【教科書】 レジュメを作成して講義形式で行なう予定である。教科書については未定である。参考書は講義中に適宜紹介するが、本講義の感覚をつかめる初学者用の読み物として、中山信弘『マルチメディアと著作権』(岩波新書)、赤尾晃一『近未来映像・メディア』(角川書店)を挙げておく。

【成績評価の方法】 筆記試験を中心に平常点を加味して行う。併せて、小テストを実施するかもしれない。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 法律の知識は前提としないが、常日頃から関連の新聞記事やニュース等に対して敏感な姿勢でいて欲しい。なお、遅刻・私語は厳禁。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181091>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 泉 (088-656-7184, izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 水曜日 16時10分~17時10分 総合科学部1号館3階(経済法研究室))

生活と社会 (Living and Society)

社会科学のための統計学入門

Introduction to Statistics for Social Sciences

矢野 剛 准教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『経済学』)

【授業の目的】 統計学は、集団現象に関するデータを収集し、その集団の特質をデータに基づいて記述・推測する方法に関する科学である。この講義では、初めて統計学を学ぶ学生を対象にして、統計学の基礎的な手法について、その考え方を教え、計算力をつけ、社会科学への応用力を培うことを目的とする。

【授業の概要】 統計学ユーザーの立場から、社会科学で使用される必要最低限の統計学を講義したい。

【キーワード】 統計データ、社会科学、経済・経営、数量分析

【関連科目】 『社会統計基礎論』(0.5)

【到達目標】 社会科学に必要な統計データ処理能力に関する必要最低限の基礎知識を習得すること

【授業の計画】 1. 統計学は何をする学問か 2. 統計計算の第一歩、平均と分散 3. 分布と位置の尺度 (平均値/中央値/最頻値) 4. 分布と散らばりの尺度 (分散/標準偏差/偏差値) 5. 統計データのまとめ方とグラフ化 (度数分布とヒストグラム) 6. 関係を記述する尺度/相関係数 7. 関係を記述する方法/最小二乗法 8. 確率変数とその分布/二項分布 9. 中心極限定理、正規分布 10. 平均値の推定 11. 比率の推定 12. 小標本からの推定/分布 13. 検定の考え方 14. まとめと演習 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 <教科書> 『統計学入門 第2版』(新経済学ライブラリ 9)、森棟公夫 著、新世社

【参考書等】 講義レジュメ (プリント) を配布する。

【成績評価の方法】 小テストと期末試験による。試験は授業に出て演習問題を解き、宿題をしていれば解けるレベルです。

【再試験の有無】 有 (病気等やむを得ない理由により期末テストを受験できなかった場合、再テストを行うことがある)。通常の期末テストより難度を上げた再テスト問題を出す。

【受講へのメッセージ】 この前期の「社会科学のための統計学入門」で単位を取得した学生は、後期の「社会科学のための統計学入門」での単位取得は認めません。なぜなら、前期と後期では一部授業内容に違いがあるものの、重複箇所も多くあるからです。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181087>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢野 (2221, 088-656-7182, yano@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12~13時)

【備考】 授業には、√計算のできる電卓を必ず持参すること (携帯による代用はやめておいた方が良いでしょう。複雑な計算がしにくくて、計算間違いの原因になります。また当然期末テスト時には携帯電話の使用は不可になります。)

生活と社会 (Living and Society)

ゼミナール「社会科学の夢」

Seminar: Dream of Social Sciences

水島 多喜男 教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会科学ゼミナール』)

【授業の目的】 社会科学を学ぶ意義を、経済学を手がかりに考える。

【授業の概要】 ゼミ形式で、「社会科学」に人々が寄せる夢、「社会科学」が見る快夢と虚夢、を見てゆきたい。また、研究活動とはどのようなものかについて、新聞、雑誌、ビデオを手がかりに考える。

【キーワード】 社会科学、科学方法論、経済、資本主義

【関連科目】 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(1.0, ⇒16 頁)、『歴史と文化/資本主義の歩み』(0.5, ⇒135 頁)、『生活と社会/国際政治学入門』(0.5, ⇒146 頁)

【到達目標】

1. 科学的であるとは何を意味するのか、について、これまでの様々な考え方を知る。
2. 研究にとり必要なものは何かを考える。

【授業の計画】 1. 「科学」知識は確実なものか、を考える。 2. 「科学」と「学問」の違いについて考える。 3. 1 章「大きな経済格差」の輪読 4. 2 章「経済格差を説明する理論的枠組み」の輪読 5. 3 章「計画経済と市場経済」の輪読 6. 4 章「市場経済の自由度」の輪読 7. 5 章「法と秩序」の輪読 8. 6 章「個人の選好を決定する文化」の輪読 9. 7 章「歴史的遺産」の輪読 10. 8 章「歴史的遺産の変化」の輪読 11. 9 章「縮小しない経済格差」の輪読 12. (予備) 進捗度に遅れが出た場合に使用 13. 研究にとり必要なものは何か、を、DVD 映像を見て考える。 14. 研究にとり必要なものは何か、を、DVD 映像を見て考える。 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 吉原久仁夫『なにが経済格差を生むのか』(NTT 出版, 1999 年)。

【参考書等】 参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181058>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の後、研究室は総合科学部1号館中棟2階)

生活と社会 (Living and Society)

ボランティア論

Volunteer Activities

樫田 美雄 准教授

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 行うに値することは、語るにも値することである、はずである。さまざまなボランティアの可能性を紹介しつつ、主としてそれを社会科学論に論じよう。

【授業の概要】 具体的には、ボランティアの組織運営に関する問題や、地方政府との関係などが検討されることになる。なお、授業の内容理解の促進を期すために毎週コメントシートを書いてもらう。出席票を兼ねているので、出し忘れないようにして欲しい。

【キーワード】 教育、徳島

【先行科目】 『生活と社会/社会学概論』(0.0, ⇒147 頁)

【関連科目】 『生活と社会/ボランティア実践』(0.5, ⇒151 頁)

【到達目標】 21 世紀において、なぜボランティアや NPO (非営利組織) について考えることが重要なことなのか、理解する。ボランティア・NPO の領域と、市場や政府の領域がどのように関係しているのか理解する。ボランティア教育のあるべき形について自分の意見をもてるようになる。

【授業の計画】 1. 初回はオリエンテーションを兼ねたボランティア論 (必ず出席せよ) 2. (裁判所の都合等で日程が事前には確定しないが) NPO

論の予定 3. ボランティア依存症について 4. 1) 「ボランティアを社会科学的に考える意義」 5. 2) 「ボランティア活動と現代社会」 6. 3) 「ボランティア活動とサービサーニング」 7. 4) 「ボランティア・コーディネーター」と「社会福祉協議会」 8. 5) 「徳島のボランティア」の現在・過去・未来 9. 6) ボランティアと日本社会 10. 7) 「カキコまっぷ」とユニバーサル徳島(実習) 11. 8) 「市民セクターとボランティア」 12. 9) 「ボランティアとNPO」 13. 10) 『傾聴ボランティア』の理論と実際(前半) 14. 11) 『傾聴ボランティア』の理論と実際(後半) 15. 12) ボランティアと倫理 16. 13) 総括討論

【教科書】

- ◇ 教科書 なし。
- ◇ 参考書 巡静一&早瀬昇『基礎から学ぶ ボランティアの理論と実際』中央法規出版 1997, 2400 円。
- ◇ 内海成治ほか編『ボランティア学を学ぶ人のために』世界思想社 1999, 2,200 円。
- ◇ 立木茂雄編著『ボランティアと市民社会』晃洋書房, 1997, 1900 円。

【参考書等】 古瀬敏『ユニバーサルデザインへの挑戦』ネオ書房, 2100 円。日経デザイン編『ユニバーサルデザインの教科書』日経 BP 社, 2800 円。黒須正明編『ユーザビリティテスト』共立出版, 3300 円。C&C 振興財団編, アクセシビリティ研究会著『情報アクセシビリティとユニバーサルデザイン』株式会社アスキー, 2800 円。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 日常の態度, テストの成績を合算して評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 医療ボランティア等の実例を用いながら, 学生参加型の講義を行う。出欠確認は毎回行う。とりわけ, 初回のオリエンテーションは重要なので, 欠席しないようにせよ。欠席者には理由を問う。なお, 本講義の前半 7 回は, 大学開放実践センター 5 名への公開授業ともなっている。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181060>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 榎田 (1224, 088-656-9308, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 前期 火曜日 14時から15時 総合科学部1号館南棟2階榎田研究室, Email: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐伯 (オフィスアワー: 前期 火曜日 14時から15時 総合科学部1号館南棟2階榎田研究室, Email: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山口 (オフィスアワー: 前期 火曜日 14時から15時 総合科学部1号館南棟2階榎田研究室, Email: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 高松 (オフィスアワー: 前期 火曜日 14時から15時 総合科学部1号館南棟2階榎田研究室, Email: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)

生活と社会 (Living and Society)

魔術からの解放の再魔術化

Reenchantment of Disenchantment by Max Weber

吉田 浩 教授

2 単位 前期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】 西欧の歴史において魔術という非合理的要素から社会と個人が解放される過程を合理化として捉え, この合理化の進展と完結の経過を研究したのは, 社会学者マックス・ウェーバーであった。魔術から解放されるということが, 科学的思考の前提となることはいまでもない。しかしそれはあくまでも前提であって, それだけで即座に科学的思考が成り立つものではない。魔術からの解放としてのウェーバー合理化論の問題性を検討しつつ, 魔術から区別される科学, それもより深い科学的見地はいかなるものかを検討していきたい。

【授業の概要】 ウェーバーは魔術からの解放過程=合理化を完結させたのはプロテスタントであったと看做すのだが, そのプロテスタントが中心となって行った魔女狩りという狂気を踏まえるならば, 彼らが合理化を完結させたといえるのか否かが問題となってくる。本講義は, この問題を第一に検討する。次いでウェーバーの科学論は対象を一面的に捉える抽象的なものであることを明らかにする。にもかかわらずこの抽象的で一面的な研究成果を正しいと主張する限り, そこからは科学の名の下に新たな幻想的事態が産出されることになっており, 従ってそれは「魔術からの解放の再魔術化」であることを明らかとしていく。

【キーワード】 魔術, 宗教, 合理化, 魔女狩り, 科学, 魔術からの解放の再魔術化

【到達目標】 魔術からの解放ということを大前提として, その上で合理的思惟, 科学的思考に必要な諸条件を確認するのである

【授業の計画】 1. ウェーバー合理化論の問題点の確認 2. 同上 3. 合理化過程の完結者としての, また魔女狩りの遂行者としてのプロテスタ

ントの二側面 4. 同上 5. 対象に就くことと対象への就き方 6. 対象を比較において捉える立場の二類型 7. 同上 8. 質的把握の問題点と異常な非合理的体験 9. 同上 10. 理解社会学と異常な非合理的体験 11. 同上 12. 宗教と魔術とを区別することの問題点 13. 同上 14. 同上 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 吉田浩著, 『ウェーバーとヘーゲル, マルクス』(文理閣, 2005 年) の第 7 章。ただし本書ははなはだ高価 (4800 円+税) であるので, 本書を購入できない学生にはコピーして教科書として渡す

【参考書等】 吉田浩著『ウェーバーの社会理論と意味・価値問題』(晃洋書房, 2008 年 1 月)

【成績評価の方法】 学期末試験, 小レポートで総合的に評価する。学期末試験 (60%), 小レポート (40%)

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181351>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-656-7198, yoshida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時 吉田研究室)

生活と社会 (Living and Society)

国際協力論 2 - 四国から世界へ 輝く瞳のつくり方 -

International Cooperation Studies

櫻場 和彦 教授

2 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 社会に積極的に寄与する公共的なマインドを持ち, 国際的な視野と知見・コミュニケーション力, かつ四国・徳島の在住者として地域に根ざした視点も備えた人材を, 「国際協力」というテーマを通して育成する。

【授業の概要】 国際協力活動の実践者を招き, 理論と実践について学ぶ。JICA(国際協力機構) 四国支部と, 四国 NGO ネットワークの協力を得て, 開講される授業。以下の日程の集中講義形式で行う。5 月 16 日 (土), 6 月 6 日 (土), 7 月 4 日 (土), 8 月 29 日 (土)。ただし, それぞれ始まる時間や開講のコマ数が違うので授業計画で記されている時間を確認すること。また受講生は 7 月から 8 月にかけて, 各自なにか国際協力の実際の活動に参加する。8 月の授業ではそれを各自報告する。授業では, 講師の話の聞いたうえで, 質疑, 討議, ワークショップなどによって理解を深める。講師は地元の四国あるいは東京で, NGO や政府機関, 国際機関などの一員として活躍する多士済々の人々。筆者は国際協力の一環として国際的な選挙支援活動に関わっており, 主に紛争地における平和構築を研究テーマのひとつにしている。

【キーワード】 国際協力, JICA, NGO, 国際社会

【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5, ⇒146 頁), 『生活と社会/政治とメディア』(0.5, ⇒29 頁)

【到達目標】 国際協力の理論と実践について知識を得, 意義や課題について考察し, 自らも行動する意欲を高める。

【授業の計画】 1. イントロダクションと基礎講座 (講義)(5 月 16 日土曜日 8:40~) 2. アフリカ・ザンビアにおける保健医療の支援 (講義)(5 月 16 日土曜日 10:25~) 3. 同上 (質疑, 討議, ワークショップ)(5 月 16 日土曜日 12:50~) 4. アフガニスタンにおける教育支援 (講義)(5 月 16 日土曜日 14:35~) 5. 同上 (質疑, 討議, ワークショップ)(5 月 16 日土曜日 16:20~) 6. 中国・内モンゴルにおける教育支援 (講義)(6 月 6 日土曜日 10:25~) 7. JICA による支援と ODA(講義)(6 月 6 日土曜日 12:50~) 8. イラクにおける医療・教育・文化の支援 (講義)(6 月 6 日土曜日 14:35~) 9. 同上 (質疑, 討議, ワークショップ)(6 月 6 日土曜日 16:20~) 10. カンボジア, ラオスにおける教育・医療・職業訓練の支援 (講義)(7 月 4 日土曜日 10:25~) 11. 同上 (質疑, 討議, ワークショップ)(7 月 4 日土曜日 12:50~) 12. 国連とユニセフによる子どもたちへの支援活動 (講義)(7 月 4 日土曜日 14:35~) 13. 同上 (質疑, 討議, ワークショップ)(7 月 4 日土曜日 16:20~) 14. 体験した国際協力活動に関する報告とまとめ (前)(8 月 29 日土曜日 14:35~) 15. 体験した国際協力活動に関する報告とまとめ (後)(8 月 29 日土曜日 16:20~)

【教科書】 特に指定しない。

【成績評価の方法】 期末のレポートと平常点 (出席や授業の姿勢) で評価する。おおむねレポート 40%, 平常点 60%。

【再試験の有無】 無し。

【受講者のメッセージ】 開講の日時は変わらないが, 講師や内容は変更される可能性がある。昨年度の「国際協力論-知って理解し動ける人にな-」とは内容が違うので, 昨年度のこの授業を履修していても今年度の「国際協力論 2」の受講は可能。

全学共通教育 (2009) 〉 前期・【教養科目群】・《生活と社会》

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181066>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日14:35-16:05 ただし、この時間以外でも研究室にいるときは随時)

2.4 《自然と技術》 (Science and Technology)

自然と技術 (Science and Technology)

相対論入門

Introduction to Special Relativity

中山信太郎 教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】 科学としての物理的方法論について解説する。物理法則の認識と法則化を経て得られた自然観について理解することを目的とする。物理学の中でもなじみ深い力学を通して、その法則が確立される過程から相対論に至るまでを説明し、自然界を記述する時間と空間について考える。

【授業の概要】 自然界における光の振る舞いは、200 年もの間さまざまな検証に耐えてきたニュートンの自然観を根底から覆した。その 1 つは光速不変性である。これをもとにした自然観が相対論である。力学の諸法則を概説した後、相対論の原理である光速不変性が導かれた過程を解説する。力学の諸法則を相対論をもとにしながら、その描く自然観を説明する。

【キーワード】 光と観測、慣性系、ガリレイ変換、光速不変性、ローレンツ変換、質量とエネルギー

【到達目標】

1. ニュートンの運動法則を式で表現できるようになる。
2. 相対論の原理である光速不変性について理解する。
3. ニュートンとアインシュタインの自然観の違いを理解する。

【授業の計画】 1. 相対論とは 2. 自然を見ること、自然界の広がり 3. 慣性と力の認識 4. ニュートンの自然観 5. 万有引力の法則 6. 光の性質 7. 光速の測定 8. 光速の不変性 9. アインシュタインの相対論 10. ローレンツ収縮 11. 空間・時間の相対性 12. 速度合成則 13. 質量の相対性 14. 質量とエネルギー 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しない。毎講時プリントを配布する。
- ◇ 参考書:アインシュタイン著 内山龍雄訳「相対性理論」岩波文庫、「理工系の基礎教育 物理学」大槻義彦著、学術図書出版社 (力学で用いた教科書)
- ◇ 松田・二間瀬著「なっとくする相対性理論」講談社

【成績評価の方法】 毎講時小テストを行う。レポートを 1 つ提出してもらう。小テストとレポートの中から試験問題を出す。以上を総合評価して成績を出す。

【再試験の有無】 小テストやレポートが一定水準に達していれば再試験を認めることがある。

【受講へのメッセージ】 1 年前期に「力学」を履修していることが望ましい。講義ノートを準備する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185552>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時いつでも質問可、水曜日 16:30~17:30 スタジオで質問に応じる)

自然と技術 (Science and Technology)

ゲノムと発生のテクノロジー

Genomic and Genetic Technology

真壁和裕 教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 専門課程でマイクロ系の生物学を学ぼうとする学生を対象に、現代生物学で中心的な役割を果たすゲノムサイエンスと発生工学に関わる分子生物学の基本的な技術について、使用する器具の名称からその原理と背景、さらに実際の実験のスキームまでを解説し、実習や研究を行うために必要な基本的知識を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 現代生物学は日進月歩の勢いで進んでおり、学生は多くの場合その成果を聴くだけで消化不良を起こしかねず、その成果が得られた実験の方法の理解まで辿り着くことは容易ではない。そして一方、実習や卒業研究さらには大学院での研究の場においては、ひとつひとつの技術に関する詳しい背景説明が与えられないままに実験の手を動かしていかなければならぬことも現実には起こりうる。そこで学生にとって実習をより実りあるものにするために、この講義では個々の研究成果に注目するのではなく、成果を得るために広く用いられるテクノロジーの原理や実際の方法的概略を解説することで上記の問題の狭間を埋める。

【キーワード】 発生、バイオテクノロジー、遺伝子、ゲノム

【到達目標】 学部や大学院での生物学実験を行うに際して知っておきたい技術の原理・背景・スキームを理解すること。

【授業の計画】 1. 核酸の構造と性質 2. 遺伝子工学と酵素 3. 宿主とベクター 4. 核酸の抽出 (ゲノム DNA-RNA) 5. 遺伝子ライブラリー 6. ハイブリダイゼーション 7. DNA シークエンシング 8. モノクローナル抗体 9. 細胞への遺伝子導入 10. 個体への遺伝子導入 (トランスジェニック) 11. 発生遺伝学 12. 細胞工学と発生工学 13. ゲノムテクノロジー 1 14. ゲノムテクノロジー 2 15. 学期末試験 16. 総括授業

【教科書】 「バイオテクノロジーテキストシリーズ遺伝子工学」IBS 出版 (2,625 円)

【参考書等】

- ◇ 参考書「ゲノム工学の基礎」東京同人 (4,100 円)
- ◇ 参考書「遺伝子工学集中マスター」羊土社 (3,800 円)

【成績評価の方法】 随時行う小テストおよび学期末の試験の成績による。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 休んだり遅刻したりしないように、またしっかりノートをとって復習をする習慣をつけるようにしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180987>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 特別に設定せず発展的な質問などは随時受け付けます。ただし講義内容そのものについての単純な質問は可能な限り講義内の質疑応答の際にしてください。研究室は総合科学部1号館北棟2階。)

自然と技術 (Science and Technology)

生物がつくる鉱物-生体鉱物-

Biomaterial

沼子千弥 准教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 生物が鉱物を形成する生体鉱物化現象を通じて、地球表層で起こっている物質循環に生物がどのように関わっているかを広い視野から理解する。また生体鉱物に関連する物質科学的知識の広い分野への応用の可能性について理解する。

【授業の概要】 天然に産するダイヤモンドや石英など無機固体物質を鉱物と呼び、生物が鉱物を形成する現象を生体鉱物化現象と言う。生物という有機物というイメージが強いが、骨や歯、貝殻などの重要な硬組織を鉱物で形成している生物は多い。また、生体鉱物として形成される鉱物は、非生物系では珍しい種類のものや硬組織の利用目的に合った特別な形を持つものが多く、生物の行っている鉱物形成は非常に興味深い。こういった基礎科学的な見地に基いた研究に加え、近年では生体鉱物を模倣した傾斜機能材料や生体親和材料の合成、その医・歯学への応用、環境科学への応用なども盛んであり、生体鉱物は古くて新しい、境界領域の最先端のトピックスになっている。本講義では、貝の歯に見られる精緻な生体鉱物化現象の具体例を紹介しながら、地球を構成している物質に生命活動、動がどのように関わっているか、現在知られている生体鉱物にはどのような種類や特徴があるのか、それらの物質科学的・生命科学的な意義はどのようなものか、環境科学や材料工学への応用などについて解説を行う。さらに生体鉱物の研究に関わる最先端の研究手法についても触れる。

【キーワード】 生体鉱物、ヒザラガイ、貝殻、真珠、硬組織

【到達目標】

1. 化学組成と結晶構造により定義された天然の無機固体物質「鉱物」という概念を理解できる。
2. 生物の硬組織にも多様な鉱物種が存在することを理解する。
3. 生体鉱物の非生物系の鉱物にはない様々な特徴を理解する。

【授業の計画】 1. 天然の無機固体化合物「鉱物」、原子・イオン・結晶 2. 生物が環境から元素を回収する作用 -生体濃縮現象- 3. 濃集した元素はそれからどうなる?(1) 元素の最適濃度範囲と毒性 4. 濃集した元素はそれからどうなる?(2) 排泄、無毒化、貯蔵 5. タコ・イカ・ゴカイの硬組織 6. 生物が鉱物を形成する不思議 -生体鉱物の種類・形状と分布- 7. 貝の歯とヒトの歯 フッ素処理はなぜ歯を硬くするのか? 8. 磁石をつくる貝 -ヒザラガイ 9. ヒザラガイの歯の形成プロセス 10. 履歴書になる硬組織 -耳石や貝殻の年輪構造 11. 貝殻の構造のおもしろさと貝殻を構成する鉱物の特徴 (1) 12. 真珠の形成 (1) 13. 真珠の形成 (2) 14. 試験 15. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書:大越健嗣・「貝殻・貝の歯・ゴカイの歯」成山堂書店 ベルソープックス 008, 平成 13 年,1600 円
- ◇ 参考書:講義中に個別に指示、必要に応じてプリントも使用する。

【成績評価の方法】 出席、予習プリント、試験、レポート、学習状況を総合的に判断して評定を行う。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 生体鉱物は、基礎科学だけでなく医・歯学、工学を網羅する広い分野にわたるトピックス、です。開設分野は地学ですが、はじめて地球科学に触れる方でも理解できるよう、講義内容を工夫致しますので、積極的・主体的に授業に参加してください。また、代返、レポートの丸写し等を行い自発的な学習を怠った学生に対し、ては、本

人も協力者もあわせて不可の評価をいたします。他人に頼らずに、自分で学習することを心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181016>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 沼子 (3202-2, 088-656-7265, numako@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日 12時~13時)

自然と技術 (Science and Technology)

第四紀の自然環境

Quaternary Natural Environment

西山 賢一 准教授
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地学』)

【授業の目的】 地球環境問題が重要視されて久しい。その科学的理解のためには、地質時代という「第四紀」における自然環境の変遷を理解しておく必要がある。この講義では、第四紀(約 170 万年前以降、現在まで)に地球上で生じた種々の地学的現象を解説するとともに、自然と人間とのよりよいつきあひ方を考えていく。

【授業の概要】 地球環境を特徴づける種々の地学的現象(気候変動、海水準変動、地震、火山、水循環、土壌)について学ぶとともに、日本の平野や山地のなりたちについて理解する。また、地球環境問題と自然災害についても理解を深める。

【キーワード】 環境地学, 地球科学, 地球環境, 第四紀, 自然環境

【到達目標】 地球環境を特徴づける地学現象を理解し、地球環境問題の基礎知識を身につける。

【授業の計画】 1. 地球環境の特徴 2. 過去を知るテクニック:年代測定法 3. 気候変動とは何か? 4. 海水準変動とは何か? 5. 地震のしくみ 6. 火山のしくみ 7. 天気の変化 8. 地球上をめぐる水 9. 地下水の特徴 10. 土壌の形成 11. 日本の平野はどうやってできたか? 12. 日本の山地はどうやってできたか? 13. 地球環境問題について考える 14. 自然災害とその予測 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書: 指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書等】 参考書: 『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』古今書院, 『地球史が語る近未来の環境』東大出版会, 『新版 自然環境の生い立ち』朝倉書店, 『環境と地質(全5巻, 日本語訳)』古今書院

【成績評価の方法】 期末試験と出席状況(小テスト)を総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】 再試験あり

【講師へのメッセージ】 パワーポイントやビデオなどを使用することがあります。遅刻・欠席をしないこと、積極的にノートをとること。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tigaku/index.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181021>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12~13時)

自然と技術 (Science and Technology)

身のまわりの物性科学

Introduction to Material Science

小山 晋之 教授
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『物理学』)

【授業の目的】 『物性』とは、物質の示す色々な性質のことである。種々の物質の示す様々な物性を、原子核と電子のレベルまで踏み込んで、そのような物性が出現する理由を 20 世紀の物理学の代表である量子力学を用いて解明し、さらに優れた物性を示す物質を探索あるいは創製することが物性科学の目的である。現代科学の根幹をなす材料科学~物性科学の重要性を通じて物理学の論理的な思考方法を紹介することを目的とする。

【授業の概要】 我々の身近にある物質の種類は多種多様である。ピカピカ光る金属もあれば、ダイヤモンドのように透明な結晶もある。磁石につく鉄のような物質もあれば、トランジスタの材料となっている半導体もある。また、銅のように電気抵抗率が小さく電気をよく通す物質もあれば、完全に電気抵抗がゼロになってしまうような超伝導体もある。このような物質の多様性を一歩物質の中に踏み込んで、なぜそのような性質が現れるのかを調べるのが物性科学の目的である。物性科学とはどういう学問であるかを示すだけ沢山の例を示しながら、できるだけやさしく解説します。また、身のまわりの物理現象を中心にクイズ形式で皆さんの考え方を聞きたいと思います。

【キーワード】 物性科学入門, 物理的な考え方, 身のまわりの物理

【到達目標】

1. 物性科学を通じて、物理学の論理的な思考方法の基礎が理解できる。
2. 身のまわりの色々な物理現象を通じて、物理的な考え方・論理的な思考方法についての認識を深める。

【授業の計画】 1. 講義の進め方と成績評価の仕方について(クイズとノートの提出&レポート) 2. 序論:物性科学とは? 3. 物質の構造(1):原子の配列の仕方と物性(ダイヤモンドとグラファイト) 4. 物質の構造(2):簡単な結晶構造について 5. 周期律表と物性(1):原子の周期性と物性の関係 6. 周期律表と物性(2):量子数と周期律表 7. 原子を結びつける力(1):結合力の起因とその種類 8. 原子を結びつける力(2):温度と相転移(エントロピーとは?) 9. 原子の世界の力学:量子力学と古典力学の違い 10. 量子統計(1):フェルミ粒子とボース粒子 11. 量子統計(2):マクロな量子現象・相転移~超伝導・超流動 12. 電気抵抗:金属と半導体 13. 超伝導(1):超伝導とは? 14. 超伝導(2):超伝導の限界(温度, 磁場, 電流の限界) 15. 超伝導(3):超伝導の起因, 超伝導の応用~映画の中の超伝導~これからの夢~(ノートの提出) 16. 総括授業:前回のクイズの解説(ノートの返却)

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。
- ◇ 参考書:平田雅子「好きになる理科系科目」講談社サイエンティフィック,
- ◇ 参考書:一橋大学理科教育研究会編「サイエンスミニマム 10 講++」培風館,
- ◇ 参考書:工学基礎ミニマム研究会編「物理ミニマム」学術図書出版社その他

【成績評価の方法】 期末試験は行わず、授業中に出す身の回りの物理に関するクイズあるいは講義内容に関する疑問点および最後の授業で提出してもらった講義ノートとレポートを総合的に評価する。

【再試験の有無】 無(原則として)

【講師へのメッセージ】 毎回授業中に提出してもらったクイズ(身のまわりの物理に関するものなど)は単なる出席点とはならないので注意すること。たとえ正解でなくとも、積極的に自分で考え、他人に説明できるようにしてほしい。また、自分なりに(自習部分を強調するなど)工夫して講義ノート(最後に提出・評価後、返却します)を作してほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181023>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日と金曜日 12時~13時 (これ以外にも随時, 教官室に居ればできるだけ対応します), 総合科学部3号館1階北棟 物質・環境コース物理系1N07)

自然と技術 (Science and Technology)

地球の科学

The Earth and Environmental History

石田 啓祐 教授
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地学』)

【授業の目的】 日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにとって、グローバルな視点から固体地球の物理的な性質と、関連する自然環境の変化を理解することは、大切な課題です。現在の固体地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表層~生物圏のできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが「現在の地球に存在する」こと、そして「命の大切さ」への理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】 講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】 地球の形と大きさ, 地球の物理的性質, 地球の歴史, 化石と生物の進化

【到達目標】 固体地球の物理的性質やプレート運動, 地層と化石から地球の歴史や環境変化を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】 1. 幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介, 地球球形説と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか, なぜ楕円体と考えるのか。 2. ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項, アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマントルのバランス概念は生まれた。 3. 重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力, 標準重力は地球楕円体上の理論値の概念, 標準重力と重力異常の意味。 4. 地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化, その原因, 地磁気の逆転, 大洋底の磁気縞, 磁極の移動と大陸の移動。 5. 地球内部の温度の推定:断熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。 6. 地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わる P 波・S 波の速度, P 波の陰の存在, 地震の分布:地理的分布と深度分布, 和達-ベニオフ帯とプレート境界。 7. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェグナーの大陸移動説とその後。 8. 地球の年齢を測る:地球の年齢の推定, 最古の岩石や隕石からわかること。 9. 大衝突から始まる固体地球と大気・海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からラン藻類による大気・水圏の環境変化。 10. 化石の定義:化石から何がわかるか。地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順序立てられた地質時代の区分。 11. 初期の大型動物群の誕生の謎と進化の試行錯誤:エディアカラ動物群とバーゼス動物群。 12. セキツイ動物の出現と上陸:セキツイ動物の出現と進化, 大海からの離脱。 13. 地質時代の環境変化と生物の絶滅繁栄:時代の節目の大量絶滅の環境要因は? 14. プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海

陸の分布や生物進化に与えた影響。 15. ヒトへの道のり:なぜ私たちホモ・サピエンスが今ここに存在するのか? 16. 総括授業 (授業評価含む)

【教科書】教科書は特に指定しない。

【参考書等】「地球大進化 46 億年・人類への旅」全 6 巻, NHK プロジェクト編, 2004 年, S. スタンレー著「生物と大絶滅」, 東京化学同人, 1991 年, 平野弘道「繰り返す大量絶滅」岩波書店, 1994 年, 参考書: 丸山茂徳「46 億年地球は何をしてきたか?」岩波書店, 1994 年

【成績評価の方法】自主的・自発的な学びの姿勢 (30%) と, 期末までに数回にわたって実施する授業内容の課題レポート提出 (70%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】授業への積極的な取り組みが見られる受講生には, 行うことがある。

【受講者のメッセージ】月曜 3-4 講時に開講します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181002>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 月曜日 12時~13時 地球物質研究室(3号館2階南))

自然と技術 (Science and Technology)

地球と地層の科学

Physical Geology

村田 明広 教授

2 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地学』)

【授業の目的】地球科学の中で, 地質学の分野の基礎的な事柄を学ぶことによって, 地球で起こる地学現象を理解し, 長い時間軸と大きなスケールを持った地球科学的なものの考え方を身につけることを目的とする。なお, 実際に野外で見ることのできる地層などについて, 自分自身である程度理解できるようになることも目的とする。高校で地学を学んでいない学生にも地学に興味を持ってもらえるようにすることも目的とします。

【授業の概要】我々が野外で目にする地層や岩石がどのようにして生成し, 褶曲・断層などの地質構造がどのようにして形成されるのかを講義する。また地層や地質構造の形成などに関わるプレートテクトニクスという変動の枠組みについて扱い, 地球表層の大陸や海洋の配置が絶えず変化してきたことを講義する。将来少しでも地質学に関わる可能性のある学生に対して, 導入となる授業にする予定である。

【キーワード】地球, 地層, 地質構造, 衛星画像, プレートテクトニクス, リモートセンシング, 堆積岩, 断層, 褶曲

【関連科目】『自然と技術/身の回りの地球科学』(0.5, ⇒154 頁)

【到達目標】地球で起こっている地学現象の基礎的な事項を理解することができる。

【授業の計画】1. 10 倍の力。地球科学で扱う対象物の大きさの範囲。 2. 地球の形と内部構造。 3. 風化, 侵食, 運搬, 堆積, 変成などの地質現象と地質年代表。 4. 堆積岩 (礫岩, 砂岩, 泥岩, 砂岩泥岩互層) と堆積構造。 5. チャート, 石灰岩と火山岩類。 6. 褶曲 (背斜, 向斜) と断層 (正断層, 衝上断層, 横ずれ断層)。 7. 空中写真を立体視することによって, 断層や褶曲の存在を推定する手法。 8. 衛星画像を解析するリモートセンシングの手法。 9. Google Earth (衛星画像+空中写真) に見る地質学。 10. シルクロード (中国・天山南路) におけるリモートセンシングを用いた地質調査。 11. ヴェーゲナーと大陸移動説。 12. プレートテクトニクスにおける三種の境界 (海嶺, トランスフォーム断層, サブダクション帯)。 13. ホットスポットとプレートの運動。 14. 活断層と地震, 兵庫県南部地震, 中央構造線活断層系, 南海地震。 15. 定期試験。 16. 総括授業。

【教科書】

◇「地球と地層の科学ノート」を生協で購入してください。

◇参考書: そのつど紹介する。

【成績評価の方法】毎回実施する小テストと期末試験を総合的に判断して評価する。小テストの成績が優秀な学生に対しては期末試験を免除する場合があります。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】高校で地学を学んでいなくてもかまいません。液晶プロジェクターを使って授業を行う。「地球と地層の科学ノート」を購入し, 毎回必ず持参すること。忘れると小テストで不利になります。遅刻をしないこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181001>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村田明広, 総科3号館, 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 在室中ならいつでもかまいません。)

自然と技術 (Science and Technology)

環境科学入門-人間と地球の調和を目指して-

Introduction to Environmental Science: Harmonization of Human and Global Environment

山本 裕史 准教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『化学』)

【授業の目的】地球環境問題に対する現在の取り組みとこれからの方向性に関する情報を得ることで, 受講者自身の科学的・合理的な環境観や柔軟な判断力を育てる。

【授業の概要】地球環境問題や公害問題の現状とその将来について, 様々な最新データや考え方を紹介する。講義はあくまでも様々な観点の提示であり, どのように認識・判断・行動するかは受講者に委ねる。

【キーワード】地球環境問題, 公害問題, 化学, 環境汚染物質

【到達目標】

1. 地球環境問題や公害問題についての誤解が少なくなる。
2. 受講者自らの環境観をもとに, 判断・行動ができるようになる。

【授業の計画】1. シラバス・講義概要の説明, 徳島の環境はきれいか 2. 地球環境問題や公害問題とはどういうことなのか 3. どのような豊かさを求めるか 4. 人間はどこまで長生きしたいか 5. 人間と生物は共生できるか 6. 人口を支える水と食糧は得られるか 7. どこまできれいな環境がほしいか 8. 中間試験 9. 環境の負の遺産は修復できるか 10. 事業者による自主管理で環境は守られるか 11. 将来の世代にどこまで地下資源を残しておくか 12. リサイクルは地球を救えるか 13. ゼロエミッションは達成できるか 14. 地球環境問題は解決できるか 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】教科書: 環境科学 ~ 人間と地球の調和をめざして 2100 円

【成績評価の方法】宿題・レポート: 40% 中間試験: 30% 期末試験 30%

【再試験の有無】有

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/envchem/yamamoto/chemspring.htm>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181014>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N09, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 2時から3時半 山本研究室 (総合科学部3号館2階北側))

自然と技術 (Science and Technology)

アクティブラーニングと科学

Active Learning and Science

齊藤 隆仁 准教授

嵯峨山 和美 助教 / 全学共通教育センター

田村 貞夫 非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】大学ではカリキュラムの体系に沿って学習を効率的に行う。ところが現在の科学が直面する現実の課題は, ひとつの専門知識・技術あるいは政策では解決できない。この講義では, 知識を総動員して自らが設定する課題を科学的に議論することを目的として, 多様な角度から議論できる課題についてグループ学習を行う。

【授業の概要】地球温暖化に代表される環境問題などの多様な角度から議論できる課題についてグループ学習を行う。そのために (1) 典型的なグループ討論の手法を体験することに加え, 議論を煮詰まらせない仕掛けとして, (2) テレビのクイズ番組をよくみられる聴衆応答システムをクラス内で実際に使い意見分布を調べる, (3) Web 掲示板で意見を書き込む・書き込んでもらう, などの IT 技術, あるいは (4) ビデオ教材などを組み合わせる。知識を覚えるだけの学習から抜け出し, 他者の視点から「意外な」発見を引き出すことで, 学習を「能動的」なものにするためのポイントを考えていく。以上の工夫をしながら科学的な議論を積み重ねていき, 各自が設定する課題に対して小論文としてまとめる。

【キーワード】グループ学習, グループ討論, 聴衆応答システム, Web 掲示板

【到達目標】多様な価値観をふまえて課題を議論できるようになり, 科学的な小論文が書けるようになる。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 議論の第一歩「アイス・ブレイキング」 3. 活発な議論のために「ブレイン・ストーミングと KJ 法」 4. 議論を収束する「マインドマップ」 5. 「聴衆応答システム」で大衆と会話する 6. 「Web 掲示板」で知る他者の視点 7. 共通課題のグループ学習 (1) 8. 共通課題のグループ学習 (2) 9. 共通課題のグループ学習 (3) 10. 個別課題 1 の課題設定 11. 個別課題 1 の討論・検討 12. 個別課題 1 の報告 13. 個別課題 2 の課題設定 14. 個別課題 2 の討論・検討 15. 個別課題 2 の課題報告 16. 総括授業

【教科書】指定なし

【参考書等】アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門, 佐藤望編著, 慶応義塾大学出版会

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%, 提出物・報告発表 40% として評価する

【再試験の有無】 有り

【受講者へのメッセージ】 各自が取り組む課題についての内容は授業時間外の自己学習で調べる。授業時間中はグループ討論が中心となり、積極的に発言する姿勢が望まれる。教育 GP 関連授業であるので、講義に社会人が参加し学生と共に議論を行う予定である。

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/al>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180951>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 11:55~12:50)

自然と技術 (Science and Technology)

化学と技術-生きている化学はおもしろい-

Chemistry and Technology

和田真 教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『化学』)

【授業の目的】 化学は日常生活と深いかわり合いをもっているが、意外と化学的な概念や知識を知らないで生活している人が多い。本講義では「化学と生きる-生きている化学はおもしろい-」と題して、実生活において化学が果たしている役割を平易に解説し、生きた化学の香りがわかるように講義する。文系系、理系系の学生とも「化学の目」で身の回りのものを理解することは現代人として身につけなければならないことである。巨大化し、複雑化した化学と人間の暮らしが、あまりにも乖離してしまった現代において、化学と実生活の橋渡し役すなわち通訳者となりうる講義としたい。

【授業の概要】 化学および化学技術の進歩により人類の生活は格段に豊かになり、われわれの身の回りには化学物質が溢れ、化学物質と一緒に生活していると言っても過言ではない。まず、化学を学ぶ意味について講義し、身近にある化学および化学物質を取り上げ、われわれの生活との関係について述べたい。すなわち、われわれの身の回りにおいて役に立つ重要な化学物質について解説し、その後環境汚染物質の実体について述べたい。その上において 21 世紀の人類の生活と化学の役割について議論したい。

【キーワード】 化学, 環境, 技術, 21 世紀の科学

【到達目標】 化学は暗記のもので、大学入試のためにあるもの、公害のもとになるもの、生活とは関係ないものなど、暗いイメージを払拭し、極めて生活に密着しており、重要な科学技術であることを認識してもらい、自分自身で化学の目を持つことを到達目標とする。

【授業の計画】 1. なぜ化学を学ぶのか 2. なぜなぜの化学 3. 繊維, 高分子の化学 4. 食の化学 5. 医薬品の化学 6. おしゃれの化学 7. 農業, 肥料の化学 8. 洗剤の化学 9. CM をにぎわすヒット商品の開発秘話とその化学 10. 有用化学物質と有害化学物質 11. 内分泌攪乱化学物質 (環境ホルモン) Q&A 12. 内分泌攪乱化学物質 (環境ホルモン) と疑われている化学物質 13. —ビスフェノール A, ノニルフェノール, フタル酸エステル, 有機スズなど- 14. ダイオキシンの化学とダイオキシン問題 15. 環境汚染の化学と地球を守る化学 16. 21 世紀の人類の生活と化学の役割 17. 総括授業

【教科書】

- ◇ 井畑敏一著 『現代生活と化学』 三共出版 2001 年 2,300 円
- ◇ 西村忠与志・西宮辰明・本間善夫・村林眞行共著 『グリーン・ケミストリー』 三共出版 2001 年 1,900 円

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、レポート等などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 化学を勉強してこなかった学生、化学の嫌いな学生、化学に無関心な学生にも化学の面白さや素晴らしさを伝えたい。したがって貧欲でやる気のある学生を歓迎します。学生の発表と討論を重視します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180997>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 和田 (088-656-7251, wada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜日 12時~12時30分 総合科学部3号館)

自然と技術 (Science and Technology)

インタラクティブシステムデザイン

Interactive System Design

吉田敦也 教授 / 大学開放実践センター

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 人工物, 特にコンピュータによるインタラクティブシステムの開発やデザイン (設計) に必要な基礎知識を提供する。また設計に必須の「考える」方法の意識化と習得をめざす。

【授業の概要】 人工物, 情報メディア, インタラクティブシステムとは何かを概説する。この作業を, サイバースペース (インター, ネット世界) を介在させた教師-学生関係システムを構築しながら行い, 製品の中で実現 (デザイン) すべき人とモノ, ノとのインタラクションについて認知科学的側面から学ぶ。また, 情報デザインに必要な知識, 視点についても学ぶ。行動学, 認知科学, ヒューマンインタフェース, 人間工学, メディア心理学, 仮想社会学などの基礎知識も紹介する。「わかりやすさ」の評価手法などについても概説する。

【到達目標】

- (1) 基礎的な知識, 概念, 方法を学ぶ, (2) 情報デザインやシステム設計における考え方に触れる。
- (3) パソコンとインターネット環境下でのインタラクティブシステムのプロトタイプ制作を体験する。

【授業の計画】 1. はじめに (端末利用のためのアカウントとパスワード設定, 端末利用のリテラシー試験) 2. バーチャルクラスルームの使い方 (インターネットを介在させた授業運営の理念と方法) 3. モノ作りの人類史 (トンカチからエレベータへ, そしてウォークマン, コンピュータへ) 4. 時代の欲望 (たまごつちの本質, ロボットとの愛のかたち, 技術の社会化, 本能と行動) 5. 感動興奮の技術 (ドラえもん, ターミネータ 2, クレヨンしんちゃんの情報工学的含蓄) 6. 考えるとは何か (答の無い問題に答を出す, 思考は技術, 考える方法, 「正しい」とは) 7. 外に飛び出せ! (答えは自然の中に, フィールドワークの方法論, 境界領域研究の視点) 8. インタラクティブシステムとは (問題状況とユーザーインタフェース, ハイパーメディア) 9. システムデザイン (要求, 調査と分析, モデル化, 解, 決定と表現, プロトタイプ制作) 10. インタフェースガイドライン (ユーザビリティ, アイコン, メタファ, ユニバーサル観) 11. システム評価 (ヒューリスティック, チェックリスト, 実験と測定, 認知, 統計的解析) 12. 作業課題 1 「わたしはかもめ測定」 (コンピュータリテラシーの自己形成と自己評価) 13. 作業課題 2 「Flash でフォークを描く」 (ソフトウェア利用のためのメタ知識の習得と表現力への接近) 14. 作業課題 3 「Flash で「ぎゅーちゃん」を描く」 (ソフトウェアを楽しく使うマインド形成) 15. 作業課題 4 「Flash で押しやすいボタンと応答をつくる」 (人とコンピュータとのインタラクション開発) 16. 作業課題 5 「学べる e ラーニングシステムの設計」 (わかる, 気づく, 交流, 協調の支援)

【教科書】

◇ 開講後, バーチャルクラスルームにて適宜指示する

◇ <http://elearning.ias.tokushima-u.ac.jp/general/>

【成績評価の方法】 授業中に指示された課題等のインターネットを通じた提出状況と, バーチャルクラスルームへの参加度により判定する

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 授業の一部は遠隔学習 (E ラーニング) によって行うので, 自宅, 下宿, モバイル環境からのインターネットアクセスが可能であることが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180986>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 相談等は下記 URL のバーチャルクラスルームにて 24 時間受け付け, <http://elearning.ias.tokushima-u.ac.jp/general/>)

【備考】 PC 作業等の関係から授業の進行はシラバスに記載の順番と一致しない部分がある

自然と技術 (Science and Technology)

ゼミナール「遺伝子と疾患」

Gene and disease

伊藤 孝司 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

辻 大輔 助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 水 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】 ヒトの遺伝学および分子遺伝学の基礎知識を修得し, 遺伝子発現の基本原則を理解するとともに, 遺伝子自体およびその発現の異常に基づく遺伝子疾患の発症過程を学び, ホメオスタシス (生体恒常性の維持) や病気の捉え方について理解を深める。また遺伝子操作技術の基礎知識を得るとともに, 基本操作を見学体験する。

【授業の概要】 ポストゲノム時代に入り, ヒトの疾患の原因や発症機構が遺伝子発現の観点から解明されており, また得られた知見が, ゲノム創薬, 分子治療あるいはテーラーメイド医療などの先端医療開発のための基盤になりつつある。本ゼミナールでは, まずヒトの遺伝学および分子遺伝学の基礎について概説する。次に遺伝子自体やその発現の異常に基づく発症する遺伝子疾患を題材として取り上げ, 遺伝子 (DNA) → RNA → タンパク質酵素 → 細胞組織臓器 (機能) → 個体 (生体制御) という遺伝情報の発現の流れが, 遺伝子の異常によりどのように障害を受けて疾患の発症につながるかを解説する。また遺伝子工学の基本原則を講義するとともに, 薬科学教育部附属医薬資源教育研究センター創薬生命工学分野研究室にて, 基本操作を見学体験してもらう。キーワード 遺伝子, 遺伝子疾患, 遺伝子工学, 遺伝子発現, 分子遺伝学 到達目標 基本的な遺伝子解析について説明でき, 遺伝子と疾患との関係について概説できる。

【キーワード】 遺伝子, 病気, 治療, バイオテクノロジー

【到達目標】

1. 遺伝子発現の基本原則を理解する
2. 遺伝子自体およびその発現の異常に基づく遺伝子疾患の発症過程を学ぶ
3. ホメオスタシス (生体恒常性の維持) や病気の捉え方について理解
4. 遺伝子操作技術の基礎的知識を得る

【授業の計画】 1. 遺伝子とは? 2. 遺伝子のはたらき 3. ヒトの遺伝学と遺伝子変異 4. 遺伝子発現の調節 (グループ課題学習発表準備) 5. 遺伝子発現の調節 (グループ課題学習発表) 6. 遺伝子工学体験学習 1 (プラスミドベクターを用いた遺伝子クローニング) 第 1 回レポート提出 7. 遺伝子工学体験学習 2 (プラスミド DNA による大腸菌の形質転換) 8. 遺伝子工学体験学習 3 (形質転換大腸菌からのプラスミド DNA の単離) 9. 遺伝子工学体験学習 4 (制限酵素による DNA 解析) 10. 遺伝子工学体験学習 5 (ゲル電気泳動法による DNA 解析) 11. 遺伝子工学体験学習 6 (PCR 法による DNA 増幅) 12. 遺伝子疾患としての先天代謝異常症とがん 第 2 回レポート提出 13. 遺伝子疾患に対する診断および治療的アプローチ 14. 遺伝子疾患の発症のメカニズム (グループ課題学習発表準備) 15. 遺伝子疾患の発症のメカニズム (グループ課題発表会) 16. 第 3 回レポート提出と総括

【教科書】 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。

【成績評価の方法】 3 回のレポートの提出内容とグループ課題学習への取り組みおよび発表態度で評価を行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181243>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 伊藤 (薬科学教育部附属医薬創製教育研究センター 2 階・創薬生命工学分野教授室, 088-633-7290, kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週月曜 午後 5 時 ~ 7 時)

⇒ 辻 (088-633-9541, dtsuji@ph.tokushima-u.ac.jp)

自然と技術 (Science and Technology)

数理の世界

World of Mathematics

村上 公一・准教授
2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『数学』)

【授業の目的】 高校までの数学では、実際問題への応用を考えると少ないため、数学は実社会で役立つことが少ないように思われがちであるが、ものごとの本質を明らかにする上で、数学の考え方や方法が役に立つことが多い。たとえば、DVD ビデオやデジタル放送などは情報圧縮技術に支えられているが、その基礎は情報の数学的理論にある。この講義では、簡単な数学モデルの導入により、工学や物理学、生物学、経済学などの分野でうまく説明される現象の例をいくつか紹介する。

【授業の概要】 情報理論、ゲーム理論、微分方程式の初歩について講義し、数学モデルが役立つ例をいくつか紹介する。情報理論では、簡単な情報源の数学モデルを導入して、それから導かれるシャノンの符号化定理やハフマンの符号化法などを、あまり難しい数学理論を使わずに説明する。ゲーム理論では、標準型の 2 人ゲームについて、ナッシュ均衡が求まる簡単な場合を紹介する。微分方程式では、時間とともに変化する現象が、どのように数式で表現され、どのように解析できるかを、生態学や力学などの例から紹介する。尚、授業中に、問題の解き方などにも触れたいと思います。

【到達目標】

1. 情報理論の基礎を理解し、簡単な情報源のエントロピーの計算ができるようになること
2. ゲーム理論の基礎を理解し、2 人ゲームのナッシュ均衡が求められるようになること
3. 微分方程式の基礎を理解し、簡単なモデルの解が求められるようになること

【授業の計画】 1. 授業の概要 2. 情報理論 (1) 情報量の定義 3. 情報理論 (2) 情報源のエントロピー 4. 情報理論 (3) 最適符号化法 5. 情報理論 (4) 情報源符号化定理 6. ゲーム理論 (1) ゼロ和 2 人ゲーム 7. ゲーム理論 (2) 最適混合戦略 8. ゲーム理論 (3) 非ゼロ和 2 人ゲーム 9. ゲーム理論 (4) ナッシュ均衡 10. 微分方程式 (1) 微分方程式とその解 11. 微分方程式 (2) 1 階線形微分方程式 12. 微分方程式 (3) 2 階線形微分方程式 13. 微分方程式 (4) 微分方程式の安定性 (1) 14. 微分方程式 (5) 微分方程式の安定性 (2) 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 指定せず

【参考書等】

- ◇ 島田良作, 木内陽介, 大松繁 共著「わかる情報理論」日新出版
- ◇ 武藤滋夫 著「ゲーム理論入門」日本経済新聞社
- ◇ D. バージェス, M. ポリー 共著「微分方程式で数学モデルを作ろう」日本評論社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【受講者のメッセージ】 確率、行列、微積分について、数学 III・C までの基本的な知識 (指数関数や部分積分など) を有することが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181007>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村上 (1206, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日 12:00~13:00)

自然と技術 (Science and Technology)

宇宙物理学入門

Introduction to Astronomy and Cosmology

伏見 賢一・准教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『物理学』)

【授業の目的】 宇宙の起源・進化・宇宙の構造は人類が生まれて以来の長い間にわたる疑問である。この講義ではこれらの疑問を如何にして解明してきたかを、最新の観測・理論を紹介しながら解説する。

【授業の概要】 1. 太陽の構造, 2. 恒星の進化, 3. 宇宙の構造, 4. 宇宙の進化, 5. 物質の起源

【キーワード】 宇宙, ニュートリノ, 宇宙暗黒物質, 宇宙の構造

【到達目標】

1. 宇宙の構造・進化の歴史は、多くの人が興味をもつ分野である。一方で、誤解に基づいた珍妙な宇宙論に関する書物が溢れている。この講義で解説する宇宙の構造や進化に関する様々な説をよく理解し、正しい知識に基づいて議論する事ができるようになること。
2. 太陽ニュートリノの観測を発端とした、ニュートリノの研究の歴史について
3. 宇宙という巨大なスケールの計測をどのようにして測ってきたか
4. 膨張宇宙論と定常宇宙論の論争の要点を理解し、現在の観測事実がどちらを支持するかについて
5. 我々を作る物質がどのようにして作られてきたか、何故我々は存在しうるかについて良く考えること

【授業の計画】 1. 宇宙の諸階層 2. 太陽の様子: 表面温度の測定, 太陽表面から外層について 3. 如何にして太陽の内部を見るか? ニュートリノ天文学, ニュートリノ観測装置 KAMIOKANDE, SNO などによる太陽ニュートリノ観測の成果 4. 太陽内部の核融合反応 (p-p chain) 5. 恒星の進化: 恒星の誕生, 恒星内部の核融合反応 6. 恒星の死, 超新星, 白色矮星, 中性子星, ブラックホール 7. 宇宙の構造: 銀河系の形, 銀河系の距離の測定 8. 銀河系の分布, Hubble の法則 9. 宇宙論 (古代 ~ 近代の宇宙観) 10. 宇宙論 (Big Bang 宇宙論と定常宇宙論) 11. 膨張宇宙論 (アインシュタインの理論) 12. 物質の起源: 初期宇宙元素合成 13. 物質の起源: 物質と反物質のアンバランス 14. 宇宙の進化を決める様々なパラメーターとその観測 15. 我々の存在可能性について 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書: なし
- ◇ 参考書: 講義中に紹介する本を積極的に読むこと。

【成績評価の方法】 単元ごとのレポート 3 回程度 (50%) 及び期末レポート (50%)

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 講義ノートを準備すること、講義で紹介する本を沢山読んで色々考えることを奨める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181004>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜を除く 12:00~12:50)

自然と技術 (Science and Technology)

化学と社会

Chemistry and Society

三好 徳和・教授

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『化学』)

【授業の目的】 化学的視点を通じ、何故 why? と考えることを、本講義の目的とします。今までの問題は答えが用意されていたことと思います。しかし、この世の中に答えがある問題など無いのが現実です。答えのない問題に敢えて答えを出す。それは大変難しいことです。往々にして間違えるものです。ではどうしたらよいのでしょうか? その一つとして、常に何故と自分にそしてあらゆる事に問いかけることだと考えます。

【授業の概要】 社会を化学の目で見れば、不思議だらけであることがわかります。また、あるものは漠然と当たり前に見ていたものが、実は精密機械のように計算され尽くした現象であることがわかります。そこで、身のまわりのことに目を付けながら、あらゆる事に何故? と疑問を投げかけながら講義します。

【キーワード】 化学, 身の回りの化学, 生活

【到達目標】 身のまわりの事象に化学的視点から何故と問いかけることが出来るようになること。

【授業の計画】 1. 1. 科学および化学とは何だろう? 2. 2. 構造と機能について 3. —1) 炭素の三次元構造について (2 回) 4. —2) 身の

回りの化学について (2回) 5. —3) 葉について 6. —構造と葉効について (2回) 7. —葉って? 8. —葉が出来るまで 9. 3. 環境と化学について (2回) 10. 4. 風習・文化・伝統と化学 11. —お酒の化学 (日本酒から見る環境破壊)(3回) 12. 5. 試験 13. 6. 総括授業

【教科書】特になし。授業中に参考書を紹介。

【成績評価の方法】授業への取り組み (30%)・レポート (20%)・期末試験 (50%) の総合評価

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】授業の初回に、本授業に関する注意事項を話すので、遅刻せず必ず出席すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180998>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三好 (総合科学部 3号館北棟 2階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 月曜日 11時55分 ~ 12時50分 三好研究室(総合科学部3号館2階))

自然と技術 (Science and Technology)

資源と環境のはなし

Natural Resources and Environmental Issues

眞弓浩三 教授

2単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】資源環境経済学の標準的な接近法を学習する。

【授業の概要】授業計画を参照すること

【キーワード】効率的配分, パレート最適, コースの定理

【到達目標】近代経済学の教理的接近法に習熟する。

【授業の計画】1. 将来のビジョン (楽観派・悲観派)(2回) 2. 資源経済学概論 (2回) 3. 財産権と外部経済, 環境問題 (1回) 4. 市場経済の運営: 情報と不確実性 (1回) 5. 人口問題 (1回) 6. 枯渇性資源と更新性資源の分配 (1回) 7. 枯渇性かつリサイクル不可能なエネルギー資源 (1回) 8. リサイクル可能な資源とその限界 (1回) 9. 水資源: 準更新性資源 (1回) 10. 農業の諸問題 (1回) 11. 森林資源 (1回) 12. 漁業の諸問題 (1回) 13. 期末試験 (1回) 14. 総括授業 (1回)

【教科書】使用しないが、随時プリントを配布する。また適当な日本語の参考書がないので、授業時に外国語のものを紹介する。

【成績評価の方法】期末試験で成績をつける。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】毎回出席すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181022>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもお越しください。)

自然と技術 (Science and Technology)

災害を知る

Understanding Disasters

中野 晋 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 岡部 健士 教授 / 工学部

西山 賢一 准教授, 長尾 文明 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

上月 康則 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 村田 明広 教授

村上 仁士 非常勤講師, 末澤 弘太 非常勤講師 / 社団法人 徳島新聞社

西村 明儒 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

三村 誠二 非常勤講師 / 徳島県立中央病院

黒崎 ひろみ 助教 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

佐藤 健二 教授 / 人間・自然環境研究科

2単位 前期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】近年、地震、津波、洪水、高潮、竜巻など過去に例をみないような災害が頻発している。災害列島日本で暮らしていくために必要である災害について基礎的知識と最新情報を理解させる。

【授業の概要】地震や風水害など代表的な災害のメカニズムや最近発生した災害の実態について紹介し、自然災害とはいったいどのようなものかについて各分野の専門家が講述する。

【キーワード】地震災害, 風水害, 火災, 自然災害, 防災士

【関連科目】『自然と技術/災害に備える』(1.0, ⇒157頁)

【到達目標】

1. 日本で発生が予測される自然災害のメカニズムについて理解する。(1-6回)
2. 阪神大震災など過去の災害の実態を理解し、災害発生時の状況がイメージできる。(7-15回)
3. 人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用法などの救命救命技術を身につける。(16回)

【授業の計画】1. オリエンテーション・防災士とは/レポートまたは小テスト (中野) 2. 風水害/レポートまたは小テスト (岡部) 3. 土砂災害・火山災害/レポートまたは小テスト (西山) 4. 強風・竜巻災害/レポートまたは小テスト (長尾) 5. 大学生と防災/レポートまたは小テスト (上月) 6. 地震災害/レポートまたは小テスト (村田) 7. 阪神・淡路大震災の体験を通して/レポートまたは小テスト (末澤) 8. 医学と災害/レポート (西村) 9. 意思決定訓練 (クロスロード)/レポートまたは小テスト (黒崎) 10. ライフライン被害/レポートまたは小テスト (上月) 11. 火災/レポートまたは小テスト (徳島市消防局) 12. 災害の歴史/レポートまたは小テスト (村上) 13. 災害医療/レポートまたは小テスト (三村) 14. 被災者の心理ケア/レポートまたは小テスト (佐藤) 15. 津波・高潮災害/レポートまたは小テスト (中野) 16. 普通救命講習 (徳島市東消防署)

【教科書】防災士教本, 平成 21 年度版, 日本防災士機構編

【成績評価の方法】各講義ごと (救命救急講習を除く) に理解度確認のための小テストまたはレポートを課す。到達目標の達成度は小テストまたはレポートの総点を 100 点に換算して評価し、評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする。なお、普通救命講習は評価の対象に含まれない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181011>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中野(A310, 088-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 黒崎 (建設棟 A102, 088-656-8965, rcmode@hyd.ce.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 村田 (総合科学部 3号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時 00分 ~ 13時 00分)

⇒ 長尾(A515, 088-656-9443, fumi@ce.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 上月 (エコ 505, 088-656-7335, kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 14:35 から 16:05, 18:00 から 19:30)

⇒ 西山 (総科 3号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時 ~ 13時)

【備考】◇本講義「災害を知る」と後期の「災害に備える」は特定非営利活動法人・日本防災士機構の「防災士養成研修プログラム」に準拠している。◇本講義は「徳島大学防災リーダー養成講座」の前半部分に相当する。◇本講義「災害を知る」と後期の「災害に備える」の両科目に合格したものを、「徳島大学防災リーダー」として認定する。またこの認定をもって、「防災士」の受験資格が与えられる。◇9の訓練は土曜日午後が開講予定である。◇普通救命講習は徳島市東消防署のご協力で土曜日または日曜日午後を実施予定である。講習修了者には普通救命講習修了証が授与される。日程については開講時に連絡する。

2.5 《日本事情》 (Japanese Culture)

【受講者のメッセージ】 受講者の積極的な参加によって運営されるクラスです。教室を離れた課外授業も含まれています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181232>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Gehrtz三隅友子(新蔵キャンパス 国際センター教員室4, 088-656-7120 misumi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00)

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 I

Japanese Culture 1

(留(留))

坂田浩・准教授/国際センター
2単位 前期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『日本事情』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『日本事情』)

【授業の目的】 日本及び日本人について理解を深めることを目的とする。また知識を深めることによって、大学生活の環境を自ら整えることも目指す。

【授業の概要】 講義は、(1)「日本語であそぼ」を見ながら、日本文化や伝統行事について解説する、(2)日本人とのコミュニケーションを円滑にする方法について学ぶ、(3)本学での大学生活に慣れるための情報を提供する、ことを主な内容とする。

【キーワード】 日本人とのコミュニケーション、日本文化、「日本語であそぼ」、大学生活

【到達目標】

1. 日本文化に対する知識を増やし、日本人との人間関係を上手く運営することが出来る
2. 自らのライフプランを作成し、これからの大学生活に適応していくことが出来る

【授業の計画】 1. 自己紹介と講義概要の説明 2. 「日本語であそぼ」&キャンパスライフ (教育・研究&事務組織) 3. 「日本語であそぼ」&キャンパスライフ (キャンパスとビルの配置) 4. 「日本語であそぼ」&キャンパスライフ (学年暦) 5. テスト:キャンパスライフ基本情報 6. 「日本語であそぼ」&徳島基本地理(徳島県) 7. 「日本語であそぼ」&徳島基本地理(徳島市内) 8. 「日本語であそぼ」&徳島名所案内 9. テスト:徳島基本地理&徳島の名所 10. 「日本語であそぼ」&徳島伝統文化(阿波踊り) 11. 「日本語であそぼ」&徳島伝統文化(人形浄瑠璃) 12. 「日本語であそぼ」&徳島伝統文化(藍染めなど) 13. 「日本語であそぼ」&日本人との付き合い方 (1) 14. 「日本語であそぼ」&日本人との付き合い方 (2) 15. レポート提出 16. まとめ

【教科書】 随時プリント等の資料を配布する。

【成績評価の方法】 出席 (20%)、授業への貢献 (30%)、テスト (25%)、期末レポート (25%)

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 3回以上欠席したり、課題を提出しない学生には単位が出ません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181230>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜12時~12時50分)

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 III

Japanese Culture 3

(留(留))

三隅友子・教授/国際センター
2単位 前期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『日本事情』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『日本事情』)

【授業の目的】 徳島の文化を学ぶ。私たちが暮らす徳島をいくつかの視点から訪問調査する。

【授業の概要】 観光・食(農作物)・芸術・ことばの四つに関連する徳島地域のリソース(人的・物理的・社会的)を使い、徳島の文化を体験する。

【キーワード】 文化、観光、方言、芸術、徳島の農産物

【到達目標】

1. 徳島県内にある様々な機関や組織を訪問することによって、地域に暮らす人たちが支えている徳島の文化を確認する。
2. 自国の文化と比較しながら、日本の文化・社会に対する理解を深める。
3. 自らの興味関心を持って、授業で扱った以外の徳島の文化を調査し報告する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 授業の目的と方法・自己紹介 2. 観光文化① 阿波踊り会館 3. 観光文化② 4. 食文化① 徳島大学薬学部薬草園訪問 5. 食文化② 6. 食文化③ 徳島農協 7. 食文化④ 8. ことばの文化① 方言 渭北公民館 9. ことばの文化② 10. ことばの文化③ 11. 芸術文化① 徳島県立美術館 12. 芸術文化② 13. 芸術文化③ 14. 芸術文化③ 祭りの文化 阿波踊り 15. 自分の国や町の文化との比較・発表 16. 総括授業 まとめ

【教科書】 随時プリント等の資料を配布する。

【成績評価の方法】 出席 50%・毎回の授業のコメント 30%・最終発表 20%の三つのポイントを、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ... (医・歯 ((医歯口)1)) / 中村 / 前期 水 1・2	44
ウェルネス総合演習 ... (医・歯 ((医歯口)1)) / 荒木 / 前期 水 1・2	44
ウェルネス総合演習 ... (医・歯 ((医歯口)1)) / 小原 / 前期 水 1・2	44
ウェルネス総合演習 ... (医・薬・工 ((栄薬光)1)) / 佐竹 / 前期 火 7・8	44
ウェルネス総合演習 ... (医・薬・工 ((栄薬光)1)) / 佐藤 / 前期 火 7・8	45
ウェルネス総合演習 ... (医・薬・工 ((栄薬光)1)) / 的場 / 前期 火 7・8	45

健康スポーツ演習 (対象:平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) 入学者)

健康スポーツ演習 ... (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) 入学者) / 長積 / 前期 集中	46
--	----

共創型学習

「つたえること」と「ものづくり」-あいのメッセージ-	... / 佐藤・山城 / 前期 月 3・4	47
名著講読-パンセと教養-	... / 大橋・光永・後藤 / 前期 月 3・4	47
名著講読-世界の見方-文学作品や科学随筆を読む-	... / 依岡 / 前期 月 7・8	47
名著講読-生きがいを考える-	... / 大橋・中恵・後藤 / 前期 火 7・8	47
身近にある「ゆったりもの」-方言をつかまよう-	... / 岸江 / 前期 火 9・10	48
この良さをわかってほしい	... / 佐藤 / 前期 水 3・4	48
地域のボランティアリーダーたちと語ろう!!	... / 廣渡・山本・中恵・田村 / 前期 水 7・8	48
e ラーニングコンテンツの設計と制作	... / 吉田 / 前期 水 9・10	49
埋もれた文化遺産 I	... / 中原・中村 / 前期 金 9・10	49

ヒューマンコミュニケーション

ヒューマンコミュニケーション	... / 寺嶋・佐野・長宗・嵯峨山 / 前期 水 1・4	50
ヒューマンコミュニケーション	... (医 (医 A)) / 寺嶋・佐野・長宗・高塚・山田 / 前期 木 1・4	50
ヒューマンコミュニケーション	... / 佐野・寺嶋・内海・長宗 / 前期 木 1・4	50
ソーシャルコミュニケーション	... (医 (保)) / 關戸・佐野・長宗 / 前期 金 7・8	51

3.1 《ウェルネス総合演習》(Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (医・歯 ((医歯口)1))
 Integrated Seminar on Wellness 中村 久子 教授
 2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 社交ダンスの踊り方を習得する中で、それらを生み出した思想や文化について考え、また、ジェンダーについて学習し、身体への意識が心身の健康に影響を及ぼすことを知ることを目的とする。
【授業の概要】 講義ではウェルネスについて概説し、ジェンダーと身体および身体行動について理解することによって、健康でよりよい生き方を探る。実習では、ワルツ、ジルバ、スクエア・ルンバ、ブルースなどの基本的なフィガーを習得し、簡単なアマルガメーションを踊ることができるように実践を通して学習する。また、楽しみながら体力づくりに貢献できるようにしながら、これらのダンスの背景にある文化に触れる。

【キーワード】 健康な生活、ダンス、ジェンダー

【到達目標】

1. ジェンダーについて理解を深める
2. 社交ダンスの各フィガーをリズムに合わせて踊れるようにし、それぞれのダンスの背景を知る。
3. 生涯スポーツとしてダンスを心身の健康のために活用できる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. ウェルネスとは何か 3. ジルバのリズムとフィガーを実習する 4. ジルバの簡単なアマルガメーションを踊る 5. ワルツのリズムの取り方について実習する 6. ワルツのフィガーを実習する 7. ワルツの簡単なアマルガメーションを踊る 8. ブルースのリズムの取り方とフィガーについて実習する 9. ブルースの簡単なアマルガメーションを実習する 10. スクエア・ルンバのリズムとフィガーについて実習する 11. スクエア・ルンバの簡単なアマルガメーションを踊る 12. 実技試験 13. ジェンダーについて 14. ジェンダーと体力について 15. 筆記試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況 (20%)、筆記試験 (30%)、実技試験 (50%) と併せて総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本授業におけるダンスは、あまり運動量が激しいものではありません。最近では、生涯スポーツとして女性だけでなく、男性にもダンスに興味を持つ人が増えてきています。女子学生だけでなく、男子学生の受講をも歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180633>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 12~13時 運動文化研究室(総合科学部 1号館1階))

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (医・歯 ((医歯口)1))
 Integrated Seminar on Wellness 荒木 秀夫 教授
 2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 人間の基礎的な身体を介した学習能力は知覚と運動の発達、さらには知覚と運動の統合によって達成される。このような機能をコーディネーション能力という。本演習ではスポーツ、音楽、労働、工芸創作活動などのコーディネーショントレーニングをテーマにして、講義、演習、実験、実習を組み合わせ、より幅広い視点から、この能力を理解し獲得することを目的とする。この授業は、特にスポーツや音楽を実践している学生を念頭においているが、それ以外の学生でも、これを契機として何かを始めることを願っている。

【授業の概要】 コーディネーションの理論について学習しながら、そのトレーニング方法を習得する。また各自の能力を把握するための測定も行い、これら実践を通じて、具体的な技能の目標を立てて、その効果を体得する。

【キーワード】 コーディネーショントレーニング、運動

【到達目標】 コーディネーショントレーニングの原理を理解し、応用することができる

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. コーディネーション能力とは -芸術とスポーツとは一つ- 3. コーディネーション能力の構造 -知覚運動統合と創造性- 4. コーディネーションの科学と実践 -「神かがり」でないアートの世界- 5. 基礎的コーディネーション

レーニング-自らを感じる- 6. 体幹運動と平衡能力 1 7. 体幹運動と平衡能力 2 8. 運動連結能力の基礎 1 9. 運動連結能力の基礎 2 10. 運動連結能力の基礎 3 11. 体幹-抹消運動の構成 12. 定位分化能力トレーニング 13. リズム化能力トレーニング 14. 運動変換能力トレーニング 15. 総合的な感覚-運動統合トレーニング 16. 総括授業

【教科書】 必要に応じて資料配布

【成績評価の方法】 通常点とミニレポートによる評価。出席を重視する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180639>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (医・歯 ((医歯口)1))
 Integrated Seminar on Wellness 小原 繁 教授
 2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 身体運動、スポーツを通しての身体機能の維持、向上の理論と方法を学ぶ。このことによって疾病の予防と健康の維持、進退とがどのような関わりを持っているかを理解できるようにする。

【授業の概要】 身体機能向上の方法として、準備運動の後にサーキットトレーニングを行う。ここでは主に筋力増強が中心となる。全身的な身体の動かし方については卓球を通じて神経系の働き、循環系の働きなどについて説明をしながら、卓球による身体機能改善を目指す。授業の中で時々ビデオ記録を取りフォームのチェックする。

【到達目標】

1. 運動、スポーツがどのような仕組みで身体を改善していくかを理解する。
2. 身体機能、特に筋力を増強させる。
3. 卓球のスキルを向上させる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場で行います) 2. 卓球ラリーの技術 (1) 3. 卓球ラリーの技術 (2) 4. 別班個人対抗戦 5. 卓球サーブの技術 6. 卓球ショートカットの技術 7. 卓球バックハンドの技術 8. 卓球左右移動の技術 9. ダブルスの練習 10. 卓球の技術総合復習 (1) 11. 卓球の技術総合復習 (2) 12. ウェルネス卓球選手権大会 13. ウェルネス講義 (生活習慣病について) 14. ウェルネス講義 (栄養・休養に関する生活スタイルについて) 15. ウェルネス講義 (運動による健康づくりについて) 16. 講義内容関連の試験

【教科書】 使用しない。資料プリント配布

【成績評価の方法】 出席状況、試験 (講義内容関係)、卓球技能テストでの総合評価とする。

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者のメッセージ】 授業当日は運動着と体育館シューズを準備すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185530>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日4時30分以降)

【備考】 前日には睡眠不足にならないように注意し、体調を整えて授業に参加して下さい。卓球の技術の善し悪しは問いません。

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (医・薬・工 ((栄光)1))
 Integrated Seminar on Wellness 佐竹 昌之 准教授
 2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングなどの方法などを、スポーツ医科学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、生涯スポーツを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 健康的な生活を営むうえで、運動やスポーツが重要な役割を果たしていることは、すでにご存じでしょう。しかし、健康のために運動を実践することは、必ずしもたやすいものではありません。運動は薬の処方と似ており、うまく行くと健康のために良いものですが、間違ってしまうと事故を起こしてしまうこともあります。また、スポーツ・運動を継続することも重要です。そのためには自分にとってのスポーツの取り組み方を見つけ、楽しむための工夫も欠かせないものです。この授業では、目的、体力にあった運動のやり方を理解するとともに、それらの運動を実践し、さらに継続するための方策を考えていきます。

【キーワード】 ウェルネス、体力づくり、生涯スポーツ、オリンピック

【到達目標】

1. ウェルネスとは何か、また、その必要性を理解する。
2. 目的に応じたトレーニング方法を理解し、実践できる。
3. 自分の体力、能力、目的に応じてスポーツを楽しむことができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館1階武道場で行います) 2. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール(1) 3. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール(2) 4. (実習) インディアカ(1) 5. (実習) インディアカ(2) 6. (実習) バドミントン 7. (実習) バドミントン(1) 8. (実習) バドミントン(2) 9. (講義) 健康関連体力について 10. (講義) 筋力トレーニングについて 11. (講義) 持久性トレーニングについて 12. (講義) オリンピックについて 1 13. (講義) オリンピックについて 2 14. (講義) スポーツマンシップってなんだろう 15. 定期試験 16. (総括) これからのスポーツライフをデザインする

【参考書等】 2 回目の授業時にコース packets (資料) を配布します。
【成績評価の方法】 定期試験、レポートおよび授業への取り組み状況により総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験は行いません。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180637>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 佐竹 (3119, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (医・薬・工 ((栄薬光)1))
 Integrated Seminar on Wellness 佐藤 充宏 教授
 2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 運動が心身の健康に及ぼす影響について検討し、からだところを使ったアクティビティやスポーツの演習から、自らの生活をウェルネスデザインする力を身につける。

【授業の概要】 学習グループを基本単位として、グループワークを中心に学習を進める。健康運動の意義や効果などの理解を深め、大学生活における自らの健康行動をふりかえる。また、グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるアクティビティや、スポーツ、健康トレーニングについて実習し、健康生活における身体知を身につける。

【到達目標】
 1. 健康生活と運動との関係について理解する。
 2. グループワークを通じて健康運動、スポーツ及びアクティビティの技法

【授業の計画】 1. 全体ガイダンス:クラス分け 2. 健康づくりと運動 3. 健康づくりのためのクラブづくり 4. 健康づくりアクティビティ計画 5. 健康づくりアクティビティ実施 6. 健康づくりアクティビティ評価 7. 栄養、休養、運動のライフスタイル 8. 中間試験 9. サッカー・フットサルの個人技術 10. サッカー・フットサルの守備と攻撃 11. サッカー・フットサルのパスとシュート 12. サッカー・フットサルのチーム戦術 13. サッカー・フットサルのゲーム 14. サッカー・フットサルのリーグ 15. サッカー・フットサルのふりかえり 16. 総括

【教科書】 適宜資料を配布するので教科書は使わない
【成績評価の方法】 活動評価、提出物、グループノートなど総合的に評価する
【再試験の有無】 再試は行わない
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180650>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (医・薬・工 ((栄薬光)1))
 Integrated Seminar on Wellness 的場 秀樹 教授
 2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 生涯にわたり生産的な生活を送るためには、豊かさの中で自らを律し、健康なライフスタイルを確立する必要がある。この授業を通して、学生諸君にトータルウェルネスの視点から健康なライフスタイルの確立に向けて努力する態度を養ってもらうことを目的とする。

【授業の概要】 この授業では、健康体力、日常の身体活動、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(テニス)も体験してもらう。これらを通して、学生諸君には積極的に健康な生活を設計し実践する能力を養ってほしい。

【到達目標】
 1. ウェルネスに関わる要因について理解する。
 2. 健康なライフスタイルの確立に努力する態度を養う。

3.2 《健康スポーツ演習(対象:平成16年度以前(医保は17年度以前)入学者)》(Health and Sports)

健康スポーツ演習(対象:平成16年度以前(医保は17年度以前)入学者)(Health and Sports)

健康スポーツ演習(平成16年度以前(医保は17年度以前)入学者)

Health and Sports

長積仁・准教授
1単位 前期 集中

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ演習』)

【授業の目的】「スポーツ参加＝健康」という図式は、必ずしも成り立たない。このクラスでは、健康や人生、また生きがいという幅広い定義に対して、運動やスポーツがどのような役割を果たし、寄与できるのかということ、人間の生活とのかかわりから考え、正しく実践できる能力、すなわち“ウェルネス”という視点に立脚した価値観・態度・行動を身につけることを目的とする。同時に、“する・みる・ささえる・つくる”といった多様かつ多面的なスポーツに対する理解を深めるとともに、文化としてのスポーツを生涯を通じて実践するために必要な素養づくりと、豊かで生きがいのある人生を過ごすために必要な享受能力を、レジャースキルとライフスキルの二側面から習得することをめざす。

【授業の概要】授業では、健康づくりに必要な基礎知識を学ぶだけに留まらず、スポーツの文化的・社会的側面を理解し、心身共に健康的で、習得した知識をオピニオン・リーダーとして社会で活かせるような態度形成や行動様式、また他者との関わりに必要な社会的スキルやコミュニケーションスキルを演習を交えながら、実践的に学習する。

【キーワード】ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツの多面性

【到達目標】

1. “ウェルネスとは何か?”, またその必要性を理解する。
2. 健康づくりやスポーツ振興にかかわる社会的問題とその解決方法を理解する。
3. 自らが主体的となり、個人のレベルに応じたスポーツを享受できるようになる。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようになる。
5. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごすようとする積極的な姿勢を身につける。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. ところとからだの健康: 侘嗚からウェルネスへ 3. 不健康の経済学: 運動・スポーツがもたらすベネフィット(便益)とは? 4. ダイエットの科学: “メタボ時代”における正しい痩身行動 5. 科学的トレーニングとその方法: 体力と健康の関連について 6. 人間の潜在的可能性をのばすメンタルトレーニングとコーディネーショントレーニング 7. 世界的な社会問題エイズを知る: 知識の獲得と偏見・差別意識の払拭 8. スポーツ享受能力を高める: “スポーツは誰のためのものか?”を考へる 9. 世界を動かすスポーツマーケティング: 五輪・W杯ビジネスを考へる 10. プロスポーツビジネス: 地域密着型のマネジメントを考へる 11. スポーツ継続と離脱のメカニズムを考へる 12. 我が国のスポーツ環境を考へる: 地域スポーツクラブのすすめ 13. スポーツ享受能力を高める: ボランティアのすすめ 14. スポーツ振興とまちづくり: 豊かな地域社会の創造をめざして 15. 期末試験 16. 授業の総括

【教科書】 基本的に使用せず、随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加意欲、他者との積極的なかかわりや集団内での協調性、授業内でのプレゼンテーション、そして試験を総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180967>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長積 (3118-1, 088-656-7286, nagazumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

3.3 《共創型学習》 (Creativity Development)

共創型学習 (Creativity Development)

「つたえること」と「ものづくり」-あいのメッセージ-
Handicrafts and Social Communications (Indigo Dyeing)

佐藤 高則・准教授, 山城 考 准教授
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 藍染め文化は、吉野川の自然との共生の結果生まれてきた徳島の伝統文化である。この授業では、藍染めを体験しながらクラフト作品を創作することにより、藍染め文化を知る。また、陶芸作品を作ることに伴い、焼き物の文化を考える。藍染めと陶芸の経験を通して、伝統的な日本の文化を知る。また、創作活動のグループワークを通じて、お互いのコミュニケーションをはかる。また、伝えたいことを作品に表現することにより、コミュニケーションについて考える。

【授業の概要】 本講義ではグループ単位で、作品の企画と製作、作品に込めるメッセージについて話し合う。藍染めや陶芸を基本としたクラフト作品を作成しながら、藍染めや陶芸の原理と文化を学習する。作品をどのようにメッセージとして生かすかについて、グループディスカッションにより深めてゆく。

【キーワード】 共創型学習、ものづくり、コミュニケーション、伝統文化、藍染め

【関連科目】 『共創型学習/「つたえること」と「ものづくり」-科学と遊ぶ-』(0.5、⇒165 頁)

【到達目標】 藍染めや陶芸の体験学習を通じて「藍染め・陶芸文化」への興味を喚起するとともに、創造力を作品に反映させながら、コミュニケーション力の向上を目指す

【授業の計画】 1. 講義ガイダンス 2. 藍染めとは 3. 藍の発色を化学で考えよう 4. 身近な草木で染めよう 5. 草木染めを科学する 6. クラフト作品の構想 7. ソーイング 8. 藍染め・草木染めで表現 9. 染色の完成 10. 陶芸とは 11. 手捻りの作品に挑戦 12. 下焼き 13. 上薬と本焼き、釉薬の科学 14. 発表会の準備 15. 発表会 16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 毎回のワークシート 60%、報告・発表会 40% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 本授業は「社会性形成科目群」です。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180949>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日9:00-17:00)

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日14:00~17:00)

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読—パンセと教養—

Seminar for memorial books -pensée and culture 大橋 眞 教授

光永 雅子・学術研究員/全学共通教育センター
後藤 壽夫・非常勤講師/授業研究インテリジェントラボ

2 単位 前期 月 3・4

【授業の目的】 教養に関する名著をひもときながら、教養の意味を考えます。地域の社会人と共に教養の持つ意味を議論しながら、コミュニケーション力の育成をめざします。

【授業の概要】 パスカルの名著「パンセ」は、教養書として今でも世界中の人々に読まれている。パンセは、どのような視点で何の目的で書かれたものかについて、考えていきます。例文を取り上げながら著者の主張をについて、地域社会人とともに討論をしながら考えを深めていきます。授業の後半では、自ら選んだ新書の紹介をしてもらう予定です。

【キーワード】 共創型学習、教養、コミュニケーション、名著、地域社会人

【到達目標】 地域の社会人とともに教養に対する理解を深めます。世代を超えたコミュニケーション力の向上を目指す。

【授業の計画】 1. 講義ガイダンス 2. 教養とは 3. パンセの書かれた時代 4. パンセとは? 5. パンセの「視点」 6. パンセの「正義」 7. パンセの「考える暮」 8. パンセの「信仰」 9. パンセの「心的弁証法」 10. 教養書を選ぶ 11. 教養書を紹介 12. 名著が語る教養とは何か? 13. それぞれの教養の意味を考える 14. 発表会の準備 15. 発表会 16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%、報告・発表会 40% として評価する
【受講者へのメッセージ】 この授業は、地域の社会人とともに作り上げる授業です。地域社会人向けの公開授業と同時開講する形式の授業です。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/sousei07/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180948>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日-水曜日 12時20分-12時50分)

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読—世界の見方-文学作品や科学随筆を読む—

great books reading - how to see the world 依岡 隆児 教授

2 単位 前期 月 7・8

【授業の目的】 本を読む習慣をつけます。寺田寅彦から『不都合な真実』までの古今の名著に触れ、現代社会で重要となる「世界」の多面的な捉え方について、社会人の方も交えて一緒に考え、互いに読み方や考え方の違いに触れることで、より深い理解が得られるようにします。

【授業の概要】 「世界」の見方をテーマに、古今東西の名著を分野にとらわれずにバラエティ豊かに取り上げ、線を引ながら一緒に読みます。内容を確認したうえで、お互いに興味を引かれた箇所を披露しながら、理解を深めます。必要事項の検索ができるようにして、最後にはグループで発表を行います。また、図書館ツアーもする予定。なお、八木静夫先生(徳島大学名誉教授)もアドバイザーとして協力していただく予定です。

【キーワード】 講読、世界、名著、環境

【到達目標】 読書の習慣を養い、異なるものの見方を知ることで社会性を培う

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 文献リストの内容確認、作品ピックアップ(取り上げる予定の作品は、池田香代子『世界がもし100人の村だったら』、寺田寅彦『柿の種』、ユクスケル『生物から見た世界』、エンデ『モモ』、ハッセ『デミアン』、鈴木孝夫『日本語と外国語』、ゴア『不都合な真実』、青木保『多文化世界』など) 3. 図書館ツアー 4. 作品講読(毎回違う作品の一部のコピーを三色ボールペン方式で読む) 5. 作品講読 6. 作品講読 7. 作品講読 8. 作品講読 9. 作品講読 10. グループ分け、テーマ選定、文献に基づいて発表準備、ディスカッション、レジュメ作成 11. ディスカッション、発表準備 12. ディスカッション 13. ディスカッション 14. グループ発表 15. グループ発表 16. 総括

【成績評価の方法】 授業への取り組み(出席と発表など)により総合的に評価します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180953>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時から13時)

【備考】 ◇リストアップされた本は各自が生協や本屋、図書館などで手に入れておいてください。◇本授業題目は 20 年度、21 年度入学者(適用年度)が対象となります。

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読—生きがいを考える—

Seminar for memorial books-To think of life worth living

大橋 眞 教授, 中恵 真理子・学術研究員/全学共通教育センター
後藤 壽夫・非常勤講師/授業研究インテリジェントラボ

2 単位 前期 火 7・8

【授業の目的】 「生きがい」に関するテーマの著書を読みます。社会人の方も交えて、「人生の転機」をどの様に捉え、迎えてきたかを、世代間を超えて意見交換します。本を通して考えること、多様な人生経験を持つ人の視点にふれることで、「生きがい」についてより深い認識がもてるようになります。

【授業の概要】 現代社会は、生き甲斐喪失の時代といわれています。また長寿社会の中で、人は一度や二度以上の人生の転機、岐路に立たされることがあります。本授業では、ガンを宣告された医師、飛行機の墜落事故などによって身内を失った家族のルポタージュや、受難を巡って考察した心理学者、社会学者などの一般書を読んでいきます。評価は期末に自由選択した図書を紹介と考察を発表してもらいます。

【キーワード】 共創型学習、生きがい、自己、現代社会、生涯学習

【到達目標】

1. 読書を通じて考えを深めること。異世代間で学びを深めること。
2. 地域社会人とのコミュニケーション力をつける

【授業の計画】 1. 講義ガイダンス 2. 「生きがい」観の歴史 3. 本から何を学ぶのか? 4. 「喪失」について考える 5. 生きがいを考える 6. 「学ぶこと」の意味を考える 7. 「働くこと」-職業とは何か? 8. 「家族」とは 9. 人生の転機 10. 社会の中の自分 11. 自

己を分析する 12. 自己のアイデンティティ 13. 発表会準備 1 14. 発表会準備 2 15. 発表会 16. 総括討議

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%, 報告・発表会 40% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業は、地域社会人の公開授業と同時開講する授業です。自分探しに関する本を紐解きながら、地域社会人と討論を重ね、理解を深めていきます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185651>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日～水曜日12時20分～12時50分)

⇒ 中恵 (オフィスアワー: 月曜～金曜 10時～12時)

共創型学習 (Creativity Development)

身近にある「ゆったりもの」—方言をつかまえよう—

Let's enjoy dialects through survey! 岸江 信介 教授
2 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 身近にあつて気づかないものの一つに方言がある。物心ついた時分から使ってきた「自分のことば」「地域のことば」についていろいろな角度から見つめてみることにしたい。

【授業の概要】 方言を取り上げ、これを取集する。音声の録音を行い、これらの方言をマルチメディア機器を用いてデータベース化を試みる。

【授業の計画】 1. みぢかなもの「方言」とは 2. 方言を調べる-調べ方の方法- 3. 受講生のグループ化-グループによる方言研究と研究テーマの設定- 4. フィールドワークの準備-方言調査- 5. 方言資料収集の手順説明 6. 調査票の作成 1 7. 調査票の作成 2 8. フィールド調査 1 9. フィールド調査 2 10. 収集したデータの整理 11. 方言音声データの処理と方言データベースの作成手順説明 1 12. 方言データベースの作成 13. 調査報告 1-プレゼンテーション- 14. 調査報告 2-プレゼンテーション- 15. 調査報告 3-プレゼンテーション- 16. まとめ

【教科書】 特に指定しない

【成績評価の方法】 成績評価については出席 40%, レポート 30%, 発表 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 少人数構成によるゼミ形式の授業なので、方言音声などのデータ収集のためのフィールドワークを実施する。ぜひ参加して頂きたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180966>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12～13時総合科学部1号館3階)

【備考】 社会人ボランティアの参加要請 (10 名程度)・・・方言や地域文化に興味のある社会人ボランティアの方で学生の調査補助をして下さる方を募集しています。

共創型学習 (Creativity Development)

この良さをわかってほしい

Talk about your favorites 佐藤 征弥 准教授
2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 他人を惹きつけ説得する話しかた、プレゼンテーションの力を磨きます。また、そのプレゼンテーションをきちんと評価し、どううまく応えるかという技術も同時に身に付けましょう。

【授業の概要】 これは素晴らしい、面白い、ぜひ他人にも知って欲しいと思うような人物や物を誰も心の中に持っているはず。でも、その良さをきちんと他人に伝えることはできますか? もともと同じ分野に興味のある人になら伝えられるかもしれませんが、その分野に無関心な人に興味を持ってもらうのは難しいものです。この授業では、普段心しまっている自分がすごいと思う人や物について存分に語ってもらいます。そして、それが十分に伝わったかを聞き手に評価してもらいます。その過程で、プレゼンテーション能力や評価能力を養っていきます。語る内容は何でも結構、マイナーなものほどやり甲斐があるというものです。

【キーワード】 プレゼンテーション

【到達目標】 プレゼンテーション能力と、それを評価する力を習得する

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 教官の発表、評価方法の説明 3. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 1 4. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 2. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 5. 学生による発表 (2 名ずつ)、それ

に対する評価 3. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 6. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 4. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 7. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 5. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 8. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 6. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 9. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 7. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 10. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 8. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 11. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 9. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 12. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 10. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 13. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 11. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 14. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 12. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 15. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 13. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。 16. 総括授業

【教科書】 使用せず

【参考書等】 使用せず

【成績評価の方法】 発表時における他の受講生による評価をみる。さらに、他の受講生の発表を評価する際にそれが適切であるかについてもみる。

【受講者へのメッセージ】 授業の性質上、受講者は 10 名までとします。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180950>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK)

共創型学習 (Creativity Development)

地域のボランティアリーダーたちと語ろう!!

Let's talk with community volunteer leaders!
廣渡 修一 教授/大学開放実践センター、山本 真由美 教授
中恵 真理子 学術研究員/全学共通教育センター
田村 貞夫 非常勤講師/全学共通教育センター
2 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 地域のボランティアリーダーたちと親しく交流するなかで、自分のやりたいを発見したり、取り組んだりする基盤を形成します。徳島という地域社会が抱えている問題についても認識を高めます。

【授業の概要】 大学の 4 年間は、自分のやりたいことを見つけ、取り組む良い機会です。本授業では、ボランティア活動に目を向け、徳島における様々な取り組みを紹介し、やりたいことを見つけ、実際の活動にまで導いてゆきます。大学にいても <阿波徳島> のことを知る機会には決して多くはありません。本授業では、地域社会の中ですでに様々なジャンルで活動しているもともとアクティブなボランティアリーダーを招き、活動内容や取り組んだ動機などを語ってもらいます。その上で、社会人受講生も含めて、みなで地域の問題や課題に取り組むにはどうしたら良いかを考えましょう。徳島を見る目が変わります。君が <徳島通> になる授業です。授業では、県社会福祉協議会その他のご協力を得て、現場見学や実習も予定しています。

【キーワード】 ボランティアリーダー、地域社会、社会人との対話、活動計画、ボランティアの友達の輪、自分力

【関連科目】 『共創型学習/人間行動の科学』(0.5, ⇒166 頁)

【到達目標】

- ①地域のボランティアリーダーたちと積極的に語り合い、交流できる。
- ②地域社会の問題や課題を知り、その解決法を考える。
- ③自分なりのボランティア活動計画を立てる。
- ④現場見学や実習等を通して、現場の実態を体験する。
- ⑤自分のやりたいこと、取り組みたいことについて目標ができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーションとアイスブレイキング 2. ボランティアの友達の輪① 3. ボランティアの友達の輪② 4. ボランティアの友達の輪③ 5. 学習支援ボランティア (山本) 6. ボランティア論 (中恵) 7. 中間まとめのためのワークショップ 8. ボランティアの友達の輪④ 9. ボランティアの友達の輪⑤ 10. ボランティアの友達の輪⑥ 11. ボランティアの友達の輪⑦ 12. ボランティアの友達の輪⑧ 13. ボランティアの友達の輪⑨ 14. ボランティアの友達の輪⑩ 15. ボランティア活動計画作成のためのワークショップ 16. まとめ:ボランティア活動計画発表会

【教科書】 資料はその都度配布します。

【参考書等】 必要に応じて配布します。

【成績評価の方法】 成績はおおむね次の基準によります。①出席 30% ②活動計画 50% ③現場見学または実習 20%

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者へのメッセージ】 ①グループディスカッションでは意見や感想を積極的に出してください。みんなでブレインストーミングができるのが理想です。②授業外の時間をやりくりして、ボランティア活動に参加してください。

【WEB 頁】 <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/staff/hirowata>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185545>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 廣渡 (D 202, 088-656-7279, hirowata@cue.tokushima-u.ac.jp)
 (オフィスアワー: 後期:月曜日 13:30-14:30 (廣渡研究室))
 ⇒ 廣渡(D:202,088-656-7279,hirowata@cue.tokushima-u.ac.jp)
【備考】 ①ボランティアリーダーの都合により、当日ゲストの選定・順序は変更する場合があります。②現場見学・実習には積極的に参加してください。③社会人受講生の方は、事前アンケートを提出していただきます。定員オーバーの場合は、アンケート内容等を勘案して選抜させていただきます。

共創型学習 (Creativity Development)

e ラーニングコンテンツの設計と制作

E-learning Content Design 吉田 敦也・教授/大学開放実践センター
2 単位 前期 水 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 e ラーニングコンテンツの設計と制作に関する基本事項について学習するとともに、簡単な映像教材の制作を演習し、技能を身につける。

【授業の概要】 いわゆる従来型で対面型の教室授業と、e ラーニングなど情報技術を活用した遠隔型で先進メディアを介した授業との違いを概観した後、e ラーニングのコンテンツには、何をどう取り入れることが求められているのかを考える。これらをもとに、コンテンツの設計と制作に関する基本事項、企画・制作の手順、学習情報を伝えるために必要な知識と技術、機材の操作、カメラワーク、プログラミングやオーサリング技能、また、ノンリニア編集の方法などについて学習する。

【授業の計画】 1. ICT による学習支援 2. e ラーニングの目的 3. コンテンツとは何か 4. 授業の要素 5. 授業の電子化 6. インストラクショナルデザイン 7. テクニカルコミュニケーション 8. 学習情報のメディア化 9. 映像教材の制作 10. 撮影 11. ノンリニア編集 12. 意味の生成 13. 面白さ・魅力をどうつくるか 14. わかりやすさのデザイン 15. 著作権とセキュリティ 16. コンテンツの規格と評価

【参考書等】 開講後、バーチャルクラスルームにて適宜指示する <http://elearning.ias.tokushima-u.ac.jp/general/>

【受講へのメッセージ】 授業の一部は e ラーニングによって行うので、自宅、下宿、モバイル環境からのインターネットアクセスが可能であることが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180946>

【備考】 ①相談等は下記 URL のバーチャルクラスルームにて 24 時間受付ける、<http://elearning.ias.tokushima-u.ac.jp/general/> ②受講者はコンテンツ制作課題のためパソコンとビデオカメラを使った作業を授業時間外にも行う

共創型学習 (Creativity Development)

埋もれた文化遺産 I

Buried Cultural Heritage I 中原 計・助教/埋蔵文化財調査室
中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室
2 単位 前期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 一人ひとりが問題を発見し、知恵と情報を総動員し、新しい自分自身の解を見出す訓練を通じて、自らを創成することを目的とする。共創型学習科目の中で本授業は「文化財」をそのための素材として扱う。近年、さまざまな文化財が「世界遺産」として登録されているが、日本においては文化財に関する認識はまだ低調であり、開発などにより多くの文化財が失われつつあるのが現状である。本授業では、文化財の中でも、埋蔵文化財をとりあげ、遺跡やそこから出土したものに直接触れてもらうことで、文化財をより身近なものとしてとらえ、それらに対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】 徳島大学構内の埋蔵文化財についての庄・蔵本遺跡、常三島遺跡・新蔵遺跡の現地を散策し、また、そこから出土した考古遺物を実際に触ってもらう。次に、それらの考古遺物を実験的に製作することにより、文化財をより身近なものとして認識してもらう。その後、県内の文化財について、グループ形式で調べて、まとめ、それぞれ発表を行う。それらの作業を通して、埋蔵文化財および文化財全体についての理解を深めてもらう。

【キーワード】 文化財、庄・蔵本遺跡、常三島遺跡・新蔵遺跡、実験考古学

【先行科目】 『歴史と文化/考古学概論 I』(1.0, ⇒15 頁)

【関連科目】 『歴史と文化/徳島を考える』(0.5, ⇒17 頁)

【到達目標】 大学構内、県内の埋蔵文化財について実際に触れたり、調べたりする過程において、文化財を身近なものとしてとらえ、それらについての理解を深める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション・常三島遺跡散策 2. 徳島大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査室の仕事 3. 徳島城下町・新蔵遺跡散策、ガレリア新蔵見学 4. 徳島城散策 5. 庄・蔵本遺跡散策、埋蔵文化財調査室見学 6. 実験考古学:土器づくり 1 7. 実験考古学:土器づくり 2 8. 実験考古学:勾玉づくり 9. 研究発表課題概要説明・準備 10. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 11. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 12. 研究発表課題:中間発表・討議 13. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 14. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 15. 研究発表会 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%、報告・発表会 40%として評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180961>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中原 (088-633-7236, nakahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 埋蔵文化財調査室にて、時間は不問)

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 埋蔵文化財調査室にて、時間は不問)

【備考】 土器作りなどの考古学的な実習があります。汚れてもかまわない服装をお勧めします。また、遺跡散策の際には、歩きやすい靴をお勧めします。主に常三島キャンパスにおいて授業を行います。その他、土日を利用して博物館などの見学を予定しています

3.4 《ヒューマンコミュニケーション》(Human Communication)

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

ヒューマンコミュニケーション

Human Communication
寺嶋 吉保・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 佐野 勝徳・教授
長宗 雅美・助教/全学共通教育センター, 嵯峨山 和美・助教/全学共通教育センター
2 単位 前期 水 1・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 社会人としての人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を向上させる一助とする。また、授業を通し、地域の子育て支援事業に貢献する。

【授業の概要】 この授業ではコミュニケーション能力の開発を支援する「体験学習」を通して、自分と向き合い自分自身の人間関係について考える場を学生に提供する。社会人ボランティアの協力を得て授業を行い、学生が世代や立場の異なる人々との関係を膨らませ、考えや視野を広げる機会とする。授業は、学内演習・地域の保育所実習・子育て支援事業の体験実習を 3 本柱とする。学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。保育所では毎週、特定の乳幼児と 1 対 1 の交流 (9 回) を行なう。交流を通して「乳幼児期のヒト」と「親」を実験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。また、子育て支援事業の運営に参加 (1 回) し、初対面・複数の人々に対応し相手のニーズを察する機会を得る。全授業を通して関わる様々な人々との交流を通し、社会人として求められる態度について考え、学生自身の視野を広げる機会とする。

【キーワード】 人間力、ホスピタリティ・マインド、役立ち感、自己肯定感、子育て支援

【到達目標】 1. 適切な礼儀やマナーを身につける。2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。4. 仲間の様子を目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】 1. 学内演習 I 「ホスピタリティ・マインドへの気づき」
2. 学内演習 II ・コミュニケーションスキルトレーニング (ホスピタリティを学ぶ他)・乳幼児との交流実習準備 3. 学内演習 III ・コミュニケーションスキルトレーニング (相互協力「図形作り」にチャレンジ) 他)・乳幼児との交流実習準備 4. 学内演習 IV ・保育所実習にむけて (グループ討議)・乳幼児との保育所実習準備 5. 保育所実習 1 6. 保育所実習 2 7. 保育所実習 3 8. 保育所実習 4 9. 保育所実習 5 10. 学内演習 V ・実習中間振り返り 11. 保育所実習 6 12. 保育所実習 7 13. 保育所実習 8 14. 保育所実習 9 15. 振り返り・まとめ 16. 児童館における子育て支援ボランティア体験実習

【教科書】 なし。配布する資料を使用する。

【参考書等】 高塚人志著「いのちがふれる授業」小学館、「自分が好きになっていく」アリス館、「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」大修館書店、「赤ちゃん力」エイデル研究所

【成績評価の方法】 出席状況 (33%)、レポート (33%)、授業に取り組む姿勢・態度 (33%) から総合評価する。

【再試験の有無】 原則として行わない

【受講者のメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。交流する乳幼児達はなかなか自分の思うようにならないかもしれないが、自分のパートナーに寄り添い、相手の気持ちを表情や言動から推し量り、必死になって自分のこととして考え、関わりをもってほしい。そんな体験を積み重ねることでホスピタリティ・マインドに気づき、「達成感」や「人の役に立つ喜び=役立ち感」そして「自己肯定感」を実感するだろう。この授業をステップに、社会人としての人間力を高め、専門的な知識を積み上げるための基礎力を充実させてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181280>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐野勝徳 sana@ias.tokushima-u.ac.jp

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

ヒューマンコミュニケーション (医 (医 A))

Human Communication
寺嶋 吉保・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 佐野 勝徳・教授
長宗 雅美・助教/全学共通教育センター, 高塚 人志/鳥取大学
山田 進一・非常勤講師
2 単位 前期 木 1・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 社会人としての人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を向上させる一助とする。また、授業を通し、地域の子育て支援事業に貢献する。

【授業の概要】 この授業ではコミュニケーション能力の開発を支援する「体験学習」を通して、自分と向き合い自分自身の人間関係について考える場を学生に提供する。社会人ボランティアの協力を得て授業を行い、学生が世代や立場の異なる人々との関係を膨らませ、考えや視野を広げる機会とする。授業は、学内演習・地域の保育所実習・子育て支援事業の体験実習を 3 本柱とする。学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。保育所では毎週、特定の乳幼児と 1 対 1 の交流 (9 回) を行なう。交流を通して「乳幼児期のヒト」と「親」を実験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。また、子育て支援事業の運営に参加 (1 回) し、初対面・複数の人々に対応し相手のニーズを察する機会を得る。全授業を通して関わる様々な人々との交流を通し、社会人として求められる態度について考え、学生自身の視野を広げる機会とする。

【キーワード】 人間力、ホスピタリティ・マインド、役立ち感、自己肯定感、子育て支援

【到達目標】

1. 適切な礼儀やマナーを身につける。
2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。
3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。
4. 仲間の様子を目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。
5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】 1. 学内演習 I 特別講演「ホスピタリティ・マインドへの気づき」講師:高塚人志先生 2. 学内演習 II ・コミュニケーションスキルトレーニング (ホスピタリティを学ぶ他)・乳幼児との交流実習準備 3. 学内演習 III ・コミュニケーションスキルトレーニング (相互協力「図形作り」にチャレンジ) 他)・乳幼児との交流実習準備 4. 学内演習 IV ・交流実習にむけて (グループ討議)・乳幼児との交流実習準備 5. 保育所実習 1 6. 保育所実習 2 7. 保育所実習 3 8. 保育所実習 4 9. 保育所実習 5 10. 学内演習 V ・実習中間振り返り 11. 保育所実習 6 12. 保育所実習 7 13. 保育所実習 8 14. 保育所実習 9 15. 振り返り・まとめ 16. 児童館における子育て支援体験実習

【教科書】 なし。配布する資料を使用する。

【参考書等】 高塚人志著「いのちがふれる授業」小学館、「自分が好きになっていく」アリス館、「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」大修館書店、「赤ちゃん力」エイデル研究所

【成績評価の方法】 出席状況 (33%)、レポート (33%)、授業に取り組む姿勢・態度 (33%) から総合評価する。

【再試験の有無】 原則として行わない

【受講者のメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。交流する乳幼児達はなかなか自分の思うようにならないかもしれないが、自分のパートナーに寄り添い、相手の気持ちを表情や言動から推し量り、必死になって自分のこととして考え、関わりをもってほしい。そんな体験を積み重ねることでホスピタリティ・マインドに気づき、「達成感」や「人の役に立つ喜び=役立ち感」そして「自己肯定感」を実感するだろう。この授業をステップに社会人としての人間力を高め、専門的な知識を積み上げるための基礎力を充実させてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181282>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐野勝徳 sano@ias.tokushima-u.ac.jp

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

ヒューマンコミュニケーション

Human Communication
寺嶋 吉保・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 佐野 勝徳・教授
長宗 雅美・助教/全学共通教育センター
2 単位 前期 木 1・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 社会人としての人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を向上させる一助とする。また、授業を通し、地域の子育て支援事業に貢献する。

【授業の概要】 この授業ではコミュニケーション能力の開発を支援する「体験学習」を通して、自分と向き合い自分自身の人間関係について考える場を学生に提供する。社会人ボランティアの協力を得て授業を行い、学生が世代や立場の異なる人々との関係を膨らませ、考えや視野を広げる機会とする。授業は、学内演習・地域の保育所実習・子育て支援事業の体験実習を 3 本柱とする。学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。保育所では毎週、特定の乳幼児と 1 対 1

の交流 (9 回) を行なう。交流を通して「乳幼児期のヒト」と「親」を実体験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。また、子育て支援事業の運営に参加 (1 回) し、初対面・複数の人々に対し相手のニーズを察する機会を得る。全授業を通して関わる様々な人々との交流を通し、社会人として求められる態度について考え、学生自身の視野を広げる機会とする。

【キーワード】 人間力、ホスピタリティ・マインド、役立ち感、自己肯定感、子育て支援

【到達目標】

1. 適切な礼儀やマナーを身につける。
2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。
3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。
4. 仲間の様子を目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。
5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】 1. 学内演習 I・「ホスピタリティ・マインドへの気づき」 2. 学内演習 II・コミュニケーションスキルトレーニング (ホスピタリティを学ぶ他)・乳幼児との交流実習準備 3. 学内演習 III・コミュニケーションスキルトレーニング (相互協力「図形作り」にチャレンジ) 他・乳幼児との交流実習準備 4. 学内演習 IV・交流実習にむけて (グループ討議) 乳幼児との交流実習準備 5. 保育所実習 1 6. 保育所実習 2 7. 保育所実習 3 8. 保育所実習 4 9. 保育所実習 5 10. 学内演習 V・実習中間振り返り 11. 保育所実習 6 12. 保育所実習 7 13. 保育所実習 8 14. 保育所実習 9 15. 振り返り・まとめ 16. 児童館における子育て支援体験実習

【教科書】 なし。配布する資料を使用する。

【参考書等】 高塚人志著「いのちにふれる授業」小学館、「自分が好きになっていく」アリス館、「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」大修館書店、「赤ちゃん力」エイデル研究所

【成績評価の方法】 出席状況 (33%)、レポート (33%)、授業に取り組む姿勢・態度 (33%) から総合評価する。

【再試験の有無】 原則として行わない

【受講者へのメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。交流する乳幼児達はなかなか自分の思うようにならないかもしれないが、自分のパートナーに寄り添い、相手の気持ちを表情や言動から推し量り、必死になって自分のこととして考え、関わりをもってほしい。そんな体験を積み重ねることでホスピタリティ・マインドに気づき、「達成感」や「人の役に立つ喜び=役立ち感」そして「自己肯定感」を実感するだろう。この授業をステップに社会人としての人間力を高め、専門的な知識を積み上げるための基礎を充実させてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181283>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐野勝徳 sano@ias.tokushima-u.ac.jp

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)
ソーシャルコミュニケーション (医 (保))

social communication 関戸 啓子・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
佐野 勝徳・教授、長宗 雅美・助教/全学共通教育センター
2 単位 前期 金 7・8

【授業の目的】 医療系学生における人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を向上させ、将来患者と向き合える医療者を育てる一助とする。

【授業の概要】 この授業では特に医療人に必要なコミュニケーション能力の開発を学生に提供する。講義・学内演習を柱とする。講義では、基本的な社会人としてのコミュニケーション能力から、医療人としてのコミュニケーション能力までの基礎を教え、学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。

【キーワード】 対人コミュニケーション、社会人としての接遇、医療人としての接遇、多職種間でのコミュニケーション

【到達目標】

1. 適切な礼儀やマナーを身につける。
2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。
3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。
4. 仲間の様子を目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。
5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】 1. コミュニケーションの基礎 (1):傾聴の心 2. コミュニケーションの基礎 (2):ホスピタリティ・マインド 3. コミュニケーションの基礎 (3):受容と共感 4. 医療者としてのコミュニケーション (1):患者の心理と接遇 (信頼関係) 5. 医療者としてのコミュニケーション (2):患者の心理と接遇 (説明, 同意) 6. 医療者としてのコミュニケーション (3):患者の心理と接遇 (苦情, クレーム) 7. 医療者としてのコミュニケーション (4):チームワーク 8. 医療者としてのコミュニケーション (5):その人らしさ 9. コミュニケーションの実際

(1):メールで伝える 10. コミュニケーションの実際 (2):電話で伝える 11. コミュニケーションの実際 (3):手紙で伝える 12. コミュニケーションの実際 (4):自己紹介する 13. コミュニケーションの実際 (5):見たことを伝える 14. コミュニケーションの実際 (6):思いを伝える 15. コミュニケーションの実際 (7):「No(ノー)」を伝える 16. 振り返りとまとめ

【教科書】 適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】 出席状況 (40%) とレポート (60%) によって総合的に評価する。

【再試験の有無】 原則として行なわない

【受講者へのメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。そのための基礎から講義を始め、演習を行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181279>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 関戸 (088-633-9035, sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日, 金曜日 18:00~ 19:00, 関戸教員研究室)

4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

基盤英語

基盤英語 ... (総科 (総科))/山内/前期 月 5・6	57
基盤英語 ... (総科 (総科))/米原/前期 月 5・6	57
基盤英語 ... (総科 (総科))/ギェンター/前期 月 5・6	57
基盤英語 ... (総科 (総科))/山森/前期 月 5・6	57
基盤英語 ... (総科 (総科))/樋口/前期 火 3・4	58
基盤英語 ... (総科 (総科))/小野原/前期 火 3・4	58
基盤英語 ... (総科 (総科))/吉田/前期 火 3・4	58
基盤英語 ... (総科 (総科))/森岡/前期 水 1・2	58
基盤英語 ... (総科 (総科))/田中/前期 水 1・2	58
基盤英語 ... (総科 (総科))/井上/前期 水 1・2	59
基盤英語 ... (総科 (総科))/山田/前期 水 1・2	59
基盤英語 ... (総科 (総科))/山内/前期 木 1・2	59
基盤英語 ... (総科 (総科))/宮崎/前期 木 1・2	59
基盤英語 ... (総科 (総科))/坂田/前期 木 1・2	60
基盤英語 ... (医 (医 A))/ギェンター/前期 月 7・8	60
基盤英語 ... (医 (医 B))/スティヴンズ/前期 月 7・8	60
基盤英語 ... (医 (医 C))/スタージ/前期 月 7・8	60
基盤英語 ... (医 (榮))/森岡/前期 月 5・6	61
基盤英語 ... (医 (榮))/樋口/前期 水 5・6	61
基盤英語 ... (医 (保 A))/小野原/前期 火 5・6	61
基盤英語 ... (医 (保 A))/山田/前期 水 5・6	61
基盤英語 ... (医 (保 B))/石田/前期 火 5・6	61
基盤英語 ... (医 (保 B))/中西-リンド/前期 水 5・6	62
基盤英語 ... (医 (保 C))/西山/前期 火 5・6	62
基盤英語 ... (医 (保 C))/吉田/前期 水 5・6	62
基盤英語 ... (医・歯 (医 a(歯口)A-1))/中西-リンド/前期 水 7・8	63
基盤英語 ... (医・歯 (医 b(歯口)A-2))/マーシェソ/前期 水 7・8	63
基盤英語 ... (医・歯 (医 c(歯口)B-1))/福田/前期 水 7・8	63
基盤英語 ... (医・歯 (医 d(歯口)B-2))/ギェンター/前期 水 7・8	63
基盤英語 ... (歯 (歯口))/宮田/前期 火 3・4	64
基盤英語 ... (薬 (薬 A))/井上/前期 火 5・6	64
基盤英語 ... (薬 (薬 B))/ギェンター/前期 火 5・6	64
基盤英語 ... (工 (建 A))/山内/前期 水 5・6	64
基盤英語 ... (工 (建 A))/森岡/前期 金 5・6	65
基盤英語 ... (工 (建 B))/中島/前期 水 5・6	65
基盤英語 ... (工 (建 B))/山内/前期 金 5・6	65
基盤英語 ... (工 (機 A))/宮田/前期 月 7・8	65
基盤英語 ... (工 (機 A))/樋口/前期 水 1・2	66
基盤英語 ... (工 (機 B))/山田/前期 月 7・8	66
基盤英語 ... (工 (機 B))/ラックストン/前期 水 1・2	66
基盤英語 ... (工 (機 C))/福田/前期 月 7・8	66
基盤英語 ... (工 (機 C))/三宅/前期 水 1・2	67
基盤英語 ... (工 (化 A))/山田/前期 木 1・2	67
基盤英語 ... (工 (化 A))/中西-リンド/前期 金 5・6	67
基盤英語 ... (工 (化 B))/樋口/前期 木 1・2	67
基盤英語 ... (工 (化 B))/吉田/前期 金 5・6	67
基盤英語 ... (工 (生 A))/吉田/前期 木 1・2	68
基盤英語 ... (工 (生 A))/石田/前期 金 5・6	68
基盤英語 ... (工 (生 B))/前田/前期 木 1・2	68
基盤英語 ... (工 (生 B))/中島/前期 金 5・6	69

全学共通教育 (2009) 前期・【基盤形成科目群】

基盤英語 ... (工 (電 A))/樋口/前期 月 7・8.....	69
基盤英語 ... (工 (電 A))/マコーマック/前期 金 3・4.....	69
基盤英語 ... (工 (電 B))/山森/前期 月 7・8.....	69
基盤英語 ... (工 (電 B))/石田/前期 金 3・4.....	69
基盤英語 ... (工 (電 C))/魚崎/前期 月 7・8.....	70
基盤英語 ... (工 (電 C))/早内-プリングル/前期 金 3・4.....	70
基盤英語 ... (工 (知 A))/福田/前期 木 1・2.....	70
基盤英語 ... (工 (知 A))/上野/前期 金 3・4.....	71
基盤英語 ... (工 (知 B))/森岡/前期 木 1・2.....	71
基盤英語 ... (工 (知 B))/藪下/前期 金 3・4.....	71
基盤英語 ... (工 (光))/魚崎/前期 月 5・6.....	71
基盤英語 ... (工 (光))/井上/前期 水 7・8.....	72

主題別英語

主題別英語 ... (総科 ((自然 A2))/井上/前期 火 7・8.....	72
主題別英語 ... (総科 ((自然 B2))/西山/前期 火 7・8.....	72
主題別英語 ... (医 ((看 A2))/宮崎/前期 月 1・2.....	72
主題別英語 ... (医 ((看 B2))/米原/前期 月 1・2.....	73
主題別英語 ... (工 ((建 A2))/宮田/前期 火 1・2.....	73
主題別英語 ... (工 ((建 B2))/上野/前期 火 1・2.....	73
主題別英語 ... (工 ((化 A2))/樋口/前期 火 1・2.....	73
主題別英語 ... (工 ((化 B2))/吉田/前期 火 1・2.....	73
主題別英語 ... (工 ((知 A2))/山田/前期 水 3・4.....	74
主題別英語 ... (工 ((知 B2))/山田/前期 水 3・4.....	74
主題別英語 ... (工 ((光2))/三宅/前期 水 3・4.....	74

発信型英語

発信型英語 ... (総科 ((人社 A2))/スタージ/前期 月 1・2.....	75
発信型英語 ... (総科 ((人社 B2))/パトリック/前期 月 1・2.....	75
発信型英語 ... (総科 ((人社 C2))/福田/前期 月 1・2.....	75
発信型英語 ... (総科 ((人社 D2))/早内-プリングル/前期 月 1・2.....	75
発信型英語 ... (総科 ((人社 E2))/スティーヴンズ/前期 火 7・8.....	76
発信型英語 ... (総科 ((人社 F2))/パトリック/前期 火 7・8.....	76
発信型英語 ... (総科 ((人社 G2))/石田/前期 火 7・8.....	76
発信型英語 ... (総科 ((人社 H2))/マーシェソ/前期 火 7・8.....	76
発信型英語 ... (医 ((栄 A2))/ギェンター/前期 月 3・4.....	77
発信型英語 ... (医 ((栄 B2))/福田/前期 月 3・4.....	77
発信型英語 ... (医 ((放 A2))/スティーヴンズ/前期 月 1・2.....	77
発信型英語 ... (医 ((放 B2))/中西-リンド/前期 月 1・2.....	78
発信型英語 ... (医 (検 2))/フロスト/前期 月 1・2.....	78
発信型英語 ... (歯 (((歯口A2))/マコーマック/前期 水 5・6.....	78
発信型英語 ... (歯 (((歯口B2))/パトリック/前期 水 5・6.....	78
発信型英語 ... (薬 ((薬 A-12))/パトリック/前期 月 3・4.....	79
発信型英語 ... (薬 ((薬 A-22))/フロスト/前期 月 3・4.....	79
発信型英語 ... (薬 ((薬 B-12))/早内-プリングル/前期 月 3・4.....	79
発信型英語 ... (薬 ((薬 B-22))/中西-リンド/前期 月 3・4.....	79
発信型英語 ... (工 ((機 a2))/スティーヴンズ/前期 火 1・2.....	80
発信型英語 ... (工 ((機 b2))/スタージ/前期 火 1・2.....	80
発信型英語 ... (工 ((機 c2))/福田/前期 火 1・2.....	80
発信型英語 ... (工 ((機 d2))/フロスト/前期 火 1・2.....	80
発信型英語 ... (工 ((生 A2))/スティーヴンズ/前期 水 3・4.....	81
発信型英語 ... (工 ((生 B2))/ラックストーン/前期 水 3・4.....	81

全学共通教育 (2009) 〉 前期・【基盤形成科目群】

発信型英語 ... (工 (電 a2))/福田/前期 水 3・4.....	81
発信型英語 ... (工 (電 b2))/パトリック/前期 水 3・4.....	81
発信型英語 ... (工 (電 c2))/中西-リンド/前期 水 3・4.....	82
発信型英語 ... (工 (電 d2))/マコーマック/前期 水 3・4.....	82

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (総科 (人文))/ヘルベルト/前期 月 5・6.....	83
ドイツ語入門 ... (総科 (人文))/井戸/前期 水 1・2.....	83
ドイツ語入門 ... (総科 (社創))/石川/前期 火 3・4.....	83
ドイツ語入門 ... (総科 (社創))/今井/前期 木 1・2.....	83
ドイツ語入門 ... (総科 (総理))/ギュンター/前期 火 3・4.....	84
ドイツ語入門 ... (総科 (総理))/桂/前期 木 1・2.....	84
ドイツ語入門 ... (歯 (歯))/ヘルベルト/前期 月 7・8.....	84
ドイツ語入門 ... (歯 (歯))/桂/前期 火 9・10.....	85
ドイツ語入門 ... (医 (医 A))/曾田/前期 月 9・10.....	85
ドイツ語入門 ... (医 (医 A))/井戸/前期 火 5・6.....	85
ドイツ語入門 ... (医 (医 B))/依岡/前期 月 9・10.....	85
ドイツ語入門 ... (医 (医 B))/桂/前期 火 5・6.....	86
ドイツ語入門 ... (医 (看))/石川/前期 火 9・10.....	86
ドイツ語入門 ... (医 (放検))/ヘルベルト/前期 火 3・4.....	86
ドイツ語入門 ... (医・歯 (栄口))/石川/前期 月 7・8.....	87
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 A))/曾田/前期 火 3・4.....	87
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 B))/井戸/前期 火 3・4.....	87
ドイツ語入門 ... (工 (建))/ギュンター/前期 金 7・8.....	87
ドイツ語入門 ... (工 (機 A))/今井/前期 水 7・8.....	87
ドイツ語入門 ... (工 (機 B))/ヘルベルト/前期 水 7・8.....	88
ドイツ語入門 ... (工 (化))/桂/前期 月 5・6.....	88
ドイツ語入門 ... (工 (生))/石川/前期 水 5・6.....	88
ドイツ語入門 ... (工 (電))/石田/前期 水 7・8.....	89
ドイツ語入門 ... (工 (知))/ギュンター/前期 水 5・6.....	89
ドイツ語入門 ... (工 (光))/ギュンター/前期 月 9・10.....	89

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (薬 (薬 2))/今井/前期 月 7・8.....	89
---------------------------------------	----

ドイツ語 (2)

ドイツ語 (2) ... (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) 入学者)/井戸/前期 火 1・2.....	90
--	----

フランス語入門

フランス語入門 ... (総科 (総科 B))/バルカン/前期 火 3・4.....	91
フランス語入門 ... (総科 (総科 B))/長井/前期 木 1・2.....	91
フランス語入門 ... (総科・医 (総科 A 栄))/田島/前期 月 5・6.....	91
フランス語入門 ... (総科・医 (総科 A 栄))/田島/前期 水 1・2.....	91
フランス語入門 ... (医・歯・薬・工 (医保歯口薬工))/田島/前期 月 9・10.....	92
フランス語入門 ... (医・歯・薬・工 (医保歯口薬工))/田島/前期 火 9・10.....	92

中国語入門

中国語入門 ... (総科 (総科 A))/田中/前期 月 5・6.....	93
中国語入門 ... (総科 (総科 A))/肖/前期 水 1・2.....	93
中国語入門 ... (総科 (総科 B))/肖/前期 月 5・6.....	93
中国語入門 ... (総科 (総科 B))/田中/前期 水 1・2.....	93

全学共通教育 (2009) 〉 前期・【基盤形成科目群】

中国語入門 ... (総科 (総科 C))/邵/前期 火 3・4	94
中国語入門 ... (総科 (総科 C))/肖/前期 木 1・2	94
中国語入門 ... (総科 (総科 D))/肖/前期 火 3・4	94
中国語入門 ... (総科 (総科 D))/邵/前期 木 1・2	95
中国語入門 ... (医・歯・薬 (医歯薬))/田中/前期 月 9・10	95
中国語入門 ... (医・歯・薬 (医歯薬))/施/前期 火 9・10	95
中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄口化光)A))/肖/前期 月 9・10	96
中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄口化光)B))/施/前期 月 9・10	96
中国語入門 ... (医 (保))/荒武/前期 火 3・4	96
中国語入門 ... (工 (建))/山木/前期 金 7・8	96
中国語入門 ... (工 (機))/施/前期 水 7・8	97
中国語入門 ... (工 (生))/肖/前期 水 5・6	97
中国語入門 ... (工 (電 A))/肖/前期 火 9・10	97
中国語入門 ... (工 (電 B))/邵/前期 火 9・10	97
中国語入門 ... (工 (知))/山木/前期 金 5・6	98

中国語初級

日本語

日本語 1 ... (留 (留))/遠藤/前期 月 7・8	99
日本語 3 ... (留 (留))/三隅/前期 月 9・10	99
日本語 7 ... (留 (留))/三隅/前期 火 7・8	99
日本語 5 ... (留 (留))/大石/前期 火 9・10	99

情報科学

情報科学入門 ... (総科 (人文 A))/掛井/前期 木 5・6	101
情報科学入門 ... (総科 (人文 B))/村上/前期 木 5・6	101
情報科学入門 ... (総科 (社創 A))/掛井/前期 水 3・4	101
情報科学入門 ... (総科 (社創 B))/蓮沼/前期 水 3・4	101
情報科学入門 ... (総科 (総理 A))/中山/前期 金 1・2	101
情報科学入門 ... (総科 (総理 B))/蓮沼/前期 金 1・2	102
情報科学入門 ... (医 (医 A))/前田/前期 月 3・4	102
情報科学入門 ... (医 (医 B))/村上/前期 月 3・4	102
情報科学入門 ... (薬 (薬 A))/大橋/前期 火 1・2	102
情報科学入門 ... (薬 (薬 B))/村上/前期 火 1・2	103
情報科学入門 ... (工 (建 A))/鈴木/前期 木 1・2	103
情報科学入門 ... (工 (建 B))/宇野/前期 木 1・2	103
情報科学入門 ... (工 (機 A))/大橋/前期 木 3・4	103
情報科学入門 ... (工 (機 B))/村上/前期 木 3・4	104
情報科学入門 ... (工 (機 C 生 B))/鈴木/前期 木 3・4	104
情報科学入門 ... (工 (電 A))/村上/前期 水 1・2	104
情報科学入門 ... (工 (電 B))/芥川/前期 水 1・2	104
情報科学入門 ... (再履修クラス (再履修クラス))/金西/前期 木 9・10	105

4.1 《英語》 (English)

英語 (English)
基盤英語
Basic English

(総科 (総科))
山内 暁彦 准教授
1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC のリスニング教材を用いることにより、英語のリスニング力を向上させることと、歴史上の特定の個人に関する逸話集を講読することにより、英語の読解力を養うことを目的とする。

【授業の概要】 毎回の授業の前半では、TOEIC のリスニング教材を扱う。付属の CD を聞いてよく予習をした上で授業に臨むこと。後半では『笑う逸話 200』を扱う。このテキストは、有名無名を問わぬ古今東西の歴史上の人物に焦点を当てた逸話集である。「この人にしてこの言あり」というところを味読したい。

【到達目標】 英語を聞き取る力を向上させることと、英語の長文の意味を正確に理解することを目的とする。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. L.1. Around the House 3. L.2. Telephone Talk 4. L.3. Getting There 5. L.4. Hotel Life 6. L.5. Small Talk 7. L.6. Weekends 8. 中間テスト 9. L.7. Stepping Out 10. L.8. Meeting People 11. L.9. Perspectives 12. L.10. Apologizing 13. L.11. Job-Hunting 14. L.12. Resume Writing 15. 前期試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ Sean Mahoney 他著『新・TOEIC テスト リスニングのための基礎演習』(New Essential Listening for the TOEIC Test) 金星堂 2007 年 1,300 円
- ◇ 郡司利男, 高松節子 編注『笑う逸話 200』(200 Anecdotes) 開文社 1991 年 1,300 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185585>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時 ~ 13時)

【備考】 前期 月 5-6 総合科学部 1 年

英語 (English)
基盤英語
Basic English

(総科 (総科))
米原 晶子 非常勤講師
1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語の実用的運用能力をはかる客観式テスト TOEIC (Test of English for International Communication) の受験の準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題、リーディング問題ともに各自が事前学習をして来ることが前提で、教室は答え合わせと解説の場とする。またビデオで簡単な日常会話・旅行会話の慣用表現も学習する。

【キーワード】 TOEIC, 語彙

【到達目標】

1. TOEIC 問題ボタンに慣れる。
2. TOEIC に出てくる語彙、特にビジネス系の語句に習熟する。
3. TOEIC にでてくるビジネス文書に慣れる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. Unit 13 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 西田晴美他『Power Charge for the TOEIC Test』(2009) 金星堂 1950 円

【成績評価の方法】 学期末試験、予習状況、中間試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 必ず予習をして来て下さい。CD 付きテキストですから、リスニング問題は何度でも分かるまで聞いて解答してみして下さい。TOEIC はとにかく忙しい試験で、時間勝負で慣れが必要です。平素のリスニングやボキャビルも欠かせません。ラジオ語学講座は有効です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180787>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 米原 (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはメールで)

英語 (English)
基盤英語
Basic English

(総科 (総科))
ギョウターディルク・非常勤講師
1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。英語を使う自信を高める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Classroom Talk" 3. 単語ミニテスト "School Life" 4. 単語ミニテスト "Family" 5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1" 6. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2" 7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1" 10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Favorites" 12. 単語ミニテスト "Fashion 1" 13. 単語ミニテスト "Fashion 2" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。単位取得のためには (ア)~(オ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英語は「ただの勉強しなければならない事」ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身につけた英語を使ったら、その扉を開ける事が出来ます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180735>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギョウター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
基盤英語
Basic English

(総科 (総科))
山森 直人 准教授/鳴門教育大学
1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 大学において自分自身の専門性を高めるには英語を通して情報を得る技能が必要とされる。それは実社会に出て後も確実に求められていく技能である。そのためにも、日頃から英語の文章に触れ、敏速かつ的確に情報を得る技能を身につけることが重要である。本授業ではそのような情報獲得技能として、受講生の英文速読力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英文読解時の速読力を養うために、必要以上の詳細 (文法や語彙) に固執せずに読み進める力、及び、読解活動中に吸収できた情報を最大限に生かしてテキストの概要を把握できる力、を養うための読解トレーニングを行う。

【キーワード】 英語, リーディング, 速読, 読解

【到達目標】

1. 1 分間 150 語程度の速さで読み、テキストの内容を正確に把握できる。
2. 受講生各人の到達目標は第 1 回授業での実力テストの結果に基づき設定する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション & 実力試験 2. 実力試験の結果と速読方法に関する講義 3. Unit 1,2 その他補助教材 4. Unit 3,4 その他補助教材 5. Unit 5,6 その他補助教材 6. Unit 7,8 その他補助教材 7. Unit 9,10 その他補助教材 8. 中間試験 9. Unit 11,12 その他補助教材 10. Unit 13,14 その他補助教材 11. Unit 15,16 その他補助教材 12. Unit 17,18 その他補助教材 13. Unit 19,20 その他補助教材 14. 速読トレーニングのまとめ 15. 最終試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ Malarcher, Casey, 森田彰, 原田慎一 (編著). INTERMEDIATE Faster Reading - Revised Edition, SEIBIDO. 1,700 円 (税別)
- ◇ その他補助教材を適宜配布

【成績評価の方法】 中間試験 (35%), 最終試験 (35%), 小レポート (20%), 受講姿勢 (10%) をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講生には授業の予習と同時に、授業で学習した内容の定着を図るための復習を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185598>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山森直人 鳴門教育大学 (オフィスアワー: yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(総科 (総科))

樋口友乃 准教授

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC(Test of English for International Communication) の受験準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の出題形式に即した問題を解いていく。

【キーワード】 リスニング、リーディング

【到達目標】 TOEIC の問題形式に慣れる、TOEIC の頻出語彙を身に付ける。

【授業の計画】 1. ガイダンス・各パートの説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. 中間試験 9. Unit 7 10. Unit 8 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Essential Approach for the TOEIC Test -TOEIC テストへのニューアプローチ』 (成美堂)

【成績評価の方法】 成績は中間試験、期末試験、および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185636>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(総科 (総科))

小野原 信善 非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語の総合的基礎学力をつけるため、TOEIC の 400 点 ~ 500 点をめざす。

【授業の概要】 英語の総合的学力をつけるため、4 技能を身につける。

【キーワード】 TOEIC Test, Communication 能力

【到達目標】 話す、聞く、書く、読む、の 4 技能の獲得を目指す。

【授業の計画】 1. 母音、子音、品詞 etc. 2. 慣用句、アナウンス、広告 etc. 3. スピーチ、ニュース報道 etc. 4. Why and How etc. 5. TOEIC Test について

【教科書】 MY first TOEIC Test, New Version (Asahi Press, 2009) Syougo Mitutoshi 他著

【成績評価の方法】 学期末試験、平常の授業での取り組み状態などで、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無 (平常の授業を重視するため)

【受講者のメッセージ】 本授業では、「TOEIC 準備」のオリエンテーションも行う。また日常の授業で積極的に対応すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185566>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 小野原 (オフィスアワー: 火曜日の休憩時間 非常勤講師控室)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(総科 (総科))

吉田 文美 准教授

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて体系的に学ぶ。同時に、基本的な語彙、文章読解力を身につける。

【授業の概要】 英語のポピュラーソングを用いて、英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて学ぶ。加えて、取り上げられる歌の内容や歌手についての短い解説文の読解をする。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 popular songs, Listening and Pronunciation Training

【到達目標】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスに慣れ、日常会話などの聞き取りがある程度できること。

【授業の計画】 1. Class Guidance & Warm-Up Unit 2. Unit 1 英語は強弱のリズム/ Sailing (Rod Stewart) 3. Unit 2 つながって変化

する音 (1) / Wild Child (Enya) 4. Unit 3 つながって変化する音 (2) / Selfish ('NSYNC) 5. Unit 4 聞こえなくなる音 (1)/ I Want It That Way (Backstreet Boys) 6. Unit 5 聞こえなくなる音 (2)/ There You'll Be (Faith Hill) 7. Unit 6 聞こえなくなる音 (3)/ On Bended Knees (Boyz II Men) 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 つながる音 (1) / I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears) 10. Unit 8 つながる音 (2)/ Hard to Say I'm Sorry (Chicago) 11. Unit 9 短くなる音 (1)/ All the Love in the World (The Corrs) 12. Unit 10 短くなる音 (2)/ Heart of Mine (Boyz Scaggs) 13. Unit 11 短くなる音 (3)/ Goodbye Yellow Brick Road (Elton John) 14. Unit 12 弱くなる音/ Wind beneath My Wings (Bette Midler) 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Reviews

【教科書】 Nobuhiro Kumai & Stephen Timson. Top of the Pops Listening. Macmillan Languagehouse, 2005. ¥2,100 (tax included).

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に 2 回の Listening&Reading Test をする他に、授業中に各 Unit について的小テスト (単語および慣用語のテスト) も実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者のメッセージ】 同じ教員が担当する基盤英語は、すべて同じ内容です。重複受講はできません。特に基盤英語を再受講する人は、注意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180763>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(総科 (総科))

森岡 芳洋 教授

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語運用能力の基盤的要素である音声的側面について、いくつかの現象に分けて注目し、聴解力を高める。

【授業の概要】 音声英語において、音の連なりが示す現象をいくつかの側面に分けて注目し、穴埋めや英文の完成などの演習を重ねることにより、聞き取り能力の向上、ひいては正確な内容把握をめざす。

【キーワード】 音声英語、音の連なり、穴埋め、英文の完成、内容把握

【到達目標】 音声英語における音の連なり把握向上

【授業の計画】 1. 導入 2. 音の弱化 (1) 3. 音の弱化 (2) 4. 音の短縮 (1) 5. 音の短縮 (2) 6. 音の消失 7. 音の同化 (1) 8. 音の同化 (2) 9. 音の連結 (1) 10. 音の連結 (2) 11. 音の連結 (3) 12. 音声変化 (1) 13. 音声変化 (2) 14. 音の抑揚 (1) 15. 音の抑揚 (2) 16. 総括

【教科書】 田中、尾形、三幣、濱口 (編) 『音の理解からコミュニケーションへ』 (2007) 朝日出版 1,400 円

【成績評価の方法】 演習参加と期末試験による。

【再試験の有無】 再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180777>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:50~ 14:20)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(総科 (総科))

田中 孝雄 教授/四国大学

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 イギリス伝承バラッドを鑑賞し、同時にイギリスという国やイギリスでの日常生活についての基本的な知識を習得する。

【授業の概要】 イギリス伝承バラッドの代表的な作品 20 篇を鑑賞して、イギリス庶民の日常生活の喜怒哀楽の情を理解する。ロンドンを中心に、イギリス人の衣食住の生活について考える。

【キーワード】 イギリス伝承バラッド、イギリス、生活習慣

【到達目標】 イギリス伝承バラッドを鑑賞し、イギリス文化を理解する。

【授業の計画】 1. TOEIC TEST の全般的解説 2. Barbara Allen, The Gypsy Laddies 3. The Two Brothers, Sir Patrick Spens 4. UK & the British people 5. Edward, Riddles Wisely Expounded 6. The Trooper and the Maid, Dowie Dens of Yarrow 7. Climate and Weather 8. The Daemon lover, The Gardener 9. Little Musgrave and Lady Barnard, The Twa Corbies 10. British Food 11. Lady Maisry, The Wife Wrapped in Wether's Skin 12. Rare Willie, Lord

Randal, Mill of Tifty's Annie 13. Housing & Pubs 14. Thomas Rhymmer, Johnnie Cock, John of Hazelgreen 15. 試験 16. 総括事業
【教科書】 中島久代他編注 『イギリス伝承バラッド』 英光社 2008 年 1,800 円+税
【参考書等】 安東伸介他著 『イギリスの生活と文化事典』 研究社出版 1983 年
【成績評価の方法】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。
【再試験の有無】 無
【受講者へのメッセージ】 毎回, 出される課題を準備し積極的に発表することが期待されます。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180745>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 田中 (オフィスアワー: 学外なのでオフィスアワーは利用できないが, Eメールでの相談, 指導は時間を問わず可能である。E-mail: takao-tanaka@shikoku-u.ac.jp 四国大学第二文学館(L602), Tel 088-665-1300(内線2371))

英語 (English)
基盤英語 (総科(総科))
 Basic English 井上永幸 教授
 1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『英語(1)』)

【授業の目的】 英語の基礎的語学力の向上, 及び英語を通して英米の文化に対する理解を深めることを目的とする。
【授業の概要】 1. 指定のテキストを使って日常英語に関する小テストを毎回行う。2. 「水を出す」, 「ぬれた手をふく」など, 基礎的な日常英語を扱ったプリントを学習する。3. 日常英語を扱った読みものを学習する。〔予習が必要〕4. 英文法・英語表現に関するワークシートを学習する。〔予習が必要〕5. 日常英語を扱った笑い話を楽しむ。
【到達目標】 日常英語を理解し, 基礎的な英語表現を受信・発信できる。
【授業の計画】 1. 授業概要説明 2. 日常英語(1) 3. 日常英語(2) 4. 日常英語(3) 5. 日常英語(4) 6. 日常英語(5) 7. 日常英語(6) 8. 日常英語(7) 9. 日常英語(8) 10. 日常英語(9) 11. 日常英語(10) 12. 日常英語(11) 13. 日常英語(12) 14. 日常英語(13) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 未定。適宜プリントも配布する。
【参考書等】 井上永幸・赤野一郎 編(2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版。三省堂。
【成績評価の方法】 試験, 予習状況, 小テストなどにより総合的に評価する。
【再試験の有無】 無
【受講者へのメッセージ】 必ず予習をしてくること。また, 授業には辞書を持参すること。電子辞書ではなく紙の辞書を強く薦める。コンサイス版やポケット版の辞書は不可。
【WEB 頁】 <http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180727>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 井上 (2302, 088-656-7125, inoue@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 14:35-16:05 井上研究室(総合科学部 1 号館 3 階))

英語 (English)
基盤英語 (総科(総科))
 Basic English 山田仁子 准教授
 1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『英語(1)』)

【授業の目的】 英語を聞き取る力を高める。語彙の数も増やす。
【授業の概要】 アメリカ ABC 放送のニュース番組を用いて, 英語を聞き取る力を高める。また語彙や重要表現を確実に身につけていく。自習用 DVD がテキストに付いているので, 受講生は授業時間以外にも, この DVD を用いて予習復習することを求められる。
【キーワード】 Listening Comprehension, Vocabulary Building
【到達目標】
 1. 英語を聞いて内容を理解できるようになる。
 2. 語彙力を高める。
【授業の計画】 1. 授業について説明 2. Unit 1 Water: How Much to Drink? 3. Unit 2 Amazing New Hybrid Cars 4. Unit 3 Critical Vote: Latinos 5. Unit 4 Homeschool Battle 6. Unit 5 Jumping for Joy: Female Olympic Jumpers 7. Unit 6 Top of the World 8. 中間試験 9. Unit 7 The King's Academy 10. Unit 8 The Right to Own Guns 11. Unit 9 Golden Oldies 12. Unit 10 Power of 2: Eat Less Beef and Get an Energy Audit 13. Unit 12 Trouble in the

Sky: Southwest Airlines 14. Unit 14 Food Crisis 15. 期末試験 16. 総括授業
【教科書】 DVD で学ぶ ABC ニュースの英語 11 (金星堂)
【成績評価の方法】 2 回のテスト, 出席状況, 予習の程度, 授業中の発表などを総合的に評価する。
【再試験の有無】 なし。
【受講者へのメッセージ】 予習を前提に進めます。予習も成績に反映されます。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180766>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 9:30~10:30)

英語 (English)
基盤英語 (総科(総科))
 Basic English 山内暁彦 准教授
 1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『英語(1)』)

【授業の目的】 TOEIC のリスニング教材を用いることにより, 英語のリスニング力を向上させることと, 歴史上の特定の個人に関する逸話集を講読することにより, 英語の読解力を養うことを目的とする。
【授業の概要】 毎回の授業の前半では, TOEIC のリスニング教材を扱う。付属の CD を聞いてよく予習をした上で授業に臨むこと。後半では『笑う逸話 200』を扱う。このテキストは, 有名無名を問わず古今東西の歴史上の人物に焦点を当てた逸話集である。「この人にしてこの言あり」というところを味読したい。
【到達目標】 英語を聞き取る力を向上させることと, 英語の長文の意味を的確に理解することを目的とする。
【授業の計画】 1. イントロダクション 2. L.1. Around the House 3. L.2. Telephone Talk 4. L.3. Getting There 5. L.4. Hotel Life 6. L.5. Small Talk 7. L.6. Weekends 8. 中間テスト 9. L.7. Stepping Out 10. L.8. Meeting People 11. L.9. Perspectives 12. L.10. Apologizing 13. L.11. Job-Hunting 14. L.12. Resume Writing 15. 前期試験 16. 総括授業
【教科書】
 ◇ Sean Mahoney TOEIC (New Essential Listening for the TOEIC Test) 2007 1,300
 ◇ 郡司利男, 高松節子 編注『笑う逸話 200』(200 Anecdotes) 開文社 1991 年 1,300 円
【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および平常点 (10%) により総合的に評価する。
【再試験の有無】 有
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185594>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時 ~ 13 時)

英語 (English)
基盤英語 (総科(総科))
 Basic English 宮崎隆義 教授
 1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『英語(1)』)

【授業の目的】 外国語の理解と習得は, 今や国際的な交流や相互の理解に不可欠なことは言うまでもないが, 言葉は単なるコミュニケーションのための道具ではない。言葉は, それを使う人々の考え方や文化の基礎を成すものであって, 言葉を理解することは, その言葉を使う人々が, 外界の事象をどのように捉えているかを理解することであり, その人々の考え方や文化を理解することに通ずる。大学入学時までの力を確認しつつ, 大学において必要な基盤となる英語の力をつけることを目的とするが, 同時に英語という言葉をじっくりと味わうことによつて, 英語を使う人々の考え方やその文化も理解したい。
【授業の概要】 大学における英語力習得の基盤となるよう, TOEIC 等の資格試験の準備学習を交えつつ, 英語の文章を読み書くことを通じて英語の構造に目を向けながら, 英語の力を総合的に高める。
【キーワード】 TOEIC, 英語の構造, 総合英語, ライティング
【到達目標】
 1. 英語の構造を主にライティングを通して概括的に理解する。
 2. 英語の 4 技能を伸ばすための基盤を作る。
【授業の計画】 1. Chapter 1: Differences in Greetings between Japan and West 2. Chapter 2: Which is More Difficult, English or Japanese? 3. Chapter 3: Different Ways of Thinking: Sense of Identity 4. Chapter 4: Mysteries of Alphabet and Kanji 5. Chapter 5: Laughing in Culture and Science 6. Chapter 6: Different Americans and the Same Japanese 7. Chapter 7: Japanese Outlook on Religions 8. Chapter 8: Compact Culture in Japan 9. Chapter 9: Life after

Death: Differences between Christianity and Buddhism 10. Chapter 10: Aging Society with the Declining Birthrate 11. Chapter 11, 12: Right Culture and Left Culture; Foot Culture and Hand Culture 12. Chapter 13: What labor Means in Japan and the West 13. Chapter 14: Westernization of Japan and the Japanese Culture 14. Chapter 15: English Education in Japan and Why Japanese Are Poor at English 15. Final Exam(期末試験) 16. Overview (総括)

【教科書】石井隆之, 他. 『日英おもしろ文化比較』. 朝日出版社, 1700 円

【参考書等】参考書等については適宜紹介し, 他にプリント等も用意する.

【成績評価の方法】授業への取り組み状況, 小テスト, 期末試験の結果等を総合的に判断し単位認定の評価とする.

【再試験の有無】有り

【受講へのメッセージ】日々の積み重ねを重視してください.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180755>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日12時~13時)

15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります.

【成績評価の方法】(ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席. 単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります. (ア~オ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です.

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】英語は“ただの勉強しなければならない事”ではなく, 言葉通り「世界への扉」です. 授業によく参加して, 遠慮せずに身につけた英語を使ったら, その扉を開ける事が出来ます. 教室でお会いするのを楽しみにしています.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180736>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター. (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または, 希望により他の時間にも))

【備考】連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(医 (医 B))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/総合科学部

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 a) To develop listening skills b) To enjoy reading c) To improve communication skills

【授業の概要】 The class will begin with a dictation to be done in pairs. Then students will do communication games. Finally we will discuss a newspaper article.

【到達目標】 Students will develop skills in grammar, spelling, listening, reading and oral communication

【授業の計画】 1. Dictation, Current Events 2. Dictation, Current Events 3. Dictation, Current Events 4. Dictation, Current Events 5. Dictation, Current Events 6. Dictation, Current Events 7. Dictation, Current Events 8. Dictation, Current Events 9. Dictation, Current Events 10. Dictation, Current Events 11. Dictation, Current Events 12. Dictation, Current Events 13. Dictation, Current Events 14. Dictation, Current Events 15. Test 16. Review

【教科書】 n/a

【成績評価の方法】 Weekly dictations, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation

【受講へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180744>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(医 (医 C))

スタージナルド・講師/総合科学部

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises.

【キーワード】 Basic English

【到達目標】 The aim of this course is to improve the student's ability to use basic English to communicate in a variety of formal and informal situations.

【授業の計画】 1. Course Introduction 2. Self-Introduction 3. Discussion 4. Class Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Class Presentation 8. Discussion 9. Mid Term Examination 10. Discussion 11. Discussion 12. Discussion 13. Class Presentation 14. Video Exercise 15. Final Examination 16. Review

【教科書】 [] There will be teacher handouts and text materials created by students.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(総科 (総科))

坂田浩・准教授/国際センター

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 自ら英語学習を計画し, 試行錯誤しながら学習に取り組む

【授業の概要】 本授業では, 「セルフコーチング」の考えに基づき, 学習者自らが「学習目標」を設定し, その目標に向かうための「行動を計画」および「評価と見直し」を行う. これら一連のプロセスは, 長期的な英語学習を進めていくための重要な基盤であると考え.

【キーワード】 自律学習, セルフコーチング, 英語やる気 UP ワークシート

【到達目標】

1. 自らの学習目標を設定することが出来る.
2. 学習目標を達成するための計画を立てることが出来る.
3. 学習計画を実行することが出来る.
4. 定期的に計画計画を評価することが出来る.
5. 定期的な評価を基に, 学習計画および学習目標を修正することが出来る.

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 「こうなりたい!」を考える 3. 学習目標を立てる 4. エネルギー源を探る 5. 学習計画を立てる 6. 「やる気が出ない時」への対応 7. 学習目標・計画を評価&修正する 8. 自律学習実習 (1) 9. 自律学習実習 (2) 10. 自律学習実習 (3) 11. 目標と計画の評価 (1) 12. 自律学習実習 (3) 13. 自律学習実習 (4) 14. 自律学習実習 (5) 15. 目標と計画の評価 (2), 全体評価 16. まとめ

【教科書】 適時教員および学生が準備

【成績評価の方法】 教員からの評価 (30%), 学生の自己評価 (40%), 各種レポート (30%)

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 ・4 回以上, 本授業を欠席した場合は, 成績は出ません.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180775>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(医 (医 A))

ギュンターディルク・非常勤講師

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める.

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める.

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】 英語で話したり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす, 英語を使う自信を高める.

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Classroom Talk" 3. 単語ミニテスト "School Life" 4. 単語ミニテスト "Family" 5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1" 6. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2" 7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1" 10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Favorites" 12. 単語ミニテスト "Fashion 1" 13. 単語ミニテスト "Fashion 2" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.
【受講者のメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180741>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ スタージ (総合科学部 1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)
【備考】 This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.

英語 (English)
基盤英語
 Basic English

(医 (栄))
 森岡 芳洋 教授
 1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 聴解力の基盤を養い、語彙を増大させることを目的とする。
【授業の概要】 映像と音声の両方で提供される、様々な話題を扱う教材を利用して、関連する練習問題を解き、特に、文脈の中での語句の使われ方に注目し、文法的役割も理解しつつ、語彙の拡大を目指す。
【キーワード】 popular songs, Listening and Pronunciation Training
【到達目標】 聴解力の基盤養成と語彙の拡大
【授業の計画】 1. Introduction 2. The Flying Trapeze 3. National Parks 4. Horror Movies 5. The Miami Seaquarium 6. Wine Country 7. Animation 8. Midterm 9. Creating New Music 10. Movie Commercials 11. Digital Actors 12. The Smithsonian Folklife Festival 13. The Piano 14. Surfer Girl 15. Review 1 16. Review 2 17. Summary
【教科書】 John S. Lander (編著) Video Magazine, Vol 2 (2009) 朝日出版 1,800 円+税
【参考書等】 折々に提示します。
【成績評価の方法】 演習参加と期末試験による。
【再試験の有無】 再試験
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185593>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:50~14:20)

英語 (English)
基盤英語
 Basic English

(医 (栄))
 樋口 友乃 准教授
 1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC(Test of English for International Communication) の受験準備を目的とする。
【授業の概要】 TOEIC の出題形式に即した問題を解いていく。
【キーワード】 リスニング、リーディング
【到達目標】 TOEIC の問題形式に慣れる。TOEIC の頻出語彙を身に付ける。
【授業の計画】 1. ガイダンス・各パートの説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. 中間試験 9. Unit 7 10. Unit 8 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業
【教科書】 『Essential Approach for the TOEIC Test—TOEIC テストへのニューアプローチ』(成美堂)
【成績評価の方法】 成績は中間試験、期末試験、および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。
【再試験の有無】 無
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185638>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
基盤英語
 Basic English

(医 (保 A))
 小野原 信善 非常勤講師/全学共通教育センター
 1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語の総合的基礎学力をつけるため、TOEIC の 400 点 ~ 500 点をめざす。

【授業の概要】 英語の総合的学力をつけるため、4 技能を身につける。
【キーワード】 TOEIC Test, Communication 能力
【到達目標】 話す、聞く、書く、読む、の 4 技能の獲得を目指す。
【授業の計画】 1. 母音、子音、品詞 etc. 2. 慣用句、アナウンス、広告 etc. 3. スピーチ、ニュース報道 etc. 4. Why and How etc. 5. TOEIC Test について
【教科書】 MY first TOEIC Test , New Version (Asahi Press, 2009) Syougo Mitutoshi 他著
【成績評価の方法】 学期末試験、平常の授業での取り組み状態などで、総合的に評価する。
【再試験の有無】 無 (平常の授業を重視するため)
【受講者のメッセージ】 本授業では、「TOEIC 準備」のオリエンテーションも行う。また日常の授業で積極的に対応すること
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180732>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 小野原 (オフィスアワー: 火曜日の休憩時間 非常勤講師控室)

英語 (English)
基盤英語
 Basic English

(医 (保 A))
 山田 紀美 非常勤講師
 1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 身近な話題をテーマに、段階的に TOEIC の形式に慣れていく。並行して、看護の現場に必要な、語彙や表現を学ぶ
【授業の概要】 テキストは、単なる練習問題ではなく、各ユニット、日常の場面に即したテーマに基づいて構成されており、3 段階に分かれている: Step 1 チャンツを用いた基本的な語彙や表現、文法の確認、Step 2 TOEIC の出題傾向をつかむための基本問題、Step 3 TOEIC とほぼ同じ出題形式の実践問題。学生用 CD が付いているので、予習、復習をして練習量を増やす。また、TOEIC 対策と並行して、看護に必要な基本的英語の学習も行う。教材は、その都度配布する。
【キーワード】 TOEIC, 看護, 医療
【到達目標】 TOEIC の形式になれ、英語の運用能力を高める。看護の現場で用いられる英語に親しむ。
【授業の計画】 1. Unit 1・2 Parties & Events / Facilities in the Hospital 病院施設 2. Unit 4・5 Travel / Body Parts 身体の一部 3. Unit 4・5 Travel / Body Parts 身体の一部 4. Unit 6・7 Hotel & Restaurant / Medical Terminology 医療専門用語の構造 5. Unit 8・9 Advertisement / Patients' Units 入院患者の身の回り 6. Unit 10 Airport & Airplanes / Patient Observation and Vital Signs 患者の観察とバイタル・サイン 7. Unit 11 Shopping / Patient Comfort 安楽への援助 8. Unit 12 Training & Education / Patient Positioning and Transferring 体位変換と移動助 9. Unit 13 Management / Medication 与薬 10. Unit 14 Hospital / Critical Care (ER & ICU) 救急看護 11. Unit 15 Complaints / Perioperative Care 周手術期ケア 12. Unit 16・17 Meeting / Chronic Care Nursing 慢性期看護 13. Unit 18 Shopping & Delivery / Cancer Nursing がん看護 14. Unit 19 News & Weather / Pregnancy, Childbirth & Pediatric Nursing 妊娠、出産と小児看護 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST Step 2 Intermediate course. TOEIC テストステップ式徹底演習<中級>編 著者:鈴木希明 辰巳友昭 小山克明 発行:アルク 2100 円
【参考書等】 [参考資料] 看護師たまごの英語 40 日間ワークブック
【成績評価の方法】 授業への取り組み、小テスト、定期試験などにより総合的に評価
【再試験の有無】 有
【受講者のメッセージ】 予習を前提とする。自宅で、練習問題の一部を毎回してきてもらう予定。なお、シラバスの内容は、学生の学習進度により、変更することがある。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180764>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 山田 (オフィスアワー: 山田(yamada@eye-yamada.com) 学科, 氏名をタイトルに入れて送ってください。)

英語 (English)
基盤英語
 Basic English

(医 (保 B))
 石田 メグ 非常勤講師
 1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English.

【授業の計画】 1. OUTLINE 2. It's nice to meet you 3. Who are they talking about? 4. When do you start? 5. Where does this go? 6. Where is it? 7. Tell me what happened

【教科書】 No textbook is needed but you do need a Japanese English dictionary. Handouts will be provided each week.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in class. Be present and participate. The contents of this class are subject to change due to the level and interests of the participating students.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180723>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 石田 .

【授業の目的】 リスニングやリーディングを通じて、総合的な英語運用能力を図る。

【授業の概要】 TOEIC テストの問題形式に対応した教科書を用い、「読解力」の向上を目指す。さらに、リスニングの演習を取り入れ、リスニング技能の育成にも力を入れる。

【キーワード】 フレーズリーディング、パラグラフリーディング、フレーズリスニング、イントネーション、リズム

【到達目標】 TOEIC テストの形式に慣れ、リスニングやリーディングの演習を通じて、総合的な英語運用能力の向上を図る。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 物の位置と状態、広告文 3. 電話での会話、数、スピーチ、図表の読み方 4. 人物の動作と様子、図表と文書 5. 日常会話、雑誌・新聞の記事 6. 建物・乗り物と周りとの関係、人材募集と応募 7. 同僚とのやりとり、お知らせ 8. 人物の様子、説明文とレシビ 9. ビジネス会話 10. 社内文書、ガイドの説明 11. 写真の描写 12. ビジネスレター 13. オフィス内の会話 14. ニュース、取り扱い説明書 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 Effective Approaches to the TOEIC® Test (TOEIC® テスト: スコアアップのための総合英語)(2009) 田中清美・和田ゆり編 南雲堂

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、演習参加状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 外国語の習得には、自主的な動機付けと継続が必要です。授業だけでなく、あらゆる機会を通じて英語の音声や文章に慣れ親しんで下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180750>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 西山 . (オフィスアワー: 授業の前後)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(医 (保 B))

中西・リンドルイーズ・非常勤講師
1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class seeks to foster an interest in English through a variety of activities.

【授業の概要】 Students have a degree of autonomy and can structure projects to reflect their main study area. All classes will be conducted in English.

【キーワード】 Participation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading, syllabus explained 2. Begin non-fiction book. Form groups allocate roles. 3. Review, read, discuss, summarise 4. Review, read, discuss, summarise 5. Review, read, discuss, summarise 6. Start presentation project planning topic sourced from the non-fiction book. 7. Presentation preparation (focus according to specific major) 8. Presentation preparation continued. 9. Presentation Day 10. Pair conversation planning and preparation. 11. Pair conversation presentation. 12. Newspaper Assignments: discussion, preparation of materials 13. Newspaper Assignments: preparation 14. Newspaper Assignments: presentations 15. Final Test

【教科書】 Student generated material, Oxford University Press non-fiction reader (TBA), newspaper articles

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, interviews, assignments, reader reports and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note-taking. Join in, have fun and your English will improve.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180780>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 中西・リンド .

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(医 (保 C))

西山 高子・非常勤講師
1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(医 (保 C))

吉田 文美・准教授
1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて体系的に学ぶ。同時に、基本的な語彙、文章読解力を身につける。

【授業の概要】 英語のポピュラーソングを用いて、英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて学ぶ。加えて、取り上げられる歌の内容や歌手についての短い解説文の読解をする。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんど、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 popular songs, Listening and Pronunciation Training

【到達目標】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスに慣れ、日常会話などの聞き取りができる程度までできること。

【授業の計画】 1. Class Guidance & Warm-Up Unit 2. Unit 1 英語は強弱のリズム/ Sailing (Rod Stewart) 3. Unit 2 つながって変化する音 (1) / Wild Child (Enya) 4. Unit 3 つながって変化する音 (2) / Selfish (*NSYNC) 5. Unit 4 聞こえなくなる音 (1)/ I Want It That Way (Backstreet Boys) 6. Unit 5 聞こえなくなる音 (2)/ There You'll Be (Faith Hill) 7. Unit 6 聞こえなくなる音 (3)/ On Bended Knees (Boyz II Men) 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 つながる音 (1) / I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears) 10. Unit 8 つながる音 (2)/ Hard to Say I'm Sorry (Chicago) 11. Unit 9 短くなる音 (1)/ All the Love in the World (The Corrs) 12. Unit 10 短くなる音 (2)/ Heart of Mine (Boyz Scaggs) 13. Unit 11 短くなる音 (3)/ Goodbye Yellow Brick Road (Elton John) 14. Unit 12 弱くなる音/ Wind beneath My Wings (Bette Midler) 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Reviews

【教科書】 Nobuhiro Kumai & Stephen Timson. Top of the Pops Listening. Macmillan Languagehouse, 2005. ¥2,100 (tax included).

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に 2 回の Listening&Reading Test をする他に、授業中に各 Unit について的小テスト (単語および慣用句のテスト) も実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly short tests (30%).

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者へのメッセージ】 同じ教員が担当する基盤英語は、すべて同じ内容です。重複受講はできません。特に基盤英語を再受講する人は、注意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185591>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(医・歯 (医 a(歯口)A-1))
中西-リンドル イーズ・非常勤講師
1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class seeks to foster an interest in English through a variety of activities.

【授業の概要】 Students have a degree of autonomy and can structure projects to reflect their main study area. All classes will be conducted in English.

【キーワード】 Participation.

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading, syllabus explained 2. Begin non-fiction book. Form groups allocate roles. 3. Review, read, discuss, summarise 4. Review, read, discuss, summarise 5. Review, read, discuss, summarise 6. Start presentation project planning topic sourced from the non-fiction book. 7. Presentation preparation (focus according to specific major) 8. Presentation preparation continued. 9. Presentation Day 10. Pair conversation planning and preparation. 11. Pair conversation presentation. 12. Newspaper Assignments: discussion, preparation of materials 13. Newspaper Assignments: preparation 14. Newspaper Assignments: presentations 15. Final Test

【教科書】 Student generated material, Oxford University Press non-fiction reader (TBA), newspaper articles

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, projects and assignments and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note-taking. Join in, have fun and your English will improve.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180748>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 中西-リンドル

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(医・歯 (医 b(歯口)A-2))
マーシェソ ジェラルド / 鴨門教育大学
1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class will focus on primarily on listening, speaking and writing. Students will complete a variety of integrated tasks to improve their General English ability

【授業の概要】 This class will require students to complete theme-based integrated tasks. Themes will include “language learning” “Drawing conclusions based on subjective opinions” “Cities and places around the world” and “vacations”.

【到達目標】 The purpose of this class is to improve students’ basic English skills. The syllabus will be task based. Tasks will be integrated, targeting a variety of discrete skills. Grammar and vocabulary items will be addressed, but they will be viewed as subservient to meaning, rather than generative and devoid of context. The communicative aspect of language will be at the forefront.

【授業の計画】 1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher 2. Discussing language learning strategies and goals 3. Pronunciation workshop 4. How to take point form notes effectively 5. Using past tense to talk about events 6. Language for cause and effect, drawing conclusions 7. Expressing cause and effect in writing, developing a written argument 8. Preparation for presentations 9. Presentations 10. Using adjectives and descriptive language to describe cities and places 11. Describing your hometown, describing other cities 12. Pragmatically correct usage of various past tenses 13. Describing a vacation you have taken 14. Test practice 15. Test 16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Presentation: 25 Written assignment: 25 Speaking test: 25 Participation, attendance and preparation: 25

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a general English course and will focus on many English skills in an integrated way. You have already learned a lot

of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English ‘packed’ inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points. Good luck, work hard and have fun

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180751>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ マーシェソ

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(医・歯 (医 c(歯口)B-1))
福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター
1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 前半で学習スタイル・学習目標の見出し方等を理解し、後半は試行錯誤しながら、個人の学習目標に励む。

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付けると述べている。英語の勉強に終わりはないと理解して欲しい。授業外、講義が終わっても、学習を継続しなければ、今までの英語の学習で得たものが台無しになる。そのために、当講義のシラバスの目標・目的に「学習する内容、個人の目標を見出し、学習する」ことを定めている。多くの場合は6年間ぐらい教員にいろいろ決められたせいで、いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれない。しかし、心配ない。本講義で教員の支援・カウンセリングを受けながら進めていく段階的なものであるため、徐々に自律ができることを促進する。

【到達目標】 自分が英語で「できる・できない」ことを考え、学習スタイル・目標を見出し、これから大学の生活の中で英語学習を続けられること。

【授業の計画】 1. 英語学習のステレオタイプとは 第7回:個人学習プランにあった教材を選択・紹介 2. 英語で「できる・できない」ことを考える 3. 英語学習の将来像を考える・コミュニケーション活動 4. 個人学習スタイルを見出す・コミュニケーション活動 5. 個人学習プランの作成・コミュニケーション活動 6. 個人学習プランを作成・コミュニケーション活動 7. 個人学習プランにあった教材を選択・紹介 8. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 9. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 10. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 11. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 12. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 13. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 14. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 15. 最終評価 16. まとめ・振り返り

【教科書】 前もって買う必要はない。後に、個人学習プランにより、必要に応じて買う

【参考書等】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 個人学習プラン・目標と一致した評価法 (レポート・試験・プレゼン等) になる。教員との学習カウンセリングの際に選択。仮評価:40%は個人学習プラン 30%は宿題 (第1回~6回の小レポート) 30%は個人が選ぶ最終評価

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業は学生のレベル・興味・関心に合わせ、教員と学生が出会う前に授業の内容を決めることはできないため、シラバスは曖昧と感じるかもしれない。しかし、初回までに学習したいこと及び目標を考えるとよりよいでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185635>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(医・歯 (医 d(歯口)B-2))
ギンターディルク・非常勤講師
1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。
【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める。
【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化
【到達目標】
 1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
 2. 英語を使う自信を高める。
【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Classroom Talk" 3. 単語ミニテスト "School Life" 4. 単語ミニテスト "Family" 5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1" 6. "単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2" 7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship" 8. 中間テスト 9. 'Just Talk 1' 10. 'Just Talk 2' 11. 単語ミニテスト "Favorites" 12. 単語ミニテスト "Fashion 1" 13. 単語ミニテスト "Fashion 2" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。
【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~オ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。
【再試験の有無】 無
【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180733>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))
【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
基盤英語 (歯(歯口))
 Basic English 宮田 政徳・准教授/大学開放実践センター
 1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(1)』)
【授業の目的】 国際語としての英語の実用的運用能力をつけるために、TOEIC (=Test of English for International Communication) 受験対策を目的とする。
【授業の概要】 TOEIC 試験問題をテーマ別に扱い、そのテーマに関連する語彙を覚えながら、文法項目も項目別に確認し、リスニング問題とリーディング問題の解答を探して行く。
【キーワード】 トーイック試験
【到達目標】
 1. TOEIC に出てくる日常会話とビジネス関連の語彙が理解できる
 2. TOEIC に出てくる文法項目が理解できる。
 3. TOEIC のリスニング、リーディング問題に正しく解答できる
【授業の計画】 1. Introduction 2. Lesson 1: Outdoor Sports (1) 3. Lesson 2: Outdoor Sports (2) 4. Lesson 3: Job Hunting (1) 5. Lesson 4: Job Hunting (2) 6. Lesson 5: At the Office (1) 7. Lesson 6: At the Office (2) 8. Lesson 7: Working Conditions (1) 9. Lesson 8: Working Conditions (2) 10. Lesson 9: Being Transferred (1) 11. Lesson 10: Being Transferred (2) 12. Lesson 11: Travel and Package Tours (1) 13. Lesson 12: Travel and Package Tours (2) 14. Lesson 13: Films (1) 15. 期末試験 16. 期末試験の振り返り
【教科書】 新 TOEIC テスト:ポイント攻略; ジム・クヌードセン (南雲堂, 2007 年, 2000 円)
【成績評価の方法】 学期末試験 (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。
【再試験の有無】 有り
【受講へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回出席すること。またテキストの問題は必ず予習して解いて来ること。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185580>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16:10~17:00)

英語 (English)
基盤英語 (薬(薬 A))
 Basic English 井上 永幸 教授
 1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 英語の基礎的語学力の向上、及び英語を通して英米の文化に対する理解を深めることを目的とする。
【授業の概要】 1. 指定のテキストを使って日常英語に関する小テストを毎回行う。 2. 「水を出す」、「ぬれた手をはたく」など、基礎的な日常英語を扱ったプリントを学習する。 3. 日常英語を扱った読み物を学習する。〔予習が必要〕 4. 英文法・英語表現に関するワークシートを学習する。〔予習が必要〕 5. 日常英語を扱った笑い話を楽しむ。
【到達目標】 日常英語を理解し、基礎的な英語表現を受信・発信できる。
【授業の計画】 1. 授業概要説明 2. 日常英語 (1) 3. 日常英語 (2) 4. 日常英語 (3) 5. 日常英語 (4) 6. 日常英語 (5) 7. 日常英語 (6) 8. 日常英語 (7) 9. 日常英語 (8) 10. 日常英語 (9) 11. 日常英語 (10) 12. 日常英語 (11) 13. 日常英語 (12) 14. 日常英語 (13) 15. 試験 16. 総括授業
【教科書】 未定。適宜プリントも配布する。
【参考書等】 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版, 三省堂。
【成績評価の方法】 試験, 予習状況, 小テストなどにより総合的に評価する。
【再試験の有無】 無
【受講へのメッセージ】 必ず予習をしてくること。また、授業には辞書を持参すること。電子辞書ではなく紙の辞書を強く薦める。コンサイス版やポケット版の辞書は不可。
【WEB 頁】 <http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185561>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 井上 (2302, 088-656-7125, inoue@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 14:35-16:05 井上研究室(総合科学部 1 号館 3 階))

英語 (English)
基盤英語 (薬(薬 B))
 Basic English ギュンターテイルク 非常勤講師
 1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(1)』)
【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。
【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める。
【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化
【到達目標】
 1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
 2. 英語を使う自信を高める。
【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Classroom Talk" 3. 単語ミニテスト "School Life" 4. 単語ミニテスト "Family" 5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1" 6. "単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2" 7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship" 8. 中間テスト 9. 'Just Talk 1' 10. 'Just Talk 2' 11. 単語ミニテスト "Favorites" 12. 単語ミニテスト "Fashion 1" 13. 単語ミニテスト "Fashion 2" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。
【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~オ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。
【再試験の有無】 無
【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185567>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))
【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
基盤英語 (工(建 A))
 Basic English 山内 暁彦 准教授
 1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 TOEIC のリスニング教材を用い英語のリスニング力を向上させることを目的とする。

【授業の概要】 授業では TOEIC のリスニング教材を毎回 1 章ずつ扱う。教科書付属の CD でよく予習をして授業に臨むこと。英文のスク립トをプリントして配布しリーディングの素材として扱う。事前の予習が大切である。

【到達目標】 英語を聞き取る力を向上させることを目的とする。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Lesson 1. Around the House 3. L.2. Telephone Talk 4. L.3. Getting There 5. L.4. Hotel Life 6. L.5. Small Talk 7. 中間テスト 8. L.6. Weekends 9. L.7. Stepping Out 10. L.8. Meeting People 11. L.9. Perspectives 12. L.10. Apologizing 13. L.11. Job-Hunting 14. L.12. Resume Writing 15. 前期試験 16. 総括授業

【教科書】 Sean Mahoney 他著『新・TOEIC テスト リスニングのための基礎演習』(New Essential Listening for the TOEIC Test) 金星堂 2007 年 1,300 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185584>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時 ~ 13時)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (建 A))

森岡芳洋 教授

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語運用能力の基盤的要素である文法的側面を再確認する。

【授業の概要】 文法事項の再確認の練習問題を解くだけでなく、読解力の基礎固めの演習を行い、文法事項をふまえた正確な内容把握をめざす。

【キーワード】 文法項目、読解力、内容把握

【到達目標】 英語文法項目の再確認と運用

【授業の計画】 1. 導入 2. 不定詞の用法 3. ~ing の用法 4. 過去分詞の用法 5. 疑問を表す形 6. SVX 7. SVOC 8. SVOX 9. it の用法 10. 基本的な関係詞 11. 後置修飾のまとめ 12. 基本的接続詞 13. 節の識別 14. 基本的な助動詞 15. 受動態の応用 16. 総括

【教科書】 佐藤誠司 (著) 『リーディングのための英文法』 (2008) 南雲堂 1,680 円

【成績評価の方法】 演習作業と期末試験により評価する。

【再試験の有無】 再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185582>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 森岡芳洋 総合科学部 1 号館中棟 3 階 088-656-7122 morioka@ias.tokushima-u.ac.jp 木曜日 12:50 ~ 14:20

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (建 B))

中島 浩二 准教授

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 映像と音声を活用して、聴解力を中心とする英語の総合的コミュニケーション能力の伸長を図る。また、海外の名所・旧跡を紹介するビデオを活用することにより、他国の文化に対する理解を深めていく。

【授業の概要】 アメリカ人大学教授が二人の日本人女子学生と世界各地の名所旧跡について英語で語り合うという状況設定のビデオ教材を用いる。ビデオの内容を理解するための前提として、単語・熟語力を補い、導入となる基礎的英文の訳読も行う。また、ビデオの内容が理解できたかチェックするための小テストも Unit ごとに行う。

【キーワード】 e-ラーニング、世界の多様な文化

【到達目標】

1. 基礎的な英会話のスピードや語彙レベルについていけるようにする。
2. 基礎的レベルの会話を文字などの手助けなしに聞き取り、理解できるようにする。
3. 英語を通じて海外の多様な文化に触れ、他国文化に対する理解を深める。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. Let's See the World 3. Let's See the World 4. City in the Clouds 5. City in the Clouds 6. Trick or Treat 7. Trick or Treat 8. That's a Sexy Dance! 9. That's a Sexy Dance! 10. World's Most Famous Rock 11. World's Most

Famous Rock 12. Tombs Fit for Kings 13. Tombs Fit for Kings 14. Review 15. 定期試験 16. 総括

【教科書】 『Let's See the World - ビデオで学ぶ世界の文化』 染矢正一・Fred Ferrasci・Paul Murray (SEIBIDO)

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、小テスト、期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 英和辞書は必ず持参すること。受身の姿勢では英語力は決して上達しない。ラジオやテレビの英語番組等を利用して能動的に語学学習に取り組むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185572>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 2114 号室, 088-656-7151, nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:火曜 16:10-17:10)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (建 B))

山内 暁彦 准教授

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC のリスニング教材を用い英語のリスニング力を向上させることを目的とする。

【授業の概要】 授業では TOEIC のリスニング教材を毎回 1 章ずつ扱う。教科書付属の CD でよく予習をして授業に臨むこと。英文のスク립トをプリントして配布しリーディングの素材として扱う。事前の予習が大切である。

【到達目標】 英語を聞き取る力を向上させることを目的とする。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Lesson 1. Around the House 3. L.2. Telephone Talk 4. L.3. Getting There 5. L.4. Hotel Life 6. L.5. Small Talk 7. 中間テスト 8. L.6. Weekends 9. L.7. Stepping Out 10. L.8. Meeting People 11. L.9. Perspectives 12. L.10. Apologizing 13. L.11. Job-Hunting 14. L.12. Resume Writing 15. 前期試験 16. 総括授業

【教科書】 Sean Mahoney 他著『新・TOEIC テスト リスニングのための基礎演習』(New Essential Listening for the TOEIC Test) 金星堂 2007 年 1,300 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185583>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時 ~ 13時)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (機 A))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 国際語としての英語の実用的運用能力をつけるために、TOEIC (=Test of English for International Communication) 受験対策を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC 試験問題をテーマ別に扱い、そのテーマに関連する語彙を覚えながら、文法事項も項目別に確認し、リスニング問題とリーディング問題を通して解答を探して行く。

【キーワード】 トーイック試験

【到達目標】

1. TOEIC に出てくる日常会話とビジネス関係の語彙が理解できる。
2. TOEIC に出てくる文法事項が理解できる。
3. TOEIC のリスニング、リーディング問題に正しく解答できる。

【授業の計画】 1. Introduction 2. Lesson 1: Missing a Flight 3. Lesson 2: Checking In 4. Lesson 3: Marketing a New Product 5. Lesson 4: Coming Down with a Cold 6. Lesson 5: Having the Prescription Filled 7. Lesson 6: Advertising Campaign 8. Lesson 7: Fancy Meeting You! 9. Lesson 8: A Job Interview 10. Lesson 9: Placing a Complaint 11. Lesson 10: Looking for a New Space 12. Lesson 11: Getting Hooked Up 13. Lesson 12: Talking Shop 14. Review Test (1) 15. 期末試験 16. 期末試験の振り返り

【教科書】 TOEIC テスト実践コース Book2; ナンシー・ピアソン梅津 (成美堂, 2004 年, 2000 円)

【成績評価の方法】 学期末テスト (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回出席すること。またテキストの問題は必ず予習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180757>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ miyata@cue.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 16時10分~17時00分 宮田研究室 (大学開放実践センター3F))

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (機 A))

樋口友乃・准教授

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC (Test of English for International Communication) の受験準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の出題形式に即した問題を解いていく。

【キーワード】 リスニング、リーディング

【到達目標】 TOEIC の問題形式に慣れる、TOEIC の頻出語彙を身に付ける。

【授業の計画】 1. ガイダンス・各パートの説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. 中間試験 9. Unit 7 10. Unit 8 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Essential Approach for the TOEIC Test—TOEIC テストへのニューアプローチ (成美堂)』

【成績評価の方法】 成績は中間試験、期末試験、および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 同じ教員が担当する以下の時間帯の基盤英語は、すべて同じ内容です: 木曜 1-2 講時 (工・生物工学 1 年 A)、金曜 3-4 (工・知能情報 1 年 A)、金曜 5-6 (工・建設工学 1 年 B)。重複履修は認めません。特に基盤英語を再受講している人は、注意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185592>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (機 B))

山田仁子・准教授

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語を聞き取る力を高める。語彙の数も増やす。

【授業の概要】 アメリカ ABC 放送のニュース番組を用いて、英語を聞き取る力を高める。また語彙や重要表現を確実に身につけていく。自習用 DVD がテキストに付いているので、受講生は授業時間以外にも、この DVD を用いて予習復習することを求められる。

【キーワード】 Listening Comprehension, Vocabulary Building

【到達目標】

1. 英語を聞いて内容を理解できるようになる。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】 1. 授業について説明 2. Unit 1 Water: How Much to Drink? 3. Unit 2 Amazing New Hybrid Cars 4. Unit 3 Critical Vote: Latinos 5. Unit 4 Homeschool Battle 6. Unit 5 Jumping for Joy: Female Olympic Jumpers 7. Unit 6 Top of the World 8. 中間試験 9. Unit 7 The King's Academy 10. Unit 8 The Right to Own Guns 11. Unit 9 Golden Oldies 12. Unit 10 Power of 2: Eat Less Beef and Get an Energy Audit 13. Unit 12 Trouble in the Sky: Southwest Airlines 14. Unit 14 Food Crisis 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 DVD で学ぶ ABC ニュースの英語 11 (金星堂)

【成績評価の方法】 2 回のテスト、出席状況、予習の程度、授業中の発表などを総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講へのメッセージ】 予習を前提に進めます。予習も成績に反映されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185588>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 9:30~10:30)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (機 B))

ラックストン ロバート・非常勤講師

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class will stress English basics, including grammar and pronunciation, as well as give students a chance to improve their conversational ability

【授業の概要】 We will do some TOEIC practice, textbook exercises, role-plays and skits.

【到達目標】 Students will increase their confidence about speaking English.

【授業の計画】 1. Introduction 2. Unit 1.1 3. Unit 1.2 4. Unit 2.1 5. Unit 2.2 6. Unit 3.1 7. Quiz 1 and Skit Preparation 8. Skit Day 9. Unit 3.2 10. Unit 4.1 11. Unit 4.2 12. Unit 5.1 13. Unit 5.2 14. TOEIC Practice Day 15. Quiz 2 and Skit Preparation 16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 1

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180774>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ラックストン (オフィスアワー: Contact me at: rob-luxton@hikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (機 C))

福田, スティーブ・利久・助教/全学共通教育センター

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 前半で学習スタイル・学習目標の見出し方等を理解し、後半は試行錯誤しながら、個人の学習目標に励む。

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付けてと述べている。英語の勉強に終わりはないと理解して欲しい。授業外、講義が終わっても、学習を継続しなければ、今までの英語の学習で得たものが台無しになる。そのために、当講義のシラバスの目標・目的に「学習する内容、個人の目標を見出し、学習すること」を定めている。多くの場合は 6 年間ぐらい教員にいろいろ決められたせいで、いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれない。しかし、心配ない。本講義で教員の支援・カウンセリングを受けながら進めていく段階的なものであるため、徐々に自律ができることを促進する。

【到達目標】 自分が英語で「できる・できない」ことを考え、学習スタイル・目標を見出し、これから大学の生活の中で英語学習を続けられること。

【授業の計画】 1. 英語学習のステレオタイプとは 2. 英語で「できる・できない」ことを考える 3. 英語学習の将来像を考える・コミュニケーション活動 4. 個人学習スタイルを見出す・コミュニケーション活動 5. 個人学習プランの作成・コミュニケーション活動 6. 個人学習プランを作成・コミュニケーション活動 7. 個人学習プランにあった教材を選択・紹介 8. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 9. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 10. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 11. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 12. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 13. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 14. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 15. 最終評価 16. まとめ・振り返り

【教科書】 前もって買う必要はない。後に、個人学習プランにより、必要に応じて買う

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 個人学習プラン・目標と一致した評価法 (レポート・試験・プレゼン等) になる。教員との学習カウンセリングの際に選択。仮評価:40%は個人学習プラン 30%は宿題 (第 1 回~6 回の小レポート) 30%は個人が選ぶ最終評価

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 授業は学生のレベル・興味・関心に合わせ、教員と学生が出会う前に授業の内容を決めることはできないため、シラバスは曖昧と感じるかもしれない。しかし、初回までに学習したいこと及び目標を考えるとよりよいでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180783>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)
基盤英語 (工 (機 C))
 Basic English 三宅 恵美・非常勤講師
 1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 1. TOEIC のスコアを伸ばすための基礎力および応用力をつけることを目的とする。TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のレベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属 (グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、英語運用能力を伸ばすために大切な学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。2. ビデオや CD など視覚、聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力を向上させる。3. 通訳訓練法を取り入れた学習法を紹介する。

【授業の概要】 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて自分のレベルを確認する。実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。後半はビデオ、CD など視覚、聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつけたり、通訳訓練法を取り入れた練習などでバリエーションをつけたりしながら幅広い学習を行う。

【到達目標】 TOEIC で最低 400 点は確実に取得することを目標とし (学習ターゲットレベルは 400~500 点)、TOEIC の学習を通じて英語の基礎力アップと実際の試験対策を行う。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】 1. TOEIC とはなにか 2. 助動詞 3. 助動詞 4. 名詞とその修飾句 5. 形容詞と形容詞句 6. 使役動詞と知覚動詞 7. 関係詞 8. 時制と完了形 9. 受動態 10. ing につく動詞と to につく動詞 11. TOEIC 模擬試験 12. 比較 13. 現在分詞 14. 仮定法 (条件文) 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 Living English for the TOEIC TEST, センゲージラーニング (2,100 円)、その他の資料は適宜配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%、小テスト、課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180754>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
 ⇒ 三宅 (オフィスアワー: 授業開始後連絡方法をお知らせします)

英語 (English)
基盤英語 (工 (化 A))
 Basic English 山田 仁子・准教授
 1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語を聞き取る力を高める。語彙の数も増やす。

【授業の概要】 アメリカ ABC 放送のニュース番組を用いて、英語を聞き取る力を高める。また語彙や重要表現を確実に身につけていく。自習用 DVD がテキストに付いているので、受講生は授業時間以外にも、この DVD を用いて予習復習することを求められる。

【キーワード】 Listening Comprehension, Vocabulary Building

【到達目標】

1. 英語を聞いて内容を理解できるようになる。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】 1. 授業について説明 2. Unit 1 Water: How Much to Drink? 3. Unit 2 Amazing New Hybrid Cars 4. Unit 3 Critical Vote: Latinos 5. Unit 4 Homeschool Battle 6. Unit 5 Jumping for Joy: Female Olympic Jumpers 7. Unit 6 Top of the World 8. 中間試験 9. Unit 7 The King's Academy 10. Unit 8 The Right to Own Guns 11. Unit 9 Golden Oldies 12. Unit 10 Power of 2: Eat Less Beef and Get an Energy Audit 13. Unit 12 Trouble in the Sky: Southwest Airlines 14. Unit 14 Food Crisis 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 DVD で学ぶ ABC ニュースの英語 11 (金星堂)

【成績評価の方法】 2 回のテスト、出席状況、予習の程度、授業中の発表などを総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 予習を前提に進めます。予習も成績に反映されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185587>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 9:30~10:30)

英語 (English)
基盤英語 (工 (化 A))
 Basic English 中西-リンドルイーズ・非常勤講師
 1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class seeks to foster an interest in English through a variety of activities.

【授業の概要】 Students have a degree of autonomy and can structure projects to reflect their main study area. All classes will be conducted in English.

【キーワード】 Participation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading, syllabus explained 2. Begin non-fiction book. Form groups allocate roles. 3. Review, read, discuss, summarise 4. Review, read, discuss, summarise 5. Review, read, discuss, summarise 6. Start presentation project planning topic sourced from the non-fiction book. 7. Presentation preparation (focus according to specific major) 8. Presentation preparation continued. 9. Presentation Day 10. Pair conversation planning and preparation. 11. Pair conversation presentation. 12. Newspaper Assignments: discussion, preparation of materials 13. Newspaper Assignments: preparation 14. Newspaper Assignments: presentations 15. Final Test

【教科書】 Student generated material, Oxford University Press non-fiction reader (TBA), newspaper articles.

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, projects and assignments and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note taking. Join in, have fun and your English will improve.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180749>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中西-リンド

英語 (English)
基盤英語 (工 (化 B))
 Basic English 樋口 友乃・准教授
 1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC (Test of English for International Communication) の受験準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の出題形式に即した問題を解いていく。

【キーワード】 リスニング、リーディング

【到達目標】 TOEIC の問題形式に慣れる。TOEIC の頻出語彙を身に付ける。

【授業の計画】 1. ガイダンス・各パートの説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. 中間試験 9. Unit 7 10. Unit 8 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Essential Approach for the TOEIC Test—TOEIC テストへのニューアプローチ』(成美堂)

【成績評価の方法】 成績は中間試験、期末試験、および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185637>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
基盤英語 (工 (化 B))
 Basic English 吉田 文美・准教授
 1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて体系的に学ぶ。同時に、基本的な語彙、文章読解力を身につける。

【授業の概要】 英語のポピュラーソングを用いて、英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて学ぶ。加えて、取り上げられる歌の内容や歌手についての短い解説文の読解をする。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 popular songs, Listening and Pronunciation Training

【到達目標】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスに慣れ、日常会話などの聞き取りができる程度までできること。

【授業の計画】 1. Class Guidance & Warm-Up Unit 2. Unit 1 英語は強弱のリズム/ Sailing (Rod Stewart) 3. Unit 2 つながって変化する音 (1) / Wild Child (Enya) 4. Unit 3 つながって変化する音 (2) / Selfish (*NSYNC) 5. Unit 4 聞こえなくなる音 (1)/I Want It That Way (Backstreet Boys) 6. Unit 5 聞こえなくなる音 (2)/ There You'll Be (Faith Hill) 7. Unit 6 聞こえなくなる音 (3)/ On Bended Knees (Boyz II Men) 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 つながる音 (1) / I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears) 10. Unit 8 つながる音 (2)/ Hard to Say I'm Sorry (Chicago) 11. Unit 9 短くなる音 (1)/ All the Love in the World (The Corrs) 12. Unit 10 短くなる音 (2)/ Heart of Mine (Boyz Scaggs) 13. Unit 11 短くなる音 (3)/ Goodbye Yellow Brick Road (Elton John) 14. Unit 12 弱くなる音/ Wind beneath My Wings (Bette Midler) 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Reviews

【教科書】 Nobuhiro Kumai & Stephen Timson. Top of the Pops Listening. Macmillan Languagehouse, 2005. ¥2,100 (tax included).

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に 2 回の Listening&Reading Test をする他に、授業中に各 Unit について的小テスト(単語および慣用語のテスト)も実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly short tests (30%)。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講へのメッセージ】 同じ教員が担当する基盤英語は、すべて同じ内容です。重複受講はできません。特に基盤英語を再受講する人は、注意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180771>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講へのメッセージ】 同じ教員が担当する基盤英語は、すべて同じ内容です。重複受講はできません。特に基盤英語を再受講する人は、注意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180769>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (生 A))

石田 和枝・非常勤講師

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC 試験対策。7 月実施予定の全学新入生英語統一試験に備えて、練習問題を通して試験形式に慣れ、効率よく得点能力をアップすること。

【授業の概要】 TOEIC の練習問題集をテキストとして用いる。ただ問題を淡々と解いていくのみならず、リスニングに不慣れな学生のために、英語が自然なスピードで発せられる時起きるさまざまな音の現象について解説し、基本的英語運用能力を養成するために基礎文法にも重点を置く。

【キーワード】 TOEIC

【到達目標】 TOEIC スコア 600 (受講生のレベルに応じて、各自プラス 100 を目指す。)

【授業の計画】 初回の授業時に前期分の詳しい講義計画書を配布する。授業はその計画書に沿って進められていくので、学生にはそれに合わせて予習・復習することが求められる。7 週目には中間試験をする予定である。

【教科書】 初回の授業時に指示をする。

【成績評価の方法】 中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】 原則的に無し

【受講へのメッセージ】 3 分の 1 以上欠席すると再受講となりますから、しっかり自己管理してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180785>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (生 B))

前田 一平/専門教育大学

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて体系的に学ぶ。同時に、基本的な語彙、文章読解力を身につける。

【授業の概要】 英語のポピュラーソングを用いて、英語独特の音声変化やリズム、ストレスについて学ぶ。加えて、取り上げられる歌の内容や歌手についての短い解説文の読解をし、基本的な語彙や慣用語についても学習する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 popular songs, Listening and Pronunciation Training

【到達目標】 英語独特の音声変化やリズム、ストレスに慣れ、日常会話などの聞き取りができる程度までできること。

【授業の計画】 1. Class Guidance & Warm-Up Unit 2. Unit 1 英語は強弱のリズム/ Sailing (Rod Stewart) 3. Unit 2 つながって変化する音 (1) / Wild Child (Enya) 4. Unit 3 つながって変化する音 (2) / Selfish (*NSYNC) 5. Unit 4 聞こえなくなる音 (1)/I Want It That Way (Backstreet Boys) 6. Unit 5 聞こえなくなる音 (2)/ There You'll Be (Faith Hill) 7. Unit 6 聞こえなくなる音 (3)/ On Bended Knees (Boyz II Men) 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 つながる音 (1) / I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears) 10. Unit 8 つながる音 (2)/ Hard to Say I'm Sorry (Chicago) 11. Unit 9 短くなる音 (1)/ All the Love in the World (The Corrs) 12. Unit 10 短くなる音 (2)/ Heart of Mine (Boyz Scaggs) 13. Unit 11 短くなる音 (3)/ Goodbye Yellow Brick Road (Elton John) 14. Unit 12 弱くなる音/ Wind beneath My Wings (Bette Midler) 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Reviews

【教科書】 Nobuhiro Kumai & Stephen Timson. Top of the Pops Listening. Macmillan Languagehouse, 2005. ¥2,100 (tax included).

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に 2 回の Listening&Reading Test をする他に、授業中に各 Unit について的小テスト(単語および慣用語のテスト)も実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly short tests (30%)。

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 近年とみに人気が高まっている TOEIC 演習の授業で、問題の傾向と対策を講じます。基本文法、語彙、表現の力を養うのみならず、速く、正確に英文を読む訓練を行います。

【授業の概要】 TOEIC では限られた時間内に大量の問題をこなさなければなりません。よって、本授業は各問題を、例えば 1 分以内に解答するというように、ストップウォッチで解答時間を区切って実施します。授業中に実際に受験しているような環境で解答に臨んでもらいます。ですから、予習を妨げるものではないが、むしろ復習を推奨します。リスニング演習とリーディング演習を平行して実施するが、比重はリーディングにおきます。

【キーワード】 TOEIC 対策, Reading 中心, Listening, キーワード検索, 速読, 語彙力

【到達目標】

1. TOEIC の内容が理解できる。
2. 空所補充問題によって英語の基礎力を伸ばし、文構造理解とパラグラフのキーワード検索によって長文対策ができる。
3. TOEIC に対応できるよう、集中力をもって速く英文を読む技術身につける。
4. リスニング問題のコツを体得する。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Lesson 1 Job Hunting 3. Lesson 2 Job Interviews 4. Lesson 3 Company Information, Department Names 5. Lesson 4 Job Titles and Responsibilities 6. Lesson 5 Around the Office 7. Lesson 6 Products and Services 8. Midterm exam. (中間試験) 9. Lesson 7 Meetings and Conferences 10. Lesson 8 Business Performance 11. Lesson 9 Promotions and Salaries 12. Lesson 10 Travel and Hotels 13. Lesson 11 Banking and Shopping 14. 復習 15. Final exam. (学期末試験) 16. 総括授業

【教科書】 TOEIC Test: Training 550 (南雲堂)

【成績評価の方法】 中間試験 (50%) と学期末試験 (50%) による評価を基本とする。これに受講姿勢を加味して総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 TOEIC 受験生は解答時間の不足を訴えます。速く解答する集中力と根気、これも英語力あるいは人間力の重要な一部です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180752>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 前田 (kmaeda@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: kmaeda@naruto-u.ac.jp 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、Eメールでの相談・指導は時間を問わず可能である。または、授業後などに相談されたし。)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (生 B))

中島 浩二 准教授

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 映像と音声を活用して、聴解力を中心とする英語の総合的コミュニケーション能力の伸長を図る。

【授業の概要】 多様なアメリカ文化を紹介したビデオ教材を何度か繰り返し聞いた後で、語彙力や内容理解度をチェックする問題を解く。また、ディクテーション (穴埋め問題) やスクリプトの読解を通して相乗的に英文理解力を向上させる。

【キーワード】 e-ラーニング, Authentic English

【到達目標】

1. 自然なスピードで話される英語の音声に慣れる。
2. 英語を通じてアメリカの文化についての多様な知識を得る。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. The Birthplace of Jazz 3. The Birthplace of Jazz 4. On the Road 5. On the Road 6. Your Cigarettes or Your Job 7. Your Cigarettes or Your Job 8. The Amish Way of Life 9. The Amish Way of Life 10. Is Gun Control Possible? 11. Is Gun Control Possible? 12. Making a Living on the Internet 13. Making a Living on the Internet 14. Review 15. 定期試験 16. 総括

【教科書】 『Inside Stories U.S.A.』 (森田彰他著, SEIBIDO)

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 小テスト, 期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 英和辞書は必ず持参すること。受身の姿勢では英語力は決して上達しない。ラジオやテレビの英語番組等を利用して能動的に語学学習に取り組むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180746>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 2114 号室, 088-656-7151, nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:火曜 16:10-17:10)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (電 A))

樋口 友乃 准教授

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC (Test of English for International Communication) の受験準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の出題形式に即した問題を解いていく。

【キーワード】 リスニング, リーディング

【到達目標】 TOEIC の問題形式に慣れる。TOEIC の頻出語彙を身に付ける。

【授業の計画】 1. ガイダンス・各パートの説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. 中間試験 9. Unit 7 10. Unit 8 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Essential Approach for the TOEIC Test - TOEIC テストへのニューアプローチ』 (成美堂)

【成績評価の方法】 成績は中間試験, 期末試験, および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180784>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (電 A))

マコーマック ポーリン 非常勤講師

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 The purpose of this course is to activate students to communicate in English in a meaningful way

【授業の概要】 The text is written for Japanese college-aged learners of English with a strong emphasis on pair work

【到達目標】 By the end of this course, learners should have increased their ability to communicate in English in a variety of situations.

【授業の計画】 1. Introduction 2. School Life 3. Part-Time Job/Weekend 4. Movies 5. Phone Calls/Appointment 6. TV Programs/Weather 7. Future Plans/Jobs 8. Music 9. Sports 10. Study Abroad 11. Parties/Picnics 12. Travelling Overseas 13. American and Japanese Culture 14. American and Japanese Culture 15. Final Exam 16. Review

【教科書】 NEW ACTIVATOR Tadashi Shiozawa and Gregory A. King

【成績評価の方法】 10% attendance, 40% class participation, 50% final exam.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances

【受講者へのメッセージ】 This is an English conversation class.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180753>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マコーマック

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (電 B))

山森 直人 准教授 / 鳴門教育大学

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 大学において自分自身の専門性を高めるには英語を通して情報を得る技能が必要とされる。それは実社会に出ても今後確実に求められていく技能である。そのためにも、日頃から英語の文章に触れ、敏速かつ的確に情報を得る技能を身につけることが重要である。本授業ではそのような情報獲得技能として、受講生の英文速読力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英文読解時の速読力を養うために、必要以上の詳細 (文法や語彙) に固執せずに読み進める力、及び、読解活動中に吸収できた情報を最大限に生かしてテキストの概要を把握できる力、を養うための読解トレーニングを行う。

【キーワード】 英語, リーディング, 速読, 読解

【到達目標】

1. 1 分間 150 語程度の速さで読み、テキストの内容を正確に把握できる。
2. 受講生各人の到達目標は第 1 回授業での実力テストの結果に基づき設定する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション & 実力試験 2. 実力試験の結果と速読方法に関する講義 3. Unit 1,2 その他補助教材 4. Unit 3,4 その他補助教材 5. Unit 5,6 その他補助教材 6. Unit 7,8 その他補助教材 7. Unit 9,10 その他補助教材 8. 中間試験 9. Unit 11,12 その他補助教材 10. Unit 13,14 その他補助教材 11. Unit 15,16 その他補助教材 12. Unit 17,18 その他補助教材 13. Unit 19,20 その他補助教材 14. 速読トレーニングのまとめ 15. 最終試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ Malarcher, Casey, 森田彰, 原田慎一 (編著). INTERMEDIATE Faster Reading - Revised Edition, SEIBIDO. 1,700 円 (税別)
- ◇ その他補助教材を適宜配布

【成績評価の方法】 中間試験 (35%), 最終試験 (35%), 小レポート (20%), 受講姿勢 (10%) をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講生には授業の予習と同時に、授業で学習した内容の定着を図るための復習を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185599>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山森直人 鳴門教育大学 (オフィスアワー: yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (電 B))

石田 和枝 非常勤講師

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC 試験対策。7月実施予定の全学新入生英語統一試験に備えて、練習問題を通して試験形式に慣れ、効率よく得点能力をアップすること。

【授業の概要】 TOEIC の練習問題集をテキストとして用いる。ただ問題を淡々と解いていくのみならず、リスニングに不慣れな学生のために、英語が自然なスピードで発せられる時起きるさまざまな音の現象について解説し、基本的英語運用能力を養成するために基礎文法にも重点を置く。

【キーワード】 TOEIC

【到達目標】 TOEIC スコア 600 (受講生のレベルに応じて、各自プラス100を目指す。)

【授業の計画】 初回の授業時に前期分の詳しい講義計画書を配布する。授業はその計画書に沿って進められていくので、学生にはそれに合わせて予習・復習することが求められる。7週目には中間試験をする予定である。

【教科書】 初回の授業時に指示をする。

【成績評価の方法】 中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】 原則的に無し

【受講者のメッセージ】 3分の1以上欠席すると再受講となりますから、しっかり自己管理してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180725>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 . (オフィスアワー: 初回の授業時に指示をする。)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (電 C))

魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 歌を通して英語を総合的に学習する。

【授業の概要】 ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し、歌について書かれたエッセイ文を読んだり、リスニング行い、リーディング力、リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 直前にはリハーサルをする予定です。

【到達目標】

1. 平易な英文が読めるようになる。
2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
3. 英米文化への理解を深める。

【授業の計画】 1. Introduction 2. Material World 3. Closer to Home/I'm Your Captain 4. High School 5. No Fun 6. Leader of the Pack 7. I'm Eighteen 8. Search and Destroy 9. Frozen 10. TOEIC TEST REHEARSAL 11. Shakin' Street 12. We're an American Band 13. Bohemian Like You 14. A Whiter Shade of Pale 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 THE LYRICS AND BACKGROUND OF 15 HIT SONGS/MICHAEL R. MOSHER・魚崎典子 (松柏社)

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180730>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (電 C))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammar ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class, but also outside. There will be homework and they are expected to

do it even if they are absent from class. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of the class or other factors.

【キーワード】 four skills, spoken English, thematic English and fluency

【到達目標】 Students will develop confidence in their English skills and gain more experience using general and engineering-related English.

【授業の計画】 1. General Class Guidance 2. Theme 1: Textbook Unit 1: ME: Discussing personal information: names and cultural influences 3. Theme 1: Social taboos and changing trends in society: Reading, discussion, interview 4. Theme 2: Textbook Unit 2: PLACE: Talking about places in your country and products from different countries 5. Theme 2: Japan on the world stage: Reading, discussion, mini-presentation 6. Theme 3: Textbook Unit 4: FIT: Discussing sports, fitness, attitudes towards sports and health. 7. Theme 3: Health Issues: Reading, discussion, mini-presentation 8. Mid-term Evaluation (test and interview/presentation) 9. Theme 4: Textbook Unit 7: JOB: Work Experience: Discussing jobs and experiences 10. Theme 4: The changing workplace in Japan: reading, discussion, mini-presentation 11. Theme 5: Textbook Unit 8: RICH: Discussing money, music, future plans 12. Theme 5: The Future: Future effects of current new topic: reading, discussion, interview 13. Theme 6: Textbook Unit 9: RULES: Discussing education and dating 14. Theme 6: Obligations and Prohibitions reading, discussion, interview 15. Final Evaluation (test and interview/presentation) 16. Review

【教科書】 Peter Maggs, Sue Kay, Vaughan Jones & Philip Kerr. Inside English: Low Intermediate Student Book. Macmillan Languagehouse.

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 The Mid-term and Final evaluations are an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (60%), Mid-term and Final Evaluation (40%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【受講者のメッセージ】 Make the most of all opportunities to expand your horizons, and especially when communicating in another language.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185596>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル . (オフィスアワー: juditheph@yahoo.com Please contact me via e-mail when consultation is necessary.)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (知 A))

福田, スティーブ・利久・助教/全学共通教育センター

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 前半で学習スタイル・学習目標の見出し方等を理解し、後半は試行錯誤しながら、個人の学習目標に励む。

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付けてと述べている。英語の勉強に終わりはないと理解して欲しい。授業外、講義が終わっても、学習を継続しなければ、今までの英語の学習で得たものが台無しになる。そのために、当講義のシラバスの目標・目的に「学習する内容、個人の目標を見出し、学習する」ことを定めている。多くの場合は6年間ぐらい教員にいろいろ決められたせいで、いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれない。しかし、心配ない。本講義で教員の支援・カウンセリングを受けながら進めていく段階的なものであるため、徐々に自律ができることを促進する。

【到達目標】 自分が英語で「できる・できない」ことを考え、学習スタイル・目標を見出し、これから大学の生活の中で英語学習を続けられること。

【授業の計画】 1. 英語学習のステレオタイプとは第 16 回:まとめ・振り返り 2. 英語で「できる・できない」ことを考える 3. 英語学習の将来像を考える・コミュニケーション活動 4. 個人学習スタイルを見出す・コミュニケーション活動 5. 個人学習プランの作成・コミュニケーション活動 6. 個人学習プランを作成・コミュニケーション活動 7. 個人学習プランにあった教材を選択・紹介 8. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 9. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 10. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 11. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 12. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 13. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 14. 個人学習プランを実行・学習カウンセリング 15. 最終評価 16. まとめ・振り返り

【教科書】前もって買う必要はない。後に、個人学習プランにより、必要に応じて買う

【参考書等】マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】個人学習プラン・目標と一致した評価法 (レポート・試験・プレゼン等) になる。教員との学習カウンセリングの際に選択。仮評価:40%は個人学習プラン 30%は宿題 (第1回~6回の小レポート) 30%は個人が選ぶ最終評価

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】授業は学生のレベル・興味・関心に合わせ、教員と学生が出会う前に授業の内容を決めることはできないため、シラバスは曖昧と感じるかもしれない。しかし、初回までに学習したいこと及び目標を考えるとよりよいでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185634>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (知 A))

上野 加代子・教授

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】TOEIC 試験のリスニング学習を通して、リスニング力を高めるとともに、映画・ドラマを数多く視聴し、スピードの速いネイティブ英語に徐々に慣れる。

【授業の概要】週場の授業は 2 つのパートから成る。①TOEIC のリスニング練習等を行い、TOEIC 試験のこつをつかむ。②そして海外ドラマを視聴し、穴埋めの聞き取りを行うことで、リスニングの力を高める。

【キーワード】TOEIC, ドラマ英語

【到達目標】

1. 英語学習への意欲が高まる。
2. TOEIC500 点を目標にする。

【授業の計画】1. 授業の説明 2. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 3. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 4. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 5. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 6. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 7. 小テスト・TOEIC リスニング・ドラマ視聴 8. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 9. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 10. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 11. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 12. 小テスト・ドラマ視聴 13. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 14. TOEIC リスニング・ドラマ視聴 15. 学期末試験 16. 総括授業

【教科書】指定なし

【参考書等】指定なし

【成績評価の方法】小テスト、学期末試験、そして授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180728>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日11時50分~12時50分)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (知 B))

森岡 芳洋・教授

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】英語運用能力の基盤的要素である文法的側面について、項目毎に確認する。

【授業の概要】英語文法の基礎を学び直すために提供される様々な練習問題を解くことにより演習を重ねるだけでなく、この授業の教科書を使用する受講者が、パソコンや携帯電話で (通信料金は別として) 無料アクセスできる「リングホルタ」と呼ばれる教科書準拠の Web 学習システムによる自習も推奨しつつ、学力向上をめざす。

【キーワード】英語文法の基礎、リングホルタ、自習

【到達目標】英語文法の基礎の学び直し。

【授業の計画】1. 導入 2. 基本 3 時制 3. 進行形、完了形 4. 受動態、使役 5. 5 文型、文の種類 6. 不定詞、動名詞 7. 分詞、句と節 8. 前置詞、接続詞 9. 語法 10. 関係代名詞、関係副詞 11. 助動詞、

假定法 12. 冠詞と名詞、代名詞 13. 形容詞と副詞 14. 比較、否定 15. 特殊構文 16. 総括

【教科書】石井, 山口, 嶋田, 上田, B. Benfield (共著) 『英文法基礎力 マスター』 (2009) 成美堂 1,900 円 (税別)

【成績評価の方法】演習作業と期末試験により評価する。

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180759>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森岡 芳洋 総合科学部1号館中棟3階 088-656-7122 morioka@ias.tokushima-u.ac.jp 木曜日12:50~14:20

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (知 B))

荻下 克彦・教授 / 鳴門教育大学

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】いわゆる「実践的英語コミュニケーション能力」と称される英語運用能力の文法的基礎、特に TOEIC で求められている「コミュニケーションに役立つ文法能力」を養うことを目的とする。

【授業の概要】各回の授業で文法項目の一つを取り上げる。まず、文法項目の要点を整理し、その後、理解確認と定着のための練習問題を行う。中間・期末テストは、TOEIC の Part V (文法・語彙問題) と Part VI (誤文訂正問題) 形式の問題を中心に出题する。上記の活動以外に発音 (記号)、文化的背景知識、異文化理解などに関する内容も扱う。

【キーワード】コミュニケーション、文法、発音 (記号)

【到達目標】

1. 「コミュニケーションに文法は不要である」という迷信を退ける。
2. 単語や文法事項を例文やコンテキストの中で学習する習慣を身につける。
3. 「カタカナ英語発音」からの脱却

【授業の計画】1. 時制 (Tenses) 2. 假定法 (Subjunctive) 3. 受動態 (Passive) 4. 関係詞 (Relatives) 5. 分詞 (Participles) 6. 助動詞 (Auxiliary Verbs) 7. 主語と動詞の一致 (Subject/Verb Agreement) 8. 中間テスト 9. 不定詞・動名詞 (Infinitives and Gerunds) 10. 比較 (Comparison) 11. 形容詞・副詞 (Adjectives and Adverbs) 12. 名詞・冠詞 (Nouns and Articles) 13. 接続詞 (Conjunctions) 14. 否定 (Negation) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】Essential Grammar for the TOEIC® Test・TOEIC® I テスト基礎文法トレーニング (ISBN4-89585-461-2)、マクミラン ランゲージハウス, 1, 800 円

【成績評価の方法】中間テスト、期末テスト、授業への取り組み状況などをともに総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】「英文法をもう一回やり直したいけど、一人で参考書を読み直すのは、ちょっと…」と、考えていた人を特に歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180760>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荻下 (yabuchan@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail: yabuchan@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (光))

魚崎 典子・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】歌を通して英語を総合的に学習する。

【授業の概要】ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し、歌について書かれたエッセイ文を読んだり、リスニング行い、リーディング力、リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 直前には対策問題をする予定です。

【到達目標】

1. 平易な英文が読めるようになる。
2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
3. 英米文化への理解を深める。

【授業の計画】1. Introduction 2. Material World 3. Closer to Home/I'm Your Captain 4. High School 5. No Fun 6. Leader of the Pack 7. I'm Eighteen 8. Search and Destroy 9. Frozen 10. TOEIC TEST REHEARSAL 11. Shakin' Street 12. We're an American Band 13. Bohemian Like You 14. A Whiter Shade of Pale 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】THE LYRICS AND BACKGROUND OF 15 HIT SONGS/MICHAEL R. MOSHER・魚崎 典子 (松柏社)

【成績評価の方法】小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180729>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

基盤英語

Basic English

(工 (光))

井上永幸 教授

1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】英語の基礎的語学力の向上、及び英語を通して英米の文化に対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】1. 指定のテキストを使って日常英語に関する小テストを毎回行う。2. 「水を出す」、「ぬれた手をふく」など、基礎的な日常英語を扱ったプリントを学習する。3. 日常英語を扱った読み物を学習する。〔予習が必要〕4. 英文法・英語表現に関するワークシートを学習する。〔予習が必要〕5. 日常英語を扱った笑い話を楽しむ。

【到達目標】日常英語を理解し、基礎的な英語表現を受信・発信できる。

【授業の計画】1. 授業概要説明 2. 日常英語 (1) 3. 日常英語 (2) 4. 日常英語 (3) 5. 日常英語 (4) 6. 日常英語 (5) 7. 日常英語 (6) 8. 日常英語 (7) 9. 日常英語 (8) 10. 日常英語 (9) 11. 日常英語 (10) 12. 日常英語 (11) 13. 日常英語 (12) 14. 日常英語 (13) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】定. 適宜プリントも配布する。

【参考書等】井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版. 三省堂。

【成績評価の方法】試験、予習状況、小テストなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】必ず予習をしてくること。また、授業には辞書を持参すること。電子辞書ではなく紙の辞書を強く薦める。コンサイス版やポケット版の辞書は不可。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185595>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井上 (2302, 088-656-7125, inoue@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 14:35-16:05 井上研究室 (総合科学部 1 号館 3 階))

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(総科 ((自然 A)2))

井上永幸 教授

1 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】日常生活を乗り切するためのサバイバル英語の習得を目指す。聞き取り能力の向上を中心に、基本的な語彙・コロケーションを学習してゆき、合わせて英米の文化に対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】(1) 前回の授業内容の小テストを行う。(2) 指定のテキストを使って、日常英語の基本的語彙やコロケーションの学習を行う。〔予習が必要〕(3) 指定の教科書を使って、聞き取りの際に注意すべき点を確認し、聞き取り能力の向上を図る。(4) 授業の終わりに、その日の学習事項に関する確認テストを行う。

【到達目標】日常生活を乗り切ための英語や英米の文化に対する理解を深める。

【授業の計画】1. 授業概要説明 2. 聞き取り (1) 3. 聞き取り (2) 4. 聞き取り (3) 5. 聞き取り (4) 6. 聞き取り (5) 7. 聞き取り (6) 8. 聞き取り (7) 9. 聞き取り (8) 10. 聞き取り (9) 11. 聞き取り (10) 12. 聞き取り (11) 13. 聞き取り (12) 14. 聞き取り (13) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】未定

【参考書等】井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版. 三省堂。

【成績評価の方法】試験、予習状況、小テスト、確認テストなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】必ず予習をしてくること。また、授業には辞書を持参すること。電子辞書ではなく紙の辞書を強く薦める。コンサイス版やポケット版の辞書は不可。

【WEB 頁】<http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180663>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井上 (2302, 088-656-7125, inoue@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 14:35-16:05 井上研究室 (総合科学部 1 号館 3 階))

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(総科 ((自然 B)2))

西山高子 非常勤講師

1 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】英語リスニング能力を養うことを中心に、言語と文化にかかわる知識や理解を深め、英語の力を総合的に向上することを目的とする。

【授業の概要】リスニング練習を中心に、リーディング練習やボキャブラリー学習など英語技能の向上に必要な項目を学習する。また、教科書以外の教材を用いて様々な英語に慣れ親しみ実践能力を養う。

【キーワード】音声変化、ストレス、リズム、イントネーション、フレーズリスニング

【到達目標】リスニング能力を向上させるコツを習得し、英語の力を総合的に高める。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. American Traditions1: Family Traditions 3. American Traditions2: American Holidays 4. Relativism: Language shapes the way people view the world 5. First Language Acquisition and Chomsky's Theory 6. Vocabulary Learning 7. Media Literacy 8. Literary Imagination 9. Poetry 10. Onomatopoeia in Alice 11. What is "Postcolonial"? 12. Orientalism 13. What is Marae?: Indigenous Culture in New Zealand 14. Okinawa: Societal Bilingualism and Ryuka 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】"ACADEMIC TOPICS FOR LISTENING PRACTICE" 渡部真一郎・木村茂雄・ジェリーヨコタ編 大阪大学出版会

【成績評価の方法】小テスト、学期末試験、演習参加状況等により総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】外国語の習得には、授業だけでは不十分であり自主的な継続が必要です。あらゆる機会を通じて英語の音やリズムに慣れ親しんでください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180681>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山 . (オフィスアワー: オフィスアワー: 授業の前後)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(医 ((看 A)2))

宮崎隆義 教授

1 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】外国語の理解と習得は、今や国際的な交流や相互の理解に不可欠なことは言うまでもないが、言葉は単なるコミュニケーションのための道具ではない。言葉は、それを使う人々の考え方や文化の基礎を成すものであって、言葉を理解することは、その言葉を使う人々が、外界の事象をどのように捉えているかを理解することであり、その人々の考え方や文化を理解することに通ずる。これまでの力を確認しつつ、大学において必要な英語の力をつけることを目的とするが、同時に英語という言葉がじっくりと味わうことによって、英語を使う人々の考え方やその文化も理解したい。

【授業の概要】大学における英語力習得の基盤を踏まえ、さらに自主的にその力を発展させることができるように、主題という観点から多様なトピックに目を向ける。また TOEIC 等の資格試験にも役立つ学習を交えつつ、英語の構造を確認しながら、英語の力をさらに総合的に高める。

【キーワード】総合英語、リーディング

【到達目標】英語の 4 技能を伸ばすべくふさわしい主題を見つける。

【授業の計画】1. イントロダクション 2. Unit 1 Sources of Happiness 3. Unit 2 Thin Is Not In 4. Unit 3 Plants as a Source of Health 5. Unit 4 The Path to a Healthy Lifestyle 6. Unit 5 Keep the Grain Young 7. Unit 6 Friendship Is Good for Older People 8. Unit 7 Love Yourself 9. Unit 8 Emotional Intelligence: The Key to Success 10. Unit 9 Another Threat of Infectious Disease 11. Unit 10 The Power of the Story 12. Unit 11 The Value of Touch 13. Unit 12 What Will You Do for the Earth? 14. Unit 13 We All Haze Two Hands 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】園城寺康子, 他. 『今日の社会と健康』. 南雲堂, 1700 円。

【参考書等】 参考書等については適宜紹介し、他にプリント等も用意する。
【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、小テスト、期末試験の結果等を総合的に判断し単位認定の評価とする。
【再試験の有無】 有り
【受講者へのメッセージ】 日々の積み重ねを重視してください。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185600>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日12時~13時)

英語 (English)
主題別英語 (医 ((看 B)2))
Thematic English 米原 晶子・非常勤講師
 1 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
【授業の目的】 やさしい英文を速く読み取るとともに、看護に関する日常的な表現を学習する。
【授業の概要】 看護のエピソード集の読解を行い、エクササイズで理解度の確認を行う。授業の後半には、旅行などで使用することのできる日常会話表現を DVD で学習する。
【キーワード】 読解, 看護英語
【到達目標】
 1. エッセイ風の英文を、速く楽しく読めること。
 2. 看護の英語に習熟すること。
【授業の計画】 1. 授業の説明 2. Chapter 1. Paid in Full 3. Chapter 2. A Parade for Lucy 4. Chapter 3. Tears for Stephanie 5. Chapter 4. The Mirror 6. Chapter 5. We Are Diminished by One 7. Chapter 6. Therapeutic Touch in Hospice Care 8. Chapter 7. Dollie's Good-bye 9. Chapter 8. Summer Hours 10. Chapter 9. Katie's and Millie's Eyes 11. Chapter 10. Their Own Songs 12. Chapter 11. The Truth About Harry 13. Chapter 12. Graduation 14. Discussion 15. 試験 16. まとめ
【教科書】 助川尚子他『Silent Partners-Nursing Episodes』(2002) 南雲堂 1600 円
【成績評価の方法】 学期末試験, 予習状況, レポートまたは中間試験などにより総合的に評価する
【再試験の有無】 有
【受講者へのメッセージ】 必ず予習をしてきておいてください。評価の対象とします。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185603>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 米原 (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはメールで)

英語 (English)
主題別英語 (工 ((建 A)2))
Thematic English 宮田 政徳・准教授/大学開放実践センター
 1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
【授業の目的】 20 世紀最大のポップスグループ、ビートルズの結成から解散までの歴史を英文で読み、彼らの名曲の数々を鑑賞することを目的とする。
【授業の概要】 毎時間ビートルズについて書かれた英文テキストを講読して、随時ビデオによる映像を紹介する。そして、彼らの代表曲を流し、鑑賞すると共に歌の練習をする。
【キーワード】 ビートルズ, 英語のポップス
【到達目標】
 1. ビートルズの歴史が分かる。
 2. ビートルズのメンバーの顔と声が区別できる。
 3. ビートルズの歌が歌えるようになる。
【授業の計画】 1. イントロダクション 2. テキスト講読+歌 (Please Please Me) 3. テキスト講読+歌 (Love Me Do & Do You Want To Know A Secret) 4. テキスト講読+歌 (Twist And Shout) 5. テキスト講読+歌 (From Me To You) 6. テキスト講読+歌 (She Loves You) 7. テキスト講読+歌 (I Want To Hold Your Hand) 8. テキスト講読+歌 (All My Loving) 9. テキスト講読+歌 (I Wanna Be Your Man & A Hard Day's Night) 10. テキスト講読+歌 (I Should Have Known Better) 11. テキスト講読+歌 (If I Fell) 12. テキスト講読+歌 (I'm Happy Just To Dance With You) 13. テキスト講読+歌 (And I Love Her) 14. テキスト講読+歌 (Can't Buy Me Love) 15. 期末試験 16. 期末試験の振り返り
【教科書】 ビートルズ・青春の軌跡; アラン・ポーズナー (マクミランランゲージハウス, 1987 年, 1340 円)

【成績評価の方法】 学期末試験 (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。
【再試験の有無】 有
【受講者へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回必ず出席すること。テキストや歌のプリントを忘れたら減点するので注意すること。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185581>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ miyata@cue.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 16時10分~17時00分 宮田研究室 (大学開放実践センター3F))

英語 (English)
主題別英語 (工 ((建 B)2))
Thematic English 上野 加代子・教授
 1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
【授業の目的】 ハリウッド映画やドラマ番組で英語を学ぶ。
【授業の概要】 連続ホームドラマ番組や映画でリスニング力を向上させ、役に立つ英語表現を学ぶ。毎週の授業のはじめに小テストを行う。
【キーワード】 映画
【到達目標】 英語学習への意欲が高まる
【授業の計画】 1. 授業の説明 2. 映画・ドラマ視聴 3. 映画・ドラマ視聴 4. 映画・ドラマ視聴 5. 映画・ドラマ視聴 6. 映画・ドラマ視聴 7. 映画・ドラマ視聴 8. 映画・ドラマ視聴 9. 映画・ドラマ視聴 10. 映画・ドラマ視聴 11. 映画・ドラマ視聴 12. 映画・ドラマ視聴 13. 映画・ドラマ視聴 14. 映画・ドラマ視聴 15. 学期末試験 16. 総括授業
【教科書】 指定しない
【成績評価の方法】 小テスト (2 回), 学期末試験, 授業への貢献度を総合的に評価する。
【再試験の有無】 無
【受講者へのメッセージ】 学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185564>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日11時50分~12時50分)

英語 (English)
主題別英語 (工 ((化 A)2))
Thematic English 樋口 友乃・准教授
 1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
【授業の目的】 映画を通して英米の文化に対する理解を深めながら、基礎的な語彙や表現を習得し、同時にリスニング・リーディング能力を高めることを目的とする。
【授業の概要】 映画の視聴と、映画に関連する文章の聞き取りや読解演習を通して幅広い英語表現を学ぶ。
【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める
【授業の計画】 1. Unit 1 2. Unit 2 3. Unit 3 4. Unit 4 5. 小テスト (1) 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. 小テスト (2) 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業
【教科書】 『Action!—Great scenes from Unforgettable Films—』(南雲堂)
【成績評価の方法】 成績は期末試験, および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。
【再試験の有無】 無
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180710>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
主題別英語 (工 ((化 B)2))
Thematic English 吉田 文美・准教授
 1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 映画を取り上げたテキストを用いて、現実英語を使う際に必要なリスニング力を要請するためのトレーニングをおこなう。また、日常的に必要な語彙、基本的なリーディングの力も身につける。

【授業の概要】 William Wyler 監督, Audrey Hepburn, Gregory Peck 主演の映画 Roman Holiday (1953) を用いて、リスニングの訓練を行う。また、日常的に必要な語彙の導入、基本的な読解力の養成も行う。学期中に2度のリスニング中心のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句に関する小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 Cinema English, Listening Comprehension

【到達目標】 映画を通じて、日常的に使える会話表現、語彙などを習得し、現実に英会話を行う際に必要なリスニングの力を身につける。

【授業の計画】 1. Class Guidance 2. Unit 1 She Gets a Royal Welcome 3. Unit 2 Where Do You Live? 4. Unit 3 Is This the Elevator? 5. Unit 4 Is This the Princess? 6. Unit 5 So I've Spent the Night Here with You? 7. Unit 6 It's Just What I Wanted 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday 10. Unit 8 The Mouth of Truth 11. Unit 9 Hit Him Again, Smitty! 12. Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbye 13. Unit 11 Is That a Shot, Joe? 14. Unit 12: We'll Always Have Paris 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Review

【教科書】 Mayumi Hamada/Hiromi Akimoto, Roman Holiday: Shining and Natural English (Macmillan Cinema English Classic), Macmillan Languagehouse, 2009. ¥2,625 (tax included: with Class/ Self-Study DVD)

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に試験を2回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストを実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly short tests (30%)。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講へのメッセージ】 1) 毎回小テスト(単語・慣用句)が行われるので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。また、試験は2回行われるので、その実施日に注意して下さい。2) 同じ教員が担当する以下の時間帯の主題別英語は、同じ内容です(前期火曜 1-2, 後期水曜 5-6, 後期木曜 1-2)。重複履修はしないように。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185579>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 ((知 B)2))

山田 仁子 准教授

1 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語で書かれた文章を、きちんと内容を把握しながら読む力を養う。

【授業の概要】 人工知能の研究者 Marvin Minsky の名著を、英語の語彙、表現を学びながら、内容を把握して読む。本書の内容は、人間が日々、如何に感じ、思考し、行動しているのかという問題を様々な側面から捉えようとしていて、興味深い。英語も読みやすく、洗練された構成となっている。

【キーワード】 Vocabulary Building, Rapid Reading

【到達目標】 英語で書かれた文章を、短時間でも主要内容が把握できるようになることを目指す。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Chapter 1 Prologue 3. Chapter 1.1 The agents of the mind 4. Chapter 1.2 The mind and the brain 5. Chapter 1.3 The society of mind 6. Chapter 2.6 Are people machines? 7. Chapter 3.1 Conflict 8. 中間試験 9. 中間試験の返却と講評/ Chapter 3.6 Pain and pleasure simplified 10. Chapter 4-1 The self 11. Chapter 5 Individuality, 5.7 Permanent identity 12. Chapter 5.7 Permanent identity 13. Chapter 8.1 K-lines: a theory of memory 14. Chapter 8.2 Re-membering 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 Marvin Minsky, 1985, The Society of Mind, Simon & Schuster

【成績評価の方法】 中間テスト、最終テスト、授業への参加する態度などから、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講へのメッセージ】 授業開始前までに単語、表現を辞書で調べるという予習を必ずすること。予習も成績に反映されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180718>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 9:30-10:30)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 ((光)2))

三宅 恵美 非常勤講師

1 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 TOEIC のスコアを伸ばすための基礎力および応用力をつけることを目的とする。TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のリベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属(グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、TOEIC 学習は文法事項やリスニングのポイントなど項目にしごった学習が可能なので、自分の弱点を探ったり、その学習項目に絞った効果的な学習が可能である。さらに、学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。

【授業の概要】 1. 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて自分のレベルを確認する。実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。2. DVD など視覚、聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語力、実践力をつける。3. 通訳訓練法を取り入れた練習などでバリエーションをつけたりしながら幅広い学習を行う。

【到達目標】 TOEIC500 点をまずは確実に取得することを目標とする。また試験のテクニックや知識のみならず、英語の実用力をつけることで 500・600 点を目指す。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】 1. TOEIC とはなにか 2. プリテスト 3. 動詞・五文型 4. 名詞 5. 形容詞・副詞 6. フレーズリーディング 7. 動名詞 8. TO不定詞 9. 分詞 10. スキャニング 11. 受動態 12. 比較 13. 関係詞 14. ポストテスト 15. 定期試験 16. 総括

【教科書】 TOEIC Test Trainer Target 470, センゲージラーニング (2,100 円)、その他の資料は配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%、小テスト、課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180689>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三宅 (オフィスアワー: 授業開始後に連絡方法をお知らせします)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 ((知 A)2))

山田 紀美 非常勤講師

1 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな分野の科学に関するビデオを視聴し、関連の資料を読むことにより、自然な英語に接し、身につけることを目的とする。

【授業の概要】 ビデオに関連した英文を読み、まず概要を把握する。さらに語彙を学習し、要約の聞き取り練習をした後、ビデオを視聴。リスニング問題で内容把握が出来ているか確認する。

【キーワード】 科学技術

【到達目標】 科学的な英語を聞いて読んで理解でき、自らも、内容について自分の考えが話せるようにする。

【授業の計画】 1. Unit 1 Artificial Intelligence 1 2. Unit 1 Artificial Intelligence 2 3. Unit 2 Dolphins 4. Unit 3 Airplane Flight 5. Unit 4 Health 6. Unit 5 Digital Movies 1 7. Unit 5 Digital Movies 2 8. Unit 6 Sensors 9. Unit 7 Nutrition 10. Unit 8 Robots 11. Unit 9 Information Technology 12. Unit 10 Weather 13. Unit 11 The Sun 14. Unit 12 The International Space Station 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 "Science World, Vol. 1" John S. Lander 著 (Asahi Press)

【成績評価の方法】 授業への取り組み、定期試験などにより総合的に評価する

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 できるだけ多くの人に答えてもらうので、予習復習をしてきてほしい。質問などの発言は積極的にしてもらいたい

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185586>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 (オフィスアワー: 山田(meyamada@mb3.tcn.ne.jp) 学科山田、氏名をタイトルにつけて書いて送って下さい。)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(総科 ((人社 A)2))
スタージナルド・講師/総合科学部
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【キーワード】 Communicative English

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】 1. Course Outline 2. Self-Introduction 3. Discussion on Selected Topic(s)/Video 4. Class Presentations/Summarizing 5. Class Presentations/Summarizing 6. Discussions on Selected Topic(s)/Video 7. Discussions on Selected Topic(s)/Video 8. Mid Term Exam 9. Class Presentations/Summarizing 10. Class Presentations/Summarizing 11. Discussion on Selected Topic(s)/Video 12. Discussion on Selected Topic(s)/Video 13. Discussion on Selected Topic(s)/Video 14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 15. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180801>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(総科 ((人社 B)2))
パトリックジェフ・非常勤講師
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること、生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞 宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞 宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞 話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:what kind, 動詞+to+動詞 宿題:招待, 弁解 5. 講義:現在進行形, 限定詞 宿題:家族 6. 講義:how, 副詞 宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形 宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞 宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格 宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方 宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞 宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could, may 宿題:健康 13. 講義:注文

の仕方 話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形 宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180815>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語 (2)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(総科 ((人社 C)2))

福田, スティーブ・利久・助教/全学共通教育センター
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めている。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180840>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(総科 ((人社 D)2))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 English speech and presentation Notes: 1. Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class but also out of class; there will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and

only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of each class or other factors.

【キーワード】 Communicative English, fluency

【到達目標】 By the end of this course, students should be able to competently discuss and prepare written and/or oral presentations on different topics.

【授業の計画】 1. General Class Guidance Introduction; Topics will be chosen from the text and announced during the first class (the following is a tentative list) 2. Topic 1: Reality TV: Would you be a survivor? 3. Topic 1: Discussion & presentation 4. Topic 2: Advertising: We know what you want before you do! 5. Topic 2: Report & survey 6. Topic 3: Graffiti: You call this ART! 7. Topic 3: Opinion discussion 8. Mid-term evaluation 9. Topic 4: Work: Is it interfering with your life? 10. Topic 4: Current issues and opinions; survey 11. Topic 5: Lying: What's THAT on your resume? 12. Topic 5: Interview; sample resume 13. Topic 6: Child Labor: Who made your sneakers? 14. Topic 6: Discussion and presentation 15. Final Presentation and Examination 16. Review

【教科書】 Cheryl Pavlik. Hot Topics 2. Thomson/Heinle ISBN 1-4130-0706-6

【成績評価の方法】 Final speech presentation and essay composition is an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (60%), Mid-term evaluation (15% each), Final presentation and examination (25%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180283>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル . (オフィスアワー: judithph@yahoo.com Please contact me via e-mail when consultation is necessary.)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 E)2))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/総合科学部
2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 We will begin each lesson with a dictation to reinforce listening, vocabulary and grammar. We will learn about how to conduct conversations paying attention to stress and intonation.

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】 1. Greetings 2. Introductions / Identifying self and others 3. Saying goodbye 4. Giving and receiving compliments 5. Inviting / Accepting / Refusing 6. Expressing likes and dislikes / Asking for and giving an opinion 7. Expressing ability or inability / Making excuses / Giving encouragement 8. Apologizing / Accepting an apology 9. Talking about Food 10. Talking about money 11. Talking about the weather 12. Asking for and giving information 13. Giving and receiving thanks 14. Expressing confusion / Making plans 15. Test 16. Review

【教科書】 Small Talk, Carolyn Graham, OUP

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180804>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 F)2))

パトリックジェフ・非常勤講師
2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could, may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185575>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 G)2))

石田 メグ・非常勤講師
2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English.

【授業の計画】 1. OUTLINE 2. I think I'd like that job 3. What's playing 4. What are you going to do? 5. How much is this? 6. How was it? 7. How do you make it?

【教科書】 No text is needed. Handouts will be prepared. Please bring your English Japanese Dictionary.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in class. Be present and participate. The contents of this class may vary due to the interests and also the level of the students.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180788>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 H)2))

マーシェソジェラルド/専門教育大学
2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to give students an opportunity to use the skills they have developed in the past, for practical and communicative purposes

【授業の概要】 Students will complete a variety of tasks which follow several themes through the course of the term. Themes include 'talking about cities and places around the world', 'vacations students have taken or would like to take' and 'describing events and drawing conclusions from evidence'.

【到達目標】 The purpose of this class is to improve English communicative and productive skills. Students will develop confidence as they use English for a variety of functions. Grammar and vocabulary will be dealt with sometimes, but they will arise in context, from students' need to communicate as they complete tasks, rather than being introduced by the teacher without context. Language form will not be viewed as generative, but subservient to communication.

【授業の計画】 1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher 2. Pronunciation workshop 3. Using past tenses to describe your life 4. Describing other people's life and abilities 5. Presentation preparation 6. Presentations 7. Using present tense to talk about University life 8. Comparing Universities in Canada and Japan 9. Using adjectives to talk about neighborhoods in Tokushima 10. Using adjectives to describe various cities 11. Describing your hometown 12. Describing cities and countries around the world 13. Describing neighborhoods in Toronto 14. Choosing an apartment in Toronto (group decision task) 15. Test 16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Speaking test: 25%, Presentation: 25%, Homework and participation: 30%, Attendance: 20%

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a practical English class, which means the focus will be on communication. You have already learned a lot of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English 'packed' inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180829>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マーシェン .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 ((栄 A)2))

ギンターテイルク 非常勤講師

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し, 日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Getting To Know You" 3. 単語ミニテスト "Giving Advice 1" 4. 単語ミニテスト "Giving Advice 2" 5. 単語ミニテスト "Planning An Event 1" 6. 単語ミニテスト "Planning An Event 2" 7. 単語ミニテスト "Meeting A Star" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1" 10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Describing Situations 1" 12. 単語ミニテスト "Describing Situations 2" 13. 単語ミニテスト "Dialogue" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには (ア)~(カ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。 (ア~カ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英語は「ただの勉強しなげなければならない事」ではなく, 言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して, 遠慮せずに身に付

けた英語を使ったら, その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180791>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギンター . (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または, 希望により他の時間にも))

【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 ((栄 B)2))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると, 「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け, 自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中, 「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めている。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ, 疑似体験の英語を避け, その場, その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。 20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180839>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 ((放 A)2))

スティーヴンズ, メリディス・アン 講師 / 総合科学部

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop speaking and listening skills.

【授業の概要】 First we will begin with a dictation to be done in groups. Then we will engage in listening and communicative activities. Then we will learn about life in modern Australia.

【到達目標】 To refine listening skills and develop confidence in interpersonal communication.

【授業の計画】 1. Geography and Climate 2. Homestays 3. Family Roles 4. Transport 5. The Royal Show 6. Language Schools and Universities 7. South Australia 8. Sport 9. Australian Flora 10. Australian Fauna 11. The Aborigines 12. The Sea 13. Multiculturalism 14. Australian English 15. Review 16. Test

【教科書】 Modern Life Down Under (teacher will supply)

【成績評価の方法】 Weekly dictations, Final Test

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180809>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 (放 B2))

中西・リンドルイーズ・非常勤講師
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class seeks to improve all aspects of communication and as such all lessons will be conducted in English.

【授業の概要】 Classes are structured to give the students a degree of autonomy in areas such as presentation choice, book discussion groups and interviews.

【キーワード】 Presentation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading and syllabus. 2. Presentation: introduction and planning. 3. Presentation: support exercises and preparation. 4. Presentation: support exercises and preparation. 5. Presentation: grading explanation and presentations. 6. Presentation: grading review and presentations continued. 7. Introduce book (fiction). Decide discussion groups and roles. 8. Continue guided reading with DVD supplement. 9. Book review, guided reading, DVD supplement. 10. Book review, guided reading, DVD supplement, commence report. 11. Individual interviews and reading comprehension exercises. 12. Individual interviews and reading comprehension exercises. 13. Writing exercises. 14. Listening comprehension exercises. 15. Final Test

【教科書】 Oxford University Press reader (supplied by instructor), Handouts and other materials (supplied by instructor)

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, assignments and projects and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note taking. Join in, have fun and you will improve your English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185573>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中西・リンド

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 (検 2))

フロスト・ダン・非常勤講師
2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To expand the students grasp of spoken English and their ability to respond verbally.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students.

【授業の計画】 1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken. 2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested. 3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180826>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ フロスト

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(歯 (((歯口)A)2))

マコーマック ポーリン・非常勤講師
2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this course is to provide a chance for learners to express their point of views and opinions and to make short presentations.

【授業の概要】 The text is designed to help students develop conversation and discussion skills in English.

【到達目標】 By the end of this course, learners should have developed skills in four key areas of language learning: comprehension, critical thinking, self-expression, and motivation.

【授業の計画】 1. Introduction 2. Plagiarism 3. Housework 4. Body Art 5. Adult Children 6. No Place Like Home 7. Career Choice 8. High-Tech Toys 9. High-Tech Toys (cont) 10. A Woman's Pace 11. The Art of Compromise 12. The Art of Compromise (cont) 13. My Split Family 14. My Split Family (cont) 15. Final Exam 16. Review

【教科書】 Impact Issues, Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka

【成績評価の方法】 10% attendance, 40% class participation, 50% final exam.

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 This is an communicative English class.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180830>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ マコーマック

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(歯 (((歯口)B)2))

パトリック ジェフ・非常勤講師
2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題: 紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法: be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義: 疑問視, 短い返事, 代名詞宿題: 自己紹介 2. 講義: 疑問詞, 時間の前置詞宿題: 職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義: 指示詞宿題: 値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義: 所有代名詞, 天気宿題: 天気の作文 5. 講義: 現在進行形, 限定詞宿題: 家族 6. 講義: how, 副詞宿題: スポーツ, 運動 7. 講義: 不規則動詞, 過去形宿題: 趣味, 趣味 8. 講義: there, 不可算名詞宿題: 近所, 店 9. 講義: 人のことの説明, 性格宿題: 人の特徴, 顔 10. 講義: 計画の作り方宿題: おもしろい体験 11. 講義: 副詞, 形容詞, 接続詞宿題: 国々, 町の特徴 12. 講義: can, could, may 宿題: 健康 13. 講義: 注文の仕方宿題: レストラン, 食べ物 14. 講義: 比較形, 最上形宿題: 地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名: New Interchange Student's Book 1 著者: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180818>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(薬 ((薬 A-1)2))
パトリックジェフ・非常勤講師
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 講義:自己紹介 宿題:自己紹介

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買物 4. 講義:would, what kind, 動詞+to+動詞宿題:招待, 弁解 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could, may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180816>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(薬 ((薬 A-2)2))
フロストダン・非常勤講師
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To expand the students grasp of spoken English and their ability to respond verbally. .

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】 1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns.Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken. 2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement.These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments maybe added or suggested. 3. An outline of patterns:Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect.Transportation and Services: Adverbs, Wh questions.Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons.Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen,pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185577>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(薬 ((薬 B-1)2))
早内-プリングルジュディス・非常勤講師
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students exposure to and practice with the English speech and presentation process from initial information/idea gathering to the final presentation. Students will learn how to build a speech using writing skills, information collecting skills, etc., and learn how to effectively present their ideas after preparation and on a spontaneous basis.

【授業の概要】 English speech and presentation Notes: 1.This class is only for first semester. 2. Students will be expected to speak and write not only in class but also out of class; there will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. 3. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of each class or other factors.

【キーワード】 Communicative English, speech

【到達目標】 By the end of this course, students should be able to prepare a speech on a variety of topics/for a variety of purposes using written notes and visual aids, and present it competently.

【授業の計画】 1. General Class Guidance; Introduction to the elements of spoken presentation. 2. The Physical Message: Posture & Eye Contact; Informative Speech 3. The Physical Message: Gestures; Layout Speech 4. The Physical Message: Voice Inflection; Demonstration Speech 5. Presentation Week 1 6. Presentation Week 2 7. The Story Message: Introduction to the Story Message 8. The Story Message: The Introduction; Persuasive Speech (Introduction) 9. The Story Message: The Body; Transitions and Sequencers 10. The Story Message: Persuasive Speech (Body) 11. The Story Message: The Conclusion; Persuasive Speech (Conclusion) 12. The Visual Message: Introduction to the Visual Message; Making Visual Aids 13. The Visual Message: Explaining Visual Aids 14. Review and Preparation for Final Presentation. 15. Final Presentation 16. Review

【教科書】 David Harrington & Charles LeBeau. Speaking of Speech. Macmillan Languagehouse. ISBN4-89585-211-3

【成績評価の方法】 Final speech presentation and essay composition is an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (70%), Final presentation and composition (essay) (30%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180824>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル . (オフィスアワー: judithph@yahoo.com Please contact me via e-mail when consultation is necessary.)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(薬 ((薬 B-2)2))
中西-リンドルイース・非常勤講師
2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class seeks to improve all aspects of communication and as such all lessons will be conducted in English.

【授業の概要】 Classes are structured to give the students a degree of autonomy in areas such as presentation choice, book discussion groups and interviews.

【キーワード】 Presentation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading and syllabus. 2. Presentation: introduction and planning. 3. Presentation: support exercises and preparation. 4. Presentation: support exercises and preparation. 5. Presentation: grading explanation and presentations. 6. Presentation: grading review and presentations continued. 7. Introduce book (fiction). Decide discussion groups and roles. 8. Continue guided reading with DVD supplement. 9. Book review, guided reading, DVD supplement. 10. Book review, guided reading, DVD supplement, commence report. 11. Individual interviews and reading comprehension exercises. 12. Individual interviews and

reading comprehension exercises. 13. Writing exercises. 14. Listening comprehension exercises. 15. Final Test

【教科書】 Oxford University Press reader (supplied by instructor), Handouts and other materials (supplied by instructor)

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, assignments and projects and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者のメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note taking. Join in, have fun and you will improve your English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180811>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中西-リンド

英語 (English)

発信型英語

(工 ((機 a)2))

Communicative English

スティーヴンズ, メリディス・アン 講師/総合科学部
2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction

【授業の概要】 The class will consist of a dictation, a communication exercise and work from the textbook.

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】 1. Geography and Climate 2. Homestays 3. Family Roles 4. Transport 5. The Royal Show 6. Language schools and universities 7. South Australia 8. Sport 9. Australian Flora 10. Australian Fauna 11. The Aborigines 12. The Sea 13. Multiculturalism 14. Australian English 15. Test 16. Revision

【教科書】 Modern Life Down Under, Meredith Stephens and Richard Blight

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者のメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180803>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

(工 ((機 b)2))

Communicative English

スタージドナルド 講師/総合科学部
2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】 1. Course Outline 2. Self-Introduction 3. Discussion on Selected Topic(s)/Video 4. Class Presentations/Summarizing 5. Class Presentations/Summarizing 6. Discussions on Selected Topic(s)/Video 7. Discussions on Selected Topic(s)/Video 8. Mid Term Exam 9. Class Presentations/Summarizing 10. Class Presentations/Summarizing 11. Discussion on Selected Topic(s)/Video 12. Discussion on Selected Topic(s)/Video 13. Discussion on Selected Topic(s)/Video 14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 15. Class

Presentations/Summarizing/Course Evaluation 16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies, of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者のメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180796>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英語 (English)

発信型英語

(工 ((機 c)2))

Communicative English

福田, スティーブ・利久 助教/全学共通教育センター
2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めている。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。 20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180843>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語

(工 ((機 d)2))

Communicative English

フロストダン 非常勤講師
2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To expand the students grasp of spoken English and their ability to respond verbally.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】 1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken. 2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested. 3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180848>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ フロスト

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((生 A)2))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/総合科学部
2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop speaking and listening skills.

【授業の概要】 First we will begin with a dictation to be done in groups. Then we will engage in listening and communicative activities.

【到達目標】 To refine listening skills and develop confidence in interpersonal communication.

【授業の計画】 1. Geography and Climate 2. Homestays 3. Family Roles 4. Transport 5. The Royal Show 6. Language Schools and Universities 7. South Australia 8. Sport 9. Australian Flora 10. Australian Fauna 11. The Aborigines 12. The Sea 13. Multiculturalism 14. Australian English 15. Test 16. Review

【教科書】 Modern Life Down Under

【成績評価の方法】 Weekly dictations, Homework, Final Test

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180805>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((生 B)2))

ラックストン ロバート・非常勤講師
2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to improve English conversational ability.

【授業の概要】 We will do textbook exercises, role-plays and skits.

【到達目標】 Students will increase their confidence about speaking English.

【授業の計画】 1. Introductions 2. Unit 1.1 3. Unit 1.2 4. Unit 2.1 5. Unit 3.1 6. Unit 3.2 7. Quiz 1 and Skit Preparation 8. Skit Day 9. Unit 4.1 10. Unit 4.2 11. Unit 5.1 12. Unit 5.2 13. Unit 6.1 14. Unit 6.2 15. Quiz 2 and Skit Preparation 16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 2

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180835>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ラックストン (オフィスアワー: Contact me at: rob-luxton@shikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((電 a)2))

福田, スティーブ・利久・助教/全学共通教育センター
2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めています。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるための情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180844>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((電 b)2))

バトリックジェフ・非常勤講師
2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題: 紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法: be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義: 疑問視, 短い返事, 代名詞宿題: 自己紹介 2. 講義: 疑問詞, 時間の前置詞宿題: 職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義: 指示詞話題: 値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義: 所有代名詞, 天気 宿題: 天気の作文 5. 講義: 現在進行形, 限定詞宿題: 家族 6. 講義: how, 副詞宿題: スポーツ, 運動 7. 講義: 不規則動詞, 過去形宿題: 連休, 趣味 8. 講義: there, 不可算名詞宿題: 近所, 店 9. 講義: 人のことの説明, 性格宿題: 人の特徴, 顔 10. 講義: 計画の作り方宿題: おもしろい体験 11. 講義: 副詞, 形容詞, 接続詞宿題: 国々, 町の特徴 12. 講義: can, could, may 宿題: 健康 13. 講義: 注文の仕方話題: レストラン, 食べ物 14. 講義: 比較形, 最上形宿題: 地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名: New Interchange Student's Book 1 著者: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180817>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語 (2)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((電 c)2))

中西-リンドルイーズ・非常勤講師

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class seeks to improve all aspects of communication and as such all lessons will be conducted in English.

【授業の概要】 Classes are structured to give the students a degree of autonomy in areas such as presentation choice, book discussion groups and interviews.

【キーワード】 Presentation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading and syllabus. 2. Presentation: introduction and planning. 3. Presentation: support exercises and preparation. 4. Presentation: support exercises and preparation. 5. Presentation: grading explanation and presentations. 6. Presentation: grading review and presentations continued. 7. Introduce book (fiction). Decide discussion groups and roles. 8. Continue guided reading with DVD supplement. 9. Book review, guided reading, DVD supplement. 10. Book review, guided reading, DVD supplement, commerce report. 11. Individual interviews and reading comprehension exercises. 12. Individual interviews and reading comprehension exercises. 13. Writing exercises. 14. Listening comprehension exercises. 15. Final Test

【教科書】 Oxford University Press reader (supplied by instructor), Handouts and other materials (supplied by instructor)

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, assignments and projects and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note taking. Join in, have fun and you will improve your English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180812>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中西-リンド .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((電 d)2))

マコーマック ポーリン・非常勤講師

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this course is to provide a chance for learners to express their point of views and opinions and to make short presentations.

【授業の概要】 The text is designed to help students develop conversation and discussion skills in English.

【到達目標】 By the end of this course, learners should have developed skills in four key areas of language learning: comprehension, critical thinking, self-expression, and motivation.

【授業の計画】 1. Introduction 2. Plagiarism 3. Homework 4. Body Art 5. Adult Children 6. No place like Home 7. Career Choice 8. High-Tech Toys 9. High-Tech Toys (cont) 10. A Women's Place 11. The Art of Compromise 12. The Art of Compromise (cont) 13. My Split Family 14. My Split Family (cont) 15. Final Exam 16. Review

【教科書】 Impact Issues, Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka

【成績評価の方法】 10% attendance, 40% class participation, 50% final exam

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 This is an communicative English class

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185578>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マコーマック .

4.2 《ドイツ語》 (German)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (総科 (人文))
 Introductory German ヘルベルト ウォルフガング・講師/総合科学部
 1単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 (人文)) 井戸 / 前期 水 1・2 ⇒ 83 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること、基礎文法を身につけること、

【授業の概要】 ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】 話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける

【授業の計画】 1. オリエンテーション、挨拶の仕方 2. 文字と発音、ドイツ語を話す国々 3. 人と知り合う、名前、出身、疑問文 4. 住所、人を紹介する、動詞の変化 5. 数詞、電話番号、名詞の性と定冠詞 6. 専攻、言語、動詞の位置と語順 7. 履修科目、曜日、冠詞類の使い方 1 8. 趣味、不規則動詞の現在人称変化 9. 好きなこと、嫌いなこと、否定文の作り方 10. 食事、好物、接続詞 11. ドイツ料理、前置詞、頻度を表す副詞 12. レストランで、定冠詞の使い方 2 13. 家族、兄弟、年齢、性格、名詞の複数形、否定冠詞 14. 職業、目的格、形容詞 15. 期末テスト 16. 纏め、質疑応答

【教科書】 佐藤修子、下田恭子、H. Papenthin, G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語、CD 付きスウェーデン 1、三修社

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181200>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ Tel./Fax. 656-7145 (オフィスアワー: 火曜日 15.30h-17.00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (総科 (人文))
 Introductory German 井戸 慶治・准教授
 1単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 (人文)) ヘルベルト / 前期 月 5・6 ⇒ 83 頁)

【授業の目的】 ドイツ語文法の基礎を学び、ドイツ語圏の文化や事情を知る。

【授業の概要】 ペア授業のひとつであるが、この授業では主として文法説明、練習問題、読章からなる教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実にものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ文化や日独の文化交流の一端を紹介する。

【キーワード】 ドイツ語学習、ドイツの文化を知る

【到達目標】 辞書を用いて簡単なドイツ語を読むことができ、初歩的なドイツ語作文ができるようになること。

【授業の計画】 1. 導入 2. 発音 3. 動詞の現在 (1) 4. 定動詞の位置 5. 名詞と定冠詞 6. 動詞の現在 (2) 7. 動詞の現在 (3)・命令法 8. 中間試験 9. 不定冠詞と冠詞類 10. 名詞の複数形・男性弱変化名詞 11. 人称代名詞・疑問詞 12. 前置詞 13. 接続詞 14. 分離動詞 15. 期末試験 16. 予備

【教科書】 ドイツ文法の森 (第三書房)、独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】 中間試験、期末試験、平常点 (小テスト、授業への取り組み方) で、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者のメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185604>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時)

【備考】 この授業は、月曜日 5・6 講時のヘルベルト先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (総科 (社創))
 Introductory German 石川 榮作・教授
 1単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 (社創)) 今井 / 前期 木 1・2 ⇒ 83 頁)

【授業の目的】 ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (野ばら、ローライなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】 ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】 ドイツ語の基本的な文法事項を習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (ドイツ語について) 2. 発音 3. 第 1 課 動詞の現在人称変化 (1) 4. 第 2 課 名詞の格変化/定冠詞と不定冠詞 5. 第 3 課 人称代名詞/定冠詞類と不定冠詞類 6. 第 4 課 動詞の現在人称変化 (2)/命令法 7. 第 1 課から第 4 課までの総まとめ 8. 中間試験 (第 1 課-第 4 課) 9. 第 5 課 前置詞 10. 第 6 課 形容詞の語尾変化 11. 第 7 課 話法の助動詞/従属接続詞 12. 第 5 課から第 7 課までの総まとめ 13. 前期の総復習 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験 (第 5 課-第 7 課) 16. 総括授業

【教科書】 ヘルベルト/石川/井戸/依岡 『出会いのドイツ語』 (郁文堂) 2000 年

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181169>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15~16時)

【備考】 この授業は木 1・2 講時「ドイツ語入門」(今井) とペアクラスになっています。必ず両方を受講してください。

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (総科 (社創))
 Introductory German 今井 晋哉・准教授
 1単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 (社創)) 石川 / 前期 火 3・4 ⇒ 83 頁)

【授業の目的】 本科目は、初めて第二外国語を学ぶ学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情の一端を紹介し、ドイツの社会や文化に対する関心を喚起できれば、と考えている。

【授業の概要】 この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的にやりたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属の CD/DVD を用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についてもできるだけ多く紹介したい。

【キーワード】 対話文、初級文法、現代ドイツ事情、テキストの読解

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
 2. 現代ドイツの社会や文化に関心をもち、その一端を理解すること。

【授業の計画】 1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。詳しいことは授業時に説明する。
 2. 第 1 回: ガイダンス ~ 教科書、授業の進め方、家庭学習などについての説明 3. 第 2 回: アルファベット、辞書の紹介 4. 第 3-4 回: 発音とつづり字の読み方 5. 第 5-6 回: ドイツ語のあいさつなど 6. 第 7-9 回: ベルリンに到着 (動詞の現在人称変化, sein と haben の変化, 動詞の位置) 7. 第 10 回: コラム ~ 活気あふれる首都ベルリン

8. 第 11-13 回: パン屋さんで(名詞の性, 名詞の格変化) 9. 第 14 回: コラム ~ こだわりのドイツパン 10. 第 15 回: 期末試験 11. 第 16 回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007 年)[¥2,600+税].

【参考書等】 プリント教材・資料を配付することもある.

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や私とのやりとりに対する評価), 中間の小テストおよび期末試験による. 平常点の比重が全体の 2-3 割程度を占めることになるであろう.

【再試験の有無】 行う場合もある.

【受講者のメッセージ】 せっかく新しく学習する外国語の科目なのだから, ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい. 単に出席しているだけでは, あまり意味はない. 毎回指示される家庭学習も怠らないように. なお, 初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181168>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-18:00)

【備考】 このクラスは, 火曜日 3・4 講時の石川先生担当の「ドイツ語入門」とペアになっているので, 両方のクラスを受講すること. ただし成績は各クラス別に出される. 石川先生の授業との関係については学期初めに説明する.

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (総科 (総理))
Introductory German ギュンター・ディルク・非常勤講師
 1 単位 前期 火 3・4
 (平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 (総理)) 桂 / 前期 木 1・2 ⇒ 84 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎文法を習得し, 会話ができるようになる. ドイツの文化や現代社会についての理解を深める.

【授業の概要】 表現力 (会話, 筆記, 聞き取り) の能力を高める. 前期には基礎的な文法を勉強する. 後期には今まで学習した内容を応用して, 自分の言葉で表現する練習をする. パートナーとの会話練習や, 発表など, 授業への積極的な参加が望まれる.

【キーワード】 現代ドイツ語, コミュニケーションの力, ドイツ文化

【到達目標】 基礎的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする.

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. ABC の発音, スペル 3. 人と知り合う 1(名前, 出身, 住所, 自己紹介) 4. 人と知り合う 2(紹介する, 数, 電話番号) 5. 専攻言語 (専攻, 学習言語, 曜日) 6. 趣味 (好きなこと, 嫌いなこと) 7. 家族 1(親戚, 年齢等) 8. 家族 2(職業) 9. 中間テスト 10. ドイツの国・現代社会について 11. 食事 (好物, 一日の食事) 12. 持ち物 (品物の感想 1) 13. 持ち物 (商品の感想 2) 14. 時刻と日付 1(時刻, 時間, 日付, 月, 誕生日) 15. 期末テスト 16. 総括授業※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります.

【教科書】 未定

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席. 単位取得のためには (ア)~(オ) の全ての分野で最低 60 点を取る事が必要です. (ア~オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です. 桂先生とのペア授業になっているので, 必ず両方受講のこと.

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に, 途中はたいへんでも, 頂上について話せるようになってととても楽しいものです. 楽しい授業にしようと思いますので, 一緒にがんばりましょう.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181167>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または, 希望により他の時間にも))

【備考】 ○ 木曜 1・2 講時の桂先生のクラスとペア授業になっているので, 必ず両方受講のこと. ○ 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (総科 (総理))
Introductory German 桂 修治 教授
 1 単位 前期 木 1・2
 (平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 (総理)) ギュンター / 前期 火 3・4 ⇒ 84 頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって, 私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます. この授業では, ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます. そして同時にそれらを応用し, さまざまなテキストを読み, ドイツの社会や文化を知ることが, もう一つの目的です.

【授業の概要】 授業では, ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱い, いくつかのヨーロッパの都市を紹介します. ドイツ語のテキストを読み, テーマに即した口語表現を学びながら, ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです. 楽しく参加できる授業にしたいと考えています.

【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る, 国際交流につながる学習

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ, 簡単なテキストや発話が理解できる.
2. ドイツ語を自信を持って音読できる.
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る.

【授業の計画】 1. ドイツ語学習へのオリエンテーション, ドイツ語発音の基礎 2. 多言語社会ルクセンブルク. 人称代名詞, 人称に対応する動詞の変化, 動詞 sein / haben, ドイツ語の語順の原則 (1) 3. 多言語社会ルクセンブルク. 人称代名詞, 人称に対応する動詞の変化, 動詞 sein / haben, ドイツ語の語順の原則 (1) 4. 多言語社会ルクセンブルク. 人称代名詞, 人称に対応する動詞の変化, 動詞 sein / haben, ドイツ語の語順の原則 (1) 5. ドイツとフランスに新たな雪解け. 名詞の性, 冠詞, ドイツ語の格について, 定冠詞と不定冠詞の格変化 6. ドイツとフランスに新たな雪解け. 名詞の性, 冠詞, ドイツ語の格について, 定冠詞と不定冠詞の格変化 7. ドイツとフランスに新たな雪解け. 名詞の性, 冠詞, ドイツ語の格について, 定冠詞と不定冠詞の 8. ドイツの鉄道. 不規則動詞について, 動詞の命令形, 人称代名詞の 3 格と 4 格, ドイツ語の語順の原則 (2) 9. ドイツの鉄道. 不規則動詞について, 動詞の命令形, 人称代名詞の 3 格と 4 格, ドイツ語の語順の原則 (2) 10. ドイツの鉄道. 不規則動詞について, 動詞の命令形, 人称代名詞の 3 格と 4 格, ドイツ語の語順の原則 (2) 11. スイス銀行と守秘義務. 名詞の複数形, 定冠詞に似た変化をすることば, 不定冠詞に似た変化をすることば 12. スイス銀行と守秘義務. 名詞の複数形, 定冠詞に似た変化をすることば, 不定冠詞に似た変化をすることば 13. ドイツ映画の現在. 前置詞の使い方, 分離動詞 14. ドイツ映画の現在. 前置詞の使い方, 分離動詞 15. 期末試験 16. 前期授業のまとめ

【教科書】

- ◇ 「クロイツング」 (朝日出版社)
- ◇ 辞書を購入のこと (初回授業で紹介いたしますので, 前もって購入しておく必要はありません)
- ◇ その他, 教材のプリントを配布します.

【成績評価の方法】 小テスト, レポート, 試験, 授業参加への所見などを総合して評価します.

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 この授業では, 授業のホームページを開設し, これを積極的に活用します. 授業の前後に, このページを何度も見て, 復習と予習を行ってください.

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185533>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3・4時間, 金曜5・6)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (歯 (歯))
Introductory German ヘルベルト ウォルフガング・講師 / 総合科学部
 1 単位 前期 月 7・8
 (平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (歯 (歯)) 桂 / 前期 火 9・10 ⇒ 85 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の会話を通して, ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める

【授業の概要】 日常的に使う文章, 言い回しを中心にペアや小グループで会話練習などを行う.

【到達目標】 基礎的な会話 (話す, 聞くなど) と簡単な作文 (書く, 読む) を修得する.

【授業の計画】 1. オリエンテーション, 外国語の学び方について, 辞書などの使い方 2. 人と知り合う (出身, 住所, 年齢, 身分など) 自己紹介 3. 仕事, バイト, 勉強, 職業 4. 趣味, 道楽, 遊び 5. 専攻, 履修科目, 曜日, 年月日 6. 電話の仕方: 数詞, 小テスト 7. 買い物をする 8. 家族, 兄弟, 親戚について, 作文 9. 不動産, 住居, 部屋, 家具など 10. 余暇の過ごし方 11. 外出する, 約束するための表現 12. 休暇の計画 (活動, 場所, 同伴者など) 13. 簡単なテキスト

トを読む、文章の構造 14. 週末の過ごし方、現在完了形、聞き取り練習 15. 定期試験 16. 質疑応答、纏め

【教科書】プリント等を配布

【成績評価の方法】平常点を定期試験、小テスト、出席、授業への取り組み状況により総合的に評価する

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181161>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 15.30h-17.00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(歯 (歯))

桂 修治 教授

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (歯 (歯)) ヘルベルト / 前期 月 7・8 ⇒ 84 頁)

【授業の目的】外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱います。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。

【キーワード】ドイツ語学習、ドイツ語圏の文化を知る

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る。

【授業の計画】1. ドイツ語学習へのオリエンテーション、ドイツ語発音の基礎 2. 「誕生日」(人称代名詞、人称に対応する動詞の変化、定動詞の位置、sein の現在人称変化) 3. 「誕生日」(人称代名詞、人称に対応する動詞の変化、定動詞の位置、sein の現在人称変化) 4. 「誕生日」(人称代名詞、人称に対応する動詞の変化、定動詞の位置、sein の現在人称変化) 5. 「住と食」(名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格変化、haben の現在人称変化) 6. 「住と食」(名詞の性、定冠詞と不定冠詞、haben の現在人称変化) 7. 「住と食」(名詞の性、定冠詞と不定冠詞、haben の現在人称変化) 8. 中間試験、「誕生と洗礼」(名詞の複数形、複数名詞の格変化、動詞の現在人称変化、(不規則変化)、命令形) 9. 「誕生と洗礼」(名詞の複数形、複数名詞の格変化、動詞の現在人称変化、(不規則変化)、命令形) 10. 「誕生と洗礼」(名詞の複数形、複数名詞の格変化、動詞の現在人称変化、(不規則変化)、命令形) 11. 「職業と休暇」(人称代名詞の 3 格と 4 格、疑問代名詞、前置詞の格支配、前置詞と定冠詞との融合形) 12. 「職業と休暇」(人称代名詞の 3 格と 4 格、疑問代名詞、前置詞の格支配、前置詞と定冠詞との融合形) 13. 「結婚式」(定冠詞類 (dieser 型)、不定冠詞類 (mein 型)、否定文;kein と nicht の使い分けの原則) 14. 「結婚式」(定冠詞類 (dieser 型)、不定冠詞類 (mein 型)、否定文;kein と nicht の使い分けの原則) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ ドイツ暮らしのスケッチ (朝日出版社)
- ◇ 辞書を購入のこと (初回授業で紹介いたします。前もって買っておく必要はありません)

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点 (小テスト、授業への取り組み方など) で総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181181>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 3・4 時限、金曜 5・6 時限)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(医 (医 A))

曾田 紘二 教授 / 大学開放実践センター

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 (医 A)) 井戸 / 前期 火 5・6 ⇒ 85 頁)

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記、発音、文法、表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】1. オリエンテーション、ドイツとドイツ語 2. 文字と発音 3. 文字と発音 4. ものについての問い方・答え方 5. 性 (gender) と冠詞、練習問題 6. 不定詞と定動詞、練習問題 7. 自己紹介の表現 8. 自己紹介の表現 9. 中間試験、動詞の活用 10. 動詞の活用 11. 動詞の活用練習問題 12. 買い物表現 13. 買い物表現 14. 名詞の複数形、練習問題 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】信岡資生他『新しいドイツ語の時間』第三書房、2006 年。

【成績評価の方法】期末試験 5 割、中間試験 5 割。

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185536>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 曾田 (D305-1, 656-9867, soda@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時~ 13 時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(医 (医 A))

井戸 慶治 准教授

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 (医 A)) 曾田 / 前期 月 9・10 ⇒ 85 頁)

【授業の目的】ドイツ語の基礎的な諸表現を習得し、またドイツ事情に触れる。

【授業の概要】ペア授業のひとつであるが、この授業では、読章、文法説明、聞き取りなどの練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくと、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【到達目標】1. ドイツ語文法の基本を理解し、正しい発音と挨拶など初歩的な日常表現ができるようになること。

【授業の計画】1. 導入 2. 発音 3. ミュンヘン 4. 動詞の現在人称変化 (1) 5. ロマンティック街道 6. 名詞の性と冠詞 7. 冠詞類 8. 中間試験 9. ライン川 10. 名詞の複数形と 4 格 11. ボンとベートーヴェン 12. 2 格と 3 格、動詞の現在人称変化 (2) 13. デュッセルドルフ 14. 前置詞 15. 期末試験 16. 予備

【教科書】教科書は、宇佐美ほか: 「ドイツめぐり (ユーロ版)」(朝日出版社)。独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点 (小テスト、授業への取り組み方など) で総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181172>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは火曜日 16-17 時とするが、それ以外でも在室の時は対応可。研究室は、総合科学部 1 号館南棟 1 階。Eメールでの質問も受けつける。)

【備考】この授業は、月曜日 9・10 講時の曾田先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(医 (医 B))

依岡 隆児 教授

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 (医 B)) 桂 / 前期 火 5・6 ⇒ 86 頁)

【授業の目的】初級文法を習得しながら、簡単なドイツ語を読み、書き、聞き、話すことができるようになること。また、ドイツ語圏の文化や社会についての知識を深めること。

【授業の概要】 基本的な、読む、聞く、話す、書くという技能を、初歩的な文法事項に絞ってドリル形式で練習しながら、自然とドイツ語が身につくようする。また、授業の合い間にドイツの映画やビデオを見せ、ドイツの文化や社会への興味を喚起し、国際人としての教養を身につけられるように配慮する。

【キーワード】 外国語、ドイツ語、異文化理解、比較文化

【到達目標】 初級ドイツ語を使って、簡単な文書を読み、旅行に行きつけない程度のコミュニケーション能力を養うことと、ドイツ語圏の文化についての理解を深めること。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. アルファベット、発音、ビデオ鑑賞(板東収容所) 3. 1課、規則動詞の現在人称変化 4. 同上、ドリル問題 5. 2課、名詞の性と格変化、ビデオ(ライン河) 6. 同上、ドリル問題 7. 3課、語順、不規則動詞 8. 同上、ドリル練習 9. 4課、不規則動詞、前置詞 10. 中間テスト 11. 5課、副文、従属接続詞、人称代名詞、非人称動詞 12. 同上、ドリル問題 13. 6課、話法の助動詞、未来形 14. 7課、分離動詞、前期の復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 大岩信太郎『新正書版・身につくドイツ文法』、同学社

【成績評価の方法】 出席と授業への積極的な参加と適宜行うレポートや小テスト、最後に行う期末試験により、総合的に評価を行う。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 初めて習う外国語なので、授業に集中し、反復・継続を心がけてもらいたい。外国語の習得を通して、現代の世界へ目を開くようにしてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181163>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~12時50分)

【備考】 ◦ドイツ語を通して新しい世界に触れ、自分たちの世界を見直すようにしてください。楽しく、そして、根気よく! ◦この授業は火曜日5・6の桂先生の授業とペア授業です。両方の授業を履修するようにしてください。医学部 B(54~) 対象。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(医 (医 B))

桂 修治 教授

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 (医 B)) 依岡 / 前期 月 9・10 ⇒ 85 頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを活用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 この授業は、学生生活や社会生活をテーマとした単元で構成されますが、それぞれの単元で、ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口頭表現を学びます。またビデオなども併用しながら、ドイツの人々の生活ぶり的一端を眺めてみましょう。

【キーワード】 ドイツ語を学ぶ、ドイツ語圏の文化を知る、国際交流につながる学習

【到達目標】 ドイツ語の文構造の基礎知識を身につけ、辞書を引いて簡単なテキストが読める。ドイツ語の簡単な発話を聞いて、理解できる。ドイツ語を自信を持って音読できる。

【授業の計画】 1. ドイツ語学習へのオリエンテーション、ドイツ語発音の基礎 2. 「学期はじめ」(人称に対応する動詞の変化、動詞 sein/haben) 3. 「学期はじめ」(続) (人称に対応する動詞の変化、動詞 sein/haben) 4. 「大学生活」(名詞の格と定冠詞、否定冠詞、疑問文と答え方) 5. 「大学生活」(続)(名詞の格と定冠詞、否定冠詞、疑問文と答え方) 6. 「町での日常生活」(名詞の複数形、複数形の格変化、人称代名詞の格変化) 7. 「町での日常生活」(続)(名詞の複数形、複数形の格変化、人称代名詞の格変化) 8. 「町での日常生活」(続)(名詞の複数形、複数形の格変化、人称代名詞の格変化) 9. 「グリルパーティをしよう」(不規則動詞の現在人称変化、前置詞) 10. 「グリルパーティをしよう」(続)(不規則動詞の現在人称変化、前置詞) 11. 中間試験、「試験と宿題について」(定冠詞類、不定冠詞類、時間の表現) 12. 「住宅探しと引っ越し」(続)(形容詞の格変化、比較級など) 13. 「住宅探しと引っ越し」(続)(形容詞の格変化、比較級など) 14. 「住宅探しと引っ越し」(続)(形容詞の格変化、比較級など) 15. 期末試験 16. 前期授業のまとめ

【教科書】

- 「ユニ・ブラッツ (大学広場)」(同学社)
- 辞書を購入のこと (初回授業で紹介するので、前もって買っておく必要はありません)。
- その他、教材のプリントを配布します。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 この授業では、授業のホームページを開示し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181173>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3・4時限および金曜5・6時限)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(医 (看))

石川 榮作 教授

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(野ばら、ローライなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】 ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】 ドイツ語の基礎的な文法事項を習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション(ドイツ語について) 2. 第1課文字と発音 3. 第2課 現在人称変化 (1) 接続詞と定動詞の位置 (1) 4. 第3課 名詞と冠詞の格変化 nicht の位置 接続詞と定動詞の位置 (2) 5. 第4課 現在人称変化 (2) 命令法 man wer と was 6. 第1課から第4課まで総まとめ 7. 中間試験 (第1課~第4課) 8. 第5課 名詞の複数形 冠詞類 9. 第6課 前置詞 人称代名詞 10. 第7課 形容詞の格変化 比較級・最高級 11. 第8課 動詞の三基本形と過去人称変化 従属接続詞と定動詞の位置 (3) 12. 第4課から第8課までの総まとめ 13. ドイツ文化紹介 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験 (第5課~第8課) 16. 総括授業

【教科書】 小島一良・瀬戸武彦『基礎ドイツ文法 (第二版)』(白水社)

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181178>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(医 (放検))

ヘルベルト ウォルフガング 講師/総合科学部

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の概要】 ドイツ語会話を通じて、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】 話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける

【授業の計画】 1. オリエンテーション、挨拶の仕方 2. 文字と発音、ドイツ語を話す国々 3. 人と知り合う、名前、出身、疑問文 4. 住所、人を紹介する、動詞の変化 5. 数詞、電話番号、名詞の姓と定冠詞 6. 専攻、言語、動詞の位置と語順 7. 履修科目、曜日、冠詞類の使い方 8. 趣味、不規則動詞の現在人称変化 9. 好きなこと、嫌いなこと、否定文の作り方 10. 食事、好物、接続詞 11. ドイツ料理、前置詞、頻度を表す副詞 12. レストランで、定冠詞の使い方 2 13. 家族、兄弟、年齢、性格、名詞の複数形、否定冠詞 14. 職業、目的格、形容詞 15. 期末テスト 16. 纏め、質疑応答

【教科書】 佐藤修子、下田恭子、H. Papenthin, G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語、CD 付きスツェーネン 1、三修社

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181179>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ Tel./Fax. 656-7145 wolf@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 15.30h-17.00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (医・歯(栄口))
Introductory German 石川 榮作 教授
 1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(野ばら、ローライなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】1. オリエンテーション(ドイツ語について) 2. 発音 3. 第1課 動詞の現在人称変化(1) 4. 第2課 名詞の格変化/定冠詞と不定冠詞 5. 第3課 人称代名詞/定冠詞類と不定冠詞類 6. 第4課 動詞の現在人称変化(2)/命令法 7. 第1課から第4課までの総まとめ 8. 中間試験(第1課～第4課) 9. 第5課 前置詞 10. 第6課 形容詞の語尾変化 11. 第7課 語法の助動詞/従属接続詞 12. 第5課から第7課までの総まとめ 13. 前期の総復習 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験(第5課～第7課) 16. 総括授業

【教科書】ヘルベルト/石川/井戸/依岡「出会いのドイツ語」(都文堂)2000円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】語学力は新しい創造の力を生み出す。語学力の習得には予習と復習が特に必要です。しっかり学びましょう!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181174>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15時～16時 石川研究室(総合科学部1号館))

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (薬(薬A))
Introductory German 曾田 紘二 教授/大学開放実践センター
 1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記、発音、文法、表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようになる。

【授業の計画】1. オリエンテーション、ドイツとドイツ語 2. 文字と発音 3. 文字と発音 4. ものについての問い方・答え方 5. 性(gender)と冠詞、練習問題 6. 不定詞と定動詞、練習問題 7. 自己紹介の表現 8. 自己紹介の表現 9. 中間試験、動詞の活用 1 10. 動詞の活用 2 11. 動詞の活用練習問題 12. 買い物表現 1 13. 買い物表現 2 14. 名詞の複数形、練習問題 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】信岡資生他『新しいドイツ語の時間』第三書房、2006年。

【成績評価の方法】期末試験 5割、中間試験 5割。

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181170>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 曾田 (D305-1, 656-9867, soda@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時～13時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (薬(薬B))
Introductory German 井戸 慶治 准教授
 1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。

【授業の概要】読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実にものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【キーワード】ドイツ語学習、ドイツの文化を知る

【到達目標】ドイツ語文法の基本や簡単な表現を理解し、応用すること。

【授業の計画】1. 導入 2. 発音 3. 動詞の現在人称変化(1) 4. 名詞の性 5. 冠詞 6. 動詞の現在人称変化(2) 7. 命令形 8. 中間試験 9. 定冠詞類 10. 不定冠詞類 11. 前置詞 12. 再帰代名詞 13. 語法の助動詞 14. 未来形・使役表現 15. 期末試験 16. 予備

【教科書】ダニエル・アウフ・ヤーパンライゼ(白水社)、独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方)で、総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181180>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (工(建))
Introductory German ギュンターディルク・非常勤講師
 1 単位 前期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し、会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。前期には基本的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】1. オリエンテーション 2. 人と知り合う 1(名前、出身、住所、自己紹介) 3. 人と知り合う 2(紹介する、数、電話番号) 4. ABCの発音、スペル 5. 動詞の現在人称変化 6. 動詞の現在人称変化 7. 大学生活(専攻、学習言語、曜日) 8. 中間テスト 9. ドイツの国・現代社会について 1 10. 中間テストの復習 11. 趣味(好きなこと、嫌いなこと) 1 12. 趣味(好きなこと、嫌いなこと) 2 13. 時刻と日付 1(時刻、時間、日付、月、誕生日) 14. 時刻と日付 2(週末・休みの)予定について話す 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】未定

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト、(イ)中間テスト、(ウ)期末テスト、(エ)授業への積極的な参加、(オ)出席。単位取得のためには(ア)～(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア～オ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に、途中はたいへんでも、頂上について話せるようになってくるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思しますので、一緒にがんばりましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181184>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (工(機A))
Introductory German 今井晋哉 准教授
 1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】本科目は、初めて第二外国語を学ぶ学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情の一端を紹介し、ドイツの社会や文化に対する関心を喚起できれば、と考えている。

【授業の概要】この授業では、日常生活上の具体的な場面あるいはテーマに即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習

したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎的学習、テキストの読解、教科書付属のCD/DVDを用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についてもできるだけ多く紹介したい。

【キーワード】対話文、初級文法、テキストの読解、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的なテーマに即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心をもち、その一端を理解すること。

【授業の計画】1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。詳しいことは授業時に説明する。
2. 第1回: ガイダンス～教科書、授業の進め方、家庭学習などについての説明 3. 第2回: アルファベート、辞書の紹介 4. 第3-4回: 発音とつづり字の読み方 5. 第5-6回: ドイツ語のあいさつなど 6. 第7-9回: ベルリンに到着!(動詞の現在人称変化、sein と haben の変化、動詞の位置) 7. 第10回: コラム～活気あふれる首都ベルリン 8. 第11-13回: パン屋さんで(名詞の性、名詞の格変化) 9. 第14回: コラム～こだわりのドイツパン 10. 第15回: 期末試験 11. 第16回: 総括授業

【教科書】清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社、2007年)[¥2,600+税]。

【参考書等】プリント教材・資料を配付することもある。

【成績評価の方法】平常点(=授業中の発表や私とのやりとりに対する評価)、中間の小テスト、期末試験による。平常点の比重が全体の2-3割程度を占めることになるであろう。

【再試験の有無】行う場合もある。

【受講者のメッセージ】せっかく新しく学習する外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181165>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

(工 (機 B))

Introductory German

ヘルベルト ウォルフガング 講師/総合科学部

1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける

【授業の計画】1. オリエンテーション、挨拶の仕方 2. 文字と発音、ドイツ語を話す国々 3. 人と知り合う、名前、出身、疑問文 4. 住所、人を紹介する、動詞の変化 5. 教詞、電話番号、名詞の性と定冠詞 6. 専攻、言語、動詞の位置と語順 7. 履修科目、曜日、冠詞類の使い方 1 8. 趣味、不規則動詞の現在人称変化 9.好きなこと、嫌いなこと、否定文の作り方 10. 食事、好物、接続詞 11. ドイツ料理、前置詞、頻度を表す副詞 12. レストランで、定冠詞の使い方 2 13. 家族、兄弟、年齢、性格、名詞の複数形、否定冠詞 14. 職業、目的格、形容詞 15. 期末テスト 16. 纏め、質疑応答期末テスト

【教科書】佐藤修子、下田恭子、H. Papenthin, G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語、CD 付きスツェーネン 1、三修社

【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185644>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ Tel./Fax. 656-7145 wolf@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 15:30h-17:00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(工 (化))

桂 修治 教授

1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱います。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。楽しく参加できる授業にしたいと考えています。

【キーワード】自立的な外国語学習、ドイツ語圏の文化を知る

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る。

【授業の計画】1. ドイツ語学習へのオリエンテーション。ドイツ語の挨拶。ドイツ語発音の基礎 2. 「人物を紹介する」(1) (ドイツ語の人称代名詞、人称に対応する動詞の変化) 3. 「人物を紹介する」(2) (ドイツ語の人称代名詞、人称に対応する動詞の変化) 4. 「ビール、それともワイン?」(ドイツ語の名詞には性がある、定冠詞と不定冠詞など) 5. 「ビール、それともワイン?」(ドイツ語の名詞には性がある、定冠詞と不定冠詞など) 6. 「食生活について」(ドイツ語の4つの格の用法、不規則動詞を学ぶ) 7. 「食生活について」(ドイツ語の4つの格の用法、不規則動詞を学ぶ) 8. 「食生活について」(ドイツ語の4つの格の用法)、中間試験 9. 「乗り物について」(前置詞の用法など) 10. 「乗り物について」(前置詞の用法など) 11. 「スポーツについて」(名詞の複数形など) 12. 「スポーツについて」(名詞の複数形など) 13. 13. 「住まいについて」(所有冠詞や否定冠詞の用法など) 14. 13. 「住まいについて」(所有冠詞や否定冠詞の用法など) 15. 期末試験 16. 前期授業のまとめ

【教科書】

- ◇ 「ヴェーラとヴェルナー」(朝日出版社)
- ◇ 辞書を購入のこと(初回授業で紹介いたしますので、前もって購入しておく必要はありません)
- ◇ その他、教材のプリントを配布します。

【成績評価の方法】小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181162>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4時間、金曜5-6)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(工 (生))

石川 榮作 教授

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(野ばら、ローライなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】1. オリエンテーション(ドイツ語について) 2. 発音 3. 第1課 現在人称変化 I 4. 第2課 定冠詞と名詞・複数形 5. 第3課 不定冠詞と冠詞類・並列接続詞 6. 第4課 現在人称変化 II・命令形 7. 第1課から第4課までの総まとめ 8. 中間試験(第1課-第4課) 9. 第5課 人称代名詞・前置詞 10. 第6課 形容詞の格変化 11. 第7課 動詞の三基本形・過去人称変化 12. 第8課 完了形・比較変化 13. 第5課から第8課までの総まとめ 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験(第5課-第8課) 16. 総括授業

【教科書】西本・アンゲリカ・高田『文法システム—新改訂版』(同公社)
 【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。
 【再試験の有無】有り
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181182>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
 Introductory German

(工(電))
 石田基広 准教授
 1単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)
 【授業の目的】ごくごく簡単なドイツ語表現を習得する。
 【授業の概要】ごくごく簡単なドイツ語の初歩を学ぶに過ぎない
 【到達目標】ドイツ語がどんな言語であるかイメージをつかむ
 【授業の計画】1. オリエンテーション 2. アルファベット 3. 発音 4. 初歩の文法 5. 数字を学ぶ 6. ドイツ語の文法 7. ドイツ語の文法 1 8. ドイツ語の文法 2 9. ドイツ語の文法 3 10. ドイツ語の文法 4 11. ドイツ語のやや高度な文法 5 12. ドイツ語のやや高度な文法 6 13. ドイツ語のやや高度な文法 7 14. ドイツ語のやや高度な文法 8 15. ドイツ語の高度な文法 16. 総復習
 【教科書】未定
 【成績評価の方法】授業中の態度, 毎回の試験 7割 期末試験 3割
 【再試験の有無】なし
 【受講者のメッセージ】端末数の関係で定員制限があるので, 指定学科以外の学生や, 1年生以外の学生は受講できない。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181177>

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
 Introductory German

(工(知))
 ギュンター・ティルク 非常勤講師
 1単位 前期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)
 【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し, 会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。
 【授業の概要】表現力(会話, 筆記, 聞き取り)の能力を高める。前期には基本的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して, 自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や, 発表など, 授業への積極的な参加が望まれる。
 【キーワード】現代ドイツ語, コミュニケーションの力, ドイツ文化
 【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。
 【授業の計画】1. オリエンテーション 2. 人と知り合う 1(名前, 出身, 住所, 自己紹介) 3. 人と知り合う 2(紹介する, 数, 電話番号) 4. ABCの発音, スペル 5. 動詞の現在人称変化 6. 動詞の現在人称変化 7. 大学生活(専攻, 学習言語, 曜日) 8. 中間テスト 9. ドイツの国・現代社会について 10. 中間テストの復習 11. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと) 12. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと) 2 13. 時刻と日付 1(時刻, 時間, 日付, 月, 誕生日) 14. 時刻と日付 2(週末・休みの) 予定について話す 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。
 【教科書】未定
 【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト, (イ)中間テスト, (ウ)期末テスト, (エ)授業への積極的な参加, (オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。
 【再試験の有無】無
 【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に, 途中はたいへんでも, 頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので, 一緒にがんばりましょう。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185605>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または, 希望により他の時間にも))
 【備考】(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
 Introductory German

(工(光))
 ギュンター・ティルク 非常勤講師
 1単位 前期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)
 【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し, 会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。
 【授業の概要】表現力(会話, 筆記, 聞き取り)の能力を高める。前期には基本的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して, 自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や, 発表など, 授業への積極的な参加が望まれる。
 【キーワード】現代ドイツ語, コミュニケーションの力, ドイツ文化
 【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。
 【授業の計画】1. オリエンテーション 2. 人と知り合う 1(名前, 出身, 住所, 自己紹介) 3. 人と知り合う 2(紹介する, 数, 電話番号) 4. ABCの発音, スペル 5. 動詞の現在人称変化 6. 動詞の現在人称変化 7. 大学生活(専攻, 学習言語, 曜日) 8. 中間テスト 9. ドイツの国・現代社会について 10. 中間テストの復習 11. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと) 12. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと) 2 13. 時刻と日付 1(時刻, 時間, 日付, 月, 誕生日) 14. 時刻と日付 2(週末・休みの) 予定について話す 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。
 【教科書】未定
 【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト, (イ)中間テスト, (ウ)期末テスト, (エ)授業への積極的な参加, (オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。
 【再試験の有無】無
 【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に, 途中は大変でも, 頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので, 一緒に頑張りましょう。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185607>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または, 希望により他の時間にも)) 連絡先(学務課教育支援係)(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)
ドイツ語初級
 Elementary German

(薬(薬2))
 今井晋哉 准教授
 1単位 前期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)
 【授業の目的】本科目は, 初級文法や口語表現, 読解の最も基礎的な部分を学習した学生が, 今までに学んだことを復習しながら, さらに聞き, 読み, 話し, 書く力, つまりドイツ語の基礎を理解し, またドイツ語によって表現する能力を伸ばしていくことを目的としている。また, 併せて現代ドイツ事情の一端を紹介し, ドイツの社会や文化に対する関心を喚起できれば, と考えている。
 【授業の概要】この授業では, 必要に応じて初級文法の復習や補足説明をしながら, 日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現や文章の内容をさらに理解するとともに, 学習したことを用いて, ドイツ語によって表現する演習を行いたい。具体的には, 文法の説明やテキストの読解のほか, パートナーとの表現練習, 口頭あるいは筆記による表現練習, 教科書付属のCD/DVDを用いた聞き取り練習などを授業時に, あるいは家庭学習としてやってもらい, 毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また, 各種のビデオなどを用いながら, 現代ドイツ事情についてもできるだけ多く紹介したい。
 【キーワード】対話文, 初級文法, 現代ドイツ事情, テキストの読解
 【先行科目】『ドイツ語/ドイツ語入門』(1.0)
 【到達目標】
 1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し, またドイツ語による基礎的な発信能力を習得すること。
 2. 現代ドイツの社会や文化に対して関心をもち, その一端を理解すること。
 【授業の計画】1. 以下は, 各回でとりあげる場面および関連文法項目を示している。なお, 以下の計画は暫定的なものであって, 実際の授業の進行によっては, 変更もあり得る。詳しいことは初回の授業時に説明する。 2. 第1回: ガイダンス ~ 教科書, 授業の進め方, 家庭学習などについての説明 3. 第2-4回: お医者さん(再帰代名詞と再帰動詞) 4. 第5回: コラム ~ ホームドクター 5. 第6-9回: ヴァンゼーへ!(zu不定詞句, 分離動詞) 6. 第10回: コラム ~ ビール片手

全学共通教育 (2009) 前期・【基盤形成科目群】・《ドイツ語》

にサイクリング 7. 第 11-14 回: ビアガーデンで (過去形, 現在完了形, 受動態) 8. 第 15 回: 期末試験 9. 第 16 回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007 年)[¥2,600+税]. ※この教科書は本来, 1 年生用だが, 諸君が 1 年次に未履修の文法項目をとりあげている箇所をピックアップして, 学習することとする.

【参考書等】 プリント教材・資料を配付することもある.

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や私とのやりとりに対する評価), 中間試験および期末試験による. 平常点が一定の比重を占めることになるであろう.

【再試験の有無】 行う場合もある.

【受講者へのメッセージ】 セットく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから, ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい. 単に出席しているだけでは, あまり意味はない. 毎回指示される家庭学習も怠らないように. また, 初級文法の復習も各自で必要に応じてやってほしい. なお, 初回の授業時に指定の教科書を持参すること. 1 年次に使用した教科書も捨てずにとっておいてほしい.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181218>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語 (2) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) 入学者)

German 2

井戸 慶治 准教授

1 単位 前期 火 1・2

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (2)』)

【授業の目的】 1 年生の時に学習したドイツ語に対する理解を深めると同時に, ドイツの社会文化について知見を広める.

【授業の概要】 教材としては適宜プリントを配布し, ドイツ文の和訳, ドイツ語作文, 文法事項の復習と確認をおこなう. また, 折に触れて視聴覚教材などを用いてドイツ語圏の文化や社会を紹介する.

【到達目標】 辞書を用いて, 中級程度のドイツ文を理解できるようになること.

【授業の計画】 1. 以下の計画は日独の文化交流をテーマにした場合の例である. 受講者の希望やアクチュアルな話題に応じて, 適宜変更の可能性がある. 最初の授業では, 方針の説明などをおこなう. 2. 発音や基本的文法事項の復習 3. 16 世紀に日本に来た最初のドイツ人 4. 不規則変化動詞, 冠詞類の復習 5. 江戸時代のドイツ人技術者 6. 人称代名詞, 前置詞の復習 7. 江戸時代にドイツに行った日本人 8. 話法の助動詞, 未来形の復習 9. 中間試験 10. 医師エンゲルベルト・ケンパー 11. 形容詞の格変化, 数詞の復習 12. オランダ人としてやってきたジーボルト 13. 複合動詞, 接続詞の復習 14. オランダお稲のこと 15. 動詞の三基本形, 過去形の復習 16. 期末試験

【教科書】 適宜プリントを使用する.

【成績評価の方法】 授業への取り組みと中間試験・期末試験によって総合的に評価する

【再試験の有無】 再試験は行わない

【受講者へのメッセージ】 1 年次のドイツ語の所定単位を取得していること. 出席を怠らず, 課題はしっかりと果たすこと.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181159>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16-17 時)

【備考】 平成 16 年度以前 (保は 17 年度以前) 入学者対象科目

4.3 《フランス語》 (French)

フランス語 (French)
フランス語入門
 Introductory French

(総科 (総科 B))
 バルカンアルフレッド・非常勤講師
 1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科 (総科 B)) 長井 / 前期 木 1・2 ⇒ 91 頁)

【授業の目的】 この授業では、簡単な文章を理解し、また簡単な文章で自己表現をできるようにするための技術を身につけることを目指します。

【授業の概要】 一人もしくは二人で書き話す訓練をします。

【キーワード】 言語, フランス語

【到達目標】 簡単な質問を理解し、自分でも質問できるようになること。

【授業の計画】 1. 1~2 週: 「私」、発音の規則, アルファベット 2. 3~5 週: 「あなた」、否定文, 数 3. 6~8 週: 動詞 (etre, avoir), c'est, 接続詞 4. 9~11 週: 動詞 (faire, aller), 副詞 5. 12~14 週: 動詞 (aimer, préférer), 形容詞 6. 15 週: 前期試験 7. 16 週: 総括授業

【教科書】 オリヴィエ・ロリラード/小田涼『はてな君とフランス語でおしゃべりコミュニケーションのためのメソッド』, 駿河台出版社, 2730 円。

【成績評価の方法】 毎月おこなう小テストと期末テストの成績をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 あり

【受講者のメッセージ】 たくさんの方の受講を期待しています。楽しみながらフランス語を学びましょう。火曜 3-4 講時と木曜 1-2 講時の両方を受講してください。単位も両曜日まで認定されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181289>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ バルカン

フランス語 (French)
フランス語入門
 Introductory French

(総科 (総科 B))
 長井 伸仁 准教授
 1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科 (総科 B)) バルカン / 前期 火 3・4 ⇒ 91 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっていくはずですが。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたりますが、とくに文法と読解に重点を置きます (会話はおもに火曜の授業でおこないます)。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語, 言語

【到達目標】 簡単な質問や意見の交換がフランス語でできる。

【授業の計画】 1. 1-3 週: フランス語の発音, 綴り字, 基本的な表現 2. 4-6 週: あいさつ・紹介, 現在形・形容詞 3. 7-9 週: カフェでの注文, 部分冠詞 4. 10-12 週: 週末の過ごし方, 命令法 5. 13-14 週: ヴァカンスに出かける, 疑問詞 6. 15-16 週: 期末試験・総括授業

【教科書】 『新・ジュタンプラス』 (CD 付き), 朝日出版社, 2006 年, 2310 円 (ISBN:4-255-35174-0)

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください (どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点 (授業への取り組み, 小テストの得点) と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 この授業は火曜 3・4 講時の授業とセットであり (ペアクラスと呼ばれる制度です), どちらからの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181286>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,)

【備考】 火曜 3-4 講時のフランス語入門とのペアクラスです。

フランス語 (French)
フランス語入門
 Introductory French

(総科・医 (総科 A 栄))
 田島 俊郎 教授
 1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科・医 (総科 A 栄)) 田島 / 前期 水 1・2 ⇒ 91 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっていくはずですが。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたりますが、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる。

【授業の計画】 1. 第 1 週 - 第 2 週 あいさつ, 国籍, 名前を言う, etre 動詞, 名詞, 形容詞の性 2. 第 3 週 - 第 5 週 avoir, 冠詞, 否定文の作り方, 疑問文 aimer 規則動詞 3. 第 6 週 - 第 9 週 aller, venir, 近接未来, faire, prendre, 不規則動詞 4. 第 10 週 - 第 12 週 partir, mettre, 疑問形容詞, 非人称表現 5. 第 13 週 - 第 14 週 connaitre, savoir, 命令法, 序数詞 6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験, 総括授業

【教科書】 "Le francais passionnement 1", 第三書房, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験対象者がいれば、9 月上旬に再試験を実施予定

【受講者のメッセージ】 月曜日 5-6 講時と水曜日 1-2 講時を田島が担当します。両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181284>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16 時 20 分 - 17 時 30 分 総合科学部 1 号館北棟 1 階)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)
フランス語入門
 Introductory French

(総科・医 (総科 A 栄))
 田島 俊郎 教授
 1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科・医 (総科 A 栄)) 田島 / 前期 月 5・6 ⇒ 91 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっていくはずですが。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたりますが、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる。

【授業の計画】 1. 第 1 週 - 第 2 週 あいさつ, 国籍, 名前を言う, etre 動詞, 不定冠詞 2. 第 3 週 - 第 5 週 紹介する, 指示代名詞, 定冠詞 3. 第 6 週 - 第 8 週 学ぶ, 好む, 勉強する, 規則動詞, avoir 4. 第 9 週 - 第 11 週 行く, 来る, できる, 不規則動詞, 近接未来 5. 第 13 週 - 第 14 週 connaitre, savoir, 命令法, 序数詞 6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験, 総括授業

【教科書】 "Le francais passionnement 1", 第三書房, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験対象者がいれば、9月上旬に再試験を実施予定

【受講者へのメッセージ】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181288>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時20分~17時30分 総合科学部1号館北棟1階)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)

フランス語入門

(医・歯・薬・工 (医保歯口薬工))

Introductory French

田島 俊郎 教授

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (医・歯・薬・工 (医保歯口薬工)) 田島 / 前期 火 9・10 ⇒ 92 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる。

【授業の計画】 1. 第1週~第2週 あいさつ、国籍、名前、職業を言う。etre 動詞 2. 第3週~第5週 持ち物について、avoir 動詞、何が好き? aimer 3. 第6週~第8週 尋ねる、誰か、どこか、何をしているか、qui, ou, qu'est-ce que 4. 第9週~第11週 兄弟はいますか、何歳ですか? avoir 5. 第12週~第13週 紹介する、connaître. 6. 第14週 比較する、過去を語る、未来を語る。 7. 第15週~第16週 期末試験・総括授業

【教科書】 "Ou es-tu?", 朝日出版社, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験対象者がいれば、9月上旬に再試験を実施予定

【受講者へのメッセージ】 月曜 9-10 講時と火曜 9-10 講時を田島が担当します。両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181285>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時20分~17時30分 総合科学部1号館北棟1階)

【備考】 月曜 9-10 講時と火曜 9-10 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)

フランス語入門

(医・歯・薬・工 (医保歯口薬工))

Introductory French

田島 俊郎 教授

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (医・歯・薬・工 (医保歯口薬工)) 田島 / 前期 月 9・10 ⇒ 92 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる。

【授業の計画】 1. 第1週~第2週 あいさつ、国籍、名前、職業を言う。etre 動詞 2. 第3週~第5週 持ち物について、avoir 動詞、何が好き? aimer 3. 第6週~第8週 尋ねる、誰か、どこか、何をしているか、qui, ou, qu'est-ce que 4. 第9週~第11週 兄弟はいますか、何歳ですか? avoir 5. 第12週~第13週 紹介する、connaître. 6. 第14週 比較する、過去を語る、未来を語る。 7. 第15週~第16週 期末試験・総括授業

【教科書】 "Ou es-tu?", 朝日出版社, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験対象者がいれば、9月上旬に再試験を実施予定

【受講者へのメッセージ】 月曜 9-10 講時と火曜 9-10 講時を田島が担当します。両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181287>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時20分~17時30分 総合科学部1号館北棟1階)

【備考】 月曜 9-10 講時と火曜 9-10 講時の両方を受講してください。

4.4 《中国語》 (Chinese)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科 (総科 A))
 Introductory Chinese 田中 智行・准教授
 1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 (総科 A)) 肖 / 前期 水 1・2 ⇒ 93 頁)

【授業の目的】 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音の基礎 1 3. 発音の基礎 2 4. 1 課 5. 2 課 6. 3 課 7. 4 課 8. 中間試験 9. 5 課 10. 5 課 (続)・6 課 11. 6 課 (続) 12. 7 課 13. 7 課 (続) 14. 復習・予備 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 著 『1 冊めの中国語 講読クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 教員二人がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中) の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50% を合計して評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185612>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう木曜の 13~14 時とするが、随時質問・相談可。研究室は総合科学部 1 号館 3 階中棟(田中))

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科 (総科 A))
 Introductory Chinese 肖 輝・非常勤講師/全学共通教育センター
 1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 (総科 A)) 田中 / 前期 月 5・6 ⇒ 93 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2-3 発音 3. 3-4 第 1 課 4. 5-6 第 2 課 5. 7 中間考査 6. 8-9 第 3 課 7. 10-11 第 4 課 8. 12~13 第 5 課 9. 14 第 6 課 10. 15 期末試験 11. 16 総括授業 12. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 『1 冊めの中国語一会話クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(肖) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185616>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科 (総科 B))
 Introductory Chinese 肖 輝・非常勤講師/全学共通教育センター
 1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 (総科 B)) 田中 / 前期 水 1・2 ⇒ 93 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2-3 発音 3. 3-4 第 1 課 4. 5-6 第 2 課 5. 7 中間考査 6. 8-9 第 3 課 7. 10-11 第 4 課 8. 12~13 第 5 課 9. 14 第 6 課 10. 15 期末試験 11. 16 総括授業 12. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 『1 冊めの中国語一会話クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(肖) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185610>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科 (総科 B))
 Introductory Chinese 田中 智行・准教授
 1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 (総科 B)) 肖 / 前期 月 5・6 ⇒ 93 頁)

【授業の目的】 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語(1)の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週2回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音の基礎 1 3. 発音の基礎 2 4. 1 課 5. 2 課 6. 3 課 7. 4 課 8. 中間試験 9. 5 課 10. 5 課(続)・6 課 11. 6 課(続) 12. 7 課 13. 7 課(続) 14. 復習・予備 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 著『1冊めの中国語 講読クラス』(白水社, 2008年)2,300円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約15%, 中間試験約35%, 及び期末試験約50%を合計して評価します。

【再試験の有無】 有
【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に声を出してください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185614>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 田中(総合科学部1号館2320号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問・相談可。研究室は総合科学部1号館3階中棟2320(田中).)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科(総科C))
Introductory Chinese 邵迎建 教授
 1 単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)
 (ペア指定: 中国語入門(総科(総科C))肖 / 前期 木 1・2 ⇒ 94頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語(1)の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週2回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
【授業の計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2-3 発音 3. 3-4 第1課 4. 5-6 第2課 5. 7 中間考査 6. 8-9 第3課 7. 10-11 第4課 8. 12~13 第5課 9. 14 第6課 10. 15 期末試験 11. 16 総括授業 12. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子『1冊めの中国語一講読クラス』(白水社, 2008年)2,300円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(邵)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有
【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181118>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 邵(yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは一応水曜日の昼休みに設定するが、随時質問・相談可。研究室は総合科学部1号館3階中棟(邵), E-Mail: shaoyingjian@yahoo.co.jp)

【備考】 木1・2 肖先生とペア

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科(総科C))
Introductory Chinese 肖輝 非常勤講師/全学共通教育センター
 1 単位 前期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)
 (ペア指定: 中国語入門(総科(総科C))邵 / 前期 火 3・4 ⇒ 94頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語(1)の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週2回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
【授業の計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2-3 発音 3. 3-4 第1課 4. 5-6 第2課 5. 7 中間考査 6. 8-9 第3課 7. 10-11 第4課 8. 12~13 第5課 9. 14 第6課 10. 15 期末試験 11. 16 総括授業 12. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子『1冊めの中国語一話クラス』(白水社, 2008年)2,300円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(肖)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有
【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185615>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 肖。(オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (総科(総科D))
Introductory Chinese 肖輝 非常勤講師/全学共通教育センター
 1 単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)
 (ペア指定: 中国語入門(総科(総科D))邵 / 前期 木 1・2 ⇒ 95頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語(1)の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週2回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
【授業の計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2-3 発音 3. 3-4 第1課 4. 5-6 第2課 5. 7 中間考査 6. 8-9 第3課 7. 10-11 第4課 8. 12~13 第5課 9. 14 第6課 10. 15 期末試験 11. 16 総括授業 12. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉穎・喜多山幸子・松田かの子『1冊めの中国語一話クラス』(白水社, 2008年)2,300円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(肖)の評価方法:平常点、中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185611>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(総科 (総科 D))

邵迎建 教授

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 (総科 D)) 肖 / 前期 火 3・4 ⇒ 94 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 2-3 発音 3. 3-4 第 1 課 4. 5-6 第 2 課 5. 7 中間考査 6. 8-9 第 3 課 7. 10-11 第 4 課 8. 12~13 第 5 課 9. 14 第 6 課 10. 15 期末試験 11. 16 総括授業 12. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉穎、喜多山幸子、松田かの子 『1 冊めの中国語一講読クラス』(白水社、2008 年)2,300 円、辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(邵)の評価方法:平常点、中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181121>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは一応水曜日の昼休みに設定するが、随時質問・相談可、研究室は総合科学部 1 号館 3 階中棟(邵)、E-Mail: shaoyingjian@yahoo.co.jp)

【備考】 火 3・4 肖先生とペア

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(医・歯・薬 (医歯薬))

田中智行 准教授

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (医・歯・薬 (医歯薬)) 施 / 前期 火 9・10 ⇒ 95 頁)

【授業の目的】 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台で大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われる文字は漢字ですが、その漢字の読みを表すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記されます。また、そ

の特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ、「四声」という 4 種類の音の高さで表わされます。この「ピンイン」と「声調」とを習得することが、中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し練習し、体で覚えましょう。発音や基本文型を学び、語彙を増やしていくことで、簡単な日常会話ができるようになります。この授業は、上記の目標を達成するために、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音の基礎 1 3. 発音の基礎 2 4. 1 課 5. 2 課 6. 3 課 7. 4 課 8. 5 課 9. 中間試験 10. 6 課 11. 7 課 12. 8 課 13. 9 課 14. 10 課 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

◇ 木村英樹・小野秀樹 著 『北京の風』(白帝社、2005 年)2,700 円、辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。
◇ 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 教員二人がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約 15%、中間試験約 35%、及び期末試験約 50%を合計して評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181127>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の 13~14 時とするが、随時質問・相談可、研究室は総合科学部 1 号館 3 階中棟 2320 (田中).)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(医・歯・薬 (医歯薬))

施国恩 非常勤講師

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (医・歯・薬 (医歯薬)) 田中 / 前期 月 9・10 ⇒ 95 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われる文字は漢字ですが、その漢字の読みを表すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記されます。また、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ、「四声」という 4 種類の音の高さで表わされます。この「ピンイン」と「声調」とを習得することが、中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し練習し、体で覚えましょう。発音や基本文型を学び、語彙を増やしていくことで、簡単な日常会話ができるようになります。この授業は、上記の目標を達成するために、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課どこにありますか? 13. 第 6 課 何がありますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一、劉穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円(必ず購入すること)※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価し、それらを合算して最終的に評価します。(施)の評価方法: 平常点、中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181128>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語 (Chinese)
中国語入門
Introductory Chinese

(医・歯・工 ((栄口化光)A))
肖輝 非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく, また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく, また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課 どこにありますか? 13. 第 6 課 何がありますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので, 必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一, 劉穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185646>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門
Introductory Chinese

(医・歯・工 ((栄口化光)B))
施国恩 非常勤講師
1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく, また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく, また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課 どこにありますか? 13. 第 6 課 何がありますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので, 必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一, 劉穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181130>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 施 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門
Introductory Chinese

(医 (保))
荒武達朗 准教授
1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく, また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく, また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第一課 自己紹介 8. 第二課 これは何ですか? 9. 第三課 これはいかがですか? 10. 第四課 買い物 11. 中間テスト 12. 第五課 どこにありますか? 13. 第六課 何がありますか? 14. 第七課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一, 劉穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 あり。

【受講者のメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181120>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎日8時10分~8時40分, 研究室は総合科学部一号館中棟三階の奥, 或いはメールでアポイントメントを取る事。)

【備考】 ◦ 学生諸君の向学心, 新たな領域に踏み込む積極性を期待する。
◦ 授業中の睡眠, 内職, 携帯電話の使用は叱責の対象である, 心して授業に臨むこと。

中国語 (Chinese)
中国語入門
Introductory Chinese

(工 (建))
山木眞理子 非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 前期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく, また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく, また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課 どこにありますか? 13. 第 6 課 何がありますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので, 必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一, 劉穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聞き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181132>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山木 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (機))

施国恩・非常勤講師

1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関係するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課 どこにありますか? 13. 第 6 課 何がありますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので, 必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聞き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181133>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (生))

肖輝・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関係するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課 どこにありますか? 13. 第 6 課 何があ

りますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので, 必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聞き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185645>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (電 A))

肖輝・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関係するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第 1 課 自己紹介 8. 第 2 課 これは何ですか? 9. 第 3 課 これはいかがですか? 10. 第 4 課 買い物 11. 中間テスト 12. 第 5 課 どこにありますか? 13. 第 6 課 何がありますか? 14. 第 7 課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので, 必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『<新版>1 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聞き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185647>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (電 B))

邵迎建 教授

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関係するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第1課 自己紹介 8. 第2課 これは何ですか? 9. 第3課 これはいかがですか? 10. 第4課 買い物 11. 中間テスト 12. 第5課 どこにありますか? 13. 第6課 何がありますか? 14. 第7課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一、劉穎 『<新版>1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円(必ず購入すること)※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返し聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185609>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは一応水曜日の昼休みに設定するが、随時質問・相談可。研究室は総合科学部1号館3階中棟(邵)。E-Mail: shaoyingjian@yahoo.co.jp)

中国語 (Chinese)

中国語入門

(工(知))

Introductory Chinese

山本 真理子: 非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 金 5・6

(平成19年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目: 『中国語(1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音、基礎文法を学んだ上で、さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情などについて紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関係するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第1課 自己紹介 8. 第2課 これは何ですか? 9. 第3課 これはいかがですか? 10. 第4課 買い物 11. 中間テスト 12. 第5課 どこにありますか? 13. 第6課 何がありますか? 14. 第7課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業 17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 塚本慶一、劉穎 『<新版>1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円(必ず購入すること)※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返し聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181135>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山本 (オフィスアワー: 授業の前(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

4.5 《日本語》 (Japanese)

日本語 (Japanese Language)

日本語 1

Japanese Language 1

(留 (留))

遠藤 かおり 非常勤講師/国際センター
1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語 (1)』)

【授業の目的】 大学生として生活していく上で、必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に活用できることを目指す。例えば、講義や演習、また大学での事務手続き、掲示板からの情報の読み取り、友人との情報交換など、大学で必要とされる様々な場面を想定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能すべてにおいて、レベルアップすることを目的とする。また、その過程で、自らの日本語力で不足している技能を見極め、それを伸ばす意欲を高める。

【授業の概要】 テキストを中心に各課のテーマに沿って進めていく。また、適宜、時事問題なども教材として取り入れる。内容は課ごとに異なるが、「読む」「聞く」「書く」「話す」のそれぞれの技能を伸ばすためのタスクを行う。このような活動を通して、日本の大学生活で必要とされる場面を疑似体験し、生活するために必要なスキルだけではなく、研究活動に必要なスキルも身につけられるようにする。

【キーワード】 総合的な日本語 (「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能)、運用力

【関連科目】 『日本語/日本語 3』(0.5, ⇒99 頁), 『日本語/日本語 5』(0.5, ⇒99 頁), 『日本語/日本語 7』(0.5, ⇒99 頁), 『日本事情/日本事情 I』(0.5, ⇒42 頁), 『日本事情/日本事情 III』(0.5, ⇒42 頁)

【到達目標】

1. 大学生活で必要な日本語力を身につける。
2. 大学で想定される様々なコミュニケーション場面で、身につけた日本語力を用いて、適切に対応することができる。
3. 自分に必要な日本語力を知り、学習方法が獲得できる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、レディネス (これまでの学習・ニーズ (これからの学習希望) 調査 2. 第 1 課:履修申請、奨学金の申請をする。 3. 第 1 課:履修申請、奨学金の申請をする。 4. 第 2 課:講義内容を理解し、関連資料を読んで要約する。 5. 第 2 課:講義内容を理解し、関連資料を読んで要約する。 6. 第 3 課:講義内容を理解し、レポート作成の準備をする。 7. 第 3 課:講義内容を理解し、レポート作成の準備をする。 8. 第 4 課:掲示板・教務などからの情報を読み取る。 9. 第 4 課:掲示板・教務などからの情報を読み取る。 10. 第 5 課:講義内容を理解し、関連資料を選んで内容を理解する。 11. 第 5 課:講義内容を理解し、関連資料を選んで内容を理解する。 12. 第 6 課:講義内容を理解し、キーワードを用いて自分の意見をまとめる。 13. 第 6 課:講義内容を理解し、キーワードを用いて自分の意見をまとめる。 14. 第 6 課:講義内容を理解し、キーワードを用いて自分の意見をまとめる。 15. 期末試験 16. 復習、フィードバック

【教科書】 佐々木瑞枝他著 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(The Japan Times)2001 年 2,500 円

【成績評価の方法】 期末試験、授業中の小テスト、授業への取り組み状況などをともに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 日本で充実した大学生活を送るために、必要な日本語力を身につけましょう。毎回の授業を大切に、積極的に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181221>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 遠藤 (088-656-7491, 7kao-beeguru@kmd.biglobe.ne.jp) (オフィスアワー: 遠藤非常勤講師へは、連絡をとって各授業の前後の時間に相談すること。)

【備考】 緊急時の連絡先:三隅 (地域・国際交流プラザ内 国際センター, 088-656-7120)

日本語 (Japanese Language)

日本語 3

Japanese Language 3

(留 (留))

三隅 友子 教授/国際センター
1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語 (2)』)

【授業の目的】 大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。テレビドラマで扱われるいろいろなシーンの日本語の表現を通して、日本語や日本社会について考える。

【授業の概要】 ドラマ「パパとムスメの 7 日間」に出てくる、高校・会社・家庭の中の日本語 (日本語教科書では扱われない言葉や表現) を学ぶ。

【キーワード】 高校生活、家庭、会社、若者語、敬語

【到達目標】

1. 現代日本語の語彙・表現を学ぶ
2. いろいろな場面での日本語の使われ方を学ぶ
3. 理解できる語彙を増やす
4. 自分の話し方のスタイルと比較する
5. 日本語学習のリソースにドラマが可能な検証する

【授業の計画】 1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック) 2. 第一話 ①視聴と理解 3. 第一話 ②表現理解 4. 第二話 ①視聴と理解 5. 第二話 ②表現理解 6. 第三話 ①視聴と理解 7. 第三話 ②表現理解 8. 第四話 ①視聴と理解 9. 第四話 ②表現理解 10. 第五話 ①視聴と理解 11. 第五話 ②表現理解 12. 第六話 ①視聴と理解 13. 第六話 ②表現理解 14. 第七話 ①視聴と表現理解 15. アフレコ大会 (試験に換えて) 16. 総括 まとめ <状況により、授業の内容や計画が変更の場合があります。>

【教科書】 無

【参考書等】 適宜スクリプト及び資料を配布します。

【成績評価の方法】 出席点 80%・最終アフレコ作成 20%の点数を総合します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ドラマの中の言葉や表現を非言語表現とあわせて確認していきます。自分の語彙・表現集を作っていきます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181223>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Gehrtz三隅友子 (新蔵キャンパス 国際センター 教員室4, 088-656-7120 misumi@isc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00))

日本語 (Japanese Language)

日本語 7

Japanese Language 7

(留 (留))

三隅 友子 教授/国際センター
1 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語 (2)』)

【授業の目的】 大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。ニュースを含めた現代日本の時事問題を通して総合的な日本語力をつける。また日本語能力試験等の能力をつけたい受講者が多い場合にはその内容を加える予定である。

【授業の概要】 時事問題に関しては、NHK の番組「視点論点」からトピックを選び、番組の視聴と共にそれに関連した新聞雑誌の記事から情報を読み取る。さらに、自分の意見をまとめて書き、発表するといった総合的な日本語力をつける。

【キーワード】 メディア、ニュース、講義を聞く、提言を書く

【到達目標】

1. ミニ・講義を理解する。
2. テーマに関連した文献を読む。
3. 自分の意見をまとめ、発表する力をつける。

【授業の計画】 1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック) 2. ミニ講義を聞く① 3. テーマに関連した文献を読む① 4. テーマに関して話し合い、意見を書く。① 5. ミニ講義を聞く② 6. テーマに関連した文献を読む② 7. テーマに関して話し合い、意見を書く② 8. ミニ講義を聞く③ 9. テーマに関連した文献を読む③ 10. テーマに関し話し合い、意見を書く③ 11. ミニ講義を聞く④ 12. テーマに関連した文献を読む④ 13. テーマに関して話し合い、意見を書く④ 14. 自分にとってのテーマを選んで調べて提言を書く 15. 発表会 16. まとめ <状況によっては、授業の内容や計画が変更される場合があります。>

【教科書】 無

【参考書等】 番組のスクリプトや参考資料を適宜配布。

【成績評価の方法】 出席点 60%、レポート 20%、発表 20%で評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 日本語で「読む」「聞く」「話す」「書く」の活動をたくさん行います。予習復習も必要です。積極的に授業に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181228>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Gehrtz三隅友子 (新蔵キャンパス・国際センター 088-656-7120 misumi@isc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00))

【備考】 H17 のカリキュラムでは授業科目:日本語 4

日本語 (Japanese Language)

日本語 5

Japanese Language 5

(留 (留))

大石 寧子 教授/国際センター
1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語 (1)』)

【授業の目的】 大学に入学する学習者の日本語レベルが多様であることをふまえた上で、各人の日本語力の向上を目指す。具体的には、四技能のうち「読む」を導入として、「話す・聞く・書く」へ連携させ、より高度なコミュニケーション能力と日本人及び日本語をより深く理解するための日本語の知識を得ることを目的とする。

【授業の概要】 大学生活における円滑なコミュニケーション能力をつけるために、表現力(語彙力、文法力、文章構成能力)をつける。読解演習を入り口とし、「読む」「話す」「聞く」「書く」のそれぞれの技能を伸ばすタスク(町・大学・各自のキャッチコピー作り等)を行う。

【キーワード】 日本語読解能力、キーセンテンス・キーワード、コミュニケーション能力

【到達目標】

1. 各自の目標に従った能力を獲得する。
2. 自分の日本語力を把握し、必要な学習方法を獲得する。

【授業の計画】 1. 授業についてオリエンテーション、受講者のレディネス(これまでの学習)やニーズの調査など(1回) 2. 授業実施(読みのスキルの習得、文型・語彙の確認、トピックについて調査・タスクなど)(2~15回) 3. 総括授業(16回)

【教科書】 随時プリントを配付

【成績評価の方法】 レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 日本で充実した留学生活を送るために、自分にとって必要な日本語力を身につけましょう。そのために日本語の授業に積極的に取り組んでください。授業内容の詳細は、初回で説明するので、休まずに出席してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181226>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石寧子(留学生センター 656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00。但し事前に連絡があれば他の曜日・時間でも対応します。)

4.6 《情報科学》 (Information Science)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(総科 (人文 A))

掛井 秀一・准教授

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 現代社会では、コンピュータを用いる基礎能力が必須である。情報を収集・処理して整理し、プレゼンテーションなどを通じ自分の意見を相手に伝える能力があらゆる場面で要求される。本講義では、以下の内容を通じ、その基礎能力を教養教育課程のうちに確実に身に付けることを目的とする。

【授業の概要】 現在最も普及しているオペレーティング・システムであるマイクロソフト Windows と統合ソフト Office を使い、コンピュータの基礎的な扱い方を学ぶ。また、OS やソフトにとらわれない技能を身に付けるために、適宜コンピュータの仕組みなど本質的な内容についても解説する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身に付ける。

【授業の計画】 1. 起動と終了 (第 1 週) 2. OS の基本操作 (第 2 週) 3. インターネットを利用した情報の収集 4. インターネットを利用した情報の収集 5. ワード・プロセッサ 1 6. ワード・プロセッサ 2 7. ワード・プロセッサ 3 8. 表計算 1 9. 表計算 2 10. 表計算 3 11. プレゼンテーション 1 12. プレゼンテーション 2 13. プレゼンテーション 3 14. プレゼンテーション 4 15. インターネット知識認定試験 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門-ソフト操作編」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 各課題に対するレポート

【再試験の有無】 再レポートなどはありません

【受講者へのメッセージ】 総合科学部は必修科目です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181040>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5-6(他の時間帯でも連絡の上随時可))

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(総科 (人文 B))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身に付ける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門-ソフト操作編」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181047>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail: akio@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(総科 (社創 A))

掛井 秀一・准教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 現代社会では、コンピュータを用いる基礎能力が必須である。情報を収集・処理して整理し、プレゼンテーションなどを通じ自分の意見を相手に伝える能力があらゆる場面で要求される。本講義では、以下の内容を通じ、その基礎能力を教養教育課程のうちに確実に身に付けることを目的とする。

【授業の概要】 現在最も普及しているオペレーティング・システムであるマイクロソフト Windows と統合ソフト Office を使い、コンピュータの基礎的な扱い方を学ぶ。また、OS やソフトにとらわれない技能を身に付けるために、適宜コンピュータの仕組みなど本質的な内容についても解説する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身に付ける。

【授業の計画】 1. 起動と終了 2. OS の基本操作 3. インターネットを利用した情報の収集 4. インターネットを利用した情報の収集 5. ワード・プロセッサ 1 6. ワード・プロセッサ 2 7. ワード・プロセッサ 3 8. 表計算 1 9. 表計算 2 10. 表計算 3 11. プレゼンテーション 1 12. プレゼンテーション 2 13. プレゼンテーション 3 14. プレゼンテーション 4 15. インターネット知識認定試験 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門-ソフト操作編」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 各課題に対するレポート

【再試験の有無】 再レポートなどはありません

【受講者へのメッセージ】 総合科学部は必修科目です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181035>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5-6(他の時間帯でも連絡の上随時可))

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(総科 (社創 B))

蓮沼 徹・准教授

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらう。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身に付ける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 中山・掛井・伊藤・大橋 共著 「情報科学入門-ソフト操作編」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポートと PowerPoint による発表により評価を行う。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181039>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜 9-10 講時)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(総科 (総理 A))

中山 慎一・准教授

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 近年、コンピュータは我々の生活環境に確実に浸透しつつあり、その重要性は加速度的に増してきている。このような状況において、コンピュータを使いこなす能力「コンピュータリテラシー」は欠かすことのできない必須技術となってきた。本授業では、実際にコンピュータを操作することによりコンピュータリテラシーを習得することを目的とする。また、実際の操作を通してコンピュータ及びそのネットワークの仕組みについても概観する。

【授業の概要】 コンピュータを利用した情報収集の仕方、情報のまとめ方、情報発信の仕方について講義・実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 (1) 2. パソコンと Windows XP の基礎 (2) 3. ワードプロソフト Word 利用法 (1) 4. ワードプロソフト Word 利用法 (2) 5. ワードプロソフト Word 利用法 (3) 6. インターネットの基礎 (WWW ブラウザ利用法) 7. インターネットの基礎 (電子メール利用法) 8. インターネットの基礎 (ネチケットについて) 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (1) 10. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (2) 11. プレゼンテーション発表会 (1) 12. プレゼンテーション発表会 (2) 13. 表計算ソフト Excel 利用法 (1) 14. 表計算ソフト Excel 利用法 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」, 学術図書出版社

【成績評価の方法】 レポート及びプレゼンテーションの発表により評価する。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185621>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日(16:00-18:00))

を行い、習得していく。それぞれの項目について適宜レポート課題を出し提出してもらおう。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク、パーソナルコンピュータの基礎的な利用、応用ができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス、並びにパソコン・WINDOWS の基礎 2. ワードプロの実習 (1) 3. ワードプロの実習 (2) 4. ワードプロの実習 (3) 5. ワードプロの実習 (4) 6. インターネットと電子メールの実習 (1) 7. インターネットと電子メールの実習 (2) 8. インターネットと電子メールの実習 (3) 9. インターネット利用許可システムの知識認定試験 10. 表計算の実習 (1) 11. 表計算の実習 (2) 12. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (1) 13. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (2) 14. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (3) 15. 表計算またはプレゼンテーションに関するレポート作成 16. 総括授業

【教科書】 中山慎一, 掛井秀一, 伊藤明明, 大橋共著 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社 1700 円+税

【成績評価の方法】 適宜レポート課題を出し、その結果により評価を行う。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185622>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 前田 (1217 号室, 088-656-7296, maeda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日(16:00-18:00))

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(医 (医 B))

村上 明子 非常勤講師

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 コンピュータ初心者情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181031>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail:akiko@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(薬 (薬 A))

大橋 守 教授

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータを学習・研究・プレゼンテーションなどで有効利用するための基礎技術の習得を目的とする。

【授業の概要】 コンピュータの利用は理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。本講義ではコンピュータの概論とその利用法を中心に講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(総科 (総理 B))

連沼 徹 准教授

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらおう。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 課題の説明とまとめ・発展

【教科書】 中山・掛井・伊藤・大橋 共著 「情報科学入門-ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポートと PowerPoint による発表により評価を行う。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185620>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 連沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜 9:10 講時)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(医 (医 A))

前田 茂 教授

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 「計算機における読み、書き、算盤」というべき情報リテラシーを、実習を通じて習得することを目的とする。

【授業の概要】 教科書に準拠しつつ、ワードプロ、インターネット、電子メール、表計算、プレゼンテーション等の各項目について、順次実習

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 教科書: 中山・掛井伊藤・大橋 『情報科学入門 -ソフト操作編-』 学術図書出版

【成績評価の方法】 レポートとプレゼンテーションの発表による。テーマ、書式、提出期限などは講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータは道具であり、他の人に伝える内容の充実が重要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185619>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11:55~12:50, 研究室: 総合科学部1号館南2階, 質問等, 電子メールでも受け付ける。)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(薬 (薬 B))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181033>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail: akiko@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (建 A))

鈴木 雄一郎・准教授/四国大学

2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータ、特にパーソナルコンピュータ(PC)においては、既に理工系で扱う複雑な科学技術計算だけでなく、日常の大学生活でも必要不可欠なツールとなっている。本講義では PC の初心者を対象に PC の基本的な操作方法、一般的なアプリケーション・ソフトの操作方法、インターネットを活用した情報処理といったものを習得する。つまり大学生活の中で必要となる「情報リテラシー」を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 社会での普及率が高い Microsoft Windows を基に、やはりアプリケーションとして普及率の高い Microsoft Office を中心に PC のオペレーションを身につける。また Office のアプリケーションと連携して、インターネットを利用した操作も同じ身につける。基本的なアプリケーションとネットワークに関する知識と操作を身につけ、情報を活用するための基礎を準備する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. ガイダンス パソコンと Windows XP の基礎 (1) 2. パソコンと Windows XP の基礎 (2) 3. ワードプロソフト Microsoft Word の利用法 (1) 4. ワードプロソフト Microsoft Word の利用法 (2) 5. ワードプロソフト Microsoft Word の利用法 (3) 6. インターネットの基礎 (1)(WWW ブラウザの利用法) 7. インターネットの基礎 (2)(電子メールの利用法) 8. インターネットの基礎 (3)(ネチケットについて) 9. 表計算ソフト Microsoft Excel の利用法 (1) 10. 表計算ソフト Microsoft Excel の利用法 (2) 11. 表計算ソフト Microsoft Excel の利用法 (3) 12. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint の利用法 (1) 13. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint の利用法 (2) 14. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint の利用法 (3) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『情報科学入門 -ソフト操作編-』 学術図書出版 2000 円

【成績評価の方法】 授業中に出す課題、および期末試験により評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初心者を対象としての講座になります。まったくの初心者であっても恐れる必要はありません。学業・研究のために PC を自在に扱えるようになることを期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181036>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鈴木 (オフィスアワー: suzuki@keiei.shikoku-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (建 B))

宇野 剛史 講師

2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。適宜レポート課題を設定する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 中山、掛井、伊藤、大橋 『情報科学入門 -ソフト操作編-』 学術図書出版

【成績評価の方法】 毎週の課題レポートと PowerPoint による発表により評価を行う。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181048>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 未定

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (機 A))

大橋 守 教授

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータを学習・研究・プレゼンテーションなどで有効利用するための基礎技術の習得を目的とする。

【授業の概要】 コンピュータの利用は理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。本講義ではコンピュータの概論とその利用法を中心に講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 教科書:中山・掛井伊藤・大橋 『情報科学入門 -ソフト操作編-』 学術図書出版

【成績評価の方法】 レポートとプレゼンテーションの発表による。テーマ、書式、提出期限などは講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータは道具であり、他の人に伝える内容の充実が重要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181038>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11:55~12:50, 研究室: 総合科学部1号館南2階, 質問等, 電子メールでも受け付ける。)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (機 B))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181037>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail:akiko@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (機 C 生 B))

鈴木 雄一郎・准教授/四国大学

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータ、特にパーソナルコンピュータ(PC)においては、既に理工系で扱う複雑な科学技術計算だけでなく、日常の大学生活でも必要不可欠なツールとなっている。本講義では PC の初心者を対象に PC の基本的な操作方法、一般的なアプリケーション・ソフトの操作方法、インターネットを活用した情報処理といったものを習

得する。つまり大学生活の中で必要となる「情報リテラシー」を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 社会での普及率が高い Microsoft Windows を基に、やはりアプリケーションとして普及率の高い Microsoft Office を中心、に PC のオペレーションを身につける。また Office のアプリケーションと連携して、インターネットを利用した操作も身に身につける。基本的なアプリケーションとネットワークに関する知識と操作を身につけ、情報を活用するための基礎を準備する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. ガイダンス パソコンと Windows XP の基礎 (1) 2. パソコンと Windows XP の基礎 (2) 3. ワードプロソフト Microsoft Word の利用法 (1) 4. ワードプロソフト Microsoft Word の利用法 (2) 5. ワードプロソフト Microsoft Word の利用法 (3) 6. インターネットの基礎 (1)(WWW ブラウザの利用法) 7. インターネットの基礎 (2)(電子メールの利用法) 8. インターネットの基礎 (3)(ネチケットについて) 9. 表計算ソフト Microsoft Excel の利用法 (1) 10. 表計算ソフト Microsoft Excel の利用法 (2) 11. 表計算ソフト Microsoft Excel の利用法 (3) 12. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint の利用法 (1) 13. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint の利用法 (2) 14. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint の利用法 (3) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『情報科学入門 -ソフト操作編-』 学術図書出版 2000 円

【成績評価の方法】 授業中に出す課題、および期末試験により評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初心者を対象としての講座になります。まったくの初心者であっても恐れる必要はありません。学業・研究のために PC を自在に扱えるようになることを期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181049>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鈴木 (オフィスアワー: suzuki@keiei.shikoku-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (電 A))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181050>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail:akiko@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (電 B))

芥川 正武・講師/工学部

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンが初めての学生を対象に、学習・研究・プレゼンテーションなどに役立つ小型計算機(パソコン)利用法の基礎技術の習得を目的とする。最終的に小型計算機を用いて統一的に情報を扱う方法を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 1. パソコンの基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト(OS)の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、またパソコンを用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下でのパソコンの統一的な情報の取り扱いを身につける。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス、受講者登録、教室、施設、パソコン周辺機器の利用法 2. 基礎ソフトとパソコンの操作法(基礎)、キートンに慣れる、文字入力の方法 3. WWWブラウザソフト・電子メールの利用者登録と利用法基礎 4. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(ワードによるワープロ基礎、ファイル管理) 5. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(文章作成) 6. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(文章に表、絵、写真を入れる) 7. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(エクセルによる表作成) 8. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(エクセルによるグラフ作成) 9. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(エクセルによる実験データ処理) 10. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(パワーポイント基礎) 11. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(プレゼンテーション資料作成) 12. 統合ソフト・マイクロソフト・オフィスの実習(プレゼンテーション資料作成) 13. ネットワーク下でのパソコンの統一的利用法の実習(WEB ページ作成の基礎) 14. プレゼンテーション実習(各自発表) 15. プレゼンテーション実習(各自発表) 16. 総括授業

【教科書】 「マスターしよう情報リテラシー」 学術図書出版社 1700 円

【参考書等】 マイクロソフトオフィス XP 利用に役立つ文献ならどれでも可

【成績評価の方法】 毎週のレポート提出状況とプレゼンテーション(発表)結果から成績判断を行う。

【再試験の有無】 無し

【受講者の注意】 パソコンが初めての学生を対象に講義する。講義は全て積み重ねが大事なので欠席すると追いつくための自習が必要、学部1年生のみ対象の講義。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181034>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 芥川(工学部電気棟3階北C-5, 088-656-7477, makutaga@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16:00-17:00 木曜日16:00-17:00)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (再履修クラス(再履修クラス))

Introduction to Information Science

金西 計英・准教授/高度情報化基盤センター
2単位 前期 木 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『情報科学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 急速な情報化社会の到来を背景に、情報化についての理解を深める。PCを用いて統一的に情報を扱う方法を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 1. PCの基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト(OS)の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、またPCを用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下でのPCの統一的な情報の取り扱いを身につける。

【キーワード】 情報リテラシー、インターネット、アルゴリズム、コンピュータの仕組み、著作権

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PCの基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス、コミュニケーションツール 2. WWWの仕組み 3. 情報検索社会の到来 4. 情報の整理と加工 5. 情報社会の権利(著作権) 6. 情報セキュリティ 7. 情報倫理 8. 情報処理と計算機 9. プログラミングの仕組み 10. ネットワークの仕組み 11. インターネットの仕組み 12. 情報の加工と提示 13. プレゼンテーションの準備 14. プレゼンテーション実習 15. プレゼンテーション実習 16. 総括授業

【教科書】 新しい 大学情報リテラシー (税別1,700円), オーム社, 2006年

【成績評価の方法】 定期的に課する課題の提出状況とプレゼンテーション(発表)実習から総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無し

【受講者の注意】 情報科学の再履修を指示された学生が対象で、科目の開講時間等の制限で、他の時間に情報科学の履修が困難な学生が対象です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181046>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金西(院生棟506, 088-656-7285, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp)

5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

微分積分学 ... (医・歯 ((医歯)A)) / 伊藤 / 前期 火 7・8	109
微分積分学 ... (医・歯 ((医歯)B)) / 宇野 / 前期 火 7・8	109
統計学 ... (医 (栄)) / 大橋 / 前期 火 3・4	109
微分積分学 ... (医 (放)) / 大沼 / 前期 月 7・8	109
医療情報処理 ... (歯 (歯)) / 河野 / 前期 金 5・6	110
微分積分学 ... (薬 (薬2)) / 前田 / 前期 月 5・6	110
線形代数学 I ... (工 (建)) / 桑原 / 前期 水 1・2	110
微分積分学 I ... (工 (建)) / 伊藤 / 前期 金 3・4	110
微分積分学 I ... (工 (機 A)) / 宇野 / 前期 水 5・6	111
線形代数学 I ... (工 (機 A)) / 村上 / 前期 木 1・2	111
微分積分学 I ... (工 (機 B 電 A)) / 竹内 / 前期 水 5・6	111
線形代数学 I ... (工 (機 B 電 A)) / 大淵 / 前期 木 1・2	111
線形代数学 I ... (工 (化)) / 片山 / 前期 水 1・2	112
微分積分学 I ... (工 (化)) / 大沼 / 前期 金 3・4	112
線形代数学 I ... (工 (生)) / 大沼 / 前期 水 1・2	112
微分積分学 I ... (工 (生)) / 大橋 / 前期 金 3・4	112
微分積分学 I ... (工 (電 B)) / 水野 / 前期 水 5・6	113
線形代数学 I ... (工 (電 B)) / 蓮沼 / 前期 木 1・2	113
線形代数学 I ... (工 (知)) / 岡本 / 前期 月 7・8	113
微分積分学 I ... (工 (知)) / 伊藤 / 前期 水 7・8	113
線形代数学 I ... (工 (光)) / 小野 / 前期 月 7・8	113
微分積分学 I ... (工 (光)) / 片山 / 前期 火 3・4	114

基礎物理学

基礎物理学 I・物理学概論 ... (医 (医)) / 浦西 / 前期 火 3・4	115
基礎物理学 f・力学概論 ... (医 (放)) / 真岸 / 前期 月 5・6	115
基礎物理学 I・物理学概論 ... (歯 (歯)) / 浦西 / 前期 火 5・6	115
力学及び熱力学 ... (薬 (薬)) / 日置 / 前期 月 1・2	115
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (建)) / 日置 / 前期 月 5・6	116
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (機)) / 中山 / 前期 月 5・6	116
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (化)) / 中村 / 前期 水 5・6	116
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (生)) / 浦西 / 前期 水 7・8	117
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (電)) / 中山 / 前期 火 5・6	117
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (光)) / 岸本 / 前期 水 1・2	117

基礎化学

基礎化学 I・生化学の基礎 ... (医 (医)) / 佐々木 / 前期 金 5・6	118
基礎化学 II・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) ... (医 (栄)) / 増田 / 前期 木 1・2	118
化学の基礎 ... (医 (放検)) / 菊池 / 前期 水 1・2	118
基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) ... (歯 (歯2)) / 増田 / 前期 火 1・2	118
基礎化学 I・物理化学 (平衡と反応速度) ... (歯 (歯)) / 村田 / 前期 水 5・6	119
基礎化学 I・電子と有機化学 ... (薬 (薬)) / 根本 / 前期 水 7・8	119
基礎化学 i・化学結合論 ... (工 (生)) / 武田 / 前期 火 5・6	119
基礎化学 i・化学結合論 ... (工 (光)) / 寺尾 / 前期 火 5・6	120

基礎化学実験

基礎化学実験 ... (医 (医)) / 田中・佐野・竹内・植野・根本・大井・吉田・重永・宮本 / 前期 集中	120
基礎化学実験 ... (歯 (歯2)) / 今井・山本・富山・林 / 前期 水 7・10	120

全学共通教育 (2009) 前期・【基礎科目群】

基礎生物学

基礎生物学 MI ... (医 (医)) / 六反・棚橋・河合 / 前期 金 7・8	121
基礎生物学 DI ... (歯 (歯)) / 北村・野間・山下・三好 / 前期 金 1・2	121
基礎生物学 P ... (薬 (薬)) / 松尾 / 前期 月 5・6	121
基礎生物学 T ... (工 (生)) / 佐藤 / 前期 月 5・6	122

基礎生物学実験

基礎生物学実験 N ... (医 (薬)) / 山城 / 前期 水 7・10	122
--	-----

5.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学
Calculus

(医・歯 (医歯)A)

伊藤 正幸・教授

2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。しかしこの授業は半年のコースであるため、理論的な推論法、論理的な推論展開は減らし主に計算技術を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学は、高校の数学 II,III で一変数関数の取り扱いの基本を学んでいる。この授業では平均値の定理を見直し、テイラーの定理から始める。その後多変数関数の微積分を講義する。この講義の内容を、半年の授業用に書かれた教科書は見当たらないので、一般的な教科書を採用するが、項目は飛び飛びになるので、授業ノートをとり、対応箇所の勉強を怠らないようにしてください。

【キーワード】 微分, 積分, 偏微分法

【関連科目】 『基礎数学/統計学』(0.5, ⇒109 頁)

【到達目標】 高等学校の微積分の知識を広げ、初等関数の級数展開と多変数関数の微積分計算ができる。

【授業の計画】 1. 数学的準備, 実数 2. 平均値の定理 3. テイラーの定理 4. テイラーの定理の続き 5. 多変数関数 6. 連続性, 偏微分 7. 全微分 8. 高階微分 9. 極値問題 10. 不定積分 11. 定積分 12. 重積分 13. 累次積分 14. 積分の変数変換 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習, 復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185623>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日12:00-12:45)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学
Calculus

(医・歯 (医歯)B)

宇野 剛史・講師

2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は自然科学を記述するための言葉・道具であり、医学・薬学においても基礎となる学問である。この講義では、微積分学の基礎概念を理解し、計算力ならびに応用力をつけることを目的とする。

【授業の概要】 高等学校で学んだことを復習しつつ、1 変数関数の微分・積分の理解を深める。この概念を拡張することで、多変数関数の微分・積分法について学ぶ。さらに、速度、最大・最小化問題、図形の面積や体積等の応用計算ができるようにする。

【キーワード】 微分積分, 偏微分方程式

【到達目標】

1. 極限の概念の理解及び 1 変数の関数の微分を理解し、微分を応用する力をつける。
2. 偏微分の概念を理解し、偏微分を用いて関数の性質を調べられるようにする。
3. 積分学についての基礎概念を理解し、不定積分, 定積分, 重積分の計算ができ、応用する力をつける。

【授業の計画】 1. 実数についての基礎 2. 級数と関数の極限 3. 微分の基礎 4. 平均値の定理 5. ロピタルの定理, テイラーの定理 6. 2 変数関数の極限と連続 7. 偏微分 8. 2 変数関数の極値 9. 積分の基礎, リーマン積分の定義 10. 広義積分, 無理積分 11. 面積, 曲線の長さ 12. 重積分の基礎, 累次積分法 13. 重積分の変数変換, 広義の重積分 14. 体積, 曲面積 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 水田義弘著「入門微分積分」サイエンス社

【成績評価の方法】 毎回の授業のまとめのレポートと期末試験の成績による総合評価

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 問題演習を中心に授業を進めます。自分でよく考えて問題を解く事で理解を深めてください。定理の意味や、証明にも興味を持ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180880>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宇野 (088-656-7294-3607, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 月曜~ 金曜 9:30~ 17:00 宇野研究室(総合科学部1号館2階))

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学

Statistics

(医 (栄))

大橋 守・教授

2 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 確率・統計についての基本概念の理解と、実験や調査などの基本的なデータ処理の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計学は、理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。この講義では、統計学の基礎となる確率と統計学の基本的な事項を難しい数学理論を用いずに解説する。また、授業時間中に毎回問題演習を行い、基本的なデータ処理の計算に慣れる。

【キーワード】 確率, 統計量, 検定

【到達目標】 統計的推定と検定の考え方を理解し、分布表を用いて統計処理ができるようになる。

【授業の計画】 1. 授業の概要, 確率 2. 条件付確率と独立 3. 確率変数と期待値 4. 確率分布 (1) 5. 確率分布 (2) 6. 中心極限定理と大数の法則 7. 母集団と標本 8. 母平均の区間推定 9. 母分散の区間推定 10. 母比率の検定 11. 母平均の検定 12. 母分散の検定 13. 等平均・等分散の検定 14. 適合度の検定 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書: 森本, 大橋著「これならわかる確率・統計セミナー」学術図書出版

【成績評価の方法】 講義中に課す演習問題と期末試験によって評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中に電卓 (四則と平方根の計算機能があればよい) を使用するので、準備すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180893>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11:55~ 12:50, 研究室: 総合科学部1号館南2階, 質問等, 電子メールでも受け付ける。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学

Calculus

(医 (放))

大沼 正樹・准教授

2 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、自然現象や社会現象を関数を用いて表現し、それを解析する手段として、数理科学的アプローチにおける最も基礎的な理論である。その考え方や基礎的概念, 手法を習得することは、特に自然科学におけるあらゆる分野で必須である。本講義では、1 変数および 2 変数関数の微分積分学の基礎を修得することを目標とする。

【授業の概要】 前半に、高校数学で学習した 1 変数関数の微分積分法の復習及び補足的理論を学び、その後、多変数 (2 変数) 関数の微分積分法 (偏微分, 重積分) の基本的概念や計算手法について、例題の解説をまじえながら講義する。

【キーワード】 微分積分

【到達目標】

1. 微分積分学に関する定義を理解出来る。
2. 微分積分の計算が出来る。
3. 微分積分法を応用した問題を解ける。
4. 論理的に理解できる答案を作成出来る。

【授業の計画】 1. 実数と数列 2. 1 変数関数の極限 3. 1 変数関数の微分法 4. 不定形の極限 5. 1 変数関数のテイラーの定理 6. 1 変数関数の不定積分 7. 1 変数関数の定積分 8. 広義積分 9. 2 変数関数の極限 10. 偏微分と偏導関数 11. 合成関数の微分法 12. 陰関数定理 13. 重積分の定義と計算 14. 重積分の変数変換 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 星賀彰他著『工学系の微分積分学』学術図書出版社

【成績評価の方法】 出席・レポートによる平常点と期末試験の得点によって成績評価をする。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内で問題演習の時間を取ることは困難なので各自で教科書の問題に取り組んで計算力を付けてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180872>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期, 月曜日 16:10~17:00, 研究室: 総合科学部1号館南棟2階1227室, 質問は電子メールでも受け付けます。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

医療情報処理 (函 (函))

Medical Information 河野 文昭 教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることが目的である。

【授業の概要】 下記に示す授業内容を講義し、実習では各学生にコンピュータ実習 (インターネット活用, ワープロ, 表計算, 統計処理) を行う。また、歯科臨床の場で活用しているコンピュータの事例について紹介する。

【キーワード】 医療情報, e-Learning, 医療経済学

【到達目標】

1. 情報処理・医療情報の基礎が理解できる
2. コンピュータネットワークの基礎が理解できる
3. コンピュータを活用できる技能を身につけられる

【授業の計画】 1. 情報処理総論 2. 医療情報処理総論 3. 情報通信の仕組み (インターネット) 4. 歯科領域におけるコンピュータの役割 5. ワープロの実習 6. ワープロの実習 7. 表計算の実習 8. 表計算の実習 9. プレゼンソフトの実習 10. プレゼンソフトの実習 11. ホームページ作成ソフトの実習 12. ホームページ作成ソフトの実習 13. 医療統計ソフトの実習 14. 医療統計ソフトの実習

【教科書】

- ◇ 教科書: 私版のテキストを配布, インターネットにて閲覧。
- ◇ 参考書: 各講義中に紹介

【成績評価の方法】 筆記試験 (論述式)

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 コンピュータをツールとして活用できるように講義します。実習は特にインターネット活用および医療統計の方法, に重点をおきます。毎回出席をとるので必ず講義に出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180870>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 森川 (0886339131, moritomi@clin.med.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 (薬 (薬 2))

Calculus 前田 茂 教授
2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、多くの応用分野において基本的道具の役割を果たしており、その修得は必須ともいえる。1 変数関数に関する微積分は、既に高等学校で学んでいるが、本講義ではそれらの基礎知識を再確認しつつ、さらに進んで、多変数関数に関する微積分、積分法の修得を目的とする。

【授業の概要】 本講義では、1 変数関数に関する微積分の基礎知識を復習しつつ、微積分については偏微分並びにその応用、積分法については重積分、広義重積分、並びにそれらの応用についての講義を予定している。

【到達目標】

1. 多変数関数に関する微積分を理解し、使いこなせるようになること。
2. 偏微分を理解し、偏導関数の計算ができる。

【授業の計画】 1. 1 変数関数の微分法 2. 2 変数関数の極限と連続性 3. 偏微分と全微分 4. Taylor の定理 5. 陰関数定理 6. 2 変数関数の極値 7. 条件付き極値問題 8. 1 変数関数の微分法 9. 有理関数の積分、並びに関連する関数の積分 10. 重積分 11. 重積分の変数変換 12. 広義重積分 13. 多重積分 14. 重積分の応用 15. 期末試験 16. 総合学習

【教科書】 江口正晃他著「基礎微分積分学」, 学術図書出版社, 2200 円+税

【成績評価の方法】 期末試験, 小テスト等により評価する

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185625>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 前田 (1217 号室, 088-656-7296, maeda@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 火曜 12:00-13:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (工 (建))

Linear Algebra 1 桑原 類史 教授
2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 行列の演算、行列の基本変形、行列式の計算方法について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 行列, 連立 1 次方程式, 行列式

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』 (0.8, ⇒215 頁)

【到達目標】 行列と行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に活用できること。

【授業の計画】 1. 導入 (授業計画の説明など) 2. 行列 3. 行列の演算 4. 正則行列, 逆行列 5. 色々な行列 6. 行列式 7. 行列式の性質 8. 行列式の展開公式 9. 行列式の応用 10. 行列の基本変形 (1) 11. 行列の基本変形 (2), 逆行列の求め方 12. 連立 1 次方程式とその解法 (1) 13. 連立 1 次方程式とその解法 (2) 14. 幾何ベクトルと数ベクトル 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書: 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著「理工系の入門線形代数」学術図書出版社
- ◇ 参考書: 佐武一郎著「線型代数学」裳華房

【成績評価の方法】 期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満のものは、再試験の受験資格なし。

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180899>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 桑原 (総合科学部 1 号館 2 階 1223 号室, 088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15:00~17:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (工 (建))

Calculus 1 伊藤 正幸 教授
2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 I と後期に開講される微分積分学 II とあわせて、微分積分学の基礎を学ぶことになる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 微分法 2. 初等関数の微分 3. 高階導関数 4. 平均値の定理 5. テイラーの定理 6. 偏微分法 7. 2 変数関数の合成関数の微分 8. 2 変数関数のテイラーの定理

【キーワード】 微分, 積分, 偏微分法

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 II』 (0.5, ⇒218 頁)

【到達目標】 高等学校の微積分の知識を広げ、基本的な初等関数の微分計算が確実に出来、初等関数の級数展開と多変数関数の微分の意味を理解できる。

【授業の計画】 1. 数学的準備, 実数 2. 極限値と連続関数 3. 導関数と微分法の公式 4. 初等関数の微分 1 5. 初等関数の微分 2 6. 高階導関数 7. ライブニッツの公式 8. 平均値の定理 1 9. 平均値の定理 2 10. テイラーの定理 1 11. テイラーの定理 2 12. 2 変数関数の極限値と連続性 13. 偏微分法と全微分 14. 合成関数の微分 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185624>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日12:00-12:45)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微積分学 I
Calculus 1

(工 (機 A))
宇野 剛史・講師
2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微積分学は線形代数学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の両輪の如く基本的な学問分野となっている。本講義では数学の基本的教養の一翼を担う微積分学それ自体の実体的、構造的、法則的理解をめざすと同時に数理学の基本的手法の習得をめざしたい。

【授業の概要】 本講義では、1 変数と多変数の連続関数の基本性質、1 変数関数の微分法と多変数関数の微分法について講義する。

【到達目標】

1. 解析学の基礎的概念の意味を理解できる。
2. 解析学の基礎について構造的論理的に理解できる。
3. 発展的応用的問題への応用ができる。(自学自習による)

【授業の計画】 1. 極限值 2. 1 変数連続関数 3. 多変数連続関数 4. 微分法 5. 初等関数の微分 6. 高階導関数 7. 平均値の定理 8. テイラーの定理 9. 曲線の凹凸と関数の極値 10. 偏導関数 11. 多変数合成関数の微分法 12. 陰関数 13. 多変数関数のテイラーの定理 14. 多変数関数の極大・極小 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 水本久夫著「微積分学の基礎 改訂版」培風館

【成績評価の方法】 毎回の授業のまとめのレポートと期末試験の成績による総合評価

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 各自が主体的に演習問題に取り組んでもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180876>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宇野 (088-656-7294-3607, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 月曜～金曜 9:30～17:00 宇野研究室(総合科学部1号館2階))

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I
Linear Algebra 1

(工 (機 A))
村上 公一・准教授
2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微積分学と並んで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱の一つである。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの広い範囲で応用可能であるためである。この授業では、線形代数学についての基本概念の理解と、行列に関する計算力の習得を目的とする。

【授業の概要】 行列の演算、行列の基本変形、行列式についての基本事項を解説する。また、授業時間中に毎回問題演習を行い、行列の計算に慣れてもらう。

【キーワード】 基本変形、行列のランク、行列式

【到達目標】 行列の基本変形と行列式の計算ができるようになること

【授業の計画】 1. 授業の概要 2. 行列の演算 (1) 基本演算 3. 行列の演算 (2) 逆行列と正則性 4. 行列の演算 (3) 行列の m 乗 5. 行列の基本変形 (1) 行列のランク 6. 行列の基本変形 (2) 逆行列 7. 行列の基本変形 (3) 連立 1 次方程式 8. 行列の基本変形 (4) 同次連立 1 次方程式 9. 行列式 (1) 行列式の定義 10. 行列式 (2) 行列式の性質 11. 行列式 (3) 行列式の展開 (1) 12. 行列式 (4) 行列式の展開 (2) 13. 行列式 (5) 連立 1 次方程式 14. 行列式 (6) 因数分解、積の公式 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 守安一峰, 小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」サイエンス社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180902>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村上 (1206, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日12:00～13:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微積分学 I
Calculus 1

(工 (機 B 電 A))
竹内 敏己・教授/工学部
2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 極限、連続等の数学的概念、微分についての基本的な考え方を修得する。さらに、それにかかわる計算力や応用力を身につける。

【授業の概要】 微積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである。本講義では、まず 1 変数関数の微分法について十分学んだ上で、2 変数関数の微分法および実際問題への応用について学ぶ。

【キーワード】 極限、微分、偏微分

【関連科目】 『基礎数学/微積分学 II』(0.5, ⇒216 頁)

【到達目標】

1. 基本的な極限の計算が行える。
2. 1 変数関数の微分法を理解し、導関数の計算が行える。
3. 偏微分概念を理解し、偏導関数の計算が行える。

【授業の計画】 1. 極限值 2. 微分法の公式 3. 初等関数の微分 4. 高階導関数 5. 平均値の定理 6. 不定形の極限值 7. テイラー展開 8. 関数の増減と極値 9. 偏導関数 10. 全微分可能性 11. 2 変数合成関数の微分 12. 陰関数 13. 2 変数のテイラーの定理 14. 条件つき極値問題 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書:水本久夫 『微積分学の基礎 改訂版』 培風館
- ◇ 問題集:水本久夫 『微積分学問題集 改訂版』 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢や授業中に行う演習問題等の平常点と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内容を確実に理解するには各自が普段から自主的な演習を行い復習を重ねることが必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180877>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 竹内 (A206, 088-656-7544, takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I
Linear Algebra 1

(工 (機 B 電 A))
大淵 朗・教授
2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は微積分学と並んで数学の基本的な学問分野である。そして様々な分野に於いても非常に良く使われている。その為、線形代数学の基本的な考え方及びその計算技術は大学に於いて種々の学問を学ぶ上で大変有効な手立てとなることが多い。本講義は後期の講義と併せて、今後大学で色々な事柄を学ぶ上で必要と思われる基本的な考え方及び計算技術を取得することを目的とする。

【授業の概要】 目的にも記した様に本講義は後期の線形代数学 II と併せて線形代数学の基本的な考え方及びその計算技術の取得を目的としたものであり、前期 (線形代数学 I) に於いてはもっぱら計算技術である所の行列及び行列式に関する理論を講義する (及び演習も行う)。

【到達目標】

1. 行列の計算が出来る。
2. 行列の基本変形が出来る。
3. 行列式の計算が出来る。
4. 逆行列が求められる。
5. 変数が多い連立一次方程式が解ける様になる。

【授業の計画】 1. 数と行列 2. 行列の演算 3. 正則行列 4. 行列の計算に関する演習 5. 基本変形 6. 逆行列の求め方 7. 基本変形及び逆行列の求め方演習 8. 連立一次方程式 9. 連立一次方程式に関する演習 10. 行列式・行列式の性質 11. 行列式の計算に関する演習 12. 行列式的应用 13. 行列式的应用に関する演習 14. 数ベクトル空間 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 中原徹・片山真一 『線形代数学入門』 学術図書

【成績評価の方法】 学期末試験、レポート、中間試験、授業への取り組み状況などを基に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 10-15 分程度の僅かな時間でも良いですから、必ず講義の行われたその日のうちに復習を行って下さい。

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180903>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:木曜日3-4講時または昼休み(11:50-12:50),大淵研究室(総合科学部一号館二階)としますが、この時間に拘る必要はありません。質問は原則として常に受け付けるように致します。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

Linear Algebra 1

(工(化))

片山真一 教授

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の両輪のような基本的な学問である。また工学や社会科学の広い分野で大きな役割をはたしている。本講義では、将来、線形代数学を日常的に使う工学部の学生に対し、その基本的な構造を理解して、計算が出来ることの基礎を習得させることを目標とする。

【授業の概要】 線形代数学 I は後期に開講される線形代数学 II とあわせて、線形代数学の基礎を学習するものであり、主として、連立 1 次方程式を解くという操作を通じて、行列、行列式の概念と計算の基礎を学び、あわせて線形代数学全体の入門部分を講義する。

【キーワード】 連立 1 次方程式、行列、行列式

【到達目標】 行列や行列式の基本を理解して、連立 1 次方程式を解くことができる。

【授業の計画】 1. 授業に関する諸注意 2. 連立 1 次方程式の解法 1 3. 連立 1 次方程式の解法 2 4. 行列 5. 行列の演算 6. 行列の演算 2 7. 面積と行列式 8. 行列式の定義 1 9. 行列式の定義 2 10. 行列式の基本性質 11. 余因子展開 12. 逆行列の計算 13. クラメル公式 14. 連立 1 次方程式と行列、行列式 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 未定

【参考書等】 「線形代数学」佐竹一郎著 裳華房

【成績評価の方法】 適宜行うレポートの提出状況と内容、期末試験を基にして総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組んで、予習復習は必ず行うことを勧めます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180900>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16:20-17:20 総合科学部1号館(片山研究室))

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

Calculus 1

(工(化))

大沼正樹 准教授

2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は工学全般の基礎となる学問の一つである。本講義では、微分積分学の特に微分学について、その基礎的事項の理解を深め、計算力・応用力をつけることを目的とする。

【授業の概要】 高等学校で学習した微分積分の復習をかねながら、1 変数関数の微分法を講義し、さらに 2 変数関数の微分法について講義する。

【キーワード】 微分積分

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 II』(1.0, ⇒217 頁)

【到達目標】

1. 微分積分学に関する定義を理解出来る。
2. 微分積分の計算が出来る。
3. 微分積分法を応用した問題を解ける。
4. 論理的に理解できる答案を作成出来る。

【授業の計画】 1. 実数と数列 2. 関数の極限と連続関数 3. 中間値の定理と逆関数 4. 1 変数関数の微分 5. 平均値の定理 6. 不定形の極限 7. テイラーの定理 8. 2 変数関数の極限と連続性 9. 偏導関数 10. 全微分可能性と全微分 11. 2 変数合成関数の微分 12. 陰関数の定理 13. 2 変数のテイラーの定理 14. 2 変数関数の極値 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 江口正晃 他著 『基礎微分積分学』 学術図書出版社

【成績評価の方法】 受講姿勢、レポート等の平常点と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内での問題演習の時間をとることは困難なので各自で教科書の問題に取り組んで計算力をつけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180881>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期, 金曜日 12:00~12:50 総合科学部1号館南棟2階1227室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

Linear Algebra 1

(工(生))

大沼正樹 准教授

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学と共に数学の基本であると同時に、様々な自然科学分野や工学の分野にとどまらず、経済学などの社会科学分野にも広い応用のある基本的な道具です。本講義では、具体的な計算を通して、線形性という概念に慣れ親しみ、行列に関した基本的な性質を使いこなせることをその目的とします。

【授業の概要】 授業は主にテキストに沿って講義形式で行われます。始めに行列の演算を学習します。次に行列の基本変形について学習し連立 1 次方程式の解法を学習します。その後に行列式について学習し、その応用としての逆行列の計算および連立 1 次方程式の解法を学習します。

【キーワード】 行列、行列の基本変形、行列式、

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(1.0, ⇒217 頁)

【到達目標】 行列と行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に活用できること。

【授業の計画】 1. 行列の定義、行列の演算 (その 1) 2. 行列の定義、行列の演算 (その 2) 3. 行列の基本変形 4. 基本変形と正則行列 5. 逆行列の求め方 (I) 6. 連立 1 次方程式の解法 (I)(その 1) 7. 連立 1 次方程式の解法 (I)(その 2) 8. 連立 1 次方程式の解法 (I)(その 3) 9. 行列式の定義 10. 行列式の性質 (その 1) 11. 行列式の性質 (その 2) 12. 行列式の展開 13. 逆行列の求め方 (II) 14. 連立 1 次方程式の解法 (II) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 戸田暢茂著 「基礎線形代数学」学術図書出版社

【成績評価の方法】 受講姿勢とレポート提出物による平常点と期末試験の得点によって評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業内での問題演習の時間を多く取ることは困難なので各自で教科書の問や練習問題に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180901>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時30分~17時30分 総合科学部1号館南棟2階1227室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

Calculus 1

(工(生))

大橋守 教授

2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすもので、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠なものである。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、断片的な知識の習得のみならず、基礎概念がどのように形成されたかが明らかになるようにする。特に、微分積分学 I では、1 変数関数の微分法と積分法の修得を目的とする。

【授業の概要】 高等学校で学習した微分積分の復習をかねながら、1 変数関数の微分法と積分法の理解を深める。

【キーワード】 極限、級数、導関数、積分

【到達目標】 極限の概念の理解及び 1 変数関数の微分・積分法を理解し、その応用について学ぶ。

【授業の計画】 1. 数列と関数の極限 2. 連続関数 3. 初等関数 4. 微分係数 5. 導関数 6. 平均値の定理 7. テイラーの定理 8. 微分法の応用 9. 定積分 (1) 10. 定積分 (2) 11. 積分の計算 12. 広義積分 13. 積分の応用 14. 級数の収束・発散 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 高桑昇一郎著 『例題で分る微分積分』培風館

【参考書等】 池辺信範, 神崎正則, 中村幹雄, 緒方明夫著 『微分積分学概説』培風館

【成績評価の方法】 出席、小テスト、レポートなどと、期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 演習問題等を自分自身で考え、理解を深めてください。また、定理や公式の証明もきちんと理解するよう心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180882>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11:55~12:50, 研究室: 総合科学部1号館南2階, 質問等, 電子メールでも受け付ける。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

Calculus 1

(工 (電 B))
水野 義紀 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 極限, 連続等の数学的概念, 微分についての基本的な考え方を修得する。さらに, それにかかわる計算力や応用力を身につける。

【授業の概要】 微分積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである。本講義では, まず 1 変数関数の微分法について十分学んだ上で, 2 変数関数の微分法および実際問題への応用について学ぶ。

【キーワード】 極限, 微分, 偏微分

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 II』(0.5, ⇒218 頁)

【到達目標】

1. 基本的な極限の計算が行える。
2. 1 変数関数の微分法を理解し, 導関数の計算が行える。
3. 偏微分概念を理解し, 偏導関数の計算が行える。

【授業の計画】 1. 極限值 2. 微分法の公式 3. 初等関数の微分 4. 高階導関数 5. 平均値の定理 6. 不定形の極限值 7. テイラー展開 8. 関数の増減と極値 9. 偏導関数 10. 全微分可能性 11. 2 変数合成関数の微分 12. 陰関数 13. 2 変数のテイラーの定理 14. 条件つき極値問題 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇教科書: 水本久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』 培風館
- ◇問題集: 水本久夫 『微分積分学問題集 改訂版』 培風館

【成績評価の方法】 小テスト 15%, レポート 15%, 期末試験 70%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内容を確実に理解するには各自が普段から自主的な演習を行い復習を重ねることが必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180878>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水野

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

Linear Algebra 1

(工 (電 B))
蓮沼 徹 准教授
2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は, 微分積分学と並んで数学の基本であり, 自然科学, 工学, 情報科学, 社会科学など様々な分野への応用をもっている。本講義では線形代数学の基本的概念の理解と基本的手法の習得を目的とする。

【授業の概要】 授業は教科書に沿って講義形式で行い, 行列の演算, 行列の基本変形, 連立 1 次方程式の解法, 行列式の計算方法について解説する。また, 演習の時間を設け, 演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 行列, 行列の基本変形, 行列式,

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(1.0, ⇒218 頁)

【到達目標】 行列と行列式に関する基本的な計算ができ, 連立 1 次方程式の解法に活用することができる。

【授業の計画】 1. 行列 2. 行列の演算 3. 正則行列 4. 行列の基本変形 5. 行列のランク 6. 行列の正則性 7. 逆行列の求め方 8. 連立 1 次方程式 9. 同次連立 1 次方程式 10. 行列式 11. 行列式の基本性質 12. 行列式の性質 13. 行列式の展開公式 14. 行列式的应用 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 守安一峰・小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」 サイエンス社

【成績評価の方法】 期末試験, 演習課題レポート, 授業への取り組み状況をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業に積極的に取り組むようになしてください。予習, 復習も心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180905>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時20分~17時50分 総合科学部1号館1212室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

Linear Algebra 1

(工 (知))
岡本 邦也 講師 / 工学部
2 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は, 微分積分学と並んで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が, 自然科学や工学はもちろんのこと, 情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では, 数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的, 構造的, 法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 最も重要な線形空間である数ベクトル空間を対象として, 線形空間や線形写像の基本的な事項を解説する。また, 必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【到達目標】 線形空間に関する基本的な事項, 及び線形写像としての行列の本質を理解する。

【授業の計画】 1. 授業に関する諸注意 2. 集合と論理 3. 連立一次方程式 4. ガウス-ジョルダンの消去法 5. 行列の基本的演算 6. 数ベクトル空間 7. 線形独立, 線形従属 8. 部分空間 9. 基底 10. 次元 11. 線形写像 12. 行列のランク 13. 行列の基本変形 14. 直和, 次元定理 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 松本和一郎著 『線形代数入門』, 共立出版

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 期末試験, レポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと, 予習復習は必ず行うこと。

【WEB 頁】 <http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180897>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岡本(A212, TEL/FAX: 656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

Calculus 1

(工 (知))
伊藤 正幸 教授
2 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は, 線形代数学と並び, 現代の数学の基礎をなすものであり, 学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに, 数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は, 高等学校でもある程度学んでいるが, この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され, かなりの努力が必要になる。この授業は, このような微積分を学ぶことによって, 断片的な知識の習得のみならず, 今後必要となる, 理論的な推論法, 論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 I と後期に開講される微分積分学 II とあわせて, 微分積分学の基礎を学ぶことになる。便宜上, 微分積分学 I においては, 主として微分法を, 微分積分学 II においては, 積分法を学ぶ。主な項目は, 1. 微分法 2. 初等関数の微分 3. 高階導関数 4. 平均値の定理 5. テイラーの定理 6. 偏微分法 7. 2 変数関数の合成関数の微分 8. 2 変数関数のテイラーの定理

【キーワード】 微分, 積分, 偏微分法

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 II』(0.5, ⇒218 頁)

【到達目標】 高等学校の微積分の知識を広げ, 基本的な初等関数の微分計算が確実に出来, 初等関数の級数展開と多変数関数の微分の意味を理解できる。

【授業の計画】 1. 数学的準備, 実数 2. 極限值と連続関数 3. 導関数と微分法の公式 4. 初等関数の微分 1 5. 初等関数の微分 2 6. 高階導関数 7. ライブニッツの公式 8. 平均値の定理 1 9. 平均値の定理 2 10. テイラーの定理 1 11. テイラーの定理 2 12. 2 変数関数の極限值と連続性 13. 偏微分法と全微分 14. 合成関数の微分 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習, 復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180879>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日 12:00-12:45)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

Linear Algebra 1

(工 (光))
小野 公輔 准教授
2 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 行列の演算、行列の基本変形、行列式の計算方法について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 線形代数学

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(0.5, ⇒219 頁)

【到達目標】 行列、行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に応用できる。

【授業の計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じて適宜その内容および進度に変更を加える。数について 2. 行列 1 3. 行列 2 4. 行列の演算 5. 正則行列 6. 行列のべき 7. 行列の基本変形 8. 逆行列の求め方 9. 連立 1 次方程式 10. 同次連立 1 次方程式 11. 行列式 12. 行列式の性質 13. 行列式の展開公式 14. 行列式の応用 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 「理工系の線形代数学入門」 守安一峰・小野公輔 共著 (サイエンス社)

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、期末試験、提出物などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験は、もう一度吟味を有する学生に対してのみ行う。

【受講者へのメッセージ】 再試験は、もう一度吟味を有する学生に対してのみ行う。遅刻は欠席扱いとする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180898>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 1225 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:月曜日昼休み時間 総合科学部 1 号館南棟 2 階 1225 室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

Calculus 1

(工 (光))

片山真一 教授

2 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は科学技術の基礎として必要な数学のその 1 番の基本の 1 つである。本講義では、微分積分学の微分の部分に重点を置いて学ぶ。また後期の微分積分学 II では、積分に重点を置いて学ぶ。本講義では、基礎概念の把握し た上で、計算法に習熟することを目的とする。

【授業の概要】 高校で学習した 1 変数の微分法を理論的に深め、その計算法、応用について講義する。さらに、2 変数の関数の微分法と応用を講義する。

【キーワード】 連続関数、1 変数関数の微分、多変数関数の微分

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 II』(0.9, ⇒219 頁), 『基礎物理学/基礎物理学 f・力学概論』(0.5, ⇒117 頁)

【到達目標】 微分学についての基礎概念を理解し、極限、微分、偏微分の計算ができること。

【授業の計画】 1. 三角関数と指数関数 2. 極限 3. 連続関数 4. 1 変数関数の微分 5. 平均値の定理 6. テーラーの定理 7. テーラー展開 8. 2 変数関数の極限 9. 偏微分 10. 高次偏導関数 11. 全微分可能性 12. 合成関数の微分、テーラーの定理 13. 2 変数関数の極値 (1) 14. 2 変数関数の極値 (2) 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書:小竹・天羽共著 「初等微積分」 牧野書店

【成績評価の方法】 随時行うレポートの提出内容および期末試験をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180875>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日: 16:20時-17:20時)

5.2 《基礎物理学》 (Basic Physics)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 I・物理学概論
General Physics I

(医 (医))

浦西 佐々也・非常勤講師

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 自然科学を理解する上で必要な力学, 特に古典力学を中心とする基礎的な知識, 考え方を修得し, 生命を含めた自然現象の理解をより容易にし, より深く, 専門教育の基礎となることを目的とする。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートンの運動法則からどの様に物体の運動を説明できるのか, その理論と方法を修得し, その過程で導かれる種々の物理概念, 例えば, 運動量, 仕事, 力学的エネルギー, 角運動量, 力のモーメント等について考察を加える。

【キーワード】 古典力学, 運動の 3 法則, 運動方程式, 釣り合い, 仕事, 力学的エネルギー

【関連科目】 『自然と技術/身のまわりの物性科学』(0.5, ⇒37 頁), 『基礎数学/微分積分学』(1.0, ⇒109 頁)

【到達目標】

1. 運動方程式を記述し, 物体の簡単な運動を解明する方法を修得する。
2. 力積と運動量及び作用反作用の法則と運動量保存則の関係を理解する。
3. 仕事, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギーの関係を理解し応用力を付ける。
4. 角運動量と力のモーメントの関係をベクトル量として理解する。
5. 剛体のつり合い, 剛体の平面運動を運動方程式から解明できる。
6. 位置エネルギーと保存力との関係を理解する。

【授業の計画】 1. ベクトル量としての力, 位置, 変位, 速度, 加速度 2. 大きさを無視した物体のつり合い 3. 大きさがある物体のつり合い 4. 物体の位置, 速度, 加速度 5. 運動の 3 法則 6. 物体の重さと束縛力, 束縛運動 7. 運動の解明の一般的な方法 1: 一様な重力による運動 8. 運動の解明の一般的な方法 2: 速度に比例する抵抗力による運動 9. 運動の解明の一般的な方法 3: 変位に比例する復元力による運動 10. 接線加速度と法線加速度:円運動, 単振り子 11. 仕事と仕事率, 運動エネルギー 12. 保存力による仕事と位置エネルギー 13. 運動量変化と力積, 運動量保存則 14. 角運動量と力のモーメント, 剛体の平面運動 15. 学期末テスト 16. まとめ

【教科書】 『詳解物理学』, 原 康夫著, 東京教学社, 2002 年, 2310 円 (本体 2200 円)

【参考書等】

- ◇ 物理入門コース「力学」, 戸田盛和著, 岩波書店
- ◇ 岩波新書「人物で語る物理入門 上, 下」, 米沢富美子著, 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストに小テスト, レポート, 演習点を加味する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 暗記よりも理解である。そのためには, 前回の授業内容をよく理解しておくことが必要である。理解の一助として小テストをできる限り行う。高校での物理の未履修者は, 高校のテキストを通読しておくことをお勧めする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180938>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 浦西。(オフィスアワー: 火曜日PM3:00~ 総合科学部3号館2階 東実験準備室)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論
Mechanics

(医 (放))

真岸 孝一・准教授

2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 身の周りのいろいろな現象に対する物理学的なものの方とそれらを数学的に取り扱う力を養うための方法として, ニュートン力学を学ぶ。力学は, ほかのさまざまな分野の現象や法則を理解するための基礎を与えるものが多く, その方法論は最も基本となる。

【授業の概要】 まず, 運動の法則を解説し, 運動方程式を用いて種々の運動を解く。特に重力による物体の運動を理解する。さらに, 運動の保存量であるエネルギー・運動量・角運動量を導入し, その保存則を用いて運動を解く方法を, 例題を用いて解説する。

【キーワード】 古典力学, 運動方程式, 力学的エネルギー保存則, 運動量保存則

【先行科目】 『大学入門講座/大学入門講座 (医・保健)』(1.0, ⇒4 頁)

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学』(0.5, ⇒109 頁)

【到達目標】

1. 運動方程式を用いて物体の運動を理解する。
 2. 運動の保存量を用いて物体の運動を理解する。
- 【授業の計画】** 1. 質点と座標系, ベクトル 2. 位置, 速度, 加速度 3. 運動の法則 4. 質点の簡単な運動 5. 仕事とエネルギー 6. 力学的エネルギー保存則 7. いろいろな振動 8. 中間試験 9. 中心力を受ける質点の運動 10. ケプラー法則と万有引力 11. 質点系の運動 12. 質点系の全角運動量と回転運動 13. 剛体の運動 14. 相対運動 15. 学期末試験 16. 総括授業

【教科書】 河辺哲次著「スタンダード力学」裳華房 2006 年 2,100 円
【成績評価の方法】 中間試験, 学期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などを元に総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中でもオフィスアワーの時間でも, 質問や討論をおおいに歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180928>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日 12-13時(これ以外に随時, 教員室に居ればできるだけ対応します。))

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 I・物理学概論
General Physics I

(歯 (歯))

浦西 佐々也・非常勤講師

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 自然科学を理解する上で必要な力学, 特に古典力学を中心とする基礎的な知識, 考え方を修得し, 生命を含めた自然現象の理解をより容易にし, より深く, 専門教育の基礎となることを目的とする。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートンの運動法則からどの様に物体の運動を説明できるのか, その理論と方法を修得し, その過程で導かれる種々の物理概念, 例えば, 運動量, 仕事, 力学的エネルギー, 角運動量, 力のモーメント等について考察を加える。

【キーワード】 古典力学, 運動の 3 法則, 運動方程式, つり合い, 仕事, 力学的エネルギー

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学』(1.0, ⇒109 頁), 『自然と技術/身のまわりの物性科学』(0.5, ⇒37 頁)

【到達目標】

1. 運動方程式を記述し, 物体の簡単な運動を解明する方法を修得する。
2. 力積と運動量及び作用反作用の法則と運動量保存則の関係を理解する。
3. 仕事, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギーの関係を理解し応用力を付ける。
4. 角運動量と力のモーメントの関係をベクトル量として理解する。
5. 剛体のつり合い, 剛体の平面運動を運動方程式から解明できる。
6. 位置エネルギーと保存力との関係を理解する。

【授業の計画】 1. ベクトル量としての力, 位置, 変位, 速度, 加速度 2. 大きさを無視した物体のつり合い 3. 大きさがある物体のつり合い 4. 物体の位置, 速度, 加速度 5. 運動の 3 法則 6. 物体の重さと束縛力, 束縛運動 7. 運動の解明の一般的な方法 1: 一様な重力による運動 8. 運動の解明の一般的な方法 2: 速度に比例する抵抗力による運動 9. 運動の解明の一般的な方法 3: 変位に比例する復元力による運動 10. 接線加速度と法線加速度:円運動, 単振り子 11. 仕事と仕事率, 運動エネルギー 12. 保存力による仕事と位置エネルギー 13. 運動量変化と力積, 運動量保存則 14. 角運動量と力のモーメント, 剛体の平面運動 15. 学期末テスト 16. まとめ

【教科書】 『詳解物理学』, 原 康夫著, 東京教学社, 2002 年, 2310 円 (本体 2200 円)

【参考書等】

- ◇ 物理入門コース「力学」, 戸田盛和著, 岩波書店
- ◇ 岩波新書「人物で語る物理入門 上, 下」, 米沢富美子著, 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストに小テスト, レポート, 演習点を加味する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 暗記よりも理解である。そのためには, 前回の授業内容をよく理解しておくことが必要である。理解の一助として小テストをできる限り行う。高校での物理の未履修者は, 高校のテキストを通読しておくことをお勧めする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180939>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 浦西。(オフィスアワー: 火曜日 PM 3.00 ~ 総合科学部3号館2階 東実験準備室)

基礎物理学 (Basic Physics)

力学及び熱力学
Mechanics and Thermodynamics

(薬 (薬))

日置 善郎・教授

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 物理学の中でも、化学と最も密接な関係にある熱力学の基本的部分を解説するのが、本講義の目的である。

【授業の概要】 前半では、熱力学学習の基礎となる力学を、必要項目的を絞って解説し、後半において、それを土台としてエネルギー、エントロピーという重要な概念を中心に熱力学へと話を進めていく。

【キーワード】 ベクトル、運動方程式、運動量保存則、力学的エネルギー保存則、熱力学第1法則、熱力学第2法則、カルノーサイクル、熱力学的絶対温度、エントロピー増大則

【関連科目】 『高大接続科目/物理学』(0.5, ⇒9 頁)

【到達目標】 高校時代に養った(?)物理学に対する苦手意識を克服し、少数の基本法則から種々の現象を理解する物理学、特に熱力学の体系の基本的な構成を理解できるようになること、化学の中に現れる熱力学の諸法則に戸惑わないようになること。

【授業の計画】 1. 数学的準備(その1) 2. 数学的準備(その2) 3. 力学の基本法則 4. 力学的エネルギー保存則 5. 中間試験 6. 温度と熱 7. 熱力学第1法則(その1) 8. 熱力学第1法則(その2) 9. 熱力学第1法則(その3) 10. 熱力学第2法則(その1) 11. 熱力学第2法則(その2) 12. 熱力学第2法則(その3) 13. エントロピー(その1) 14. エントロピー(その2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『基礎物理学(力学・熱力学)』(自製テキスト:講義開始時に説明)

【参考書等】

- ◇ 参考書 1: 戸田盛和『熱・統計力学』岩波書店、
- ◇ 参考書 2: 朝永振一郎『物理学とはなんだろうか(上・下)』岩波書店

【成績評価の方法】 小テスト・中間試験(力学)・期末試験(熱力学)の結果と受講態度を総合して評価する。

【再試験の有無】 有(但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者のメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、しかしそのような予備知識は前提としない。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180926>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 日置(総合科学部3号館1N04号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11時50分~13時 総合科学部3号館)

⇒ 日置(総合科学部3号館1N04号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論

Mechanics

(工(機))

中山信太郎 教授

2単位 前期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き、力学の基本原則と考え方を学ぶ。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な3法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し、その考え方を身につける。

【キーワード】 速度・加速度、運動方程式、初期条件、エネルギー、運動量と角運動量

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し、運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て、微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際、初期条件の意味を理解する。
3. 多体系および剛体の運動を扱う方法を学び、運動量、角運動量および力のモーメントなどについて理解する。

【授業の計画】 1. 数式と関数 2. 三角関数とベクトル 3. 微分と積分 4. 物理学とは 5. 力学の基本 6. 運動の表し方 7. 運動の法則 8. 等速円運動 9. 力と運動 10. 仕事とエネルギー 11. 慣性の力 12. 質点の回転運動 13. 剛体のつり合い 14. 剛体の回転運動 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 自作テキスト、生協で販売予定

【参考書等】 岩波物理入門コース「力学」 戸田盛和著 岩波書店

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、小テスト、期末試験などによる。

【再試験の有無】 小テストが一定レベルに達しているものは再試験を認める
【受講者のメッセージ】 私語、居眠り、ガムを噛みながらの聴講は厳禁である。真剣に勉強する気が見受けられない学生には単位を出さない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180930>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山(1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時、質問に応じる。水曜日16:30~17:30スタジオで質問に応じる。)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論

Mechanics

(工(化))

中村浩一 講師/工学部

2単位 前期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得する。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】 質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し、基本的な力学現象にそれを適用することにより、その運動を理解する。次いで、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則を概観する。

【キーワード】 ニュートンの運動法則、力学的エネルギー、運動量、角運動量

【関連科目】 『基礎物理学/基礎物理学 g・電磁気学概論』(0.5, ⇒220 頁)

【到達目標】

1. 力という抽象的概念及びニュートンの運動方程式を理解する
2. 仕事、運動エネルギー、保存力とポテンシャルエネルギーの関係、及び力学的エネルギーの保存則について理解する
3. 運動量とその保存則、また回転運動を角運動量、トルクという物理量で捉える方法について理解する

【授業の計画】 1. はじめに、測定 2. 直線運動 3. ベクトル 4. 2次元と3次元の運動 5. 力と運動 I 6. 力と運動 II 7. 運動エネルギーと仕事 8. ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存 9. 中間試験 10. 粒子系 11. 衝突 12. 回転 13. 転がり、トルク、角運動量 14. 演習 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 D. ハリディほか 物理学の基礎 [1] 力学 (培風館)

【参考書等】 R.A. サウウェイ 科学者と技術者のための物理学 Ia 力学・波動 (学術図書)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論

Mechanics

(工(建))

日置善郎 教授

2単位 前期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 力学は現代科学の基礎である物理学の出発点である。この講義の目的は、その力学の基本的な構成をわかりやすく解説することである。

【授業の概要】 力学を記述するために必要なベクトルおよびその微分積分を整理し、力学の基礎である運動の法則を学ぶ。次にその応用を通じて理解を深め、力学的エネルギー保存則へと話を進める。続いて、角運動量とそれを土台とした惑星の運動を扱ったのち、より現実的な題材である多体系および剛体の力学の初歩を解説する。

【キーワード】 ベクトル、運動の法則、運動方程式、運動量保存則、力学的エネルギー保存則、角運動量保存則、剛体

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学』(0.5, ⇒109 頁)、『高大接続科目/数学』(0.5, ⇒9 頁)、『高大接続科目/物理学』(0.5, ⇒9 頁)

【到達目標】

1. 運動方程式を理解し、その簡単な応用が出来るようになること。
2. 運動量、力学的エネルギー、角運動量とその保存則について理解すること。
3. 多体系および剛体の運動を扱う基本的な方法を理解すること。

【授業の計画】 1. 物理量とベクトル 2. 運動の法則 3. 運動量保存則・力積 4. 自由落下(空気抵抗のない場合) 5. 自由落下(空気抵抗がある場合) 6. 放物運動 7. 単振動 8. 仕事とエネルギー 9. 偏微分と全微分 10. 力学的エネルギー保存則 11. ベクトル積(外積)と角運動量 12. 角運動量保存則 13. 惑星の運動 14. 多体系と剛体の力学 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 自製テキスト使用(詳しい説明は第1回目に行う)

【成績評価の方法】 レポート・小テスト・受講態度・期末試験を総合して判定する。詳しい説明は第1回目の講義において行う。なお、言うまでもないことだが、講義中の私語・携帯電話の使用などは厳禁する。これが守れない受講者は、その時点までの成績には一切無関係に、その場で再受講とする。

【再試験の有無】 有(但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者のメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、しかしそのような予備知識は前提としない。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180929>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

【成績評価の方法】 中間試験，期末試験，授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 公式を暗記するのではなく，力やエネルギーという抽象的な概念を理解することが肝心である。教科書には独習できるように，丁寧に書かれた本を選定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180933>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (A216, 088-656-7577, koichi@pm.tokushima-u.ac.jp)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論

Mechanics

(工 (生))

浦西 佐々也 非常勤講師
2 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学，特にニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。力学の基本原則と考え方を学ぶことにより，自然の力学現象・物理法則の理解がより容易となることを願う。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し，その考え方を身につける。

【キーワード】 運動方程式，運動の 3 法則，運動エネルギー，位置エネルギー，仕事，釣り合い

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒111 頁)，『基礎数学/線形代数学 I』(0.5, ⇒113 頁)

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し，運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て，微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際，初期条件の意味を理解する。
3. 仕事と運動エネルギー，位置エネルギーの関係，力学的エネルギーの増減との関係を理解する。

【授業の計画】 1. 力とベクトル 2. 大きさを無視した物体，大きさがある物体の釣り合い 3. 速度と加速度 4. ニュートンの運動の法則 5. 運動方程式 6. 一様な重力など一定の力の下での運動 7. 速度に比例する抵抗力がある場合の運動 8. 変位に比例する復元力がある場合の運動 9. 接線加速度と法線加速度 10. 円運動，単振り子，エネルギー積分 11. 仕事と運動エネルギー 12. 仕事と位置エネルギー，力学的エネルギーの変化 13. 力積と運動量変化 14. 力のモーメントと角運動量の変化，剛体の平面運動 15. 学期末試験 16. まとめ

【教科書】 『物理学』3 訂版，小出昭一郎著，裳華房，2310 円 (本体 2200 円)

【参考書等】 岩波物理入門コース「力学」，戸田盛和著，岩波書店

【成績評価の方法】 演習，レポート，小テスト:30%，期末テスト:70%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 暗記よりも理解である。そのためには，前回の授業内容をよく理解しておくことが必要である。理解の一助として小テストをできる限り行う。高校での物理の未履修者は，高校のテキストを通読しておくことをおすすめする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180934>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 浦西佐々也 (オフィスアワー: 火曜日PM3:00~ 総合科学部3号館 2階東南実験準備室)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論

Mechanics

(工 (電))

中山 信太郎 教授
2 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き，力学の基本原則と考え方を学ぶ。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し，その考え方を身につける。

【キーワード】 速度・加速度，運動方程式，初期条件，エネルギー，運動量と角運動量

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し，運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て，微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際，初期条件の意味を理解する。
3. 仕事，運動エネルギー，位置エネルギーおよび力学的エネルギー保存則などについて理解する。
4. 多体系および剛体の運動を扱う方法を学び，運動量，角運動量および力のモーメントなどについて理解する。

【授業の計画】 1. 数式と関数 2. 三角関数とベクトル 3. 微分と積分 4. 物理学とは 5. 力学の基本 6. 運動の表し方 7. 運動の法則 8. 等速円運動 9. 力と運動 10. 仕事とエネルギー 11. 慣性の力 12. 質点の回転運動 13. 剛体のつり合い 14. 剛体の回転運動 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 自作テキスト，生協で販売予定

【参考書等】 参考書岩波物理入門コース「力学」戸田盛和著 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストのほか小テストによる演習および授業参加状況などを総合して評価する。

【再試験の有無】 小テストが一定レベルに達していれば再試験を認める。

【受講者へのメッセージ】 私語，居眠り，ガムをかみながらの聴講は厳禁である。真剣に勉強する気が見受けられない学生には単位を出さない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180931>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16:30~ 17:30スタジオで質問に応じる)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論

Mechanics

(工 (光))

岸本 豊 教授/工学部
2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得するとともに，応用能力を身に付けることを目的とする。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】 質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し，基本的な力学現象にそれを適用することにより，その運動を理解する。次いで，運動量，力学的エネルギー，角運動量の保存則を概観する。また，質点系の運動をもとに剛体の運動についての数学的記述を概観する。

【キーワード】 ニュートンの運動法則，運動量，力学的エネルギー，質点系の運動，剛体の運動

【到達目標】

1. ニュートンの運動方程式を理解する。
2. 運動量，角運動量，力学的エネルギーについて理解する。
3. 質点系および剛体の運動について理解する。

【授業の計画】 1. 運動の表し方と数学的基礎 2. 基本的な運動 3. 運動法則 4. 基本的な力と運動 I—自由落下 5. 基本的な力と運動 II—放物運動 6. 基本的な力と運動 III—単振動 7. 基本的な力と運動 IV—万有引力 8. 基本的な力と運動—補足 9. 力学的エネルギー保存則 10. 質点の運動 I—質量中心と相対座標，運動量保存則 11. 質点の運動 II—角運動量と中心力 12. 質点の運動 III—角運動量保存則 13. 剛体の運動と慣性モーメント 14. 剛体の運動まとめ 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 近藤 淳著，力学，裳華房

【成績評価の方法】 レポート+期末試験 (70%)，および授業への取り組み状況 (30%) により総合的に評価する。

【受講者へのメッセージ】 基本的な力学現象を中心にさまざまな法則などが導かれる過程に重点を置き，初歩的な微積分学による数学的な記述を交えながら話を進める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180932>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸本 (A 棟 202, 088-656-7548, yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 16:00-17:30)

5.3 《基礎化学》 (Basic Chemistry)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 I・生化学の基礎

Basic Chemistry I: Biochemistry

(医 (医))

佐々木 卓也・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 生化学は複雑な生命現象や臨床的諸問題を分子レベルで解明しようとする学問である。最近の生命科学、特に生化学分野の進歩は目覚ましく、これまでに蓄積されてきた膨大な量の知識、情報を限られた時間内で学習することは残念ながら不可能に近い。したがって、学生はこの授業をきっかけとして自主的な学習を行う習慣を身につけて欲しい。この授業では、学生が生化学の基本的な事実と理論をまず学習し、医学部学生として必要な最低限の知識を習得することを目的とする。

【授業の概要】 現在、特に大学病院等の高度医療を行う病院では、単に患者さんを診るだけでなく、疾病の病態を分子レベルで理解し、診断や治療につなげることができる医師が必要とされている。そのためには、この時期に基礎学問 (化学、生物学、物理化学、生化学、細胞生物学等) をしっかり学習しておくことがいかに重要かを意識できるような講義にしたい。

【キーワード】 化学、生物

【到達目標】

1. 生命現象を分子レベルで理解するため、次の基本事項を理解し、身につける。
2. 化学構造式と生体分子の構造 (詳しくは基礎化学 IIA-IIB で学習する)
3. 基礎となる化学、物理化学の知識
4. 蛋白質の構造と機能、特に酵素と触媒機能
5. 主要な代謝経路とその調節機構

【授業の計画】 1. 生化学と医学 2. 細胞 3. アミノ酸・ペプチド・タンパク質 4. 酵素 5. 糖質 6. 糖質の代謝 7. 好氣的代謝 8. 脂質と膜 9. 脂質の代謝 10. 窒素の代謝 I 11. 窒素の代謝 II 12. 核酸 13. 遺伝情報 14. タンパク質の合成 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 イラストレイテッドハーバー生化学 (原著 27 版) 丸善

【参考書等】

- ◇ レーニンジャーの生化学 (上、下) (第 4 版) 廣川書店
- ◇ マッキー生化学 第 3 版 化学同人
- ◇ Essential 細胞生物学 (原著 第 2 版) 南江堂

【成績評価の方法】 レポート、小テスト、および学期末試験で評価する

【再試験の有無】 100 点満点で 60 点未満の者は 1 回だけ再試験を行う

【受講者のメッセージ】 医学部に入ってもすぐに医者にはなれませんが、医学の勉強は 1 年生からでも自分ひとりでできるはず。そういう「つわもの」になってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180857>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐々木 (088-633-9223, sasaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも、ただしあらかじめメールに用件 (質問事項等) を書くとともに、時間のアポイントをとること、場所は医学部基礎A棟2階 (分子病態学教室))

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 II・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)

Organic Chemistry

(医 (栄))

増田 晃子・非常勤講師
2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 有機化学は生命体から得られる物質を扱う学問として始まり、現在ではひろく炭素化合物の化学と定義されている。分子レベルで考えると、食物やそれらが摂取される生体の生命現象は「有機物質とその反応」として理解できる。栄養学を専攻するにあたり有機化学を基礎学問として身につけることが望まれる。

【授業の概要】 以下の内容について講義を行う予定である。～ 有機化合物の構造・有機化合物の分類と命名法・有機化合物の性質と反応機構・食品成分、生体成分の有機化学～ 教科書に沿って進めるが講義にて内容を補充する。また有機化合物の構造や反応の学習のために演習を行う。

【キーワード】 有機化学、構造、反応、化合物

【関連科目】 『基礎化学実験/基礎化学実験』(0.5, ⇒224 頁), 『基礎化学/基礎化学 I・物理化学 (化学平衡と反応速度論)』(0.5, ⇒223 頁)

【到達目標】

1. 有機化合物の構造式、命名法を理解する。
2. 有機化合物の性質と反応機構の基礎を理解する。
3. 食品成分や生体成分を分子レベルでとらえ、その性質を有機化学の知識を基に理解する。

【授業の計画】 1. 有機化学の基本概念 2. 原子の構造 3. 化学結合論① 4. 化学結合論② 5. 有機化合物の構造 6. 有機化合物の炭素骨格①アルカン 7. 異性体 8. 有機化合物の炭素骨格②アルケン、アルキン 9. 有機化合物の炭素骨格③芳香族化合物 10. 小テスト 11. 官能基の化学①アルコール、フェノール 12. 官能基の化学②アルデヒド、ケトン 13. 官能基の化学③カルボン酸 14. 官能基の化学④カルボン酸誘導体⑤アミン 15. 学期末試験 16. 総括授業 17. ※以上は予定であり進行上変更することがある。

【教科書】 熊谷 仁, 熊谷 日登美, 大熊 恵美子著 「栄養学・食品学を学ぶ人のための初歩の有機化学」 アイ・ケイコーポレーション

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、授業への取り組みから評価する。

【再試験の有無】 原則として無

【受講者のメッセージ】 現時点で化学が得意でも苦手でも、まず取り組んでください。授業の初回に注意事項を話します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180863>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 増田 (オフィスアワー: 授業後に対応します。)

基礎化学 (Basic Chemistry)

化学の基礎

Basic Chemistry

(医 (放検))

菊池 淳・助教/総合科学部

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 私たちの周りには化学物質が満ち溢れている。また、全ての物質が原子や原子が結合した分子で構成されている。これら物質について、その構造や性質の理解を深めるためには、私たちが化学的知識を持つことが不可欠である。この授業では、化学の基礎を学び、化学結合が物質の構造、反応、性質に直接関係していることを学ぶ。また、物質の状態変化や化学反応に伴うエネルギーや有機化合物の性質や特徴について学び、化学物質についての理解を深めることを目的としている。

【授業の概要】 指定教科書を中心とした講義を行う。物質科学の視点から化学をとらえ、高等学校で履修した基礎理論などを実際に使える知識として完成させる。物質の分類、物質を構成する原子と分子、元素、分子結合理論、物質の状態、物質の変化 (反応平衡と速度)、基礎的有機化学の基礎 (酸・塩基、酸化・還元など)、有機化学の基礎 (の講義をする。なお、講義は予習・復習を前提として行い、講義の理解度を確保するために小テストも数回行う。

【キーワード】 原子、分子、元素、化学反応

【到達目標】

1. 原子・分子の構造について理解すること。
2. 化学反応式の意味を理解する
3. 医薬品に代表される有機化合物の性質について知る

【授業の計画】 1. 物質と人類の発展 (物質科学への招待) 2. 物質を構成する粒子 元素と原子 3. 原子の電子配置と周期表 4. 分子と私たち 5. SI 単位と計算 6. 物質の状態 (気体の状態方程式 1) 7. 物質の状態 (気体の状態方程式 2) 8. 化学反応式が教えてくれること (化学量論) 9. 化学反応式が教えてくれること (反応熱と平衡) 10. 酸と塩基 11. 酸化と還元 12. 有機化学 (もう一度結合論、電子論) 13. 有機化学 (芳香族) 14. 有機化学 (脂肪族) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書: 基礎物質科学 三共出版 2,400 円

【成績評価の方法】 期末試験 (60%), 小テスト (30%), 授業への取り組み (10%) で評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業で出てくる化学の専門用語は、化学における常識的なものである。予習・復習でよく理解すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180852>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 菊池 (mkikuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 17時~18時 総合科学部3号館2階2N09号室)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) (歯 (歯 2))

Basic Bio-organic Chemistry

増田 俊哉 教授

1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 生体成分に関する化学的事項を整理することで、全員が同じ知識バックグラウンドを有するようになること。これにより、受講生が今後の専門教育へスムーズに対応できるようになることを目的とする。

【授業の概要】 主要生体成分である糖質、たんぱく質 (含、アミノ酸、ペプチド)、脂質、核酸 (概略のみ) についてその化学構造、反応性など基

礎的な事項を厳選して講義する。また理解を確実にするために、できる限り小テスト等を行う。

【キーワード】 糖質の化学、たんぱく質の化学、脂質の化学、核酸の化学
【先行科目】 『基礎化学/基礎化学ⅡA・有機化学(ライフサイエンスの基礎)』(1.0, ⇒223頁)

【関連科目】 『基礎化学実験/基礎化学実験』(0.5, ⇒120頁)

【到達目標】 糖質の化学:単糖の化学、オリゴ糖の化学を理解する。たんぱく質の化学:アミノ酸の化学、ペプチドの化学の基礎ならびに立体化学を理解する。脂質の化学:脂肪酸の化学、中性脂肪の化学、リン脂質の化学の基礎を理解する。核酸の化学:塩基の化学、ヌクレオチドの化学の基礎を理解する。なお、理解したことを化学的に説明できることを要求する。

【授業の計画】 1. 講義内容の説明、生体物質理解のための有機化学の復習 2. 糖質の化学 1 3. 糖質理解のための立体化学 4. 糖質の化学 2 5. 糖質の化学 3 6. 糖質の化学 4 7. アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の化学 1 8. アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の化学 2 9. アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の化学 3 10. アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の化学 4 11. アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の化学 5 12. 脂質の化学 1 13. 脂質の化学 2 14. 核酸の化学 15. 期末試験 16. 総括(期末試験の解説など) 17. 以上は計画です。核酸の化学の説明まで至らないこともあります。

【教科書】

- ◇ 樹林・秋葉著『新版 ライフサイエンスの有機化学』三共出版 2004年 2,900円
- ◇ 講義は、テキストの内容の選択および補充を前提に行いますが、理解を深めるためにテキスト中の図表を参照使用する予定です。旧版でもかまいませんので入手してください。復習時の参考書ともなります。

【成績評価の方法】 特別な理由のない限り講義に出席することを前提に、期末テストの成績で評価する。

【再試験の有無】 相談の上、行うこともあります。

【受講者へのメッセージ】 この講義は試験の合格基準を厳密に当てはめるので注意が必要。不合格者は歯学部基準が変わらなければ留年となる可能性があります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180861>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244,) (オフィスアワー: 前期:水曜日 12時~13時 総合科学部3号館2階)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学Ⅰ・物理化学(平衡と反応速度) (歯(歯))

Basic Chemistry and Physical Chemistry(Equilibrium and Reaction Velocity)

村田 勝夫・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎化学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 歯学部の学生が、化学反応熱、化学平衡、結合エネルギー、相律等について熱力学的に理解できること。また、酵素反応を含め化学反応速度論についても理解を深めることを目的とする。そして、熱力学と反応速度が自然界の物質変化を理解するうえで重要な柱となっていることを認識してもらう。

【授業の概要】 化学の中でも物理化学は、化学の基本となる法則や理論を学ぶ分野であり、化学の本質を理解するためには必要不可欠である。初めにSI単位を紹介する。量子論や化学結合論は、重要ではあるが割愛する。ここでは理想気体や実在気体の性質、熱力学第1法則・第2法則、自由エネルギーと相律、そして気体や液体の化学平衡と1次反応・2次反応の反応速度論などを中心に講義する。

【到達目標】

1. 熱力学を通して化学平衡が理解できるようにすること。
2. 熱力学を基礎として、相律や溶液に関する法則を理解すること。
3. 反応速度を支配する因子を理解し、一般の複雑な反応をどのように解釈するかを理解すること。

【授業の計画】 1. SI単位系 2. 理想気体の性質 3. 気体分子運動論 4. 熱力学第1法則 5. 内部エネルギー、エンタルピー 6. 熱力学第2法則、エントロピー 7. 自由エネルギー 8. 理想溶液の自由エネルギー、一般の溶液の自由エネルギー 9. 相律と相平衡 10. 固体、溶液、実在気体の自由エネルギーと活動度との関係 11. 電気化学、電離平衡等について熱力学的に検討 12. 化学反応速度の反応次数 13. 速度定数、活性化エネルギー 14. 連続反応、連鎖反応、酵素反応 15. 期末試験 16. 総括講義

【教科書】 真下清、鈴鹿敢、沼田靖、山田和典 著『物理化学入門』東京教学社

【成績評価の方法】 主に小テストと期末テストで評価。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 期末テストだけでなく、小テストも時々行うので欠席はしないこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180856>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村田 (オフィスアワー: vision2owater@yahoo.co.jp)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学Ⅰ・電子と有機化学 (薬(薬))

Basic Chemistry. Electron in Organic Chemistry

根本 尚夫・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『基礎化学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 有機化学を理解するにあたり、必要な屈曲や規則の基礎を解説する。

【授業の概要】 身の回りの物の化学構造は?、これとこれを混ぜるとどうしてこういう化学反応が起こるの?、炭素原子で出来ている分子の形はどうしてこうなるの?、といった事を、「厳密さ」より、「わかりやすい臨場感」に重きをおいて話をすすめる。

【キーワード】 電子の矢印、8電子則、s軌道 p軌道、化学反応の基礎

【到達目標】 暗記と誤解されるふしのある「化学」が屈曲で整理できるということを実感すること。有機化学が好きなのはもつと好きに、嫌いな人もそれなりの愛着と必要性を感じるようにすること。特に必須の薬学部の学生は、今後の有機化学の授業についていくための基礎を固めること。以上が目標となる。

【授業の計画】 1. 電子の表記法と化学反応に伴う電子の移動 2. sp, sp², sp³ 混成軌道 3. 椅子型シクロヘキサン(アキシシャル・エクソトリアル) 4. ジグザグ構造の書き方 5. 命名の基本 6. 上記内容を14回の授業で行い、15回目に期末試験、16回目に総括授業を行う

【教科書】

- ◇ 教科書:ボルハルト・ショアー現代有機化学の上巻(第1章~第4章)
- ◇ 参考書:特になし。教科書に無い点として、化学反応の電子の矢印を詳しく解説する。

【成績評価の方法】 学期末の試験と出席

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 有機化学は暗記でなく、理詰めでわかる事を実感して欲しい。それが高校までの化学の授業とひと味違う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180858>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 根本 (088-633-7284, nem@ph.tokushima-u.ac.jp)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学Ⅰ・化学結合論 (工(生))

Basic Chemistry : Theory of Chemical Bonding

武田 清・助教授/鳴門教育大学

2単位 前期 火 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎化学』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 化学結合は、物質の構造や物性、化学変化を、微視的な立場から理解するための基礎となる。本授業では量子力学に基づく化学結合論への入門的講義を通して、原子・分子の性質を、電子状態に基づいて理解する上で必要となる基礎概念の定着を目的とする。

【授業の概要】 前半は、高等学校化学の復習から始め、量子力学的粒子像を簡単に紹介した後に原子の電子配置についての講義を行う。後半は、分子の電子配置および簡単な分子の構造について、原子軌道に基づき、定性的に説明する。

【キーワード】 化学結合、電子配置、原子の構造、分子構造

【関連科目】 『量子力学』(0.5), 『有機化学Ⅰ』(0.5)

【到達目標】

1. 物質の波動性の意味を理解し、原子の電子配置について説明できること。
2. 簡単な分子の電子状態、および分子構造について、定性的に説明できること

【授業の計画】 1. 自然科学の諸分野と化学、化学結合と物質の多様性 2. 水素原子のエネルギースペクトル、リュドベリの式とボーアモデル 3. 光の波動性と粒子性、ド・ブローイの物質波 4. 物質波の方程式とその意味するもの 5. 水素原子のシュレーディンガー方程式とその解 6. 水素原子の電子状態と原子軌道の形 7. 多電子原子のエネルギー準位と電子配置 8. 分子軌道と等核二原子分子 9. 異核二原子分子と電気陰性度 10. 多原子分子の構造(その1)-中心原子の電子配置と分子構造 11. 多原子分子の構造(その2)-混成軌道 12. 単結合と多重結合、結合次数、共役二重結合 13. 配位結合と金属錯体の構造、分散力と分子間相互作用 14. 結合エネルギーと熱化学 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 池田憲昭他「化学序説 第4版」学術図書出版

【参考書等】

- ◇ 野村浩康他「大学化学への入門—演習問題を中心に—」学術図書出版 (2006)
- ◇ 柴田茂雄「コンピュータグラフィックスによる物理化学の理解」丸善 (2001)

【成績評価の方法】 期末試験 (50%), 小テスト 3 回 (30%), 授業への取り組み (20%)

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 大学化学では、高等学校化学で学ぶものとは、まったく異なる考え方が多数現れます。電子の波動性などはその典型です。そのような新しい考え方には少しづつ慣れる以外に方法はありません。授業では高校化学での考え方との違いを強調しつつ進めます。その中で、意味のわからないことがある場合は、その場その場での発言・質問を奨励します。一人ひとりが疑問に思うことは、しばしば教室にいる受講者の多くが疑問に思っていることです。

【WEB 頁】 http://ostwald.naruto-u.ac.jp/takeda/class/ut_baschem/

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180854>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 武田 (E-mail: takeda@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーはありません。質問は授業中もしくは授業終了直後にしてください。Eメールでの質問も受け付けます。ただし Yes-No で答えられるような単純な質問以外は、携帯電話のアドレスを使わないでください。)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 i・化学結合論

(工 (光))

Basic Chemistry : Chemical Bonding Theory

寺尾 博充 教授

2 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 物質について深く理解するためには、化学結合・物質の電子状態に関する知識を修得しておくことが不可欠である。本授業では、基礎的な化学結合の理論について学習する。

【授業の概要】 原子の電子構造、元素の周期的性質、分子の生成と化学結合の種類、分子の形、結晶状態、電磁波スペクトル等について講義する。理解を深めるために演習問題を課しながら説明する。

【キーワード】 電子配置、化学結合、分子の形、結晶状態、電磁波スペクトル

【到達目標】

1. 原子の電子配置について理解している。
2. 分子軌道法の基礎について理解している。
3. 多原子分子の形について説明できる。
4. 化学結合の種類や性質について説明できる。

【授業の計画】 1. 化学結合論の発展過程と原子のしくみ 2. 量子論の基礎 3. 水素原子の電子軌道 4. 原子の電子配置と周期表 5. 元素の周期的性質 6. 等核二原子分子の分子軌道 7. 異核二原子分子の分子軌道 8. 中間試験 9. 電子対反発則と混成軌道 10. 多電子原子における分子軌道 11. 金属錯体と配位結合 12. 錯体の電子スペクトルと磁性 13. 分子の集積と分子間力 14. 共有結合性結晶、イオン結晶、金属結晶 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 松林玄悦 著 「化学結合の基礎」 三共出版

【参考書等】

- ◇ M-J-Winter 「フレッシュマンのための化学結合論」 化学同人
- ◇ 上田豊甫 「1 から始める量子化学」 三共出版

【成績評価の方法】 定期試験 (50%), 中間試験 (30%) 及び授業への取り組み状況 (20%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 遅刻、欠席をしないこと。予習、復習を行うこと。質問等はメールでも受け付けます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180853>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 寺尾 (2N06, 088-656-7245, terao@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時 総合科学部3号館2階 2N06室)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験

(医 (医))

Basic Chemistry Experiments

田中 秀治 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

佐野 茂樹 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

竹内 政樹 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

植野 哲 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

根本 尚夫 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

大井 高 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

吉田 昌裕 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

重永 章 助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

宮本 和範 助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学実験』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 基礎的な化学実験を通じて化学の知識を深めるとともに、実験器具や装置の使用法を習熟する。

【授業の概要】 分析化学、物理化学、有機化学の 3 分野にわたる化学実験を行う。

【到達目標】 化学と化学実験への理解を深める。

【授業の計画】 1. 分析化学実習 (吸光光度法) 1 日 2. 分析化学実習 (演習: データ処理法) 0.5 日 3. 物理化学実習 (生体高分子の変性) 1 日 4. 有機化学実習 (基礎実習) 1.5 日 5. 有機化学実習 (応用実習) 1 日

【教科書】 実習書を配布する

【成績評価の方法】 出席日数、実習態度、レポート内容を総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験 (再評価) は行わない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180867>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (教授室, 088-633-7285, htanaka@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8:30~17:30)

⇒ 佐野 (薬学部本館 6 階東, 088-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

⇒ 竹内 (088-633-7286, takeuchi@ph.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 植野 (088-633-7268, sueno@ph.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 根本 (088-633-7284, nem@ph.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 重永 (088-633-9534, ashige@ph.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 宮本 (088-633-9532, kmiya@ph.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 大井 (088-633-7289, tooi@ph.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 吉田 (088-633-7294, yoshida@ph.tokushima-u.ac.jp)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験

(歯 (歯 2))

Basic Chemistry Experiments

今井 昭二 教授

山本 孝 准教授 / 総合科学部, 富山 黎子 非常勤講師, 林 陽子 非常勤講師

2 単位 前期 水 7・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学実験』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 定性反応および定量分析を通してイオン反応、有機反応、酸・塩基反応および物理化学相互作用について理解する。

【授業の概要】 無機化学・分析化学・物理化学・有機化学について、初歩的な実験を行う。

【キーワード】 基礎化学、実験

【先行科目】 『基礎化学/基礎化学 IIA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』 (1.0, ⇒223 頁), 『基礎化学/基礎化学 I・物理化学 (平衡と反応速度)』 (1.0, ⇒119 頁)

【関連科目】 『基礎化学/基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』 (0.5, ⇒118 頁)

【到達目標】 イオン反応、酸・塩基反応を中心とした反応機構と化学量論などをはじめ基礎的内容を理解し応用する。

【授業の計画】 1. 実験の初学者への安全教育 (ケミカルリスクマネジメント)・防災訓練 2. 無機定性反応: 水酸化ナトリウム 3. 無機定性反応: アンモニア水 4. 無機定性反応: 硫化水素 5. 無機定性反応: 酸化・還元 6. 混合陽イオン試料の分離・検出実験 7. 未知混合陽イオン試料の定性実技試験 8. 定量分析の概要について 9. 定量分析: 中和滴定 10. 定量分析: 酸化還元滴定 11. 定量分析: キレート滴定による Ca と Mg の定量 (機器分析を含む) 12. 物理化学計測: pH メーターを用いた滴定曲線 13. 物理化学計測: 吸光光度法 (・・・) KMnO₄ 14. 有機化学実験: 有機定性反応: アセトアニリドの合成 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 自製テキストを使用。(実費徴収の予定)

【成績評価の方法】 実験のレポートと期末試験の成績により判定

【再試験の有無】 希望により筆記試験のみ実施する

【受講者のメッセージ】 実験者は各自の安全に十分に注意を払ってください。実験に適切な服装で受講すること。白衣は必ず各自持ってください。不適切な服装および安全めがねと白衣の非着用者は受講できない場合があります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180866>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

【備考】 第一回目: リスクマネジメント: 安全な実験方法, 毒劇物の取り扱い, 不測事・態緊急時の応急処置, 火災・地震避難訓練

5.4 《基礎生物学》 (Basic Biology)

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 MI Basic Biology

(医 (医))
六反 一仁・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
棚橋 俊仁・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
河合 智子・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 前期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】医学の専門教育を学ぶにあたって必要な、医学に関係した生物学の基本について講義し、生命に対する考え方を身につけさせることを目的とする。

【授業の概要】生体を構成する組織や器官の構造と働きを理解するため、基本的な生体物質と細胞についての講義し、細胞レベルから見たからだの働きについて理解させる。

【キーワード】細胞の基本構造、細胞の機能、遺伝子、細胞増殖と死、情報伝達

【到達目標】

1. 細胞の基本構造と機能を説明できる。
2. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。
3. 細胞の増殖、分化、死の分子機構を説明できる。

【授業の計画】1. 細胞の基本構造と細胞内小器官(ミトコンドリア)(六反, 棚橋, 河合) 2. リボソーム, 小胞体, ゴルジ装置(六反, 棚橋, 河合) 3. 細胞骨格(六反, 棚橋, 河合) 4. 核, 染色体の構造と DNA の複製(六反, 棚橋, 河合) 5. 生殖細胞(山野) 6. 受精の仕組み(山野) 7. 発生(山野) 8. 転写(DNA から RNA へ)(六反, 棚橋, 河合) 9. 翻訳(RNA からタンパク質へ)(六反, 棚橋, 河合) 10. 細胞間の情報伝達の仕組み(六反, 棚橋, 河合) 11. 細胞内情報伝達と翻訳後のタンパク質修飾(六反, 棚橋, 河合) 12. 細胞の増殖と分化(六反, 棚橋, 河合) 13. 細胞のストレス応答(六反, 棚橋, 河合) 14. 細胞死と不活化(癌化)のメカニズム(六反, 棚橋, 河合) 15. 本試験(六反, 棚橋, 河合) 16. 総括授業(六反)

【教科書】

- ◇ Essential 細胞生物学 原書第 2 版 南江堂 ¥8,000 円
- ◇ その他, 適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】学期末試験で評価する。試験は筆記試験で行い、100 点満点とする。60 点以上あれば合格とする。不合格者については再試験を行う。

【再試験の有無】再試験は筆記試験を一度のみ行う。不合格者は次年度に再受験。

【受講者のメッセージ】「教えてもらう」ではなく、「自ら学ぶ」という意識で臨んでいただきたい。授業中の私語は厳禁だが、勉強に関する質問はどんなものでも歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180918>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 六反 (088-633-9007, rokutan@basic.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8:30-17:00)
- ⇒ 山野 (088-633-9083, yamano@medsci.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 棚橋 (088-633-9004, tana@basic.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8:30-17:00)
- ⇒ 河合

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 DI Basic Biology

(歯 (歯))
北村 清一郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
野間 隆文・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
山下 菊治・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
三好 圭子・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】歯学部学生が 2 年次後期以降に受講する必修専門基礎科目は、理工学を除き、全てが生物学関連科目(解剖学, 生理学, 生化学, 病理学, 細菌学, 薬理学)である。本講義は後期に開講している基礎生物学 DII と一体で、歯学部学生が専門基礎科目を履修する際に必要な生物学の基礎知識を修得させることを目的とする。

【授業の概要】細胞の構造と進化(北村):動物細胞の構造と機能を概説する。また、原核細胞から真核細胞への進化の過程と意義についても解説する。生体成分と生体維持(野間):主として真核細胞の構成成分とその役割、および生体の機能維持に不可欠なエネルギー代謝について概説する。酵素の働き(三好):タンパク質の構造、酵素の一般的性質、酵素反応の種類、および酵素活性の調節機構について概説する。生体膜と細胞骨格(山下):生体膜と細胞骨格の構造と機能について概説する。

【キーワード】生命のしくみ、細胞の構造、細胞の機能、遺伝子、タンパク質

【関連科目】『基礎生物学/基礎生物学 DII』(0.5, ⇒226 頁), 『基礎生物学実験/基礎生物学実験 A』(0.5, ⇒227 頁), 『基礎生物学実験/基礎生物学実験 B』(0.5, ⇒227 頁)

【到達目標】

1. 細胞の構造と機能の概略が説明できる。
2. 細胞の進化の過程と意義を理論的に考察できる。
3. 生体成分の役割と生体内での化学反応についての概略が説明できる。
4. タンパク質の立体構造と分子進化に関する理論的考察ができる。
5. 生体膜の構造と機能の概略が説明できる。
6. 細胞骨格の構造と機能の概略が説明できる。

【授業の計画】1. 1 章 生命と細胞 2. 1 章 生命と細胞 3. 1 章 生命と細胞 4. 2 章 多細胞の生命 5. 3 章 生体を構成する物質 6. 3 章 生体を構成する物質 7. 5 章 生体エネルギーの原則 8. 5 章 生体エネルギーの原則 9. 4 章 タンパク質の構造と機能 10. 4 章 タンパク質の構造と機能 11. 4 章 タンパク質の構造と機能 12. 6 章 生体膜と物質の輸送 13. 6 章 生体膜と物質の輸送 14. 12 章 細胞骨格と運動 15. 試験 16. まとめ:細胞の構造と機能

【教科書】

- ◇ 中東美明著『生命の科学 細胞の分子的理解』培風館
- ◇ 教科書は最初の講義の直前に歯学部の講義室前で発売される。1,900 円
- ◇ 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】筆記試験と出席率で評価する。本試験の結果が極端に悪い場合は再試験となる。

【再試験の有無】有(1 回)

【受講者のメッセージ】入学試験で生物学を選択しなかった学生は、全学共通教育の教養科目群で生物学の基本事項を学ぶこと、が強く求められる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180915>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 北村 (口腔顎顔面形態学分野教授室, 088-633-7319, kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:金曜日 12時~13時 歯学部4階北側中央(口腔顎顔面形態学分野))
- ⇒ 野間 (088-633-7325, ntaka@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:金曜日 12時~13時 歯学部5階南側病院寄り(分子医化学講座))
- ⇒ 山下 (088-633-9120, kikuji@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:金曜日 12時~13時 歯学部4階北側中央(口腔顎顔面形態学分野))
- ⇒ 三好 (088-633-7326, miyoshi@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:金曜日 17時~18時 歯学部5階南側病院寄り(分子医化学講座))

【備考】2 年次のこの時間帯には別の必修科目が入っており、再受講の場合には、留年せざるを得なくなります。

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 P Basic Biology

(薬 (薬))
松尾 義則・教授
2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】生命の遺伝現象についての用語、基礎知識を理解することを目的とする。ヒトの個体間の遺伝的差異や遺伝病の原因、診断、治療を理解したり、将来、専門の分野で研究したりするための基礎としてほしい。

【授業の概要】生物の分野の中でも最近発展のめざましい遺伝学を中心に講義する。遺伝学全般にわたる内容。授業は基本的には教科書に沿って進めるが、ヒトに関する話題をできるだけ多く取り上げる。最新の情報などについては参考書などを参照すること。章末の練習問題を解けるように理解しておくこと。

【キーワード】基礎遺伝学、遺伝子、DNA

【到達目標】遺伝学の基礎が理解できる。

【授業の計画】1. メンデル性遺伝 I 2. メンデル性遺伝 II 3. 染色体 4. 性染色体と伴性 5. 家系分析 6. 連鎖と染色体地図 7. ゲノムの構造 8. 細菌およびウイルス遺伝学 I ー大腸菌とプラスミド 9. 細菌およびウイルス遺伝学 II ーバクテリオファージ 10. 遺伝子ライブラリーと遺伝子のスクリーニング 11. DNA の複製 12. DNA の修復と組み換え 13. 生体遺伝学 14. 遺伝暗号 15. 期末テスト 16. テストの返却、解説、総括

【教科書】

- ◇ 教科書:クロー著「遺伝学概説」(第 8 版)培風館 2266 円
- ◇ 参考書:アルバーツ著「細胞の分子生物学」Garland

【成績評価の方法】試験と出席状況

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】わからないところはそのまましておかず質問などして必ず理解しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180921>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10時30分-12時)

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 欠席するとその回の成績は零点になるので、健康に留意し、必ず出席するように務めること。再試験の機会はない。掲示により、使用教室や必要な物の通知が行われることが多いので見落とさないこと。開始時間に遅れないこと。実験中は、担当教官の指導、助言などに細心の注意を払い、注意を守ること。著しく実験態度の悪いものは、欠席扱いになる場合があります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180925>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小山 (3N06, 088-656-7256, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで予約 (および研究室のドアに表示))
⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも、)
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 樋浦 (633-9121, hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 12 - 13 時または 16 時半 - 19 時)
⇒ 佐野 (088-633-7063, sano@basic.med.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 高校で生物未履修者は、高大接続科目/生物学 (前期木曜 5.6 限, 担当: 渡部) の履修が望ましい。

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 T
Basic Biology

(工 (生))
佐藤 高則 准教授
2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎生物学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎生物学』)

【授業の目的】 本講義は我々生命を構成する生体高分子に焦点を当て、これらの機能からバイオテクノロジーへの応用に至るまで幅広く基礎知識をつけることを目的としている。

【授業の概要】 生体高分子や細胞をベースに、基本的な構造、機能からバイオテクノロジーへの応用までを講義し、今後の専門課程の学習に対する一助とする。高校で生物を履修していない学生を想定して、高校レベルの基礎から講義する。

【キーワード】 生体高分子、遺伝子、バイオテクノロジー

【到達目標】

1. 細胞の細胞小器官の構造と機能が理解できる。
2. 生体高分子の構造が理解できる。
3. 遺伝子の複製、転写、翻訳が理解できる。
4. 基本的なバイオテクノロジーが理解できる。
5. バイオテクノロジーに対する自分の意見が持てるようになる。

【授業の計画】 1. シラバスと講義概要の説明 (1 回) 2. 細胞の構造と機能: 細胞の細胞小器官の構造と機能 (3 回) 3. 生体高分子の基礎 (タンパク質、核酸、脂質、糖) (6 回) 4. バイオテクノロジーの歴史と概論 (1 回) 5. 遺伝情報の流れ、遺伝子工学と応用 (遺伝子の複製、転写、翻訳) (2 回) 6. タンパク質工学、酵素工学 (1 回) 7. 定期試験 (1 回) 8. 総括授業 (1 回)

【教科書】 ヴォート「基礎生化学」(第 2 版) 田宮ほか訳 (東京化学同人)

【参考書等】

- ◇ Essential 細胞生物学 (中村他, 南江堂)
- ◇ さらにプリントを適宜配布する。
- ◇ 配布プリント (一部) および実施済み課題は下記 URL からダウンロードできます。

【成績評価の方法】 毎回の課題 (60%) と定期試験 (40%) によって評価する。定期試験は持込可とする。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 毎回、授業の最後に課題を出しますので出席してください。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180922>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時はいつでもよい。総合科学部3号館北棟3階(生物化学研究室))

基礎生物学実験 (Basic Biology Experiments)

基礎生物学実験 N

Basic Biology Experiments

(医 (栄))
山城 考 准教授
2 単位 前期 水 7・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎生物学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎生物学』)

【授業の目的】 生物の形態、生理現象などの観察を通じて生命現象の一端を理解するとともに、顕微鏡その他の使用法を身につける。また、毎回のレポート作成により、内容はもちろんのこと、見やすく分かり易いレポートを作ることを目的とする。

【授業の概要】 下記のような多彩なテーマで実験を行う。原則、毎回異なる教官が異なるテーマで実験を担当する。内容、順番は変更する場合がある。

【キーワード】 顕微鏡、細胞、組織、分類、胚発生

【関連科目】 『基礎生物学/基礎生物学 N』(0.5, ⇒226 頁)

【到達目標】 実験にあたっての心構えを身につけ、実験器具の使用法に習熟し、レポート作成技術を向上させる。

【授業の計画】 1. 全般的説明及び顕微鏡使用法 2. 人体寄生虫卵の観察 3. 生きた心筋細胞の単離と細胞死の観察 4. レクチンによる赤血球の凝集反応 5. 遺伝子組換え実験講習会 6. 真核生物の DNA 抽出 7. プラスミド DNA による大腸菌の形質転換 8. カラムクロマトグラフィーによる生体高分子の分離 9. DNA フィンガープリンティング法 10. 組換え DNA 技術における倫理的側面 11. 微生物の分類と特定 12. 植物の形態の観察 13. 人体主要臓器の肉眼観察 14. メダカの色素胞の観察 15. 歯とその支持組織の顕微鏡観察 16. 総括授業

【教科書】 教科書として実習用テキストを配布予定

【成績評価の方法】 毎回のレポートを 100 点満点で採点し、平均点をもって成績とする。

6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

歴史と文化

中国語Ⅱ ... / 葭森 / 前期 月 7・8.....	124
中国語Ⅰ ... / 郡 / 前期 火 5・6.....	124

人間と生命

生命・健康・病気 (1) ... (医 (医)) / 医学部教員 / 前期 金 3・4.....	124
(歯) 口腔と健康 ... (歯 (歯)) / 河野 / 前期 金 3・4.....	124

自然と技術

地域の環境と防災 ... (工 (建)) / 鎌田・上月・滑川・成行・田村 / 前期 木 5・6.....	125
(工) 機械工学概論 ... (工 (機)) / 機械工学科教員・高木 / 前期 木 5・6.....	125
(工) 化学応用工学概論 ... (工 (化)) / 金崎・川城 / 前期 木 5・6.....	125
(工) 電気電子工学概論 ... (工 (電)) / 電気電子工学科教員 / 前期 木 5・6.....	126
(工) 知能情報工学セミナー ... (工 (知)) / 知能情報工学科教員・福見 / 前期 木 5・6.....	126
(工) 光の基礎 ... (工 (光)) / 陶山 / 前期 木 5・6.....	126
(医) 臨床検査学入門 ... (医 (保)) / 西田 / 前期 金 3・4.....	126
(医) 医療情報処理学入門 ... (医 (保)) / 近藤 / 前期 金 5・6.....	127
(歯) 医療情報処理 ... (歯 (歯)) / 河野 / 前期 金 5・6.....	127

歴史と文化 (History and Culture)

中国語 II

Chinese Language 2

葭森 健介 教授

2 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『中国語 (2)』)

【授業の目的】全学共通教育中国語初級・中国語 (1) で身につけた中国語の能力を高め、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業の概要】この授業では教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。前期は市販の教科書を使って、最新の中国についての記事を扱う。また、記事に関係して、中国の放送番組によるビデオ教材も使い、聞き取りの力も養成する。

【キーワード】中国語、時事問題、現代中国

【到達目標】中国語の新聞やインターネットの記事が辞書を引いて読めること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業の計画】1. 中国語 (1) の復習・表現・単語- 2. 中国語 (1) の復習-文法- 3. 時事中国語を読むための基礎 4. 中国人にとつての北京オリンピック 5. 中国のインターネット事情 6. 中国の食品基準 7. 中国の若者がみた日本 8. 田舎の男と都会の女 9. 四川地震と少数民族 10. 中台関係を読む 11. 今中国の都会で 12. 中国のアニメ事情 13. 博物館に行った家計簿 14. 中国語インターネットを読む 15. 前期学期末試験 16. 前期学期末試験講評

【教科書】『セレクト 10 時事中国語 2009』(朝日出版社 1600 円+税)

【参考書等】1 年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【成績評価の方法】授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験の有無】原則無し、ただし受講状況に応じて再試験を行うこともある。

【講師へのメッセージ】総合科学部学生は学部専門科目として登録すること。総合科学部以外の受講希望者はあらかじめ相談のこと。共通教育で中国語初級または中国語 (1)4 単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力を有していることが絶対条件である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181311>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日午後12時半~1時半 総合科学部1号館中棟3階 アジア史研究室)

【備考】総合科学部全学生と医学部の平成 17 年度以前の医学部保健学科の入学生をのぞき平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化 / 中国語 II』として 2 単位が認定される。総合科学部の平成 16 年度以前、医学部保健学科の 17 年度以前 入学生は授業科目:『中国語 (2) / 中国語 (2)』として 1 単位が認定される。

歴史と文化 (History and Culture)

中国語 I

Chinese Language 1

部 迎建 教授

2 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『中国語 (2)』)

【授業の目的】中国語 (1) で学んだ文法の基礎の上に乗って、名文に触れ、ことばの感性を育てながら、語彙を増やし、表現を豊かにします。中国語力を高めることを目指します。

【授業の概要】現代の短い小説を読解します。朗読、翻訳をした後、言い回しや文型を用いて作文の練習をします。後期はピンインなしのエッセイや小説にチャレンジします。

【到達目標】確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 第一課「打電話」を朗読、翻訳 3. 作文練習 4. 第二課「弯弯的月亮」を朗読、翻訳 5. 作文練習 6. 以上のステップで次の文章を読む 7. 期末試験(『人民日報』のコラムを翻訳する、辞書持込可)。 8. 総括講評 9. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】

◇ 渡辺晴夫・大川完三郎編『心あたまる短い小説 10 選』(同学社, 2006)2,300 円。
◇ 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】平常点及び期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181308>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは一応水曜日の昼休みに設定するが、随時質問・相談可。研究室は総合科学部1号館3階中棟(邵), E-Mail:shaoyingjian@yahoo.co.jp)

【備考】◇1. (英)(日) 総合科学部全学生と医学部の平成 17 年度以前の医学部保健学科の入学生をのぞき平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化 / 中国語 II』として 2 単位が認定される。総合科学部の平成 16 年度以前、医学部保健学科の 17 年度以前 入学生は授業科目:『中国語 (2) / 中国語 (2)』として 1 単位が認定される。◇月 7, 8 葭森教員と連携して進行

人間と生命 (Humanity and Life)

生命・健康・病気 (1)

Life, Health and Disease 1

(医 (医))

医学部教員

2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】生命現象、健康と病気について自然科学あるいは社会科学的視点から学習することによって、幅広い知識を得るとともに医師として必要な人間形成に資することを目的とする。

【授業の概要】2 年次の生命・健康・病気 (2) に繋がる講義であり、基礎医学分野、臨床医学分野、疾患酵素学研究センター、ゲノム機能研究センターの教授 (原則として) が 1 回ずつ担当する。専門医学教育とは違った個性的な講義になるはずである。

【到達目標】

1. 医学研究・生命科学の最近の進歩について理解する。
2. 医療の持つ社会的影響について理解する。

【授業の計画】1. 健康食品と薬 (薬理学:玉置) 2. 脳の機能と病気、外科治療 (脳神経外科学:永廣) 3. 骨と軟骨の一生 (運動機能外科学:安井) 4. 肺がん克服へのチャレンジ (呼吸器・膠原病内科学:曾根) 5. 薬の剤形 (臨床薬理学:水口) 6. 全身麻酔:命をあずかる麻酔科医 (麻酔・疼痛治療医学:大下) 7. 自己の分子で病気を治療する (生体防御医学:安友) 8. 放射線科のしごと (放射線科学:西谷) 9. 総合診療医とプライマリ・ケア医 (地域医療学:谷) 10. 男と女の遺伝学 (人類遺伝学:中堀) 11. 自己の形式と免疫学 (免疫系発生学:高浜) 12. 甦る鼓動:Batista 手術とその理論 (循環機能制御外科:北川) 13. 環境医学・予防医学入門 (予防医学:有澤) 14. こころの健康こころの病気 (精神医学:大森) 15. HIV-1 の生物学 (ウイルス病原学:足立)

【成績評価の方法】出席、レポート (感想)

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181269>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 曾根 (088-633-7126, ssone@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 谷 (088-633-7127, kenjikt@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 9am-5:30pm)
- ⇒ 北川 (088-633-7151, kitagawa@clin.med.tokushima-u (オフィスアワー: 毎火曜日午後4時-5時)
- ⇒ 永廣 (snagahi@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 水口 (088-633-7212, minakuti@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 高浜 (ゲノム機能研究センター 208, 088-633-9452, takahama@genome.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 安友 (088-633-7048, yasutomo@basic.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 玉置 (088-633-7061, tamaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 安井 (088-633-7238, nyasui@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8:00-18:00)
- ⇒ 大下 (088-633-7181, shuzo@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 有澤 (088-633-7071, arisawa@basic.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 大森 (088-633-7130, tohmori@clin.med.tokushima-u (オフィスアワー: 8:30-17:30)
- ⇒ 西谷 (088-633-7172, hiro@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中堀 (088-633-7075, nakahori@basic.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 足立 (088-633-7078, adachi@basic.med.tokushima-u.ac.jp)

人間と生命 (Humanity and Life)

(歯) 口腔と健康

Oral Cavity and Health

(歯 (歯))

河野 文昭 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】歯科医学・歯科医療を、「人間学」として広い視野で、疾病医療と保健医療の両面からとらえることができるようになることを目標とする。

【授業の概要】1. 歯科医学・歯科医療とは何か、2. 診療各科の現状と将来展望等について臨床各講座教授等により教授する。「健康」とは何か?世界保健機構 (WHO) の定義の問題点を検討し、健康について考えてみる。また、現在の歯科医療を紹介しながら健康における口腔機

全学共通教育 (2009) 前期・【学部が開放する授業題目】

能の役割を検討する。「食べること」「会話を通して人とコミュニケーションをとること」などが人間の尊厳を保つ上で大きな役割を担っていることから生活の質 (QOL) を豊かにする上での口腔機能の重要性を理解する。さらに先端の歯科医療の現状と将来の歯科医療についても紹介する。

【到達目標】 口腔と健康の関係を理解するために、各臨床講座、診療科の診療内容を知識として知る。

【授業の計画】 1. 「健康」とはなにか 2. 歯科疾患の予防と口腔の健康の保持増進 3. 内因性感染症としての齲蝕 - そのとらえ方と治療法 4. 歯周病のはなし 5. 義歯からインプラントへ、噛むことからしゃべることへ 6. 補綴に関する歯学史、現状と将来、咬合について 7. 口腔外科疾患について 8. 口腔粘膜癌、唾液腺癌の病態と治療 9. 不正咬合と矯正治療 10. 健康児、障害児および有病児の歯科医学、歯科医療 11. 画像診断技術の発展 12. 歯科治療における麻酔の役割 13. 歯科における審美

【教科書】

- ◇教科書: 使用しない。
- ◇参考書: 随時プリントを配布する。随時スライドを使用する。

【成績評価の方法】 出席状況と試験結果とによる。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 この授業を通して、臨床系歯学の概要について理解してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181246>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp)

自然と技術 (Science and Technology)

地域の環境と防災

(工 (建))

Environment and Disaster Prevention in Tokushima

鎌田 磨人・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

上野 康則・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

滑川 達・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 成行 義文・教授/工学部

田村 隆雄・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 私たちが暮らしていく地域の「自然環境」と「防災」に関心や興味をもって暮らしていけるよう、それらについての視点・考えかたについて解説する

【授業の概要】 私たちが安心して暮らしていくために必要な「自然環境」と「防災」について、徳島に関連深い事項を例にとりあげながら、1) 身近な自然環境の様子、2) どのようにして身近な自然環境を守ったり、修復したりしようとしているのか、3) 地震や津波への備え、4) 自然環境を保全しつつ災害にも強いまちづくりのあり方、の 4 つの観点から解説する。

【キーワード】 徳島、自然環境、防災、地域力

【到達目標】 自らが暮らす地域の自然環境の保全や防災がどのように進められようとしているのかを知り、その地域の中で暮らしていく者として、地域の自然環境の保全と防災に興味と自覚を持って暮らし続けられる。

【授業の計画】 1. ガイダンス-足元からの安全と安心 2. 眉山の「緑」 3. マラウィ (アフリカ) の「緑」 / レポート 4. 「なぜ、環境を守らないといけないの?」 5. 「放っておいてくれ!」という人にも防災は必要? 6. "50 歳のあなた" を考えた環境と防災 7. 「地域力」- ソーシャルキャピタルの視点から 1 8. 「地域力」- ソーシャルキャピタルの視点から 2 9. 「地域力」- ソーシャルキャピタルの視点から 3 / レポート 10. 地震と地震動 11. 地震による被害 12. 地震被害の予測と対策 / レポート 13. 森林の洪水低減機能の仕組みと限界 14. 森林の水質保全機能、森-川-海の繋がり 15. 植物を使った徳島県の省エネの取り組み/レポート

【成績評価の方法】 到達目標の達成度は期間中に課せられる 5 回のレポートの総点 (各レポートは 20% ずつの重み) により評価し、評点が 60% 以上を当目標のクリア条件とする。

【受講者へのメッセージ】 本科目は本学科の教育目標の 1(1) に 40%、1(2) に 40%、1(3) に 20% 対応する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181000>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鎌田 (A306, 088-656-9134, kamada@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること。)

⇒ 上野 (エコ 505, 088-656-7335, kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 14:35 から 16:05, 18:00 から 19:30)

⇒ 滑川 (A412, 088-656-9877, namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

⇒ 成行 (A510, 088-656-7326, nariyuki@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

⇒ 田村 (A414, 088-656-9407, tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 機械工学概論

(工 (機))

Outline of Mechanical Engineering

機械工学科教員

高木 均・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 この講義では、機械工学のもつ総合的な特性を通して、理系および文系の学生に現代社会における機械工学が果たす役割について理解してもらう。

【授業の概要】 機械工学の役割はエネルギー機器から精密・情報機器、半導体生産設備、食品加工機などの企画、開発、設計、生産と非常に幅広く、機械工学は多くの技術、工学を融合したものである。この機械工学の発展の歴史、現在の課題、未来への展望などを各教員の専門分野の話題を通して講義する。

【キーワード】 機械科学、機械システム、知能機械、生産システム

【到達目標】 機械工学を通して、機械工学の現代社会における役割を理解し、総合的な判断能力を養うことを目標とする。

【授業の計画】 1. 機械を構成する部材に生じる変形と力の係わり 2. 材料の微視構造と新材料の開発動向 3. 機械の破壊の仕組みと防止方法 4. 流体エネルギーの利用について 5. 流れの中の物体に働く揚力と抗力 6. エネルギー変換と環境問題 7. 機械振動の制御 8. エコマテリアルの利用について 9. ロボット工学の将来 10. 加工と生産システム 11. X 線による応力測定 12. 科学計測について 13. 超精密機械としての分光器の原理と性能および応用分野 14. エンジンにおける代替燃料の利用 15. レポート指導と総括

【教科書】

- ◇教科書: 使わない
- ◇参考書: 各週の講義では OHP 等で具体的な説明があり、テーマごとにプリント等が参考資料として配布される。参考書は、講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法】 各テーマの講義について、毎回、レポートの提出が義務付けられる。このレポートの提出と講義への取組みを総合して評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 機械工学に関心をもつ者への導入教育科目の一つとして位置づけられているので、機械工学科の学生は必ず受講するように希望する。レポートの様式・内容・提出のきまり (場所・期日) は、各回の講義時間に連絡される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180978>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高木 (M620, 088-656-7359, takagi@me.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教員毎に設定している)

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 化学応用工学概論

(工 (化))

Outline of Chemical Science and Technology

金崎 英二・教授/工学部, 川城 克博・教授/工学部

2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 現代の理工学関係の科学、技術者には、多種多様な物質の化学的基礎知識が要求される。本講義では、物質の性質を化学結合、分子構造に基づいて理解させる。

【授業の概要】 高等学校で学んだ化学に接続させ、化学の基礎としてまず電子のエネルギー状態がどのように記述されるか解説し、次に原子、分子の構成について述べ、物質の性質を化学結合、分子構造と関連させて理解させる。さらに、炭素原子の混成軌道の概念から有機化合物の構造と反応性を解説する。クラスを A, B の二つに分ける。A クラスを金崎教授が、B クラスを川城教授が担当して講義を開始し、その後学期の途中で担当を交代する。試験はそれぞれの講義最終回に実施。

【到達目標】 無機・有機化合物を含めて、物質を構成している原子、分子の化学結合が結晶構造、反応性、物理化学的性質のいかに関係しているかを理解させる。

【授業の計画】 1. 本講義では以下の内容で講義を行う予定である。 2. 1. 原子論の成立 3. 2. 原子の構造 4. 3. 電子配置 5. 4. 元素の周期的性質 6. 5. 単体と化合物 7. 6. 化学結合 8. 7. 炭素原子の混成軌道と分子の形 9. 8. 脂肪族化合物の性質と反応 10. 9. 芳香族化合物の性質と反応

【教科書】

- ◇三浦敏明他共著 『ライフサイエンス系の化学』 三共出版 (川城)
- ◇大野, 村田, 錦織共著 『大学生のための例題で学ぶ化学入門』 共立出版社 (金崎)

【成績評価の方法】 期末試験及び出席 (小テスト・課題レポート) により評価する (川城)。定期試験とレポートにより評価する (金崎)。

【再試験の有無】 無

全学共通教育 (2009) \ 前期・【学部が開放する授業題目】

【受講へのメッセージ】 最近の先端材料あるいは解析機器についてのトピックスも紹介する。講義毎に小テスト又は課題レポートを課する。(川城)パソコンを用いて計算しグラフ化できるように準備しておく。宿題は次回講義開始時迄に提出すること。(金崎)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180976>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金崎 (化 516, 088-656-9444, kanezaki@chem.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 年度毎に学科の掲示を参照すること)

⇒ 川城 (化 308, 088-656-7431, kawasiro@chem.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 特に曜日・時間を指定しない。[川城(工学部化学・生物棟308号室)])

【備考】 授業計画は変更する場合がある

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 電気電子工学概論

(工 (電))

Outline of Electrical Engineering and Electronics

電気電子工学教員
2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 電気電子工学の初学者に特別な専門知識を必要とせず、身の回りの電気電子工学やホットな研究活動の概要を出来るだけ平易に紹介することにより、初学者に電気電子工学に興味と勉学の意欲を喚起させる。

【授業の概要】 電気電子工学の全教授が、関係する分野を中心とした身の回りの電気電子工学や電気電子工学のホットな研究活動を平易に紹介し、毎講義の最後にレポート課題を与える。

【キーワード】 電気回路 1(1), 電気磁気学 1(1)

【到達目標】 電気電子工学に関する基礎的な知識の修得と電気電子工学を学ぶとする学生の勉学意欲を湧かせる。

【授業の計画】 1. 1. ~ 4. :物性デバイス分野の紹介:気体, 液体, 固体中での電子や分子の物理現象と半導体を中心とする電子デバイスの設計方法に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 2. 5. ~ 8. :電気エネルギー分野の紹介:電気エネルギーの発生や輸送, 動力機器とその制御等を含む電気エネルギーの変換および利用法等に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 3. 9. ~ 11. :電気電子システム分野の紹介:計算機援用による設計, 制御について考察する制御システム分野および各種情報の取り扱いと伝送技術等に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 4. 12. ~ 14. :知能電子回路分野の紹介:電子回路の設計や解析およびコンピュータ回路の知能化を実現するハードウェアとソフトウェアに関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介 5. 15 :電気電子工学概論全体に対してのレポート

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントが配布される。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 毎回の授業に対する課題レポートと電気電子工学概論全体に対してのレポートの内容をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 電気電子工学 1 年生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180982>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 電気電子工学 1 年クラス担任

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 知能情報工学セミナー

(工 (知))

Seminar : Information Science and Systems Engineering

知能情報工学教員, 福見 稔・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 知能情報工学における教育・研究に関する導入教育を行う。また、計算機に親しむための簡単な実習を課して、知能情報工学の学生としての自覚を芽生えさせると共に、簡単な研究課題を課して、自発的な情報収集能力やコミュニケーション能力の重要性を認識させる。さらに学生生活の送り方、講義の受講および研究のための心構え、社会人としての常識等のガイダンスを行う。

【授業の概要】 受講生を知能情報工学教授全員にほぼ等分に配属する。授業の内容は教授によって若干異なるが、知能情報工学の教育・研究内容、学生生活の送り方と心構え、社会人としての常識等についての導入教育が施された後に、計算機を用いた簡単な実習や研究課題が課される。研究課題に関しては、報告書の提出やプレゼンテーションが求められる。

【到達目標】

1. 導入教育を通して知能情報工学における学生生活に適応する。
2. 研究課題の解決を通して自発的な情報収集能力を育成する。
3. 報告書の作成やプレゼンテーションを通して基礎的なコミュニケーション能力を育成する。

【授業の計画】 授業計画は教授によって異なり、その詳細については配属された教授より指示がある。

【教科書】 配属された教授より指示がある。

【成績評価の方法】 実習の成果および研究課題に関する報告書およびプレゼンテーションに基づき成績評価を行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180981>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 青江 (Dr. 棟 604, 088-656-7486, aoe@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00~ 17:00(年度ごとに学科の掲示を参照すること))

【備考】 知能情報工学の学生は専門科目として登録・受講すること。

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 光の基礎

(工 (光))

Basic Properties, Phenomena and Applications of Light

陶山 史朗・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
2 単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 光の色々な性質、光に関わる自然現象、光を応用した商品についてやさしく講義し、光応用工学に対する関心を引き出すと共に、光応用工学に必要な基礎知識を修得させる。

【授業の概要】 光の色々な性質について述べた後、色々な自然現象が光のどのような性質と関係しているかを説明し、光のどの性質が CD プレイヤー、レーザープリンタ、電子ディスプレイなど光を応用した商品にどのように使われているかを講義していく。

【キーワード】 光, 反射, 屈折, 回折, 干渉, 偏光, 色, 螢気楼, 虹, 青い空, 赤い夕焼け, シャボン玉, 眼, 視覚

【関連科目】 『幾何光学』(0.8), 『波動光学』(0.8), 『光情報機器』(0.8), 『光演算処理』(0.7)

【到達目標】

1. 光の性質, 視覚に関する概要を理解できること。
2. 光に関わる自然現象と光の性質との関係を理解できること。
3. 光を応用した商品と光の性質との関係を理解できること。

【授業の計画】 1. 光の性質:光の直進性 2. 光の性質:光の速度, 屈折率 3. 光の性質:光の反射と屈折 4. 光の性質:光の分散 5. 光の性質:光の波動性, 光の回折, 光の干渉 6. 光の性質:偏光, 光の粒子性 7. 光の性質:レンズの諸特性 8. 光の性質?:色について 9. 自然現象と光の性質:屈折, 分散(陽炎, 逃げ水, 螢気楼, 不知火, 虹など) 10. 自然現象と光の性質:散乱(散乱の種類, 青い空, 白い雲, 赤い夕焼け, 海の青など) 11. 自然現象と光の性質:回折, 干渉(シャボン玉の色, CD の色, 昆虫の色など) 12. 眼と視覚: 眼の構造, 視覚の特性, 立体視 13. 眼と視覚: 錯視現象と視覚 14. 光応用装置のしくみ:CD プレイヤー, レーザープリンター 15. 光応用装置のしくみ:電子ディスプレイ 16. 定期試験

【教科書】 教科書:P. G. Hewitt 他著, 本田健訳「電気・磁気と光 (物理科学のコンセプト 4)」共立出版

【参考書等】

- ◇ 大津元一「光科学への招待」(朝倉書店)
- ◇ リチャード・L. グレゴリー「脳と視覚」(ブレーン出版)
- ◇ 安藤幸司「光と光の記録 光編その 2」(産業開発機構)
- ◇ E. Hecht「ヘクト 光学 I」(丸善)
- ◇ 「光学のすすめ」(オプトロニクス社)

【成績評価の方法】 講義に対する理解力の評価は、講義への取り組み状況、演習、レポート、小テストおよび最終試験の成績を総合して行う。配点の比率: 講義への取り組み状況 15%, 演習・レポート評価点・小テスト得点 15%, 最終試験得点 70%, 合格基準:総合点の 60%以上

【再試験の有無】 再試験は基本的には行わない

【受講へのメッセージ】 頻繁に小テストを実施するので、毎回の復習を欠かさずに行うこと。教科書中の問題は、自らの理解度が分かる良い問題なので、各自復習すること。なお、教科書以外の参考書、文献なども、必要に応じて盛り込んでいく。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180975>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 陶山 (光応用棟 4 階 409, 088-656-9425, suyama.shiro@opt.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 17:00~ 18:00)

【備考】 再試験は基本的に行わない。

自然と技術 (Science and Technology)

(医) 臨床検査学入門

(医 (保))

Introduction to Laboratory Testing

西田 敏信・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 医療における臨床検査の役割とそれに携わる医療従事者の心構えについて、初歩的な導入講義を行うことを目的とする。

【授業の概要】 臨床検査が病態の解析、疾病の診断、予後の判定にきわめて重要であることを認識させ、検査の歴史からそれぞれの検査部門(臨床化学、輸血検査学、臨床血液学、生理検査学、病理組織解剖学、微生物学など)においてどのような検査が行われているか、検査によりどのような病気がわかるか、検査値の読み方などについて平易に解説する。

【キーワード】 臨床化学、微生物学、生理検査学、病理組織解剖学、輸血検査学、臨床血液学

【到達目標】

1. 1 臨床化学
2. 検査の目的、化学反応を用いた測定方法、コンピュータシステムによる検体処理を理解する。
3. 2 微生物学
4. 感染症診断法の概略を理解できる。
5. 3 生理検査学
6. 病気の診断に必要な心電図検査や超音波検査の役割を理解できる。
7. 4 病理組織解剖学
8. 病理組織学的検査の役割を理解する。
9. 5 輸血検査学
10. 輸血に関与した免疫反応および輸血検査の概略を説明できる。
11. 6 臨床血液学
12. 赤血球、白血球および血小板の形態や生体内での役割について説明できる。

【授業の計画】 1. 1 臨床化学 2. 血液、尿を用いる臨床検査(臨床化学)はどのような目的で実施され、どのようにして測定されているのか。(西田) 3. また、大量の検体が整然と処理される過程について概説する。(西田) 4. 2 微生物学 5. 微生物検査の概略を解説する。(小野) 6. 3 生理検査学 7. 心電図や超音波検査などの生理検査の概略や臨床的意義について平易に解説する(齋藤) 8. 4 病理組織解剖学 9. 病的状態、特に腫瘍性病変における、細胞・組織の変化について説明する(香川) 10. 5 輸血検査学 11. 輸血に関与した免疫反応について述べ、輸血検査の重要性を教授する(細井) 12. 6 臨床血液学 13. 赤血球、白血球および血小板の形態や生体内での役割について述べ、血液検査の重要性を教授する(梅野)

【教科書】 教科書は使用しない。資料は教官が準備し、配布する。

【参考書等】

- ◇ 検体搬送システム (CD-ROM)
- ◇ 基準範囲学習支援システム (CD-ROM)

【成績評価の方法】 成績は受講姿勢、レポート等により評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 初歩的な導入講義であり、医療技術者としての心構えを養う上でも、ぜひ受講して欲しい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180974>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 西田 (088-633-9060, nishida@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日17:00~ 西田教員研究室(保健学科B棟5階))
- ⇒ 細井 (633-9062, hosoi@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週火曜日15:00~ 17:00 細井教員研究室(保健学科B棟5階))
- ⇒ 香川 (088-633-9065, kagawa@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週火曜日15:00~ 17:00 香川教員研究室(保健学科B棟5階))
- ⇒ 齋藤 (088-633-9064, saito@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週火曜日15:00~ 17:00 齋藤教員研究室(保健学科B棟5階))
- ⇒ 小野 (088-633-9061, ono@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週火曜日15:00~ 17:00 小野教員研究室(保健学科B棟5階))
- ⇒ 梅野 (088-633-9067, umeno@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 15:00~ 17:00 梅野教員研究室(保健学科B棟5階))

自然と技術 (Science and Technology)

(医) 医療情報処理学入門

(医 (保))

Introduction to Medical Information Processing

近藤 正 教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
2 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 近年、医療分野では、病院情報システム、地域医療情報システム、放射線部医用画像情報システムなど、いろいろな種類のコンピュータシステムが導入されており、医療技術者はコンピュータについての高度な知識を要求される。特に、放射線技術分野では、医用画像のデジタル化が急速に進んでおりコンピュータの能力を十分に使いこなしたデジタル医用画像処理技術の習得が求められている。本授業では、医療情報処理学の入門として、コンピュータの基礎的知識、とコンピュータの医療応用に関する知識の習得を目的とする。

【授業の概要】 本授業では、前半でコンピュータの基礎的知識(ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータネットワークなど)について講

義し、後半では、医療分野への応用(病院情報システム、電子カルテシステムなど)について講義する。

【キーワード】 医療情報学、情報リテラシー、マルチメディア

【到達目標】

1. コンピュータの基本的な構造と動作原理を理解できる。
2. 文字、数値、画像、音声などの医療情報がコンピュータ内部でどのように情報処理されるのかを理解できる。
3. コンピュータの医療分野における利用方法を理解できる。

【授業の計画】 1. 講義内容の説明と病院情報システムの概要 2. コンピュータの歴史 3. コンピュータ内部のデータ表現 4. 音響信号、画像のデジタル化 5. ハードウェアの基礎(2進数と論理変数、論理素子) 6. ハードウェアの基礎(論理回路、組み合わせ回路) 7. コンピュータシステム(コンピュータのシステム構成) 8. コンピュータシステム(コンピュータの動作原理) 9. コンピュータシステム(周辺機器) 10. コンピュータシステム(ソフトウェア) 11. ネットワークシステム(プロトコルやインターネットについて) 12. コンピュータの医療への応用(病院情報システムのような大規模コンピュータシステムの開発手順) 13. コンピュータの医療への応用(病院情報システムについて) 14. コンピュータの医療への応用(オーダーリングシステム、電子カルテシステムについて) 15. 試験 16. まとめ

【教科書】 澤澤一之、細井良三、菊池義信 共著、医科系学生のためのコンピュータ入門 共立出版株式会社 2005 年 2500 円

【参考書等】 日本医療情報学会編:医療情報(情報処理技術編)と医療情報(医療情報システム編)、篠原出版社

【成績評価の方法】 学期末試験と授業の取り組み状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 内容は、コンピュータに関する入門的なものですが、予習復習が必要です。コンピュータに関する知識は社会人にとって重要なものになっています。特に、医療技術者にとっては必須な知識です。できるだけ積極的に受講してもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180972>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 近藤 (088-633-9024, kondo@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 10時30分~ 12時, 近藤研究室(医学部保健学科3階))

自然と技術 (Science and Technology)

(歯) 医療情報処理

(歯 (歯))

Medical Information

河野 文昭 教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることを目的とする。

【授業の概要】 下記に示す授業内容を講義し、実習では各学生にコンピュータ実習(インターネット活用、ワープロ、表計算、統計処理)を行う。また、歯科臨床の場で活用しているコンピュータの事例について紹介する。

【到達目標】

1. 1. 情報処理・医療情報の基礎が理解できる
2. 2. コンピュータネットワークの基礎が理解できる
3. 3. コンピュータを活用できる技能を身につけられる

【授業の計画】 1. 情報処理総論 2. 医療情報処理総論 3. 情報通信の仕組み(インターネット) 4. 歯科領域におけるコンピュータの役割 5. ワープロの実習 6. ワープロの実習 7. 表計算の実習 8. 表計算の実習 9. プレゼンソフトの実習 10. プレゼンソフトの実習 11. ホームページ作成ソフトの実習 12. ホームページ作成ソフトの実習 13. 医療統計ソフトの実習 14. 医療統計ソフトの実習

【教科書】

- ◇ 教科書:私版のテキストを配布。インターネットにて閲覧。
- ◇ 参考書:各講義中に紹介

【成績評価の方法】 筆記試験(論述式)

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 コンピュータをツールとして活用できるように講義します。実習は特にインターネット活用および医療統計の方法、に重点をおきます。毎回出席をとるので必ず講義に出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180984>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 中條 (088-633-7366, nakajo@dentclin.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 森川(088-633-9131, moritomi@clin.med.tokushima-u.ac.jp) Mail

第2章

後期

1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

古代・中世日本の社会 ... /衣川/後期 月 1・2.....	133
現代日本語の諸問題 ... /仙波/後期 月 1・2.....	133
ドイツ・北欧の伝説とオペラ ... /石川/後期 月 1・2.....	133
日本図の歴史 ... /平井/後期 月 1・2.....	133
戦後文学を読む ... /鳥羽/後期 月 3・4.....	134
考古学概論 II ... /中村/後期 月 3・4.....	134
民族音楽入門 ... /片岡/後期 月 3・4.....	134
資本主義の歩み ... /中嶋/後期 月 3・4.....	135
江戸時代後期の社会変動と明治維新 ... /桑原/後期 火 1・2.....	135
ヨーロッパ世界の展開 ... /佐久間/後期 火 1・2.....	135
東アジア考古学概論 II ... /東/後期 火 1・2.....	136
アメリカ社会の諸問題 ... /西出/後期 水 3・4.....	136
日本中近世文学 II ... /原水/後期 水 3・4.....	136
沖縄社会文化論 ... /高橋/後期 水 3・4.....	136
日本古代文学 II ... /堤/後期 木 3・4.....	137
方言と社会 ... /岸江/後期 木 3・4.....	137
中国における死者再生譚 ... /有馬/後期 木 3・4.....	138
写真画像保存技術概論 ... /石井/後期 木 3・4.....	138
西洋音楽の歴史 ... /宮澤/後期 木 3・4.....	138
絵画表現と技法の応用 ... /平木/後期 木 5・6.....	138

人間と生命

心理学入門 ... /濱田/後期 月 1・2.....	140
心理学概論 ... /福森/後期 月 3・4.....	140
はじめての心理学 ... /内海/後期 月 9・10.....	140
心の科学 ... /佐野/後期 火 1・2.....	140
東洋の知識人 ... /霞森/後期 火 9・10.....	141
声に出して読みたい教育哲学 ... /弘田/後期 火 9・10.....	141
罪と悪-旧約聖書の世界- ... /吉田/後期 水 3・4.....	141
心理学初歩 ... /原/後期 水 3・4.....	142
生体の統合機能 ... /勢井/後期 水 3・4.....	142
心理学基礎 ... /境/後期 水 3・4.....	142
現代世界の生涯学習 ... /鈴木/後期 水 3・4.....	142
生命の科学 ... /林/後期 水 3・4.....	143
心理学概説 ... /佐藤/後期 木 3・4.....	143
自己発見の心理学 ... /香川/後期 木 3・4.....	143
生物と環境 ... /佐藤/後期 木 3・4.....	143
科学技術と人間 ... /石田/後期 木 3・4.....	144
自己分析の心理学 ... /山本/後期 木 5・6.....	144
バイオテクノロジーと生命倫理 ... /辻/後期 金 1・2.....	144
動物の生活の科学 ... /中鉢/後期 金 1・2.....	145
学校の現象学:学校はいま? ... /廣渡/後期 金 9・10.....	145

生活と社会

経営学入門 ... /西村/後期 月 3・4.....	146
産業と交通 ... /田中/後期 月 3・4.....	146
国際政治学入門 ... /饗場/後期 月 9・10.....	146
憲法と人権 II ... /上地/後期 火 1・2.....	146
財政制度入門 ... /石田/後期 火 1・2.....	147

全学共通教育 (2009) 後期・【教養科目群】

情報と法 ... /上原/後期 水 3・4	147
社会学概論 ... /櫻田/後期 水 3・4	147
工業経済学 ... /立花/後期 水 3・4	148
マクロ経済学入門 ... /趙/後期 水 3・4	148
国際化と環境問題 ... /北村/後期 水 3・4	148
都市の人間関係 ... /矢部/後期 水 9・10	148
経済と法 ... /泉/後期 木 3・4	149
憲法と人権 II ... /堀井/後期 木 3・4	149
社会科学のための統計学入門 ... /矢野/後期 木 3・4	149
地球環境問題 ... /豊田/後期 木 3・4	150
中東経済入門 (第二次大戦後の政治と経済) ... /水島/後期 木 3・4	150
市民と政治 ... /栗栖/後期 木 5・6	150
ボランティア実践 ... /櫻田/後期 木 5・6	151
憲法と人権 ... /麻生/後期 金 7・8	151
ワーキングプアと現代の貧困 ... /吉田/後期 金 9・10	151

自然と技術

量子論入門 ... /中山/後期 月 1・2	152
防災のための地球科学 ... /西山/後期 月 1・2	152
天然に産する無機化合物 一鉱物 ... /沼子/後期 月 1・2	152
現代物理学の世界 ... /日置/後期 月 3・4	152
化学入門 ... /菊池/後期 月 3・4	153
地球の科学 ... /石田/後期 月 3・4	153
ゼミナール「環境科学入門」 ... /沼子/後期 月 3・4	153
教養としての統計 ... /川野/後期 月 3・4	154
身の回りの地球科学 ... /村田/後期 月 9・10	154
生物資源と化学 ... /西川/後期 水 3・4	154
水産と生物 ... /浜野/後期 水 3・4	155
数理科学の世界 ... /桑原/後期 木 3・4	155
アクティブラーニングで環境から科学を考える ... /齊藤・嵯峨山/後期 水 3・4	155
遺伝と進化 ... /松尾/後期 木 3・4	155
地域の農林水産業とその支援技術 ... /浜野/後期 木 3・4	156
原子核・素粒子物理学の最先端 ... /伏見/後期 木 5・6	156
日本の植物の多様性 ... /山城/後期 木 5・6	156
ゼミナール「バイオと医療」 ... /土屋/後期 金 7・8	156
ゼミナール「くすりをつくるー現代の錬金術・有機化学への招待ー」 ... /吉田/後期 金 7・8	157
災害に備える ... /中野・黒崎・三神・加渡・浜・末澤/後期 金 9・10	157

日本事情

日本事情 II ... (留(留))/坂田/後期 水 3・4	158
日本事情 IV ... (留(留))/三隅/後期 木 3・4	158

1.1 《歴史と文化》 (History and Culture)

歴史と文化 (History and Culture)

古代・中世日本の社会

Ancient and Medieval Japanese History

衣川仁 准教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 平安時代における政治権力の動向や社会の変化について把握し、その意味を歴史的に考える事が出来ることを到達目標に、「院政とその時代」をテーマに講義します。暗記ではなく「考える歴史」を目指し、そこから歴史の面白さを感じ取ることも目的とします。

【授業の概要】 11 世紀末から始まる「院政期」という時代を対象に、その中核にあった政治権力の動きや、古代から中世へと大きな変化を遂げつつある社会について歴史的な意義を考察します。歴史的に考えるために、史料にもとづいて講義したいと思います。

【キーワード】 天皇, 院政, 武士, 寺院勢力

【関連科目】 『歴史と文化/日本の古代史』(0.5, ⇒13 頁)

【到達目標】 平安時代における政治権力や社会の動きを把握し、その意味を歴史的に考えることができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 院政前夜 3. 道長嫡流の争い 4. 後三条の親政 5. 貴族社会の変動 6. 武士の成立と社会 7. 平安時代の戦争 8. 白河の譲位 9. 摂関家の立場 10. 堀河天皇の崩御 11. 治天の君 12. 国王の氏寺 13. 白河の死と鳥羽院政 14. 「大殿」忠実の復権 15. 試験 16. 総括

【教科書】 教科書は使用せず、プリント等を配布します。参考書等は適宜紹介するつもりです。

【成績評価の方法】 主として学期末試験により評価しますが、出席やコメントなど、平素の授業への取り組みも勘案します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 質問は随時受け付けます。批判も歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181314>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時50分~14時20分)

歴史と文化 (History and Culture)

現代日本語の諸問題

Topics in Contemporary Japanese

仙波光明 教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】 日本語の特質を理解し、日本語に関するさまざまな問題に対して、正確な知識にもとづき、正しい道筋で考え、適切な評価・判断が下せるようになることを目的とする。

【授業の概要】 日本語とはどんな言語なのかを、以下の諸観点から概観し、文字・表記に関わる主題を中心に、日本語の特質を検討する。1) 諸言語に例を見ない複数文字体系の使用、2) 日本語の文字の機能、文字と発音との関係、3) 日本語の語彙と表記の関係、4) 日本語の変化と、「正しい」日本語・「乱れた」日本語、等々。

【キーワード】 現代仮名遣い、送り仮名、漢字仮名交じり文、日本語の語種と表記、日本語の乱れ

【到達目標】

1. 日本語 (特に表記) について、正確な知識を身につける。
2. 日本語に関する問題を検討するための調査方法を知る。
3. 正確な知識に基づいて、国語問題、日本語を巡る諸問題に対する意見を表明できる。

【授業の計画】 1. 授業の進め方の説明、現代語の諸問題概観など。 2. 日本語の表記に必要な文字の種類とその数 3. 発音から見た日本語 (1) 古代から中世にかけて 4. 発音から見た日本語 (2) 現代日本語 5. 日本語表記の諸問題 1 日本語はどのようにして文字を獲得したか。 6. 日本語表記の諸問題 2 仮名遣い (なぜ必要になったのか)。 7. 日本語表記の諸問題 3 現代仮名遣いの要点。 8. 日本語表記の諸問題 4 漢字仮名交じり表記に必要な送り仮名。 9. 表記の諸問題 5 外来語の表記の問題 (付:ローマ字表記は簡単か)。 10. 表記の諸問題 6 語種の別 (和語・漢語・外来語・混種語) と日本語表記。 11. 表記の諸問題 7 日本語の文字の役割 (発音との関係) 12. 文字が変えた日本語 (漢字制限のために作られた新語など) 13. 「肉汁 (にくじゅう)」をなぜ「にくじる」と読んでしまうのか。 14. その他 (内容未定。授業の進展状況によって決定する。) 15. 試験 16. 補足など

【教科書】 参考書:『新しい国語表記ハンドブック』三省堂ほか。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト 50%、期末試験 50%の割合で評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業では、毎回小テストを行う。また、カードに授業に関する質問・感想・疑問等を書いて提出してもらう。このデータ (出席状況、質問、感想) は、次回の授業資料に記すかたちで受講生に公開される場合がある。ただし、受講者数などの状況によって不可能になるかもしれない。なお、このシラバス作成から授業開始までに 8 ヶ月の時間があるので、内容及び進度に若干の変更・修正がありうる。詳細については、第 1 回目の授業であらためて説明する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181341>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 17時~18時 総合科学部1号館中棟3階(2319))

歴史と文化 (History and Culture)

ドイツ・北欧の伝説とオペラ

German-Nordic Legend and Opera

石川榮作 教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】 ドイツ・北欧の伝説とオペラに触れることによって、豊かな人間性を培うことを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ・北欧のジークフリート伝説の系譜を辿りながら、ワーグナーのオペラ『ニーベルングの指環』四部作の特質と魅力を探っていきます。

【キーワード】 ドイツ文学、ニーベルング伝説、ニーベルングの歌、ワーグナー、ニーベルングの指環

【先行科目】 『歴史と文化/ドイツの伝説と英雄叙事詩』(1.0, ⇒14 頁)

【到達目標】 ジークフリート伝説の変遷を理解し、ワーグナー『ニーベルングの指環』四部作の特質と魅力を文章で表現することができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (芸術作品の必要性) 2. ジークフリート伝説の生成、北欧におけるジークフリート伝説 3. 『ニーベルングの歌』におけるジークフリート像 (1) 4. 『ニーベルングの歌』におけるジークフリート像 (2) 5. 『ニーベルングの歌』におけるジークフリート像 (3) 6. 16/18 世紀におけるジークフリート像 7. ワグナー『ラインの黄金』 8. ワグナー『ワルキューレ』 9. ワグナー『ジークフリート』第一幕・第二幕 10. ワグナー『ジークフリート』第三幕 11. ワグナー『神々の黄昏』序幕・第一幕 12. ワグナー『神々の黄昏』第二幕 13. ワグナー『神々の黄昏』第三幕 14. 20 世紀におけるニーベルング伝説 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 石川榮作著:ジークフリート伝説ーワーグナー『指環』の源流 (講談社学術文庫) 1050 円

【成績評価の方法】 授業への取り組み (50%) と定期試験 (50%) により、総合的に評価します。

【再試験の有無】 有り

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181302>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日15時から16時まで 石川研究室(総合科学部1号館))

【備考】 ビデオ等をたくさん用います。オペラを大いに楽しんでいただければ幸いです。芸術作品は大いに楽しむことで、私たちの心を豊かにしてくれるものです。

歴史と文化 (History and Culture)

日本図の歴史

Pre-Modern Japanese Maps

平井松午 教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 様々なスケールの「地域」を研究対象とする地理学にとって、「地域」に関する資料をどのように分析解釈するかは、重要な研究手続となる。この授業では、古代から近代までの各時代ごとに描かれた各種の日本図を手がかりに、国土・世界に対する日本人の地理観の一端を紹介するとともに、日本図の変遷にみる科学的側面について歴史地理学的見地から考察していくことも目的としている。

【授業の概要】 授業では、古代から幕末・明治に至るまでの日本を描いた多様な古地図を、プリント、パソコンによるデジタルデータなどを用いて紹介する。取り上げるおもな古地図は、日本およびその周辺地域を題材としたもので、絵図の記載内容や画像表現から、絵図作成の目的や、そこに描かれている地域像・社会背景などについて解説する。

【キーワード】 地理学、歴史地理学、古地図、地理情報システム

【関連科目】 『生活と社会/産業と交通』(0.5, ⇒146 頁)

【到達目標】 絵図が作成されてきた時代ごとの社会背景と技術的發展過程の相互関係が理解できること。

【授業の計画】 1. 見取図と実測図 - 絵図と地図の違い - 2. 古代律令体制と国郡図 3. 最古の日本図「行基図」- 中世の日本図 - 4. 「行基図」と「海山湖陸図」- 近世初頭の日本図 - 5. 「五天竺図」と「世界図屏風」- 日本人の世界観 - 6. 幕藩体制の確立と幕府撰国絵図 7. 近世阿波の国絵図 - 6 期の国絵図 - 8. 国絵図と日本図総図 9. 道中絵図と「改正日本輿地路程全図」- 普及版日本図 - 10. 蘭学の発達と世界地理書の刊行 11. 紅毛流規矩術と実測分間絵図 12. 伊能忠敬の全国測量 13. 「大日本沿海輿地全図」とシーボルト事件 14. 間宮林蔵と北方図 15. 期末試験 16. 「日本図の歴史」授業のまとめ

【教科書】

- 教科書は使用せず、授業の際に資料プリントを配付する。なお、手近な参考図書としては次のものがある。
- 久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補 地図と文化』地人書房、織田武雄『地図の歴史 日本篇』講談社新書

【成績評価の方法】 授業中に数回行う小テストや課題レポート、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験結果による評価を併用して総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 徳島大学附属図書館のホームページ (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>) の「古地図・絵図(貴重資料高精細デジタルアーカイブ)」には、図書館が所蔵する各種絵図(国絵図、伊能図、世界図など)が掲載されているので、参照のこと。なお、平成 15 年度以前に月曜日 13:14 講時の「地理学・地域と地図 II」を履修したものは、夜間主コースで開講している「日本図の歴史」の単位を取得したものは受講できない。

【WEB 頁】 <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181327>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 火曜日 12:00-13:00 地理学(平井)研究室(総合科学部1号館中棟1階))

歴史と文化 (History and Culture)

戦後文学を読む

Reading the Postwar Literature

鳥羽 耕史 准教授
2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 軍隊、会社、役所など、組織の中で生きる個人の姿を描いた小説を読み解く。

【授業の概要】 最初のガイダンスと概説講義の後、週に一編ずつのペースでテキストを読み進める。一方的な講義ではなく、担当者を決めて発表してもらい、出席者それぞれに考えて意見を述べることを求める。

【キーワード】 文学

【関連科目】 『日本文学基礎研究 III (前期)』(1.0), 『日本文学基礎研究 III (後期)』(0.0)

【到達目標】

- 戦後文学と社会との関係について知識を深める。
- 文学について自ら考察し、考察内容を言葉で表現できる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 戦後文学についての概説 3. 中山義秀「あやめ太刀」 4. 梶山季之「族譜」(1) 5. 梶山季之「族譜」(2) 6. 中野重治「第三班長と木島一等兵」 7. 新田次郎「八甲田山」 8. 富士正晴「足の裏」 9. 城山三郎「調子はすれ」 10. 佐多稲子「疵あと」 11. 黒井千次「椅子」 12. 石原慎太郎「院内」 13. 辻原登「松籟」 14. まとめ 15. レポート 16. 総括

【教科書】

- 教科書:講談社文芸文庫『戦後短篇小説再発見 17 組織と個人』講談社、2003 年、998 円(税込)
- 教科書は第 1 回の授業までに生協・書店などで購入しておいて下さい。

【成績評価の方法】 出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での発表と議論への参加、学期末レポートの結果により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 必ず次回のテキストを読み、わからない部分はできる範囲で調べてから授業に臨むこと。受け身の姿勢で教わるのではなく、自分で読み、考える姿勢を持つ学生を歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181318>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鳥羽 (2326, toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 13時30分~14時30分 総合科学部1号館3階2326号室)

歴史と文化 (History and Culture)

考古学概論 II

Outline of Archeology II

中村 豊 准教授 / 埋蔵文化財調査室
2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 日本列島は、温暖・湿潤な照葉樹林帯に属する西南日本と、温帯落葉広葉樹林が大半を占める東部日本に分かれ、それぞれの風土に応じた多様な歴史を展開してきた。この講義では、従来の一国的な歴史像ではなく、「風土」に着目した新たな歴史像を、考古学の成果から学ぶことを目的とする。

【授業の概要】 まず日本列島とそれをとりまく地域における気候や植生の特徴を把握する。次に、過去 1 万年間の気候変化を押さえ、日本列島内での気候・植生区分を見て、多様な生態を把握する。これをふまえた上で、旧石器時代から順に、縄文時代、弥生時代、古墳時代の順に、考古学からみた歴史像をえがいていく。従来の生産力発展の理論に則った一国的な歴史像を描くだけなのではなく、人びとが、多様な生態とどのように関わりを持って来たのかをふまえた上で論じていく。なお、理解を助けるために、パワーポイントなど映像資料を用いる予定である。

【キーワード】 日本考古学、風土、気候、生態、多様性

【関連科目】 『歴史と文化/考古学概論 I』(0.5, ⇒15 頁), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 I』(0.5, ⇒17 頁), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 II』(0.5, ⇒136 頁)

【到達目標】

- 日本列島をとりまく気候・風土を理解する。
- 旧石器時代～古代の日本考古学のアウトラインを理解する。
- 生産様式の発展とは異なる、人間と生態系とのかかわりの歴史を理解する。

【授業の計画】 1. いま、なぜ日本考古学を学ぶのか 2. 東アジアの生態的特徴と日本列島 3. 気候風土から日本列島のなかに多様な生態をみる 4. 生産様式の発展からみた考古学的歴史像とその問題点 5. 自然環境と人間とのかかわりからみた考古学的歴史像 6. 旧石器・縄文時代初期の日本列島 7. 縄文時代の気候変化および列島東部と列島西部の地域性 8. 農耕の起源と展開―「革命」ではなく「過程」として― 9. アジアの農耕からみた水田稲作 10. 縄文から弥生へ 1―大陸文化の導入― 11. 縄文から弥生へ 2―社会・文化の変化― 12. 弥生時代の食生活―本当に稲穂はゆれたのか― 13. 「邪馬台国」の時代 1―その前夜― 14. 「邪馬台国」の時代 2―謎の女王卑弥呼― 15. 前方後円墳の時代 16. まとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、学期末のレポートにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 考古学に興味のある学生なら、学部・専攻分野・文系理系にかかわらず受講を歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181345>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後に随時、埋蔵文化財調査室(蔵本地区、看護師寮1階東側)で随時)

歴史と文化 (History and Culture)

民族音楽入門

Introduction to Ethnological Music

片岡 啓一 教授
2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で、しかも変化に富んだものである。多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し、世界中にはさまざまな音楽が存在している。この授業では、民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し、そのことを通じて、音楽文化・音楽の本質等について一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている。

【授業の概要】 民族音楽学的な視点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義。

【キーワード】 民族音楽学、民族音楽、民族性、音楽文化、異文化理解

【到達目標】 世界にはさまざまな音楽文化が存在すること、それらはそれぞれの国の民族性と深く結び付いていること等を自覚し、音楽文化全般に対して深い興味と関心を抱く。

【授業の計画】 1. 授業の目的のところ述べてきたことを具現するために、講義の説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる。
2. 1. 授業の趣旨説明を行い、現代の音楽の特徴について言及する。
3. 2. 日本の音楽、4. 3-4. 東アジアの音楽、5. 5. エスキモーの音楽、6. 6-8. 東南アジアの音楽、7. 9-10. インドの音楽、8. 11-13. 西アジアの音楽、9. 14. アラブの音楽、10. 15. 試験期間であるが、試験は行わずレポートを提出してもらう。11. 16. 総括授業。これまでに行ってきた授業内容を総合的に振り返って、全体的なまとめとか意見交換等を行う。12. 以上の授業計画は、できるだけ予定通りに実施したいと考えているが、若干予定がずれる可能性はあるので、その点はあらかじめご了承ください。

【教科書】 この授業では教科書等は使用しない。

【成績評価の方法】 試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者のメッセージ】 同授業は、前期・金曜・1-2 講時と後期・月曜・3-4 講時の2回にわたって開講する。授業は、総合科学部内マルチメディア A 棟1階の「音響スタジオ」で実施し、受講者数は、部屋の広さの関係からそれぞれの授業において50名以内とする。2つの授業は全く同一なので、重複履修は認められない。又、総合科学部の学部専門科目で「芸術文化論」(平成21年度入学の学生のための授業名称、平成20年度以前に入学した学生のための授業名称では「世界の諸民族の音楽」)が開講されているが、その内容は同授業と相当程度重複するので、総合科学部の学生で上記の授業を受講する予定の者は、この授業は受講しないようにすること。それから、先行科目・関連科目についてはとりたてて指定したくないので、掲載しないままにしておいた。その点ご了承いただきたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181336>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 片岡(201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー 後期 木曜の昼休み、片岡啓一研究室(マルチメディアA棟2階))

【備考】 同授業は、2009年度(平成21年度)は、後期・月曜・3-4 講時に開講する。なお同授業は、前期・金曜・1-2 講時にも開講するが、内容は全く同一なので、重複履修は認められない。その点、誤解のないよう充分に注意すること。それから、今年度は試験を含めて全部で16回分の授業が予定されている。この授業では、15回分の試験(16回分は総括授業)のかわりにレポートを提出してもらうことによって単位を出す予定である。勿論、授業への出席状況とか受講姿勢等も総合的に評価する。

歴史と文化 (History and Culture)

資本主義の歩み

History of Capitalism

中嶋信・教授

2 単位 後期 月 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 人類社会の歴史的な変化を正しくとらえるには、社会科学とりわけ経済学の知識が欠かせない。この講義の目的は経済学にもとづいたものの見方・考え方を提供することにある。気まぐれに見える社会現象も自然現象と同じように客観的な法則に支配されている。その法則を理解することにより、社会の仕組みと運動を解明することができる。さらに、人類社会の長期見通しも得ることができる。社会の運動を大局的にとらえる力を身につけよう。

【授業の概要】 この講義では資本主義の発展経過に即して、それぞれの段階の基本骨格とそれを変動させる契機を検討する。資本制社会は決して安定したシステムではなく、絶え間なく変動している。またその変化は資本制社会の内的な論理に基づいている。つまり、資本制そのものをひとつの運動体としてとらえることができる。この講義はその運動を概観しながら、資本制社会の歩みについての大きな履歴書を描く。進め方は下記の通り。

【キーワード】 資本主義、経済史、史的唯物論

【到達目標】

1. 経済学の基礎概念を理解し、使えるようになること。
2. 社会現象を規定する法則を理解し、資本主義の発展過程に応用できるようにすること。

【授業の計画】 1. なぜ経済史を学ぶのか 経済学の課題とこの講義の進め方 2. 社会の骨格と経済学の言葉 経済社会の発展に関する諸理論 3. 人類史を動かすエネルギー 社会構成体の変動 前近代の経済構造 4. 中世と[自由]の芽生え 封建制社会の解体と資本主義の形成 5. 自由競争の社会 資本制社会の誕生 市民革命の時代 6. 産業革命と農村社会の変貌 農業面での資本主義の発達=農業革命 7. 機械制大工場の労働者達 資本主義の発展と労働者階級の成長 8. 「自由と平等」の分裂 資本制矛盾の拡大 社会問題の激化 9. 国境を越える競争と対立 帝国主義と社会主義の対立と世界戦争 10. 大恐慌と資本主義の変容 大恐慌の意味 現代資本主義の骨格 11. 大戦後の世界経済の再編 世界資本主義体制の形成と変容 12. 世界資本主義体制の変容 冷戦構造の解体と新国際経済秩序 13. 経済学と二つの経済像 経済学の現代的課題と分析の方法 14. 現代社会の位置と課題 経済の発展構造をめぐる論争 15. 筆記試験 16. 質疑応答と授業全体のまとめ

【教科書】 テキストは用いず、プリントに従って進めます。進行に沿って参考書を紹介します。

【成績評価の方法】 二つの試験を総合して認定。出席状況で補正します。 <中間試験> (4)~(10)を概括するテーマのレポート提出、 <期末試験> (1)~(3)(12)~(14)を概括するテーマの筆記試験

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 専用ファイルを準備し、レジュメ・ノート・関連資料などをまとめて私的テキストをつくること。経済社会のダイナミズムを自分の頭でとらえよう。 <The Sense of Wonder> を磨きあおう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181348>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中嶋(総合科学部1号館2218室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 総合科学部1号館中棟2階に日本経済史研究室があります。随時、相談に応じます。質問や面接予約にはメール、電話・ファクスを利用して下さい。)

歴史と文化 (History and Culture)

江戸時代後期の社会変動と明治維新

History of Late Edo

桑原恵・教授

2 単位 後期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史学は、過去に人間が社会をどのようにつくり、そのときの社会が抱える問題を解決してきたかを知ることのできる学問である。社会の組織やそれぞれの社会の通念などは、個々の人間から見れば、既成のものようであるが、歴史的に見れば、すべて人間が作り上げたものである。講義では、歴史学を単なる暗記の学問として、過去の研究成果から得られた通説的理解のみを学生に講義することはない。史料に基づいて、歴史学的に物事を考察する方法を講義したいと考えている。

【授業の概要】 本講義では、歴史をこのような観点から捉え、江戸時代後期の社会変動と明治維新の過程について講義する。講義では、出来る限り史料を提示し、その意味と歴史的意義付けについて説明しながら、講義を進めていく。そして、幕末の変革期に展開する政治運動の様相についても考察したい。

【キーワード】 江戸時代、明治維新、社会の変化、民衆の思想

【到達目標】 江戸時代後期の社会問題を理解し、明治維新へと進む社会の様相について、史料に基づきながら理解する。

【授業の計画】 1. 本講義について講義の進め方と江戸時代の概要 2. 武士階級から見た幕藩体制の動揺と社会問題 3. 経済の進展と社会の変化-変化の要因- 4. 幕府の経済政策-享保改革-田沼期の政治- 5. 100万人の人口を抱える江戸の社会問題 6. 寛政の改革と都市政策 7. 江戸時代後期の農村-商業的農業の展開と農村- 8. 江戸時代後期の農村-災害・飢饉と農村- 9. 社会不安の増大-「家」存続の危機- 10. 不安に対処する思想-農村復興の思想- 11. 尊王思想の登場-水戸学・国学について- 12. 尊王思想の展開と天皇の政治性の高まり 13. 幕末期の政治-京都を中心とした政局の展開- 14. 志士の活動と明治政府の成立 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は、指定しない。授業中使用するプリントと資料は適宜配布する。
- ◇ 参考となる本は、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】 講義中に抜き打ちで行う小テストもしくは、期末試験の結果をもとに評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講者のメッセージ】 暗記中心のテストは実施しない。理解しやすい講義とするために、受講生の質問なども歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181338>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原(088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11時50分から12時50分 総合科学部1号館3階)

歴史と文化 (History and Culture)

ヨーロッパ世界の展開

Early Modern History of Europe

佐久間亮・教授

2 単位 後期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 高校までの歴史の勉強では、年号、人名などの暗記に四苦八苦してきたこととおもう。ただ、歴史の醍醐味は、教科書に書かれている事実をひたすら修得することではなくて、歴史上の事実をさまざまな視点から位置づけ、評価しなおしてみることにある。だから、歴史を見る人それぞれの立場で、教科書とは別のいろいろな歴史を描くこともできるのである。この授業ではヨーロッパの近代史(16世紀~18世紀)を概論するが、いろいろな観点から歴史を描くことができること、その一例を示すことを目的とする。

【授業の概要】 ヨーロッパ近代史がどのような過程を経て今日の世界のようになったのかについて、二つの見方を提示したい。一つは、ヨーロッパの近代史は、その当初からヨーロッパ以外の世界との関係をもつことではじめて成立したのだという事。つまり、ヨーロッパ近代史はヨーロッパ内部で起こった出来事を羅列すれば理解可能だと考えないということである。もう一つは、ヨーロッパと外部世界をむすびつけたモノを重視して歴史を眺めるということである。とりわけヨーロッパ近代史にとって重要なのは植物資源であった。紅茶やコーヒーに砂糖やミルクを入れて飲むという喫茶の習慣は、ヨーロッパにもと

もとあったのではなく、むしろ、ヨーロッパ人がこの風習を身につけていく過程こそがこれらの近代史なのである。そして、これらの重要な植物資源を求めて、ヨーロッパ人は外部世界との結びつきを深めていく。なぜならば、これらの重要な資源はいずれも熱帯植物であり、ヨーロッパでは生育しないモノばかりだったからである。

【キーワード】 世界システム、異文化接触、近代化、植物資源、喫茶文化
 【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5), 『歴史と文化/中東経済入門 (歴史と文化基盤)』(0.5), 『歴史と文化/20世紀前半の中国』(0.5)

【到達目標】
 1. 現代社会の成り立ちを歴史的なパースペクティブから理解できる
 2. 歴史像の多様性について理解を深める

【授業の計画】 1. ヨーロッパ近代の幕開け-ルネッサンス、宗教改革、大航海時代- 2. 胡椒をもとめて (1)-レコンキスタと黄金- 3. 胡椒をもとめて (2)-ヨーロッパとアジア、アメリカの接触- 4. コロンブスの交換 (1)-植物の大移動- 5. コロンブスの交換 (2)-プラント・ハンターの時代- 6. 砂糖はクフルランにしたがう (1)-イスラム教徒と魅惑の白砂糖- 7. 砂糖はクフルランにしたがう (2)-十字軍とヴェネチアの商人- 8. 砂糖はクフルランにしたがう (3)-地中海から大西洋へ- 9. 砂糖はクフルランにしたがう (4)-カリブ海地域の運命- 10. ヨーロッパ喫茶文化の成立 11. 『ロビンソン・クルーソー』とイギリスの西方植民 12. エコロジヤ危機としての16世紀 13. イギリス「商業革命」(1)-「ピューリタン革命」とカリブ海植民地- 14. イギリス「商業革命」(2)-産業革命への道- 15. 期末試験 16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】 参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度と、学期末テスト(論述形式)で評価する。

【再試験の有無】 再試験はおこなわない。

【受講へのメッセージ】 大学受験で世界史を選択した者を想定して授業をすすめる。そうでない者は、あらかじめヨーロッパの近代史に関する概説書を読んでおくことが望ましい

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181304>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 佐久間 (2327, 088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

歴史と文化 (History and Culture)

東アジア考古学概論 II

東潮 教授
 Outline of East Asian Archaeology 2
 2単位 後期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 東アジアにおける3~8世紀の諸国家・諸民族の国際関係についてみる。

【授業の概要】 3~8世紀の東アジアの国際関係について考古資料を中心として講ずる。七支刀、広開土王碑、『宋書』倭国伝の武の上表文、任那四県割譲問題、白村江の戦いなど古代史上の争点について検証する。

【キーワード】 倭、加耶、広開土王碑文、任那四県

【関連科目】 『歴史と文化/考古学概論II』(0.5, ⇒134頁)

【到達目標】 歴史における事実、史実とは何かを考える。

【授業の計画】 1. 3世紀の東アジア 2. 帯方郡から邪馬台国 3. 4世紀の東アジア 4. 七支刀をめぐる国際環境 5. 5世紀の東アジア 6. 広開土王碑をめぐる国際環境 7. 倭の五王と巨大前方後円墳 8. 東アジア諸国の王権と王陵 9. 6世紀の東アジア 10. 倭と百済の国際関係-「任那四県割譲」と「任那復建」問題 11. 7世紀の東アジア 12. 飛鳥京時代と百済 13. 藤原京時代と新羅 14. キトラ・高松塚古墳壁画をめぐる国際環境 15. 試験 16. 8世紀の東アジア

【教科書】 なし

【参考書等】
 ◇ 東潮 2006 『倭と加耶の国際環境』吉川弘文館
 ◇ 山尾幸久 1999 『筑紫君磐井の戦争』新日本出版社

【成績評価の方法】 学期末試験による。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181334>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 総合科学部1号館3階考古学研究室で随時おこなう。)

歴史と文化 (History and Culture)

アメリカ社会の諸問題

西出 敬一 教授
 Current Issues in American Society
 2単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 アメリカの近代史の延長として現在のアメリカ社会をとらえて、様々な社会現象を歴史的視点を踏まえながら分析する。

【授業の概要】 アメリカの歴史的体質が社会的な諸矛盾となっておりながら、いくつかの事象を取り上げて、争点を明確にして具体的に検討する。その際、最新の新聞記事からの情報を提供することで、生の事実を素材にしたい。

【キーワード】 アメリカ社会、自由主義、民主主義

【到達目標】 アメリカ社会を歴史の過去との文脈の中で理解する。

【授業の計画】 1. アメリカの理念-自由主義と民主主義- 2. 国民の統合と自由主義-国旗論争- 3. 教育と信仰の自由-進化論教育論争- 4. 伝統的家族の変貌-離婚文化- 5. キリスト教倫理と自由主義-妊娠中絶論争- 6. 同性愛と結婚-同性婚論争- 7. ゆとり教育の変貌-学力主義- 8. 大衆教育理念の崩壊-大学学費の高騰- 9. 移民国家のジレンマ-不法移民論争- 10. バイリンガル-英語公用語化論争- 11. 貧困と福祉-ワークフェア政策- 12. 犯罪と自由-銃論争- 13. 差別解消とアファーマティブ-逆差別論争- 14. 経済大国の内部危機-肥満社会- 15. 禁欲主義と自由主義-たばこ論争- 16. アメリカ史とアメリカ社会

【成績評価の方法】 毎回のレポートを重視する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 毎回の講義内容について自分の見解をまとめられるようにして下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181299>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 西出 (088-656-7158, nishide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月・水 午後1:00~2:30)

歴史と文化 (History and Culture)

日本中近世文学 II

Medieval Japanese Literature 2
 原水 民樹 教授
 2単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 軍記物語の代表作『平家物語』の講読を通して、動乱の世に生きる人々の姿を追うとともに、物語の世界を味読することを目的とする。

【授業の概要】 平家物語の主立った段々を講読しながら、全体の筋をも辿る。

【キーワード】 平家物語、歴史と虚構、平清盛、軍記物語

【到達目標】 平家物語の講読を通して代表的な日本古典文学への理解が深まる。

【授業の計画】 1. 平家物語についての基礎的知識の説明(成立の状況・作者・異本など) 2. 平家の興隆と悪行 3. 鹿谷事件の顛末 4. 高倉宮のクーデター 5. 頼朝挙兵の経緯 6. 清盛死去 7. 平家都落ち 8. 木曾義仲の敗北 9. 一谷の合戦 10. ビデオ及び平曲鑑賞 11. 平維盛入水 12. 屋島の合戦 13. 平氏滅亡 14. 平氏滅亡後及びまとめ 15. テスト 16. 総括

【教科書】 教科書『平家物語新抄』 双文社出版 2005年 1600頁

【成績評価の方法】 学期末試験・毎回の質疑の内容・受講姿勢を総合して判断・評価する

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 文学という存在を少しは真面目に考える学生、日本の歴史・古典文学に関心のある学生に受講してもらいたい。単位取得だけが目的の学生には退屈で辛いだけ。毎回、講義内容についての質疑を課す。教科書を購入しない者は受講を認めない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181323>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 原水 (1棟3階中棟2322, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 水曜日 12時~13時 原水研究室(総合科学部1号館3階), メール無し)

歴史と文化 (History and Culture)

沖縄社会文化論

Okinawan Society and Culture
 高橋 晋一 教授
 2単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『文化人類学』)

【授業の目的】 これまで沖縄の文化・社会は、日本との関わりにおいて言及されることが多かった。しかし沖縄は古くから日本のみならず、より広大な東アジア・東南アジア世界と結びつきを持ち、それらの地域との密接な交流のなかで、独自の社会・文化・民俗を作り上げていったのである。本講義では、従来の「日本文化と沖縄文化」という視点にとどまらず、「アジアの中の沖縄」(さらには「世界の中の沖縄」)というより広い視点から、現代の沖縄の文化・社会の姿を見つめ直して

みたいと考えている。また、沖縄という一地域の事例を通して「文化人類学的なものを見る」に対する理解を深めることも、本授業の大きな目的の一つである。

【授業の概要】 毎回、祭り、音楽、食文化など具体的なトピックを取り上げつつ、「アジアの中の沖縄」(さらには「世界の中の沖縄」)という視点から、沖縄の文化と社会の基層構造(沖縄文化・沖縄社会の本質)を解明していく。

【キーワード】 沖縄、文化、アジア、文化人類学、民俗学

【関連科目】 『歴史と文化/異文化/自文化研究へのいざない』(0.5、⇒13頁)

【到達目標】 沖縄の文化・社会の持つ特質を、文化人類学的な概念・理論をふまえながら理解することができる。

【授業の計画】 1. はじめに-沖縄文化・社会をとらえる視点 2. 「海上の道」は時空を超えて-沖縄の自然・歴史と文化 3. 祖霊が見守るシマ-沖縄の村落構造と世界観 4. 墓を生きる人々-沖縄の家族・親族と祖先崇拜 5. ニライカナイ(海上他界)と仮面来訪神-沖縄の祭りと芸能 6. 神になった女性-沖縄の女性祭司の世界 7. 琉球音階は黒潮に乗って-伝統音楽から沖縄ポップスまで 8. ウチナンチュ(沖縄人)の見た沖縄-沖縄映画の世界 9. 創り出される「ちゃんぶる一文化」-沖縄の地域イメージと観光文化の展開 10. 食のクロスロード-沖縄の食文化にみる外来文化の影響 11. 環東シナ海の文化交流-沖縄における中国の習俗 12. 「沖縄」を踊る-在阪沖縄人社会の「エイサー」をめぐる 13. 中国文化を生きる-石垣島の華僑社会の事例より 14. 東アジア世界へのひろがり-沖縄の風土 15. レポート提出 16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 外間守善『沖縄の歴史と文化』中公新書、1986年
- ◇ 赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社、2003年
- ◇ 多田治『沖縄イメージの誕生』東洋経済新報社、2004年
- ◇ 渡邊欣雄『世界のなかの沖縄文化』沖縄タイムス社、1993年
- ◇ 『アジア遊学』53号(特集=沖縄文化の創造) 勉誠出版、2003年
- ◇ 嘉手川学編『沖縄チャンプルー事典』山と溪谷社、2001年

【成績評価の方法】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではDVD、CD、パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181339>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高橋(1314, 088-656-7126, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 水曜日 12時~13時 高橋研究室(総合科学部1号館3階))

歴史と文化 (History and Culture)

日本古代文学 II

Ancient Japanese Literature 2

堤和博 准教授
2単位 後期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成16年度以前(保保は17年度以前)の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 これからの人生を送っていくなかで、種々多様な文学作品に接することは、色々な面において有意義なものとなるはずである。しかし、日本古典文学を読むとすると、言葉が現代語と違うのは勿論のこと、何かと取り付きにくいものである。そこで、日本古典文学史上の主要な作品群である平安時代の和歌を取り上げ、古典文学作品読解の基本を身につけることを目的とする。以上のことに加え、文章力を養うことも目的とする。

【授業の概要】 文学作品の読解とは表面上の意味を読み取る(古典で言えば単に現代語訳する)だけではすまされないのは勿論である。作品の成立した過程やその時代の状況、あるいは登場人物の人物像などを考慮に入れたら、作者が真に訴えたかったことを慎重に読み取っていかなくてはならない。つまり、和歌に限らず文学作品はそれが生み出された時代の文化や政治などと不可分なのである。平安時代について言うと、平安時代初期、日本は中国文化の影響を強く受け、その後遣唐使の廃止などに伴って国風文化といわれるものが花開く。また、政治的には摂関制、院政、武家政権と移っていく。そんな時代背景のもと、平安時代の和歌史がどう展開していったかを跡づけることを目的とするが、政治史との関わりに特に重点をおく。平安時代には『古今集』をはじめとして勅撰和歌集がいくつ編まれた。授業は勅撰和歌集が編まれた頃を焦点に時代区分して進めていく。

【キーワード】 勅撰和歌集、日本古典文学、日本古代史

【関連科目】 『歴史と文化/古代・中世日本の社会』(0.5、⇒133頁)

【到達目標】

1. 平安時代のそれぞれの和歌が詠まれた頃の時代や作者の状況を把握した上でその和歌を読解する過程及び結果が理解できる。
2. 1で理解した内容をわかりやすく文章化できる。

【授業の計画】 1. 全体的な説明 2. 『古今集』成立迄 その1-詠み人知らずの歌 3. 『古今集』成立迄 その2-六歌仙の歌 4. 『古今集』時代 その1-紀貫之等の歌 5. 『古今集』時代 その2-伊勢等の歌 6. 『古今集』時代 その3-その他有力歌人の歌 7. 『後撰集』時代 その1-撰撰家の歌 8. 『後撰集』時代 その2-専門歌人等の歌 9. 『後撰集』時代 その3-歌物語的な歌 10. 『拾遺集』時代 その1-藤原公任等の歌 11. 『拾遺集』時代 その2-花山院等の歌 12. 『拾遺集』時代 その3-和泉式部等の歌 13. 勅撰和歌集空白の時代 その1-能因等の歌 14. 勅撰和歌集空白の時代 その2-相模等の歌 15. レポート作成、または、テスト 16. 総括授業

【教科書】 無し

【参考書等】 授業中に適宜配布、提示する。

【成績評価の方法】 数度の小レポートと期末試験(記述式)の合計点に欠席状況(注)を加味する。注・授業には出席するのが当然なので、出席しても加点しないが、欠席すると減点する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 特に歴史に関する事柄は欠かさず聴講しないと理解しにくいので、やむを得ず欠席した場合は、個別に質問に来ること。なお、欠席以上無断で欠席した者は、受講の意志を無くしたものとみなす。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181326>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堤(1315, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎月 月曜日 10時10分から11時55分 国文学研究室(総合科学部1号館3階)年度内に変更予定)

歴史と文化 (History and Culture)

方言と社会

Japanese Dialects and Society

岸江信介 教授
2単位 後期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成16年度以前(保保は17年度以前)の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】 ことばと地域、ことばと社会のそれぞれの関わりという点から考え、方言の特色について学ぶ。自分がこれまでに使ってきたことばについて振り返り、ことばに対する興味をさらに深めていただきたい。

【授業の概要】 前半では東西日本の方言の対立について言語地図を紹介しながら概説する。後半では西日本の代表格である大阪のことばについて取り上げ、大阪府の方言分布について学ぶ。また、大阪方言と四国方言、とりわけ徳島方言との比較を行い、類似点と相違点について具体例をあげて解説する。方言と社会との関連では、特に敬語を取り上げ、大阪方言と徳島方言での敬語の違いについて解説を行う。

【到達目標】

1. 日本の諸方言について学習する。
2. 方言と社会とのかかわりについて学ぶ。

【授業の計画】 1. 方言とは何か、方言の成立について考える。 2. 方言は消滅するか、危機言語について考える。 3. 日本の方言について考える (1)-東西方言の対立- 4. 日本の方言-方言敬語にみられる全国分布- 5. 社会とことば-敬語を題材として- 6. 西日本における関西中央部方言の位置づけ 7. 大阪語とは何か 8. 大阪のことば地図 (1)-ことばの地域差・世代差・男女差- 9. 大阪のことば地図 (2)-「ことば地図を読む」語彙編- 10. 大阪のことば地図 (3)-「ことば地図を読む」文法編 1- 11. 大阪のことば地図 (4)-「ことば地図を読む」文法編 2- 12. 大阪のことば地図 (5)-「ことば地図を読む」音声編- 13. 大阪のことば地図 (6)-大阪方言の四国方言への影響- 14. 大阪のことば地図 (7)-大阪方言と四国方言の類似性- 15. 大阪のことば地図 (8)-近世上方語と四国方言- 16. まとめ

【教科書】 岸江信介・中井精一・鳥谷善史『大阪のことば地図』(和泉書院)2009年9月刊行予定

【成績評価の方法】 出席(30%)、レポート(60%)、ミニ調査(10%)の割合で評価する。*ミニ調査とはインターネットや図書館などで用語調べや資料収集を行うこと。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業への出席を重視する。ことばに対する質問などをカードに記載し、提出してもらいたいことがある。自分のことばを振り返るために談話資料の作成をレポートとして課する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181319>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸江(088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~13時 総合科学部1号館中棟3階(2307))

【備考】 社会人ボランティアの参加要請(10名程度)・・・大阪弁や徳島弁など、地域方言に興味がある方で授業補助をして下さる社会人ボランティアの方を募集しています。

歴史と文化 (History and Culture)

中国における死者再生譚

Chinese Literature; Return to Life

有馬 卓也 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】本授業は中国の様々な資料 (文学・思想・歴史・画像) などを通して、古代中国の人々の文化や意識を、テーマ別に論じるものである。そして、文化を通して、人間理解へと至ることを目的とする。

【授業の概要】一度死んだ者がよみがえる、それは残された遺族のはかない願いであることもあれば、恐怖の対象であることもある。また時には死後の世界を説くための宗教的法話の一類型であることも多い。本講義では古代中国の死者再生譚を読みながら、中国古代文化を考えていくものである。

【キーワード】道教、仏教、中国文化

【到達目標】死者再生をテーマとした中国小説を通して、古代中国を理解するとともに、古今を通じて変わることのない人間の基本的性情を理解する。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. I 中国文化系 1 異空間としての棺桶 3. I 中国文化系 2 冥界の見えざる手 4. I 中国文化系 3 冥界のシステム 5. I 中国文化系 4 他者の身体を借りて 6. I 中国文化系 5 要求される金品 7. I 中国文化系 6 スカウトされる人々 8. II 仏教系 1 地獄の風景 (1) 9. II 仏教系 2 地獄の風景 (2) 10. II 仏教系 3 信仰のはてに (1) 11. II 仏教系 4 信仰のはてに (2) 12. III 雑糅系 13. その他 14. まとめ 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】毎回プリント (漢文) を配布する。参考書は随時提示する。

【成績評価の方法】期末にテストを行う (漢文の読みや知識を問うような問題は出さない)。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】授業中の私語厳禁。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181307>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp)

歴史と文化 (History and Culture)

写真画像保存技術概論

Introduction to Photographic Technique

石井 健二 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】表現された写真画像の歴史的背景や表現方法の識別を目的とする。

【授業の概要】19 世紀中期以降、現在までに表現された写真画像を教材とし、画像の識別方法についても講義する。

【キーワード】画像保存

【関連科目】『歴史と文化/ビジュアルコミュニケーション』(0.5, ⇒19 頁)

【到達目標】表現された写真画像の識別と時代背景についての認識を深める。

【授業の計画】1. 本講義では、ミュージアムに於ける写真画像について検討を行う。19 世紀中期以降現代に至るまでに表現された、写真画像を教材として、画像の識別方法について検討をおこなう。2. 受講生による発表を中心に授業を進める 3. 21 世紀における画像保存の現状とその必要性について 4. 写真撮影と撮影画像の利用方法について 5. ハウジング実習とその必要性について 6. 写真画像の劣化と古文書の管理方法について 7. コンディションレポートの書き方について 8. コンディションレポート作成 9. 写真画像の識別方法について 10. 白黒フィルムを使った、オブジェの撮影実習 11. 白黒フィルム処理について 12. カラーフィルムを使った、オブジェの撮影実習 13. カラーフィルム処理について 14. 作品の展示方法について 15. レポート提出の締め切り 16. 総括授業

【教科書】教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】講義の中で配布する。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】行わない。

【受講者へのメッセージ】総合科学部の学生は受講できません。講義は総合科学部マルチメディア A 棟 1 階芸術講義室にて行う。30 人で締め切る。写真画像保存に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181313>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み)

【備考】◇開講学期:後期 ◇2009 年度は、木曜日 3・4 講時開講 ◇教養科目の単位となります。

歴史と文化 (History and Culture)

西洋音楽の歴史

History of Classical Music

宮澤 一人 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】西洋音楽の約 1000 年の長い歴史を理解し、それぞれの時代の音楽が持つ固有の美しさを体感する。

【授業の概要】先ず、西洋音楽史全体の流れを説明し、その後重要な時代や作曲家を取り上げて、それぞれの作品を鑑賞する。 [公開] ○要件:

【到達目標】音楽史の全体を理解し、それぞれの音楽が持つ魅力や美しさについて、文章等での確に表現する技術を身に付ける。

【授業の計画】1. 西洋音楽史の全体像、および中世の音楽 2. ルネサンスの音楽 3. バロック音楽 4. J.S. バッハ 5. ハイドンと交響曲の完成 6. モーツァルト 7. ベートーヴェン 8. ベートーヴェンと「交響的概念」 9. シューベルト 10. ベルリオーズと楽器の発展 11. ドイツ・ロマン派音楽 12. ワグナー 13. ブラームス 14. 20 世紀の音楽 15. レポート提出 16. 総括授業

【教科書】教科書は使用しない。参考書等は授業の時に紹介する。毎回授業内容についての資料を配布する。

【参考書等】岡田暁生『西洋音楽史』中公新書 1816 ISBN4-12-101816-8

【成績評価の方法】授業中に指示するレポートの内容、授業への取り組み状況により決定する

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】音楽に興味を持ち、静かに鑑賞できること、また授業中に楽譜を用いて説明を行うこともあるので、楽譜が読めることが必要である。教室の都合により、受講生を 50 名に限定する。この講義の内容は、前期の「西洋音楽の歴史」と同じである。従って前期にこの講義を受講した学生には、後期分は受講できない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181347>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み(研究室に在室中は特別な場合を除き対応可能))

【備考】後期、木曜日 3~4 講時

歴史と文化 (History and Culture)

絵画表現と技法の応用

Painting: Expression and Applied Technique

平木 美鶴 教授

2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】描く基礎としてデッサンがある。デッサンは、物を観察し、紙に写し取る事であるが、描けそうで上手く描けないという経験は誰にでもあるのではないだろうか。三次元の世界を二次元である紙の上に形や空間を写す事は、高度な技を必要とするが、案外と難しく頭で考えるよりも無心となって描いた方が、上手く描ける場合も多い。描く時のちょっとした頭の切り替えて飛躍的に描写する力を上げる事ができる。この授業では、絵画基礎理論を実習しながら学ぶ。

【授業の概要】絵画の基本技術をデッサンや水彩を描く事で身に付ける。

【キーワード】絵画、美術、芸術

【関連科目】『歴史と文化/絵画表現と技法の基礎』(0.5, ⇒19 頁)

【到達目標】絵画の基本技術を知り、実践できる。

【授業の計画】1. 描写の基本について 1 2. 描写の基本について 2 3. スペースの知覚を応用した静物画 4. スペースの知覚を応用した風景画 5. スペースの知覚を応用した人物画 6. 修正輪郭画法による描写について 7. 修正輪郭画法に明暗を入れる。 8. 明暗法について 9. 水彩による風景画 1 10. 水彩による風景画 2 11. 水彩による人物画 1 12. 水彩による人物画 2 13. 水彩による人物画 3 14. 水彩による人物画 4 15. 修正輪郭画法による課題 16. まとめ

【教科書】

◇教科書は、使用しない。適宜プリントを配布する。

◇準備物としてスケッチブック (B4~ A3 サイズ)、水彩の道具一式、鉛筆 (HB,2B) が必要である。

【成績評価の方法】毎回の授業で描いた作品や授業感想等の提出を求める。レポートなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】絵画に興味のある意欲的な学生を望む。前期開講の「絵画と表現技法 I」を履修している事が望ましい。実技実習のため、教室は、マルチメディア B 棟 1 階、メディア・アート実習室を使用する。そのために人数制限を 30 人とする。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181344>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

全学共通教育 (2009) 〉 後期・【教養科目群】・《歴史と文化》

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期木曜日, 12時~13時, マルチメディアB棟1階)

【備考】 教室は総合科学部マルチメディア B 棟のメディアアート実習室で行う。教室の都合で 30 名の受講者制限をする。

1.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学入門

Introduction to Psychology

濱田 治良・教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】「心理学の過去は長い、その歴史は短い」と言われている。すなわち、人の心についての関心は人類の誕生以来長く続いてきたが、心理学が科学として成立してから百数十年が経過したにすぎない。独立した学問として成立した後の心理学が明らかにした科学的成果は多いが、人の心についての未知なる現象はまだ数多く残されている。本講義では、特に心理学的実験を通して得られた成果を手掛かりにして人間の心と行動を理解する試みについて考察することを目的とする。

【授業の概要】 授業は一般心理学として講義する。特に「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」について、それらの基礎的なトピックスを、代表的な心理学的実験結果を紹介しながら論ずる。そして、心理学的事実を知ることによって、新たな視点から人間を捉える手掛かりにしてほしい。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】 「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」

【到達目標】 人間や動物に関する心理学的実験を通して得られた代表的なデータを理解し、そのデータから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】 1. 授業は概ね次の 4 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心に講義を進めます。 2. 1. 知覚 3. 物理的世界と心理的世界、錯視の現象 4. 2. 発達 5. 発達過程の原則、遺伝と環境、遺伝係数、発達の臨界期、認知の発達 6. 3. 学習 7. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤、問題解決学習、模倣学習 8. 4. 動機づけ 9. 内発的動機づけ、外発的動機づけ、ヤーキス・ドットソンの法則、潜在学習、目標勾配

【教科書】 資料を配布しながら講義を進める。参考書として、村田孝次著「教養の心理学」培風館、今田・宮田・賀集共編「心理学の基礎」培風館を勧める。

【成績評価の方法】 期末テスト、中間テスト、レポート、出席率等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTR も使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。平成 16 年度以前に開講した授業題目「入門心理学」を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181258>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12時~13時)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概論

Outline of Psychology

福森 崇貴・講師/総合科学部

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 人は、感じる・覚える・学ぶ・思う・悩む、など毎日「こころ」を動かしています。本講では、こうした我々の日常にみられる「こころ」の働きを心理学的観点から振り返り、心理学の各領域における主要な理論・概念について理解することを目的とします。

【授業の概要】 様々な心理学の研究領域のうち、代表的な領域を取り上げ、それぞれの領域で提唱されている理論や研究結果について紹介しします。

【キーワード】 知覚心理学、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学

【到達目標】 心理学的な知識を学ぶことによって、自分を含めた「人間」を、俗説に惑わされることなく科学的に理解する力を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. 心理学とは 2. 知覚と認知 3. 学習 4. 欲求と動機づけ 5. 感情 6. 知能 7. パーソナリティ 8. 発達 9. 個人と集団 10. こころの健康 11. まとめ 12. 上記の内容を講義した後、15 回目に期末試験、16 回目に総括を行います。

【教科書】 教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法】 期末試験、授業への取り組みなどを元に総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 毎回、授業内容に関する意見を求めます。授業への積極的参加を期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181266>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福森 (オフィスアワー: 未定 総合科学部3号館3階)

人間と生命 (Humanity and Life)

はじめての心理学

First Steps in Psychology

内海 千穂・助教

2 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 ひとくちに「心理学」といっても、扱われるテーマは多種多様で、テーマの数だけ心理学があると言っても過言ではありません。本授業では、代表的な研究領域で提唱されている知見や理論の理解を目的とします。

【授業の概要】 数ある心理学の研究領域のうち、基礎となる領域を取り上げ、代表的な研究や理論を紹介しします。

【キーワード】 知覚心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学、神経心理学

【到達目標】 学んだ知識や心理学的な考え方をういて、問題を解決したり、自分の考えや認識を深めていくことを目標とします。

【授業の計画】 1. はじめに 2. 外界をどうみて、どう捉えるか-感覚・知覚心理学 3. こころに関わる脳の働き-神経心理学 4. 経験によって行動はかわるのか-学習心理学 5. 記憶のシステム 6. 行動をかりたてる力とは-動機づけ 7. 感情発生のメカニズム 8. ゆりかご (前) から墓場まで-発達心理学 9. パーソナリティの特徴と調べ方 10. 集団が人の行動に及ぼす影響-社会心理学 11. こころの健康 12. 話を「聴く」とは-カウンセリング 13. 上記の内容を講義した後、15 回目に期末試験を実施し、16 回目に総括を行います。

【教科書】 教科書は使用しません。参考図書等を紹介しながら、適宜資料を配布します。

【成績評価の方法】 2/3 以上の出席者にのみ学期末試験 (持ち込み不可) を実施します。評価は、授業への取り組み状況、学期末試験の成績から総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 心理学の知識を机上のものとして終わらせず、いかせるところはあるか、あてはまるころはあるか、日常生活の中でアンテナをはってみてください。なお、平成 20 年度に開講した授業題目『心理学概論』(内海担当)を受講した人は、履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185549>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 総合科学部3号館3階3S07, 088-656-9312 (オフィスアワー: 月曜12:15-12:45 総合科学部3号館3階)

人間と生命 (Humanity and Life)

心の科学

Psychology and Mind

佐野 勝徳・教授

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 私たちは、見たり、聞いたり、考えたり、ときに悩み苦しむこともあります。そうした人間のこころのはたらきを扱うのが、心理学です。この授業は、心理学の基礎知識を学び、これを目的としています。なお、「心の科学」という授業題目にしたのは、「脳とこころの関係」に重きを置きたいと考えたからです。

【授業の概要】 心理学の実験や調査・心理テストなどを取り入れながら、みなさんの発言を授業に取り入れ、「心の科学」についての理解を深めたいと思います。

【キーワード】 生理心理学、認知脳科学、生体生活リズム

【関連科目】 『生活と社会/社会科学のための統計学入門』(0.6, ⇒33 頁)

【到達目標】 心理学の基礎知識を身につけるとともに、脳とこころの関係について理解を深める。

【授業の計画】 1. 心理学と心の科学 2. 心理学が取り扱う領域 3. 心理学で用いられる研究法 (観察・調査・テスト法など) 4. 心理学で用いられる研究法 (実験法など) 5. 脳を調べる・脳のはたらきを調べる研究法 6. 神経系の基礎を学ぶ (末梢神経系) 7. 神経系の基礎を学ぶ (中枢神経系) 8. 脳とこころの不思議な関係 9. 脳とこころの不思議な関係 10. 眠りのメカニズム 11. 眠りと夢の世界 12. 生活リズムと子どもの育ち 13. ストレスの生理学 14. ストレスの心理学 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 特になし。必要な図書等は、その都度授業中に紹介します。

【成績評価の方法】 講義中に実施する小テスト (数回) と学期末試験により評価する。

【再試験の有無】原則として実施しない。

【受講者のメッセージ】皆さんが参加・発言できる授業にしたいです。積極的に授業を創り上げて下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185546>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐野 (088-656-7190, sano@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日10:30~12:00 学習支援室)

人間と生命 (Humanity and Life)

東洋の知識人

Oriental Philosophy

葭森 健介 教授

2 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】知識や教養についての代表的な考え方を理解し、大学生としての社会的自覚を持ってもらうことを目的とする。

【授業の概要】皆さんは知識人ですか?徳島大学は徳島の最高学府、君たちは当然知識人ですよ。大学に入ったのに答えに悩んでいる君、知識とは、教養とは一度考えてみましょう。講義では東洋の思想や歴史をふまえてそうした問題を考えるヒントを出します。但し考えるのは皆さんです。

【キーワード】東洋、知識人、教養

【到達目標】知識・教養に対する言説を理解し、知識にたいし敬意を払う態度を身につけ、知識・教養について客観的に語りうること。

【授業の計画】1. 自分にとっての知識・教養について考えてみよう 2. 専門家と教養人の違い-日本で医学を捨てた鲁迅とその仲間 3. 人間にとっての幸福とは?倫理や哲学の始まり 4. 人を愛すること-「エロス」、「博愛」、「仁愛」の違い 5. 指導者かくあるべし-中国の小学校の学級委員選挙 6. 民主主義と土農工商-西洋と東洋の指導者の違い 7. 『三国志』にみるリーダーの条件-格差社会が生み出した英雄 8. 「銭神」の誘惑-「清」と「濁」の間にゆれるエリート 9. 受験勉強は何のため-「科挙」に始まる選別と競争 10. 「愛国心」って何? 「士」にとつての「公」と「私」 11. 大学の主役は誰?歴史的にみた大学生 12. 聞けわだつみの声-学びを捨てざるを得なかった学生たち 13. 赤ずきんちゃん気をつけて-不満を発散した 1960 年代の学生たち 14. 日本の比でない東アジアの受験戦争-国際化社会・格差社会と教育 15. 後期試験 16. 総括-真の知識人・教養人になるために

【教科書】特に指定しないが、高校の歴史、倫社、現代社会の教科書を持参すること

【参考書等】授業中に配付する資料を大切に保管すること

【成績評価の方法】レポート、小テスト、期末試験を総合して評価する

【再試験の有無】再試験はない

【受講者のメッセージ】人間を対象に話す。人間は「考える葦」という。ともかく自ら考えて欲しい。とのためにはまず知に対し謙虚であり、尊敬を払うこと。そうでない動物には受講を遠慮していただくこともある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185538>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12時30分~13時30分)

人間と生命 (Humanity and Life)

声に出して読みたい教育哲学

The Lecture of Reading aloud the Educational Philosophy

弘田 陽介 助教/総合科学部

2 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『教育学』)

【授業の目的】歴史的に「教育哲学」と呼ばれる営みは、「生きている実感」を言葉で伝えることを根本的な課題としてきた。教育を語る哲学者・思想家は、ただ文字においてその言葉を記すのみならず、大人や子供、そしてまだ見ぬ人々に理論にならざる「熱」のようなものを伴って語っているように思われる。本授業では、理論的には矛盾を孕むような教育や人間の変容を語る言葉を特に選び、それを参加者と一緒に朗読し、読みの集注を深めていくという形の新しいスタイルの授業を行いたい。

【授業の概要】授業の前半は、近代的な読書「黙読」という様式によって、ほとんど学問の世界からは失われてしまった「朗読」という営みのあり方を歴史的にたどる。かつての人々が感じていたような「テキストの経験」といったものを想像することからこの授業を始めてみたい。それ以降は、実際に読めば読むほど深みが出てくるようなテキストを、担当者を毎回決めて朗読することによって、単なる一義的な意味による読解ではなく、意味の衝突が生み出していくような集注経験を味わっていききたい。

【キーワード】朗読、教育哲学、テキスト、経験

【到達目標】教育および哲学の古典文献を丁寧に朗読していくことを目標とする。もちろん文節や意味の区切りなど正確に発声することはもちろんであるが、それだけではなく、文章を通して、それが生み出していく集注の世界を経験することが最大の眼目である。

【授業の計画】1. イントロダクション 2. 読書という経験-近代の読書の特性 3. 読書という経験-西洋中世および日本近世の読書 4. 読書という経験-その集注経験 5. 子どもの絵本を読む 6. 童話を読む 7. 教育を語る言葉を読む 8. 宗教を語る言葉を読む 9. 美を語る言葉を読む 10. 日本の古典を読む-世阿弥 11. 日本の古典を読む-芭蕉 12. 日本近代の名文を読む 森有正 13. 翻訳文読み比べドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』 14. 英語およびドイツ語文献の朗読 15. レポートの発表と提出 16. 総括授業

【教科書】プリントとして授業中に配布

【成績評価の方法】小発表など授業への取り組みを評価(60点)、学期末レポート(40点)。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】授業内で毎回、担当者を決めて朗読を行います。前もっての準備は大変かもしれませんが、本を読むという根本的な学問的営みに変化が出てくることを期待します。恥ずかしがらないでやっていきましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181278>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 弘田 (yhirota@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Eメール アドレス byu00616@nifty.com)

人間と生命 (Humanity and Life)

罪と悪-旧約聖書の世界-

Evil and Sin: Old Testament Views

吉田 昌市 教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『倫理学』)

【授業の目的】自己を含めたこの世界に悪が存在するのは紛れもない事実であるが、この事実をどのように受けとめ、どのように理解し、対処するかは人により、思想的立場によってまちまちであろう。また、何を悪であると考えられるかも、人により時代によって、けして一様ではない。西洋の思想を一つのモデルとして、こうした問題を考えることは、アジア人である我々にとっても大いに役立つのではないかと期待される。

【授業の概要】この講義では、主として旧約聖書の中から「悪」や「罪」に関わるいくつかのテキストを選び、それを精読することによって、西洋の人々が「人間と悪」「世界と悪」という問題についてどのようなことを考えてきたのかを考察していく。特に旧約聖書『ヨブ記』に焦点をあて、この難解とされる書を理解し、その現代的意味を示すことを目指す。なお、西洋との比較のために、日本や東洋の場合(主に仏教の思想)に言及することもあるだろう。

【キーワード】苦難(悪)、応報思想、神、神の似すがた

【到達目標】『ヨブ記』とそれが提起する問題について、自分なりの見方を持つようになること。

【授業の計画】1. 今後の講義について、あらましを説明する。 2. 旧約聖書『創世記』:イスラエル民族の歴史を簡単に解説し、その後、旧約聖書『創世記』の創造物語を読む。 3. 旧約聖書『創世記』(その二):第二の創造物語を取り上げる。特に、蛇の誘惑とアダムとエバの墮罪に焦点を当てる。 4. 旧約聖書『創世記』(その三):「カインとアベル」の物語を取り上げる。 5. トマス『神学大全』より「天使の罪」:禁断の果実を食べることがどのような意味で「罪」「悪」なのかを、トマス『神学大全』の「天使の罪」の議論を参照しながら考える。 6. 旧約聖書『ヨブ記』:プロローグとエピローグ、「ヨブ最初の独白」を読み、『ヨブ記』の問題を提示する。 7. 『ヨブ記』その二:「ヨブ最後の独白」「神との対決」と読み進み、テキストについて一通りの解説をするとともに、『ヨブ記』解釈上の問題点をも示す。 8. 『ヨブ記』その三:「ヨブ最後の独白」「神との対決」と読み進み、テキストについて一通りの解説をするとともに、『ヨブ記』解釈上の問題点をも示す。 9. 『ヨブ記』その四:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。 10. 『ヨブ記』その五:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。 11. 『ヨブ記』その六:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。 12. ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』とエリ・ヴィーゼル『夜』より:近現代のヨブの苦難、ジェノサイドの衝撃 13. ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』とエリ・ヴィーゼル『夜』より(続き):近現代のヨブの苦難、ジェノサイドの衝撃に耐えることができるのか?こうした観点から、旧約聖書の思想を吟味する作業を試みたい。 15. 成績評価のために使用する。 16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】適宜プリントを配布し、参考文献も講義の中で紹介する。

【成績評価の方法】授業への取り組み方+何度か行う予定の小テスト+学期末試験またはレポート

【再試験の有無】再試験は一度だけ行うが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181274>
 【授業先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
 ⇒ 吉田 (1230, 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜12時から13時)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学初歩

Psychology for Beginners

原 幸一・准教授
2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 心理学が関わる問題を取り上げ、その中でどのように問題をとらえて考えていくのかを理解する。心理学が関わっている問題は実は身近であり、様々な話題の中に心理学が関わっていることを知る。

【授業の概要】 心理学の歴史を簡単に紹介し、現在の問題となっている事柄に焦点をあてる。それらの問題が起きている背景と現状と要因について学ぶ。

【キーワード】 臨床心理学, 認知発達

【到達目標】 新しい問題と古くからある課題をそれぞれ理解して、それらの関わりについて自分がその一部でもあることを理解する。

【授業の計画】 1. 心理学の領域, 諸問題 2. 心理学の流れ, 心理学における発達と臨床 3. ひきこもり 1 4. ひきこもり 2 5. 児童虐待 1 6. 児童虐待 2 7. 児童虐待 3 8. 精神障害 1 9. 精神障害 2 10. 知的障害 1 11. 知的障害 2 12. 発達障害 1 13. 発達障害 2 14. その他の諸問題 自殺, 薬物など 15. テスト 16. 総括授業

【教科書】 毎回プリントを配布する。ビデオを用いることもある。

【成績評価の方法】 受講態度およびテスト

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181260>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 総合科学部3号館南棟3階3S04

【授業の目的】 現代社会ではこころが関連するさまざまな問題が起こっている。そうした問題に直面する以前に、その問題をどう理解し、どう対応するのかについて知っておくことの予防的意義は大きい。本講義では、心理学の基礎について学ぶと共に、そうした問題の予防・改善に心理学がどのように貢献できるかについて学習することを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、心理学の基礎について概説したうえで、学童期から思春期、青年期に至るまでに生じるさまざまな問題を取り上げ、それらの問題に対する心理学的な立場からの理解と援助方法を概説する。

【キーワード】 心理学, 臨床心理学, コミュニティ心理学

【到達目標】 心理学の基礎知識を身につけると共に、本講義で取り上げる種々の問題について心理学的観点から理解し、そうした知識を自らの生活に役立てていくことを目標とする。

【授業の計画】 1. 心の科学としての心理学 2. 発達心理学 3. 性格心理学 4. 社会心理学 5. 学習心理学 6. 生理心理学 7. 心理統計学 8. 臨床心理学 9. コミュニティ心理学 10. こころの健康 11. こころの健康:不安 12. こころの健康:怒り 13. こころの健康:発達 14. ひきこもり 15. 定期試験 16. まとめ

【教科書】 教科書は使用しない。資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末テストの成績, 出席状況等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181261>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

人間と生命 (Humanity and Life)

現代世界の生涯学習

Lifelong Learning in the Contemporary World

鈴木 尚子・准教授 / 大学開放実践センター

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『教育学』)

【授業の目的】 我が国における「生涯学習」の現状を踏まえた上で、世界の人々の暮らしとその中で求められている「生涯学習」のあり方について理解することにより、世界的な動向の中で「生涯学習」の意味を捉え直し、その普遍的価値について考えていく力を身につける。

【授業の概要】 本授業では、「生涯学習」が今日求められている意味と実情について、世界各地の事例を考察することにより、グローバルな視点から考えていきます。授業の最初から数回は、世界の実情を知るための前提として、我が国における「生涯学習」の特徴と起源ならびにその発展について、国家レベル及び都道府県・市町村レベルで考えていきます。その後、本授業担当者が研究対象としている欧州の「生涯学習」を中心として、世界各地の「生涯学習」の状況の理解へと視野を広げていきます。最終的には、様々な国々における「生涯学習」の実情を知ることにより、その普遍的価値について、参加者の皆さんと一緒に考えていく予定です。

【キーワード】 生涯学習, 世界, 欧州, 教育, 普遍的価値

【到達目標】

1. 国内外の「生涯学習」を取り巻く状況を正確に理解する。
2. 「生涯学習」の普遍的価値について考える力を身につける。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 我が国における生涯学習の特徴と起源 3. 我が国における生涯学習の発展と課題 4. UNESCO 及び OECD における生涯学習政策と我が国における受容のあり方 5. 都道府県レベル及び市町村レベルでの生涯学習① 6. 都道府県レベル及び市町村レベルでの生涯学習② 7. 世界の人々と生涯学習① 8. 世界の人々と生涯学習② 9. 世界の人々と生涯学習③ 10. 世界の人々と生涯学習④ 11. 世界の人々と生涯学習⑤ 12. 世界の人々と生涯学習⑥ 13. 世界の人々と生涯学習⑦ 14. 世界の人々と生涯学習⑧ 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 特に指定しないが、適宜プリントを配布する。

【参考書等】 授業内容に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法】 出席状況, 授業態度, 発表態度, レポート, 試験等を総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【講師へのメッセージ】 今日、「生涯学習」という言葉は、至る所で耳にすることと思います。近年我が国で急速に推進されてきた「生涯学習」は、どのような概念であり、世界各地ではいかに解釈され、推進されているのでしょうか。本授業では、まず我が国における国家レベル及び都道府県・市町村レベルでの「生涯学習」の発展の経緯をたどり、その後、欧州を中心として、世界の様々な地域における人々の暮らしや教育事情を概観しながら、その中で求められている「生涯学習」のあり方と背景となる社会情勢について考えていきます。「生涯学習」の意味について、グローバルな視点から捉え、その普遍的価値について一緒に考えてみませんか。

人間と生命 (Humanity and Life)

生体の統合機能

Integrated higher brain function

勢井 宏義・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 生体リズムや睡眠, 情動, 記憶など, ヒトが持つ高次脳機能の仕組みを知り, ヒトが生きる理(ことわり)を生物学的な見地から考え直してみる。

【授業の概要】 高次脳機能について, これまでの知見をまとめながら, 日々発表されている論文の中から話題のものをピックアップし, 先端研究をともに学ぶ。

【キーワード】 脳, 高次機能, 生理学

【到達目標】

1. 脳に興味を持つ
2. 自分の行動を科学的に解析できる

【授業の計画】 1. 序-脳- 2. 生体リズム 1 3. 生体リズム 2 4. 生体リズム 3 -プロフェッショナルな研究- 5. 睡眠 1 6. 睡眠 2 7. 睡眠 3 -プロフェッショナルな研究- 8. 情動・ストレス 1 9. 情動・ストレス 2 10. 情動・ストレス 3 -プロフェッショナルな研究- 11. 記憶・学習 1 12. 記憶・学習 2 13. 記憶・学習 3 -プロフェッショナルな研究- 14. 何を知らたいか, 模索 1 15. 何を知らたいか, 模索 2 16. まとめ

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【成績評価の方法】 各テーマ(「プロフェッショナルな研究」)ごとのレポート作成・最終的に「何を知らたいか?」のレポート作成

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181268>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 勢井 (088-633-7056, sei@basic.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 出張・講義・会議・実験 以外の, 平日~19時まで(メールで要確認。))

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学基礎

Basic Psychology

境 泉洋・准教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181235>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鈴木 (suzuki@cue.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 授業は、講義だけでなく、参加者による発言を適宜促すほか、各参加者による発表や話し合いの時間を多く設ける予定です。積極的に学びたい人を歓迎します。

人間と生命 (Humanity and Life)

生命の科学

Biological Sciences

林弘三・教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 地球上に存在する多細胞生物は、受精卵に始まり、多種多様な姿・形の個体に変化する。その多様な形態も、その生物にとっては機能上の必然性を持っている。そこで、この講義では、生物が生きていくために備えている様々な特性を知ることにより、生物に対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】 生き物の形態を組み立てる制御機構を概説し、細胞の挙動を中心に形態形成に参画する分子の役割についても解説する。

【到達目標】 生物 (学) のおもしろさを知って、興味を持つようになる。

【授業の計画】 1. ガイダンス及び生命体としての細胞 2. 初期発生の概要 3. 細胞増殖 (有糸分裂) 4. 細胞接着分子 (導入としての「単クローン抗体の作成」) 5. 細胞接着分子及びコンパクション 6. 形と細胞接着分子 7. 初期発生における細胞の分化 8. 核の全能性 9. キメラ生物 10. 細胞の系譜 11. プログラムされた細胞死 (アポトーシス) 12. 減数分裂と体細胞分裂 13. 生体 (細胞) の計時機構 14. 細胞と行動 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】

◇ 参考書: 岡田節編「(岩波講座・分子生物学 8) 個体の生涯 I」 岩波書店

◇ 「Essential 細胞生物学」 南江堂

◇ 丸山工作・岩槻邦男・石川統編「生物学入門コース 2」 岩波書店

【成績評価の方法】 学期末に筆記試験を実施。講義の内容及び学生の自主勉強から出題する予定。適宜、小テストを行うことがある。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 生命現象に興味のある学生の受講を希望する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181240>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 林(3N08,088-656-7258,hayashi@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 金曜日10:25~11:55)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概説

Survey of Psychology

佐藤 健二・教授 / 人間・自然環境研究所

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 現代社会を生きていく上で、自らの心の働き、他者の心の働きを理解することは重要である。そこで、本講義では、心の働きに関する学問である心理学の基本的な知識を学習することを目的とする。

【授業の概要】 心理学の重要分野における発想、研究結果を概説する。特に、大学生において関心の高い「こころの問題」に関連させながら、心理学の重要分野における研究結果を概説する。

【キーワード】 心理学、こころの問題、臨床心理学

【到達目標】 心理学の重要分野における発想、研究結果を理解できる。

【授業の計画】 1. 授業の進め方、心理学概観 (定義、隣接領域との異同、歴史) 2. 異常心理学: 「こころの問題」とは?(不安障害など) 3. 臨床心理学: 「こころの問題」をどう治療する?(さまざまな心理療法) 4. 学習心理学: 「こころの問題」は誤った学習の問題か? 5. 障害児心理学: 学習心理学を用いて発達障害はどのように治療するか?(自閉性障害、ADHD など) 6. 認知心理学: どのようにすれば記憶力を高められるか? 「こころの問題」は不適切な認知の問題か? 7. 生理心理学・心・脳・身体はどのように関係しているのか? 8. ストレス心理学: トラウマティック・ストレスは、心・脳・身体にどのような影響を与えているのか? 9. 性格心理学: 性格には、どのようなタイプがあるのか? 10. 健康心理学: 性格が健康 (ガンなど) に影響を及ぼすか? 11. 社会心理学: 状況の力はどのくらい強力か? 同調、服従、役割実験を題材に- 12. 発達心理学: 赤ちゃんは無力な存在か? 13. 感覚・知覚心理学: 人間はどのようにして外界から情報を取り入れ、処理しているのか? 14. 犯罪心理学: 犯罪はどうすれば防げるか? 15. 試験 16. 総括

【教科書】

◇ 教科書は使用しない。

◇ プリントの配布、OHP、液晶プロジェクタ、VTR による資料の呈示を行う。参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末試験 (客観式、持ち込み不可、60 分) のみ。2/3 以上の出席者のみ受験資格有り。他に授業態度の悪い者 (私語が多い等) も受験資格無し。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 大学での勉強は、主体的な取り組みが必要です。予習復習、とりわけ、復習を行い、知識の定着をはかるようにしてください。その他、他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181264>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み 3号館南棟3階「臨床社会心理学研究室」)

人間と生命 (Humanity and Life)

自己発見の心理学

Psychology for Self-Discovery

香川 順子・助教 / 大学開放実践センター

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 他者との交流を通して、自分について根本的なところから見直し、今後自分がどうあるべきかを分析していきます。生き生きと大学生活を送るために必要な知識とスキルを身につけると共に、自己肯定的態度、自己実現的な態度を身につけることがこの授業での目的です。

【授業の概要】 人との交流を通して自分や他者を理解していくための授業です。心理テストやワークショップを行いながら授業を進めていきます。自己理解を行う際に役立つ理論を学び、講義の中で実践へと結びつけていきます。

【キーワード】 自己分析、交流分析、心理学、コミュニケーション

【到達目標】

1. 自己理解に関する知識とスキルを身につけ、自分の経験につなげることが出来る。

2. 自己肯定的態度、自己実現的な態度を身につける。

【授業の計画】 1. 導入 (授業参加の留意点、事前心理テスト) 2. 自己分析の心理学 (理論的背景) 3. 交流分析による自己分析 I (心理テスト・理論の解説) 4. 交流分析による自己分析 II (自己分析) 5. 短所の見方から自分について考える 6. 過去の自分をふりかえる 7. 将来の人生に望むものを考える 8. 天職を見つけるためのワークショップ 9. 前半のふりかえり 10. コミュニケーション場面での自己分析 I (交流の構えの分析) 11. コミュニケーション場面での自己分析 II (自己主張の仕方) 12. コミュニケーション場面での自己分析 III (とらわれに気づく) 13. コミュニケーション場面での自己分析 IV (気持ちの良い交流の仕方) 14. まとめ (後半・全体のふりかえり、事後心理テスト) 15. レポート提出

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【参考書等】 芦原陸著 自分が分かる心理テスト PART1(1992), PART2(1995) 講談社

【成績評価の方法】 日々の授業における課題と、レポートにより評価を行います。

【受講者へのメッセージ】 意欲的に授業へ参加し、他者と積極的に交流してください。そうすればよりよい自分探しにつながるでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185650>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 5・6限)

人間と生命 (Humanity and Life)

生物と環境

Life and Environment

佐藤 征弥・准教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 かつて人間は自然環境に対して無限に搾取できると考えていました。しかし、近年になって大規模な環境破壊が、様々な形で人間に悪影響を及ぼすようになり、このような考えが幻想であることが明らかになりました。環境破壊をくい止めるためには、破壊の現状を正しく認識するとともに、環境のもつ価値を具体的に評価するシステムが必要です。また、このような流れを受けて、農林水産業や都市構造も変容を余儀なくされてきています。この講義では具体例を多く取り上げながら、環境保全、農業や食の問題、都市づくりについて考えていきます。

【授業の概要】 まず環境破壊の現状について解説する。次に生物資源をどのように利用しているのか、利用するべきかについて解説する。最後により良い環境とは何か、そして目指すべき環境創造について考える。

【キーワード】 生態系、環境問題、農業問題、生物多様性

【到達目標】 環境の価値とは何かを具体的に理解する。
【授業の計画】 1. 森林の破壊 1 アマゾン熱帯雨林 2. 森林の破壊 2 山火事 3. 森林の破壊 3 植林、砂漠化対策 4. 地球温暖化 1 地球温暖化のメカニズム 5. 地球温暖化 2 京都議定書による温室効果ガスの排出抑制 6. 地球温暖化 3 京都議定書と生物多様性条約の意味するもの 7. 農業問題 1 食料危機と緑の革命 8. 農業問題 2 作物の改良技術 9. 農業問題 3 農産物の安全性 10. 食品と医薬品 1 食品の安全性 11. 食品と医薬品 2 薬の発見と作用 12. 植物と文化 民俗植物学 13. 都市の環境問題 1 環境創造とは何か 14. 都市の環境問題 2 ゴミ問題、車社会からの転換、コンパクトシティ 15. 期末試験 16. 総括授業
【教科書】 教科書は使用しない。参考書は、適宜紹介する。
【成績評価の方法】 授業への取り組み状況(毎回課すミニツペーパー)と期末試験(ノート、資料持ち込み可)により評価する。

【再試験の有無】 無
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181271>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK、植物生理学研究室(総合科学部3号館3階北棟))

人間と生命 (Humanity and Life)

科学技術と人間
 Technology and Man

石田 三千雄 教授
 2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 科学技術は、今日の社会の基盤を形成し、われわれの生活になくならないものとなっている。しかし科学技術は自然や人間に対して破壊的な力を行き、環境問題を始めとして多くの問題を引き起こしている。われわれは科学技術の人間学的・社会的基盤を踏まえた上で、科学や技術の研究基盤、科学者・技術者の責任、市民の関与の仕方などを論じ、科学技術を適切に行使する社会のあり方、人間の生き方を明らかにする。

【授業の概要】 科学技術が人間本性に根ざし、近代合理性の大きな柱をなし、近代社会を形成してきたことをまず哲学的・思想的に明らかにしたうえで、現代の科学技術の倫理に関わる諸問題を考察する。科学倫理や技術倫理、科学者・技術者の責任、技術の文明論的考察、生命操作技術の倫理や生命倫理学の倫理性、科学技術と公共性、市民の関与、技術倫理の課題、技術倫理教育の現状などを論じる。

【キーワード】 科学技術

【先行科目】 『人間と生命/知の探求と現代』(1.0, ⇒22 頁)

【関連科目】 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.5, ⇒24 頁)

【到達目標】 科学技術の思想のおよび社会的背景を理解でき、科学技術が現代社会の中で実際にどのように行使され、またどのような役割を果たしているかを自ら考えることができる。

【授業の計画】 1. はじめに一授業全体の説明 2. 科学技術の基盤 3. 科学倫理とは何か 4. 技術倫理とは何か 5. 人間と技術 6. 現代文明と技術 7. 現代社会の歴史的な位置づけ 8. 現代科学技術の社会的基盤 9. 生命倫理学の倫理性 10. 科学的認識の倫理性 11. 科学技術者と市民 12. 科学技術と合意形成 13. 技術倫理が問われる現場 14. 技術倫理教育の現状と課題 15. 終わりに一授業のまとめ 16. 総括授業

【教科書】 石田三千雄他『科学技術と倫理』ナカニシヤ出版、2007年、1995 円

【参考書等】 授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法】 学期末試験、レポート、授業への取り組み状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者へのメッセージ】 科学技術が自然や現代社会にどのような影響を与えているのかを考えるきっかけにしてください。質問等はメールでも受け付けます。前期月曜の授業と同じであるので重複履修に注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181273>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日13~14時 石田研究室(総合科学部1号館3階))

【備考】 後期木曜の授業と同じであるので、重複履修に注意すること。授業計画は一部変更があるかもしれません。

人間と生命 (Humanity and Life)

自己分析の心理学
 The Psychology of self-analysis

山本 真由美 教授
 2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 本授業では、心理学では自己や自我をどのように考えるかを紹介し、自己について自分で分析し、自分理解を深め、社会における自己存在について考えることを目的とします。

【授業の概要】 (1) 自己、自己と他者との関係などについての講義を受け、(2) 主に質問紙による心理検査を行い、その結果から自分で自己状態を把握し、(3) 理解した現在の自己状態を変えたいのか、変えたいのであればどのような方法があるのかを考え、(4) それらをレポートにまとめ、報告する。

【キーワード】 アイデンティティ、交流分析、自己分析、自己と他者

【到達目標】

1. 自己について説明ができる
2. 自己理解ができる
3. 心理学のパソナリティ検査について説明ができる

【授業の計画】 1. ガイダンス グループ分け検査実施 2. グループ発表 他者紹介とは インタビュー実施 3. 発表原稿作成、発表方法について、グループ発表、他者紹介① 4. 交流分析(構造分析)の実施 結果整理 5. 意識と無意識について 他者紹介② 6. 自己と他者の関係について① 自意識尺度実施 結果整理 7. 自己と他者の関係について② 摂食障害から探る 他者紹介③ 8. 自己と他者の関係について③ エゴセントリズム検査実施 結果整理 9. 自己と他者の関係について④ 自閉症から探る 他者紹介④ 10. 自己と他者の関係について⑤ コミュニケーション分析 結果整理 11. 自己と他者の関係について⑥ 交流パターンから探る 他者紹介⑤ 12. 自己と他者の関係について⑦ 基本的自己態度検査実施 結果整理 13. 自己と他者の関係について⑧ 他者への態度 他者紹介⑥ 14. 自己について 人生脚本作成 結果整理 15. 事例から学ぶ 他者紹介⑦ 16. レポート返却、全体総括

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【成績評価の方法】 毎回のレポート、課題毎の課題分析レポートによって評価する。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181276>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山本(3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー:月曜日の昼休み、研究室:総合科学部3号館3S06)

人間と生命 (Humanity and Life)

バイオテクノロジーと生命倫理
 Biotechnology and Bioethics

辻 明彦 教授/工学部
 2 単位 後期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
 (平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 遺伝子診断、ES細胞、オーガメド医療、遺伝子組み換え農作物、バイオ燃料等バイオテクノロジーに関するキーワードが新聞や雑誌に氾濫する時代となったが、これらの技術は、半導体やコンピュータ技術と異なり、生命倫理と深い関わりがあるため、新しい技術が直ちに社会に受け入れられるとは限らない。個人の遺伝子情報の流出は健康保険や社会での差別に繋がる可能性がある。地球温暖化防止のためのバイオ燃料普及によって、小麦、大豆作付面積が減少し、その価格が上昇し、発展途上国ではさらに飢饉の危険性が高まっている。この講義では、バイオテクノロジーを多面的に考え、正当に評価判断できる素養を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 最初にバイオテクノロジーに関する先端技術について紹介したのち、遺伝子・細胞に関する基礎知識と技術の原理と応用について解説する。後半部では、バイオテクノロジーに対する批判とその問題点、法律によるバイオテクノロジーの安全対策、今後のバイオテクノロジーの方向性について解説する。

【キーワード】 遺伝子工学、幹細胞、GE作物、バイオディーゼル、食糧危機、再生医学

【到達目標】 多面的にバイオテクノロジーを考える能力を身につける。

【授業の計画】 1. シラバスの説明、医療に関するバイオテクノロジーの進歩 2. 工学、農学に関するバイオテクノロジーの進歩 3. セントラルドグマ(遺伝子から蛋白質へ) 4. 遺伝子の構造と機能 5. 遺伝子工学の基礎(ベクター) 6. 遺伝子を増幅するPCR法の原理 7. 遺伝子解析方法 8. 遺伝子組み換え細胞、生物の作成(動物と植物) 9. 遺伝病と遺伝子診断 10. 出生前診断と着床前診断 11. 再生医療とバイオテクノロジー 12. 胚性幹細胞 13. 組み換え農作物の有用性と危険性 14. 法律によるバイオテクノロジーの規制 15. 期末試験 16. 授業総括

【教科書】 授業中にプリントを配布します。

【参考書等】

- ◇ 中込弥男著 絵でわかるゲノム・遺伝子・DNA 講談社サイエンティフィック
- ◇ 図書館にある分子生物学、遺伝学、遺伝子工学などに関する図書

【成績評価の方法】 課題レポート(40%)、期末試験(60%)で評価する。それぞれ60%以上の達成度で合格とする(課題レポート24点以上、期末試験36点以上、合計60点以上)。出席日数が不足した場合、期末試験は受験できません。

【再試験の有無】 行いません。

【受講者のメッセージ】 高校で生物学を履修していない学生も理解できるよう平易に解説しますので、バイオテクノロジーに関する広い視野を持ってくださることを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181250>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 辻 (化生棟 710, 088-656-7526, tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

人間と生命 (Humanity and Life)

動物の生活の科学

Animal Ecology

中鉢 龍一郎 准教授

2 単位 後期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 動物の中には、人間の目から見ると大変奇妙な生活を送るものがあり、その生活様式は極めて多様である。しかし全ての動物の生活で起こる現象には、共通の法則が認められ、法則の中には最も高等な動物である人間にも当てはまるものが少なくない。人間は文明生活を送っているために、野生の動物とは全く違う法則に支配されているかのように錯覚することがあるが、これは正しくない。この講義では、動物の生活で起こる現象を、主に密度変動を通して捉えることによって、現象の背後にある法則を学び、更にどのような法則が人間にも当てはまるのかを考える。

【授業の概要】 動物の出産数は種によって異なるが、世代当りの増殖率の平均値は、どの種でも大体 1 である。このことは、充分広い地域における動物の密度が、一定のレベルを中心として変動していることから知られた。人間の場合にも、文明の停滞期だけに限ると、密度変動は動物と同様であったと推測されている。そこで前半では、主にこのような密度変動の理由を増殖率の決定要因の作用に基づいて説明し、後半ではこの理由と関連付けて動物の生活で起こる現象について解説する。また、原則として毎回の講義の最後に、動物と人間の生活の類似点や相違点を検討する。

【キーワード】 動物の生活、密度変動、捕食、競争、動物と人間

【到達目標】 動物の生活に関するテレビ番組などを見た時に、少し穿った解釈ができるようになる。

【授業の計画】 1. 序論 2. 1. 性選択 3. 2. 増殖 4. (1) 進化段階と生存率 5. (2) 出産数 6. 3. 密度変動機構 7. (1) 密度変動の原因 8. (2) 密度調節 9. (3) 周期的大発生 10. 4. 分布 11. 5. 種間競争 12. (1) 競争による全滅 13. (2) すみわけと食いわけ 14. 6. 捕食 15. (1) 捕食に対する防御 16. (2) 食物選択 17. 7. 食物連鎖とエネルギー流 18. 8. 種の絶滅 19. 期末試験 20. 総括授業

【教科書】 毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法】 期末試験と宿題に基づいて評価するが、出席状況も考慮することがある。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 まめにノートをとっていれば、試験勉強のときに楽であるし、良い成績も期待できます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181251>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中鉢 (2119, 088-656-7254, chubachi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設けないので、何時来室しても良い。集団生物学研究室(総合科学部1号館1階))

人間と生命 (Humanity and Life)

学校の現象学:学校はいま?

School Phenomenology: How's School, Now?

廣渡 修一 教授/大学開放実践センター

2 単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『教育学』)

【授業の目的】 社会の教育的営みの中で、学校が果たしている役割を検証し、「あるべき学校」という観念が可能かどうか、可能だとすればどんな学校が理想なのかについて考察を深めます。授業では、テキスト『学校って何だろう』等をもとにして、現在の学校を取り巻く現象を取り上げます。自分たちが受けてきた学校教育を客観的・批判的に検討し、自分なりの学校観の枠組みを構築できることを目指します。また、日米の学校制度等の比較検討(発展学習)を通じて、わが国の学校問題の特質について認識を深めます。

【授業の概要】 授業はゼミ形式とし、ビデオ鑑賞や課題レポート発表、発展学習、ディスカッション等によって進めますが、研究レポートの作成をもって最終課題とします。

【キーワード】 学校、現象学、日米比較、ディスカッション(ディベート)

【関連科目】 『共創型学習/人間行動の科学』(0.5, ⇒166 頁)

【到達目標】

- (1) 現在の学校が抱えている諸問題についてその背景と問題の本質を説明できる。
- (2) テキスト執筆者の主張の骨子を要約し、論点を的確に抽出できる。
- (3) 日米の学校を取り巻く諸問題について比較考察できる。
- (4) 自分の学校体験と授業内容を交錯させつつ学校についての自分なりの理想が語れる。

【授業の計画】 1. オリエンテーションとアイスブレイキング 2. 今学校はどうなっているのか?-(1)(講義・ビデオ視聴・ディスカッション) 3. 今学校はどうなっているのか?-(2)(講義・ビデオ視聴・ディスカッション) 4. 今学校はどうなっているのか?-(3)(講義・ビデオ視聴・ディスカッション) 5. 『学校って何だろう』より (1)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 6. 『学校って何だろう!』より (2)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 7. 『学校って何だろう!』より (3)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 8. 『学校って何だろう!』より (4)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 9. 『学校って何だろう!』より (5)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 10. 『学校って何だろう!』より (6)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 11. 『学校って何だろう!』より (7)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 12. 『学校って何だろう!』より (8)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 13. 『小学校が大変!!』より (1)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 14. 『小学校が大変!!』より (2)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 15. 『小学校が大変!!』より (2)(プレゼン・発展学習・ディスカッション) 16. 最終レポートの提出

【教科書】 刈谷剛彦『学校って何だろう-教育の社会学入門』筑摩書房

【参考書等】 必要に応じて配布します。

【成績評価の方法】 成績評価は次の 3 点を総合して行います。(1) 課題レポート 30%(2) 最終レポート 30%(3) 授業への参画度(出席点、ディスカッションへの積極性等)40%

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者のメッセージ】 (1) 毎回の授業は前半にビデオ視聴や課題レポートの発表等を行い、続いて当該テーマについての発展学習、後半は各自の意見をたたかわせるディスカッション(ディベート)を行います。そのため、自分なりの意見をまとめたり、発表したりする等の積極的な参画が要件となります。(2) なお、本授業は公開授業としてエントリーされていますので、一般市民の参加があるかもしれません。

【WEB 頁】 <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/staff/hirowata>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181253>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 廣渡 (D 202, 088-656-7279, hirowata@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:月曜日 13:30-14:30 (廣渡研究室))

【備考】 プレゼンテーションやディスカッションなど、積極的な参画が必要です。

1.3 《生活と社会》 (Living and Society)

生活と社会 (Living and Society)

経営学入門

First step of Business Administration

西村 孝史・准教授

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経営学』)

【授業の目的】 経営学の基礎的な知識の習得と経営学の全体像の理解

【授業の概要】 私たちの身の周りには、規模の大小、営利・非営利にかかわらず、様々な企業があります。実際に企業がどのように活動しているのか、なぜ企業が存在するのか、企業の中で人は何を思いながら働いているのかなどを考えていきます。授業の前半は、企業形態や組織構造などについて話します。授業の後半は、経営戦略、事業の多角化や財務の基礎などについて説明します。時間的に余裕があれば、ゲストスピーカーを招くことや DVD を視聴することを考えています。

【キーワード】 経営資源 (人・カネ・モノ・情報)、戦略、組織、マーケティング

【関連科目】 『生活と社会/人材マネジメント』(0.5, ⇒29 頁)

【到達目標】 新聞や雑誌記事に載っている経営現象を身近に感じてもらふこと。

【授業の計画】 1. イントロダクション、講義概要説明 2. 企業の特徴 3. 企業の種類 4. 組織構造 5. 経営戦略 1: 一般戦略 6. 経営戦略 2: 環境適応 7. 損益分岐点・マーケティング 8. 組織の中の人: 様々な人間像、意思決定論 9. モティベーション 1: 内容理論 10. モティベーション 2: 過程理論 11. リーダーシップ 12. ゲストスピーカーもしくは DVD 13. 人事管理論 14. 経営学にかんする最新テーマ

【教科書】 井原久光 (2008) 『テキスト経営学』ミネルヴァ書房。

【参考書等】 講義中に指示する

【成績評価の方法】 中間レポート (30%), 期末レポート (50%), 平常点 (20%)

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 教師がパワーポイントを用いて講義を行う形式です。授業中出席を兼ねたミニレポートやコメントを求められることがあります。経営学といっても内容が多岐にわたるため、受講者に応じて内容を変更あるいは取捨選択する可能性があります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181068>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西村 (総合科学部 1 号館 2 階中棟 (2215), 088-656-7171, t-nishim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週月曜日 12:00-16:00 研究室 (2215), それ以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できます。)

生活と社会 (Living and Society)

産業と交通

Industry and Transportation

田中 耕市・准教授 / 徳島大学総合科学部

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 1 つの都市は、住宅地や商業地区など様々な地域で成り立っており、1 つの国はそのような都市の集合体で形成されているといえる。交通ネットワークは異なる都市間や地域間を結ぶ重要な役割を果たしており、地域産業の発展に大きく寄与してきた。本講義では、交通ネットワークの形成・展開過程から、交通が地域に与える影響や問題点までを、空間的視点から考察する。

【授業の概要】 距離とは何を意味するか? 移動はなぜ発生するか? という根本的な問題から、交通流動分析を用いた空間構造の解明まで、交通と地域にまつわるトピックを解説する。担当者から一方的に話すのではなく、受講者にも多くの発言を求める授業である。

【キーワード】 地理学、産業、地域問題

【到達目標】 様々な事象を地図化することによって、地域の諸問題を発見して、それに対する自分の意見を述べられるようになる。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. 距離と空間 3. 移動手段の誕生と発達 4. 移動手段の誕生と発達 5. 都市内交通の問題点 6. 日本の道路交通 7. 諸外国の道路交通 8. 日本の鉄道交通 9. 諸外国の鉄道交通 10. 第 1 回テスト 11. 日本の空港・航空問題 12. グローバル化と航空ネットワーク 13. 交通ネットワークの分析モデル 14. チェーン店の物流システム 15. 第 2 回テスト 16. テスト解説

【教科書】 高等地図帳 (高校で利用した地図帳でよい)

【成績評価の方法】 授業での発言を重視する。他に、授業への取組、小レポート、レポート、期末試験で評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 授業では毎回、小レポートを実施する。そのほかに、大レポート、2 回のテストを実施する予定。大レポートの提出・テストの受験が義務。授業中、受講生には積極的な発言を求めます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181085>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 木曜日 12:00-13:00)

生活と社会 (Living and Society)

国際政治学入門

Introduction to International Politics

饗場 和彦 教授

2 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『政治学』)

【授業の目的】 「一種のチーズの臭いか...」人間の死臭をどうたえていいか思案しながら、死体を見回した。部屋いっぱいには「展示」してある遺体は白くミイラ化していた。次の部屋には子供のなきがらばかり横たわる。アフリカのルワンダでは、1994 年の 4 月から 6 月にかけて、フツとフツの二つのグループがからむ対立で約 80 万人が殺害された (饗場和彦「虐殺から六年 和解と対立に揺れるルワンダ」『世界』2000 年 10 月号より引用)。世界のあちこちで依然、紛争が絶えない。この授業では戦争、平和の問題を中心に、国際政治について関心と問題意識を高め、基本的な知識を得ることを目的とする。

【授業の概要】 国際社会の基本的な仕組み、特徴などを概説した上で、具体的な問題とあわせて考察する。筆者はルワンダやボスニア、コソボ、東ティモール、カンボジア、チェンマイ、パレスチナ、グアテマラなどの紛争地を歩き、2001 年 9 月にはニューヨークでテロに遭遇。02、04 年はアフガニスタンで調査を行った。授業ではこうした現場の視点を取り入れ、臨場感のある解説を試みる。ビデオやスライドなども多用し、2 週間で一つのテーマを扱う。テーマごとに受講者からの質問や意見を集め、講義中にそのフィードバックも行う。

【キーワード】 国際政治、戦争、紛争、平和

【関連科目】 『生活と社会/国際協力論 2 - 四国から世界へ 輝く瞳のつくり方-』(0.5, ⇒34 頁), 『生活と社会/政治とメディア』(0.5, ⇒29 頁)

【到達目標】

1. 国際社会の基本的原理、仕組みが理解できる。
2. 国際社会の平和と戦争の問題について知識を広げる。
3. 国際政治の現実と理想について認識でき、バランスの取れた視点から思考ができる。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. 国際社会の特徴、原則 - 国内社会とどう違う? 弱肉強食の世界か (前) - 3. 国際社会の特徴、原則 - 国内社会とどう違う? 弱肉強食の世界か (後) - 4. 9/11 テロ - その日 NY にいて感じた 'やっぱり' (前) - 5. 9/11 テロ - その日 NY にいて感じた 'やっぱり' (後) - 6. 民族紛争の仕組みと実態 - 東京と大阪間でも起きる? (前) - 7. 民族紛争の仕組みと実態 - 東京と大阪間でも起きる? (後) - 8. ベトナム戦争 - 死者 300 万人、やらずに済んだ戦争? (前) - 9. ベトナム戦争 - 死者 300 万人、やらずに済んだ戦争? (後) - 10. 日本の戦争をどうみるか - まず知ること、そして多面的な見方を (前) - 11. 日本の戦争をどうみるか - まず知ること、そして多面的な見方を (後) - 12. 人間の安全保障と国際協力 - 平和のための多様なアプローチ (前) - 13. 人間の安全保障と国際協力 - 平和のための多様なアプローチ (後) - 14. 社会問題の考え方を確認 - 自立して、多面的にとらえて、バランスよく考える - 15. 試験 16. まとめと補足

【教科書】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するレジュメや資料にしたがって講義を進める。参考書などは、たとえば以下の書籍など。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房, 2000 年, 1200 円), 『新国際関係学がわかる。(AERA Mook)』(朝日新聞社, 1999 年, 1050 円), 池上彰『そうだったのか! 現代史』(集英社, 2000 年, 1700 円), 津守滋『地球が舞台 - 国際 NGO 最前線からの活動報告』(勁草書房, 2002 年, 2800 円), 『グローバル時代の平和学』(法律文化社, 2004 年, 各 2500 円), 石弘之『子どもたちのアフリカ』(岩波書店, 2005 年, 1700 円), 松村高夫・矢野久『大量虐殺の社会史- 戦慄の 20 世紀』(ミネルヴァ書房, 2007 年, 4500 円)

【成績評価の方法】 期末の試験はあらかじめ問題を提示するので、試験日までには準備し、当日は持ち込み禁止で解答する。また、平常点として授業姿勢と出席状況の評価する。おおむね試験 50%, 平常点 50%。

【再試験の有無】 有り。

【受講へのメッセージ】 新聞の国際面の記事はよく読むようにしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181067>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:35-16:05 (この時間以外でも在室時はいつでも可))

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 II

Constitution and Human Rights 2

上地 大三郎 / 徳島弁護士会

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 弁護士及び弁護士会が取り組んでいる人権問題を紹介し、日本の人権状況について考察するとともに、憲法の理念や人権感覚を身につけてもらうことを目的とします。人権問題というと、自分には関係のない、何か特別な問題のように思われるかもしれませんが、しかし、人権とは、一人ひとりの人間が人間らしく生きるための権利であって、このような観点から言えば、実に様々なことが人権の問題となり得るのです。そこで、この講義を通じて、少しでも人権問題に関心を持ってもらいたいと考えています。

【授業の概要】 弁護士及び弁護士会が取り組んでいる人権問題を、毎回1つずつ取り上げながら講義を進めます。なお、憲法や基本的人権の基礎的知識等については前期の講義(憲法と人権 I)に譲り、後期の講義では必要に応じて言及する程度にとどめたいと考えていますので、できれば前期の講義を受講した上で後期の講義に臨むことを希望します。

【キーワード】 憲法、人権

【先行科目】 『生活と社会/憲法と人権 I』(0.0, ⇒29頁)

【関連科目】 『生活と社会/憲法と人権 I』(1.0, ⇒29頁)

【到達目標】 日本の人権状況及びその背景にある日本の社会や法制度の問題点を理解する。

【授業の計画】 1. 弁護士、弁護士会の公益活動について 2. 誤判・冤罪 3. 死刑制度 4. 裁判員制度 5. マスメディアと人権・犯罪報道の問題を中心にして 6. セクシュアル・マイノリティの人権・性同一性障害の問題を中心にして 7. 家族法改正問題・夫婦別姓の問題を中心にして 8. ドメスティック・バイオレンス 9. 児童虐待 10. 少年非行(少年犯罪)と少年法 11. 悪徳商法・消費者被害 12. 多重債務問題・クレジット・サラ金・商工ローン・ヤミ金融被害について 13. 民事介入暴力 14. 犯罪被害者支援 15. 司法制度改革・裁判官制度改革を中心にして

【教科書】 教科書は使用しません(毎回、プリントを配布します)が、六法全書(コンパクトなもので結構です)を必ず持参して下さい。参考書等は、講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法】 毎回、講義終了後に簡単な感想を書いてもらい、それとレポートの結果を総合して評価します(試験は実施しません)。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 憲法とは想像力と創造力の学問です。自分自身の頭で考えるということを心がけてほしいと思います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181077>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 上地 .

生活と社会 (Living and Society)

財政制度入門

Introduction to Public Finance

石田 和之 准教授

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『経済学』)

【授業の目的】 わが国の財政の現状を理解する。わが国の財政制度の基本的仕組みとそれを支える考え方を理解する。

【授業の概要】 この講義は、財政学を体系的に講じるのではなく、最近話題になっている論点をいくつか取り上げて解説する。財政制度は、経済環境の変化に応じて、毎年改正が行われている。制度改正の背景にある経済環境を理解し、その改正がどうして必要であるのか、また、望ましい(理想的な)社会を構築するためにはどのような財政制度を構築すべきであるのかを考えるためのツールになりうる知識を提供する。

【キーワード】 地方分権、租税、財政赤字、所得格差、行政評価

【到達目標】

1. わが国の財政制度の基本的仕組みを理解する
2. 財政制度が経済に与える影響を考えるための知識を得る

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. わが国の財政の現状: 国と地方 3. 政府の規模 4. 政府の役割 5. 中央集権と地方分権 6. 行財政改革 7. 財政の持続可能性 8. 中間試験 9. 行政評価 10. 年金と医療 11. 特定財源 12. 規制緩和 13. 新しい「公」 14. 公務員制度 15. 定期試験 16. 総括講義

【教科書】 特に指定なし。プリントは適宜授業中に配布する。

【参考書等】 特になし。

【成績評価の方法】 定期試験 60%、中間試験 30%、その他 10%。

【再試験の有無】 なし

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181095>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田和之(総合科学部)1号館2階財政学研究室 088-656-7169 k-ishid a@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 月曜日5-6講時)

生活と社会 (Living and Society)

情報と法

Infomation and Law

上原 克之 准教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『法律学』)

【授業の目的】 情報化社会における通信、放送、インターネット、情報公開制度・個人情報保護、知的財産、マスメディアなどの諸領域に対する法的規律についての基本的な知識を習得することにより、情報化社会に対する理解を深めることを目標とする。

【授業の概要】 この授業では、これまで憲法、行政法、刑法、民法、知的財産法などの分野でそれぞれ扱われてきた、情報をめぐる法律問題を横断的に取り扱うことによって、情報化社会における法的規律について説明するものである。情報法は、必ずしも法律問題のみに限定されるものではなく、多分に倫理的規律も重要な役割を果たしており、この授業でも必要に応じて倫理的問題についても言及することになる。

【キーワード】 情報、法、財産、インターネット、犯罪

【関連科目】 『生活と社会/経済と法』(0.5, ⇒32頁)

【到達目標】

1. 情報に関する法制度を理解する
2. 情報に関する倫理を身につける

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. 情報と憲法(その1) 3. 情報と憲法(その2) 4. 放送制度・通信制度 5. インターネットと法(その1) 6. インターネットと法(その2) 7. マスメディアと法(その1) 8. マスメディアと法(その2) 9. 情報公開(その1) 10. 情報公開(その2) 11. 個人情報保護 12. 電子商取引 13. 知的財産法(その1) 14. 知的財産法(その2) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書は指定しないが、六法(法令集)を用意すること。

【参考書等】 参考書については授業で適宜指示する。

【成績評価の方法】 筆記試験を中心とし、小テスト、授業への取り組みなど(20%)を総合的に評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業はあくまでも出発点であると考え、授業だけに満足せず自ら積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185543>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜日 12時から13時 総合科学部1号館3階(行政法研究室))

生活と社会 (Living and Society)

社会学概論

Introduction to Sociology

榎田 美雄 准教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】 現代社会および社会学についての基礎的な知識、考え方を学ばせる。

【授業の概要】 社会学史、社会学研究法、家族社会学、福祉社会学、理論社会学の諸トピックを横断的に行き来しながら、現代社会の特徴を理解させ、学問を生活に生かす態度を身につけさせる。必要に応じて裁判所見学、生命保険講座、ユニバーサル徳島マップを用いた街歩きなどを織り交ぜて学生が飽きないよう努力する。

【キーワード】 社会調査、市民社会、相互行為秩序、福祉社会、知的生産、ユニバーサル・デザイン、コミュニケーション秩序

【先行科目】 『生活と社会/ボランティア論』(1.0, ⇒33頁)

【関連科目】 『生活と社会/ボランティア実践』(0.5, ⇒151頁)

【到達目標】

1. 世界を社会学的観点から見る力を獲得し、社会学的に考える習慣をもてるようになる。
2. 第2世代(ウエーバー、デュルケム、ジンメル)以降の社会学者について基礎的知識を持つ。
3. ライフコース的観点から自分の人生を振り返ることができる。
4. ユニバーサルデザインについてバリアフリーとの相違などを実践的に理解し、解説できる。

【授業の計画】 1. イントロダクション:社会学と市民社会 2. 相互行為秩序、電車の社会学、携帯の社会学 3. 相互行為と自己、ジンメル、ミード、パソンズ、ゴッフマン 4. 恋愛と結婚、または、家族社会学 5. 裁判所訪問 1:予習(制度の社会学) 6. 裁判所訪問 2:復習(現代福祉社会と裁判) 7. 社会秩序と権力、ホップス秩序問題 8. 暮らしの中の保険:あるいは、保険社会学 9. 看取り、葬儀、追悼、あるいは、死の社会学 1 10. 看取り、葬儀、追悼、あるいは、死の社会学 2 11. 言いにくいことを言うこと、コミュニケーションの社会学 1 12. bad news telling、コミュニケーションの社会学 2 13. メディ

アとコミュニケーション 14. 総復習 (公認カンニングペーパーによる) 15. 試験 (公認カンニングペーパー方式) 16. 試験解説

【教科書】長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、3500円+税

【参考書等】

- ◇ 平 英美・中河 伸俊編『新版 構築主義の社会学』世界思想社。
- ◇ 山崎 敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣。
- ◇ メイナード著 榎田美雄・岡田 光弘訳『医療現場の会話分析』勁草書房。
- ◇ エマーソン、フレッツ&ショア著『方法としてのフィールドワーク』新曜社。

【成績評価の方法】毎週の課題等に基づく点が20%、授業への取り組みが20%、試験が60%。ただし、理解の様子から必要と判断された場合にはレポートを課す場合もある。

【再試験の有無】再試験は行わない。

【受講者のメッセージ】初回から実質的な授業を行う。欠席者には理由を問う。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185660>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 榎田 (1224, 088-656-9308, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日午後2時から3時)

【備考】本授業は、社会福祉主事任用資格に認定されるものとして厚生労働省において例示された科目名と同一であるため、他の必要な科目を履修した場合、「心理学概論」同様、任用資格必要単位の一部として活用できる。詳しくは担当教官にといあわせること。指名された学生は、授業開始までの間に、必ずその週の課題の回答を黒板に書いておくこと(あるいは、電子メールで、事前送信しておくこと)。休講に対応して必ず補講は行うので掲示に注意すること。授業は楽しいが楽しいものでもあったとさいごに思ってもらえるよう工夫する。

生活と社会 (Living and Society)

工業経済学

Economics of Industry

立花 敬雄 教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『経済学』)

【授業の目的】工業経済学の基礎的内容について、わかりやすく解説することを目的とする。

【授業の概要】現代の経済社会を十分に理解するためには、工業の経済学的な理解が不可欠である。これまで工業経済学の内容として論じられてきた、工業の分類、工業化の法則、生産手段と経営形態の展開などについての的確な知識に基づいて現代工業の動向を読みとり、これからの展望について検証する必要がある。そのことによって現代経済が直面している諸課題についても明らかにしたい。

【到達目標】工業経済学の基礎的知識を習得する。

【授業の計画】1. 1 国民経済と工業 2. 2 工業の分類 3. 3 工業化と経済成長 4. 4 工業化の法則 5. 5 経済成長と比較生産性 6. 6 生産手段と経営形態 7. 7 労働手段と技術 8. 8 経営形態の展開 9. 9 生産の集積と独占形態 10. 10 現代工業と地域社会

【教科書】プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】定期試験、レポート等により評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】質問等は、メールでも受け付けています。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181071>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 立花 (2207-2, 656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時、総合科学部1号館)

生活と社会 (Living and Society)

マクロ経済学入門

Introduction to Macroeconomics

趙 彤 准教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『経済学』)

【授業の目的】マクロ経済学の重要な概念を理解し、日経新聞の経済記事が読めるようになることが本授業のねらいである。

【授業の概要】はじめはマクロ経済学の概念の説明につとめる。身近な世界経済問題から出発し、金融の仕組み、経済の仕組み、そしてマクロ経済学の基本を学習する。

【キーワード】為替相場、金利、金融・財政政策、グローバル化世界経済

【到達目標】

1. 日経新聞の記事が読めること
2. 経済理論をもって経済現象を考えること

【授業の計画】1. これまでの円の動きについて 2. ヘッジファンドと「ポンド危機」について 3. 「アジア通貨危機」について 4. 「ロシア通貨危機」について 5. これからの「世界の通貨体制」

【教科書】講義中指示する

【参考書等】

- ◇ 細野真宏『経済のニュースがよく分かる本 (世界経済編)』小学館
- ◇ 大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本 (マクロ経済編・経済政策論)』、『経済学が面白いほどわかる本 (マクロ経済編・マーケット論)』中経出版

【成績評価の方法】出席と期末試験あるいはレポート

【再試験の有無】無し

【受講者のメッセージ】受講生に2回ほどディスカッションしてもらうので、受講人数を40名とする

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181061>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00~14:30)

生活と社会 (Living and Society)

国際化と環境問題

Internationalization and Environmental Problems

北村 修二 教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地理学』)

【授業の目的】近年、経済成長や地域開発に伴って、世界およびわが国で起きている環境問題を取り上げ、われわれが取り組むべき課題を考察する。

【キーワード】今問われているもの、私たちと国際化、生活と環境、地域開発と環境問題

【到達目標】環境に関する基礎的な素養を、具体的事例のなかで考えながら、身につけさせることを課題とする。特に国際化の進展のなかで行われている、地域開発に伴って生じている地域環境問題を、私たちの生活との関わりをなかで考察する能力を培う。

【授業の計画】1. ガイダンス・講義の趣旨と進め方 2. 今問われているもの 3. 国際化・地球化時代 4. 国際化時代の経済および産業 5. 国際化時代の地域システム 6. 世界の環境問題 7. わが国の環境問題 (1) 8. わが国の環境問題 (2) 9. 大都市地域の環境問題 10. 企業の環境問題への取り組み 11. 地方自治体の環境問題への取り組み 12. 原子力をめぐる環境問題 13. 新たな時代の地域開発とまちづくり 14. 環境問題と私たち 15. 試験 16. 総括

【教科書】教科書は最初の授業で紹介するので人手すること。

【成績評価の方法】講義時間内の小テスト (配点は60%) と試験やレポート (配点は40%) により評価する。

【再試験の有無】無し

【受講者のメッセージ】受講に際して、高校や大学等で地域開発や環境に関する科目の受講の有無は問わないが、国際時代の地域問題や環境問題に関心があり、それらの課題を勉強する意志があり、かつそれが実行できる人は参加できる。オフィスアワー 随時。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181064>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 北村

生活と社会 (Living and Society)

都市の人間関係

Urban Personal Networks

矢部 拓也 准教授

2 単位 後期 水 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】都市社会構造を人間関係 (パーソナルネットワーク) の側面に注目して明らかにしてゆくことが本講義の目的である。都市社会の人間関係は、都市社会学のなかで長い間重要な研究テーマとなっていた。講義では、都市社会学ばかりでなく、隣接する家族社会学、階層研究の先行研究の成果も紹介しながら、現時点における都市社会の人間関係研究における到達点を示す

【授業の概要】森岡清志編著 (2000) 『都市社会の人間関係』放送大学教材をテキストとして、様々な立場からのアプローチを学んでもらう。近年、社会学では人間関係という言葉はあまり使わなくなり、替わって、社会的ネットワーク、パーソナルネットワークという言葉が用いられている。テキストをもとに、毎回ひとつのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方をを用いて都市社会構造についての理解を深めてもらう。

【キーワード】パーソナルネットワーク、パーソナルネットワーク、都市社会学

【到達目標】 パーソナルネットワーク論の考え方を理解できるようになる。また、パーソナルネットワークの視点から都市構造が描けるようになること。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 都市社会の特質と人間関係 3. 社会的ネットワークとパーソナルネットワーク 4. 都市生活と社会的ネットワーク 5. 北カリフォルニアのパーソナルネットワーク 6. 日本の大都市におけるパーソナルネットワーク 7. 都市化と親族関係 8. 現代の都市家族 9. 都市家族とネットワーク 10. 連帯的なネットワークと家族:現代日本の家族・コミュニティ問題 11. 解放化するネットワークと家族:現代日本の家族・コミュニティ問題 12. 階層とネットワーク 13. 社会的資源としてのネットワーク 14. 小集団のネットワーク 15. 高齢者のパーソナルネットワーク 16. パーソナルネットワーク研究の課題

【教科書】 森岡清志編著『都市社会の人間関係 (放送大学教材 83138-1-0011)』放送大学出版協会、2000年、2200円

【参考書等】 安田雪『ネットワーク分析:何が行為を決定するか』新曜社、1997年、2200円

【成績評価の方法】 期末レポート 70%、出席 30% 詳しくは初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 実際に自分の友人関係や親族関係をパーソナルネットワークの視点で見直すことで、生きた知識として身に付きます。ただ受身的に聞くのではなく、実際に簡単な分析を行ったりすることに積極的な受講者を歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181079>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

生活と社会 (Living and Society)

経済と法

Economics and Law

泉 克幸 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 法律学のうち、経済との関わりが深い領域についての入門レベルの理解を直接の目的とする。また、併せて、法律の基本的な考え方や経済社会の実情に対する知識を身に付けることも目的とする。そして、これらを通じてバランス感覚 (リーガルマインド) を養うことを最終的な目的とする。

【授業の概要】 本年は、知的財産をキーワードに開講する。周知の通り、現代経済においてはコンピュータ・ネットワークを媒体に各種の情報 (プログラムやゲーム、音楽や映像といったエンタテインメント等) に関連する市場、バイオテクノロジーに代表される高度先端技術に関連する市場、通信や放送等のメディアに関連する市場、などのいわゆるソフト産業が重要な位置を占めている。これらの技術や情報は人間の知的な創作活動から生み出されるところから「知的財産 (Intellectual Property)」と呼ばれる。本講義ではこの知的財産を巡る様々な法的問題を概説する。

【キーワード】 法律、知的財産法

【到達目標】

1. Step1:知的財産権の重要性やその基本的原理、役割などが理解できている。
2. Step2:著作権法や特許法等における重要な概念や語句の基本的な理解ができていく。

【授業の計画】 1. 以下に示すような体系を持つ知的財産法を、特定のテーマを設けた上で講義する。 2. 1) 知的創作物に関する産業財産権法…特許権、2) 実用新案権、3) 半導体の回路配置権、4) 植物の新品種に関する権利、5) 意匠権、6) ノウハウ (企業秘密) 3. 2) 営業標識に関する工業所有権法…商標権、商号権、サービス・マーク、原産地表示 4. 3) 著作者の権利…著作財産権 (複製権など)、著作者人格権 5. 4) レコード業者、放送業者、歌手・演奏家の権利…著作隣接権 6. 5) その他…不正競争防止法、知的財産法と競争法の関係、ライセンス問題、国際的動向、法改正の動きなど

【教科書】 レジュメを作成して講義形式で行う予定である。教科書については未定である。参考書は講義中に適宜紹介するが、本講義の感覚をつかめる初学者用の読み物として、中山信弘『マルチメディアと著作権』(岩波新書)、赤尾晃一『近未来映像・メディア』(角川書店)を挙げておく。

【成績評価の方法】 筆記試験を中心に平常点を加味して行う。併せて、小テストを実施するかもしれない。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 法律の知識は前提としないが、平日頃から関連の新聞記事やニュース等に対して敏感な姿勢でいて欲しい。なお、遅刻・私語は厳禁。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181092>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 泉 (088-656-7184, izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期、水曜日 16時10分~17時10分 総合科学部1号館3階(経済法研究室))

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 II

Constitution and Human Rights 2

堀井 秀知 非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 憲法改正を巡る議論や裁判員制度など、具体的な問題を中心にしながら、憲法の理念や人権の考え方を身につけてもらうことを目的としています。憲法は「この国のかたち」に関わる最も重要なルールですが、同時に、日常生活とはもともと縁遠いと思われがちです。しかし、実際には、日常生活の様々な場面で重要な役割を果たしています。この講義を通じて、そうしたことを学びとっていただけたらと思っています。

【授業の概要】 憲法の基礎と人権を中心に講義をすすめます。その際、実際に裁判になった事例などをベースにして、憲法の基本的な論点を講義形式で検討していく予定です。前期の「憲法と人権 I」を受講している必要はありませんが、前期の講義を受講していると、より憲法についての理解が深まるでしょう。

【キーワード】 憲法、人権

【先行科目】 『生活と社会/憲法と人権 I』(1.0, ⇒32 頁)

【到達目標】 憲法と人権の基本的な考え方を理解し、社会人として求められる最低限の法的素養を身につける。

【授業の計画】 1. 憲法・人権総論 (1) 2. 憲法・人権総論 (2) 3. 法の下での平等 4. 出生と生殖医療をめぐる人権問題 5. 未成年者の人権 (1)-未成年者の自己決定権を中心にして 6. 未成年者の人権 (2)-少年法を中心にして 7. 表現の自由 (1) 8. 表現の自由 (2) インターネットと憲法問題 9. 信教の自由 10. 財産権と職業選択の自由 11. 生存権 12. 家族を巡る憲法問題-夫婦別姓・非嫡出子制度を中心にして 13. 参政権 14. 裁判員制度と裁判を受ける権利 (1) 15. 裁判員制度と裁判を受ける権利 (2) 16. 総括 憲法改正を巡る議論

【教科書】 特に指定しませんが、六法全書 (『コンパクト六法』、『デイリー六法』などの小型のもの) を持参してください。

【参考書等】 「四訂 憲法入門」(樋口陽一著 勁草書房)・「やさしい憲法入門 (第 4 版)」(戸波江二編 法学書院)・「はじめて学ぶやさしい憲法」(長尾一祐著 実務教育出版)・「いちばんやさしい憲法入門 (第 3 版)」(初宿正典ほか編 有斐閣)・「基本的人権の事件簿 (第 3 版)」(棟居快行ほか編 有斐閣)・「憲法判例を読む」(声部信喜 岩波書店)・「はじめて学ぶ憲法判例」(資格実務研究会編 実務教育出版)・「確認基本用語 300」(大沢秀介編 成文堂)

【成績評価の方法】 講義中に実施する小テストと期末レポートの結果を総合して評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 法学は決して難しくありません。自分の頭で考えるうちに自然と法的な考え方が身につくようになると思います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181078>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堀井

生活と社会 (Living and Society)

社会科学のための統計学入門

Introduction to Statistics for Social Sciences

矢野 剛 准教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 統計学は、集団現象に関するデータを収集し、その集団の特質をデータに基づいて記述・推測する方法に関する科学である。この講義では、初めて統計学を学ぶ学生を対象にして、統計学の基礎的な手法について、その考え方を教え、計算力をつけ、社会科学への応用力を培うことを目的とする。

【授業の概要】 統計学ユーザーの立場から、社会科学で使用される必要最低限の統計学を講義する。また授業の最後半部分で、より経済学・経営学に特化した統計学的手法である計量経済学の基礎も講義する。

【キーワード】 統計データ、社会科学、経済・経営、数量分析

【関連科目】 『社会統計基礎論』(0.5)

【到達目標】 社会科学に必要な統計データ処理能力に関する必要最低限の基礎知識を習得すること。計量経済学というものに少しだけ慣れること。

【授業の計画】 1. 統計学は何をする学問か 2. 統計計算の第一歩、平均と分散 3. 分布と位置の尺度 (平均値/中央値/最頻値) 4. 分布と散らばりの尺度 (分散/標準偏差/偏差値) 5. 統計データのまとめ方とグラフ

フ化(度数分布とヒストグラム) 6. 確率変数とその分布/二項分布 7. 中心極限定理, 正規分布 8. 平均値の推定 9. 比率の推定 10. 小標本からの推定/分布 11. 検定の考え方 12. 相関係数から計量経済学モデルへ 13. 計量経済学の理論(最小二乗法, t 検定) 14. 計量経済学の実験(現実データを使って) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】<教科書>『統計学入門 第2版』(新経済学ライブラリ9), 森棟公夫 著, 新世社

【参考書等】講義レジュメ(プリント)を配布する。

【成績評価の方法】小テストと期末試験による。試験は授業に出て演習問題を解き、宿題をしていけば解けるレベルです。

【再試験の有無】有(病気等やむを得ない理由により期末テストを受験できなかった場合、再テストを行うことがある)。通常の期末テストより難度を上げた再テスト問題を出す。

【受講へのメッセージ】前期の「社会科学のための統計学入門」で既に単位を取得している学生は、この後期の「社会科学のための統計学入門」での単位取得は認めません。なぜなら、前期と後期では一部授業内容に違いがあるものの、重複箇所も多くあるからです。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181088>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢野 (2221, 088-656-7182, yano@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12~13時)

【備考】授業には、√計算のできる電卓を必ず持参すること(携帯による代用はやめておいた方が良いでしょう。複雑な計算がしにくくて、計算間違いの原因になります。また当然期末テスト時には携帯電話の使用は不可になります。)

生活と社会 (Living and Society)

地球環境問題

Global Environmental Problems

豊田 哲也 准教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『地理学』)

【授業の目的】21 世紀に生きる人類にとって地球環境問題は差し迫った課題である。増え続ける人口、伸び悩む食糧生産、枯渇する資源、加速化する環境破壊。今日の日本に住む私たちは豊かで快適な生活に恵まれているが、それが莫大な輸入資源の消費によって支えられていること、同じ地球上には貧困や飢餓に生命をすさ脅かされている多くの人々がいることを忘れてはならない。授業では人口、食糧、資源、環境といったキーワードを地域の視点からとらえ、問題の本質を問いかけることを目的とする。

【授業の概要】授業では原則として毎週 1 つのテーマを取り上げ、ビデオ視聴などだけでなく豊富なデータを示しながら解説をおこなう。各人が事実を正確に認識し、自ら考えを深める手がかりにしてほしい。なお、授業に関連する情報の提供やレポートの提出は下記ウェブページ上でおこなう。

【キーワード】地理学、地球環境、人口問題、食糧危機、南北問題、資源とエネルギー

【関連科目】『生活と社会/食生活の経済学』(0.5, ⇒28 頁)

【到達目標】地球環境問題についての関心を高め、基礎的な知識を身につけた上で、自分で探した資料をもとに考察をおこない、意見を論理的な文章にまとめることができる。

【授業の計画】1. 人口問題とはなにか -世界人口の歴史的推移と将来予測 2. マルサスの人口論 -人口論の意義と人口転換モデル 3. 人口抑制政策の試み -中国における一人っ子政策とその社会的影響 4. 発展途上国の都市問題 -貧困がもたらす農村の疲弊と都市の人口爆発 5. 日本の人口問題 -進む少子化・高齢化と人口減少社会のゆくえ 6. 飢餓と低開発の構造 -モノカルチャー経済のゆがみと南北問題 7. 食糧問題と緑の革命 -高収量品種の開発と普及に見る光と影 8. 食糧生産の現状と問題 -農業生産と食糧貿易から見た地域の格差 9. 日本の食糧需給 -輸入食料の増大と国内農業の課題 10. 破壊される熱帯林 -熱帯林の急激な減少とその経済的要因 11. 有限な資源と成長の限界 -エネルギー資源の地理的分布と国際情勢 12. 日本のエネルギー需給 -原子力エネルギーの経済性と安全性 13. 広がる酸性雨被害 -酸性雨のメカニズムと越境する大気汚染 14. 進む地球温暖化 -京都議定書と温室効果ガス排出削減の取り組み 15. 持続可能な文明と社会 -環境問題が問いかけるものと私たちの選択 16. 授業の総括

【教科書】

- ◇ 石弘之著 『地球環境報告』 岩波新書 1988 年 819 円
- ◇ 西川潤著 『世界経済入門 第3版』 岩波新書 2004 年 819 円
- ◇ このほか参照する図表等を各回プリントして配布する。

【参考書等】関連する図書を毎回授業で紹介する。

【成績評価の方法】5 回に分けて小レポートを課すほか、授業へ取り組み状況をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】高校での授業や受験科目で地理を履修・選択したかどうかは受講の必要条件ではない。この授業の単位は、教員免許取得(中学校・社会、高校・地歴)のための「教科に関する科目」に算入できる。

なお、平成 18 年度までに開講した授業科目『地域と人間(地球環境問題)』を受講した者は履修できない。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/env/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181069>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 豊田 (2329, 088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日12時~13時 豊田研究室(総合科学部1号館3階))

【備考】授業の 1~6 回目は、大学開放実践センターの公開授業として受講可能。

生活と社会 (Living and Society)

中東経済入門(第二次大戦後の政治と経済)

Introduction to Middle East Economy (Post WW2 Politics)

水島多喜男 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『社会科学ゼミナール』)

【授業の目的】最近中東地域に関する関心が高まっているが、依然として中東地域に対する日本の関心は石油・天然ガス問題に限られている。しかし、この地域は共通性とともに多様性をもち、一面的な理解を拒絶する世界である。授業を通じて、この地域を理解するための基礎的知識を獲得することを目的とする。

【授業の概要】この講義では、映像資料を見ながら、以下の点についてこの地域の特性を概観することにした。1. 中東地域の政治的、経済的多様性、2. 中東地域とその他の地域との間の経済関係、3. 資本主義の世界的性格と中東地域との緊張関係。

【キーワード】中東、政治、第二次世界大戦、経済、資本主義、地域

【先行科目】『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.7, ⇒16 頁)

【関連科目】『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.7, ⇒16 頁)

【到達目標】中東に関する報道を、自分の知識と照らし合わせながら理解できるようにする。

【授業の計画】1. ユダヤ人問題 2. パレスチナ問題 3. ユダヤ過激派 4. イスラエルの核開発 5. イラク 6. イラク 7. イラン 8. イラン 9. サウジアラビア 10. サウジアラビア 11. アラブ過激派 12. 中東と民主主義 13. 中東と民主主義 14. (予備)進捗度に遅れが出た場合に使用 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】配付する資料を使用する。

【参考書等】参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】授業への取り組みと、授業中の小レポート・課題レポートを重視する。

【再試験の有無】なし

【受講へのメッセージ】平成 16 年度に開講した授業科目『中東経済入門 2』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181062>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の後、研究室は総合科学部1号館中棟2階)

生活と社会 (Living and Society)

市民と政治

Politics and Citizen

栗栖聡 教授

2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『政治学』)

【授業の目的】人間の社会がある限り、公共的な問題を何らかの形で解決すること、すなわち政治が必要となる。この授業においては、政治の基本的枠組み、基本的概念、近代国家や現代国家の基本原則等を理解することが目的である。

【授業の概要】そもそも政治とは何を意味するのかという問題から出発し、政治学の基本的概念を理解し、さらに近代国家の基本原則や現代国家のあり方について、自由民主主義国家、福祉国家、行政国家、大衆民主主義国家といった類型に即して考察する予定である。

【到達目標】政治現象を理解するための、市民としての基本的教養を身につける。

【授業の計画】1. 政治とは何か 2. 公共的事柄とは 3. 意思決定(その1) 4. 意思決定(その2) 5. 実施 6. 近代国家のあり方 7. 社会契約論(その1) 8. 社会契約論(その2) 9. 立憲主義(その1) 10. 立憲主義(その2) 11. 立憲主義(その3) 12. 福祉国家 13. 行政国家 14. 大衆民主主義国家 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】授業中に指示する。

【成績評価の方法】論文形式による試験

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181072>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後2時30分~4時)

生活と社会 (Living and Society)

ボランティア実践
Volunteer and society

榎田 美雄 准教授
2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】 ボランティアという方法の可能性を、「サービスマン」という考えを取り入れることで探っていく。医療福祉系のボランティアをしながら社会科学的思考を紡いでいく「実践ゼミ」であると思っほしい。具体的には学長裁量経費等の支援を受けながら、病院でのボランティア活動および認知症者家族・グループホームに対するボランティア活動をしてもらう。そこから、家族と医療、病者と医療の関係等を考察してもらい、日常的にボランティア日記をつけてもらうとともに、年度末に報告書原稿を執筆してもらう。

【授業の概要】 まず、希望者(数回の土曜日企画に参加できること、日常的にボランティア日記をつける意欲があること、年度末に冊子『ボランティア実践報告』用原稿の執筆ができること、が希望の条件)から、20 名がくじ引きで選抜される。(9 月 25 日までに、土曜日企画の日程は、全学共通教育掲示板に掲出されるので、それをみてから希望せよ) について、非常勤講師の高松哲雄先生(アクティブリスニングクラブ主宰)および、小川洋子先生(認知症の人と家族の会)から、ボランティアに期待されていることの概要を聞く。その後、実際にボランティアにいきながら、年度末に実践報告文を書く。

【キーワード】 ボランティア, サービスマン, 認知症

【先行科目】 『生活と社会/ボランティア論』(0.0, ⇒33 頁)

【到達目標】 ボランティアをしながら、社会の仕組みを考える能力を身につける。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 傾聴ボランティアと認知症者・認知症者家族支援の抱えている問題 3. 傾聴ボランティアをすること、あるいは認知症者支援の社会的意義 4. ボランティア日記サイトへの携帯電話からの投稿方法の習得 5. ボランティア日記を元にした講義とディスカッション 6. ボランティア日記を元にした講義とディスカッション 7. 認知症に関する講演会とセミナー 8. 認知症に関する講演会とセミナーについての討論 9. 学期末の『ボランティア実践報告』作成要領についての討議 10. サービスマンとしての意義と概要 11. 実践のサービスマン化にむけた問題意識の発掘(文献探索) 12. 学生が探索した文献によるサービスマン化検討会(1) 13. 学生が探索した文献によるサービスマン化検討会(2) 14. 学生が探索した文献によるサービスマン化検討会(3) 15. 『ボランティア実践報告』企画の相談 16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。

【参考書等】 8 月前半に関連講演会を開催するので掲示に注意すること。サービスマン化および認知症について新書レベルでよいから夏休み中に読んでおくこと。

【成績評価の方法】 授業中の出席と発言、イベントへの参加、最後のレポートによって評価する。半ばゼミのように進めていくので、通常の講義とは異なることを予め理解してほしい。詳しくは初回に資料を配付して説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 自分や社会を振り返り、物の見方を変えたり豊かにするよう講義を目指したい。そうした意味での「教養」を身につけたい学生の受講を歓迎する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181059>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 榎田 (1224, 088-656-9308, HCB00537@nifty.ne.jp)

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権
Constitution and Human Rights

麻生 多聞 非常勤講師
2 単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『法律学』)

【授業の目的】 統治規範の最高法規たる日本国憲法により保障される人権の体系について概観し、近代立憲主義という思想と関連づけながら「人権とは何か」というテーマについて、受講者各自が主体的な回答に及ぶことのできるよう講義する。いかなる問題についても、自分自身が当事者になったつもりで考察する姿勢(当事者交替可能性)が重要である。

【授業の概要】 適宜、映像・音声資料なども用いるが、基本的には一般的な講義形式によるものとする。

【キーワード】 当事者交替可能性, 憲法, 人権

【到達目標】 立憲主義という枠組においては、主権者たる市民には、そもそも主体的・能動的なシティズンシップが求められるはずであるが、今日では、このような統治主体としての個人像がきわめて希薄化しているといわざるを得ない。このような現状を踏まえながら、現代的な社会問題の解決のために求められる憲法学的観点からの思考法(リーガルマインド)

【授業の計画】 1. 立憲主義概説(人権の享有主体とは) 2. マイノリティの権利① 3. マイノリティの権利② 4. 平等①(専属殺人重罰規定違憲判決を素材として) 5. 平等②(性差別, 逆差別・女性専用車両) 6. 生存権 7. 包括的基本権①(生死と自己決定) 8. 包括的基本権②(産む権利, プライバシー権) 9. 信教の自由と政教分離 10. 表現の自由 11. 教育と憲法 12. 刑事手続と憲法 13. 労働法制 14. 平和的生存権(「人権としての平和」) 15. 成績判定試験 16. 総括

【教科書】 麻生多聞ほか『初学者のための憲法学』(北樹出版)を教科書として用いる(徳島大学生協の書店で購入できるよう手配済みである)。法学の学習では六法の持参が不可欠であるが、本書巻末には、日本国憲法、大日本帝国憲法の全条文が収録されているので、六法の購入は求めない。

【成績評価の方法】 学期末試験により評価する。

【再試験の有無】 無し

【講師へのメッセージ】 意欲ある学生の受講を歓迎する。私語の甚だしい受講者については教室での受講を認めない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181350>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ (オフィスアワー: 講義後30分間, 非常勤講師控室)

生活と社会 (Living and Society)

ワーキングプアと現代の貧困

Workingpoor and the Problems of Today's Poverty

吉田 浩 教授

2 単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】 今日の日本においては、全ては市場に委ねるべきだと主張する新自由主義の市場原理主義が支配している。全ては市場の競争に委ねられ、競争から我々を守ってくれた様々の規制やセーフティネットは緩和されるか撤廃され、成果を競う寒々とした競争社会となつてしまった。この競争社会からは必然的に勝ち組と負け組とが生じてきて、日本は格差社会となったということが多くの研究者、ジャーナリズムによって指摘され、報道されている。圧倒的多数の国民は負け組に属しているが、問題はこの負け組の実態である。そこには大量の失業者、百万をこえる生活保護世帯、ホームレス、ネットカフェ難民が属している。労働者も正規労働者と非正規労働者とに分断されている。非正規労働者にはパート、アルバイト、派遣労働者、請負労働者らがいるが、彼らの年収は 300 万円、いな 120 万の時代であつて、彼らは生活保護世帯以下の生活を送るワーキングプアという層を形成している。逆に正規労働者には超長時間労働、超過密労働が課せられ、ここからも過労死、過労自殺という不幸な事態が多発している。このように今日の日本は、貧困問題が多岐多様にわたって拡大し深刻化してきていると共に、青年層の雇用が極端に困難となつてきており、彼らの 2 分の 1 は非正規労働者である。そこでこの多様化する貧困問題の実態、とりわけ青年層のそれを押さえつつ、なぜこのような惨憺な事態が成熟し、それも世界第 2 位の経済大国である日本で生じてきたのか、その原因を探求していきたい。

【授業の概要】 重層的にわたる日本の貧困問題の基本的実態を押さえつつ、その原因を解明していく

【キーワード】 ワーキングプア, 格差社会, 生活保護世帯, 非正規労働者

【到達目標】 日本の今日の貧困の現状を正確に把握すると共にその問題点を確認し、同時にその原因と解決策とを解明していくこと

【授業の計画】 1. 現代日本の貧困の実態の確認 2. 同上 3. 長時間労働、超過密労働と過労死、過労自殺 4. 同上 5. 非正規労働者と偽装請負 6. 同上 7. 非正規労働者の雇用と派遣労働 8. 同上 9. 青年労働者の雇用の実態 10. 同上 11. 貧困問題を引き起こす原因 12. 同上 13. 貧困問題解決のための途 14. 同上 15. 試験 16. 総括

【教科書】 特になし。ただしグラフ、図表、統計などの諸資料は適宜に配布する

【参考書等】 橋本俊昭著、『格差社会』(岩波新書)、森岡孝二著、『働きすぎの時代』(岩波新書)、中野麻美著、『労働ダンピング』(岩波新書)、門倉貴史著、『ワーキングプア』(宝島社新書)、朝日新聞特別報道チーム、『偽装請負』(朝日新書)、しんぶん赤旗国民運動部、『仕事が終わらない』(新日本出版社)等々、多数あり。

【成績評価の方法】 試験と講義内容に対する疑問、問題点を指摘する小レポートとによって総合的に評価する。疑問、問題点の指摘に対しては講義で答える

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181349>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-656-7198, yoshida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時 ~ 13 時)

1.4 《自然と技術》 (Science and Technology)

自然と技術 (Science and Technology)

量子論入門

Introduction to Atomic Physics

中山信太郎 教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『物理学』)

【授業の目的】 科学としての物理的方法論について解説する。物理法則の認識と法則化を経て得られた自然観について理解することを目的とする。現代物理学の中核をなす相対論と量子論をもとにした物質構造について解説する。

【授業の概要】 自然界における光の振る舞いは、200 年もの間さまざまな検証に耐えてきたニュートンの自然観を根底から覆した。それらは光速不変性であり、光の粒子性・波動性である。前者は相対論として、後者は量子論として、全く新しい自然観が確立されることになる。これらをもとにした物質構造について考える。自然界に存在する物質に作用する力と物質構造の関わりを振れる。

【キーワード】 光と黒体放射、粒子性と波動性、物質の二重性、不確定性原理、粒子と反粒子

【到達目標】

1. 光の粒子性・波動性を理解する。
2. 物質の二重性 (粒子性・波動性) について理解する。
3. 量子論を基礎とする自然構造を理解する。

【授業の計画】 1. 自然を見ること、自然の広がり 2. 気体分子運動論 3. 特殊相対論 4. 相対論と光子 5. de Broglie 波と波動性 6. 箱の中の粒子と原子 7. 波動と粒子の二重性 8. Planck の熱放射 9. 原子スペクトルと光の吸収共鳴 10. 宇宙の膨張速度 11. 宇宙背景放射 12. 宇宙の始まりと進化 13. ビッグバンと元素合成 14. 超新星とニュートリノ 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しない。毎講時プリントを配布する。
- ◇ 参考書: 鈴木・釜江著『素粒子の世界』岩波新書
- ◇ 長島著『ニュートリノの謎』サイエンス社

【成績評価の方法】 毎講時小テストを行う。レポートを 1 つ提出してもらい、小テストとレポートの中から、試験問題を出す。以上を総合評価して成績を出す。

【再試験の有無】 小テストやレポートが一定水準に達していれば再試験を認めることがある。

【受講者のメッセージ】 講義ノートを準備する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185539>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時いつでも質問可。)

自然と技術 (Science and Technology)

防災のための地球科学

Earth Sciences for Disaster Prevention

西山 賢一 准教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地学』)

【授業の目的】 日本列島はプレートが沈み込む変動帯に位置しているため、地震や火山による災害を受けやすい。また、地形が急峻で平地が少なく、しかも湿潤多雨な気候環境下にあるため、台風や豪雨による災害も多い。日本列島に多発する災害を考える上で基礎となる地球科学の知識を講義するとともに、具体的な防災の方法を考えていく。

【授業の概要】 災害科学の基礎となる地球科学の知識を学びながら、地震災害、火山災害、土砂災害、洪水災害について理解を深める。また、防災情報やハザードマップ (災害予測図) の活用法についても学ぶ。

【キーワード】 災害地質学、地球科学、自然災害

【到達目標】 自然災害のしくみを理解するとともに、その知識を防災のために活用できるようになる。

【授業の計画】 1. 自然災害とは何か? 2. 自然災害の実例を学ぶ (地震・火山・土砂・洪水) 3. 地震の特徴・被害・予測 4. 過去に発生した地震災害の実例 (関東大震災、阪神大震災) 5. 過去に発生した津波災害の実例 (スマトラ地震津波) 6. 火山の特徴・被害・予測 7. 過去に発生した火山災害の実例 (雲仙普賢岳噴火) 8. 過去に発生した火山災害の実例 (フィリピン・ピナツポ巨大噴火) 9. 土砂崩れで作られた日本の山地 10. 過去に発生した土砂災害の実例 (2004 年台風災害ほか) 11. 洪水で作られた日本の平野 12. 過去に発生した洪水災害の実例 (2004 年台風災害ほか) 13. 防災・気象情報の活用法 14. 災害予測図 (ハザードマップ) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書: 指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書等】 参考書: 『自然災害を読む』岩波書店, 『自然の猛威』岩波書店, 『日本の地震災害』岩波新書, 『Q&A 火山噴火』講談社ブルーバックス, 『土石流災害』岩波新書, 『災害に出会うとき』朝日新聞社

【成績評価の方法】 期末試験と出席状況 (小テスト) を総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】 再試験あり

【受講者のメッセージ】 パワーポイントやビデオなどを使う場合があります。遅刻・欠席をしないこと、積極的にノートをとること。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tigaku/index.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185557>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12~13 時)

自然と技術 (Science and Technology)

天然に産する無機化合物 - 鉱物

Mineral - natural inorganic material

沼子 千弥 准教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『地学』)

【授業の目的】 地球科学だけでなく無機化学、材料科学、物性物理にも関連が深い、鉱物と結晶についてその基礎を理解することを目的とする。

【授業の概要】 天然に産するダイヤモンドや石英など無機固体物質を鉱物と呼び、工学材料として様々な鉱物が利用されている。本講義では、鉱物の物性を発現させている重要な要因である結晶構造や鉱物の中の原子・イオンの結合様式について、物質科学的観点から解説を行う。

【キーワード】 鉱物、構造、結晶、最密充填、結合、物質

【関連科目】 『自然と技術/天然に産する無機物質-鉱物』(0.5)

【到達目標】

1. 物質を構成している原子やイオン、また物質が形成される際に関与する化学反応の基礎が理解できる。
2. 化学組成と結晶構造により定義された天然の無機固体物質「鉱物」という概念を理解することができる。
3. 生成物の性質に大きく関与する結晶と結晶構造に関する基礎的な知識を身につけ、結晶構造と物質の性質の関係についての認識を深める

【授業の計画】 1. 天然に産する無機固体物質 鉱物 2. 宝石・貴石など鉱物の価値 3. 原子の構造、電気陰性度、原子やイオンの大きさ 4. 物質の 3 態、最密充填様式 (1) 5. 最密充填様式 (2) 6. イオン半径と配位数、配位多面体 7. 鉱物形成に関連する化学反応 (1) 8. 鉱物形成に関連する化学反応 (2) 酸・塩基の定義と HSAB 則 9. 鉱物の中に存在する結合の様式 10. 結晶と結晶構造 (1) 対称操作 11. 結晶と結晶構造 (2) 空間格子、単位包、格子定数 12. 結晶と結晶構造 (3) 晶系、ブラベー格子 13. 鉱物の多形、同形 14. 固溶体、鉱物の多様性 15. 試験 16. 総括

【教科書】

- ◇ 講義の中で内容に応じて指示、必要に応じてプリントも使用する。
- ◇ 参考書: 講義中に個別に指示、必要に応じてプリントも使用する。

【成績評価の方法】 出席、試験、レポート、学習状況を総合的に判断して評定を行う。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 鉱物は、基礎科学だけでなく材料工学にも深いトピックスです。開設分野は地学ですが、はじめて地球科学に触れる方でも理解できるよう、講義内容を工夫致しますので、積極的・主体的に授業に参加してください。また、代返、レポートの丸写し等を行い自発的な学習を怠った学生に対し、ては、本人も協力者もあわせて不可の評価をいたします。他人に頼らずに、自分で学習することを心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181026>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 沼子 (3202-2, 088-656-7265, numako@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時 ~ 13 時)

自然と技術 (Science and Technology)

現代物理学の世界

Introduction to Modern Physics

日置 善郎 教授

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『物理学』)

【授業の目的】 物理学の構成とその発展の歴史を学ぶことにより、科学的な物の見方・考え方を身につけること。

【授業の概要】 物理学は現代の科学技術を支える大きな柱であり、理系学生の基礎としてだけではなく、大学生の教養として文系の学生にとっても重要と考えられる。本講義では、この物理学の中で巨視的な現象を扱う分野から現代物理学の中核をなす量子論・相対論の基本的な構成までを概観する。そこには通常の常識では全く理解できないような

現象も登場するが、それが正に現代の科学技術の基礎となった諸法則に結び付いている。それらをゆつくりと、数式の取り扱いよりも基礎概念の理解を目標に解説することを講義の目的とする。

【キーワード】 古典物理学, 現代物理学, 自然法則の適用限界

【先行科目】 『高大接続科目/数学』(1.0, ⇒9 頁), 『高大接続科目/物理学』(1.0, ⇒9 頁)

【到達目標】

1. 自然科学の法則とはどのようなものかを知ること。
2. 現代科学と言えども完全とは言いがたく、結果として全ての法則には避けられない適用限界が存在することを理解すること。

【授業の計画】 1. 物理学の目的・現代物理学概観 2. 古典物理学の世界 (1) 素朴な自然観 3. 古典物理学の世界 (2) 古典力学の話 4. 古典物理学の世界 (3) 電磁気学の話 5. 古典物理学の世界 (4) 熱力学・統計力学の話 6. 古典物理学は万能か?(1) 原子の世界と古典物理学 7. 古典物理学は万能か?(2) 古典物理学の破綻 8. 古典物理学は万能か?(3) 量子力学と現代物理学 9. 量子物理学の世界 (1) 量子の概念 10. 量子物理学の世界 (2) ボーアの原子模型 11. 量子物理学の世界 (3) 粒子の波動性 12. 量子物理学の世界 (4) 量子力学の完成 13. 相対性理論の世界 (1) 研究の歴史:光とは何か 14. 相対性理論の世界 (2) 特殊相対性理論 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 『物理学 (現代物理学の世界)』(自製テキスト:生協書籍部へ)

【参考書等】 アインシュタイン・インフェルト 『物理学はいかに創られたか(上・下)』 岩波新書, 内山龍雄 『相対性理論入門』 岩波新書, その他講義中にも説明する。

【成績評価の方法】 毎回のレポート・小テスト, 受講態度, 学期末の筆記試験(持ち込み不可)の結果を総合して判定する。詳しくは第1回目の講義において説明する。

【再試験の有無】 有(但し, 不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者へのメッセージ】 総合科学部の授業「物理学の基礎」を履修した学生は、履修を控えてください(内容に共通点が多いため)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181012>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 日置(総合科学部3号館1N04号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~13:00(質問などは在室中ならいつでも可))

自然と技術 (Science and Technology)

化学入門

Introduction for Universal Chemistry and Technology

菊池 淳・助教/総合科学部
2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『化学』)

【授業の目的】 大学での専門化学を履修する前に身近な話題から化学への親しみを深めることを目的とする。私たちの周りには化学物質が満ち溢れ、物質の変化は化学反応として捉えられる。これらの事象に興味を持って、科学(サイエンス)の眼で眺めるセンスを養う。

【授業の概要】 基礎的な化学を履修した学生を対象とした講義形式とする。取り上げるテーマは衣食住に関わる身近に感じる内容であり、科学的関心を引き出すことを目標に授業を進める。我々のまわりに存在する「化学」と名のつく物質や現象は多くの場合、その説明がなされている。これらを正確かつ詳細に理解することは一般的に難しいが、知ることにより専門化学の分野で役立つばかりでなく、日々の生活の中でも常に「考え学ぶ」というスキルを身につける訓練となり得る。全 15 回の講義から一つでも興味のある事柄を発見し、それらについて深い考察を行なう。したがって、意欲的にテーマを探索し自ら学ぶ姿勢が大切である。教科書は特に指定はしないが、講義の中で参考書をあげることがある。また各回の講義で資料を配付。

【キーワード】 化学, 分子, 生活の中の科学, 有機化学

【先行科目】 『高大接続科目/化学-化学のしくみ-』(1.0, ⇒9 頁), 『基礎化学/化学の基礎』(1.0, ⇒118 頁)

【到達目標】

1. 日常の物質の変化を捉える
2. 身の回りの化学物質について理解を深める
3. 化学変化について平易に説明できるようになる

【授業の計画】 1. 物質と人類の発展(物質科学への招待) 2. 物質を構成する粒子 元素と原子 3. 水と油 4. 分子の大きさとかたち 5. セッケンと界面活性剤 6. 元素の話 7. 周期表の話 8. 身の回りの酸と塩基 9. 環境問題で考えること 10. 食品と化学 11. 食品と化学(人工添加物と甘味料) 12. 食品と化学(ポリフェノールの話) 13. 有機化学と私たち 14. 心の目で見える分子と化学 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 各回に資料プリントを配布します。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 試験・レポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業で出てくる化学の専門用語は、化学における常識的なものである。高校で習う化学や基礎化学の内容を理解していることが好ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185630>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 菊池(mkikuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 17時~18時 総合科学部3号館2階2N09号室)

自然と技術 (Science and Technology)

地球の科学

The Earth and Environmental History

石田 啓祐・教授

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『地球』)

【授業の目的】 日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにとって、グローバルな視点から地球の物理的な性質と、関連する自然環境の変化を理解することは大切な課題です。現在地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表層~生物圏のできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが、「現在この地球に存在する」こと、そして「命の大切さ」への理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】 講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】 地球の形と大きさ, 地球の物理的性質, 地球の歴史, 化石と生物の進化

【到達目標】 固体地球の物理的性質やプレート運動, 地層と化石から地球の歴史や環境変化を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】 1. 幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介。地球球形説と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか、なぜ楕円体と考えるのか。 2. ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項。アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマントルのバランス概念は生まれた。 3. 重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力, 標準重力は地球楕円体上の理論値の概念, 標準重力と重力異常の意味。 4. 地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化, その原因, 地磁気の逆転, 大洋底の磁気縞, 磁極の移動と大陸の移動。 5. 地球内部の温度の推定:断熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。 6. 地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わる P 波・S 波の速度, P 波の陰の存在, 地震の地理的分布と深度分布, 和達-ベニオフ帯とプレート境界。 7. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェグナーの大陸移動説とその後。 8. 地球の年齢を測る:地球の年齢の推定, 最古の岩石や隕石からわかること。 9. 大衝突から始まる固体地球と大気・海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からラン藻類による大気・水圏の環境変化。 10. 化石の定義:化石から何がわかるか。 地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順序立てられた地質時代の区分。 11. 初期の大型動物群の誕生の謎と進化的試行錯誤:エディアカラ動物群とバージェス動物群。 12. セキツイ動物の上陸:セキツイ動物の出現と進化, 大海からの離脱。 13. 地質時代の環境変化と生物の絶滅:繁栄:時代の節目の大量絶滅の環境要因は? 14. プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海陸の分布や生物進化に与えた影響。 15. ヒトへの道のり:なぜ私たちホモ・サピエンスが今ここに存在するのか? 16. 総括授業(授業評価含む)

【教科書】 教科書は特に指定しない。

【参考書等】 『地球大進化 46 億年・人類への旅』全 6 巻, NHK プロジェクト編, 2004 年, S. スタンレー著「生物と大絶滅」, 東京化学同人, 1991 年, 平野弘道「繰り返す大量絶滅」岩波書店, 1994 年, 参考書:丸山茂徳「46 億年地球は何をしてきたか?」岩波書店, 1994 年

【成績評価の方法】 自主的・自発的な学びの姿勢(30%)と、期末までに数回にわたって実施する授業内容の課題レポート提出(70%)により総合的に評価する。

【再試験の有無】 授業への積極的な取り組みが見られる受講生には、行うことがある。

【受講者へのメッセージ】 後期の月曜 3・4 講時に開講します。前期月曜 3・4 講時開講の同一題目と同じ内容ですので、単位の重ね読みはできません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181003>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田(総合科学部3号館2階南2504, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時~13 時)

自然と技術 (Science and Technology)

ゼミナール「環境科学入門」

Seminar : Introduction to the Earth and Environmental Sciences

沼子千弥・准教授

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】 地球や環境に関するトピックスを通じて演習を行い、積極的に学習する姿勢を身につける

【授業の概要】 地球科学や環境化学に関するトピックスを通じて学生がお互いの意見を交換し、討論や発表などを通じて積極的に学習することを目標に授業を進めてゆく。

【キーワード】 環境, 討論

【到達目標】 学生が主体となり質疑応答・討論などを展開し、様々な意見をまとめながら問題解決を行うことができる

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 地球科学・環境科学に関するトピックスの提供と資料調査法に関する講義を行う 3. 環境科学に関するトピックスをとりあげ集団討論を行う 4. グループに分かれて、ある一つの問題に関する討論を行う 5. グループごとの発表を行い、質疑討論を行う 6. 環境問題に対して、様々な立場からの意見などを調査する 7. 6で調査した内容についてロールプレイングを行い、総合的に問題点を提議する 8. 集まった問題点についてどのように解決してゆくか、討論を行う 9. 解決策についてあらかじめ調査を行い、発表を行う 10. 発表に必要な技術、手法について講義を行う 11. 作成した資料を発表しあい、良い点、悪い点について意見を交換する 12. 時間に制約のある場合の発表方法について講義を行う 13. 発表会に向けて、リハーサルを行い、改善点について討論する 14. 発表会その1 15. 発表会その2 16. 総括

【成績評価の方法】 出席、予習プリント、試験、レポート、学習状況を総合的に判断して評定を行う。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 どのくらい積極的に授業に参加したかを最も大きな評価のポイントとする。課題を期限内でこなすこと、出席数、発表の質なども加味して総合的に判断する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185551>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 沼子 (3202-2, 088-656-7265, numako@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日 12時~13時)

自然と技術 (Science and Technology)

教養としての統計

Statistics: Foundation for Scientific Research

川野 卓二・教授/大学開放実践センター
2単位 後期 月 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)
(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 統計学は、社会調査から始まり、とくに生物学の研究の中で理論化が進み、昔より現在に至るまで、自然科学のみならず、社会科学、人文科学などの諸科学分野において重大な役割を担ってきた。近年は、大量生産技術の進展にともなう、品質管理などに、さらに、コンピュータの発展にあいまって、理工学だけでなく、生産、政策や行動などの政治、経済、心理や健康科学関連の疫学などにかかわる実践的施策を行う際にも必要な学問となっており、その基礎概念を教養として学ぶことはこれからの学生生活にとって有益である。

【授業の概要】 上の記述からも分かるように統計の知識が必要とされる領域は多岐にわたっており、将来、何らかの調査、観察、実験などによって収集されたデータをもとに身の回りの現象を理解しようとする際には有用な道具となるはずである。そこで本講義では、微分・積分を使った難しい議論はできるだけ避け、代数的な説明を中心にして統計学の基礎的事項について文系の学生にも理解しやすいように解説する。また、具体的な例題演習問題を解くことで社会現象を統計の目で眺めるための基本的な手法を身につけることを目的とする。

【キーワード】 データ分析, 記述統計・推測統計, 確率的判断

【到達目標】

1. 記述統計と推測統計の区別を理解し、統計的な解釈・判断に利用することが出来る。
2. データの特徴や分析の目的に合った統計分析の手法を選択することが出来る。
3. 正確な計算を行って分析し、確率分布を利用して、その結果を正しく解釈することが出来る。

【授業の計画】 1. 統計的調査:統計とは何だろう 2. 収集された標本の記述, 表とグラフ 3. データのまとめ方:代表値, ばらつきの尺度 4. データのまとめ方:2変数の関係, 相関 5. データのまとめ方:2変数の関係, クロス表 6. データの変換と分布の形状 7. 標本から母集団へ:記述統計から推測統計へ 8. 標本から母集団へ:推測と検定 9. 適切な検定の選択 10. 2標本間の比較 11. 統計的検定の応用:差の検定 12. 統計的検定の応用:関係の検定 13. 統計的検定の問題点と留意点 14. 統計との日常的な関わり方 15. 期末試験 16. 全体のまとめ

【教科書】

- ◇ 教科書: 吉田 寿夫 著 「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」 北大路書房
- ◇ 参考書: D. ロウントリ 著 「新・涙なしの統計学」新世社 その他適宜紹介する。

【成績評価の方法】 講義中の課題 (30%), まとめノート (30%) と期末試験 (40%) との合計点により最終評価を行う。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 ※ 講義には、√ 演算可能な電卓 (ノートパソコンでも可) を持参すること。質問等は、メールでも受け付けています。なお、この授業の一部は一般市民にも公開されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181006>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 毎週 月・火曜日 12時10分~12時40分 場所:川野研究室 (6号館2階)

自然と技術 (Science and Technology)

身の回りの地球科学

Geology and Environment

村田 明広・教授

2単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)
(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 地球科学の分野のいくつかのトピックスを学ぶことによって、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象を理解することを目的とする。また、地震などの地質学のかかわる自然災害について理解を深め、防災意識を高めたり、地球環境問題について理解を深めることを目的とする。高校で地学を学んでいない学生にも地学に興味を持ってもらえるようにすることも目的とします。

【授業の概要】 地球科学の分野で、最近、話題になっているテーマを選び、それぞれ1~2回完結の講義を行う。生物の進化、恐竜の絶滅、南海地震、アスベスト問題、鉄と石炭など、地球と生物との関わりや、地球環境と資源に関するテーマを主とする。

【キーワード】 ダイヤモンド, 恐竜, 進化, 氷河時代, 地震, 地球環境

【関連科目】 『自然と技術/地球と地層の科学』(1.0, ⇒38頁)

【到達目標】 地球で起こっている地学現象の基礎的な事項を理解することができる。

【授業の計画】 1. ダイヤモンドはどういうところで生成するか、 2. 中生代白亜紀末の恐竜の絶滅と巨大隕石の衝突、 3. カンブリア紀のバージェス頁岩の奇妙な動物たち (1) 4. カンブリア紀のバージェス頁岩の奇妙な動物たち (2) 5. 惑星・衛星の地質学 (火星の火山・地層・流水跡, 金星の火山・山脈)、 6. 先カンブリア時代の縞状鉄鉱層と地球環境、 7. 氷河時代, 地球に氷期・間氷期が訪れるのはなぜか、 8. 石炭と環境、 9. イギリスの景勝地と地質学 (ネス湖, ピート, 湖水地方, チョークの崖)、 10. 南海地震の再来、 11. 阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震と野島断層、 12. 徳島県下の中央構造線活断層系の発生確率、 13. アスベストと環境問題、 14. 徳島県と世界の景勝地 (鳴門の渦潮, 大歩危峡, 阿波の土柱, エアーズロック) 15. 定期試験、 16. 総括授業。

【教科書】 「身の回りの地球科学ノート」を生協で購入してください。

【成績評価の方法】 毎回実施する小テストと期末試験を総合的に判断して評価する。小テストの成績がよい学生に対しては、期末試験を免除する場合があります。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 高校で地学を学んでいなくてもかまいません。液晶プロジェクターを使って授業を行う。「身の回りの地球科学ノート」を生協で購入し、毎回必ず持参すること。忘れると小テストで不利になります。遅刻をしないこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181024>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村田明広, 総科3号館, 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 在室中ならいつでもかまいません。)

自然と技術 (Science and Technology)

生物資源と化学

Bioresource and Chemistry

西川 章江・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)
(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『化学』)

【授業の目的】 我々は、生活をより豊かなものにするために、植物、動物、微生物など数多くの生物資源を有効利用している。本講義では、主に各種生物資源の作り出す化学成分について、植物生理化学、天然物化学、食品化学の観点から解説する。また、これら成分を利用した機能性食品の開発について概説する。

【授業の概要】 植物、動物、微生物の生物資源から作り出される化学成分について、植物生理化学、天然物化学、食品化学の観点から解説し、これらの成分の機能性について、できるだけわかりやすく紹介する。

【キーワード】 生物資源, 化学的利用, 食品の機能

【到達目標】 様々な生物資源の有効利用について化学的な視点から理解する。

【授業の計画】 1. 生物資源とは 2. 植物資源と化学 (1) 3. 植物資源と化学 (2) 4. 動物資源と化学 (1) 5. 動物資源と化学 (2) 6. 微生物資源と化学 (1) 7. 微生物資源と化学 (2) 8. 食品と化学 (1) 9. 食品と化学 (2) 10. 食品と化学 (3) 11. 食品の機能性 (1) 12. 食品の機能性 (2) 13. 食品の機能性 (3) 14. 生物資源と諸問題 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 授業に必要な資料を随時配布する。

【参考書等】 授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法】 学期末テスト, 受講態度, 出席状況

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 化学また生物学を十分に学ばなかった学生にも理解できるように講述する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181236>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西川 .

【備考】 上記の授業計画は, 予定であり変更することもある。

自然と技術 (Science and Technology)

水産と生物

Fisheries and Aquabiology

浜野 龍夫 / 総合科学部

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 漁業と水産生物の生態や食材としての利用について学習することを通して, 生物資源や漁村コミュニティの重要性を問ひかけ, 必要とされる環境保全活動や生物資源の開発・利用研究について考える。

【授業の概要】 水生生物の生態の面白さ, その捕獲や資源増技術, そして料理などについて, 映像を交えながら, 地域の実例を中心に講述する。

【キーワード】 生物資源, 水産, 漁業, 生態

【関連科目】 『自然と技術/地域の農林水産業とその支援技術』(02, ⇒156頁)

【到達目標】

1. 水産業や水産生物に関する基礎的知識を理解する。
2. 第一次産業 (水産業) の重要性を認識する。
3. 魚介類の本当の味を知る。

【授業の計画】 1. シラバス・講義概要の説明 2. 魚の基礎知識 3. 淡水魚の生態と利用 4. 海水魚の生態と利用 5. ウニ・ナマコの生態と利用 6. エビ・カニの生態と利用 7. 巻貝の生態と利用 8. 二枚貝の生態と利用 9. イカ・タコの生態と利用 10. その他の水産動物の生態と利用 11. 藻類の生態と利用 12. 漁業と水産加工 13. 水産資源増殖と水産養殖 14. 釣りの科学 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 なし

【参考書等】 必要なときには配付する

【成績評価の方法】 期末試験

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 講義は計画の順番どおりには行われません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185664>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 浜野 . (オフィスアワー: メールで予約(23fias@gmail.com))

自然と技術 (Science and Technology)

数理科学の世界

Invitation to Mathematics

桑原 類史 / 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『数学』)

【授業の目的】 高校までの数学では, 「与えられた問題に公式を当てはめて答えを出す」ことの繰り返しだったかも知れませんが, 「数学すること」は, 素朴な問題やパズルを解いてゆく過程の中にこそその本質の一端があるとも言えると思います。この講義では, 誰にも分かる素朴な問題を取り上げ, それを考察する中から数学的なアイデアが育ってゆく様子を実感することを目的とします。

【授業の概要】 第 1 部では, 地図にかかわる問題を出発点として「グラフ」のもつ興味深い性質について考察する。第 2 部では, 作図問題を取り上げ, 数と図形の「意外な」関係をさぐる。さらに, 高校数学の内容の拡がりについて考える。

【キーワード】 地図の塗り分け, グラフ, 作図問題, 代数方程式

【到達目標】

1. 数学的概念や理論が作り出されていく過程を学び, 「数学すること」を実感する。
2. 自分の頭で論理的に考えることができる。さらに, 自分の考えを的確に表現 (説明) することができる。

【授業の計画】 1. 導入 (講義の概要の説明) 2. 第 1 部: 点と線の幾何学 (第 2 週 ~ 第 8 週) 3. 5 人の王子の問題, 5 つの城の問題, グラフ 4. 平面グラフのオイラーの公式 5. 王子の問題, 城の問題の解決 6. 曲面上のグラフ 7. 地図の塗り分け (四色問題) 8. ケンプの「証明」, 顔木 9. 第 2 部: 作図と数 (第 9 週 ~ 第 15 週) 10. 定規とコンパスによる作図 (基本的な作図) 11. 数の演算と作図 12. 四則演算で閉じた数の集合 13. 作図と代数方程式, 作図可能な数 14. 三大作図問題 15. 三大作図問題の不可能性の証明 16. 総括授業

【教科書】 板書あるいはプリントによる講義。教科書は指定せず, 適宜, 参考書等を紹介します。

【成績評価の方法】 授業中の小テストなど授業への取り組み状況および期末レポートをもとに総合的に判断します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「すぐに役に立つ数学」の講義ではありません。

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~kuwabara/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181008>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原 (総合科学部 1 号館 2 階 1223 号室, 088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15:00~17:00)

自然と技術 (Science and Technology)

アクティブラーニングで環境から科学を考える

Regard Science from Social Elements by Active Learning

齊藤 隆仁 / 准教授, 嵯峨山 和美 / 助教 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 社会は情報に溢れているが, これらの情報を取捨選択するのは私たち自身である。一方向からの情報を丸のみするのではなく, 一度, 異なった世界から物事を考えると, 同じ情報や条件であっても異なる考察へと導かれることに気づく。また, 日本とは異なる世界の環境から物事を考えるグループ学習を通じて, 身近の物から世界の科学の恩恵を感じる。物事を考える楽しさを知り, 学習態度を豊かにする。

【授業の概要】 日本とは異なる環境から科学に関する課題についてグループ学習を行い, 自ら感じ考える意見を文章にまとめる。具体的には, 開発途上国での体験記や開発途上国を疑似体験するゲームを通して, 科学の視点の多様性を知り, 必要性について考える。科学の進歩や開発途上国の恩恵を身の周りの物と結びつけながら, 科学をより身近なものとする。授業の要約を文章にまとめて提出し, 物事を考える楽しさを感じる。最後に小論文にまとめて発表する。

【キーワード】 アクティブラーニング, 開発途上国, 医療, 理数科教育, 科学の恩恵

【到達目標】 日本とは異なった世界から科学を考える体験を通して, 物事を考える楽しさと身近な物で世界における科学の恩恵を感じる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. この授業で何を学ぶのか?何を学びたいのか? 3. 開発途上国の科学に関する疑似体験ゲーム 4. 疑似体験ゲームを通してグループ学習 5. 開発途上国での医療活動体験記 6. 医療についてグループ学習 (1) 7. 医療についてグループ学習 (2) 8. 開発途上国での理数科教育体験記 9. 理数科教育についてグループ学習 (1) 10. 理数科教育についてグループ学習 (2) 11. 科学の恩恵をうけた身近なものを考える 12. 個別課題設定 13. 個別課題の検討 14. 個別課題の小論文作成 15. 小論文発表 16. 意見交換会—これまでの授業を振り返って—

【教科書】 指定なし

【成績評価の方法】 授業の要約や課題について文章にまとめて提出 50%, 課題小論文・発表 50%として総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者へのメッセージ】 授業は, グループ討論と自分の考えを文章にまとめることが中心となる。様々な人の意見をよく聞き, 自分で良く考え, 積極的に発言・行動できる姿勢が望まれる。教育 GP 関連授業であるので, 講義に社会人が参加する予定である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185633>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 11:55~12:50)
⇒ 嵯峨山 (C511, 088-656-7495, sagayama@is.tokushima-u.ac.jp)

自然と技術 (Science and Technology)

遺伝と進化

Genetics and Evolution

松尾 義則 / 教授

2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 遺伝と進化のかかわりを説明し、生物の進化のしくみを理解するには集団遺伝学の知識が重要であることを紹介する。

【授業の概要】 生物の進化のしくみを理解するためには、遺伝の知識が重要であり、まずそのかかわりを説明し、特に集団遺伝学と進化のかかわりについてはもう少し詳しく紹介する。

【キーワード】 遺伝学、進化、集団遺伝

【到達目標】 遺伝学と進化のかかわりが理解でき、生物の進化に興味がわくようになる。

【授業の計画】 1. 生物の進化 2. 遺伝学 3. 遺伝学と進化のかかわり 4. 遺伝プログラム 1:ゲノム 5. 遺伝プログラム 2:遺伝子 6. 遺伝プログラム 3:発現 7. 表現型と遺伝子型 8. 遺伝的多型 9. 遺伝的変異の維持 10. 集団遺伝学 1:ハーディワインベルグの平衡 11. 集団遺伝学 2:突然変異 12. 集団遺伝学 3:移住 13. 集団遺伝学 4:遺伝的浮動 14. 集団遺伝学 5:自然選択 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 教科書:特に指定なし

【成績評価の方法】 試験と出席状況

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181025>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定なし)

【到達目標】 環境放射能など、身の周りに存在する放射能とその計測の意義について理解する。放射線障害および放射線医療の最先端について理解する。素粒子の分類や素粒子実験の最先端について理解する。

【授業の計画】 1. 量子論の基礎:物質をどんどん細かく見ていくと... 古典物理学の破綻, 物質波, 量子論, 量子とは? 2. 原子の構造:電子の質量, 原子核の質量, 原子核の大きさ 3. 陽子・中性子の性質: 原子核の構造 4. 原子核の崩壊と放射能:α崩壊, β崩壊, γ線放射, 核分裂 5. 環境放射能とは? 6. 原子核エネルギーの利用 (原子炉) 7. 放射線生物学 (放射線障害) 8. 放射線被ばくによる影響 9. 放射線医学 (X線治療, 重粒子線治療) 10. 素粒子の種類:素粒子の分類 (バリオン, レプトン) 11. 素粒子の性質:素粒子の質量の測定 12. 自然界の力 (四つの相互作用) 13. 統一理論とは 14. 究極理論の探求 15. 素粒子の崩壊からわかる物質の起源 16. 総括

【教科書】
◇教科書: なし
◇参考書: 講義中に適宜指示する

【成績評価の方法】 単元ごとのレポート 3 回程度 (50%) 及び期末レポート (50%)

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 講義ノートを用意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180999>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日を除く 12:00~ 12:50)

自然と技術 (Science and Technology) 地域の農林水産業とその支援技術

Agriculture, Forestry and Fisheries in Tokushima and Technological Researches
浜野 龍夫 / 総合科学部
2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 地域の農林水産業とその振興のために行われている研究開発について学習することを通じ、生物資源や第一次産業の重要性を問ひかけ、必要とされる環境保全活動や生物資源の開発・利用研究について考える。

【授業の概要】 徳島県の第一次産業の概要について講述するとともに、徳島県農林水産総合技術支援センター等で実施されている技術開発研究やその成果について、映像を交えながら紹介する。

【キーワード】 生物資源、農林水産、徳島県、技術開発

【関連科目】 『自然と技術/水産と生物』(0.2, ⇒155 頁)

【到達目標】
1. 徳島県の農林水産業の概要を理解する。
2. 第一次産業 (水産業) の重要性を認識する。
3. 徳島の「味」を知る。

【授業の計画】 1. シラバス・講義概要の説明 2. 徳島県の農林水産業 3. 支援技術研究:農業 (主要作物の栽培技術と新品種育成) 4. 支援技術研究:農業 (土壌肥料) 5. 支援技術研究:農業 (総合的病害管理) 6. 支援技術研究:農業 (中山間農業の振興) 7. 支援技術研究:果樹 (常緑果樹) 8. 支援技術研究:果樹 (落葉果樹) 9. 支援技術研究:畜産 (乳肉用牛) 10. 支援技術研究:畜産 (養豚養鶏) 11. 支援技術研究:森林林業 (森林環境・森林生産) 12. 支援技術研究:森林林業 (木材利用) 13. 支援技術研究:水産 (漁業資源) 14. 支援技術研究:水産 (増養殖) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 なし

【参考書等】 必要なときには配付する

【成績評価の方法】 期末試験

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 講義は計画の順番どおりには行われません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185663>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 浜野 (オフィスアワー: メールで予約(23fias@gmail.com))

自然と技術 (Science and Technology) 日本の植物の多様性

Introduction to Botany
山城 考 准教授
2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 日本列島は南北に長い形をしており、亜熱帯から寒帯におよぶ気候環境が見られる。日本の植物相は非常に豊かで、約 5000 種の維管束植物が知られている。本講義では日本の植物相の多様性とその保全について解説をおこなう

【キーワード】 高等植物、固有種、植物区系、日本列島、多様性

【到達目標】 日本の植物相の複雑な成り立ちとその多様性を知識として習得させ、身近な植物や地域の自然保護の大切さに関心を持たせることを目的としている

【授業の計画】 1. 生物の多様性とそれを制限する要因 2. 植物の生活 (個体のあり方) 3. 植物の戦略 (適応と繁殖) 4. 日本の植物相の形成に影響をもたらしたもの 5. 高山, 針葉樹林, 夏緑樹林を構成する植物 6. 照葉樹林を構成する植物 7. 日本海側と太平洋側の植物の分化 8. 湿地帯と東海丘陵要素 9. ソハヤキ要素と阿哲要素 10. 海洋島 (小笠原) の植物 11. 大陸島 (琉球列島) の植物 12. 雑草の生活 13. 帰化植物とその危険性 14. 野生植物の保全 15. レポートの課題提示 16. 総括授業

【成績評価の方法】 小テストと授業への取り組み。

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 平成 17 年度に開講した授業『植物の科学』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181009>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 山城 (3223.656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 14:00~ 17:00)

自然と技術 (Science and Technology) ゼミナール「バイオと医療」

Biotechnology and Medicine
土屋 浩一郎 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
2 単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】 ポストゲノム時代に入り、個人の遺伝情報を基盤にしたゲノム創薬やテララーメイド医療、また幹細胞を利用する再生医療を指向した研究が急速に発展しつつある。これらは近年のバイオテクノロジー (生物工学) 分野の技術発達と並行している。本ゼミナールでは、バイオテクノロジー分野の現状を踏まえつつ、薬学分野における応用例を紹介する。

【授業の概要】 まずバイオテクノロジー分野の歴史および基礎について概説する。次に遺伝子工学、タンパク質工学、細胞工学に基づいた治療法や治療薬について解説する。

【キーワード】 バイオテクノロジー、生物工学、遺伝子工学、タンパク質工学、細胞工学、分子標的薬

【到達目標】

自然と技術 (Science and Technology) 原子核・素粒子物理学の最先端

Frontier of Nuclear and Particle Science
伏見 賢一 准教授
2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『物理学』)

【授業の目的】 原子核や素粒子は我々を構成する基本粒子である。これらの性質を明らかにしてきた実験などを紹介しながら物質の究極に迫る。

【授業の概要】 1. 量子論の基礎, 2. 原子の構造, 3. 原子核の性質, 4. 原子核の崩壊と放射能, 5. 素粒子の種類, 6. 素粒子の性質

【キーワード】 放射線, 実験核物理学, ニュートリノ, 物質の起源, 原子力エネルギー

1. バイオテクノロジーの医療への応用について概説できる。
 2. ゲノム医療・バイオ医薬品を、具体例を挙げて説明できる。
【授業の計画】 1. バイオテクノロジーとは? 2. 遺伝子工学について 3. タンパク質工学 (組換えタンパクなど) について 4. 疾患への応用について (概論) 5. 疾患への応用について (各論 1) 6. 疾患への応用について (各論 2) 7. 疾患への応用について (各論 3) 8. 疾患への応用について (各論 4) 9. 疾患への応用について (各論 5) 10. 遺伝治療 11. 遺伝子治療 12. がんの治療薬と遺伝子工学 1 13. がんの治療薬と遺伝子工学 2 14. がんの治療薬と遺伝子工学 3 15. 総括
【教科書】 教科書は特に指定しない。プリントなどの資料を準備します。
【参考書等】 適宜必要参考資料を配布する。
【成績評価の方法】 レポート、学習状況などを総合的に評価し、判定する。
【再試験の有無】 なし
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180990>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 土屋 (薬物機能制御学講座, 088-633-7250, tsuchiya@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時。まずメールで連絡を下さい。)
【備考】 バイオ医薬品に興味のある学生さんを歓迎します。

自然と技術 (Science and Technology)

ゼミナール「くすりをつくる—現代の錬金術・有機化学への招待—」

Synthesis of Medicines: Invitation to Organic Chemistry
 吉田 昌裕・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 2 単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】 主な医薬品・生理活性物質の薬理作用、歴史的な背景ならびに合成法について紹介することで、創薬化学の基礎を理解し、更に医薬品創製に必要な基礎的な有機合成の知識習得を目指す。

【授業の概要】 現在用いられている医薬品の多くは、単純で容易に手に入る化合物に対し様々な有機化学反応を積み重ねていくことにより合成される。本授業では代表的な医薬品・生理活性物質の分子構造をあげ、開発された経緯、どのようにして薬理活性が発現するのかその概要について解説する。また様々な生理活性分子の合成法について、わかりやすく説明する。

【キーワード】 有機化学, 有機合成, 医薬品, 創薬化学, 天然物

【到達目標】

1. 薬の発見の歴史について具体例を挙げて概説できる。
2. 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。
3. 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。

【授業の計画】 1. ガイダンス: 創薬における有機合成化学の重要性 ~ くすりほどのようにして創られるのか ~ 2. 代表的な医薬品の分子構造: 薬理活性発現と構造活性相関 3. 鎮痛薬 (1): アスピリン誕生の歴史 4. 鎮痛薬 (2): 主な鎮痛薬の構造と合成法 5. 医薬品と立体化学: 野依触媒によるメンソールの大量合成 6. 麻薬の化学 (1): 咳止め・覚せい剤と長井長義との密接な関係 7. 麻薬の化学 (2): ヘロイン、コカイン、LSD の合成法 8. 有機リン化合物: 神経ガス サリンの合成法 9. ステロイド: アトピーから薬物ドーピングまで 10. 抗生物質 (1): ペニシリン発見の歴史 11. 抗生物質 (2): 新規抗生物質開発物語 ~ 細菌と人間との終わりなき闘い ~ 12. 神経毒: ふぐ毒の本体テトロドトキシンとゾンビ伝説 13. 抗がん剤 (1): タキソールの発見と全合成競争 14. 抗がん剤 (2): 新規抗がん剤の開発物語 15. アルツハイマー治療薬: 日本発の医薬品・ドネペジルについて 16. まとめ: 有機化学の未来展望 ~ 有機合成化学は不死鳥になりうるか?~

【教科書】 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。

【成績評価の方法】 レポート、授業への取り組みを基に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185649>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-633-7294, yoshida@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時連絡下さい)

自然と技術 (Science and Technology)

災害に備える

Preparing for Disasters

中野 晋・教授 (併任)/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
 黒崎 ひろみ・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 三神 厚・准教授/工学部
 加渡 いづみ・非常勤講師/CFP ファイナンシャル・プランナー
 浜 大吾郎・非常勤講師/美波町消防防犯課
 末澤 弘太・非常勤講師/社団法人 徳島新聞社
 2 単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 近年、地震、津波、洪水、高潮、竜巻など過去に例をみないような災害が頻発している。災害列島日本で暮らしていくために必要である災害への対応策を考え、さらに行動できる人材を育てる。

【授業の概要】 地震や風水害などに備えるためには自助、共助、公助それぞれが、できることを実行し、地域の防災力を高めることが重要である。自主防災、学校防災、企業防災などの自助・共助の進め方について講述するとともに建物の耐震化や最新の防災情報の収集・伝達方法などについて各分野の専門家がわかりやすく説明する。

【キーワード】 自主防災、避難所、災害情報、減災

【先行科目】 『自然と技術/災害を知る』(1.0, ⇒41 頁)

【到達目標】 災害を理解し、自ら災害への備えについて考える力を身につける。

【授業の計画】 1. オリエンテーション・自助・共助・公助/レポートまたは小テスト (中野) 2. 建物の耐震化/レポートまたは小テスト 3. 企業防災/レポートまたは小テスト (中野) 4. 自主防災活動の進め方/レポートまたは小テスト (浜) 5. 災害時要援護者対策/レポートまたは小テスト (黒崎) 6. 災害と保険/レポートまたは小テスト (加渡) 7. 災害予警報/レポートまたは小テスト (徳島気象台) 8. 緊急地震速報/レポートまたは小テスト (徳島気象台) 9. 土砂危険情報/レポートまたは小テスト (徳島県砂防課) 10. 洪水予報/レポートまたは小テスト (徳島県砂防課) 11. 地盤の震動とそれに対応する方法論/レポートまたは小テスト (三神) 12. 災害ボランティアセンター設置シミュレーション演習/レポート (未澤ほか) 13. 災害の法律/レポートまたは小テスト/防災士試験ガイダンス (黒崎) 14. 防災グループ演習 (基礎編)/レポート (中野・黒崎) 15. 防災グループ演習 (応用編)/レポート (黒崎・中野) 16. 徳島大学防災リーダー認定証授与 17. 日本防災士機構・防災士認定試験

【教科書】 防災士教本, 平成 21 年度版, 日本防災士機構編

【成績評価の方法】 各講義ごとに理解度確認のための小テストまたはレポートを課す。到達目標の達成度は小テストまたはレポートの総点を 100 点に換算して評価し、評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181010>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中野 (A310, 088-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 黒崎 (建設棟 A102, 088-656-8965, rcmode@hyd.ce.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 三神 (A512, 088-656-9193, amikami@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Friday, 16:00-19:00 (or by appointment))

【備考】 ◇前期の「災害を知る」と本講義「災害に備える」は特定非営利活動法人・日本防災士機構の「防災士養成研修プログラム」に準拠している。◇本講義は「徳島大学防災リーダー養成講座」の後半部分に相当する。◇前期に開講する講義「災害を知る」と本講義「災害に備える」の両科目に合格したものを、「徳島大学防災リーダー」として認定する。またこの認定をもって、「防災士」の受験資格が与えられる。◇「防災士」認定試験 (有料) は全講義終了後、学内で実施される。◇一部の授業 (12,14,15 回) は土曜日午後を開講する予定である。

1.5 《日本事情》 (Japanese Culture)

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 II
Japanese Culture 2

(留 (留))
坂田 浩・准教授/国際センター
2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『日本事情』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本事情』)

【授業の目的】日本の歴史と最近の日本事情について学ぶ

【授業の概要】この授業では、(1) 日本の歴史の概要を学ぶ、(2) 歌舞伎などの伝統芸能や音楽・映画・アニメなどの POP カルチャー、(3) 現代日本の諸問題、について学ぶ

【キーワード】日本の歴史、伝統文化、ポップカルチャー、現代社会問題

【到達目標】日本の歴史、伝統芸能、Pop カルチャー、現代日本の諸問題を学ぶ

【授業の計画】1. オリエンテーションと授業の概要説明 2. 日本の歴史 (1) 3. 日本の歴史 (2) 4. 日本の歴史 (3) 5. 日本の歴史 (4) 6. テスト:日本の歴史 7. 日本の伝道芸能 (1) 8. 日本の伝統芸能 (2) 9. 日本の伝統芸能 (3) 10. 日本の POP カルチャー (1) 11. 日本の POP カルチャー (2) 12. 日本の POP カルチャー (3) 13. 現代日本の諸問題 (1) 14. 現代日本の諸問題 (2) & レポートテーマ提示 15. レポート提出 16. まとめ

【教科書】適時プリント等にて配布する

【成績評価の方法】出席 (20%)、授業への貢献 (30%)、テスト (25%)、期末レポート (25%)

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】3 回以上欠席したり、課題を提出しない学生には単位ができません。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181231>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp)

【備考】授業は基本的に日本語で行います。

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 IV
Japanese Culture 4

(留 (留))
三隅 友子・教授/国際センター
2 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『日本事情』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本事情』)

【授業の目的】徳島大学で学び、徳島に住むことを選んだ留学生に対して「徳島」を深く知ること、さらに自分にとっての「徳島」をつかむことを第一の目的とする。徳島の象徴の一つ、また心のふるさとといわれる「吉野川」をいろいろな側面から学ぶ。また内容を重視しながら、総合的な日本語の習得も目指す。

【授業の概要】徳島在住の様々な分野の方から「吉野川」をめぐる話 (講演) を聞く。事前にことばや表現の学習を終えて、講演を聴き、どのくらい話の内容がわかったかを確認する。また吉野川について自分でテーマを探し、調査発表をする。今年度は、1 吉野川概要 2 吉野川流域の農業 3 吉野川流域の生活 4 第十堰問題について他、各自のテーマに沿った講演を考えている。

【キーワード】吉野川、徳島を知る

【到達目標】

1. 「吉野川」に対する知識を持ち、徳島や徳島の人を知る。
2. 徳島を知ると同時に、自分の国、故郷について、もう一度考えてみる。
3. 様々な人の講演を聞き、準備と振り返りの活動を通し、授業の形式を理解すると共に、受身でない係わり方を体得する。

【授業の計画】1. 自己紹介・授業の目的説明 2. 講演準備 (資料等による地名・ことば・表現の確認質問の作成) 3. 講演を聞く (質疑応答を含む)① 4. 講演を振り返る (ビデオ等による内容の確認、意見感想の交換) 講演②準備 (資料等による地名・ことば・表現の確認質問の作成) 5. 講演を聞く (質疑応答を含む)② 6. 講演を振り返る (ビデオ等による内容の確認、意見感想の交換) 講演③準備 (資料等による地名・ことば・表現の確認質問の作成) 7. 講演を聞く (質疑応答を含む)③ 8. 講演を振り返る、自分の発表テーマについての資料準備、講演準備④ 9. 講演を聞く④(質疑応答を含む) 10. 講演を振り返る、自分の発表テーマについての資料準備、 11. 地域への聞き取り、ディスカッション 12. 聞き取りを振り返り整理する、自分の発表テーマについての準備、 13. 発表準備 14. 各自のテーマで発表・発表会 (地域・学生サポーターが聴衆として参加します) 15. 発表会の評価 (相互評価・試験) 16. 総括授業 講義を振り返って

【教科書】特に指定しない。随時プリント等の資料を配布する。

【成績評価の方法】出席 50%・講演毎のまとめの記述 20%、最終発表 30%を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】最終的に自分のテーマを決めて、調査・研究・発表という流れを体験します。従って積極的な授業への取り組みを期待します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181233>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Gehrtz三隅友子(新蔵キャンパス・国際センター 088-656-7120・mi sumi@isc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 . 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します。)

2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ... (総科 (人文 1))/三浦/後期 水 5・6	160
ウェルネス総合演習 ... (総科 (人文 1))/佐藤/後期 水 5・6	160
ウェルネス総合演習 ... (総科・医 ((社創・総理・保)1))/三浦/後期 火 7・8	160
ウェルネス総合演習 ... (総科・医 ((社創・総理・保)1))/佐竹/後期 火 7・8	160
ウェルネス総合演習 ... (総科・医 ((社創・総理・保)1))/中村/後期 火 7・8	161
ウェルネス総合演習 ... (工 (建 1))/佐竹/後期 水 7・8	161
ウェルネス総合演習 ... (工 (建 1))/中村/後期 水 7・8	161
ウェルネス総合演習 ... (工 (機 1))/小原/後期 金 3・4	161
ウェルネス総合演習 ... (工 (機 1))/長積/後期 金 3・4	162
ウェルネス総合演習 ... (工 (機 1))/的場/後期 金 3・4	162
ウェルネス総合演習 ... (工 ((化生)1))/荒木/後期 月 7・8	162
ウェルネス総合演習 ... (工 ((化生)1))/小原/後期 月 7・8	163
ウェルネス総合演習 ... (工 ((化生)1))/的場/後期 月 7・8	163
ウェルネス総合演習 ... (工 ((電知)1))/佐藤/後期 月 5・6	163
ウェルネス総合演習 ... (工 ((電知)1))/荒木/後期 月 5・6	163
ウェルネス総合演習 ... (工 ((電知)1))/三浦/後期 月 5・6	164

共創型学習

「つたえること」と「ものづくり」-科学と遊ぼう-	... / 齊藤・田村/後期 月 1・2	165
名著講読 一未知との出会い-文学作品や随筆を読む一	... / 依岡/後期 月 7・8	165
学生と社会人による授業企画ゼミ -大学で何を学ぶのか?-	... / 大橋・光永・後藤/後期 月 7・8	165
空海と歩く-歩き遍路の世界-	... / 田中/後期 月 9・10	165
宇宙を探る	... / 伏見/後期 月 9・10	166
名著講読 一自分探しと現代社会一	... / 大橋・中恵・後藤/後期 火 7・8	166
名著講読 一生き抜く力とは何か?一	... / 香川/後期 火 9・10	166
人間行動の科学	... / 荒木/後期 水 5・6	166
国際交流の扉を拓(ひら)く	... / 橋本・三隅/後期 水 7・8	167
埋もれた文化遺産 II	... / 中原・中村/後期 金 9・10	167

ヒューマンコミュニケーション

ヒューマンコミュニケーション ... (医 (医 B))/寺嶋・佐野・長宗・高塚・山田/後期 木 1・4	168
--	-----

2.1 《ウェルネス総合演習》(Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (総科(人文1))
 Integrated Seminar on Wellness 三浦 哉 准教授
 2単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 生活習慣病などの後天的な要因で発症する疾病は、医療による治療が可能であるが、その一方で自己の身体の仕組みを理解し、日常生活を改善することで一次予防が可能である。そこで本講義では、ウェルネスという概念に基づき、身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法(運動処方)を実践することを目的とする。

【授業の概要】 身体の構造・働き、身体活動量、エネルギー消費量などについて概説する。また、運動を通じた健康の意義およびその重要性を理解させるために、運動処方の概念を理解させ、個人および集団で実施する運動を修得させる。

【キーワード】 健康、運動、ウェルネス

【到達目標】

1. ウェルネスの概念について理解する
2. 身体の構造・機能を理解する
3. 様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用する

【授業の計画】 1. オリエンテーション(体育館1F 武道場) 2. (講義) ウェルネスとは何か? 3. (講義) 我が国の健康状況 4. (実習) テニス:ストロークの基本動作 5. (実習) テニス:サーブ・ボレーの基本動作 6. (実習) テニス:簡易ゲーム 7. (講義) 生活習慣病に対する対策 8. (実習) バレーボール:パス・トスの基本動作 9. (実習) バレーボール:サーブ・レシーブの基本動作 10. (実習) バレーボール:集団での基本動作 11. (実習) バレーボール:基本的な戦術 12. (実習) バスケケットボール:パス・ドリブルの基本動作 13. (実習) バスケケットボール:シュートの基本動作 14. (実習) バスケケットボール:基本的な戦術 15. 試験 16. (講義) ウェルネスライフをデザインする

【教科書】 教科書は使用しない。随時、資料を配布する。

【成績評価の方法】 成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価(30点)と、レポートおよび試験結果(70点)から総合的に評価(合計100点)する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 個々人の健康に対して問題意識を持った学生が受講することを希望する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180636>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 11時55分から12時50分 応用生理学研究室(総合科学部1号館1階))

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (総科(人文1))
 Integrated Seminar on Wellness 佐藤 充宏 教授
 2単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 運動が心身の健康に及ぼす影響について検討し、からだところを使ったアクティビティやスポーツの演習から、自らの生活をウェルネスデザインする力を身につける。

【授業の概要】 学習グループを基本単位として、グループワークを中心に学習を進める。健康運動の意義や効果などの理解を深め、大学生活における自らの健康行動をふりかえる。また、グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるアクティビティや、スポーツ、健康トレーニングについて実習し、健康生活における身体知を身につける。

【到達目標】

1. 健康生活と運動との関係について理解する。
2. グループワークを通じて健康運動、スポーツ及びアクティビティの技法と意義を理解する。

【授業の計画】 1. 大学生活におけるウェルネス:グルーピング 2. 「ウェルネス・チェックテスト」 3. 「身体を動かす知」 4. 「フットサル」 5. 「フットサル」 6. 「フットサル」 7. 「フットサル」 8. グループワーク「栄養、運動、休養」 9. 活動組織設立検討会 10. 活動評価検討会 11. 屋内ラケット種目の選択制活動 12. 屋内ラケット種目の選択制活動 13. 屋内ラケット種目の選択制活動 14. 屋内ラケット種目の選択制活動 15. ふりかえり「ウェルビーイングと大学生活」 16. 総括

【教科書】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法】 実習態度、技能、グループノート、レポート等を総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180635>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (総科・医((社創・総理・保)1))
 Integrated Seminar on Wellness 三浦 哉 准教授
 2単位 後期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 生活習慣病などの後天的な要因で発症する疾病は、医療による治療が可能であるが、その一方で自己の身体の仕組みを理解し、日常生活を改善することで一次予防が可能である。そこで本講義では、ウェルネスという概念に基づき、身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法(運動処方)を実践することを目的とする。

【授業の概要】 身体の構造・働き、身体活動量、エネルギー消費量などについて概説する。また、運動を通じた健康の意義およびその重要性を理解させるために、運動処方の概念を理解させ、個人および集団で実施する運動を修得させる。

【キーワード】 健康、運動、ウェルネス

【到達目標】

1. ウェルネスの概念について理解する
2. 身体の構造・機能を理解する
3. 様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用する

【授業の計画】 1. オリエンテーション(体育館1F 武道場) 2. (講義) ウェルネスとは何か? 3. (講義) 身体の構造・機能について 4. (実習) テニス:ストロークの基本動作 5. (実習) テニス:サーブ・ボレーの基本動作 6. (実習) テニス:簡易ゲーム 7. (講義) 我が国の健康状況 8. (講義) 生活習慣病に対する対策 9. (実習) バレーボール:パス・トスの基本動作 10. (実習) バレーボール:サーブ・レシーブの基本動作 11. (実習) バレーボール:基本的な戦術 12. (実習) バスケケットボール:パス・ドリブルの基本動作 13. (実習) バスケケットボール:シュートの基本動作 14. (実習) バスケケットボール:基本的な戦術 15. 試験 16. (講義) ウェルネスライフをデザインする

【参考書等】 随時、資料を配布する

【成績評価の方法】 成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価(30点)と、レポートおよび試験結果(70点)から総合的に評価(合計100点)する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 個々人の健康に対して問題意識を持った学生が受講することを希望する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180648>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 11時55分から12時50分 応用生理学研究室(総合科学部1号館1階))

【備考】 この授業は保健学科対応で健康スポーツ実習(1単位)に読み替える科目です

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (総科・医((社創・総理・保)1))
 Integrated Seminar on Wellness 佐竹昌之 准教授
 2単位 後期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングなどの方法などを、スポーツ医科学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、生涯スポーツを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 健康的な生活を営むうえで、運動やスポーツが重要な役割を果たしていることは、すでにご存じでしょう。しかし、健康のために運動を実践することは、必ずしもたやすいものではありません。運動は薬の処方と似ており、うまく行くと健康のために良いものですが、間違ってしまうと事故を起こしてしまうこともあります。また、スポーツ・運動を継続することも重要です。そのためには自分にあったスポーツの取り組み方を見つけ、楽しむための工夫も欠かせないものです。この授業では、目的、体力にあった運動のやり方を理解するとともに、それらの運動を実践し、さらに継続するための方策を考えていきます。

【キーワード】 ウェルネス、体力づくり、生涯スポーツ、オリンピック

【到達目標】

全学共通教育(2009) 後期・【社会性形成科目群】・《ウェルネス総合演習》

1. ウェルネスとは何か、また、その必要性を理解する。
2. 目的に応じたトレーニング方法を理解し、実践できる。
3. 自分の体力、能力、目的に応じてスポーツを楽しむことができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館1階武道場で行います) 2. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール(1) 3. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール(2) 4. (実習) インディアカ(1) 5. (実習) インディアカ(2) 6. (実習) バドミントン 7. (実習) バドミントン(1) 8. (実習) バドミントン(2) 9. (講義) 健康関連体力について 10. (講義) 筋力トレーニングについて 11. (講義) 持久力トレーニングについて 12. (講義) オリンピックについて 1 13. (講義) オリンピックについて 2 14. (講義) スポーツマンシップってなんだろう 15. 定期試験 16. (総括) これからのスポーツライフをデザインする

【参考書等】 2 回目の授業時にコース packets (資料) を配布します。
【成績評価の方法】 定期試験、レポートおよび授業への取り組み状況により総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験は行いません。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180658>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 佐竹 (3119, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日:16時30分~17時30分)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (総科・医(社創・総理・保1))
Integrated Seminar on Wellness 中村久子 教授
2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 社交ダンスの踊り方を習得する中でそれらを生み出した思想や文化について考え、また、ジェンダーについて学習し、身体への意識が心身の健康に影響を及ぼすことを知ることを目的とする。

【授業の概要】 講義ではウェルネスについて概説し、ジェンダーと身体及び身体行動について理解することによって、健康でよりよい生き方を探る。実習ではワルツ、スクエア・ルンパなどの基本的なフィガーを習得し、簡単なアマルガメーションを踊ることができるように実践を通して学習する。また、楽しみながら体力づくりに貢献できるようにし、生涯スポーツにつなげる。

【キーワード】 ジェンダー、ダンス
【到達目標】

1. ジェンダーについて理解する
2. 社交ダンスの各フィガーをリズムに合わせて踊れるようにする

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. ジルバの解説、リズムの取り方とジルバのフィガーの実習 3. ジルバのアマルガメーションを踊る 4. ワルツの解説、ワルツのリズム 5. ワルツのアマルガメーションを踊る 6. ブルースのリズムとフィガーを知る 7. ブルースのアマルガメーションを踊る 8. スクエア・ルンパのリズムとフィガーを知る 9. スクエア・ルンパのアマルガメーションを踊る 10. マンボのリズムとフィガーを知る 11. マンボのアマルガメーションを踊る 12. 実技試験 13. ジェンダーについて考える 14. ジェンダーと体力 15. 筆記試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況(20%)、実技試験(50%)、筆記試験(30%)と併せて総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180647>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 12~13時 運動文化研究室(総合科学部1号館1階))

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (工(建1))
Integrated Seminar on Wellness 佐竹昌之 准教授
2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングの方法などを、スポーツ医学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、生涯スポーツを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 健康的な生活を営むうえで、運動やスポーツが重要な役割を果たしていることは、すでにご存じでしょう。しかし、健康のために運動を実践することは、必ずしもたやすいものではありません。

運動は薬の処方と似ており、うまく行くと健康のために良いものですが、間違っていると事故を起こしてしまうこともあります。また、スポーツ・運動を継続することも重要です。そのためには自分にあったスポーツの取り組み方を見つけ、楽しむための工夫も欠かせないものです。この授業では、目的、体力にあった運動のやり方を理解するとともに、それらの運動を実践し、さらに継続するための方策を考えていきます。

【キーワード】 ウェルネス、体力づくり、生涯スポーツ、オリンピズム
【到達目標】

1. ウェルネスとは何か、また、その必要性を理解する。
2. 目的に応じたトレーニング方法を理解し、実践できる。
3. 自分の体力、能力、目的に応じてスポーツを楽しむことができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館1階武道場で行います) 2. (講義) ウェルネスとは何か(ウェルネス概論) 3. (講義) スポーツマンシップとはなにか 4. (実習) バレーボールとソフトバレーボール(1) 5. (実習) バレーボールとソフトバレーボール(2) 6. (実習) インディアカ(1) 7. (実習) インディアカ(2) 8. (実習) バドミントン 9. (実習) バドミントン(1) 10. (実習) バドミントン(2) 11. (講義) 筋力トレーニングについて 12. (講義) 持久力トレーニングについて 13. (講義) オリンピックについて 14. (講義) 東京オリンピックについて 15. 定期試験 16. (総括) これからのスポーツライフをデザインする

【参考書等】 2 回目の授業時にコース packets (資料) を配布します。
【成績評価の方法】 定期試験、レポートおよび授業への取り組み状況により総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験は行いません。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180642>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 佐竹 (3119, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日:16時30分~17時30分)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (工(建1))
Integrated Seminar on Wellness 中村久子 教授
2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 社交ダンスの踊り方を習得する中で、それらを生み出した思想や文化について考えること、また、ジェンダーについて学習し、身体の性差と意識の差がどのように健康に関係するかを知ること目標とする

【授業の概要】 実習ではワルツ、ジルバ、スクエア・ルンパ、ブルースなどのリズムの取り方や基本的なフィガーを習得し、簡単なアマルガメーションを踊ることができるように実践を通して学習する。また、楽しみながら体力づくりに貢献できるようにし、生涯スポーツにつなげていけるようにする。講義ではウェルネスについて概説し、ジェンダーについて理解することによって健康でよりよい生き方を探る

【キーワード】 健康な生活、ダンス、ジェンダー
【到達目標】

1. ジェンダーについて理解を深める
2. 社交ダンスの各フィガーをリズムに合わせて踊れるようにし、それぞれのダンスの文化的背景を知る

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. ウェルネスとは何か 3. ジルバのリズムとフィガーを実習する 4. ジルバの簡単なアマルガメーションを踊る 5. ワルツのリズムの取り方を実習する 6. ワルツのフィガーを実習する 7. ワルツの簡単なアマルガメーションを踊る 8. スクエア・ルンパのリズムとフィガーを実習する 9. スクエア・ルンパの簡単なアマルガメーションを踊る 10. ブルースのリズムとフィガーを実習する 11. ブルースの簡単なアマルガメーションを踊る 12. 実技試験 13. ジェンダーについて考える 14. ジェンダーと体力について 15. 筆記試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況(20%)、実技試験(50%)、筆記試験(30%)と併せて総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180652>
【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 12~13時 運動文化研究室(総合科学部1号館1階))

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (工(機1))
Integrated Seminar on Wellness 小原繁 教授
2 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 身体運動、スポーツを通しての身体機能の維持、向上の理論と方法を学ぶ。このことによって疾病の予防と健康の維持、増進とがどのような関わりを持っているかを理解できるようにする。

【授業の概要】 身体機能向上の方法として、準備運動の後にサーキットトレーニングを行う。ここでは主に筋力増強が中心となる。全身的な身体の動かし方については卓球を通じて神経系の働き、循環系の働きなどについて説明をしながら、卓球による身体機能改善を目指す。授業の中で時々ビデオ記録を取りフォームのチェックする。

【到達目標】

1. 運動、スポーツがどのような仕組みで身体を改善していくかを理解する。
2. 身体機能、特に筋力を増強させる。
3. 卓球のスキルを向上させる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場で行います) 2. 卓球ラリーの技術 (1) 3. 卓球ラリーの技術 (2) 4. 班別個人対抗戦 5. 卓球サーブの技術 6. 卓球ショートカットの技術 7. 卓球バックハンドの技術 8. 卓球左右移動の技術 9. ダブルスの練習 10. 卓球の技術総合復習 (1) 11. 卓球の技術総合復習 (2) 12. ウェルネス卓球選手権大会 13. ウェルネス講義 (生活習慣病について) 14. ウェルネス講義 (栄養・休養に関する生活スタイルについて) 15. ウェルネス講義 (運動による健康づくりについて) 16. 講義内容関連の試験

【教科書】 使用しない、資料プリント配布

【成績評価の方法】 出席状況、試験 (講義内容関係)、卓球技能テストでの総合評価とする。

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者のメッセージ】 授業当日は運動着と体育館シューズを準備すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180655>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日4時30分以降)

【備考】 前日に夜は睡眠不足にならないように注意し、体調を整えて授業に参加して下さい。卓球の技術の善し悪しは問いません。

スポーツビジネス”を考える 9. (実習) フライングディスクのすすめ: スローとキャッチの基礎技術 10. (実習) フライングディスクのすすめ: 1枚で楽しめるフライングディスクの世界を体験する 11. (実習) フライングディスクのすすめ: さらなる技術の向上をめざして (スロー・ラン・キャッチによるドリル) 12. (実習) フライングディスクのすすめ: 究極のフリスビー (アルティメット) 13. (講義) 我が国のスポーツ環境を考える: 地域スポーツクラブのすすめ 14. (講義) スポーツ享受能力を高める: ボランティアのすすめ 15. 期末試験 16. 授業の総括

【教科書】 基本的に使用せず、随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加意欲、他者との積極的な姿勢で授業に取り組むことや集団内での協調性、授業内でのプレゼンテーション、そして試験を総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180654>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長積 (3118-1, 088-656-7286, nagazumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業開講時間外に随時対応する)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

Integrated Seminar on Wellness

(工 (機 1))

的場 秀樹 教授

2 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ウェルネス総合演習』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 生涯にわたり生産的な生活を送るためには、豊かさの中で自らを律し、健康なライフスタイルを確立する必要がある。この授業を通して、学生諸君にトータルウェルネスの視点から健康なライフスタイルの確立に向けて努力する態度を養ってもらうことを目的とする。

【授業の概要】 この授業では、健康体力、日常の身体活動、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ (テニス) も体験してもらう。これらを通して、学生諸君には積極的に健康な生活を設計し実践する能力を養ってほしい。

【到達目標】

1. ウェルネスに関わる要因について理解する。 [公開]
2. 健康なライフスタイルの確立に努力する態度を養う。
3. 心身の健康を増進させる態度を養う。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. ウェルネスとは何か? 健康体力の捉え方 3. テニス (基礎練習: グランドストローク) 4. テニス (基礎練習: グランドストローク) 5. テニス (基礎練習: ボレー) 6. テニス (基礎練習: サープ) 7. テニス (総合練習: 簡易ゲーム) 8. テニス (総合練習: 簡易ゲーム) 9. テニス (総合練習: ゲーム) 10. テニス (総合練習: ゲーム) 11. テニス (総合練習: ゲーム) 12. 健康体力の測定 13. 日常生活における身体活動量の測定 14. 栄養と運動 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 使用しない、資料を配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組みと課題レポートにより評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180651>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日の17時から18時まで)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

Integrated Seminar on Wellness

(工 ((化生)1))

荒木 秀夫 教授

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ウェルネス総合演習』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 人間の基礎的な身体を介した学習能力は知覚と運動の発達、さらには知覚と運動の統合によって達成される。このような機能をコーディネーション能力という。本演習ではスポーツ、音楽、労働、芸術創作活動などのコーディネーショントレーニングをテーマにして、講義、演習、実験、実習を組み合わせ、より幅広い視点から、この能力を理解し獲得することを目的とする。この授業は、特にスポーツや音楽を実践している学生を念頭においているが、それ以外の学生でも、これを契機にして何かを始めることを願っている。

【授業の概要】 コーディネーションの理論について学習しながら、そのトレーニング方法を習得する。また各自の能力を把握するための測定も行い、これら実践を通じて、具体的な技能の目標を立てて、その効果を体得する。

【キーワード】 コーディネーショントレーニング、運動

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

Integrated Seminar on Wellness

(工 (機 1))

長積 仁 准教授

2 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ウェルネス総合演習』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 「スポーツ参加=健康」という図式は、必ずしも成り立たない。このクラスでは、健康や人生、また生きがいという幅広い定義に対して、運動やスポーツがどのような役割を果たし、寄与できるのかということから、人間の生活とのかかわりから考え、正しく実践できる能力、すなわち“ウェルネス”という視点に立脚した価値観・態度・行動を身につけることを目的とする。同時に、“する・みる・ささえる・つくる”といった多様かつ多面的なスポーツに対する理解を深めるとともに、文化としてのスポーツを生産を通じて実践するために必要な素養づくりと、豊かで生きがいのある人生を過ごすために必要な享受能力を、レジャースキルとライフスキルの二側面から習得することをめざす。

【授業の概要】 授業は、「講義・演習・実習」の3本柱によって行う。講義では、健康づくりに必要な基礎知識を学ぶだけに留まらず、スポーツの文化的・社会的側面を理解し、心身共に健康的で、習得した知識をオピニオン・リーダーとして社会で活かせるような態度形成や行動様式、また他者との関わりに必要な社会的スキルやコミュニケーションスキルを演習を交えながら、実践的に学習する。また実習では、日常生活の中で個人や集団で身近に親しめるスキルを獲得するために、ニュー・コンセプト・スポーツを取り入れ、個人の体力や年齢、技術レベルに応じたスポーツの楽しみ方とそれを表現できる能力を養う。

【キーワード】 ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツの多面性

【到達目標】

1. “ウェルネスとは何か?”、またその必要性を理解する。
2. “健康づくりやスポーツ振興にかかわる社会的問題とその解決方法を理解する。
3. 自らが主体的となり、個人のレベルに応じたスポーツを享受できるようにする。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようにする。
5. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごすこととする積極的な姿勢を身につける。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. (講義) 不健康の経済学とところとから健康: 洞喝からウェルネスへ 3. (講義) 科学的トレーニングとその方法: 体力と健康の関連について 4. (実習) ニューコンセプトスポーツを楽しむ: バウンドテニス 5. (実習) ニューコンセプトスポーツを楽しむ: ソフトバレーボール 6. (実習) ニューコンセプトスポーツを楽しむ: 参加者・状況に応じたルールで楽しむスポーツ 7. (演習) 積極的に他者とかかわるためには?: アイスプレキングの技術とコミュニケーションスキルの獲得 8. (講義) スポーツ享受能力を高める: “ス

【到達目標】 コーディネーショントレーニングの原理を理解し、トレーニングメニューの作成ができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. コーディネーション能力とは -芸術とスポーツは一つ- 3. コーディネーションの構造 -知覚運動統合と創造性- 4. コーディネーションの科学と実践 -「神かがり」でないアートの世界- 5. 基礎的コーディネーショントレーニング-自らを感じる- 6. 体幹運動と平衡能力 1 7. 体幹運動と平衡能力 2 8. 運動連結能力の基礎 1 9. 運動連結能力の基礎 2 10. 体幹-末梢運動の構成 11. 定位分化能力トレーニング 12. リズム化能力トレーニング 13. 運動変換能力トレーニング 1 14. 運動変換能力トレーニング 2 15. 総合的な感覚-運動統合トレーニング 16. 総括授業

【教科書】 適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】 平常点による評価

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180644>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

(工 ((化生)1))

Integrated Seminar on Wellness

小原 繁 教授

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 身体運動、スポーツを通しての身体機能の維持、向上の理論と方法を学ぶ。このことよって疾病の予防と健康の維持、増進とがどのような関わりを持っているかを理解できるようにする。

【授業の概要】 身体機能向上の方法として、準備運動の後にサーキットトレーニングを行う。ここでは主に筋力増強が中心となる。全身的な身体の動かし方については卓球を通じて神経系の働き、循環系の働きなどについて説明をしながら、卓球による身体機能改善を目指す。授業の中で時々ビデオ記録を取り、フォームのチェックをおこなう。

【到達目標】

1. 運動、スポーツがどのような仕組みで身体を改善していくかを理解する。
2. 身体機能、特に筋力を増強させる。
3. 卓球のラリーを 15 回連続してできる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場で行います) 2. 卓球ラリーの技術 (1) 3. 卓球ラリーの技術 (2) 4. 別班個人対抗戦 5. 卓球サーブの技術 6. 卓球ショートカットの技術 7. 卓球バックハンドの技術 8. 卓球左右移動の技術 9. ダブルスの練習 10. 卓球の技術総合復習 (1) 11. 卓球の技術総合復習 (2) 12. ウェルネス卓球選手権大会 13. ウェルネス講義 (生活習慣病について) 14. ウェルネス講義 (栄養・休養に関する生活スタイルについて) 15. ウェルネス講義 (運動による健康づくりについて) 16. 講義内容関連の試験

【教科書】 使用しない。資料プリント配布

【参考書等】 資料を配付します。

【成績評価の方法】 出席状況、試験 (講義内容関係)、卓球技能テストでの総合評価とする。

【再試験の有無】 再試験はしない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180645>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 総合科学部 1号館 北棟 1階)

【備考】 授業当日は運動着と体育館シューズを準備すること。

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

(工 ((化生)1))

Integrated Seminar on Wellness

的場 秀樹 教授

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 生涯にわたり生産的な生活を送るためには、豊かさの中で自らを律し、健康なライフスタイルを確立する必要がある。この授業を通して、学生諸君にトータルウェルネスの視点から健康なライフスタイルの確立に向けて努力する態度を養ってもらふことを目的とする。

【授業の概要】 この授業では、健康体力、日常の身体活動、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ (テニス) も体験してもらふ。これらを通して、学生諸君には積極的に健康な生活を設計し実践する能力を養ってもらいたい。

【到達目標】

1. ウェルネスに関わる要因について理解する。
2. 健康なライフスタイルの確立に努力する態度を養う。
3. 心身の健康を増進させる態度を養う。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. ウェルネスとは何か? 健康体力の捉え方 3. テニス (基礎練習:グラウンドストローク) 4. テニス (基礎練習:グラウンドストローク) 5. テニス (基礎練習:ボレー) 6. テニス (基礎練習:サーブ) 7. テニス (総合練習:簡易ゲーム) 8. テニス (総合練習:簡易ゲーム) 9. テニス (総合練習:ゲーム) 10. テニス (総合練習:ゲーム) 11. テニス (総合練習:ゲーム) 12. 健康体力の測定 13. 日常生活における身体活動量の測定 14. 栄養と運動 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 使用しない。資料を配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組みと課題レポートにより評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180646>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日の17時から18時まで)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

(工 ((電知)1))

Integrated Seminar on Wellness

佐藤 充宏 教授

2 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 運動が心身の健康に及ぼす影響について検討し、からだところを使ったアクティビティやスポーツの演習から、自らの生活をウェルネスデザインする力を身につける。

【授業の概要】 学習グループを基本単位として、グループワークを中心に学習を進める。健康運動の意義や効果などの理解を深め、大学生活における自らの健康行動をふりかえる。また、グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるアクティビティや、スポーツ、健康トレーニングについて実習し、健康生活における身体知を身につける。

【到達目標】

1. 健康生活と運動との関係について理解する。
2. グループワークを通じて健康運動、スポーツ及びアクティビティの技法と意義を理解する。

【授業の計画】 1. 全体ガイダンス:クラス分け 2. 「ウェルネス」とは 3. 健康づくりのための運動とは 4. 健康づくりアクティビティの計画 5. 健康づくりアクティビティの実施 6. 健康づくりアクティビティの評価 7. 栄養・休養・運動のライフスタイル 8. 中間試験 9. サッカー・フットサルの個人技術 10. サッカー・フットサルの攻撃と守備 11. サッカー・フットサルのチーム戦術 12. サッカー・フットサルのゲームの組み立て 13. サッカー・フットサルのゲーム演習 14. サッカー・フットサルのリーグ 15. ふりかえりテスト 16. 総括

【教科書】 授業には適宜資料やプリントを配布する

【成績評価の方法】 活動状況、提出物、グループノートにより総合的に評価する

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 大学生活を豊かにするために、自らの生活を振り返り、ウェルネスの実現に向けて改善していきましょう

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180641>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜日 12:00-13:00 総合科学部1号館北棟1F)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習

(工 ((電知)1))

Integrated Seminar on Wellness

荒木 秀夫 教授

2 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 人間の基礎的な身体を介した学習能力は知覚と運動の発達、さらには知覚と運動の統合によって達成される。このような機能をコーディネーション能力という。本演習ではスポーツ、音楽、労働、工芸創作活動などのコーディネーショントレーニングをテーマにして、講義、演習、実験、実習を組み合わせ、より幅広い視点から、この能力を理解し獲得することを目的とする。この授業は、特にスポーツや音楽を実践している学生を念頭においているが、それ以外の学生でも、これを契機にして何かを始めることを願っている。

【授業の概要】 コーディネーションの理論について学習しながら、そのトレーニング方法を習得する。また各自の能力を把握するための測定も行い、これら実践を通じて、具体的な技能の目標を立てて、その効果を体得する。

【キーワード】 コーディネーショントレーニング、運動

【到達目標】 コーディネーショントレーニングの原理を理解し、トレーニングメニューの作成ができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. コーディネーション能力とは -芸術とスポーツは一つ- 3. コーディネーションの構造 -知覚運動統合と創造性- 4. コーディネーションの科学と実践 -「神かがり」でないアートの世界- 5. 基礎的コーディネーショントレーニング-自らを感じる- 6. 体幹運動と平衡能力1 7. 体幹運動と平衡能力2 8. 運動連結能力の基礎1 9. 運動連結能力の基礎2 10. 体幹-末梢運動の構成 11. 定位分化能力トレーニング 12. リズム化能力トレーニング 13. 運動変換能力トレーニング1 14. 運動変換能力トレーニング2 15. 総合的な感覚-運動統合トレーニング 16. 総括授業

【成績評価の方法】 実習時では、毎回、評価テストを行う (70%)、講義においてレポートを提出し、評価の対象とする (30%)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180653>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 午後2時~3時)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (工 ((電知)1))

Integrated Seminar on Wellness

三浦 哉 准教授

2 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ウェルネス総合演習』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 生活習慣病などの後天的な要因で発症する疾病は、医療による治療が可能であるが、その一方で自己の身体の仕組みを理解し、日常生活を改善することで一次予防が可能である。そこで本講義では、ウェルネスという概念に基づき、身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法 (運動処方) を実践することを目的とする。

【授業の概要】 身体の構造・働き、身体活動量、エネルギー消費量などについて概説する。また、運動を通じた健康の意義およびその重要性を理解させるために、運動処方の概念を理解させ、個人および集団で実施する運動を修得させる。

【キーワード】 健康、運動、ウェルネス

【到達目標】

1. ウェルネスの概念について理解する
2. 身体の構造・機能を理解する
3. 様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用する

【授業の計画】 1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場) 2. (講義) ウェルネスとは何か? 3. (実習) テニス:ストロークの基本動作 4. (実習) テニス:ボレーの基本動作 5. (実習) テニス:サーブの基本動作 6. (実習) テニス:簡易ゲーム 7. (講義) エネルギー摂取量・消費量について 8. (実習) バレーボール:パス・トスの基本動作 9. (実習) バレーボール:サーブ・レシーブの基本動作 10. (実習) バレーボール:集団での基本動作 11. (実習) バレーボール:基本的な戦術 12. (実習) バasketボール:パス・ドリブルの基本動作 13. (実習) Basketball:シュートの基本動作 14. (実習) Basketball:基本的な戦術 15. 試験 16. (講義) ウェルネスライフをデザインする

【参考書等】 資料は随時、配布する

【成績評価の方法】 成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価 (30 点) と、レポートおよび試験結果 (70 点) から総合的に評価 (合計 100 点) する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 個々人の健康に対して問題意識を持った学生が受講することを希望する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180643>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 11時55分から12時50分 応用生理学研究室 (総合科学部1号館1階))

2.2 《共創型学習》(Creativity Development)

共創型学習 (Creativity Development)

「つたえること」と「ものづくり」-科学と遊ぼう-

Handicrafts and Social Communications (Introduction to Science)

齊藤 隆仁・准教授, 田村 貞夫・非常勤講師/全学共通教育センター
2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 遊びの中には科学として取り上げると大変興味深い題材がたくさんあるが、深く考えながら遊ぶわけではないであろう。あるいは知識として知っているけれど、実際に行ったことがない遊びもあるであろう。実際に手を動かしてみることで、疑問がわいたり、理解が深まるのは大切な経験である。この授業では、科学的な思考・研究とはどのようなものかを体験することを目的として、身近に手に入る材料や道具を使って工作し、科学的・社会的な考察を加えることをグループワークにより体験する。

【授業の概要】 本講義では数名のグループを組み、管楽器・弦楽器・打楽器などの楽器、あるいは熱気球・紙飛行機・ブーメラン・たこなどの飛行する物の製作を企画し、実際に作成し、作成されたものの性能の評価を行う。同時にそれらの科学的な意義に加え社会的意義を自ら学習し、グループ内あるいは教員との討論を行う。グループで体験し、理解した内容を各自が小論文としてまとめるとともに、プレゼンテーション発表を行う。

【キーワード】 グループ学習、ものづくり、コミュニケーション、科学工作

【到達目標】 科学工作を通じて「ものづくり」への興味を喚起するとともに、小論文・プレゼンテーションを通じて探求課題を科学的に説明できるようにする。

【授業の計画】 1. 講義ガイダンス 2. 共通テーマについてのグループ討論 3. 共通テーマについての製作実習 4. 共通テーマについての実験・討論 5. 中間発表の準備 6. 中間発表 7. 後半のテーマについての課題設定 8. グループ活動、文献などの情報収集 9. グループ活動の方針確認 10. グループ活動、実験と観察 11. グループ活動、データの整理とグラフ 12. グループ活動、プレゼンテーションソフトの活用 13. グループ活動、効果的な発表を行うには 14. 発表会の準備 15. 発表会 16. 総括授業

【教科書】 特になし

【成績評価の方法】 授業中の課題提出 60%、発表会 40% として評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 教育 GP 関連授業であるので、講義に社会人が参加し学生と共に議論を行う予定である。

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/sousei/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180947>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 一未知との出会い-文学作品や随筆を読むー

great books reading - encounter with the unknown

依岡 隆児, 教授

2 単位 後期 月 7・8

【授業の目的】 本を読む習慣をつけます。カーソンからル＝グウィン、宮澤賢治までの古今の名著に触れ、現代社会で特に重要なテーマである「いのち」について、社会人の方も交えて一緒に考え、互いに読み方や考え方の違いに触れることで、より深い理解が得られるようにします。

【授業の概要】 20 世紀に書かれた評論・エッセイ、文学作品を中心に、今までの自分にとって未知の世界に触れることで、現代社会の様々な問題をより深く考察できるようにします。基本的には、一回の授業で一つの作品の一部を、受講生全員で読んでいきます。古今東西の名著(文学作品や随筆)を分野に捉われずにバラエティ豊かに取り上げ、線を引ながら一緒に読んで生きます。内容を確認したうえで、お互いに興味を引かれた箇所を披露しながら、理解を深めます。必要事項の検索ができるようにして、最後にはグループで発表を行います。また、図書館ツアーもする予定。なお、八木静夫先生(徳島大学名誉教授)もアドバイザーとして協力していただく予定。

【キーワード】 講読、いのち、名著

【到達目標】 読書の習慣をつけること。異なる価値観や考え方に触れることで社会性を身につける。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 文献リストの内容確認、作品のピックアップ(取り上げる予定の作品は、外山滋比古『読みの整理学』、カーソン『沈黙の春』、内田樹『先生はえらい』、サン＝テグジュペリ『星の王子様』、北条民雄『いのちの初夜』、サローヤン『ヒューマンコ

メディー』、河合隼雄『影の現象学』、ル＝グウィン『ゲド戦記 I 影との戦い』、フロイト『無気味なもの』、宮澤賢治『注文の多い料理店』、鷲田清一『「聴く」ことの力』、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』など) 3. 図書館ツアー 4. 作品講読(毎回違う作品の一部のコピーを三色ボールペン方式で読む) 5. 作品講読 6. 作品講読 7. 作品講読 8. 作品講読 9. 作品講読 10. グループ分け、テーマ選定、文献に基づいた発表の準備、ディスカッション、レジュメ作成、文献検索 11. 発表準備、ディスカッション 12. ディスカッション 13. ディスカッション 14. グループ発表 15. グループ発表

【成績評価の方法】 授業への取り組み(出席・発表など)により総合的に評価します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180955>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

【備考】 ◇紹介された本は各自が生協や本屋、図書館などで手に入れておいてください。◇本授業題目は 20 年度、21 年度入学者(適用年度)が対象となります。

共創型学習 (Creativity Development)

学生と社会人による授業企画ゼミ -大学で何を学ぶのか?-

Seminar for planing of lecture-What shuld we study in University

大橋 眞, 教授, 光永 雅子, 学術研究員/全学共通教育センター

後藤 壽夫, 非常勤講師/授業研究インテリジェントラボ

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で何を学ぶのかについての理解を深めるためのゼミナール形式の授業です。大学での学びは自ら学ぶ姿勢を身につけることが基本です。人間は生涯にわたって学び続けることが必要であり、その基本は自主的な活動としての学びです。その意味で、大学での勉強はこれまでの勉強とは違った視点を持つ必要があります。この授業では地域の社会人と大学での学びについて語り合いながら、どのような授業を充実していく必要があるのかを考えます。

【授業の概要】 本授業では、大学での学びとは何かについて考えていきます。地域社会人のボランティアとの語り合いの中から、社会で必要とされる教養とは何か?大学で何を身につけるべきか?を導き出していきます。そして、大学の授業をどうするとより良くなるのかを地域社会人とともに考えます。

【キーワード】 共創型学習、教養、学び、授業、地域社会人

【到達目標】 地域の社会人と討論をすることにより、社会で求められる教養を養える力を養います。世代を超えた人とのコミュニケーション力の向上を目指す。

【授業の計画】 1. 講義ガイダンス 2. 大学とは 3. 大学で学ぶことの意味 4. 教養とは 5. 社会で求められる教養 6. 教養はなぜ必要か? 7. 教養を身につけるには? 8. 生涯にわたって学びつづけること 9. 大学で何を学んでおくべきか? 10. 社会人に求められること 11. 大学は、何を改革する必要があるのか? 12. 専門と教養 13. どんな授業が必要か? 14. 発表会の準備 15. 発表会 16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 授業への積極性 70%、報告・発表内容 30% として評価する

【受講者のメッセージ】 この授業では、地域の社会人と共に大学の授業について、討論をしながら考えます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/sousei07/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185554>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日~水曜日 12時20分~12時50分)

共創型学習 (Creativity Development)

空海と歩く-歩き遍路の世界-

Walk with Kukai (World of Henro on Foot)

田中 俊夫, 教授/大学開放実践センター

2 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 88ヶ寺を巡る四国遍路は四国固有の文化として何百年にも渡って、形を変えながら、継承されてきた。この四国遍路を世界遺産として申請しようという活動も始まっている。車遍路が全盛の今日にあって、また「歩き遍路」が見直されてきている。特に若者が急増しているのである。遍路の文化と歴史を知り、そしてなぜ今歩くのか、その意味を考え、さらには実際の遍路体験の中から自分自身に起こる変化を体験してみよう。またグループ活動として遍路に関わるレポートテーマを決め、調べてまとめ、発表する。

【授業の概要】 「歩き遍路」をテーマにした授業であるから、「歩く」ということと「遍路から学ぶ」を2本の柱として授業を組み立てる。「歩く」トレーニングでは、実際のウォーキングと歩数計を使った仮想遍路旅行を行う。「遍路から学ぶ」では、歩き遍路に関連するテーマをグループ毎に設定し、文献調査や実地調査を行い、クラスで報告する。両者の融合として、実際の歩き遍路を体験する。また、実際に歩き遍路を行っている社会人との合同授業も行う。

【キーワード】 歩き遍路、空海、ウォーキング、健康、自分探し

【到達目標】 歩き遍路1日体験をやり遂げる。遍路についての知識を身につける。仲間と協力してレポートを作成し、発表する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、歩き遍路とは 2. 歩き遍路に必要なトレーニング 3. 歩き遍路ミニ体験 4. レポートテーマの検討 5. レポートプレゼンテーション 6. 住職の講話を聞く 7. 歩き遍路の体験者と一緒にトレーニング 8. 歩き遍路1日体験

【参考書等】 参考図書を紹介する

【成績評価の方法】 グループレポート (20点)、出席状況・授業に対する熱意 (30点)、ウォーキング実践 (10点)、歩き遍路体験 (15点)、期末レポート (20点)

【再試験の有無】 なし

【受講者のメッセージ】 歩き遍路体験などは日曜・祝日などを利用して実施します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180965>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中俊夫 (徳島大学 大学開放実践センター, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

的、そこから人が「成熟」することとはどういうことなのかを考えることが2点目の目的です。授業は主にテキストを読んで (一回は映画『ローマの休日』を見ます) ディスカッションをします。授業の最後では、各自気に入ったテキストを選んで発表してもらいます。

【キーワード】 共創型学習、講読、自分探し、成熟、現代社会

【到達目標】

1. 自分を見つめなおすことにより、読書力と考える力を身につける
2. 地域社会人とのコミュニケーション力をつける
【授業の計画】 1. 始めに 2. 「自分探し」をしたことがありますか? 3. 本と出会うということ 4. 自分と向き合う 5. 「自分探し」と現代社会との結びつき 6. 「変わる」ということへの願望? 7. 「大人」になること 8. 「成熟」を考える 9. 「生きる」と現代社会 10. 自分探しということ 11. 大学での学びと自己の発見 12. 自分探しと生涯学習 13. 発表会の準備 14. 発表会の準備 2 15. 発表会 16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%、報告・発表会 40% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 この授業は、地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。地域社会人と討論をしながら、理解を深めます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180960>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日～水曜日12時20分～12時50分)
⇒ 中恵 (オフィスアワー: 月曜～金曜 10時～12時)

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 一生き抜く力とは何か?—

Seminar for Memorial Books -What is competence for professional and life?

香川 順子 助教 / 大学開放実践センター

2 単位 後期 火 9・10

【授業の目的】 世代の違う社会人との交流を通して自己実現に向けての自分を意識するとともに、大学で何を学ぶべきか意識し、計画できることを目的とします。

【授業の概要】 自己理解のワークショップにより、他者との交流を通して自分について考えたり、人との交流の仕方を学んだりしていきます。その後本文を読み進めていながら、「生きる」という意味でスペシャリストである世代の違う地域の社会人と交流し、自分について考えていきます。価値観の違う人とうまく交流する方法について学びながら、仕事、自己実現、生きる意味について考え、大学時代に何をすべきかについて考えていきます。

【キーワード】 自己理解、仕事、自己実現、大学生活

【到達目標】

1. 他者を配慮したコミュニケーションができる
2. 現代の生き抜く力について説明できる
3. 自己実現の態度を身につける

【授業の計画】 1. 導入 (授業の説明、今後の予定など) 2. 自己理解のためのワークショップ 3. プロフェッショナルとは何か?1 4. プロフェッショナルとは何か?2 5. プロフェッショナルに関する文献講読 1 6. プロフェッショナルに関する文献講読 2 7. プロフェッショナルに関する文献講読 3 8. プロフェッショナルに関する文献講読 4 9. 中間まとめ 10. プロフェッショナルに関する文献講読 5 11. プロフェッショナルに関する文献講読 6 12. プロフェッショナルに関する文献講読 7 13. プロフェッショナルに関する文献講読 8 14. 現代の生き抜く力とは何か? 15. まとめ 16. レポート作成・提出

【教科書】 テキストについてはすべて配布します

【参考書等】

◇ プロフェッショナル 仕事の流儀 (1巻 2006/04～15巻 2007/09) (単行本) 茂木 健一郎 (編集), NHK「プロフェッショナル」制作班 (編集)

◇ 「ザ・プロフェッショナル」大前 研一 (著), ダイアモンド社, 2005

【成績評価の方法】 日々の授業における課題とレポートから到達目標に関連した評価を行う

【受講者のメッセージ】 意欲的に参加し、地域の社会人との積極的な交流と議論を期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180945>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 本授業題目は 20 年度入学者 (適用年度) が対象となります。

共創型学習 (Creativity Development)

人間行動の科学

Behavioral Science

荒木 秀夫 教授

2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

共創型学習 (Creativity Development)

宇宙を探る

Introduction to Astronomical Observation

伏見 賢一 准教授

2 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 宇宙の観測を体験して、現代の科学技術との関連を実感する。宇宙を観測する方法は対象によってさまざまである。はじめにいろいろな天体とその観測方法について紹介する。その後いくつかの観測方法によって宇宙の探求を実践する。

【授業の概要】 1. 天体とは、宇宙の広がりについて 2. 宇宙観測の方法 3. 宇宙観測の実践 (下記のどれかを実践する) 3-1. 天体望遠鏡による観測 (写真・CCD 観測など) 3-2. 望遠鏡を使わない観測 (写真・ビデオ観測など) 3-3. 電波などによる観測

【キーワード】 宇宙、天体観測、写真撮影・画像処理

【関連科目】 『自然と技術/宇宙物理学入門』(0.5, ⇒40 頁)

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 天体の階層 (講義) 3. 参考文献購読 4. 参考文献購読・解説 5. いろいろな天体観測の方法 (歴史) 6. いろいろな天体観測の方法 (最新技術の紹介) 7. 天体観測 I 8. 天体観測 II 9. 解説・中間報告 10. 天体観測 III 11. 天体観測 VI 12. 解説・中間報告 13. 天体観測 V 14. 天体観測 VI 15. 解説・報告会 16. 発表会

【参考書等】 天文ガイド (伏見教員室に常備しているものを適宜貸与することができる)

【成績評価の方法】 授業及び観測の実施状況に応じて評価する。中間報告のレポート及び発表会の発表で評価する。

【受講者のメッセージ】 受講登録をする時間は 9・10 講時ですが、天体観測をする都合上、天体観測を実施する日 (晴天) は 13・14 講時に開催します。月曜日は 13・14 講時に出席できるように予定を調整してください。天体観測は屋外で夜間に実施します。冬季なので非常に寒くなるのが予想されますので、温かい服装を用意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180964>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 自分探しと現代社会—

Seminar for memorial books-Seeking for your own self and present-society-

大橋 真 教授, 中恵 真理子 学術研究員 / 全学共通教育センター

後藤 壽夫 非常勤講師 / 授業研究インテリジェントラボ

2 単位 後期 火 7・8

【授業の目的】 本を読んで考えを深めたり、社会人も交えて異なる世代・異なる考えを持った人と意見の交換をすることで、多様な視点で考え表現する力を身につけます。「自分探しと現代社会」がテーマで、人が「成熟」するという意味を考えましょう。

【授業の概要】 現代社会では「自分探し」は若者だけの専売特許ではなくなりました。この授業では「本当の自分」を探るのではなく、なぜ人が自分探しに駆り立てられるのかを客観的に見ることが 1 点目の目

【授業の目的】 それぞれの学生が、人間の行動一般について問題を発見し、共同作業による調査、実験等を通じて解決策を見出すことを目的とする

【授業の概要】 「人間の行動を科学的に調べる」・・・このことは何となく高度な作業と思うかもしれないが、身近な問題を簡単な方法で調べる方法は多くある。この授業では、「共創型学習・創成学習」として、学生自らが発案したテーマに対して共同で観察、実験、討論、発表を繰り返しながら何かを「発見」することを試みる。

【キーワード】 人間行動

【到達目標】 人間の行動を個別の学問分野にとらわれずに、全体としての問題を発見する能力を獲得する

【授業の計画】 1. オリエンテーション-行動科学とは- 2. 人間のコーディネーション能力 3. テーマ設定とグループ作成 4. 方法論の実習と測定-① 5. 方法論の実習と測定-② 6. 班ごとの実験・調査(実習)-① 7. 班ごとの実験・調査(実習)-② 8. 班ごとの実験・調査(実習)-③ 9. 中間報告会-問題整理と仮説の検証-① 10. 中間報告会-問題整理と仮説の検証-② 11. 班ごとのワークショップ(実習)-① 12. 班ごとのワークショップ(実習)-② 13. 班ごとのワークショップ(実習)-③ 14. データ処理と考察の進め方 15. プレゼンテーションの準備-問題・仮説・方法・結論など- 16. 発表と討論

【成績評価の方法】 授業への参加態度 40%、実験・調査 30%、発表・報告 30%として評価する

【受講者へのメッセージ】 この授業は授業時間外でも、それぞれの課題に応じて活動を行うことがある。途中でリタイヤするとグループの他のメンバーに多大な迷惑をかけることになるので安易な気持ちで履修しないように、あくまでも自主的な態度が前提条件であることを忘れずに！定員は10名以内を原則とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180952>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日午後2時~ 午後3時)

共創型学習 (Creativity Development)

国際交流の扉を拓(ひらく)

Cross-cultural Interactions

橋本智・准教授/国際センター
三隅友子・教授/国際センター
2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 私たちのまわりの「文化」を日本人と外国人の視点からとらえ直す。受講者相互の対話を通して「文化」「交流」とは何かを考える。

【授業の概要】 ①国際交流とは②異文化理解とは③共に生きるとは、をテーマに「異文化コミュニケーション」「日本語と異文化理解」「留学生事情」をはじめとし、様々な視点から留学生センター 3 名の教員が講義する。

【キーワード】 国際交流, 異文化理解, 異文化間コミュニケーション, 言語教育, 人間関係づくり

【到達目標】

1. 自分なりの国際交流に対する枠組ができる。
2. 自分を中心とした新たな世界観を作る
3. 様々な文化背景を持つ人達とコミュニケーションができる。
4. 「国際人」としての基礎を身につけることができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 徳島の留学生事情 3. 言葉を学ぶ・教える① 4. 言葉を学ぶ・教える② 5. 言葉を学ぶ・教える③ 6. 異文化の中で生きる① 7. 異文化の中で生きる② 8. 異文化の中で生きる③ 9. 自分の気持ちをつかむ 10. 気持ちをことばにする 11. つたえる 12. こたえる 13. わかちあう 14. ひとつにつきあう 15. 試験(予定) 16. 総括

【教科書】 随時プリント等を配付

【成績評価の方法】 授業への取り組み, レポート, プレゼンテーション, 試験, 出席などにより, 担当の 3 教員で総合的に評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業の詳細は, 初回で説明するので休まずに出席すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180957>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 橋本智 (国際センター 656-9872 hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜 9:30~ 12:00 (但し, 事前に連絡があれば他の日時でも対応します。内容によっては適切な教員に連絡します。))

共創型学習 (Creativity Development)

埋もれた文化遺産 II

Buried Cultural Heritage 2

中原 計・助教/埋蔵文化財調査室
中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室
2単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 一人ひとりが問題を発見し、知恵と情報を総動員し、新しい自分自身の解を見出す訓練を通じて、自らを創成することを目的とする。共創型学習科目の中で本授業は「文化財」をそのための素材として扱う。近年、さまざまな文化財が「世界遺産」として登録されているが、日本においては文化財に関する認識はまだまだ低調であり、開発などにより多くの文化財が失われつつあるのが現状である。本授業では、文化財の中でも、埋蔵文化財をとりあげ、遺跡やそこから出土したものに直接触れてもらうことで、文化財をより身近なものとしてとらえ、それらに対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】 徳島大学構内の埋蔵文化財について、庄・蔵本遺跡、常三島遺跡・新蔵遺跡の現地を散策し、また、そこから出土した考古遺物を実際に触ってもらう。次に、それらの考古遺物が博物館などの展示物として、どのような過程を経て、一般の人に見てもらえることができるようになるのかを実際に行うことで学ぶ。その後、県内の文化財について、グループ形式で調べて、まとめ、それぞれ発表を行う。それらの作業を通して、埋蔵文化財および文化財全体についての理解を深めてもらう。

【キーワード】 文化財, 庄・蔵本遺跡, 常三島遺跡・新蔵遺跡, 遺物整理実習

【先行科目】 『歴史と文化/考古学概論 I』(1.0, ⇒15 頁)

【関連科目】 『歴史と文化/徳島を考える』(0.5, ⇒17 頁)

【到達目標】 大学構内、県内の埋蔵文化財について実際に触れたり、調べたりする過程において、文化財を身近なものとしてとらえ、それらについての理解を深める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション・常三島遺跡散策 2. 徳島大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査室の仕事 3. 徳島城下町・新蔵遺跡散策、ガレリア新蔵見学 4. 徳島城散策 5. 庄・蔵本遺跡散策, 埋蔵文化財調査室見学 6. 遺物整理実習 I-遺物の接合 7. 遺物整理実習 II-遺物の復元 8. 遺物整理実習 III-遺物の記録 9. 研究発表課題概要説明・準備 10. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 11. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 12. 研究発表課題:中間発表・討議 13. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 14. 研究発表課題:文献探索・現地踏査 15. 研究発表会 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%、報告・発表会 40%として評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180962>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中原 (088-633-7236, nakahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 埋蔵文化財調査室にて, 時間は不問)

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 埋蔵文化財調査室にて, 時間は不問)

【備考】 土器接合・復元などの考古学的な実習があります。汚れてもかまわない服装をお勧めします。また、遺跡散策の際には歩きやすい靴をお勧めします。主に常三島キャンパスにおいて授業を行います。その他, 土日を利用して博物館などの見学を予定しています。

2.3 《ヒューマンコミュニケーション》(Human Communication)

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication) ヒューマンコミュニケーション (医 (医 B)) Human Communication

寺嶋 吉保・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部、佐野 勝徳・教授
長宗 雅美・助教/全学共通教育センター、高塚 人志/鳥取大学
山田 進一・非常勤講師

2 単位 後期 木 1・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 学生の人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を向上させる一助とする。また、授業を通し、地域の子育て支援事業に貢献する。

【授業の概要】 この授業ではコミュニケーション能力の開発を支援する「体験学習」を通して、自分と向き合い自分自身の人間関係について考える場を学生に提供する。社会人ボランティアの協力を得て授業を行い、学生が世代や立場の異なる人々との関係を膨らませ、考えや視野を広げる機会とする。授業は、学内演習・地域の保育所実習・子育て支援事業の体験実習を 3 本柱とする。学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。保育所では毎週、特定の乳幼児と 1 対 1 の交流 (10 回) を行なう。交流を通して「乳幼児期のヒト」と「親」を実験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。また、子育て支援事業の運営に参加 (1 回) し、初対面・複数の人々に対応し相手のニーズを察する機会を得る。全授業を通して関わる様々な人々との交流を通して、社会人として求められる態度について考え、学生自身の視野を広げる機会とする。

【キーワード】 人間力、ホスピタリティ・マインド、役立ち感、自己肯定感、子育て支援

【到達目標】

1. 適切な礼儀やマナーを身につける。
2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。
3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。
4. 仲間の様子を目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。
5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】 1. 学内演習 I 特別講演「ホスピタリティ・マインドへの気づき」講師:高塚人志先生 2. 学内演習 II ・コミュニケーションスキルトレーニング (ホスピタリティを学ぶ他) ・乳幼児との交流実習準備 3. 学内演習 III ・コミュニケーションスキルトレーニング (相互協力「図形作り」にチャレンジ) 他) ・乳幼児との交流実習準備 4. 学内演習 IV ・交流実習へむけて (グループ討議) ・乳幼児との交流実習準備 5. 保育所実習 1 6. 保育所実習 2 7. 保育所実習 3 8. 保育所実習 4 9. 保育所実習 5 10. 学内演習 V ・実習中間振り返り 11. 保育所実習 6 12. 保育所実習 7 13. 保育所実習 8 14. 保育所実習 9 15. 振り返り・まとめ 16. 児童館における子育て支援体験実習

【教科書】 なし。配布する資料を使用する。

【参考書等】 高塚人志著「いのちにふれる授業」小学館、「自分が好きになっていく」アリス館、「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」大修館書店、「赤ちゃん力」エイデル研究所

【成績評価の方法】 出席状況 (33%), レポート (33%), 授業に取り組む姿勢・態度 (33%) から総合評価する。

【再試験の有無】 原則として行わない

【受講者のメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。交流する乳幼児達はなかなか自分の思うようにならないかもしれないが、自分のパートナーに寄り添い、相手の気持ちを表情や言動から推し量り、必死になって自分のこととして考え、関わりをもってほしい。そんな体験を積み重ねることでホスピタリティ・マインドに気づき、「達成感」や「人の役に立つ喜び=役立ち感」そして「自己肯定感」を実感するだろう。この授業をステップに社会人としての人間力を高め、専門的な知識を積み上げるための基礎を充実させてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185548>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐野勝徳 sano@ias.tokushima-u.ac.jp

3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

主題別英語

主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 A))/魚崎/後期 月 5・6	173
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 A))/山森/後期 月 5・6	173
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 A))/坂田/後期 月 5・6	173
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 B))/フロスト/後期 火 3・4	173
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 B))/宮田/後期 火 3・4	174
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 B))/小野原/後期 火 3・4	174
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 B))/ラックストン/後期 水 1・2	174
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 B))/三宅/後期 水 1・2	174
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 B))/田中/後期 水 1・2	174
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 A))/山田/後期 木 1・2	175
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 A))/福田/後期 木 1・2	175
主題別英語 ... (総科 (人文・社創・総理 A))/吉田/後期 木 1・2	175
主題別英語 ... (医 (医))/山森/後期 月 7・8	176
主題別英語 ... (医 (医))/未定/後期 月 7・8	176
主題別英語 ... (医 (医))/マコーマック/後期 金 3・4	176
主題別英語 ... (医 (医))/早内-プリングル/後期 金 3・4	176
主題別英語 ... (医 (栄 2))/宮崎/後期 月 3・4	177
主題別英語 ... (医 (栄))/山田/後期 水 5・6	177
主題別英語 ... (医 (保 A))/西山/後期 火 5・6	177
主題別英語 ... (医 (保 B))/小野原/後期 火 5・6	177
主題別英語 ... (医 (保 C))/石田/後期 火 5・6	178
主題別英語 ... (医 ((放)2))/米原/後期 月 1・2	178
主題別英語 ... (医 ((放)2))/魚崎/後期 月 1・2	178
主題別英語 ... (歯 (歯口))/米原/後期 火 3・4	178
主題別英語 ... (歯 (歯口))/森岡/後期 水 5・6	179
主題別英語 ... (薬 (薬 A))/ギョクター/後期 火 5・6	179
主題別英語 ... (薬 (薬 B))/井上/後期 火 5・6	179
主題別英語 ... (工 (建 A))/パトリック/後期 水 5・6	179
主題別英語 ... (工 (建 B))/吉田/後期 水 5・6	179
主題別英語 ... (工 (機 A))/魚崎/後期 月 7・8	180
主題別英語 ... (工 ((機 A)2))/樋口/後期 火 1・2	180
主題別英語 ... (工 (機 B))/樋口/後期 月 7・8	180
主題別英語 ... (工 ((機 B)2))/米原/後期 火 1・2	180
主題別英語 ... (工 (機 C))/宮田/後期 月 7・8	181
主題別英語 ... (工 ((機 C)2))/山内/後期 火 1・2	181
主題別英語 ... (工 (化 A))/石田/後期 金 5・6	181
主題別英語 ... (工 (化 B))/山田/後期 金 5・6	181
主題別英語 ... (工 ((生 A)2))/山田/後期 水 3・4	182
主題別英語 ... (工 (生 A))/ギョクター/後期 金 5・6	182
主題別英語 ... (工 ((生 B)2))/上野/後期 水 3・4	182
主題別英語 ... (工 (生 B))/マコーマック/後期 金 5・6	182
主題別英語 ... (工 ((電 A)2))/三宅/後期 水 3・4	182
主題別英語 ... (工 (電 A))/敷下/後期 金 3・4	183
主題別英語 ... (工 ((電 B)2))/田中/後期 水 3・4	183
主題別英語 ... (工 (電 B))/三浦/後期 金 3・4	183
主題別英語 ... (工 ((電 C)2))/樋口/後期 水 3・4	184
主題別英語 ... (工 (電 C))/石田/後期 金 3・4	184
主題別英語 ... (工 (知 A))/前田/後期 木 1・2	184
主題別英語 ... (工 (知 B))/未定/後期 木 1・2	184
主題別英語 ... (工 (光))/山内/後期 水 7・8	184

発信型英語

発信型英語 ... (総科 ((人社 A2)))/早内-プリングル/後期 月 1・2	184
発信型英語 ... (総科 ((人社 B2)))/フロスト/後期 月 1・2	185
発信型英語 ... (総科 ((人社 C2)))/スタージ/後期 月 1・2	185
発信型英語 ... (総科 ((人社 D2)))/パトリック/後期 月 1・2	185
発信型英語 ... (総科 ((人社 E2)))/マーシェソ/後期 火 7・8	186
発信型英語 ... (総科 ((人社 F2)))/スティーヴンズ/後期 火 7・8	186
発信型英語 ... (総科 ((人社 G2)))/福田/後期 火 7・8	186
発信型英語 ... (総科 ((人社 H2)))/パトリック/後期 火 7・8	187
発信型英語 ... (総科 ((自然 A-1)))/西山/後期 火 7・8	187
発信型英語 ... (総科 ((自然 A-2)))/未定/後期 火 7・8	187
発信型英語 ... (総科 ((自然 B-1)))/宮田/後期 火 7・8	187
発信型英語 ... (総科 ((自然 B-2)))/石田/後期 火 7・8	187
発信型英語 ... (医 ((看 a2)))/福田/後期 月 1・2	188
発信型英語 ... (医 ((看 b2)))/中西-リンド/後期 月 1・2	188
発信型英語 ... (医 ((看 c2)))/スティーヴンズ/後期 月 1・2	188
発信型英語 ... (工 ((建 A-1)2))/未定/後期 火 1・2	188
発信型英語 ... (工 ((建 A-2)2))/木里/後期 火 1・2	188
発信型英語 ... (工 ((建 B-1)2))/スティーヴンズ/後期 火 1・2	189
発信型英語 ... (工 ((建 B-2)2))/井上/後期 火 1・2	189
発信型英語 ... (工 ((化 A-1)2))/早内-プリングル/後期 火 1・2	189
発信型英語 ... (工 ((化 A-2)2))/福田/後期 火 1・2	189
発信型英語 ... (工 ((化 B-1)2))/フロスト/後期 火 1・2	190
発信型英語 ... (工 ((化 B-2)2))/スタージ/後期 火 1・2	190
発信型英語 ... (工 ((知 A-1)2))/中西-リンド/後期 水 3・4	190
発信型英語 ... (工 ((知 A-2)2))/パトリック/後期 水 3・4	191
発信型英語 ... (工 ((知 B-1)2))/福田/後期 水 3・4	191
発信型英語 ... (工 ((知 B-2)2))/マコーマック/後期 水 3・4	191
発信型英語 ... (工 ((光 A)2))/ラックストーン/後期 水 3・4	191
発信型英語 ... (工 ((光 B)2))/ギュンター/後期 水 3・4	191

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (医・歯 (栄口))/石川/後期 月 7・8	193
ドイツ語入門 ... (医 (看))/石川/後期 火 9・10	193
ドイツ語入門 ... (医 (放検))/ヘルベルト/後期 火 3・4	193
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 A))/曾田/後期 火 3・4	193
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 B))/井戸/後期 火 3・4	193
ドイツ語入門 ... (工 (建))/ギュンター/後期 金 7・8	194
ドイツ語入門 ... (工 (機 A))/今井/後期 水 7・8	194
ドイツ語入門 ... (工 (機 B))/ヘルベルト/後期 水 7・8	194
ドイツ語入門 ... (工 (化))/桂/後期 月 5・6	194
ドイツ語入門 ... (工 (生))/石川/後期 水 5・6	195
ドイツ語入門 ... (工 (電))/石田/後期 水 7・8	195
ドイツ語入門 ... (工 (知))/ギュンター/後期 水 5・6	195
ドイツ語入門 ... (工 (光))/ギュンター/後期 月 9・10	195

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (総科 (人文))/ヘルベルト/後期 月 5・6	196
ドイツ語初級 ... (総科 (人文))/井戸/後期 水 1・2	196
ドイツ語初級 ... (総科 (社創))/石川/後期 火 3・4	196
ドイツ語初級 ... (総科 (社創))/今井/後期 木 1・2	196

全学共通教育 (2009) 〉 後期・【基盤形成科目群】

ドイツ語初級 ... (総科 (総理))/ギンター/後期 火 3・4.....	197
ドイツ語初級 ... (総科 (総理))/桂/後期 木 1・2.....	197
ドイツ語初級 ... (医 (医 A))/曾田/後期 月 9・10.....	197
ドイツ語初級 ... (医 (医 A))/井戸/後期 火 5・6.....	198
ドイツ語初級 ... (医 (医 B))/依岡/後期 月 9・10.....	198
ドイツ語初級 ... (医 (医 B))/桂/後期 火 5・6.....	198
ドイツ語初級 ... (歯 (歯))/ヘルベルト/後期 月 7・8.....	199
ドイツ語初級 ... (歯 (歯))/桂/後期 火 9・10.....	199
ドイツ語初級 ... (薬 2(薬 2))/今井/後期 月 7・8.....	199

ドイツ語 (2)

ドイツ語 (2) ... (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) 入学者)/井戸/後期 火 1・2.....	199
--	-----

フランス語初級

フランス語初級 ... (総科 (総科 A))/田島/後期 月 5・6.....	201
フランス語初級 ... (総科 (総科 A))/田島/後期 水 1・2.....	201
フランス語初級 ... (総科 (総科 B))/バルカン/後期 火 3・4.....	201
フランス語初級 ... (総科 (総科 B))/長井/後期 木 1・2.....	201
フランス語初級 ... (医・歯・薬 (医歯薬))/長井/後期 月 9・10.....	202
フランス語初級 ... (医・歯・薬 (医歯薬))/長井/後期 火 9・10.....	202

中国語入門

中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄口化光)A))/肖/後期 月 9・10.....	203
中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄口化光)B))/施/後期 月 9・10.....	203
中国語入門 ... (医 (保))/荒武/後期 火 3・4.....	203
中国語入門 ... (工 (建))/山木/後期 金 7・8.....	203
中国語入門 ... (工 (機))/施/後期 水 7・8.....	204
中国語入門 ... (工 (生))/肖/後期 水 5・6.....	204
中国語入門 ... (工 (電 A))/肖/後期 火 9・10.....	204
中国語入門 ... (工 (電 B))/邵/後期 火 9・10.....	204
中国語入門 ... (工 (知))/山木/後期 金 5・6.....	205

中国語初級

中国語初級 ... (総科 (総科 A))/田中/後期 月 5・6.....	205
中国語初級 ... (総科 (総科 A))/肖/後期 水 1・2.....	205
中国語初級 ... (総科 (総科 B))/肖/後期 月 5・6.....	205
中国語初級 ... (総科 (総科 B))/田中/後期 水 1・2.....	206
中国語初級 ... (総科 (総科 C))/邵/後期 火 3・4.....	206
中国語初級 ... (総科 (総科 C))/肖/後期 木 1・2.....	206
中国語初級 ... (総科 (総科 D))/肖/後期 火 3・4.....	206
中国語初級 ... (総科 (総科 D))/邵/後期 木 1・2.....	207
中国語初級 ... (医・歯・薬 (医歯薬))/田中・准教授/後期 月 9・10.....	207
中国語初級 ... (医・歯・薬 (医歯薬))/施/後期 火 9・10.....	207

日本語

日本語 2 ... (留 (留))/遠藤/後期 月 7・8.....	208
日本語 4 ... (留 (留))/三隅/後期 月 9・10.....	208
日本語 8 ... (留 (留))/三隅/後期 火 7・8.....	208
日本語 6 ... (留 (留))/大石/後期 火 9・10.....	208

情報科学

全学共通教育 (2009) 後期・【基盤形成科目群】

情報科学入門 ... (医 (栄)) / 村上 / 後期 月 3・4	210
情報科学入門 ... (医 (看 A)) / 河原崎 / 後期 月 1・2	210
情報科学入門 ... (医 (看 B)) / 中山 / 後期 月 1・2	210
情報科学入門 ... (医 (放検)) / 金西 / 後期 火 9・10	210
情報科学入門 ... (歯 (歯口)) / 河原崎 / 後期 月 3・4	211
情報科学入門 ... (工 (化 A)) / 金西 / 後期 金 1・2	211
情報科学入門 ... (工 (化 B)) / 松浦 / 後期 金 1・2	211
情報科学入門 ... (工 (生 A)) / 蓮沼 / 後期 水 3・4	212
情報科学入門 ... (工 (光)) / 村上 / 後期 水 3・4	212

3.1 《英語》 (English)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 A))
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

【授業の概要】 映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】 1. INTRODUCTION 2. Aunt Marge 3. LEAKY CAULDRON 4. Welcome to Another Year at Hogwarts 5. Boggart & Hogsmeads Days 6. You Could Teach Me 7. The Marauder's Map 8. Shrieking Shack 9. Time-Turner 10. Quidditch World Cup 11. The Triwizard Tournament 12. The Champion Selection 13. Horntail 14. Harry Vs. Horntail 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180667>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 A))
山森 直人・准教授/鳴門教育大学
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会のさまざまな場において英語を通して情報を得たり、人と交流する機会が確実に増えてきている。英語でコミュニケーションができるようになれば、多様な言語や文化背景をもつ人々とのネットワークが広がり、新しい世界や新しい自分と出会う機会が芽生えていく。英語技能の獲得は確実に自分自身の将来の可能性を広げてくれる。そのためにもまずは「メッセージを理解すること」をコミュニケーションの基本と考え、本授業の主題とした。そこで、本授業は、受講生の英語理解力 (とくに聴解力) を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英語の聴解力を養うためのトレーニングを中心に授業を進める。

【キーワード】 英語、理解力、リスニング、聴解力

【到達目標】

1. 受講生各人の到達目標は第 1 回授業での実力試験の結果に基づき設定する。
2. 英語聴解のためのトレーニングを習慣化する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション & 実力試験 2. 実力試験の結果と学習方法に関する講義 3. 英語聴解トレーニング 1 4. 英語聴解トレーニング 2 5. 英語聴解トレーニング 3 6. 英語聴解トレーニング 4 7. 英語聴解トレーニング 5 8. 中間試験 9. 英語聴解トレーニング 6 10. 英語聴解トレーニング 7 11. 英語聴解トレーニング 8 12. 英語聴解トレーニング 9 13. 英語聴解トレーニング 10 14. トレーニングのまとめ 15. 最終試験 16. 総括授業

【教科書】 國弘正雄・千田潤一 (監修) 『英会話・ぜったい音読 続・標準編』 講談社 1,260 円

【成績評価の方法】 中間試験 (35%)、最終試験 (35%)、小レポート (20%)、受講姿勢 (10%) をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講生には授業において実施するトレーニングを授業外でも継続的に行い、習慣化することを期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180701>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山森直人 鳴門教育大学 (オフィスアワー: E-mail: yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 A))
坂田 浩・准教授/国際センター
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 学習者自身が学習テーマおよび目標を設定し、試行錯誤しながら学習に取り組む。

【授業の概要】 日本人が英語を学習する際には長期的な自律学習が求められる。そこで、本授業では、①学習者自身が学習テーマおよび目標を設定し、②学習計画を立案し、③その学習計画に基づいて学習を展開し、④評価を行い、必要に応じて目標および計画を修正する、ことを行う。

【キーワード】 自律学習、英語やる気 UP ワークシート

【到達目標】

1. 自らの学習テーマおよび目標を設定することが出来る
2. 目標を達成するための計画を立てることが出来る
3. 学習計画を実行することが出来る
4. 定期的に計画を評価することが出来る
5. 定期的な評価を基に、学習計画および学習目標を修正することが出来る

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 学習目標とテーマを決める 3. 学習計画を立てる 4. 評価方法について考える 5. 「やる気が出ない時」への対応を考える 6. 自律学習実習 (1) 7. 自律学習実習 (2) 8. 自律学習実習 (3) 9. 目標と計画の評価 (1) 10. 自律学習実習 (4) 11. 自律学習実習 (5) 12. 自律学習実習 (6) 13. 自律学習実習 (6) 14. 自律学習実習 (7) 15. 目標と計画の評価 (2)、全体評価 16. まとめ

【教科書】 教員および学生が適時準備

【成績評価の方法】 教員からの評価 (30%)、学生の自己評価 (40%)、各種レポート (30%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 本授業を 4 回以上欠席した場合は、成績は出ません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180677>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Please Email to kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: Monday 12:00-12:50)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 B))
フロスト ダン・非常勤講師
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To expand the student's grasp of topical themes presented in English. It will also aid their ability to respond appropriately to such ideas.

【授業の概要】 The course will consist of a series of themes listed below, which will be explored. Students will be required to produce works on those themes to be presented verbally and in writing to enforce the stated goal. These exercises will be derived from handouts as well as from multimedia presentations. Progression through the themes will depend on the student's ability but hopefully one unit will take two classes.

【到達目標】

1. Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students
2. Use group work to promote better exploration of the themes
3. Require presentation of work completed to ensure real understanding of the subject matter covered.

【授業の計画】 1. Nations and Nationalities around the world 2. Brands and Advertising 3. Great People 4. Society, traditions, and problems 5. Dreams, Hopes, and Ambitions

【教科書】 Handouts and other class materials will be given

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, as well as examinations.

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments. Individual performance will also affect the final grade

【受講者へのメッセージ】 Please always bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil to class. Pocket translators can be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180676>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 B))
宮田 政徳・准教授/大学開放実践センター
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 1970 年代最大の米国ポップスグループであるカーペンターズの名曲に触れ、カーペンターズの歌を理解することを目的とする。

【授業の概要】 毎時間 1~2 曲づつカーペンターズの歌の歌詞の英語を精読し、その歌についての解説を読み、彼らの曲を鑑賞すると共に歌の練習をする。また随時 DVD やビデオによる彼らの映像も紹介する。

【キーワード】 カーペンターズ、英語のポップス

【到達目標】

1. カーペンターズの歌の意味が分かる。
2. カーペンターズの歌の背景を理解する。
3. カーペンターズの歌が歌えるようになる。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. テキスト講読+歌 (I Need To Be In Love) 3. テキスト講読+歌 (We've Only Just Begun & Superstar) 4. テキスト講読+歌 (Rainy Days and Mondays) 5. テキスト講読+歌 (Top Of The World & Sing) 6. テキスト講読+歌 (Only Yesterday) 7. テキスト講読+歌 (Ticket To Ride & Goodbye To Love) 8. テキスト講読+歌 (It's Going To Take Some Time & This Masquerade) 9. テキスト講読+歌 (Sweet, Sweet Smile & I Won't Last Without You) 10. テキスト講読+歌 (Solitaire) 11. テキスト講読+歌 (Please Mr. Postman & Hurting Each Other) 12. テキスト講読+歌 (There's A Kind Of Hush) 13. テキスト講読+歌 (For All We Know & Touch Me When We're Dancing) 14. テキスト講読+歌 (Close To You & Yesterday Once More) 15. 期末試験 16. 期末試験の振り返り

【教科書】 カーペンターズで学ぶ英語; ジェイムズ・ハウス著 (成美堂, 1998 年, 1700 円)

【成績評価の方法】 学期末試験 (85%), 授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回必ず出席すること。またテキストを忘れたら、減点するので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180694>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ miyata@cue.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 16時10分~17時00分 宮田研究室 (大学開放実践センター3F))

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 B))
小野原 信善・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英文を確実に音読しながら、言語と文化の関係を探る。

【授業の概要】 全員で音読をした後英文を訳し、内容について討論をする。そうする中で、世界の諸文化に触れ、我が日本と日本人の文化、アイデンティティ等について考える。

【キーワード】 文化、多様性、アイデンティティ

【到達目標】 格調高い英文を読み、高度の英語力を養いつつ、外国人の価値観や信念形成の仕方を学ぶと共にわれわれ自身のアイデンティティ形成の仕方を探る。

【授業の計画】 1. 文化の疑念 2. アイデンティティ 3. 文化の多様性 4. 価値観 5. 信念

【教科書】 Beneath the Surface (Seibido) Paul Stapleton 著

【参考書等】 小野原信善・大原始子編著 (2004) 『ことばとアイデンティティ』三元社

【成績評価の方法】 学期末試験、平素の授業への取り組み状態、出席状況等を、総合的に判断する。

【再試験の有無】 無 (平常の授業を重んじるため)

【受講者へのメッセージ】 日頃の授業で積極的に発言して欲しい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180673>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 小野原 . (オフィスアワー: 火曜日の休憩時間 非常勤講師控室)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 B))
ラックストン ロバート・非常勤講師
1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class will take a thematic approach to the learning of conversational English. Themes include: excursions, shopping, dining, and personal history.

【授業の概要】 Pronunciation practice, thematic lessons, role-plays and short skits.

【到達目標】 Students will improve their English by considering different situations and themes.

【授業の計画】 1. Introductions 2. Unit 6.1 3. Unit 6.2 4. Unit 7.1 5. Unit 7.2 6. Unit 8.1 7. Quiz One and Skit Preparation 8. Skits 9. Unit 9.1 10. Unit 9.2 11. Unit 10.1 12. Unit 10.2 13. Unit 11.1 14. Unit 11.2 15. Quiz Two and Skit Preparation 16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 1

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180708>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ラックストン . (オフィスアワー: Contact me at: rob-luxton@shikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 B))
三宅 恵美・非常勤講師
1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 TOEIC のスコアを伸ばすための基礎力および応用力をつけることを目的とする; TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のレベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属 (グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、TOEIC 学習は文法事項やリスニングのポイントなど項目にしごった学習が可能なので、自分の弱点を探ったり、その学習項目に絞った効果的な学習が可能である。さらに、学習の持続に重要なモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。

【授業の概要】 1. 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて自分のレベルを確認する。実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。2. DVD など視覚、聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつける。3. 通訳訓練法を取り入れた練習などでバリエーションをつけたりしながら幅広い学習を行う。

【到達目標】 TOEIC500 点をまずは確実に取得することを目標とする。また試験のテクニックや知識のみならず、英語の実用力をつけることで 500~600 点を目指す。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】 1. TOEIC とはなにか 2. プリテスト 3. 動詞・五文型 4. 名詞 5. 形容詞・副詞 6. フレーズリーディング 7. 動名詞 8. TO 不定詞 9. 分詞 10. スキャンニング 11. 受動態 12. 比較 13. 関係詞 14. ポストテスト 15. 定期試験 16. 総括

【教科書】 TOEIC Test Trainer Target 470, センゲージラーニング (2,100 円)、その他の資料は配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%、小テスト、課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180690>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 三宅 . (オフィスアワー: 授業開始後に連絡方法をお知らせします)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科 (人文・社創・総理 B))
田中 孝雄・教授/四国大学
1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 ロンドンを中心にイギリスの日常生活について理解を深めると同時に、ロンドンの詩人ウィリアム・ブレイクの詩を鑑賞する。

【授業の概要】 イギリス人の国民性、日常習慣、気候、食物、バブ、交通機関や教育制度などについて説明する。またブレイクの詩を鑑賞しながら人間の「内なる心」について言及する。

【キーワード】 イギリス詩、イギリス文化

【到達目標】 イギリスの文化についての理解を深めると同時に、ブレイクの詩を鑑賞しながら「内なる心」獲得をめざす。

【授業の計画】 1. イギリス人の国民性 2. Introduction, A Dream 3. The Little Girl Lost, The Little Girl Found 4. 気候と住宅、交通機関 5. The Blossom, The Lamb, The Shepherd 6. Infant Joy, On Another's Sorrow, Spring 7. The School Boy, Laughing Song 8. The Little Black Boy, The Voice of the Ancient Bard 9. 通貨とカード、食物とバブ 10. The Echoing Green, Nurse's Song 11. Holy Thursday, The Divine Image 12. The Chimney-Sweeper, A Cradle Song 13. 宿泊施設、教育制度 14. The Little Boy Lost, The Little Boy Found, Night 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 田中孝雄著(編):『無垢の歌』2002年1,000円。イギリス文化関連の資料はコピーして配布する。

【参考書等】 松島正一著:『孤高の芸術家 ウィリアム・ブレイク』北星堂書店1982年5,150円

【成績評価の方法】 学期末試験、課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【読者へのメッセージ】 毎回、出される課題の準備をして積極的に発表することが期待される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185571>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 田中 (オフィスアワー: 学外なのでオフィスアワーは利用できないが、Eメールでの相談、指導は時間を問わず可能である。E-mail: takao-tanaka@shikoku-u.ac.jp 四国大学第二文学館(L602), Tel .088-665-1300(内線2371))

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科(人文・社創・総理 A))

山田 仁子 准教授
1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 英文を読み取る力をつけること、英語文化で重要な韻に馴染むことを目指す。英語を聞き取る力の向上も目的とする。

【授業の概要】 やさしい英語で書かれた洋書を読む。英語を楽しむを覚えて欲しい。更に、朗読された音声教材を聞く事で、聞き取る練習も行う。テキストの英語は韻文で書かれており、内容は、『シンデレラ』など誰もが知っているような昔話を大胆に書き換えたものである。ここで用いられる脚韻(行の最後に同じ音が繰り返される)が、昔も今も多くの場面で用いられていることを、適宜プリントを交えて見て行く。

【キーワード】 Rapid Reading, Listening Comprehension

【到達目標】
1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 英語の文化で重要な韻について学ぶ
3. 英語を聞き取る力も高める。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. テキストを5ページずつ読む。 3. テキストを5ページ読む。 4. テキストを5ページ読む。 5. テキストを5ページ読む。 6. テキストを5ページ読む。 7. 韻を用いた例をプリントで読む。 8. 中間試験 9. テキストを5ページ読む。 10. テキストを5ページ読む。 11. テキストを5ページ読む。 12. テキストを5ページ読む。 13. テキストを5ページ読む。 14. 韻を用いた例をプリントで読む。 15. 最終試験 16. 総括授業

【教科書】 Dahl, R. Revolving Rhymes (Puffin Books)

【成績評価の方法】 中間テスト、最終テスト、授業への参加する態度などから、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし。

【読者へのメッセージ】 単語を、発音も意味も調べるという予習を必ずすること。予習も成績に反映されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180700>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 9:30~10:30)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科(人文・社創・総理 A))

福田, スティーブ・利久 助教/全学共通教育センター
1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 前半で学習スタイル・学習目標を考え、目標に向かって個人の学習スタイルで励む

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「主題別英語」は科学・時事・文学などの内容やリーディング・ライティング・ヒアリング・スピーキングなどのスキルを選んで学ぶことを推奨している。しかし、本学で「主題別英語」の選択領域が限られているため、個人の興味・関心に当てはまるものは選べずらうと感じる。個人の興味・関心にあったものを提供したいので、本講義のシラバスを作成。その上に、英語学習に終わりが無いと理解して欲しい。授業外、講義が終わっても、学習を継続しなければ、今までの英語の学習で得たものが台無しになる。しかし、自分の学習スタイルと目標の決め方等を理解出来れば、授業が終わっても学習は続けられるでしょう。誰もが英語の必要性は疑わないでしょう。誰でも英語を身に付く能力はある。多くの学生が過去の経験で英語に対するネガティブなイメージがあると感じている。これを取り除くために、自分で目標を考え、自分のレベルに合ったもの、自分の学習スタイルで進めていく。そうすると、英語のイメージが変われば、これから徐々に英語が身に付くでしょう。

【到達目標】 自分が英語で「できる・できない」ことを考え、学習スタイル・目標を見出し、これから英語学習に関しては自律し、大学の生活の中で学習ができることを促進する。

【授業の計画】 1. 今までの英語学習を振り返る。 2. 英語で「できる・できない」を考える。 3. 学習目標を決め学習計画を考える。 4. 学習目標を決め学習計画を考える。 5. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 6. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 7. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 8. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 9. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 10. 中間評価。 11. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 12. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 13. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 14. 個人プランを実行・学習カウンセリング。 15. 期末評価。 16. 振り返り、新しい学習計画を作成

【教科書】 前もって買う必要はない。後に、個人学習プランにより、必要に応じて買う

【参考書等】 マルカム S, ノールズ(著) 渡辺洋子(翻訳)2005年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 20%は学習計画の作成 20%は宿題(第1回~6回の小レポート) 20%は個人が選ぶ中間評価 20%は個人が選ぶ最終評価 10%は新しい学習計画

【再試験の有無】 無

【読者へのメッセージ】 初回の授業までに今まで受けてきた英語の授業を振り返り、これから学習したいこと及び目標を考えるとよりよいでしょう。シラバスは曖昧に感じるかもしれませんが、授業は学生のレベル・興味・関心に合わせたため、教員と学生が出会う前に授業の内容を決めることは避けたいことである。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180711>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(総科(人文・社創・総理 A))

吉田 文美 准教授
1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 映画を取り上げたテキストを用いて、現実英語を使う際に必要なリスニング力を要請するためのトレーニングをおこなう。また、日常的に必要な語彙、基本的なリーディングの力も身につける。

【授業の概要】 William Wyler 監督, Audrey Hepburn, Gregory Peck 主演の映画 Roman Holiday (1953) を用いて、リスニングの訓練を行う。また、日常的に必要な語彙の導入、基本的な読解力の養成も行う。学期中に2度のリスニング中心のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句に関する小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 Cinema English, Listening Comprehension

【到達目標】 映画を通じて、日常的に使える会話表現、語彙などを習得し、現実英会話を行う際に必要なリスニングの力を身につける。

【授業の計画】 1. Class Guidance 2. Unit 1 She Gets a Royal Welcome 3. Unit 2 Where Do You Live? 4. Unit 3 Is This the Elevator? 5. Unit 4 Is This the Princess? 6. Unit 5 So I've Spent the Night Here with You? 7. Unit 6 It's Just What I Wanted 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday 10. Unit 8 The Mouth of Truth 11. Unit 9 Hit Him Again, Smitty! 12.

Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbye 13. Unit 11 Is That a Shot, Joe? 14. Unit 12 By All Means, Rome 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Review

【教科書】 Mayumi Hamada/Hiromi Akimoto, Roman Holiday: Shining and Natural English (Macmillan Cinema English Classic). Macmillan Languagehouse, 2009. ¥2,625 (tax included: with Class/ Self-Study DVD)

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に試験を2回おこなう他に、授業中に各Unitの小テストも実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly mini-tests (30%)。

【再試験の有無】 出席率2/3以上、小テストの平均点が60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者へのメッセージ】 1) 毎回小テスト(単語・慣用句)が行われるので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。また、試験は2回行われるので、その実施日に注意して下さい。2) 同じ教員が担当する以下の時間帯の主題別英語は、同じ内容です(前期火曜1-2, 後期水曜5-6, 後期木曜1-2)。重複履修はしないように。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180703>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 (医))
山森 直人・准教授/鳴門教育大学
1 単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 社会のさまざまな場において英語を通して情報を得たり、人と交流する機会が確実に増えてきている。英語でコミュニケーションができるようになれば、多様な言語や文化背景をもつ人々とのネットワークが広がり、新しい世界や新しい自分と出会う機会が芽生えていく。英語技能の獲得は確実に自分自身の将来の可能性を広げてくれる。そのためにもまずは「メッセージを理解する」ことをコミュニケーションの基本と考え、本授業の主題としたい。そこで、本授業は、受講生の英語理解力(とくに聴解力)を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英語の聴解力を養うためのトレーニングを中心に授業を進める。

【キーワード】 英語, 理解力, リスニング, 聴解力

【到達目標】

1. 受講生各人の到達目標は第1回授業での実力試験の結果に基づき設定する。
2. 英語聴解のためのトレーニングを習慣化する。

【授業の計画】 1. オリエンテーション & 実力試験 2. 実力試験の結果と学習方法に関する講義 3. 英語聴解トレーニング1 4. 英語聴解トレーニング2 5. 英語聴解トレーニング3 6. 英語聴解トレーニング4 7. 英語聴解トレーニング5 8. 中間試験 9. 英語聴解トレーニング6 10. 英語聴解トレーニング7 11. 英語聴解トレーニング8 12. 英語聴解トレーニング9 13. 英語聴解トレーニング10 14. トレーニングのまとめ 15. 最終試験 16. 総括授業

【教科書】 國弘正雄・千田潤一(監修)『英会話・ぜったい音読 続・標準編』講談社 1,260円

【成績評価の方法】 中間試験(35%), 最終試験(35%), 小レポート(20%), 受講姿勢(10%)をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講生には授業において実施するトレーニングを授業外でも継続的に行い、習慣化することを期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180702>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 山森直人 鳴門教育大学 (オフィスアワー: E-mail: yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 (医))
未定/@.affiliation
1 単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の概要】 未定

【受講者へのメッセージ】 シラバスは後期授業開始前に全学共通教育掲示板で掲示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185601>

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 (医))
マコーマック ポーリン・非常勤講師
1 単位 後期 金 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 The purpose of this course is to provide a chance for learners to develop their communication skills.

【授業の概要】 The text is said to have a TOEIC level between 500-600. It includes a DVD with segments taken from a popular NHK BS program which contains authentic interviews and reports.

【到達目標】 By the end of this course, learners will have had numerous opportunities to improve their comprehension of authentic language.

【授業の計画】 1. Mothers, Single by Choice 2. Fragrance by Design 3. Fashionably Green 4. Super Dad 5. Inventive New Toys 6. Relaxing with Yoga 7. Healing with Balloons 8. Good Trash 9. Pet Rescue 10. Saving Art from the Big Spenders 11. Tasty Business 12. Musical Impact 13. Flea Market, Brooklyn Style 14. Fighting Global Warming 15. Final Test 16. Review

【教科書】 NEW YORK STREETS, Tsuyoshi Kanamori, Braven Smillie

【成績評価の方法】 10% attendance, 40% class participation, 50% final exam

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 This is an Thematic English class. Text based with DVD.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180686>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マコーマック

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 (医))
早内-プリングルジュディス・非常勤講師
1 単位 後期 金 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammar ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class, but also outside. There will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of the class or other factors.

【キーワード】 Thematic English, fluency

【到達目標】 Students will develop confidence in their English skills and gain more experience using general English while speaking about different themes.

【授業の計画】 1. General Class Guidance 2. Theme 1: Textbook Unit 1: ME: Discussing personal information: names and cultural influences 3. Theme 1: Social taboos and changing trends in society: Reading, discussion, interview 4. Theme 2: Textbook Unit 2: PLACE: Talking about places in your country and products from different countries 5. Theme 2: Japan on the world stage: Reading, discussion, mini-presentation 6. Theme 3: Textbook Unit 4: FIT: Discussing sports, fitness, attitudes towards sports and health. 7. Theme 3: Health Issues: Reading, discussion, mini-presentation 8. Mid-term Evaluation (test and interview/presentation) 9. Theme 4: Textbook Unit 7: JOB: Work Experience: Discussing jobs and experiences 10. Theme 4: The changing workplace in Japan: reading, discussion, mini-presentation 11. Theme 5: Textbook Unit 8: RICH: Discussing money, music, future plans 12. Theme 5: The Future: Future effects of current new topic: reading, discussion, interview 13. Theme 6: Textbook Unit 9: RULES: Discussing education and dating 14. Theme 6: Obligations and Prohibitions reading, discussion, interview 15. Final Evaluation (test and interview/presentation) 16. Review

【教科書】 Peter Maggs, Sue Kay, Vaughan Jones & Philip Kerr. Inside English: Low Intermediate Student Book. Macmillan Languagehouse. ISBN4-89585-474-4

【成績評価の方法】 The Mid-term and Final evaluations are an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important.

Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (60%), Mid-term and Final Evaluation (40%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【受講者へのメッセージ】 Make the most of all opportunities to expand your horizons, and especially when communicating in another language.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180684>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル . (オフィスアワー: juditheph@yahoo.com Please contact me via e-mail when consultation is necessary.)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(医 (栄 2))

宮崎 隆義 教授

1 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 外国語の理解と習得は、今や国際的な交流や相互の理解に不可欠なことは言うまでもないが、言葉は単なるコミュニケーションのための道具ではない。言葉は、それを使う人々の考え方や文化の基礎を成すものであって、言葉を理解することは、その言葉を使う人々が、外界の事象をどのように捉えているかを理解することであり、その人々の考え方や文化を理解することに通ずる。これまでの力を確認しつつ、大学において必要な英語の力をつけることを目的とするが、同時に英語という言葉をもじっくりと味わうことによって、英語を使う人々の考え方やその文化も理解したい。

【授業の概要】 大学における英語力習得の基盤を踏まえ、さらに自主的にその力を発展させることができるように、主題という観点から多様なトピックに目を向ける。また TOEIC 等の資格試験にも役立つ学習を交えつつ、英語の構造を確認しながら、英語の力をさらに総合的に高める。

【キーワード】 総合英語、リーディング、ライティング、リスニング

【到達目標】

1. 英語の構造を概括的に理解する。
2. 英語の 4 技能を伸ばすべくふさわしい主題を見つける。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Unit 1 Sources of Happiness 3. Unit 2 Thin Is Not In 4. Unit 3 Plants as a Source of Health 5. Unit 4 The Path to a Healthy Lifestyle 6. Unit 5 Keep the Grain Young 7. Unit 6 Friendship Is Good for Older People 8. Unit 7 Love Yourself 9. Unit 8 Emotional Intelligence: The Key to Success 10. Unit 9 Another Threat of Infectious Disease 11. Unit 10 The Power of the Story 12. Unit 11 The Value of Touch 13. Unit 12 What Will You Do for the Earth? 14. Unit 13 We All Have Two Hands 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 園城寺康子, 他. 『今日の社会と健康』. 南雲堂, 1700 円.

【参考書等】 参考書等については適宜紹介し、他にプリント等も用意する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、小テスト、期末試験の結果等を総合的に判断し単位認定の評価とする。

【再試験の有無】 有り

【受講者へのメッセージ】 日々の積み重ねを重視してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180714>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(医 (栄))

山田 紀美 非常勤講師

1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 食べ物、IT、微生物、人体、健康などの科学に関する英文を読み、関連のリスニング、作文など、総合的に学ぶ。また、食物や医療に関するビデオも視聴する。

【授業の概要】 各ユニットは、語彙、本文、内容把握のための正誤問題、リスニング問題、作文、関連活動で構成されており、予習を前提に毎回できるだけ全員が発言する機会を設ける。また、教科書以外に、食物や医療に関するビデオも視聴し、多角的に英語の運用能力を高める。

【到達目標】 科学に関する英語に親しみ、読んだり聞いたりして理解できるようにすることを目標とする。

【授業の計画】 1. Health Benefits of Eating Fish 魚と脂肪酸 2. Red Wine-the Magic Liquid 赤ワインの秘密 3. Mad Cow Disease in Japan 隠されていた狂牛病 4. Safe Driving through Technology 酔っぱらい運転よさようなら 5. *Nutrition 6. Sleeping and Dreaming 眠りのメカニズム 7. Do You Have the Time? 体内時計はどこにあ

る 8. *Vitamins and Supplement 9. Temperature at Birth 温度と性別 10. Myopia 近視の原因見つけたり 11. Blow and Grow Sick 鼻をかむと風邪が長引く 12. Under Pressure 成績不振は気圧のせい? 13. New Fuel for Rockets 人糞でロケットを飛ばす 14. *Laughter as Medicine 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 Science Makes Life Exciting おもしろサイエンス. 著者:小堂俊孝 永田博人. 発行:成美堂. 『授業の計画』の*印は、ビデオで、資料を配布する

【成績評価の方法】 授業への取り組み、定期試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中できるだけ多くの人に答えてもらうので、予習復習をしてきて下さい。質問などの発言は積極的に。なお、便宜上、シラバスに番号順に列挙してあるが、学生の震度や関心度に応じて各課の順番は変更する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180699>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 . (オフィスアワー: 山田(meyamada@mb3.tcn.ne.jp) 学科氏名をタイトルに入れて送って下さい。)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(医 (保 A))

西山 高子 非常勤講師

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語リスニング能力を養うことを中心に、言語と文化にかかわる知識や理解を深め、英語の力を総合的に向上することを目的とする。

【授業の概要】 リスニング練習を中心に、リーディング練習やボキャブラリー学習など英語技能の向上に必要な項目を学習する。また、教科書以外の教材を用いて様々な英語に慣れ親しみ実践能力を養う。

【キーワード】 音声変化、ストレス、リズム、イントネーション、フレーズリスニング

【到達目標】 リスニング能力を向上させるコツを習得し、英語の力を総合的に高める。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. American Traditions 1: Family Traditions 3. American Traditions 2: American Holidays 4. Relativism: Language shapes the way people view the world 5. First Language Acquisition and Chomsky's Theory 6. Vocabulary Learning 7. Media Literacy 8. Literary Imagination 9. Poetry 10. Onomatopoeia in Alice 11. What is "Postcolonial"? 12. Orientalism 13. What is Marae?: Indigenous Culture in New Zealand 14. Okinawa: Societal Bilingualism and Ryuka 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 "ACADEMIC TOPICS FOR LISTENING PRACTICE" 渡部真一郎・木村茂雄・ジェリーヨコタ編 大阪大学出版会

【成績評価の方法】 小テスト、学期末試験、演習参加状況等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 外国語の習得には、授業だけでは不十分であり自主的な継続が必要です。あらゆる機会を通じて英語の音やリズムに慣れ親しんでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180680>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山 . (オフィスアワー: オフィスアワー: 授業の前後)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(医 (保 B))

小野原 信善 非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英文を確実に音読しながら、言語と文化の関係を探る。

【授業の概要】 全員で音読をした後英文を訳し、内容について討論をする。そうする中で、世界の語文化に触れ、我が日本と日本人の文化、アイデンティティ等について考える。

【キーワード】 文化、多様性、アイデンティティ

【到達目標】 格調高い英文を読み、高度の英語力を養いつつ、外国人の価値観や信念形成の仕方を学ぶと共にわれわれ自身のアイデンティティ形成の仕方を探る。

【授業の計画】 1. 文化の疑念 2. アイデンティティ 3. 文化の多様性 4. 価値観 5. 信念

【教科書】 Beneath the Surface (Seibido) Paul Stapleton 著

【参考書等】 小野原信善・大原始子編著 (2004) 『ことばとアイデンティティ』三元社

【成績評価の方法】 学期末試験，平素の授業への取り組み状態，出席状況等を，総合的に判断する。

【再試験の有無】 無 (平常の授業を重んじるため)

【受講者へのメッセージ】 日頃の授業で積極的に発言して欲しい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180671>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小野原 . (オフィスアワー: 火曜日の昼休み 非常勤講師控室)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 (保 C))

石田 メグ・非常勤講師
1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English

【授業の計画】 1. OUTLINE 2. I think I'd like that job 3. What's playing 4. What are you going to do? 5. How much is this? 6. How was it? 7. How do you make it?

【教科書】 No textbook is needed, but you do need a dictionary. Handouts will be provided.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in class. Be present and participate. The contents of this class may change according to the level of the students who are participating.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180662>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 ((放)2))

米原 晶子・非常勤講師
1 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 DVD を素材にして自然なスピードの英語の聞き取りに慣れること，また慣用表現を学習することを目的とする。

【授業の概要】 DVD の TV ドラマや映画を視聴する。当該チャプタになるとまず日本語字幕無しで内容を把握する。次にスクリプトの部分的なディクテーションを行ったのち，スクリプトの内容，英語の表現を詳説する。また英語字幕を追いながら速読の練習も行う。原著や，ウェブ，雑誌からの関連記事のコピーを適宜配布して読解する。時間があれば，ニュース英語の読解も行う。

【キーワード】 映画，リスニング，慣用表現

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 家庭，オフィス，学校，裁判など様々な場面での英語表現に習熟する。
3. 社会的，文化的背景についての理解を深める。
4. 自分の意見を英文で表す。

【授業の計画】 1. 授業の説明 2. F.B.Eye (1) 3. F.B.Eye (2) 4. F.B.Eye (3) 5. F.B.Eye (4) 6. F.B.Eye (5) 7. F.B.Eye (6) 8. F.B.Eye (7) 9. Supersize Me(1) 10. Supersize Me(2) 11. Supersize Me(3) 12. Supersize Me(4) 13. Supersize Me(5) 14. Supersize Me(6) 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 プリントを配布する

【成績評価の方法】 学期末試験，予習状況，レポートまたは中間試験などにより総合的に評価する

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 素材がドラマなので楽しく勉強したいと思います。ただし，聞き取りはむずかしいです。普段からラジオ講座等でリスニング力をつけておいて下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180707>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 . (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはメールで)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(医 ((放検)2))

魚崎 典子・非常勤講師 / 全学共通教育センター
1 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め，更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

【授業の概要】 映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み，リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】 1. INTRODUCTION 2. Aunt Marge 3. LEAKY CAULDRON 4. Welcome to Another Year at Hogwarts 5. TRANSFIGURATION AND POTIONS 6. You Could Teach Me 7. The Marauder's Map 8. Shrieking Shack 9. Time-Turner 10. Quidditch World Cup 11. The Triwizard Tournament 12. The Champion Selection 13. Horntail 14. Harry Vs. Horntail 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト，レポート，学期末試験，授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は，授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること！

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180668>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(歯 (歯口))

米原 晶子・非常勤講師
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 DVD を素材にして自然なスピードの英語の聞き取りに慣れること，また慣用表現を学習することを目的とする。

【授業の概要】 DVD の TV ドラマやドキュメンタリを視聴する。当該チャプタになるとまず日本語字幕無しで内容を把握する。次にスクリプトの部分的なディクテーションを行ったのち，スクリプトの内容，英語表現を詳説する。また英語字幕を追いながら速読を行う。原書やウェブ，雑誌からの関連記事のコピーを適宜配布して読解をする。あわせてニュース英語の読解も行う。

【キーワード】 ドラマ，リスニング，慣用表現

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 家庭，オフィス，学校，裁判など様々な場面での英語表現に習熟する。
3. 社会的，文化的背景についての理解を深める。

【授業の計画】 1. 授業の説明 2. F.B.Eye (1) 3. F.B.Eye (2) 4. F.B.Eye (3) 5. F.B.Eye (4) 6. F.B.Eye (5) 7. F.B.Eye (6) 8. F.B.Eye (7) 9. Supersize Me (1) 10. Supersize Me (2) 11. Supersize Me (3) 12. Supersize Me (4) 13. Supersize Me (5) 14. Supersize Me (6) 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 プリントを配付する。

【参考書等】 プリントを配布する

【成績評価の方法】 予習状況，期末試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 素材がドラマなので楽しく学習したいと思います。ただし聞き取りは難しいです。普段からラジオ講座等でリスニング力をつけておいてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180705>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 . (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはメールで)

英語 (English)
主題別英語 (歯 (歯口))
Thematic English 森岡 芳洋 教授
 1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 基盤英語をふまえて、英語運用能力の諸側面をさらに伸ばすことを目的とする。

【授業の概要】 海外から見た日本について英語で書かれた各話題のもとに提供される文章を材料に、英問英答、語の使用、英文聞き取り、英文作成等の力を高めるための練習問題を解いていく演習を重ねることにより、目標の達成をめざす。

【キーワード】 海外から見た日本、英問英答、語の活用、聞き取り、英文作成

【到達目標】 英語運用能力の幅を広げ高める。

【授業の計画】 1. 導入 2. Manga Spreads: Enthusiasm and Skepticism 3. The World's Fixation on Pop Culture 4. Popular Japanese Food: Traditional or Reformed 5. Cultural Exchange Brings Change in Sereotypical Ways of Thinking 6. Unexpected Praise from the World 7. Strategy Necessary for Involvement with the Middle East 8. "Virtue, Where Ditt It All Go?" Laments One Nikkei 9. The Decline in Unity Among the Nikkei 10. World's Glance Calmer than Ever 11. Solid Support for Research Abroad 12. AFN broadcasts Convey "Real English" (1) 13. AFN broadcasts Convey "Real English" (2) 14. Blue Jeans Zip UP Japan-U.S. Relations (1) 15. Blue Jeans Zip UP Japan-U.S. Relations (2) 16. 総括

【教科書】 読売新聞社 (著) Japan's Image Overseas (2009) 群青インターナショナル 1,700 円+税

【成績評価の方法】 演習への参加と学期末試験とで総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180695>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森岡芳洋 総合科学部1号館中棟3階 088-656-7122 morioka@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 木曜日 12:50~ 14:20)

英語 (English)
主題別英語 (薬 (薬 A))
Thematic English ギュンター ティルク 非常勤講師
 1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語、コミュニケーション、外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Getting To Know You" 3. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 1" 4. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 2" 5. 単語ミニテスト "Seeking A Job 1" 6. 単語ミニテスト "Seeking A Job 2" 7. 単語ミニテスト "Describing Situations 1" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1" 10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Describing Situations 2" 12. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 13. 単語ミニテスト "Living Abroad" 14. 単語ミニテスト "Writing A Story" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション、(カ) 出席。単位取得のためには (ア)~(カ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英語は "ただの勉強しなければならない事" ではなく、言葉通り "世界への扉" です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180674>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター . (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
主題別英語 (薬 (薬 B))
Thematic English 井上 永幸 教授
 1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 日常生活を乗り切るためのサバイバル英語の習得を目指す。聞き取り能力の向上を中心に、基本的な語彙・コロケーションを学習してゆき、合わせて英米の文化に対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】 (1) 前回の授業内容の小テストを行う。(2) 指定のテキストを使って、日常英語の基本的語彙やコロケーションの学習を行う。〔予習が必要〕 (3) 指定の教科書を使って、聞き取りの際に注意すべき点を確認し、聞き取り能力の向上を図る。(4) 授業の終わりに、その日の学習事項に関する確認テストを行う。

【到達目標】 日常生活を乗り切るための英語や英米の文化に対する理解を深める。

【授業の計画】 1. 授業概要説明 2. 聞き取り (1) 3. 聞き取り (2) 4. 聞き取り (3) 5. 聞き取り (4) 6. 聞き取り (5) 7. 聞き取り (6) 8. 聞き取り (7) 9. 聞き取り (8) 10. 聞き取り (9) 11. 聞き取り (10) 12. 聞き取り (11) 13. 聞き取り (12) 14. 聞き取り (13) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 未定

【参考書等】 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版、三省堂。

【成績評価の方法】 試験、予習状況、小テスト、確認テストなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 必ず予習をしてこよう。また、授業には辞書を持参すること。電子辞書ではなく紙の辞書を強く薦める。コンサイス版やポケット版の辞書は不可。

【WEB 頁】 <http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185562>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井上 (2302, 088-656-7125, inoue@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 14:35-16:05 井上研究室 (総合科学部 1 号館 3 階))

英語 (English)
主題別英語 (工 (建 A))
Thematic English バトリック ジェフ 非常勤講師
 1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 トラベル英会話を勉強します。飛行機に乗る時から帰国するまで普通の体験を味わうための英語を練習します。

【授業の概要】 話題: 丁寧な頼み方と断り方・自己紹介・為替・ホテルの予約・方向の尋ね方・助けの求め方・病気・招待・レストラン・家族・料理・意見の聞き方・計画・バス・買い物 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。

【到達目標】

1. 通訳なしに旅行ができる。
2. 毎週、短い作文を書き (宿題)、英作文に慣れる。

【授業の計画】 1. 講義: 丁寧な頼み方と断り方 2. 講義: 自己紹介 3. 講義: 為替 4. 講義: ホテルの予約 5. 講義: 方向の尋ね方 6. 講義: 助けの求め方 7. 講義: 病気 8. 講義: 招待 9. 講義: レストラン 10. 講義: 家族 11. 講義: 料理 12. 講義: 意見の聞き方 13. 講義: 計画 14. 講義: バス 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名: Passport 著者: Angela Buckingham & Norman Whitney 出版社: Oxford University Press

【成績評価の方法】 作文・授業態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 しっかり予習復習をして旅行英語を習得しましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180683>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ バトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)
主題別英語 (工 (建 B))
Thematic English 吉田 文美 准教授
 1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 映画を取り上げたテキストを用いて、現実に英語を使う際に必要なリスニング力を要請するためのトレーニングをおこなう。また、日常的に必要な語彙、基本的なリーディングの力を身につける。

【授業の概要】 William Wyler 監督, Audrey Hepburn, Gregory Peck 主演の映画 Roman Holiday (1953) を用いて、リスニングの訓練を行う。また、日常的に必要な語彙の導入、基本的な読解力の養成も行う。学期中に2度のリスニング中心のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句に関する小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 Cinema English, Listening Comprehension

【到達目標】 映画を通じて、日常的に使える会話表現、語彙などを習得し、現実に英会話を行う際に必要なリスニングの力を身につける。

【授業の計画】 1. Class Guidance 2. Unit 1 She Gets a Royal Welcome 3. Unit 2 Where Do You Live? 4. Unit 3 Is This the Elevator? 5. Unit 4 Is This the Princess? 6. Unit 5 So I've Spent the Night Here with You? 7. Unit 6 It's Just What I Wanted 8. Mid-term Test (Unit 1-6) 9. Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday 10. Unit 8 The Mouth of Truth 11. Unit 9 Hit Him Again, Smitty! 12. Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbye 13. Unit 11 Is That a Shot, Joe? 14. Unit 12 By All Means, Rome 15. Final Test (Unit 7-12) 16. Test Review

【教科書】 Mayumi Hamada/Hiromi Akimoto, Roman Holiday: Shining and Natural English (Macmillan Cinema English Classic), Macmillan Languagehouse, 2009. ¥2,625 (tax included: with Class/ Self-Study DVD)

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 学期中に試験を2回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (70%), Weekly short tests (30%)。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者のメッセージ】 1) 毎回小テスト(単語・慣用句)が行われるので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。また、試験は2回行われるので、その実施日に注意して下さい。2) 同じ教員が担当する以下の時間帯の主題別英語は、同じ内容です(前期火曜 1-2, 後期水曜 5-6, 後期木曜 1-2)。重複履修はしないように。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180688>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 吉田 (2121, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英語 (English)
主題別英語
Thematic English

(工 (機 A)2)
樋口友乃・准教授
1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 映画を通して英米の文化に対する理解を深めながら、基礎的な語彙や表現を習得し、同時にリスニング・リーディング能力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 映画の視聴と、映画に関連する文章の聞き取りや読解演習を通して幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める

【授業の計画】 1. Unit 1 2. Unit 2 3. Unit 3 4. Unit 4 5. 小テスト (1) 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. 小テスト (2) 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Action!—Great scenes from Unforgettable Films—』(南雲堂)

【成績評価の方法】 成績は期末試験、および授業への取り組み状況(小テストや出席状況などを含む)にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185641>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
主題別英語
Thematic English

(工 (機 B))
樋口友乃・准教授
1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 映画を通して英米の文化に対する理解を深めながら、基礎的な語彙や表現を習得し、同時にリスニング・リーディング能力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 映画の視聴と、映画に関連する文章の聞き取りや読解演習を通して幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める

【授業の計画】 1. Unit 1 2. Unit 2 3. Unit 3 4. Unit 4 5. 小テスト (1) 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. 小テスト (2) 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Action!—Great scenes from Unforgettable Films—』(南雲堂)

【成績評価の方法】 成績は期末試験、および授業への取り組み状況(小テストや出席状況などを含む)にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185643>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
主題別英語
Thematic English

(工 (機 B)2)
米原 晶子・非常勤講師
1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 DVD を素材にして自然なスピードの英語の聞き取りに慣れること、また慣用表現を学習することを目的とする。

【授業の概要】 DVD を視聴しながらテキストに沿って、リスニング、単語の学習、内容理解、時代背景の説明などを行う。授業の初めには、その時に報じられている内外のニュース英語の読解も行う。

【キーワード】 ドラマ, リスニング, 慣用表現

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 様々な場面での英語表現に習熟する。
3. 社会的、文化的背景についての理解を深める

【授業の計画】 1. 授業の説明 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. Discussion 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 穂本浩美他『American History in Focus』(2005) マクミランランゲージハウス 2100 円

英語 (English)
主題別英語
Thematic English

(工 (機 A))
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

【授業の概要】 映画『HARRY POTTER』シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】 1. INTRODUCTION 2. Aunt Marge 3. LEAKY CAULDRON 4. Welcome to Another Year at Hogwarts 5. Boggart & Hogsmeads Days 6. You Could Teach Me 7. The Marauder's Map 8. Shrieking Shack 9. Time-Turner 10. Quidditch World Cup 11. The Triwizard Tournament 12. The Champion Selection 13. Horntail 14. Harry Vs. Horntail 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185565>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 魚崎 (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

【成績評価の方法】 予習状況、期末試験、レポートまたは中間試験により総合的に評価する。
 【再試験の有無】 有
 【受講者へのメッセージ】 素材がドラマなので楽しく学習したいと思います。普段からラジオ講座等でリスニング力をつけておいてください。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180706>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 米原 (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはメールで)

英語 (English)
主題別英語 (工 (機 C))
Thematic English 宮田 政徳・准教授 / 大学開放実践センター
 1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
 【授業の目的】 国際語としての英語の実用的運用能力をつけるために、TOEIC (=Test of English for International Communication) 受験対策することを目的とする。
 【授業の概要】 TOEIC 試験問題をテーマ別に扱い、そのテーマに関連する語彙を覚えながら、文法事項も項目別に確認し、リスニング問題とリーディング問題を通して解答を探して行く。
 【キーワード】 トーイック試験
 【到達目標】
 1. TOEIC に出てくる日常会話とビジネス関係の語彙が理解できる。
 2. TOEIC に出てくる文法事項が理解できる。
 3. TOEIC のリスニング、リーディング問題に正しく解答できる。
 【授業の計画】 1. イントロダクション+Pre-Test 2. Unit 1: 予定 3. Unit 2: 数量を尋ねる 4. Unit 3: 命令 5. Unit 4: 広告・宣伝 6. Unit 5: 時間を尋ねる 7. Unit 6: 場所を尋ねる 8. Unit 7: 確認 9. Unit 8: 説明 10. Unit 9: アドバイス 11. Unit 10: 誘い 12. Unit 11: 申し出 13. Unit 12: 講演者紹介 14. Post-Test 15. 期末試験 16. 期末試験の振り返り
 【教科書】 トーイックテスト 470; ジョージ・パイファー (センゲージラーニング, 2007 年, 2100 円)
 【成績評価の方法】 学期末試験 (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有
 【受講者へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回必ず出席すること。またテキストの問題は必ず予習して解答して来ること。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180693>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ miyata@cue.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 16時10分~17時00分 宮田研究室 (大学開放実践センター3F))

英語 (English)
主題別英語 (工 ((機 C)2))
Thematic English 山内 昉彦・准教授
 1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
 【授業の目的】 英語のニュースを聞いてその内容をおおむね理解できるようになることを目指す。
 【授業の概要】 ビデオ教材を用いて BBC の英語ニュースを視聴し、その内容を把握する訓練をする。毎回の授業ではニュースを 1 編ずつ取り上げる。授業を通じて、英語を聞き取る力をつけるとともに、現代社会のさまざまな事象に触れる。更に、付属の自習用 CD でオーセンティックな英語に慣れる。
 【キーワード】 ニュース英語
 【到達目標】 1. 英語のニュースを自然な速さのまま聞いてその内容を自分なりに理解できるようになることを目指す。
 【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Unit 2. University Students Are Cheating Using the Internet(インターネットの不正利用の話題) その 1 3. Unit 2. その 2 4. Unit 3. Schools Could be Allowed to Ban Veils(イスラムの服装の話題) その 1 5. Unit 3. その 2 6. Unit 4. May Day Celebrations at Oxford(学生のお祭り騒ぎの話題) その 1 7. Unit 4. その 2 8. 中間テスト 9. Unit 5. Traffic Wardens Get Video Cameras(監視社会の話題) その 1 10. Unit 5. その 2 11. Unit 6. Folic Acid to be Added to Bread(サプリメントの話題) その 1 12. Unit 6. その 2 13. Unit 7. Rise in Numbers of Animals Rescued by the RSPCA(ペットの話題) その 1 14. Unit 7. その 2 15. 後期試験 16. 総括授業
 【教科書】 小野田 榮, Lucy Cooker 編 『BBC Understanding the News in English 5』金星堂 2008 年 2,100 円
 【成績評価の方法】 後期試験 (60%), 中間テスト (30%) および平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有
 【受講者へのメッセージ】 教科書の付属 CD でよく予習をしてくること。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180716>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

英語 (English)
主題別英語 (工 (化 A))
Thematic English 石田 和枝・非常勤講師
 1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
 【授業の目的】 リスニングを通して、英語の基礎を学ぶ。
 【授業の概要】 平易な英語で書かれたテキストをリスニング教材として用いる。授業では活字を追うことはせず、専ら耳で聴いて 100%理解できるように訓練する。
 【キーワード】 リスニング
 【到達目標】 簡単な英語を聞いて理解し、自由に使いこなせるようになること。
 【授業の計画】 初回の授業時に後期分の詳しい講義計画書を配布する。授業はその計画書に沿って進められていくので、学生にはそれに合わせて予習・復習することが求められる。7 週目には中間試験をする予定である。
 【教科書】 初回の授業時に指示をする。
 【成績評価の方法】 中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢
 【再試験の有無】 原則的に無し
 【受講者へのメッセージ】 3 分の 1 欠席すると再受講となりますから各自注意してください。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180660>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 石田 (オフィスアワー: 初回の授業時に指示をする。)

英語 (English)
主題別英語 (工 (化 B))
Thematic English 山田 仁子・准教授
 1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)
 【授業の目的】 英文を読み取る力をつけること、英語文化で重要な韻に馴染むことを目指す。英語を聞き取る力の向上も目的とする。
 【授業の概要】 やさしい英語で書かれた洋書を読む。英語を読む楽しさを覚えて欲しい。更に、朗読された音声教材を聞く事で、聞き取る練習も行う。テキストの英語は韻文で書かれており、内容は、『シンデレラ』など誰もが知っているような昔話を大胆に書き換えたものである。ここで用いられる脚韻 (行の最後に同じ音が繰り返される) が、昔も今も多くの場面で用いられていることを、適宜プリントを交えて見て行く。
 【キーワード】 Rapid Reading, Listening Comprehension
 【到達目標】
 1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
 2. 英語の文化で重要な韻について学ぶ
 3. 英語を聞き取る力も高める。
 【授業の計画】 1. イントロダクション 2. テキストとする洋書を 5 ページずつ読む。 3. テキストを 5 ページ読む。 4. テキストを 5 ページ読む。 5. テキストを 5 ページ読む。 6. テキストを 5 ページ読む。 7. 韻を用いた例をプリントで学ぶ。 8. 中間試験 9. テキストを 5 ページ読む。 10. テキストを 5 ページ読む。 11. テキストを 5 ページ読む。 12. テキストを 5 ページ読む。 13. テキストを 5 ページ読む。 14. 韻を用いた例をプリントで学ぶ。 15. 期末試験 16. 総括授業
 【教科書】 Dahl, R. Revolting Rhymes (Puffin Books)
 【成績評価の方法】 中間テスト、最終テスト、授業への参加する態度などから、総合的に評価する。
 【再試験の有無】 なし。
 【受講者へのメッセージ】 単語を、発音も意味も調べるという予習を必ずすること。予習も成績に反映されます。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185652>
 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 9:30~10:30)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(工 (生 A)2)

山田 紀美・非常勤講師

1 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 健康科学, 環境科学, 機械や工学技術, 宇宙科学, 自然科学に関する最新的话题を読み, 読解, リスニングを含め総合的に英語力を高める。

【授業の概要】 各ユニットは, 三部構成で, 1. Tips for Aggressive Reading では, 様々な速読のテクニックや注意点を紹介して, 練習し, 2. Reading では, 語彙, 内容把握, リスニングなどの練習問題を通して, 英文の理解を深め, 3. Grammar Focus で, 更に内容を確認する。

【キーワード】 科学技術

【到達目標】 科学的な英語を聞いて読んで理解できるようにする。

【授業の計画】 1. Genetic Doping 遺伝子ドーピング 2. Ethics in Science 科学における倫理 3. Stem Cell Research 幹細胞研究 4. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming 津波, ハリケーン, 温暖化 5. Starvation, Famine, and Hunger 飢餓, 飢饉 6. Nanotechnology ナノテクノロジー 7. Efficient Cars: Hybrids, New Fuels 未来の車-ハイブリッドと代替燃料 8. Cyborgs サイボーグ 9. Comets, Meteors, and Asteroids 彗星, 流星, 小惑星 10. Space Stations and Outer Space Exploration 宇宙ステーションと宇宙探査 11. Life on Other Planets 地球外の生物 12. Arguing against Evolution 進化論争 13. Fixing Nature; 自然の再生 14. Remaking the Face of the Earth 地表の再生 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 Imagining Tomorrow—The Future of Science, Society, and Nature 明日を見つめて-科学・社会・自然- 著者: Bruce Allen 発行: 成美堂

【成績評価の方法】 授業への取り組み, 定期試験などにより総合的に評価する

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 できるだけ多くの人に答えてもらうので, 予習復習をしてきてほしい。質問などの発言は積極的にしてもらいたい。なお, 便宜上, シラバスに番号順に列挙してあるが, 学生の進度や, 関心度によって, 各課の順番は変更する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180698>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 (オフィスアワー: 山田(meyamada@mb3.tcn.ne.jp) 学科, 氏名をタイトルにつけて書いて送って下さい。)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(工 (生 A))

ギンターディルク・非常勤講師

1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し, 日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Getting To Know You" 3. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 1" 4. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 2" 5. 単語ミニテスト "Seeking A Job 1" 6. 単語ミニテスト "Seeking A Job 2" 7. 単語ミニテスト "Describing Situations 1" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1" 10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Describing Situations 2" 12. 単語ミニテスト "歌の聞き取り" 13. 単語ミニテスト "Living Abroad" 14. 単語ミニテスト "Writing A Story" 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには (ア)~(カ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。 (ア~カ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は "ただの勉強しなければならない事" ではなく, 言葉通り "世界への扉" です。授業によく参加して, 遠慮せずに身に付けた英語を使ったら, その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180675>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと (または, 希望により他の時間にも))

【備考】 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(工 ((生 B)2))

上野 加代子 教授

1 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 ドラマや映画で英語を学ぶ。

【授業の概要】ハリウッド映画やドラマ番組でリスニング力を向上させ, 役に立つ英語表現を学ぶ。毎週の授業のはじめに小テストを行う。

【キーワード】 映画

【到達目標】 英語学習への意欲が高まる

【授業の計画】 1. 授業の説明 2. 映画・ドラマ視聴 3. 映画・ドラマ視聴 4. 映画・ドラマ視聴 5. 映画・ドラマ視聴 6. 映画・ドラマ視聴 7. 映画・ドラマ視聴 8. 映画・ドラマ視聴 9. 映画・ドラマ視聴 10. 映画・ドラマ視聴 11. 映画・ドラマ視聴 12. 映画・ドラマ視聴 13. 映画・ドラマ視聴 14. 映画・ドラマ視聴 15. 学期末試験 16. 総括授業

【教科書】 指定しない

【成績評価の方法】 小テスト (2 回), 学期末試験, 授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 学期末試験は, 授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180665>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 11時50分~ 12時50分)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(工 (生 B))

マコーマック ポーリン・非常勤講師

1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this course is to provide a chance for learners to develop their communication skills.

【授業の概要】 The text is said to have a TOEIC level between 500-600. It includes a DVD with segments taken from a popular NHK BS program which contains authentic interviews and reports.

【到達目標】 By the end of this course, learners will have had numerous opportunities to improve their comprehension of authentic language.

【授業の計画】 1. Mothers, Single by Choice 2. Fragrance by Design 3. Fashionably Green 4. Super Dad 5. Inventive New Toys 6. Relaxing with Yoga 7. Healing with Balloons 8. Good Trash 9. Pet Rescue 10. Saving Art from the Big Spenders 11. Tasty Business 12. Musical Impact 13. Flea Market, Brooklyn Style 14. Fighting Global Warming 15. Final Test 16. Review

【教科書】 NEW YORK STREETS, Tsuyoshi Kanamori, Braven Smillie

【成績評価の方法】 10% attendance, 40% class participation, 50% final exam

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances

【受講へのメッセージ】 This is an Thematic English class. Text based with DVD

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180687>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ マコーマック

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(工 ((電 A)2))

三宅 恵美・非常勤講師

1 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 TOEIC のスコアを伸ばすための基礎力および応用力をつけることを目的とする; TOEIC は現在, 多くの企業で, 新入社員のリベラチェック, 社内語学研修, 配属, 海外出張, 駐在, 昇進など様々な場面で活用されており, 採用, 配属 (グローバル化に伴い, 海外部門以外でも英語力を必要とされ, 評価される場面は非常に多い), 昇進時に必須となるスキルである。また, TOEIC 学習は文法事項やリスニングのポイントなど項目にしごった学習が可能なので, 自分の弱点を

探ったり、その学習項目に絞った効果的な学習が可能である。さらに、学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。

【授業の概要】 1. 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて自分のレベルを確認する。実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。2. DVD など視覚、聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつける。3. 通訳訓練法を取り入れた練習などでバリエーションをつけたりしながら幅広い学習を行う。

【到達目標】 TOEIC500 点をまずは確実に取得することを目標とする。また試験のテクニックや知識のみならず、英語の実用力をつけることで 500~600 点を指す。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】 1. TOEIC とはなにか 2. プリテスト 3. 動詞・五文型 4. 名詞 5. 形容詞・副詞 6. フレーズリーディング 7. 動名詞 8. TO 不定詞 9. 分詞 10. スキャンニング 11. 受動態 12. 比較 13. 関係詞 14. ポストテスト 15. 定期試験 16. 総括

【教科書】 TOEIC Test Trainer Target 470, センゲージラーニング (2,100 円), その他の資料は配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%, 小テスト, 課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180691>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三宅 (オフィスアワー: 授業開始後に連絡方法をお知らせします)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (電 A))

数下 克彦 教授 / 鳴門教育大学

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 映画を教材に使うことによって、実際の場面で使われる「生きた英語」を体験し、聞くことや話すことなどの「実践的コミュニケーション力」の基礎を養うことを目的とする。

【授業の概要】 まず、最初の 2 回で映画「マトリックス」の全編を視聴しあらすじを把握する。その後の回から、映画の一部分を使って、セリフの聞き取り・内容理解、セリフの書き取り・発話練習などの活動を行う。上記の活動以外に発音 (記号)、文法、文化的背景知識、異文化理解などに関する内容も扱う。

【キーワード】 映画, リスニング, スピーキング, 文化的背景知識, 異文化理解

【到達目標】

1. 英語で聞いたり話したりすることに関しての抵抗感を克服する。
2. いわゆる「カタカナ英語発音」からの脱却。
3. 「日本語と英語の間に一語対一語対応が存在する」という幻想を捨て去り、談話レベルでの解釈・表現を試みる。

【授業の計画】 1. 映画「マトリックス」前半鑑賞 2. 映画「マトリックス」後半鑑賞 3. “Follow The White Rabbit” Part 1 4. “Follow The White Rabbit” Part 2 5. “The Agents” Part 1 6. “The Agents” Part 2 7. “Down the Rabbit Hole” Part 1 8. “Down the Rabbit Hole” Part 2 9. 中間テスト 10. “There is No Spoon” 11. “Déjà Vu” 12. “Heroes Unplugged” 13. “He is the One” 14. まとめ 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 名作映画完全セリフ集 スクリーンプレイ・シリーズ「マトリックス」(ISBN4-89407-242-4), 株式会社スクリーンプレイ, 1, 200 円

【成績評価の方法】 中間テスト, 期末テスト, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業中の使用言語は原則として英語なので、英語を使うことに積極的な態度の人に受講していただきたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180696>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 数下 (yabuchan@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail: yabuchan@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 ((電 B2))

田中 孝雄 教授 / 四国大学

1 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 ロンドンを中心にイギリスの日常生活について理解を深めると同時に、ロンドンの詩人ウィリアム・ブレイクの詩を鑑賞する。

【授業の概要】 イギリス人の国民性、日常習慣、気候、食物、パブ、交通機関や教育制度などについて説明する。またブレイクの詩を鑑賞しながら人間の「内なる心」について言及する。

【到達目標】 イギリスの文化についての理解を深めると同時に、ブレイクの詩を鑑賞しながら「内なる心」獲得をめざす。

【授業の計画】 1. イギリス人の国民性 2. Introduction, A Dream 3. The Little Girl Lost, The Little Girl Found, 4. 気候と住宅, 交通機関 5. The Blossom, The Lamb, The Shepherd 6. Infant Joy, On Another's Sorrow, Spring 7. The School Boy, Laughing Song 8. The Little Black Boy, The Voice of the Ancient Bard 9. 通貨とカード, 食物とパブ 10. The Echoing Green, Nurse's Song 11. Holy Thursday, The Divine Image 12. The Chimney-Sweeper, A Cradle Song 13. 宿泊施設, 教育制度 14. The Little Boy Lost, The Little Boy Found, Night 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 田中孝雄著 (編): 『無垢の歌』 2002 年 1,000 円, イギリス文化関連の資料はコピーして配布する。

【参考書等】 松島正一著: 『孤高の芸術家 ウィリアム・ブレイク』 北星堂書店 1982 年 5,150 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 毎回、出される課題の準備をして積極的に発表することが期待される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180678>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 学外なのでオフィスアワーは利用できないが、Eメールでの相談、指導は時間を問わず可能である。E-mail: takao-tanaka@shikoku-u.ac.jp 四国大学第二文学館(L602), Tel .088-665-1300(内線2371))

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (電 B))

三浦 博 非常勤講師

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語の 4 技能 (読む・書く・聴く・話す) の能力の育成を目標とする。コミュニケーションに必要な基本的構文の習得を目指す。日常の会話ができるようにするとともに、英語を通して言語や異文化への関心を高める。

【授業の概要】 授業はテキストに沿って進められる。毎回の授業で Listening の小テストをする。また毎回ではないがテキストに出てくる英単・熟語の小テストをする。

【到達目標】

1. 英語の Listening に慣れ、違和感なく Spoken English を聴けるようになる。
2. Essay (エッセイ) の書き方を習い、エッセイ (小論文・レポート) が書けるようになる。
3. 英文読解力の向上。

【授業の計画】 1. 授業内容の紹介 2. Looking for Something New 3. Off We Go: Here We Are! 4. Hotel or Resort? 5. Now We Are International Students 6. Essay (小論文・レポート) の書き方 7. Hiromi's Home stay Family 8. Comparing First Impressions 9. Yukiko's Dormitory Life 10. Hiromi finds an Apartment 11. Outing with Other International Students 12. Holiday Season 13. Hey! We Learned a Lot 14. Tears in Eyes 15. 学期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 桐原書店編集部 『Hyper Listening (Intermediate)』 桐原書店 630 円
- ◇ 行時 潔 / Daniel Droukis 著 『Experience an English Program (語学留学に行こう!)』 松柏社 1900 円+ 税

【成績評価の方法】 Listening Test (15%) + 英単・熟語小テスト (15%) + エッセイ (20%) + 試験 (50%)

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業には毎回出席してほしい。また、毎回 Listening の小テスト (家庭学習用 CD 付き) および英単・熟語小テストをするのでこれらに関しても予習したほうが良い点かとれると思う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180722>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (オフィスアワー: 非常勤講師控室またはshomachi43211@yahoo.co.jpまで)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (電 C)2)

樋口友乃・准教授

1 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 映画を通して英米の文化に対する理解を深めながら、基礎的な語彙や表現を習得し、同時にリスニング・リーディング能力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 映画の視聴と、映画に関連する文章の聞き取りや読解演習を通して幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める。

【授業の計画】 1. Unit 1 2. Unit 2 3. Unit 3 4. Unit 4 5. 小テスト (1) 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. 小テスト (2) 11. Unit 9 12. Unit 10 13. Unit 11 14. Unit 12 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 『Action!—Great scenes from Unforgettable Films—』 (南雲堂)

【成績評価の方法】 成績は期末試験、および授業への取り組み状況 (小テストや出席状況などを含む) にもとづいて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185642>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (電 C))

石田和枝・非常勤講師

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 リスニングを通して、英語の基礎を学ぶ。

【授業の概要】 平易な英語で書かれたテキストをリスニング教材として用いる。授業では活字を追うことはせず、専ら耳で聴いて 100%理解できるように訓練する。

【キーワード】 リスニング

【到達目標】 簡単な英語を聞いて理解し、自由に使いこなせるようになること。

【授業の計画】 初回の授業時に後期分の詳しい講義計画書を配布する。授業はその計画書に沿って進められていくので、学生にはそれに合わせて予習・復習することが求められる。7 週目には中間試験をする予定である。

【教科書】 初回の授業時に指示をする。

【成績評価の方法】 中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】 原則的に無し

【授業へのメッセージ】 3 分の 1 欠席すると再受講となりますから各自注意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180661>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (オフィスアワー: 初回の授業時に指示をする。)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (知 A))

前田一平/鳴門教育大学

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英文読解力の養成を目的とする。今日の諸問題を扱ったアメリカの週刊誌 U.S. News and World Report をテキストにして、文構造と語法と語彙に焦点を当てた指導をする。高度な英文講読をめざす。

【授業の概要】 和訳を基本とするが、できるだけ不必要な和訳は避け、長く複雑な文章構造を理解することを主眼とした授業を展開する。文章の問題点について常に受講生に質問し、予習状況を確認しながら授業を進め、最終的に問題演習で内容理解を促す。

【キーワード】 英語リーディング、文構造把握、文法、語彙

【到達目標】 徹底的に英語を読むことによる英語基礎力の伸長と文構造理解

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Unit 1 Family-Unfriendly Policies (Part 1) 3. Unit 2 Family-Unfriendly Policies (Part 2) 4.

Unit 3 Uneasy in the Middle (Part 1) 5. Unit 4 Uneasy in the Middle (Part 2) 6. Unit 5 Energy to Burn (Part 1) 7. Unit 6 Energy to Burn (Part 2) 8. Midterm exam. (中間試験) 9. Unit 7 A Good Immigration Bill (Part 1) 10. Unit 8 A Good Immigration Bill (Part 2) 11. Unit 9 The Case for Surveillance (Part 1) 12. Unit 10 The Case for Surveillance (Part 2) 13. Unit 11 The "Israel Lobby" Myth (Part 1) 14. Unit 12 The "Israel Lobby" Myth (Part 2) 15. Final exam. (学期末試験) 16. 総括授業

【教科書】 Matters of Opinion (南雲堂)

【成績評価の方法】 中間試験 (50%) と学期末試験 (50%) を評価の基本とする。これに受講姿勢の評価を加味して総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業へのメッセージ】 予習は不可欠。授業の中で予習と理解の有無を常に確認する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180685>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 前田 (kmaeda@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: kmaeda@naruto-u.ac.jp 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、Eメールでの相談・指導は時間を問わず可能である。または、授業後などに相談されたし。)

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (知 B))

未定/@.affiliation

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の概要】 未定

【授業へのメッセージ】 シラバスは後期授業開始前に全学共通教育掲示板で掲示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185602>

英語 (English)

主題別英語

Thematic English

(工 (光))

山内 暁彦・准教授

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のニュースを聞いてその内容をおおむね理解できるようになることを目指す。

【授業の概要】 ビデオ教材を用いて BBC の英語ニュースを視聴し、その内容を把握する訓練をする。毎回の授業ではニュースを 1 編ずつ取り上げる。授業を通じて、英語を聞き取る力をつけるとともに、現代社会のさまざまな事象に触れる。更に、付属の自習用 CD でオーセンティックな英語に慣れる。

【キーワード】 ニュース英語

【到達目標】 1. 英語のニュースを自然な速さのまま聞いてその内容を自分なりに理解できるようになることを目指す。

【授業の計画】 1. イントロダクション 2. Unit 2. University Students Are Cheating Using the Internet(インターネットの不正利用の話) その 1 3. Unit 2. その 2 4. Unit 3. Schools Could be Allowed to Ban Veils(イスラムの服装の話) その 1 5. Unit 3. その 2 6. Unit 4. May Day Celebrations at Oxford(学生のお祭り騒ぎの話) その 1 7. Unit 4. その 2 8. 中間テスト 9. Unit 5. Traffic Wardens Get Video Cameras(監視社会の話) その 1 10. Unit 5. その 2 11. Unit 6. Folic Acid to be Added to Bread(サプリメントの話) その 1 12. Unit 6. その 2 13. Unit 7. Rise in Numbers of Animals Rescued by the RSPCA(ペットの話) その 1 14. Unit 7. その 2 15. 後期試験 16. 総括授業

【教科書】 小野田 榮, Lucy Cooker 編 『BBC Understanding the News in English 5』金星堂 2008 年 2,100 円

【成績評価の方法】 後期試験 (60%), 中間テスト (30%) および平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業へのメッセージ】 教科書の付属 CD でよく予習をしておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180697>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 A)2))

早内-プリングル ジュディス・非常勤講師

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 English speech and presentation Notes: 1. Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class but also out of class; there will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of each class or other factors.

【キーワード】 Communicative English, fluency

【到達目標】 By the end of this course, students should be able to competently discuss and prepare written and/or oral presentations on different topics.

【授業の計画】 1. General Class Guidance Introduction; Topics will be chosen from the text and announced during the first class 2. Topic 1: Beauty: Mirror, mirror, on the wall 3. Topic 1: Discussion & presentation 4. Topic 2: Intelligence: How important is it? 5. Topic 2: Report & survey 6. Topic 3: Violence in Sports; When is a game not a game? 7. Topic 3 Opinion discussion 8. Mid-term evaluation 9. Topic 4: Internet Dating; Is this really YOUR photo? 10. Topic 4 Current issues and opinions; survey 11. Topic 5: Fashion; You mean you're wearing THAT? 12. Topic 5 Interview 13. Topic 6: Anger: I'm not angry! You're angry! 14. Topic 6 Discussion and presentation 15. Final Presentation and Examination 16. Review

【教科書】 Cheryl Pavlik. Hot Topics 2. Thomson/Heinle. ISBN 1-4130-0706-6

【成績評価の方法】 Final speech presentation and essay composition is an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (60%), Mid-term evaluation (15% each), Final presentation and examination (25%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180825>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 早内-プリングル (オフィスアワー: juditheph@yahoo.com Please contact me via e-mail when consultation is necessary.)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 B)2))

フロストダン・非常勤講師

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To expand the students grasp of spoken English and their ability to respond verbally.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】 1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken. 2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested. 3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180827>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ フロスト

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 C)2))

スタージドナルド・講師/総合科学部

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【キーワード】 Communicative English

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】 1. Course Outline 2. Self-Introduction 3. Discussion on Selected Topic(s)/Video 4. Class Presentations/Summarizing 5. Class Presentations/Summarizing 6. Discussions on Selected Topic(s)/Video 7. Discussions on Selected Topic(s)/Video 8. Mid Term Exam 9. Class Presentations/Summarizing 10. Class Presentations/Summarizing 11. Discussion on Selected Topic(s)/Video 12. Discussion on Selected Topic(s)/Video 13. Discussion on Selected Topic(s)/Video 14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 15. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies, of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【WEB 頁】 <http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180799>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 D)2))

パトリックジェフ・非常勤講師

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題: 紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法: be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could, may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185574>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 E)2))

マーシェン ジェラルド / 鳴門教育大学

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to give students an opportunity to use the skills they have developed in the past, for practical and communicative purposes

【授業の概要】 Students will complete a variety of tasks which follow several themes through the course of the term. Themes include 'talking about cities and places around the world', 'vacations students have taken or would like to take' and 'describing events and drawing conclusions from evidence'.

【到達目標】 The purpose of this class is to improve English communicative and productive skills. Students will develop confidence as they use English for a variety of functions. Grammar and vocabulary will be dealt with sometimes, but they will arise in context, from students' need to communicate as they complete tasks, rather than being introduced by the teacher without context. Language form will not be viewed as generative, but subservient to communication.

【授業の計画】 1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher 2. Pronunciation workshop 3. Using past tenses to describe your life 4. Describing other people's life and abilities 5. Presentation preparation 6. Presentations 7. Using present tense to talk about University life 8. Comparing Universities in Canada and Japan 9. Using adjectives to talk about neighborhoods in Tokushima 10. Using adjectives to describe various cities 11. Describing your hometown 12. Describing cities and countries around the world 13. Describing neighborhoods in Toronto 14. Choosing an apartment in Toronto (group decision task) 15. Test 16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Speaking test: 25%, Presentation: 25%, Homework and participation: 30%, Attendance: 20%

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a practical English class, which means the focus will be on communication. You have already learned a lot of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English 'packed' inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180828>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マーシェン

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 F)2))

スティーンズ, メリディス・アン / 講師 / 総合科学部

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 The class will begin with a dictation. This will be followed by a communication exercise. We will learn about engaging in conversation paying particular attention to stress and intonation.

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】 1. Greetings 2. Introductions / Identifying self and others 3. Saying goodbye 4. Giving and receiving compliments 5. Inviting / Accepting / Refusing 6. Expressing likes and dislikes / Asking for and giving an opinion 7. Expressing ability or inability to do something / Making excuses / Giving encouragement 8. Apologizing / Accepting an apology 9. Talking about food 10. Talking about money 11. Talking about the weather 12. Asking for and giving information 13. Giving and receiving thanks 14. Expressing confusion / Making plans 15. Test 16. Review

【教科書】 Small Talk, Carolyn Graham, OUP

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180807>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スティーンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(総科 ((人社 G)2))

福田, スティーブ・利久 / 助教 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めている。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。 20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」と思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180837>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)
発信型英語 (総科 ((人社 H2))
Communicative English パトリックジェフ・非常勤講師
 2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題: 紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法: be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義: 疑問視, 短い返事, 代名詞宿題: 自己紹介 2. 講義: 疑問詞, 時間の前置詞宿題: 職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義: 指示詞話題: 値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義: 所有代名詞, 天気宿題: 天気の作文 5. 講義: 現在進行形, 限定詞宿題: 家族 6. 講義: how, 副詞宿題: スポーツ, 運動 7. 講義: 不規則動詞, 過去形宿題: 連休, 趣味 8. 講義: there, 不可算名詞宿題: 近所, 店 9. 講義: 人のことの説明, 性格宿題: 人の特徴, 顔 10. 講義: 計画の作り方宿題: おもしろい体験 11. 講義: 副詞, 形容詞, 接続詞宿題: 国々, 町の特徴 12. 講義: can, could, may 宿題: 健康 13. 講義: 注文の仕方話題: レストラン, 食べ物 14. 講義: 比較形, 最上形宿題: 地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名: New Interchange Student's Book 1 著者: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180822>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)
発信型英語 (総科 ((自然 A-1))
Communicative English 西山高子・非常勤講師
 2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 言語教育に最適なテレビ・コマーシャルを聞き取る練習をしながらリスニング能力を養成し、実際に英語を使う場面で役立つ表現を身につける。

【授業の概要】 テレビ・コマーシャルを観賞し、その言語的・文化的内容を学習する。さらに、ロールプレイを通じて様々な語彙や表現を身につける。

【キーワード】 音の連続, 音の変化, イントネーション, リズム

【到達目標】 リスニング能力を養成し、さらにロールプレイを通じて実際に英語を使う場面で役立つ表現を身につける。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. Meijer-Higher Standards, Lower Prices 3. This Calls for a Bud Light 4. Anti-Discrimination Campaign 5. McDonald's-King of Fast-Food Restaurants 6. Relax, it's FedEx. 7. BMW-A Car beyond Reason 8. Banking for the Filthy Rich 9. Learning Languages 10. Pepsi-Ask for More 11. United Nations Development Programme 12. Disney-Magic Happens 13. Coca-Cola-For Everyone 14. Anti-Smoking Campaign 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 English in 30 Seconds Award-Winning TV Commercials from the Cannes Festival [カンヌ国際広告祭受賞]TV コマーシャルで学ぶ異文化の世界 (2009) 青木雅幸編 南雲堂

【成績評価の方法】 学期末試験, 小テスト, 演習参加状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 外国語の習得には、自主的な動機付けと継続が必要です。授業だけでなく、あらゆる機会を通じて英語の音声や文章に慣れ親しんで下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180838>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山 . (オフィスアワー: 授業の前後)

英語 (English)
発信型英語 (総科 ((自然 A-2))
Communicative English 未定/@.affiliation
 2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の概要】 未定

【講師へのメッセージ】 シラバスは後期授業開始前に全学共通教育掲示板で掲示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185589>

英語 (English)
発信型英語 (総科 ((自然 B-1))
Communicative English 宮田政徳・准教授/大学開放実践センター
 2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 語学研修や観光旅行でイギリス, アメリカ, カナダなどの英語圏を訪れる際, 現地の日常生活の色々な場面で使われる表現を適切な英語を用いて表現できるようにすることを目的とする。

【授業の概要】 アメリカやカナダで放送された ESL (English as a Second language) 番組から精選された 15 のスキットをビデオで観る。それから先ずリスニングの練習をし、その後各スキットの場面で使われている重要表現を確認する。最期に友達同士 3, 4 人でそのスキットをロールプレイして英語で演じる。

【キーワード】 日常会話英語, ロールプレイによるスキット

【到達目標】

1. 英語のテレビ放送のスキットの内容を聴き取ることが出来る。
2. スキットの会話の中の重要表現を覚える。
3. スキットを友達とロールプレイして演じることが出来る。

【授業の計画】 1. Introduction 2. Lesson 1: Greetings 3. Lesson 2: Asking for Directions 4. Lesson 3: Requesting Information 5. Lesson 4: Making Things Clear 6. Lesson 5: Explaining What's Wrong 7. Lesson 6: Going for a Job Interview 8. Lesson 7: Making a Phone Call 9. Lesson 8: Reporting Emergencies (1) 10. Lesson 9: Reporting Emergencies (2) 11. Lesson 10: Getting Invited to a Party 12. Lesson 11: Making Complaints 13. Lesson 12: Asking a Favor 14. Lesson 13: Comparing Things 15. 期末試験 16. 期末試験の振り返り

【教科書】 日常英語; 小野田榮とノエル・ゴスマン著 (金星堂, 2001 年, 2200 円)

【成績評価の方法】 毎回のロールプレイ (50%) と学期末試験 (50%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回出席すること。またテキストを忘れたら減点するので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180833>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ miyata@cue.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 16時10分~17時00分 宮田研究室 (大学開放実践センター3F))

英語 (English)
発信型英語 (総科 ((自然 B-2))
Communicative English 石田メグ・非常勤講師
 2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English.

【授業の計画】 1. OUTLINE 2. I think I'd like that job 3. What's playing 4. What are you going to do? 5. How much is this? 6. How was it? 7. How do you make it?

【教科書】 No textbook is required for this class as handouts will be provided. Please prepare a Japanese English dictionary.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in class. Be present and participate. The contents of this class are subject to change due to the level and interests of those participating.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180789>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 石田 .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 ((看 a)2))

福田, スティーブ・利久・助教/全学共通教育センター
2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めている。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180845>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 ((看 b)2))

中西・リンドルイーズ・非常勤講師
2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class seeks to improve all aspects of communication and as such all lessons will be conducted in English.

【授業の概要】 Classes are structured to give the students a degree of autonomy in areas such as presentation choice, book discussion groups and interviews.

【キーワード】 Presentation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading and syllabus. 2. Presentation: introduction and planning. 3. Presentation: support exercises and preparation. 4. Presentation: support exercises and preparation. 5. Presentation: grading explanation and presentations. 6. Presentation: grading review and presentations continued. 7. Introduce book (fiction). Decide discussion groups and roles. 8. Continue guided reading with DVD supplement. 9. Book review, guided reading, DVD supplement. 10. Book review, guided reading, DVD supplement, commence report. 11. Individual interviews and reading comprehension exercises. 12. Individual interviews and reading comprehension exercises. 13. Writing exercises. 14. Listening comprehension exercises. 15. Final Test

【教科書】 Oxford University Press reader (supplied by instructor), Handouts and other materials (supplied by instructor)

【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, assignments and projects and the final test.

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note taking. Join in, have fun and you will improve your English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180814>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 中西・リンド .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(医 ((看 c)2))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/総合科学部
2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop speaking and listening skills.

【授業の概要】 First we will begin with a dictation to be done in groups. Then we will engage in listening and communicative activities. Then we will learn about life in modern Australia.

【到達目標】 To refine listening skills and develop confidence in interpersonal communication.

【授業の計画】 1. Geography and Climate 2. Homestays 3. Family Roles 4. Transport 5. The Royal Show 6. Language Schools and Universities 7. South Australia 8. Sport 9. Australian Flora 10. Australian Fauna 11. The Aborigines 12. The Sea 13. Multiculturalism 14. Australian English 15. Test 16. Review

【教科書】 Modern Life Down Under

【成績評価の方法】 Weekly dictations, Final Test

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185570>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((建 A-1)2))

未定/@.affiliation
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の概要】 未定

【受講者へのメッセージ】 シラバスは後期授業開始前に全学共通教育掲示板で掲示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180834>

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((建 A-2)2))

木里 恭子・非常勤講師/全学共通教育センター
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語で正確に情報をつたえ、筋道立てた意見を述べる事ができるアカデミックな作文力の習得を目指します。

【授業の概要】 英語の Paragraph・ライティングに焦点を当てたクラスです。情報や意見を英語によって明快に、有効に書くための訓練、そのための方法などを学びます。

【到達目標】 自分の考えや情報を英語でクリアーに、効果的に伝えられる作文技術を身につけることを目標とします。

【授業の計画】 1. Introduction: English Paragraph 2. English Paragraph 3. Descriptive Paragraphs 4. Description 5. Description 6. Process Paragraphs 7. Process 8. MIDTERM EXAM 9. Cause-Effect Paragraphs 10. Cause-Effect 11. Cause-Effect 12. Comparison and Contrast Paragraphs 13. Comparison and Contrast 14. Comparison and Contrast 15. FINAL EXAM 16. Recapitulation

【教科書】 Paragraph Power: Communicating Ideas Through Paragraphs, George M. Rooks

【成績評価の方法】 Portfolio Assignments = 60% Midterm & Final = 40%

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185590>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 木里 .

英語 (English)
発信型英語 (工 ((建 B-1)2))
Communicative English
スティーヴンズ, メリディス・アン・講師 / 総合科学部
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 The class will begin with a dictation. We will then do communication activities and complete work from the textbook.

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】 1. Geography and Climate 2. Homestays 3. Family Roles 4. Transport 5. The Royal Show 6. Language Schools and Universities 7. South Australia 8. Sport 9. Australian Flora 10. Australian Fauna 11. The Aborigines 12. The Sea 13. Multiculturalism 14. Australian English 15. Test 16. Review

【教科書】 Modern Life Down Under, Meredith Stephens and Richard Blight

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180806>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)
発信型英語 (工 ((建 B-2)2))
Communicative English
井上永幸 教授
1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 日常生活を乗り切るためのサバイバル英語の習得を目指す。聞き取り能力の向上を中心に、基本的な語彙・コロケーションを学習してゆき、合わせて英米の文化に対する理解を深めることを目的とする。

【授業の概要】 (1) 前回の授業内容の小テストを行う。(2) 指定のテキストを使って、日常英語の基本的語彙やコロケーションの学習を行う。〔学習が必要〕 (3) 指定の教科書を使って、聞き取りの際に注意すべき点を確認し、聞き取り能力の向上を図る。(4) 授業の終わりに、その日の学習事項に関する確認テストを行う。

【到達目標】 日常生活を乗り切るための英語や英米の文化に対する理解を深める。

【授業の計画】 1. 授業概要説明 2. 聞き取り (1) 3. 聞き取り (2) 4. 聞き取り (3) 5. 聞き取り (4) 6. 聞き取り (5) 7. 聞き取り (6) 8. 聞き取り (7) 9. 聞き取り (8) 10. 聞き取り (9) 11. 聞き取り (10) 12. 聞き取り (11) 13. 聞き取り (12) 14. 聞き取り (13) 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 未定

【参考書等】 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版、三省堂。

【成績評価の方法】 試験、予習状況、小テスト、確認テストなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 必ず予習をしてこよう。また、授業には辞書を持参すること。電子辞書ではなく紙の辞書を強く薦める。コンサイス版やポケット版の辞書は不可。

【WEB 頁】 <http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185563>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 井上 (2302, 088-656-7125, inoue@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 14:35-16:05 井上研究室 (総合科学部 1 号館 3 階))

英語 (English)
発信型英語 (工 ((化 A-1)2))
Communicative English
早内-プリングル ジュディス・非常勤講師
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students exposure to and practice with the speech and presentation process from initial information/idea gathering to the final presentation. Students will learn how to build a speech using writing skills, information collecting skills, etc., and learn how to effectively present their ideas after preparation and on a spontaneous basis.

【授業の概要】 English speech and presentation Notes: 1. Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class but also out of class; there will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of each class or other factors.

【キーワード】 Communicative English, fluency

【到達目標】 By the end of this course, students should be able to prepare a speech on a variety of topics/for a variety of purposes using written notes and visual aids, and present it competently

【授業の計画】 1. General Class Guidance; Introduction to the elements of spoken presentation. 2. The Physical Message: Posture & Eye Contact; Informative Speech 3. The Physical Message: Gestures; Layout Speech 4. The Physical Message: Voice Inflection; Demonstration Speech 5. Presentation Week 1 6. Presentation Week 2 7. The Story Message: Introduction to the Story Message 8. The Story Message: The Introduction; Persuasive Speech (Introduction) 9. The Story Message: The Body; Transitions and Sequencers 10. The Story Message: Persuasive Speech (Body) 11. The Story Message: The Conclusion; Persuasive Speech (Conclusion) 12. The Visual Message: Introduction to the Visual Message; Making Visual Aids 13. The Visual Message: Explaining Visual Aids 14. Review and Preparation for Final Presentation. 15. Final Presentation 16. Review

【教科書】 David Harrington & Charles LeBeau. Speaking of Speech. Macmillan Languagehouse. ISBN4-89585-211-3

【成績評価の方法】 Final speech presentation and essay composition is an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (70%), Final presentation and composition (essay) (30%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185576>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 早内-プリングル . (オフィスアワー: judithph@yahoo.com Please contact me via e-mail when consultation is necessary.)

英語 (English)
発信型英語 (工 ((化 A-2)2))
Communicative English
福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自立的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めています。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。 20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180847>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(工 ((化 B-1)2))

フロスト・ダン・非常勤講師
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To expand the students grasp of spoken English and their ability to respond verbally.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】 1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken. 2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested. 3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185653>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ フロスト

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(工 ((化 B-2)2))
スタージナルド・講師/総合科学部
2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【キーワード】 Communicative English

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】 1. Course Outline 2. Self-Introduction 3. Discussion on Selected Topic(s)/Video 4. Class Presentations/Summarizing 5. Class Presentations/Summarizing 6. Discussions on Selected Topic(s)/Video 7. Discussions on Selected Topic(s)/Video 8. Mid Term Exam 9. Class Presentations/Summarizing 10. Class Presentations/Summarizing 11. Discussion on Selected Topic(s)/Video 12. Discussion on Selected Topic(s)/Video 13. Discussion on Selected Topic(s)/Video 14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 15. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation 16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies, of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180798>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

【授業の目的】 This class seeks to improve all aspects of communication and as such all lessons will be conducted in English.

【授業の概要】 Classes are structured to give the students a degree of autonomy in areas such as presentation choice, book discussion groups and interviews.

【キーワード】 Presentation

【到達目標】 Greater confidence and ability when communicating in English.

【授業の計画】 1. Introductions, explanation of grading and syllabus. 2. Presentation: introduction and planning. 3. Presentation: support exercises and preparation. 4. Presentation: support exercises and preparation. 5. Presentation: grading explanation and presentations. 6. Presentation: grading review and presentations continued. 7. Introduce book (fiction). Decide discussion groups and roles. 8. Continue guided reading with DVD supplement. 9. Book review, guided reading, DVD supplement. 10. Book review, guided reading, DVD supplement, commence report. 11. Individual interviews and reading comprehension exercises. 12. Individual interviews and reading comprehension exercises. 13. Writing exercises. 14. Listening comprehension exercises. 15. Final Test

【教科書】 Oxford University Press reader (supplied by instructor), Handouts and other materials (supplied by instructor)
【成績評価の方法】 Based on attendance, participation, assignments and projects, and the final test.
【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.
【受講者へのメッセージ】 Please bring a dictionary, a folder for copies and materials for note taking. Join in, have fun and you will improve your English.
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180813>
【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 中西-リンド .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((知 A-2)2))

パトリックジェフ・非常勤講師
2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 いろいろな環境で基礎的な英語の使い方を教えること。語彙、聴解、読解、文法を練習すること。生徒の人数や態度によってできるだけ英会話を練習したい。

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could, may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180819>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック . (オフィスアワー: jeffreypatrick@aol.com)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((知 B-1)2))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター
2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語での発表及び自己表現により慣れ・親しむこと

【授業の概要】 徳島大学の「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」である必修英語は基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自律的学習の基盤を形成することを述べています。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視すると定めている。英語は数多くある言葉のなかの一つである。言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションは何かを伝えるためや情報収集のためのものである。当講義でも英語を何かを伝えるためのものとして使いたい。できるだけ、疑似体験の英語を避け、その場、その時伝えたいことを取り上げたい。

【到達目標】 自信を持って英語の自己アピールとプレゼンができること

【授業の計画】 1. 言葉・コミュニケーションとは 2. 「This is me!」プレゼン 3. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 4. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 5. 自己表現・自己紹介のためのコミュニケーション活動 6. 「ME!」ミニ・プレゼン 7. 口頭アンケート調査の作成・実施 8. 口頭アンケート調査の作成・実施 9. 口頭アンケート調査の作成・実施 10. 「My Survey」のミニ・プレゼン 11. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 12. 「プレゼンするなら」のコミュニケーション活動 13. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 14. 「ファイナル・プレゼン」のレハーサル 15. ファイナル・プレゼン 16. まとめ・振り返り

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【成績評価の方法】 学習プラン・目標に合った評価法を学習カウンセリングの際に選ぶ。 20%ミニ・プレゼン① 20%ミニ・プレゼン② 30%はファイナル・プレゼン 30%は宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 初回の授業までに自分がこれを「伝えたい」や「知りたい」ことと思うことをいくつかをブレインストームすると良いでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180849>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (3S11, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Students can come anytime for questions and comments. Just make an appointment by e-mail.)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((知 B-2)2))

マコーマックポーリン・非常勤講師
2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this course is to provide a chance for learners to express their point of views and opinions and to make short presentations.

【授業の概要】 The text is designed to help students develop conversation and discussion skills in English.

【到達目標】 By the end of this course, learners should have developed skills in four key areas of language learning: comprehension, critical thinking, self-expression, and motivation. .

【授業の計画】 1. Introduction 2. Plagiarism 3. Housework 4. Body Art 5. Adult Children 6. No Place Like Home 7. Career Choice 8. High-Tech Toys 9. High-Tech Toys (cont) 10. A Women's Place 11. The Art of Compromise 12. The Art of Compromise (cont) 13. My Split Family 14. My Split Family (cont) 15. Final Exam 16. Review

【教科書】 Impact Issues, Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka

【成績評価の方法】 10% attendance, 40% class participation, 50% final exam

【再試験の有無】 Possible under certain circumstances.

【受講者へのメッセージ】 This is an communicative English class.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180831>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マコーマック .

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((光 A)2))

ラックストーンロバート・非常勤講師
2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to improve English conversational ability. We will do textbook exercises, role-plays and skits. Students will increase their confidence about speaking English.

【授業の計画】 1. Introductions 2. Unit 7.1 3. Unit 7.2 4. Unit 8.1 5. Unit 8.2 6. Unit 9.1 7. Quiz One and Skit Preparation 8. Skit Day 9. Unit 10.1 10. Unit 10.2 11. Unit 11.1 12. Unit 11.2 13. Unit 12.1 14. Unit 12.2 15. Quiz Two and Skit Preparation 16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 2

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180836>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ラックストーン . (オフィスアワー: Contact me at: rob-luxton@shikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語

Communicative English

(工 ((光 B)2))

ギンターディルク・非常勤講師
2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. "Getting To Know You"
3. 単語ミニテスト "Giving Advice 1" 4. 単語ミニテスト "Giving Advice 2"
5. 単語ミニテスト "Planning An Event 1" 6. 単語ミニテスト "Planning An Event 2"
7. 単語ミニテスト "Meeting A Star" 8. 中間テスト 9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2" 11. 単語ミニテスト "Describing Situations 1"
12. 単語ミニテスト "Describing Situations 2"
13. 単語ミニテスト "Dialogue" 14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での5分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~カ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英語は「ただの勉強しなければならない事」ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185568>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター . (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも) 連絡先:学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp))

3.2 《ドイツ語》 (German)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
Introductory German

(医・歯 (栄口))
石川 榮作 教授
1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (鱒、歓喜に寄せてなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】 ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】 ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいのみのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】 1. 第 8 課 動詞の三基本形/過去人称変化/数詞 2. 第 9 課 未来形/完了形 3. 第 10 課 分離動詞/再帰動詞/zu 不定詞 4. 第 11 課 関係代名詞/指示代名詞 5. 第 8 課から第 11 課までの総まとめ 6. 中間試験 (第 8 課-第 11 課) 7. 第 12 課 非人称動詞/形容詞の比較級・最上級 8. 第 13 課 受動態/現在分詞・過去分詞 9. 第 14 課 接続法 (要求語法/間接語法) 10. 第 15 課 接続法 (非現実語法) 11. 第 11 課から第 15 課までの総まとめ 12. 後期の総復習 13. 1 年間の総まとめ 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験 (第 12 課-第 15 課) 16. 総括授業

【教科書】 ヘルベルト/石川/井戸/依岡 『出会いのドイツ語』 (郁文堂) 2000 円

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181188>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15~16時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
Introductory German

(医 (看))
石川 榮作 教授
1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (鱒、歓喜に寄せてなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】 ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】 ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいのみのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】 1. 前期 (第 1 課から第 8 課まで) の総復習 2. 第 9 課 ワク構造 未来形と語法の助動詞 3. 第 10 課 完了形 4. 第 11 課 複合動詞 zu 不定詞 (句) 5. 第 12 課 再帰動詞 非人称動詞 序数 6. 第 9 課から第 12 課までの総まとめ 7. 中間試験 (第 9 課-第 12 課) 8. 第 13 課 受動 分詞 9. 第 14 課 関係代名詞 指示代名詞 10. 第 15 課 接続法 11. 第 13 課から第 15 課までの総まとめ 12. ドイツ文化紹介 13. ドイツ映画鑑賞 14. 後期の総復習 15. 定期試験 (第 13 課-第 15 課) 16. 総括授業

【教科書】 小島一良・瀬戸武彦 『基礎ドイツ文法 (第二版)』 (白水社)

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有り

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181187>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 石川, 656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 毎週火曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
Introductory German

(医 (放検))
ヘルベルト ウォルフガング 講師/総合科学部
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。

【授業の概要】 ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイル等も紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話を練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】 ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、前期の復習 2. 持ち物、指示代名詞、不定代名詞、否定代名詞の 4 格 3. 品物の感想、形容詞 4. 住居、部屋、所有代名詞 5. 間取り、家具の位置、前置詞 6. 時刻と日付、一日の生活、分離動詞 1 7. 生年月日、大学の年間予定、分離動詞 2 8. 大学、道案内 1, 副詞 (場所) 命令形 9. 交通手段、ドイツの大学、学生の生活、前置詞 (方向) 10. 地図の読み方、道案内 2 11. 休暇の計画 (活動、名所、期間、同伴者等) 12. 手紙の書き方、話法の助動詞 13. 過去の表現、天気 14. 日記、現在完了形 15. 期末試験 16. 纏め、質疑応答

【教科書】

◇ Szenen 1 integriert
◇ 佐藤修子、下田恭子、H. Papenthin、G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語、CD 付きスツェーネン 1、三修社

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み方

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181194>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ wolf@ias.tokushima-u.ac.jp Tel./Fax. 656 7145 (オフィスアワー: 火曜日 15.30h-17.00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
Introductory German

(薬 (薬 A))
曾田 紘二 教授/大学開放実践センター
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。

【授業の概要】 ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】 文字・表記、発音、文法、表現

【到達目標】 1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】 1. 人を問う問い方 2. 不定冠詞、練習問題 3. 挨拶の表現 1 4. 挨拶の表現 2, 人称代名詞 5. 人称代名詞、練習問題 6. 時刻の表現 1 7. 時刻の表現 2, 分離動詞 8. 分離動詞、練習問題 9. 中間試験、電話での会話 1 10. 電話での会話 2, 前置詞、命令文 11. 前置詞、命令文、練習問題 12. 大学生の会話 1, 再帰代名詞、再帰動詞 13. 再帰代名詞、再帰動詞、練習問題 14. 大学生の会話 2, 未来形、接続詞、動詞の三基本形 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 信岡資生 『新しいドイツ語の時間』 第三書房, 2006 年。

【成績評価の方法】 中間試験 5 割, 期末試験 5 割。

【再試験の有無】 再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181189>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 曾田 (D305-1, 656-9867, soda@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12-13時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門
Introductory German

(薬 (薬 B))
井戸 慶治 准教授
1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。

【授業の概要】 読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実にものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【到達目標】 ドイツ語文法の基本や簡単な表現を理解し、応用すること。

【授業の計画】 1. 導入 2. 動詞の 3 基本形・過去人称変化 3. 接続詞 4. 完了時称 5. 分離動詞・非人称動詞 6. zu 不定詞 7. 形容詞 8. 中間試験 9. 比較 10. 受動 11. 現在分詞・過去分詞 12. 関係代名詞 13. 接続法 14. 接続法 (2) 15. 期末試験 16. 予備

【教科書】ダニエル・アウフ・ヤーパンライゼ(白水社)。
 【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方など)で総合的に評価する。
 【再試験の有無】なし
 【受講へのメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181201>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (工 (建))
 Introductory German ギュンターディルク・非常勤講師
 1単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)
 【授業の目的】今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。
 【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。
 【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化
 【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。
 【授業の計画】1. 前期の復習 2. 行きたい所を説明する・前置詞 1 3. 部屋の予約・前置詞 2 4. レストランのメニューを読む 5. 道の案内、交通手段 6. 動詞の現在完了形 1 7. 動詞の現在完了形 2 8. 中間テスト 9. 中間テストの復習 10. ドイツの国・現代社会・文化について 11. ドイツ語で買い物をする 12. ドイツの青空市場で買い物をする(値段の交渉等) 13. ドイツ旅行で役に立つ表現 1 14. ドイツ旅行で役に立つ表現 2 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。
 【教科書】前期で使った教科書
 【成績評価の方法】(ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~オ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。
 【再試験の有無】無
 【受講へのメッセージ】ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181195>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも) 連絡先(学務課教育支援係)(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp))

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (工 (機 A))
 Introductory German 今井晋哉・准教授
 1単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)
 【授業の目的】本科目は、第二外国語を学び始めた学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情の一端を紹介し、ドイツの社会や文化に対する関心を喚起できれば、と考えている。
 【授業の概要】前期に引き続き、この授業では、日常生活上の具体的な場面あるいはテーマに即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属の CD/DVD を用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についてもできるだけ多く紹介したい。
 【キーワード】対話文、初級文法、テキストの読解、現代ドイツ事情
 【先行科目】『ドイツ語/ドイツ語入門』(1.0, ⇒87 頁)
 【到達目標】
 1. 日常的なテーマに即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
 2. 現代ドイツの社会や文化に関心をもち、その一端を理解すること。

【授業の計画】1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。 2. 第 1-4 回: 語学コース(不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形、名詞の 3 格) 3. 第 5 回: コラム ~ 世界に誇るアウトバーン 4. 第 6-9 回: 学生食堂で(前置詞と名詞の格、副文) 5. 第 10 回: コラム ~ 無賃乗車はダメ 6. 第 11-14 回: お医者さん(人称代名詞の 3-4 格、再帰代名詞と再帰動詞、名詞の 2 格) 7. 第 15 回: 期末試験 8. 第 16 回: 総括授業
 【教科書】清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007 年)¥2,600+税)。

【参考書等】プリント教材・資料を配付することもある。
 【成績評価の方法】平常点 (=授業中の発表や私とのやりとりに対する評価)、中間試験および期末試験による。平常点の比重が、全体の 2-3 割程度を占めることになるであろう。
 【再試験の有無】行う場合もある。
 【受講へのメッセージ】せっかく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181186>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-18:00)

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (工 (機 B))
 Introductory German ヘルベルトウォルフガング・講師/総合科学部
 1単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)
 【授業の目的】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。
 【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え、ライフスタイル等も紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話を練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。
 【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること、基礎文法を身につけること。
 【授業の計画】1. オリエンテーション、前期の復習 2. 持ち物、指示代名詞、不定代名詞、否定代名詞の 4 格 3. 品物の感想、形容詞 4. 住居、部屋、所有代名詞 5. 間取り、家具の位置、前置詞 6. 時刻と日付、一日の生活、分離動詞 1 7. 生年月日、大学の年間予定、分離動詞 2 8. 大学、道案内 1、副詞(場所)命令形 9. 交通手段、ドイツの大学、学生の生活、前置詞(方向) 10. 地図の読み方、道案内 2 11. 休暇の計画(活動、名所、期間、同伴者等) 12. 手紙の書き方、話法の助動詞 13. 過去の表現、天気 14. 日記、現在完了形 15. 期末試験 16. 纏め、質疑応答
 【教科書】
 ◇ Szenen 1 integriert
 ◇ 佐藤修子, 下田恭子, H. Papenthin, G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語, CD 付きスツェーネン 1, 三修社
 【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み方
 【再試験の有無】無
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181202>
 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ Tel./Fax. 656 7145 wolf@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜日 15.30h-17.00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)
ドイツ語入門 (工 (化))
 Introductory German 桂修治・教授
 1単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)
 【授業の目的】外国語を学ぶことによって、私たちは新しい世界への窓を開くことができます。この授業では、音声やテキストを中心とした練習の中で自然にドイツ語の構造を習得すること、ドイツの生活に結びついた文化事情を学ぶことを目的とします。
 【授業の概要】この授業は、家庭生活や社会生活をテーマとした単元で構成されますが、それぞれの単元で、ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口頭表現を学びます。またビデオなども併用しながら、ドイツの人々の生活ぶりの一端を眺めてみましょう。
 【キーワード】自律的な外国語学習、ドイツ語圏の文化を知る
 【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る。

【授業の計画】 1. 「ファッションについて」(形容詞の格変化) 2. 「ファッションについて」(統)(形容詞の格変化) 3. 「コミュニケーションについて」(分離動詞と非分離動詞) 4. 「コミュニケーションについて」(統)(分離動詞と非分離動詞) 5. 「読書について」(再帰代名詞を使った表現) 6. 「読書について」(統)(再帰代名詞を使った表現) 7. 中間試験 「ディスカッションについて」(語法の助動詞、動詞の過去形と過去分詞) 8. 「ディスカッションについて」(統)(語法の助動詞、動詞の過去形と過去分詞) 9. 「ディスカッションについて」(統)(語法の助動詞、動詞の過去形と過去分詞) 10. 「ドイツの歴史と現在(現在完了形の使い方)」 11. 「ドイツの歴史と現在(統)(現在完了形の使い方)」 12. 「映画について」(受動態) 13. 「映画について」(統)(受動態) 14. 「音楽について」(関係文) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 「ヴェーラとヴェルナー」(朝日出版社) . 辞書を持参のこと。
- ◇ その他、教材のプリントを配布します。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181203>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(工(生))

石川 栄作 教授

1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身につけることを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(唄、歓喜に寄せてなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】 ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】 ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】 1. 第 9 課 語法の助動詞・未来形・従属接続詞 2. 第 10 課 分離動詞・zu 不定詞句 3. 第 11 課 再帰動詞・分詞 4. 第 12 課 指示代名詞・関係代名詞 5. 第 9 課から第 12 課までの総まとめ 6. 中間試験(第 9 課・第 12 課) 7. 第 13 課 受動態 8. 第 14 課 接続法(1) 9. 第 15 課 接続法(2) 10. 付録 1 と 2 11. 第 13 課から第 15 課および付録まで総まとめ 12. 教科書前半の総復習 13. 教科書後半の総復習 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験(第 13 課・第 15 課および付録) 16. 総括授業

【教科書】 西本・アンゲリカ・高田『文法システム 15—新改訂版』(同学社)

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181193>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15 時~16 時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(工(電))

石田 基広 准教授

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 やや高度な文法を習得する

【授業の概要】 やや高度な文法を習得する

【先行科目】 『ドイツ語/ドイツ語入門』(1.0, ⇒89 頁)

【到達目標】 やや複雑な表現を覚える

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 前期の復習 3. 日常の表現 4. 日常の表現 2 5. やや高度な文法を覚える 1 6. やや高度な文法を覚える 2 7. やや高度な文法を覚える 3 8. やや高度な文法を覚える 4 9. やや高度な文法を覚える 5 10. 高度な文法を覚える 1 11. 高度な文法を覚える 2 12. 高度な文法を覚える 3 13. 高度な文法を覚える 4 14. 総復習 1 15. 総復習 2 16. 今後自習する人たちのために

【教科書】 未定

【成績評価の方法】 授業中の課題と小テスト 7 割 期末試験 3 割

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 前期を習得していること、端末数の関係で他学科の学生や、1 年生以外の学生は受講できない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181192>

【備考】 機械工学科 1 年のみ受講可能

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(工(知))

ギュンターティルク 非常勤講師

1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】 表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】 現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】 基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】 1. 前期の復習 2. 行きたい所を説明する・前置詞 1 3. 部屋の予約・前置詞 2 4. レストランのメニューを読む 5. 道の案内、交通手段 6. 動詞の現在完了形 1 7. 動詞の現在完了形 2 8. 中間テスト 9. 中間テストの復習 10. ドイツの国・現代社会・文化について 2 11. ドイツ語で買い物をする 12. ドイツの青空市場で買い物をする(値段の交渉等) 13. ドイツ旅行で役に立つ表現 1 14. ドイツ旅行で役に立つ表現 2 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】 前期で使った教科書

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~オ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185608>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも) 連絡先(学務課教育支援係)(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

Introductory German

(工(光))

ギュンターティルク 非常勤講師

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】 表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】 現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】 基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】 1. 前期の復習 2. 行きたい所を説明する・前置詞 1 3. 部屋の予約・前置詞 2 4. レストランのメニューを読む 5. 道の案内、交通手段 6. 動詞の現在完了形 1 7. 動詞の現在完了形 2 8. 中間テスト 9. 中間テストの復習 10. ドイツの国・現代社会・文化について 2 11. ドイツ語で買い物をする 12. ドイツの青空市場で買い物をする(値段の交渉等) 13. ドイツ旅行で役に立つ表現 1 14. ドイツ旅行で役に立つ表現 2 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】前期で使った教科書

【成績評価の方法】(ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低 60 点を取る事が必要です。(ア~オ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に、途中はたいへんでも、頂上について話せるようになってくると楽しいものです。楽しい授業にしようと思っておりますので、一緒にがんばりましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185606>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

【教科書】ドイツ文法の森 (第三書房)

【成績評価の方法】中間試験, 期末試験, 平常点 (小テスト, 授業への取り組み方など) で総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講へのメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185531>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは火曜日16-17時とするが、それ以外でも在室の時は対応可。研究室は、総合科学部1号館南棟1階、Eメールでの質問も受けつける。)

【備考】この授業は、月曜日5・6講時のヘルベルト先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級
Elementary German

(総科 (社創))

石川 榮作 教授

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 (社創)) 今井 / 後期 木 1・2 ⇒ 196 頁)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (鱒, 歓喜に寄せてなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化, 異文化理解, 比較文化, 比較言語, コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】1. 第 8 課 動詞の三基本形/過去人称変化/数詞 2. 第 9 課 未来形/完了形 3. 第 10 課 分離動詞/再帰動詞/zu 不定詞 4. 第 11 課 関係代名詞/指示代名詞 5. 第 8 課から第 11 課までの総まとめ 6. 中間試験 (第 8 課 ~ 第 11 課) 7. 第 12 課 非人称動詞/形容詞の比較級・最上級 8. 第 13 課 受動態/現在分詞・過去分詞 9. 第 14 課 接続法 (要求話法/間接話法) 10. 第 15 課 接続法 (非現実話法) 11. 第 12 課から第 15 課までの総まとめ 12. 後期の総復習 13. 1 年間の総まとめ 14. ドイツ映画鑑賞 15. 定期試験 (第 12 課 ~ 第 15 課) 16. 総括授業

【教科書】ヘルベルト/石川/井戸/依岡「出会いのドイツ語」(郁文堂)2000 円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】語学力は新しい創造の力を生み出す。語学力の習得には予習と復習が特に必要です。しっかりと学びましょう!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181212>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 火曜日 15時~16時 石川研究室(総合科学部1号館))

【備考】この授業は木 1・2 講時「ドイツ語初級」(今井)とペアになっています。必ず両方を受講してください。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級
Elementary German

(総科 (社創))

今井 晋哉 准教授

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 (社創)) 石川 / 後期 火 3・4 ⇒ 196 頁)

【授業の目的】本科目は、第二外国語を学び始めた学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情の一端を紹介し、ドイツの社会や文化に対する関心を喚起できれば、と考えている。

【授業の概要】前期に引き続き、この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属の CD/DVD を用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

(総科 (人文))

Elementary German

ヘルベルト ウォルフガング 講師/総合科学部

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 (人文)) 井戸 / 後期 水 1・2 ⇒ 196 頁)

【授業の目的】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイル等も紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話を練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の計画】1. オリエンテーション, 前期の復習 2. 持ち物, 指示代名詞, 不定代名詞, 否定代名詞の 4 格 3. 品物の感想, 形容詞 4. 住居, 部屋, 所有代名詞 5. 間取り, 家具の位置, 前置詞 6. 時刻と日付, 一日の生活, 分離動詞 7. 生年月日, 大学の年間予定, 分離動詞 8. 大学, 道案内 1, 副詞(場所) 命令形 9. 交通手段, ドイツの大学, 学生の生活, 前置詞(方向) 10. 地図の読み方, 道案内 2 11. 休暇の計画(活動, 名所, 期間, 同伴者) 12. 手紙の書き方, 話法の助動詞 13. 過去の表現, 天気 14. 日記, 現在完了形 15. 期末試験 16. 纏め, 質疑応答

【教科書】

◇ 場面で学ぶドイツ語

◇ 佐藤修子, 下田恭子

【成績評価の方法】学期末試験, 小テスト, 宿題, 出席, 授業への取り組み方

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181204>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日15.30h-17.00h ヘルベルト研究室 (総合科学部1号館中棟2階))

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

(総科 (人文))

Elementary German

井戸 慶治 准教授

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 (人文)) ヘルベルト / 後期 月 5・6 ⇒ 196 頁)

【授業の目的】ドイツ語文法の基礎を学び、ドイツ語圏の文化や事情を知る。

【授業の概要】ペア授業のひとつであるが、この授業では主として文法説明, 練習問題, 読章からなる教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしていくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ語圏の文化や事情を紹介する。

【到達目標】1. 辞書を用いて簡単なドイツ語を読むことができ、初歩的なドイツ語作文ができるようになること。

【授業の計画】1. 導入 2. 動詞の 3 基本形・過去 3. 現在完了・過去完了 4. 話法の助動詞・未来 5. 形容詞の格変化・名詞化 6. zu 不定詞・man 7. 比較 8. 中間試験 9. 再帰代名詞 10. 非人称動詞 11. 受動・分詞 12. 関係詞・指示代名詞 13. 接続法 14. 接続法 (2) 15. 期末試験 16. 予備

表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についてもできるだけ多く紹介したい。

【キーワード】対話文、初級文法、現代ドイツ事情、テキストの読解

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心をもち、その一端を理解すること。

【授業の計画】1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。2. 第1-4回: 語学コース(不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形、名詞の3格) 3. 第5回: コラム～世界に誇るアウトバーン 4. 第6-9回: 学生食堂で(前置詞と名詞の格、副文) 5. 第10回: コラム～無賃乗車はダメ 6. 第11-14回: お医者さん(人称代名詞の3-4格、再帰代名詞と再帰動詞、名詞の2格) 7. 第15回: 期末試験 8. 第16回: 総括授業

【教科書】清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD付き](朝日出版社、2007年)(¥2,600+税)。

【参考書等】プリント教材・資料を配付することもある。

【成績評価の方法】平常点(=授業中の発表や私とのやりとりに対する評価)、中間試験、期末試験による。平常点が一定の比重を占めることになるであろう。

【再試験の有無】行う場合もある。

【受講者のメッセージ】せっかく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181213>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井(1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-18:00)

【備考】このクラスは、火曜日3・4講時の石川先生担当の「ドイツ語初級」とペアになっているので、両方のクラスを受講すること。ただし成績は各クラス別に出される。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(総科(総理))

ギュンター・ティルク・非常勤講師

1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語初級(総科(総理))桂 / 後期 木 1・2 ⇒ 197頁)

【授業の目的】今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基礎的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】1. 前期の復習 2. 住居(住宅、部屋、家具の位置) 3. 時刻と日付(時刻、時間、日付、1日の生活) 4. 私たちの大学1(大学の設備、ドイツの大学) 5. 私たちの大学2(道の案内、交通手段) 6. 休暇の前(休暇の計画、活動、場所) 7. 休暇の後(天気、日記など) 8. 中間テスト 9. ドイツの国・現代社会・文化について 2 10. 簡単なドイツ語のテキストを読む(1翻訳練習) 11. ドイツの歌のテキストの聞き取り 12. ドイツ旅行で役に立つ表現(1買い物) 13. ドイツ旅行で役に立つ表現(2ホテル、レストラン) 14. 期末試験のための準備 15. 期末テスト 16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】前期で使った教科書

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト、(イ)中間テスト、(ウ)期末テスト、(エ)授業への積極的な参加、(オ)出席。単位取得のためには(ア)～(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア～オ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。桂先生とのペア授業になっているので、必ず両方受講のこと。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになってくるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181209>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ギュンター。(オフィスアワー:毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】○木曜1・2講時の桂先生のクラスとペア授業になっているので、必ず両方受講のこと。○連絡先 学務課教育支援係(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(総科(総理))

桂 修治・教員

1単位 後期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語初級(総科(総理))ギュンター / 後期 火 3・4 ⇒ 197頁)

【授業の目的】外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱い、ヨーロッパのいくつかの都市を紹介します。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る、国際交流につながる学習

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話を理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の文化についての知識を深める

【授業の計画】1. ドイツ映画の現在. 話法の助動詞, 従属接続詞と副文 2. ドイツ映画の現在. 話法の助動詞, 従属接続詞と副文 3. ドイツ映画の現在. 話法の助動詞, 従属接続詞と副文 4. ドイツ人とパン. 形容詞の格変化, zu不定詞(句) 5. ドイツ人とパン. 形容詞の格変化, zu不定詞(句) 6. ドイツ人とパン. 形容詞の格変化, zu不定詞(句) 7. モーツァルトが作曲したイタリア・オペラ. (過去形, 再帰代名詞と再帰動詞) 8. モーツァルトが作曲したイタリア・オペラ. (過去形, 再帰代名詞と再帰動詞) 9. 負の遺産. 動詞の3基本形. 現在完了 10. 負の遺産. 動詞の3基本形. 現在完了 11. 負の遺産. 動詞の3基本形. 現在完了 12. チェコ語を守ったマリオンネット. (形容詞・副詞の比較, 関係代名詞) 13. チェコ語を守ったマリオンネット. (形容詞・副詞の比較, 関係代名詞) 14. チェコ語を守ったマリオンネット. (形容詞・副詞の比較, 関係代名詞) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】「クロイツング」(朝日出版社)

【参考書等】独和辞典を用意すること

【成績評価の方法】小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185532>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒桂(2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3.4時限および金曜5・6時限)

【備考】この授業は、月曜日7・8の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければなりません。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(医(医A))

曾田 紘二・教授/大学開放実践センター

1単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語初級(医(医A))井戸 / 後期 火 5・6 ⇒ 198頁)

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記、発音、文法、表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】 1. オリエンテーション, ドイツとドイツ語 2. 文字と発音 1 3. 文字と発音 2 4. ものについての問い方・答え方 5. 性 (gender) と冠詞, 練習問題 6. 不定詞と定動詞, 練習問題 7. 自己紹介の表現 1 8. 自己紹介の表現 2 9. 中間試験, 動詞の活用 1 10. 動詞の活用 2 11. 動詞の活用練習問題 12. 買い物の表現 1 13. 買い物の表現 2 14. 名詞の複数形, 練習問題 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 信岡資生他『新しいドイツ語の時間』第三書房, 2006年.

【成績評価の方法】 期末試験 5割, 中間試験 5割.

【再試験の有無】 再試験

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185537>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 曾田 (D305-1, 656-9867, soda@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~13時)

形 5. 同上, ドリル, ビデオ「環境先進国ドイツ」 6. 10課, 再帰代名詞・再帰動詞, 前置詞 7. 同上, ドリル 8. 11課, 形容詞の格変化, ビデオ「ベルリン」 9. 中間テスト 10. 12課, 比較, 映画「モモ」 11. 13課, 関係代名詞 12. 同上, ドリル 13. 14課, 受動態, 映画「黒い稲妻」 14. 復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 大岩信太郎『新正書法版・身につくドイツ文法』, 同学生社
- ◇ 前期に使用した教科書および辞書を持参のこと
- ◇ その他, 教材のプリントを配布します.

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します.

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 語学の習得には予習と復習が必要. 楽しく, そして, 根気よく!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181214>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 12時から13時まで 桂研究室(総合科学部1号館))

【備考】 この授業は, ドイツ語初級 (火曜 5・6 時限, 桂教員担当) とのペアクラスです.

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(医 (医 A))

井戸 慶治 准教授

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 (医 A)) 曾田 / 後期 月 9・10 ⇒ 197 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎的な諸表現を習得し, またドイツ事情に触れる.

【授業の概要】 ペア授業のひとつであるが, この授業では, 読章, 文法説明, 聞き取りなどの練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ. 知識を少しずつ確実にものにしてゆくため, 授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う. 時として, 視聴覚教材などを用いてドイツ事情, ドイツ文化を紹介する.

【到達目標】 ドイツ語文法の基本を理解し, 正しい発音と挨拶など初歩的な日常表現ができるようになること.

【授業の計画】 1. ゲッティンゲン 2. 形容詞の格変化と比較表現 3. メルヘン街道 4. 語法の助動詞 5. 縦続接続詞と副文 6. ヴァイマル 7. 動詞の三基本形と過去 8. 中間試験 9. 完了形 10. ライプツィヒ 11. 関係代名詞と指示代名詞 12. ベルリン 13. 再帰表現 14. フランクフルト 15. 期末試験 16. 予備

【教科書】 前期と同様, 宇佐美ほか: 「ドイツめぐり (ユーロ版)」 (朝日出版社).

【成績評価の方法】 中間試験, 期末試験, 平常点 (小テスト, 授業への取り組み方など) で総合的に評価する.

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 出席を怠らず, 課題をしっかりと果たすこと.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181210>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは火曜日16-17時とするが, それ以外でも在室の時は対応可. 研究室は, 総合科学部1号館南棟1階. Eメールでの質問も受けつける.)

【備考】 この授業は, 月曜日 9・10 の曾田先生の授業とペアになっており, 原則として両方を受けなければならない.

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(医 (医 B))

依岡 隆児 教授

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 (医 B)) 桂 / 後期 火 5・6 ⇒ 198 頁)

【授業の目的】 前期の内容を踏まえて, 初級文法を復習しながら, 簡単なドイツ語を読み, 書き, 聞き, 話すことができるようになること. また, ドイツ語圏の文化や社会についての知識を深めること.

【授業の概要】 初級ドイツ語の教科書を使用し, 基本的な文法事項を復習しながら, ドリル形式で練習し, 自然とドイツ語が身につくようにする. また, ビデオなどを適宜鑑賞しながら, ドイツ語圏の社会や文化に興味を喚起し, 国際人としての教養が身につくようにする.

【キーワード】 ドイツ語, 異文化理解, 比較文化

【到達目標】 ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに, 基本的なコミュニケーション能力を養うことと, ドイツ語圏の文化について理解を深めること.

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス, 前期の復習, ビデオ「ドイツ人がやってくる」 2. 8 課, 3 基本形, 過去形 3. 同上, ドリル 4. 9 課, 完了

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(医 (医 B))

桂 修治 教授

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 (医 B)) 依岡 / 後期 月 9・10 ⇒ 198 頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって, 私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます. この授業では, ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます. そして同時にそれらを応用し, さまざまなテキストを読み, ドイツの社会や文化を知ることが, もう一つの目的です.

【授業の概要】 この授業は, 学生生活や社会生活をテーマとした単元で構成されますが, それぞれの単元で, ドイツ語のテキストを読み, テーマに即した口頭表現を学びます. またビデオなども併用しながら, ドイツの人々の生活ぶり的一端を眺めてみましょう.

【キーワード】 ドイツ語学習, ドイツ語圏の文化を知る, 国際交流につながる学習

【到達目標】 ドイツ語の文構造の基礎知識を身につけ, 辞書を引いて簡単なテキストが読める. ドイツ語の簡単な発話を聞いて, 理解できる. ドイツ語を自信を持って音読できる.

【授業の計画】 1. 「病院でのインターンシップ」 (語法の助動詞, 未来形, 命令形) 2. 「病院でのインターンシップ」 (語法の助動詞, 未来形, 命令形) 3. 「病院でのインターンシップ」 (語法の助動詞, 未来形, 命令形) 4. 「学外実習に参加する」 (分離動詞, 非分離動詞, 接続詞) 5. 「学外実習に参加する」 (分離動詞, 非分離動詞, 接続詞) 6. 「学外実習に参加する」 (分離動詞, 非分離動詞, 接続詞) 7. 中間試験. 「メールを書く」 (動詞の 3 基本形, 過去人称変化) 8. 「メールを書く」 (動詞の 3 基本形, 過去人称変化) 9. 「メールを書く」 (動詞の 3 基本形, 過去人称変化) 10. 「招待を受ける」 (完了形) 11. 「招待を受ける」 (完了形) 12. 「スポーツについて」 (zu 不定詞, 再帰代名詞, 再帰動詞) 13. 「スポーツについて」 (zu 不定詞, 再帰代名詞, 再帰動詞) 14. 「音楽について」 (関係代名詞, 指示代名詞) 15. 期末試験 16. 後期授業のまとめ

【教科書】

- ◇ 「ユニ・プラッツ (大学広場)」 (同学生社)
- ◇ 辞書を持参のこと
- ◇ その他, 教材のプリントを配布します.

【成績評価の方法】 小テスト, レポート, 試験, 授業参加への所見などを総合して評価します.

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 この授業では, 授業のホームページを開設し, これを積極的に活用します. 授業の前後に, このページを何度も見て, 復習と予習を行ってください.

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181211>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 5・6 時限, 金曜 5・6 時限)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(歯 (歯))

ヘルベルト ウォルフガング・講師 / 総合科学部
1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (歯 (歯)) 桂 / 後期 火 9・10 ⇒ 199 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること、基礎文法を身につけること、ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。

【授業の概要】 ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、習慣、考え、ライフスタイルなどを紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】 話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、前期の復習 2. 飲食について: 食事、好物、ドイツ料理 3. レストランにて 1, メニューの読み方、複合語 4. レストランにて 2, 注文、支払い、チップなど 5. 旅、ホテルで使う表現 6. 道案内、前置詞の使い方 7. 交通手段、時刻、日付、小テスト 8. 平日と週末の予定、未来形 9. 手紙と葉書の書き方 10. 天気、気候、天気予報: 聞き取り練習 11. 体、健康について、話法の助動詞 12. 医者にかかる: 病気と治療の話 13. ドイツの祭り、祝賀、祝詞 14. ドイツ、オーストリーへの観光旅行と名所 15. 定期試験 16. ドイツ、オーストリー、スイス事情: 総論と討論

【教科書】 プリントなど

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、宿題、出席などで総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181208>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 15:30h-17:00h ヘルベルト研究室 (総合科学部 1号館中棟2階))

【備考】 外国語は新しい世界への扉だ。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(歯 (歯))

桂 修治 教授

1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (歯 (歯)) ヘルベルト / 後期 月 7・8 ⇒ 199 頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱います。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。

【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る、国際交流につながる学習

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の文化についての知識を深める

【授業の計画】 1. 「学校と大学」(従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞) 2. 「学校と大学」(従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞) 3. 「学校と大学」(従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞) 4. 「兵役」(話法の助動詞、未来の助動詞 Werden) 5. 「兵役」(話法の助動詞、未来の助動詞 Werden) 6. 「兵役」(話法の助動詞、未来の助動詞 Werden) 7. 「外国人」(形容詞の格変化、比較変化) 8. 「外国人」(形容詞の格変化、比較変化) 9. 「病院」(再帰代名詞、再帰動詞、非人称 es の用法、zu 不定詞の用法) 10. 「病院」(再帰代名詞、再帰動詞、非人称 es の用法、zu 不定詞の用法) 11. 「クリスマス」(動詞の三基本形、過去人称変化) 12. 「クリスマス」(動詞の三基本形、過去人称変化) 13. 「葬式」(現在完了、受動態) 14. 「葬式」(現在完了、受動態) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 ドイツ暮らしのスケッチ (朝日出版社)

【参考書等】 独和辞典を用意すること

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181219>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3.4時限および金曜5・6時限)

【備考】 この授業は、月曜日7・8の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければなりません。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

Elementary German

(薬 2(薬 2))

今井晋哉 准教授

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 本科目は、初級文法や口語表現、読解の最も基礎的な部分を学習した学生が、今までに学んだことを復習しながら、さらに聞き、読み、話し、書く力、つまりドイツ語の基礎を理解し、またドイツ語によって表現する能力を伸ばしていくことを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情の一端を紹介し、ドイツの社会や文化に対する関心を喚起できれば、と考えている。

【授業の概要】 前期に引き続き、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現や文章の内容をさらに理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を行いたい。具体的には、文法の説明やテキストの読解のほか、パートナーとの表現練習、口頭あるいは筆記による表現練習、教科書付属の CD/DVD を用いた聞き取り練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についてもできるだけ多く紹介したい。

【キーワード】 対話文、初級文法、現代ドイツ事情、テキストの読解

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、またドイツ語による基礎的な発信能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に対して関心をもち、その一端を理解すること。

【授業の計画】 1. 以下は、各回でとりあげる場面および関連文法項目を示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。2. 第 1-2 回: 前期の内容の復習など 3. 第 3-6 回: プレティックで (形容詞の格変化、比較級と最上級) 4. 第 7 回: コラム ~ 楽しいクリスマス 5. 第 8-10 回: フィリップの誕生日 (関係代名詞) 6. 第 11 回: コラム ~ WG って何? 7. 第 12-14 回: 帰国前 (接続法、非現実語法) 8. 第 15 回: 期末試験 9. 第 16 回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007 年)[¥2,600+税]。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付することもある。

【成績評価の方法】 平常点 (= 授業中の発表や私とのやりとりに対する評価)、中間試験および期末試験による。平常点が一定の比重を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講者へのメッセージ】 せっかく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。また、初級文法の復習も各自で必要に応じてやってほしい。なお、初回の授業時に指定の教科書を持参すること。1 年次に使用した教科書も捨てずにとっておいてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181220>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語 (2) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) 入学者)

German 2

井戸慶治 准教授

1 単位 後期 火 1・2

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (2)』)

【授業の目的】 1 年生の時に学習したドイツ語に対する理解を深めると同時に、ドイツの社会文化について知見を広める。

全学共通教育 (2009) 後期・【基盤形成科目群】・《ドイツ語》

【授業の概要】 教材としては適宜プリントを配布し、ドイツ文の和訳、ドイツ語作文、文法事項の復習と確認をおこなう。また、折に触れて視聴覚教材などを用いてドイツ語圏の文化や社会を紹介する。

【到達目標】 辞書を用いて、中級程度のドイツ文を理解できるようになること。

【授業の計画】 1. 導入と完了時称の復習 2. 森鷗外のこと 3. 関係代名詞、指示代名詞の復習 4. 第九の日本初演 5. zu 不定詞、分詞の復習 6. ブルーノ・タウトのこと 7. 再帰代名詞と非人称表現の復習 8. 中間試験 9. ドイツにおける日本学 10. 受動態の復習 11. ドイツ式サッカー 12. 命令形、比較表現の復習 13. ドイツにおける日本文化 14. 接続法の復習 15. ドイツの環境政策 16. 期末試験

【教科書】 適宜プリントを使用する。

【成績評価の方法】 授業への取り組みと中間試験・期末試験によって総合的に評価する。なお中間試験は、作文レポートに代えることもある。

【再試験の有無】 再試験は行わない

【受講者へのメッセージ】 1年次のドイツ語の所定単位を取得していること。出席を怠らず、課題はしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181160>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時)

【備考】 平成 16 年度以前 (保は 17 年度以前) 入学者対象科目

3.3 《フランス語》 (French)

フランス語 (French)
フランス語初級 (総科 (総科 A))
 Elementary French 田島 俊郎・教授
 1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 (総科 A)) 田島 / 後期 水 1・2
 ⇒ 201 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっていくはずですが、

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0, ⇒91 頁)

【到達目標】

1. 口頭での簡単な質問や意見の交換ができる。
2. 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】 1. 第 1 週 - 第 3 週 時間を言う、夏休みについて話す、意見を言う。 2. 第 4 週 - 第 6 週 半過去、自分について話す。 3. 第 7 週 - 第 9 週 未来の表現を学ぶ。 4. 第 10 週 - 第 12 週 提案する、断る、条件法。 5. 第 13 週 - 第 14 週 条件付きで賛成する、反対する、接続法。 6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験、総括授業

【教科書】 "Le francais passionnement 1", 第三書房, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。また、前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提に進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181290>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時20分~17時30分 総合科学部1号館北棟1階)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)
フランス語初級 (総科 (総科 A))
 Elementary French 田島 俊郎・教授
 1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 (総科 A)) 田島 / 後期 月 5・6
 ⇒ 201 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっていくはずですが、

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0, ⇒91 頁)

【到達目標】

1. 口頭での簡単な質問や意見の交換ができる。
2. 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】 1. 第 1 週 - 第 3 週 時間を言う、夏休みについて話す、意見を言う。 2. 第 4 週 - 第 6 週 半過去、自分について話す。 3. 第 7 週 - 第 9 週 未来の表現を学ぶ。 4. 第 10 週 - 第 12 週 提案

する、断る、条件法。 5. 第 13 週 - 第 14 週 条件付きで賛成する、反対する、接続法。 6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験、総括授業

【教科書】 "Le francais passionnement 1", 第三書房, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。また、前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提に進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181294>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー: □ (英) (日) 水曜日16時20分~17時30分 総合科学部1号館北棟1階)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)
フランス語初級 (総科 (総科 B))
 Elementary French バルカンフレッド・非常勤講師
 1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 (総科 B)) 長井 / 後期 木 1・2
 ⇒ 201 頁)

【授業の目的】 この授業では、簡単な文章を理解し、また簡単な文章で自己表現をできるようになるための技術を身につけることを目指します。

【授業の概要】 一人もしくは二人で書き話す訓練をします。前期の授業の続きです。

【キーワード】 フランス語、言語

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0, ⇒91 頁)

【到達目標】 簡単な質問を理解し、自分でも質問できるようになること。

【授業の計画】 1. 1~2 週:avoir+無冠詞名詞, c'est +形容詞, 前置詞と定冠詞の縮約 2. 3~5 週:第 1 群規則動詞 3. 6~8 週:その他の動詞 4. 9~11 週:その他の動詞, 近接未来 5. 12~14 週: 代名動詞, 補語人称代名詞, 複合過去 6. 15 週:後期試験 7. 16 週 :総括授業

【教科書】 オリヴィエ・ロリロード/小田涼『はてな君とフランス語でおしゃべり-コミュニケーションのためのメソッド』, 駿河台出版社, 2730 円。

【成績評価の方法】 毎月おこなう小テストと期末テストの成績をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 たくさんの方の受講を期待しています。楽しみながらフランス語を学びましょう。火曜 3-4 講時と木曜 1-2 講時の両方を受講してください。単位も両曜日まとめて認定されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181295>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ バルカン

フランス語 (French)
フランス語初級 (総科 (総科 B))
 Elementary French 長井 伸仁・准教授
 1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 (総科 B)) バルカン / 後期 火 3・4 ⇒ 201 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっていくはずですが、

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたりますが、とくに文法と読解に重点を置きます (会話はおもに火曜の授業でおこないます)。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちに

いても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語, 言語

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0, ⇒91 頁)

【到達目標】 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】 1. 1-3 週:買い物をする, 代名詞 2. 4-6 週: スケジュールをたてる, 代名動詞・受動態 3. 7-9 週: 過去のことを語る, 半過去 4. 10-12 週:紹介する, 単純未来 5. 13-14 週:別れを言う, 条件法・接続法 6. 15-16 週:期末試験・総括授業

【教科書】 『新・ジュタンプラス』(CD 付き), 朝日出版社, 2006 年, 2310 円 (ISBN:4-255-35174-0)

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し, 授業に持参してください(どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点(授業への取り組み, 小テストの得点)と学期末試験の得点をもとに, 総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業は火曜 3-4 講時の授業とセットであり(ペアクラスと呼ばれる制度です), どちらからの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。なお, 前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが, 授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181292>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
⇒ 長井 (3116-2,)

【備考】 火曜 3-4 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語初級
Elementary French

(医・歯・薬 (医歯薬))

長井 伸仁 准教授

1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (医・歯・薬 (医歯薬)) 長井 / 後期 月 9・10 ⇒ 202 頁)

【授業の目的】 フランス語は, フランスの他, ベルギー, スイス, カナダ, カリブ海諸島, アフリカなど, 世界の多くの地域で話されています。また, 言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では, フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは, 簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は, 文法, 読解, 作文, 会話のすべてにわたります。また, ことばだけでなく, ことばを話す人たちについても知ってもらうため, フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語, 言語

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0, ⇒92 頁)

【関連科目】 『フランス語/フランス語初級』(1.0, ⇒202 頁)

【到達目標】 簡単な質問や意見の交換が口頭でできる。過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】 1. 1-3 週:あいさつ, 動詞・代名動詞 2. 4-6 週:依頼する, 疑問詞・中性代名詞 3. 7-9 週:電話での表現, 複合過去・単純未来 4. 10-12 週:買い物をする, 半過去・大過去 5. 13-14 週:条件法・接続法 6. 15-16 週:期末試験・総括授業

【教科書】 阿南婦美代『私のホームステイ』(CD 付, 白水社, 2003 年, 2100 円, ISBN4-560-06070-3)

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し, 授業に持参してください(どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点(授業への取り組み, 小テストの得点)と学期末試験の得点をもとに, 総合的に評価します。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 この授業は月曜 9-10 講時の授業とセットであり(ペアクラスと呼ばれる制度です), どちらからの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。なお, 前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが, 授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。語学学習では, 受講生の意識と努力が成果に直結しますから, 積極的な態度で授業に臨んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181293>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,)

【備考】 月曜 9-10 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語初級
Elementary French

(医・歯・薬 (医歯薬))

長井 伸仁 准教授

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (医・歯・薬 (医歯薬)) 長井 / 後期 火 9・10 ⇒ 202 頁)

【授業の目的】 フランス語は, フランスの他, ベルギー, スイス, カナダ, カリブ海諸島, アフリカなど, 世界の多くの地域で話されています。また, 言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では, フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは, 簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は, 文法, 読解, 作文, 会話のすべてにわたります。また, ことばだけでなく, ことばを話す人たちについても知ってもらうため, フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語, 言語

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0, ⇒92 頁)

【関連科目】 『フランス語/フランス語初級』(1.0, ⇒202 頁)

【到達目標】 簡単な質問や意見の交換が口頭でできる。過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】 1. 1-3 週:あいさつ, 動詞・代名動詞 2. 4-6 週:依頼する, 疑問詞・中性代名詞 3. 7-9 週:電話での表現, 複合過去・単純未来 4. 10-12 週:買い物をする, 半過去・大過去 5. 13-14 週:条件法・接続法 6. 15-16 週:期末試験・総括授業

【教科書】 阿南婦美代『私のホームステイ』(CD 付, 白水社, 2003 年, 2100 円, ISBN4-560-06070-3)

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し, 授業に持参してください(どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点(授業への取り組み, 小テストの得点)と学期末試験の得点をもとに, 総合的に評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 この授業は火曜 9-10 講時の授業とセットであり(ペアクラスと呼ばれる制度です), どちらからの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。なお, 前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが, 授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。語学学習では, 受講生の意識と努力が成果に直結しますから, 積極的な態度で授業に臨んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181291>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,)

【備考】 火曜 9-10 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

3.4 《中国語》(Chinese)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (医・歯・工(栄化光)A)
Introductory Chinese 肖輝・非常勤講師/全学共通教育センター
 1単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音、基礎文法を学んだ上で、さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情などについて紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法(ピンイン)に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 発音編① 3. 発音編② 4. 発音編③ 5. 発音編④ 6. 発音テスト 7. 第1課 自己紹介 8. 第2課 これは何ですか? 9. 第3課 これはいかがですか? 10. 第4課 買い物 11. 中間テスト 12. 第5課 どこにありますか? 13. 第6課 何がありますか? 14. 第7課 何時に行きますか? 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一、劉穎『<新版>1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円(必ず購入すること)※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185648>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 肖輝 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (医・歯・工(栄化光)B)
Introductory Chinese 施国恩・非常勤講師
 1単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【キーワード】 コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第8課 ホテルのフロントで 2. 第9課 タクシーに乗る 3. 第10課 試着と支払い 4. 第11課 苦情を訴える 5. 第12課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第1課 北京に到着 8. 第2課 道を尋ねる 9. 第3課 買い物 10. 第4課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第5課 新しい友達 13. 第6課 外食 14. 第7課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一、劉穎『<新版>2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円(必ず購入すること)※前期のテキスト終了後、これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181138>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他、随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (医(保))
Introductory Chinese 荒武達朗・准教授
 1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第8課 ホテルのフロントで 2. 第9課 タクシーに乗る 3. 第10課 試着と支払 4. 第11課 苦情を訴える 5. 第12課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第1課 北京に到着 8. 第2課 道をたずねる 9. 第3課 買い物 10. 第4課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第5課 新しい友だち 13. 第6課 外食 14. 第7課 約束 15. 第8課 友だちに電話する 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一、劉穎『<新版>2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円※前期のテキスト終了後、これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 あり。

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185613>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】
 ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8時10分~8時40分。研究室は総合科学部一号館中棟三階の奥、或いはメールでアポイントメントを取る事。)

【備考】 ○ 学生諸君の向学心、新たな領域に踏み込む積極性を期待する。
 ○ 授業中の睡眠、内職、携帯電話の使用は叱責の対象である。心して授業に臨むこと。

中国語 (Chinese)
中国語入門 (工(建))
Introductory Chinese 山木真理子・非常勤講師/全学共通教育センター
 1単位 後期 金 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)
 (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第8課 ホテルのフロントで 2. 第9課 タクシーに乗る 3. 第10課 試着と支払い 4. 第11課 苦情を訴える 5. 第12課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第1課 北京に到着 8. 第2課 道を尋ねる 9. 第3課 買い物 10. 第4課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第5課 新しい友達 13. 第6課 外食 14. 第7課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一、劉穎『<新版>2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円(必ず購入すること)※前期のテキスト終了後、これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181140>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山本 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける.)

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける.)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (電 A))

肖輝・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし, そこから一歩進んだ会話ができるように, 日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情を紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第 8 課 ホテルのフロントで 2. 第 9 課 タクシーに乗る 3. 第 10 課 試着と支払い 4. 第 11 課 苦情を訴える 5. 第 12 課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第 1 課 北京に到着 8. 第 2 課 道を探ねる 9. 第 3 課 買い物 10. 第 4 課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第 5 課 新しい友達 13. 第 6 課 外食 14. 第 7 課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『< 新版 > 2 年生のコミュニケーション中国語』 (白水社) 2,200 円 (必ず購入すること) ※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と 「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185654>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける.)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (電 B))

邵迎建・教授

1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし, そこから一歩進んだ会話ができるように, 日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情を紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第 8 課 ホテルのフロントで 2. 第 9 課 タクシーに乗る 3. 第 10 課 試着と支払い 4. 第 11 課 苦情を訴える 5. 第 12 課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第 1 課 北京に到着 8. 第 2 課 道を探ねる 9. 第 3 課 買い物 10. 第 4 課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第 5 課 新しい友達 13. 第 6 課 外食 14. 第 7 課 約束 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『< 新版 > 2 年生のコミュニケーション中国語』 (白水社) 2,200 円 (必ず購入すること) ※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と 「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185656>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (機))

施国恩・非常勤講師

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし, そこから一歩進んだ会話ができるように, 日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情を紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第 8 課 ホテルのフロントで 2. 第 9 課 タクシーに乗る 3. 第 10 課 試着と支払い 4. 第 11 課 苦情を訴える 5. 第 12 課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第 1 課 北京に到着 8. 第 2 課 道を探ねる 9. 第 3 課 買い物 10. 第 4 課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第 5 課 新しい友達 13. 第 6 課 外食 14. 第 7 課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『< 新版 > 2 年生のコミュニケーション中国語』 (白水社) 2,200 円 (必ず購入すること) ※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と 「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181141>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 施 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける.)

中国語 (Chinese)

中国語入門

Introductory Chinese

(工 (生))

肖輝・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし, そこから一歩進んだ会話ができるように, 日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情を紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】 1. 第 8 課 ホテルのフロントで 2. 第 9 課 タクシーに乗る 3. 第 10 課 試着と支払い 4. 第 11 課 苦情を訴える 5. 第 12 課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第 1 課 北京に到着 8. 第 2 課 道を探ねる 9. 第 3 課 買い物 10. 第 4 課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第 5 課 新しい友達 13. 第 6 課 外食 14. 第 7 課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 塚本慶一, 劉 穎 『< 新版 > 2 年生のコミュニケーション中国語』 (白水社) 2,200 円 (必ず購入すること) ※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と 「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185655>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の前後 (または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語入門 (工 (知))
Introductory Chinese 山木 真理子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし, そこから一歩進んだ会話ができるように, 日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情を紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】1. 第 8 課 ホテルのフロントで 2. 第 9 課 タクシーに乗る 3. 第 10 課 試着と支払い 4. 第 11 課 苦情を訴える 5. 第 12 課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第 1 課 北京に到着 8. 第 2 課 道を探ねる 9. 第 3 課 買い物 10. 第 4 課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第 5 課 新しい友達 13. 第 6 課 外食 14. 第 7 課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業

【教科書】塚本慶一, 劉 穎 『新版』2 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200 円 (必ず購入すること) ※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181143>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山木 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

中国語 (Chinese)
中国語初級 (総科 (総科 A))
Elementary Chinese 田中 智行 准教授
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 (総科 A)) 肖 / 後期 水 1・2 ⇒ 205 頁)

【授業の目的】「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在, 世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが, 「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり, 国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門 (前期開講) に引き続き, 基本文型を学びます。文法を理解し, 少しずつ語彙を増やし, 簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため, 週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】1. ガイダンス・前期の復習 2. 8 課 3. 8 課 (続)・9 課 4. 9 課 (続) 5. 10 課 6. 10 課 (続)・11 課 7. 11 課 (続) 8. 中間試験 9. 12 課 10. 12 課 (続)・13 課 11. 13 課 (続) 12. 14 課 13. 14 課 (続)・15 課 14. 15 課 (続) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】劉穎・喜多山幸子・松田かの子 著 『1 冊めの中国語 講義クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】教員二名がそれぞれ別個に評価し, 合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50%を合計して評価します。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185618>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の 13~14 時とするが, 随時質問・相談可, 研究室は総合科学部 1 号館 3 階中棟 2320 (田中).)

【備考】中国語入門履修済みのこと。

中国語 (Chinese)
中国語初級 (総科 (総科 A))
Elementary Chinese 肖 輝 非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 (総科 A)) 田中 / 後期 月 5・6 ⇒ 205 頁)

【授業の目的】現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在, 世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち, 世界各地の華人社会の共通語であり, 国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門 (前期開講) に引き続き, 基本文型を学びます。文法を理解し, 少しずつ語彙を増やすことで, 簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため, 週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 第 7 課 3. 第 8 課 4. 第 9 課 5. 第 10 課 6. 復習 7. 中間試験 8. 第 11 課 9. 第 12 課 10. 第 13 課 11. 第 14 課 12. 第 15 課 13. 総復習 14. 朗読試験 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】劉穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊めの中国語一会話クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】教員二名がそれぞれ別個に評価し, 合算して最終的な評価を決定します。(肖)の評価方法: 平常点, 中間試験及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181154>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 肖 (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

【備考】中国語入門履修済みのこと

中国語 (Chinese)
中国語初級 (総科 (総科 B))
Elementary Chinese 肖 輝 非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 (総科 B)) 田中 / 後期 水 1・2 ⇒ 206 頁)

【授業の目的】現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在, 世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち, 世界各地の華人社会の共通語であり, 国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門 (前期開講) に引き続き, 基本文型を学びます。文法を理解し, 少しずつ語彙を増やし, 簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため, 週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 第 7 課 3. 第 8 課 4. 第 9 課 5. 第 10 課 6. 復習 7. 中間試験 8. 第 11 課 9. 第 12 課 10. 第 13 課 11. 第 14 課 12. 第 15 課 13. 総復習 14. 朗読試験 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】劉穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊めの中国語一会話クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い, 合算して最終的な評価を決定します。(肖)の評価方法: 平常点, 中間試験及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181145>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 肖。(オフィスアワー: 授業の前夜(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

【備考】中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級

Elementary Chinese

(総科(総科B))

田中智行 准教授

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級(総科(総科B))肖 / 後期 月 5・6 ⇒ 205 頁)

【授業の目的】「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】1. ガイダンス・前期の復習 2. 8 課 3. 8 課(続)・9 課 4. 9 課(続) 5. 10 課 6. 10 課(続)・11 課 7. 11 課(続) 8. 中間試験 9. 12 課 10. 12 課(続)・13 課 11. 13 課(続) 12. 14 課 13. 14 課(続)・15 課 14. 15 課(続) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 著『1 冊めの中国語 講読クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円
- ◇ 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50%を合計して評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181147>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中(総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】中国語入門 2 単位を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級

Elementary Chinese

(総科(総科C))

邵迎建 教授

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級(総科(総科C))肖 / 後期 木 1・2 ⇒ 206 頁)

【授業の目的】現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 第 7 課 3. 第 8 課 4. 第 9 課 5. 第 10 課 6. 復習 7. 中間考査 8. 第 11 課 9. 第 12 課 10. 第 13 課 11. 第 14 課 12. 第 15 課 13. 総復習 14. 朗読考査 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】劉穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊めの中国語—講読クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(邵)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181146>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵(yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)(オフィスアワー: オフィスアワーは一応水曜日の昼休みに設定するが、随時質問・相談可, 研究室は総合科学部 1 号館 3 階中棟(邵), E-Mail: shaoyingjian@yahoo.co.jp)

【備考】木 1:2 肖先生とペア。中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級

Elementary Chinese

(総科(総科C))

肖輝 非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級(総科(総科C))邵 / 後期 火 3・4 ⇒ 206 頁)

【授業の目的】現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 第 7 課 3. 第 8 課 4. 第 9 課 5. 第 10 課 6. 復習 7. 中間考査 8. 第 11 課 9. 第 12 課 10. 第 13 課 11. 第 14 課 12. 第 15 課 13. 総復習 14. 朗読考査 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】劉穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊めの中国語—会話クラス』(白水社, 2008 年)2,300 円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。

【成績評価の方法】二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(肖)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185657>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 肖。(オフィスアワー: 授業の前夜(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

【備考】中国語入門を履修済みのこと

中国語 (Chinese)

中国語初級

Elementary Chinese

(総科(総科D))

肖輝 非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級(総科(総科D))邵 / 後期 木 1・2 ⇒ 207 頁)

【授業の目的】現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるよう

になるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

- 【到達目標】** 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
- 【授業の計画】** 1. ガイダンス 2. 第7課 3. 第8課 4. 第9課 5. 第10課 6. 復習 7. 中間考査 8. 第11課 9. 第12課 10. 第13課 11. 第14課 12. 第15課 13. 総復習 14. 朗読考査 15. 期末試験 16. 総括授業
- 【教科書】** 劉穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1冊めの中国語一会話クラス』(白水社, 2008年)2,300円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。
- 【成績評価の方法】** 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(肖)の評価方法:平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講者へのメッセージ】** 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185617>
- 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**
⇒ 肖。(オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)
- 【備考】** 中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)
中国語初級
Elementary Chinese

(総科(総科D))
邵迎建・教授
1単位 後期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『中国語初級』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

(ペア指定: 中国語初級(総科(総科D))肖 / 後期 火 3・4 ⇒ 206頁)

- 【授業の目的】** 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。
- 【授業の概要】** 中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。
- 【到達目標】** 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
- 【授業の計画】** 1. ガイダンス 2. 第7課 3. 第8課 4. 第9課 5. 第10課 6. 復習 7. 中間考査 8. 第11課 9. 第12課 10. 第13課 11. 第14課 12. 第15課 13. 総復習 14. 朗読考査 15. 期末試験 16. 総括授業
- 【教科書】** 劉穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1冊めの中国語一講読クラス』(白水社, 2008年)2,300円。
- 【成績評価の方法】** 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(何)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講者へのメッセージ】** 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185658>
- 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)
- 【備考】** 火 3・4 肖先生とペア

中国語 (Chinese)
中国語初級
Elementary Chinese

(医・歯・薬(医歯薬))
田中智行・准教授, 准教授
1単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語初級』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

(ペア指定: 中国語初級(医・歯・薬(医歯薬))施 / 後期 火 9・10 ⇒ 207頁)

- 【授業の目的】** 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず

世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

- 【授業の概要】** 中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。
- 【到達目標】** 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
- 【授業の計画】** 1. ガイダンスと前期の復習 2. 11課 3. 11課(続)・12課 4. 12課(続) 5. 13課 6. 13課(続)・14課 7. 14課(続) 8. 中間試験 9. 15課 10. 15課(続)・16課 11. 16課(続)・17課 12. 17課(続) 13. 18課 14. 18課(続)・復習 15. 期末試験 16. 総括授業
- 【教科書】** 木村英樹・小野秀樹 著『北京の風』(白帝社, 2005年)2,700円, 辞書については授業で指示する(必ず購入すること)。
- 【成績評価の方法】** 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約15%, 中間試験約35%, 及び期末試験約50%を合計して評価します。
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講者へのメッセージ】** 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181156>
- 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**
⇒ 田中(総合科学部1号館2320号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問・相談可。研究室は総合科学部1号館3階中棟2320(田中)。)

中国語 (Chinese)
中国語初級
Elementary Chinese

(医・歯・薬(医歯薬))
施国恩・非常勤講師
1単位 後期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語初級』)
(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

(ペア指定: 中国語初級(医・歯・薬(医歯薬))田中・准教授 / 後期 月 9・10 ⇒ 207頁)

- 【授業の目的】** 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。
- 【授業の概要】** 中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。
- 【到達目標】** 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。
- 【授業の計画】** 1. 第8課 ホテルのフロントで 2. 第9課 タクシーに乗る 3. 第10課 試着と支払い 4. 第11課 苦情を訴える 5. 第12課 紛失届けを出す 6. 中間テスト 7. 第1課 北京に到着 8. 第2課 道を尋ねる 9. 第3課 買い物 10. 第4課 バスに乗る 11. 対話練習 12. 第5課 新しい友達 13. 第6課 外食 14. 第7課 約束 15. 期末テスト 16. 総括授業
- 【教科書】** 塚本慶一, 劉穎 『<新版>2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)2,200円(必ず購入すること)※前期のテキスト終了後、これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。
- 【成績評価の方法】** 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(施)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講者へのメッセージ】** 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181157>
- 【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**
⇒ 施。(オフィスアワー: 授業の前後(または授業中)他, 随時質問を受け付ける。)

3.5 《日本語》 (Japanese)

日本語 (Japanese Language)

日本語 2

Japanese Language 2

(留 (留))

遠藤 かおり・非常勤講師/国際センター

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語 (1)』)

【授業の目的】 大学生として生活していく上で、必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目指す。例えば、実際の講義やゼミでの演習などを想定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能すべてにおいて レベルアップすることを目的とする。またその獲得した能力を応用し、実際の場面で生かせるようにする。さらにその過程で、自らの日本語力で不足している技能を見極め、それを伸ばす意欲を高める。

【授業の概要】 テキストを中心に各課のテーマに沿って進めていく。内容は課ごとに異なるが、「読む」「聞く」「書く」「話す」のそれぞれの技能を伸ばすためのタスクを行う。また、テキストで学んだ知識を活用できるように実践的な活動も取り入れる。

【キーワード】 総合的な日本語 (「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能)、運用力、コミュニケーション能力

【関連科目】 『日本語/日本語 4』(0.5, ⇒208 頁), 『日本語/日本語 6』(0.5, ⇒208 頁), 『日本語/日本語 8』(0.5, ⇒208 頁), 『日本事情/日本事情 II』(0.5, ⇒158 頁), 『日本事情/日本事情 IV』(0.5, ⇒158 頁)

【到達目標】

1. 大学生活に必要な日本語力を身につける。
2. 大学で想定される様々なコミュニケーション場面で、身につけた日本語力を用いて、適切に対応することができる。
3. 自分に必要な日本語力を知り、学習方法が獲得できる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、レディネス (これまでの学習) ニーズ (これからの学習希望) 調査 2. 第 7 課:人前で自己紹介を含めたあいさつをする。 3. 第 7 課:人前で自己紹介を含めたあいさつをする。 4. 第 8・9 課:発表用のレジュメを作成する。 5. 第 8・9 課:発表用のレジュメを作成する。 6. 第 8・9 課:発表用のレジュメを作成する。 7. 第 12 課:スピーチの準備をし、発表する。 8. 第 12 課:スピーチの準備をし、発表する。 9. 第 12 課:スピーチの準備をし、発表する。 10. 第 13 課:討論の準備をし、発表する。 11. 第 13 課:討論の準備をし、発表する。 12. 第 13 課:討論の準備をし、発表する。 13. 第 14・15 課:公開討論の準備をし、発表する。 14. 第 14・15 課:公開討論の準備をし、発表する。 15. 第 14・15 課:公開討論の準備をし、発表する。 16. レポート・発表などのフィードバック

【教科書】 佐々木瑞枝他著 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(The Japan Times)2001 年 2,500 円

【成績評価の方法】 レポート、発表、授業中の小テスト、授業への取り組み状況などをもとに、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 日本で充実した大学生活を送るために、必要な日本語力を身につけましょう。実践的な活動も取り入れるので、積極的な授業への取り組みが必要とされます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181222>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 遠藤 (088-656-7491, 7kao-beeguru@kmd.biglobe.ne.jp) (オフィスアワー: 遠藤非常勤講師へは、連絡をとって各授業の前後の時間に相談すること。)

【備考】 緊急時の連絡先:三隅 (地域・国際交流プラザ内 国際センター, 088-656-7120)

日本語 (Japanese Language)

日本語 4

Japanese Language 4

(留 (留))

三隅 友子・教授/国際センター

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語 (2)』)

【授業の目的】 大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。「ジェンダー」の視点から、日本における「男らしさ」「女らしさ」さらに「自分らしさ」を検証する。

【授業の概要】 日本における男女の役割、期待される行動や表現を考える。特に、漫画、映画、歌、CM 等のサブカルチャーを取り上げ「ジェンダー=性」に対する考えを考察する。これらの生素材を日本語教材として「読む」「聞く」「話す」「書く」の力を伸ばす。

【キーワード】 ジェンダー、メディア、サブカルチャー、プレゼンテーション

【到達目標】

1. 大学に必要な読解能力を高め、語彙を増やす。
2. 様々な素材から日本語で情報を得る。
3. 自分の意見をまとめ、発表する力をつける。
4. 人の前でプレゼンテーションをする能力を伸ばす。

【授業の計画】 1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック)・ジェンダーとは? 2. ジェンダー論 3. 社会の中での男と女 4. 結婚と性別役割 5. 恋愛と結婚 6. 漫画の中のジェンダー① 7. 漫画の中のジェンダー② 8. 漫画の中のジェンダー③ 9. ドラマや映画のジェンダー① 10. ドラマや映画のジェンダー② 11. ドラマや映画のジェンダー③ 12. ドラマや映画のジェンダー④ 13. 雑誌や広告のジェンダー① 14. 雑誌や広告のジェンダー② 15. 自分で見つける日本社会のジェンダー調査報告会 16. まとめ 総括授業

【教科書】 無

【参考書等】 適宜プリント等の資料を配布します。

【成績評価の方法】 授業への取り組み、プレゼンテーションやマニュアル作りなどの課題をもとに、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 教室と外で、日本語で「読む」「聞く」「話す」「書く」の活動をたくさん行います。積極的に授業に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181224>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Gehrtz 三隅友子 新蔵キャンパス・国際センター 088-656-7120 misumi@isc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00)

【備考】 内容は、H17 のカリキュラム「日本語 2」

日本語 (Japanese Language)

日本語 8

Japanese Language 8

(留 (留))

三隅 友子・教授/国際センター

1 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語 (2)』)

【授業の目的】 大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。ニュースを含めた現代日本の時事問題を通して総合的な日本語力をつける。また日本語能力試験等の能力をつけたい受講者が多い場合にはその内容を加える予定である。

【授業の概要】 時事問題に関しては、NHK の番組「視点論点」からトピックを選び、番組の視聴と共にそれに関連した新聞雑誌の記事から情報を読み取る。さらに、自分の意見をまとめて書き、発表するといった総合的な日本語力をつける。

【キーワード】 メディア、ニュース、講義を聞く、提言を書く、外国人労働者

【到達目標】

1. ミニ・講義を理解する。
2. テーマに関連した文献を読む。
3. 自分の意見をまとめ、発表する力をつける。

【授業の計画】 1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック) 2. ミニ講義を聞く① 3. テーマに関連した文献を読む① 4. テーマに関して話し合い、意見を書く① 5. ミニ講義を聞く② 6. テーマに関連した文献を読む② 7. テーマに関して話し合い、意見を書く② 8. ミニ講義を聞く③ 9. テーマに関連した文献を読む③ 10. テーマに関して話し合い、意見を書く③ 11. ミニ講義を聞く④ 12. テーマに関連した文献を読む④ 13. テーマに関して話し合い、意見を書く④ 14. 自分にとってのテーマを選んだら調べ提言を書く 15. 発表会 (日本人を招いて) 16. まとめと発表会の振り返り

【教科書】 無

【参考書等】 講義のスクリプトや資料を適宜配布

【成績評価の方法】 出席、授業への取り組み、レポートや発表などの課題をもとに、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 日本語で「読む」「聞く」「話す」「書く」の活動をたくさん行います。予習復習も必要です。積極的に授業に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181229>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ Gehrtz 三隅友子 新蔵キャンパス・国際センター 088-656-7120 misumi@isc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00)

【備考】 H17 のカリキュラムでは授業科目:「日本語 4」

日本語 (Japanese Language)

日本語 6

Japanese Language 6

(留 (留))

大石 寧子・教授/国際センター

1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語 (1)』)

【授業の目的】 大学生として必要な日本語力を身に付ける。「読む」能力の向上をめざすと共に、レポートや小論文の書き方も身につける。

【授業の概要】 様々なタイプの文章の読解力を養うだけでなく、読み取りのテクニックを身に付ける。新しい語彙・表現の獲得も目指し、これらを元にレポートの書き方も習得する。また講義を受けるだけでなく、留学生同士、留学生と日本人学生のような組み合わせで、レポートの書き方や内容について意見を言い合うピアレスポンスの形態も取り込んで行う。

【キーワード】 「読み取り」の方法、語彙・表現の獲得、キーセンテンス・キーワード、ピア・レスポンス

【到達目標】

1. 論文、エッセイ、新聞記事、広告など様々なタイプの文の「読み取り方」を身に付ける。
2. より多くの語彙・文型・表現を身に付ける。
3. 自分の日本語力を見極め、不足している部分の学習方法を獲得する。
4. レポートの書き方を身につける。

【授業の計画】 1. 授業についてのオリエンテーション、受講者のレディネス(これまでの学習)調査(1回目) 2. 難易度をつけて、様々なタイプの文を対象として授業実施(読解演習、文型・語彙の復習または獲得、トピックに沿った調査・タスク、など)(2~9回目) 3. レポートの書き方、アンケートのとり方、グラフの見方、書き方などを実施(10~15回) 4. 総括授業(16回目)

【教科書】 随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業に対する取り組みやレポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 的確に内容が読み取れるようになりましょう。また、語彙や文型・表現を更に増やしましょう。前の授業を元に次の授業が展開するので、休まずに出席してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181227>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石寧子(徳島大学留学生センター oishi@isc.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 金曜日の9:30~12:00、但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します。)

3.6 《情報科学》 (Information Science)

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(医 (栄))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 コンピュータ初心者情報が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181041>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail: akiko@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(医 (看 A))

河原崎 貴光・准教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 近年、コンピュータは我々の生活環境に確実に浸透しつつあり、その重要性は加速度的に増してきている。このような状況において、コンピュータを使いこなす能力「コンピュータリテラシー」は欠かすことのできない必須技術となってきた。本授業では、実際にコンピュータを操作することによりコンピュータリテラシーを習得することを目的とする。また、実際の操作を通してコンピュータ及びそのネットワークの仕組みについても概観する。

【授業の概要】 コンピュータを利用した情報収集の仕方、情報のまとめ方、情報発信の仕方について講義・実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー、情報処理、インターネット

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 (1) 2. パソコンと Windows XP の基礎 (2) 3. ワードプロソフト Word 利用法 (1) 4. ワードプロソフト Word 利用法 (2) 5. ワードプロソフト Word 利用法 (3) 6. インターネットの基礎 (WWW ブラウザ利用法) 7. インターネットの基礎 (電子メール利用法) 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (1) 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (2) 10. プレゼンテーション発表会 (1) 11. プレゼンテーション発表会 (2) 12. 表計算ソフト Excel 利用法 (1) 13. 表計算ソフト Excel 利用法 (2) 14. 表計算ソフト Excel 利用法 (3) 15. ホームページの作成 (1) 16. 総括授業

【教科書】 「マスターしよう情報リテラシー」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 レポート及びプレゼンテーションの発表により評価する。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181051>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(医 (看 B))

中山 慎一・准教授

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 近年、コンピュータは我々の生活環境に確実に浸透しつつあり、その重要性は加速度的に増してきている。このような状況において、コンピュータを使いこなす能力「コンピュータリテラシー」は欠かすことのできない必須技術となってきた。本授業では、実際にコンピュータを操作することによりコンピュータリテラシーを習得することを目的とする。また、実際の操作を通してコンピュータ及びそのネットワークの仕組みについても概観する。

【授業の概要】 コンピュータを利用した情報収集の仕方、情報のまとめ方、情報発信の仕方について講義・実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 (1) 2. パソコンと Windows XP の基礎 (2) 3. ワードプロソフト Word 利用法 (1) 4. ワードプロソフト Word 利用法 (2) 5. ワードプロソフト Word 利用法 (3) 6. インターネットの基礎 (WWW ブラウザ利用法) 7. インターネットの基礎 (電子メール利用法) 8. インターネットの基礎 (ネチケットについて) 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (1) 10. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (2) 11. プレゼンテーション発表会 (1) 12. プレゼンテーション発表会 (2) 13. 表計算ソフト Excel 利用法 (1) 14. 表計算ソフト Excel 利用法 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 レポート及びプレゼンテーションの発表により評価する。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181042>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (t204_088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日(16:00-18:00))

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(医 (放検))

金西 計英・准教授 / 高度情報化基盤センター

2 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 現代生活にもはや欠かすことのできない「情報」について総合的に学習します。大学生生活において、学習・研究・プレゼンテーションなどに役立つ PC の利用法の基礎技術の習得を目的とする。最終的に PC を用いて統合的に情報を扱う方法を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 1. PC の基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト (OS) の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、また PC を用いて各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下での PC の統合的な情報の取り扱い方を身につける。

【キーワード】 情報リテラシー、セキュリティ、アルゴリズム、情報化社会、著作権

【関連科目】 『大学入門講座/大学入門講座 (医・保健)』(0.5, ⇒4 頁)

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PC の基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス、受講者登録、教室、施設、パソコン周辺機器の利用法 2. WWW ブラウザソフト・電子メールの利用者登録と利用法基礎 3. レポートの作成方法について (ワードをつかった文章作成) 4. 表計算ソフトの基本 (エクセルによる表作成) 5. 効果的なグラフの活用 (エクセルによるグラフ作成) 6. データ処理の基礎 (エクセルによる実験データ処理) 7. データベースの仕組み (アクセスによる住所録の作成) 8. データベースの使い方 (アクセスを使った実習) 9. インターネットのしくみ 10. WEB による情報発信 1(WEB ページ作成の基礎) 11. WEB による情報発信 2(WEB ページ作成の基礎) 12. プレゼンテーションの基本 (パワーポイントの基礎) 13. 効果的なプレゼンテーション (パワーポイントを用いた資料作成) 14. プレゼンテーション実習 (各自発表) 15. プレゼンテーション実習 (各自発表) 16. 総括授業

【教科書】教科書:「マスターしよう情報リテラシー」 学術図書出版社 1700 円

【参考書等】

- ◇ ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる (ちくま新書) 梅田望夫著
- ◇ ケータイを持ったサル「人間らしさ」の崩壊 (中公新書) 正高信男著
- ◇ 理科系の作文技術 (中公新書) 木下是雄著

【成績評価の方法】毎週の課題の提出状況とプレゼンテーション (発表) 実習から総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】高校で科目「情報」を履修していることを前提としています。講義は全て積み重ねが大事なので欠席すると追いつくための自習が必要。学部 1 年生のみ対象の講義。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181043>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金西 (院生棟 506, 088-656-7285, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(歯 (歯口))

河原崎 貴光 准教授

2 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】近年、コンピュータは我々の生活環境に確実に浸透しつつあり、その重要性は加速度的に増してきている。このような状況において、コンピュータを使いこなす能力「コンピュータリテラシー」は欠かすことのできない必須技術となってきた。本授業では、実際にコンピュータを操作することによりコンピュータリテラシーを習得することを目的とする。また、実際の操作を通してコンピュータ及びそのネットワークの仕組みについても概観する。

【授業の概要】コンピュータを利用した情報収集の仕方、情報のまとめ方、情報発信の仕方について講義・実習を行う。

【キーワード】情報リテラシー、情報処理、インターネット

【到達目標】現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】1. パソコンと Windows XP の基礎 (1) 2. パソコンと Windows XP の基礎 (2) 3. ワードプロソフト Word 利用法 (1) 4. ワードプロソフト Word 利用法 (2) 5. ワードプロソフト Word 利用法 (3) 6. インターネットの基礎 (WWW ブラウザ利用法) 7. インターネットの基礎 (電子メール利用法) 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (1) 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (2) 10. プレゼンテーション発表会 (1) 11. プレゼンテーション発表会 (2) 12. 表計算ソフト Excel 利用法 (1) 13. 表計算ソフト Excel 利用法 (2) 14. 表計算ソフト Excel 利用法 (3) 15. ホームページの作成 (1) 16. 総括授業

【教科書】「マスターしよう情報リテラシー」、学術図書出版社

【成績評価の方法】レポート及びプレゼンテーションの発表により評価する。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181052>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (化 A))

金西 計英 准教授 / 高度情報化基盤センター

2 単位 後期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】日常生活に欠かすことのできない「情報」について総合的に学習します。大学生活において、学習・研究・プレゼンテーションなどに役立つ PC 利用法の基礎技術の習得を目的とする。最終的に PC を用いて統合的に情報を扱う方法を身につけることを目的とする。

【授業の概要】1. PC の基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト (OS) の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、また PC を用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下での PC の統合的な情報の取り扱いを身につける。

【キーワード】情報リテラシー、セキュリティ、情報化社会、アルゴリズム、情報化社会

【関連科目】『大学入門講座/大学入門講座 (工・化学)』(0.5, ⇒6 頁)

【到達目標】現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PC の基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】1. ガイダンス、受講者登録、教室、施設、パソコン周辺機器の利用法 2. WWW ブラウザソフト・電子メールの利用者登録と利用法基礎 3. レポートの作成方法について (ワードをつかった文章作成) 4. 表計算ソフトの基本 (エクセルによる表作成) 5. 効果的なグラフの活用 (エクセルによるグラフ作成) 6. データ処理の基礎 (エクセルによる実験データ処理) 7. データベースの仕組み (アクセスによる住所録の作成) 8. データベースの使い方 (アクセスを使った実習) 9. インターネットのしくみ 10. WEB による情報発信 1(WEB ページ作成の基礎) 11. WEB による情報発信 2(WEB ページ作成の基礎) 12. プレゼンテーションの基本 (パワーポイントの基礎) 13. 効果的なプレゼンテーション (パワーポイントを用いた資料作成) 14. プレゼンテーション実習 (各自発表) 15. プレゼンテーション実習 (各自発表) 16. 総括授業

【教科書】教科書:「マスターしよう情報リテラシー」 学術図書出版社 1700 円

【参考書等】

- ◇ ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる (ちくま新書) 梅田望夫著
- ◇ ケータイを持ったサル「人間らしさ」の崩壊 (中公新書) 正高信男著
- ◇ 理科系の作文技術 (中公新書) 木下是雄著

【成績評価の方法】毎週の課題の提出状況とプレゼンテーション実習の結果から総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】高校で科目「情報」を履修していることを前提としています。講義は全て積み重ねが大事なので欠席すると追いつくための自習が必要。学部 1 年生のみ対象の講義。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181045>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金西 (院生棟 506, 088-656-7285, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工 (化 B))

松浦 健二 助教 / 高度情報化基盤センター

2 単位 後期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】パソコンが初めての学生を対象に、学習・研究・プレゼンテーションなどに役立つ小型計算機 (パソコン) 利用法の基礎技術の習得を目的とする。最終的に小型計算機を用いて統合的に情報を扱う方法を身につけることを目的とする。

【授業の概要】1. パソコンの基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト (OS) の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、またパソコンを用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下でのパソコンの統合的な情報の取り扱いを身につける。

【キーワード】情報リテラシー、セキュリティ、情報化社会

【関連科目】『情報科学/情報科学入門』(1.0, ⇒211 頁)

【到達目標】現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】1. ガイダンス、教室、施設、パソコン周辺機器の利用法 2. 情報社会と情報倫理 3. WWW ブラウザソフト・電子メールの利用者登録と利用法基礎 4. レポートの作成方法について (ワードをつかった文章作成) 5. 表計算ソフトの基本 (エクセルによる表作成) 6. 効果的なグラフの活用 (エクセルによるグラフ作成) 7. データ処理の基礎 (エクセルによる実験データ処理) 8. インターネットのしくみ 9. インターネット社会 10. WEB による情報発信 1(WEB ページ作成の基礎) 11. WEB による情報発信 2(WEB ページ作成の演習) 12. プレゼンテーションの基本 (パワーポイントの基礎) 13. 効果的なプレゼンテーション (パワーポイントを用いた資料作成) 14. プレゼンテーション実習 (前半発表) 15. プレゼンテーション実習 (後半発表) 16. 総括授業

【教科書】「情報科学入門-ソフト操作編」学術図書出版社

【参考書等】マイクロソフトオフィス 2003 利用に役立つ文献ならどれでも可

【成績評価の方法】毎週のレポート提出状況とプレゼンテーション (発表) 結果から成績判断を行う。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】パソコンが初めての学生を対象に講義する。学部 1 年生を対象とする講義で、演習を中心に進めます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181028>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 松浦 (院生棟 506, matsuuraa@ait.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月~ 木 8:30-9:30, 高度情報化基盤センター506室)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工(生A))

蓮沼 徹・准教授

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータを有効的に利用するための基礎的操作・技術の習得を目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらう。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 課題の説明とまとめ・発展

【教科書】 中山・掛井・伊藤・大橋 共著 「情報科学入門-ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポートとプレゼンテーションの発表により評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181053>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時20分~17時50分 総合科学部1号館1212室)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門

Introduction to Information Science

(工(光))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】 1. パソコンと Windows XP の基礎 2. ワードプロソフト Word の実習 1 3. ワードプロソフト Word の実習 2 4. ワードプロソフト Word の実習 3 5. インターネットの基礎 (ネチケット) 6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習 7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習 8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1 9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2 10. 表計算ソフト Excel の実習 1 11. 表計算ソフト Excel の実習 2 12. 表計算ソフト Excel の実習 3 13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3 16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門-ソフト操作編-」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181044>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail:akiko@ias.tokushima-u.ac.jp)

4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

統計学 ... (医・歯 ((医歯)A)) / 未定 / 後期 火 7・8	215
統計学 ... (医・歯 ((医歯)B)) / 守安 / 後期 火 7・8	215
統計学 ... (薬 (薬 2)) / 未定 / 後期 月 5・6	215
線形代数学 II ... (工 (建)) / 桑原 / 後期 水 1・2	215
微分積分学 II ... (工 (建)) / 伊藤 / 後期 金 3・4	215
微分積分学 II ... (工 (機 A)) / 宇野 / 後期 水 5・6	216
線形代数学 II ... (工 (機 A)) / 村上 / 後期 木 1・2	216
微分積分学 II ... (工 (機 B 電 A)) / 竹内 / 後期 水 5・6	216
線形代数学 II ... (工 (機 B 電 A)) / 大淵 / 後期 木 1・2	216
線形代数学 II ... (工 (化)) / 片山 / 後期 水 1・2	217
微分積分学 II ... (工 (化)) / 大沼 / 後期 金 3・4	217
線形代数学 II ... (工 (生)) / 大沼 / 後期 水 1・2	217
微分積分学 II ... (工 (生)) / 大橋 / 後期 金 3・4	218
微分積分学 II ... (工 (電 B)) / 未定 / 後期 水 5・6	218
線形代数学 II ... (工 (電 B)) / 蓮沼 / 後期 木 1・2	218
線形代数学 II ... (工 (知)) / 岡本 / 後期 月 7・8	218
微分積分学 II ... (工 (知)) / 伊藤 / 後期 水 7・8	219
線形代数学 II ... (工 (光)) / 小野 / 後期 月 7・8	219
微分積分学 II ... (工 (光)) / 片山 / 後期 火 5・6	219

基礎物理学

基礎物理学 II・物理学概論 ... (医 (医)) / 浦西 / 後期 火 3・4	220
基礎物理学 II・物理学概論 ... (歯 (歯)) / 浦西 / 後期 火 5・6	220
基礎物理学 g・電磁気学概論 ... (工 (化)) / 岸本 / 後期 水 5・6	220
基礎物理学 g・電磁気学概論 ... (工 (生)) / 金城 / 後期 水 7・8	220
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (知)) / 日置 / 後期 金 7・8	221

基礎物理学実験

基礎物理学実験 A ... (医・歯 ((医歯)A)) / 中山・小山・齊藤・伏見 / 後期 金 7・10	221
基礎物理学実験 B ... (医・歯 ((医歯)B)) / 中山・菅原・真岸・浦西 / 後期 水 7・10	221

基礎化学

基礎化学 II ... (医 (医)) / 伊藤 / 後期 木 5・6	223
基礎化学 I・物理化学 (化学平衡と反応速度論) ... (医 (栄)) / 今井 / 後期 木 1・2	223
基礎化学 IIA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) ... (歯 (歯)) / 三好 / 後期 月 5・6	223
基礎化学 II・原子と分子 ... (薬 (薬)) / 植野 / 後期 水 7・8	223
基礎化学 III・細胞生物化学の基礎 ... (薬 (薬)) / 山崎 / 後期 金 5・6	224
基礎化学概論 ... (工 (建)) / 村田 / 後期 木 1・2	224

基礎化学実験

基礎化学実験 ... (医 (栄)) / 増田・山本・山本・大西 / 後期 火 5・8	224
基礎化学実験 ... (工 (化 2)) / 三好・菊池・富山・林 / 後期 水 5・8	225

基礎生物学

基礎生物学 MII ... (医 (医)) / 六反・棚橋・河合 / 後期 月 5・6	226
基礎生物学 N ... (医 (栄)) / 金丸 / 後期 水 7・8	226
基礎生物学 H ... (医 (放検)) / 渡部 / 後期 水 1・2	226
基礎生物学 DII ... (歯 (歯)) / 細井 / 後期 木 3・4	226

基礎生物学実験

基礎生物学実験 A ... (医・歯 ((医歯)A))/山城/後期 水 7・10	227
基礎生物学実験 B ... (医・歯 ((医歯)B))/山城/後期 金 7・10	227

4.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学
Statistics

(医・歯 ((医歯)A))
未定名

1 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 統計学は、様々な実験科学・実証科学において、欠かすことのできない有用な道具として使われている。この講義では、統計学についての基本概念の理解と、実験や調査におけるデータ処理の基礎の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計的仮説検定を中心に、統計学の基本事項をなるべく難しい数学理論を用いなくて解説する。

【キーワード】 仮説検定、推定

【到達目標】 電卓と分布表を使って、仮説検定および推定ができるようになること

【授業の計画】 1. 授業の概要 2. データの整理 3. 確率変数と確率分布 (1) 4. 確率変数と確率分布 (2) 5. 母平均の検定 6. 母平均の差の検定 (1) 7. 母平均の差の検定 (2) 8. 母比率・母比率の差の検定 9. 適合度の検定 (1) 10. 適合度の検定 (2) 11. 独立性の検定 12. 点推定 13. 区間推定 (1) 14. 区間推定 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 鈴木義也・洲之内長一郎共著「すぐに役立つ統計」学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【受講者のメッセージ】 授業中に電卓 (四則と平方根の計算機能があればよい) を使用するので、準備しておいてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180895>

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学
Statistics

(医・歯 ((医歯)B))
守安一峰 教授

1 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 統計学は、様々な実験科学・実証科学において、欠かすことのできない有用な道具として使われている。この講義では、統計学についての基本概念の理解と、実験や調査におけるデータ処理の基礎の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計的仮説検定を中心に、統計学の基本事項をなるべく難しい数学理論を用いなくて解説する。

【キーワード】 仮説検定、推定

【到達目標】 電卓と分布表を使って、仮説検定および推定ができるようになること

【授業の計画】 1. 授業の概要 2. データの整理 3. 確率変数と確率分布 (1) 4. 確率変数と確率分布 (2) 5. 母平均の検定 6. 母平均の差の検定 (1) 7. 母平均の差の検定 (2) 8. 母比率・母比率の差の検定 9. 適合度の検定 (1) 10. 適合度の検定 (2) 11. 独立性の検定 12. 点推定 13. 区間推定 (1) 14. 区間推定 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 鈴木義也・洲之内長一郎共著「すぐに役立つ統計」学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【受講者のメッセージ】 授業中に電卓 (四則と平方根の計算機能があればよい) を使用するので、準備しておいてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180896>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時 守安研究室(総合科学部1号館2階))

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学
Statistics

(薬 (薬)2))
未定名

2 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 確率・統計についての基本概念の理解と、実験や調査などの基本的なデータ処理の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計学は、理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。この講義では、統計学の基礎となる確率と統計学の基本的な事項を難しい数学理論を用いなくて解説する。また、授業時間中に毎回問題演習を行い、基本的なデータ処理の計算に慣れる。

【キーワード】 確率、統計量、検定

【到達目標】 統計的推定と検定の考え方を理解し、分布表を用いて統計処理ができるようになる。

【授業の計画】 1. 授業の概要、確率 2. 条件付確率と独立 3. 確率変数と期待値 4. 確率分布 (1) 5. 確率分布 (2) 6. 中心極限定理と大数の法則 7. 母集団と標本 8. 母平均の区間推定 9. 母分散の区間推定 10. 母比率の検定 11. 母平均の検定 12. 母分散の検定 13. 等平均・等分散の検定 14. 適合度の検定 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書:森本, 大橋著「これならわかる確率・統計セミナー」, 学術図書出版

【成績評価の方法】 講義中に課す演習問題と期末試験によって評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業中に電卓 (四則と平方根の計算機能だけでよい) を使用するので、準備しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180894>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11:55~12:50, 研究室: 総合科学部1号館南2階, 質問等, 電子メールでも受け付ける。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II
Linear Algebra 2

(工 (建))

桑原 類史 教授

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 抽象的な線形空間の理論と、それに基づいた行列についてのより深い理論を扱う。さらに、線形写像と行列との関連、行列の固有値と固有空間、行列の対角化 (標準化) などを扱う。

【キーワード】 線形空間、線形写像、内積、固有値

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(0.9, ⇒110 頁)

【到達目標】 線形空間、線形写像の概念に基づき、ベクトル、行列の理解を深める。また、固有値や固有ベクトルを求め、行列の対角化 (標準化) が実行できる。

【授業の計画】 1. ベクトル 2. 部分空間、部分空間 3. ベクトルの 1 次独立性 4. 基底と次元 5. 線形写像 (1) 6. 線形写像 (2) 7. 線形写像と行列 8. 内積空間 (1) 9. 内積空間 (2) 10. 固有値と固有ベクトル (1) 11. 固有値と固有ベクトル (2) 12. 行列の対角化 (1) 13. 行列の対角化 (2) 14. 行列の対角化 (3) 応用 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

◇ 教科書: 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著「理工系の入門線形代数」学術図書出版社

◇ 参考書: 佐武一郎著「線型代数学」裳華房

【成績評価の方法】 期末試験、レポート、授業への取り組み状況などをとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満の者は再試験の受験資格なし。

【受講者のメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180908>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原 (総合科学部 1 号館 2 階 1223 号室, 088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15:00~17:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II
Calculus 2

(工 (建))

伊藤 正幸 教授

2 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義がなされる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 不定積分、2. 定積分、3. 広義積分、4. 重積分 である。

【キーワード】 多変数関数、定積分、重積分

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒113 頁)

【到達目標】

1. 基本的な定積分計算が出来、広義積分の意味を理解する。また応用上重要な各種重積分ができる。
2. 重積分を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】 1. 不定積分 2. 置換積分と部分積分 3. 有理式の積分 4. 不定積分の計算 5. 定積分 6. 定積分の基本性質 7. 定積分と不定積分 (微分積分学の基本定理) 8. 定積分の応用 9. 広義積分 10. 無限積分 11. 重積分 12. 2重積分と累次積分 13. 重積分の計算 14. 変数変換 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館
- ◇ 自習用参考書: 解析入門 I, II 杉浦光夫著 東大出版会

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者のメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。実際の積分計算には、微分計算と違い常に小さな発見を必要とする。したがって日頃の勉強習慣が必要でです。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180888>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日 12:00-12:45)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の2本の大きな柱の一つである。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの広い範囲で応用可能であるためである。この授業では、線形代数学についての基本概念の理解と、行列に関する計算力の習得を目的とする。

【授業の概要】 行列の標準化を中心に、基本事項を解説する。また、授業時間中に毎回問題演習を行い、行列の計算に慣れてもらう。

【キーワード】 対角化、標準化、基底

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(1.0, ⇒111 頁)

【到達目標】 固有値・固有空間を理解し、行列の標準化ができるようになること

【授業の計画】 1. 授業の概要 2. 数ベクトル空間 3. 行列の標準化 (1) 固有値・固有ベクトル 4. 行列の標準化 (2) 固有空間 5. 行列の標準化 (3) 行列の対角化 6. 行列の標準化 (4) 行列の m 乗 7. 行列の標準化 (5) ジョルダン標準形 (1) 8. 行列の標準化 (6) ジョルダン標準形 (2) 9. 行列の標準化 (7) 行列の m 乗 (対角化できない場合) 10. 行列の標準化 (8) 標準化の応用 11. 行列の標準化 (9) 標準化のまとめ 12. 線形空間 基底と次元 13. 線形写像 表現行列 14. 内積空間 グラム-シュミットの直交化法 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 守安一峰、小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」サイエンス社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180911>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村上 (1206, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 木曜日 12:00~13:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II

Calculus 2

(工 (機 B 電 A))

竹内 敏己 教授 / 工学部

2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 積分の基本的概念および積分の計算法を習得し、長さ、面積、体積を初めとする工学上の実際問題へ応用できる力を身につける。また、級数についての理解を深める。

【授業の概要】 微分積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである。本講義では、まず 1 変数関数の積分法について十分学んだ上で、2 変数関数の積分法および実際問題への応用について学ぶ。最後に、級数についての基本事項を学習する。

【キーワード】 積分、2重積分、級数

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒111 頁)

【到達目標】

1. 1 変数関数の積分法を理解し、計算法を習得する。
2. 2重積分を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】 1. 不定積分 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. 有理式の積分 5. 三角関数の積分 6. 無理式の積分 7. 定積分 8. 長さ、面積、体積 9. 無限級数 10. べき級数の微分と積分 11. 広義積分 12. 2重積分 13. 2重積分における積分変数の変換 14. 立体の体積、表面積 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書: 水本久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』 培風館
- ◇ 問題集: 水本久夫 『微分積分学問題集 改訂版』 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢や授業中に行う演習問題等の平常点と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 「微分積分学 I」の履修を前提とする。また、講義内容を確実に理解するには各自が普段から自主的な演習を行い復習を重ねることが必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180886>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 竹内 (A206, 088-656-7544, takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II

Linear Algebra 2

(工 (機 B 電 A))

大淵 朗 教授

2 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II

Calculus 2

(工 (機 A))

宇野 剛史 講師

2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は線形代数学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の両輪の如く基本的な学問分野となっている。本講義では数学の基本的教養の一翼を担う微分積分学それ自体の実体的、構造的、法則的理解をめざすと同時に数理学の基本的手法の習得をめざしたい。

【授業の概要】 本講義では、1 変数と多変数の関数のリーマン積分について講義する。

【到達目標】

1. リーマン積分の基礎的概念の意味を理解できる。
2. リーマン積分について構造的論理的に理解できる。
3. 発展的応用的問題への応用ができる。(自学自習による)

【授業の計画】 1. 不定積分の定義、置換積分法 2. 部分積分法、有理式の積分 3. その他の積分法 4. リーマン積分の定義 5. リーマン積分の基本性質 6. 定積分と不定積分の関係、定積分の計算 7. 平面図形の面積 8. 立体の体積、曲線の長さ 9. 有界でない関数の積分 10. 無限積分 11. 重積分、累次積分 12. 積分変数の変換 13. n 重積分 14. 曲面積 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 水本久夫著 「微分積分学の基礎 改訂版」 培風館

【成績評価の方法】 毎回の授業のまとめのレポートと期末試験の成績による総合評価

【再試験の有無】 無し

【受講者のメッセージ】 各自が主体的に演習問題に取り組んでもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180885>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宇野 (088-656-7294-3607, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 月曜~ 金曜 9:30~17:00 宇野研究室(総合科学部1号館2階))

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II

Linear Algebra 2

(工 (機 A))

村上 公一 准教授

2 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は微分積分学と並んで数学の基本的な両輪であり、自然科学や工学はもちろん、情報科学や社会科学な、どの多くの分野で広く用いられている数学的手法である。本授業の目的は線形代数学の基礎知識の習得であり、前期、「線形代数学 I」の続きである。

【授業の概要】前期に引き続き、線形写像と行列の関係及び行列の標準化について学習する。本講義では、定理や理論の証明の厳密性も留意しつつ、具体的な易しい例を織りまぜて、自然な形で線形代数学の基本的手法が修得できるようにするこ、とをめざす。

【到達目標】

1. 線形空間の基本的な概念を理解できるようになる。
2. 固有値、固有空間を求められるようになる。
3. 行列の標準化が計算出来るようになる。

【授業の計画】 1. 固有値と固有ベクトル 2. 行列の対角化 3. 行列の対角化の演習 4. Jordan の標準形 5. Jordan の標準形の演習 6. Jordan の標準形 7. Jordan の標準形の演習 8. 行列の m 乗の求め方について 9. 線形空間・ベクトルの一次独立性 10. 次元定理 11. 線形空間などに関する演習 12. 線形写像・同型写像 13. 表現行列と線形変換 14. 線形写像などに関する演習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 中原徹・片山真一『線形代数学入門』学術図書

【成績評価の方法】 学期末試験、レポート、中間試験、授業への取り組み状況などを基に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 10-15 分程度の僅かな時間でも良いですから、必ず講義の行われたその日のうちに復習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180912>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:木曜日3-4講時または昼休み(11:50-12:50)、大淵研究室(総合科学部1号館二階))としますが、この時間に拘る必要はありません。質問は原則として常に受け付けるように致します。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II

Linear Algebra 2

(工 (化))

片山真一 教授

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】本講義では、前期「線形代数学 I」に引き続き、将来、線形代数学を日常的に使う工学部の学生に対応した、線形代数学入門について講義する。数学的な構造だけでなく、将来の応用に耐え得る計算力を習得させることを目標とする。

【授業の概要】前期の「線形代数学 I」の講義内容を前提として講義するので、注意すること。特に線形写像、基底等の前期に比べて抽象度が高い線形構造を扱うので言葉を正しく理解して使えるようになることが大切になります。

【キーワード】ベクトル空間、線形写像、部分空間と基底、固有値

【先行科目】『基礎数学/線形代数学 I』(0.9, ⇒112 頁)

【到達目標】

1. ベクトル空間、線形写像の概念を理解し用語を正しく用いる。
2. 固有値や固有空間の計算が出来る。

【授業の計画】 1. ベクトル空間 2. ベクトル空間 3. 1 次独立と 1 次従属 4. 部分空間と次元 5. 1 次変換 6. 線形写像 7. 次元公式 8. 内積空間 9. シュミットの正規直交化法 10. 行列の固有値と固有ベクトル 11. 固有空間 12. 行列の対角化 13. 実対称行列の対角化 14. 行列の標準形 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 未定

【参考書等】「線形代数学」佐竹一郎著 裳華房

【成績評価の方法】 適宜課すレポートの提出内容、期末試験をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 線形代数の言葉をちゃんと理解して使えるように授業の復習と適宜課すレポートを欠かさないで行うようにしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180909>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:20-17:20 総合科学部1号館(片山研究室))

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II

Calculus 2

(工 (化))

大沼正樹 准教授

2 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義がなされる。便宜上、微分積分学 I においては主として微分法を、微分積分学 II においては積分法を学ぶ。本講義の主な項目としては、1 変数関数に関する不定積分、定積分、広義積分、定積分の応用、二重積分、多重積分、重積分の応用 を予定している。

【キーワード】微分積分

【先行科目】『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒112 頁)

【関連科目】『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒112 頁)

【到達目標】有理関数の積分など、基本的な計算ができ、広義積分の意味を理解する。また応用上重要な各種重積分ができる。

【授業の計画】 1. 不定積分 2. 有理関数の積分 3. 三角関数の積分 4. 定積分 5. 広義積分 6. 定積分の応用 7. 重積分の定義と計算 8. 重積分の変数変換 9. 広義の重積分 10. 多重積分 11. 重積分の応用 12. 級数の収束と発散 13. 正項級数 14. べき級数の微分と積分 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 江口正晃 他著『基礎微分積分学』学術図書出版社

【成績評価の方法】 受講姿勢、レポート等の平常点と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内での問題演習の時間をとることは困難なので各自で教科書の問題に取り組んで計算力をつけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180890>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期、金曜日 12:00~ 12:50 総合科学部1号館南棟2階1227室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II

Linear Algebra 2

(工 (生))

大沼正樹 准教授

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は、微分積分学と共に数学の基本であると同時に、様々な自然科学分野や工学の分野にとどまらず、経済学などの社会科学分野にも広い応用のある基本的な道具です。本講義では、具体的な計算を通して、線形性という概念に慣れ親しみ、ベクトル空間や線形写像の基本的な性質を使いこなせることをその目的とします。

【授業の概要】授業は主にテキストに沿って講義形式で行われます。始めに n 次元ユークリッド空間とその部分空間についての性質や構造を学習します。次に線形写像について学習します。その後行列の固有値と固有ベクトルについて学習し行列の対角化の方法とその応用について学習します。

【キーワード】ベクトル空間、線形写像、行列の固有値と固有ベクトル、行列の対角化

【先行科目】『基礎数学/線形代数学 I』(1.0, ⇒112 頁)

【関連科目】『基礎数学/線形代数学 I』(1.0, ⇒112 頁)

【到達目標】ベクトル空間、線形写像の概念を理解しその性質や構造を理解できる。また、行列の固有値および固有空間を求めることができる。

【授業の計画】 1. n 次元ユークリッド空間とその部分空間 2. 部分空間の生成系 3. 1 次独立と 1 次従属 4. 部分空間の次元と基底 5. 部分空間の次元と行列の階数 6. 基底と座標 7. 基底の変換 8. 線形写像の定義とその行列による表現 9. 線形写像の像と核 10. 線形変換 11. 内積空間 12. 固有値と固有ベクトル 13. 固有空間 14. 行列の対角化 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 戸田暢茂著「基礎線形代数学」学術図書出版社

【成績評価の方法】 受講姿勢とレポート提出物による平常点と期末試験の得点によって評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業内での問題演習の時間を多く取ることは困難なので各自で教科書の問や練習問題に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180910>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16時30分~ 17時30分 総合科学部1号館南棟2階1227室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II
Calculus 2

(工 (生))
大橋守 教授
2 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすもので、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠なものである。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、断片的な知識の習得のみならず、基礎概念がどのように形成されたかが明らかになるようにする。特に、微分積分学 II では、多変数関数の微分法と積分法の修得を目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義を行う。便宜上、微分積分学 I においては、主として 1 変数関数の微積分を学んだ。本講義では多変数関数の微分法と積分法の理解を深める。主な項目は、偏微分法と重積分である。なお余裕がある場合は級数についても述べる。

【キーワード】 偏微分法、重積分

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒112 頁)

【到達目標】 偏微分法とその応用が出来ること。重積分の意味を理解し、また応用上重要な各種重積分の計算ができる。

【授業の計画】 1. 多変数関数の極限 (1) 2. 多変数関数の極限 (2) 3. 偏導関数 (1) 4. 偏導関数 (2) 5. 高次偏導関数 6. 多変数関数の極値 7. 陰関数定理 8. 条件つき極値問題 9. 重積分 (1) 10. 重積分 (2) 11. 変数変換 12. 広義重積分 13. 重積分の応用 (1) 14. 重積分の応用 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 高桑昇一郎著『例題で分かる微分積分』培風館

【参考書等】 池辺信範、神崎正則、中村幹雄、緒方明夫著『微分積分学概説』培風館

【成績評価の方法】 受講態度、期末試験等を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 演習問題等を自分自身で考え、理解を深めてください。定理や公式の証明もきちんと理解するよう心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180891>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11:55~12:50, 研究室: 総合科学部1号館南2階, 質問等、電子メールでも受け付ける。)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II
Calculus 2

(工 (電 B))
未定名
2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は工学全般において基礎となる重要な学問の一つである。本講義は積分学について、その基礎概念の理解を深め、計算力ならびに応用力を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 近年の工学分野の発展において、微分積分学は重要な役割を果たしている。本講義では、高等学校で履修した数学との連携を保ちつつ、まず 1 変数関数の積分法の基礎事項の理解を深める。さらに 2 変数関数の積分法の理論と応用について学習し、最後に級数について学ぶ。

【キーワード】 積分、重積分、級数

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒113 頁)

【到達目標】

1. 1 変数関数の積分法を理解し、計算法を習得する。
2. 重積分法を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】 1. 不定積分 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. 有理式の積分 5. 三角関数の積分 6. 無理式の積分 7. 定積分 8. 長さ、面積、体積 9. 広義積分 10. 重積分 11. 重積分での積分変数の変換 12. 曲面積 13. 無限級数 14. ベキ級数の微分と積分 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】

- ◇ 教科書: 水本久夫『微分積分学の基礎 改定版』培風館
- ◇ 問題集: 水本久夫『微分積分学問題集 改定版』培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢、レポート等の提出物による平常点と期末試験の得点により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 講義時間内に問題演習をする時間を多くは取れません。講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180887>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から12時50分 総合科学部1号館南棟2階1220号室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II
Linear Algebra 2

(工 (電 B))
蓮沼徹 准教授
2 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで数学の基本であり、自然科学、工学、情報科学、社会科学などの様々な分野への応用をもっている。本講義では、線形代数学の基本的概念の理解と基本的手法の習得を目的とする。

【授業の概要】 授業は主に教科書に沿って(ただし、5章の前に6,7章を扱う)講義形式で行い、線形空間、線形写像、固有値、行列の標準化について解説する。また、演習の時間を設け、演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 線形空間、線形写像、固有値、行列の標準化

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(1.0, ⇒113 頁)

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(1.0, ⇒113 頁)

【到達目標】 線形空間、線形写像の概念を理解する。行列の固有値および固有空間を求めることができる。

【授業の計画】 1. 線形空間 2. 部分空間 3. ベクトルの 1 次独立性 4. 次元と基底 5. 次元の特徴付け 6. 線形写像 7. 像と核 8. 次元定理 9. 表現行列 10. 固有値と固有ベクトル 11. 固有空間 12. 行列の対角化 13. 行列の標準化 (2 次正方行列) 14. 行列の標準化 (3 次正方行列) 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 守安一峰・小野公輔 共著「理工系の線形代数入門」サイエンス社

【成績評価の方法】 期末試験、演習課題レポート、授業への取り組み状況をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業に積極的に取り組むようにしてください。予習・復習も心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180914>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時20分~17時50分 総合科学部1号館1212室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II
Linear Algebra 2

(工 (知))
岡本邦也 講師/工学部
2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 行列式、抽象線形空間、固有値問題等について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【到達目標】 固有値や固有空間の求め方を理解し、固有値問題に適用できること。また、線形空間の基本事項への理解を深めること。

【授業の計画】 1. 行列式の定義と性質 2. 余因子展開 3. 行列のランク再考 4. 抽象線形空間 5. 線形写像の行列表現 6. 基底変換 7. 固有値・固有ベクトル 8. 固有空間と一般化された固有空間 9. ハミルトン-ケリーの定理と最小多項式 10. 対角化可能のための十分条件 I(固有値が単根) 11. 対角化可能のための十分条件 II(正規行列) 12. ジョルダン標準形 13. 計量線形空間、直交基底 14. エルミート変換の固有値問題 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 松本和一郎著『線形代数入門』共立出版

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、期末試験、レポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【WEB 頁】 <http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180906>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 岡本(A212, TEL/FAX: 656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II
Calculus 2

(工 (知))
伊藤 正幸 教授
2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義がなされる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 不定積分、2・定積分、3. 広義積分、4. 重積分 である。

【キーワード】 多変数関数、定積分、重積分

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒113 頁)

【到達目標】

1. 基本的な定積分計算が出来、広義積分の意味を理解する。また応用上重要な各種重積分ができる。
2. 重積分を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】 1. 不定積分 2. 置換積分と部分積分 3. 有理式の積分 4. 不定積分の計算 5. 定積分 6. 定積分の基本性質 7. 定積分と不定積分 (微分積分学の基本定理) 8. 定積分の応用 9. 広義積分 10. 無限積分 11. 重積分 12. 2 重積分と累次積分 13. 重積分の計算 14. 変数変換 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館
- ◇ 自習用参考書-解析入門 I,II 杉浦光夫著 東大出版会

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。実際の積分計算には、微分計算と違い常に小さな発見を必要とする。したがって日頃の勉強習慣が必要で。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185626>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日 12:00-12:45)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II
Linear Algebra 2

(工 (光))
小野 公輔 准教授
2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 固有値問題、行列の標準化、線形空間、線形写像、内積空間の基本事項について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 線形代数学

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(1.0, ⇒113 頁)

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(0.5, ⇒113 頁)

【到達目標】 固有値や固有空間の求め方を理解し、固有値問題に応用できること。また、線形空間の基本事項への理解を深めること。

【授業の計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じて適宜その内容および進度に変更を加える。数ベクトル空間 1 2. 数ベクトル空間 2 3. 数ベクトル空間 3 4. 固有空間 1 5. 固有空間 2 6. 行列の対角化 7. 対角化の方法 8. 行列の m 乗の求め方 1 9. ジョルダン標準形 10. 標準化の方法 11. 行列の m 乗の求め方 2 12. 線形空間と線形写像 13. 部分空間 14. 線形性 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 『理工系の線形代数学入門』 守安一峰・小野公輔 共著 (サイエンス社)

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、期末試験、提出物などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験は、もう一度吟味を有する学生に対してのみ行う。
【受講者へのメッセージ】 再試験は、もう一度吟味を有する学生に対してのみ行う。遅刻は欠席扱いとする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180907>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 1225 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:月曜日昼休み時間 総合科学部 1 号館南棟2階1225室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II
Calculus 2

(工 (光))
片山 真一 教授
2 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は工学全般において基礎となる重要な数学の技術の 1 つである。前期の微分積分学 I に引き続き、本講義は積分について、その基礎概念の理解を深め、計算力を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、高等学校で履修した数学、前期の「微分積分学 II」に引き続き、1 変数関数の積分法の基礎事項の理解を深める。最後に 2 変数関数の積分法の理論と応用について学習する。

【キーワード】 不定積分、1 変数の定積分、重積分

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(0.9, ⇒114 頁)

【関連科目】 『基礎物理学/基礎物理学 f・力学概論』(0.5, ⇒117 頁)

【到達目標】 積分学についての基礎概念を理解し、1 変数関数の積分計算および重積分の計算ができる。

【授業の計画】 1. 微分と積分 2. 不定積分 3. 1 変数の定積分 4. 置換積分と部分積分 5. 定積分の応用 6. 広義積分 7. 定積分の応用 8. 2 重積分 9. 累次積分 10. 変数変換 1 11. 変数変換 2 12. 多重積分の計算 13. 広義の重積分 14. 重積分の応用 15. 定期試験 16. 総括授業

【教科書】 小竹・天羽共著「初等微積分」 牧野書店

【成績評価の方法】 随時行うレポートの提出内容、期末試験をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180884>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:20時~17:20時)

4.2 《基礎物理学》 (Basic Physics)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 II・物理学概論

General Physics 2

(医 (医))

浦西 佐々也・非常勤講師

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 生体を含む諸現象は多く電磁気力に支配されていて、生命活動の理解には電磁気学の理解が不可欠である。電磁気学を中心とする知識、考え方を修得することを目的とする。

【授業の概要】 電荷、電流、磁石が周囲に電場、磁場を作り、電磁場が電気、磁気を持つ物体と相互作用することを示す。簡単な、電磁現象の理解の積み重ねから、電磁場が従う法則、マクスウェルの電磁方程式を導き、その意味を考察する。

【キーワード】 電磁気力、電磁場、電位、電流、マクスウェルの電磁方程式

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学』(1.0, ⇒109 頁)

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(0.5, ⇒112 頁), 『基礎物理学実験/基礎物理学実験 A』(1.0, ⇒221 頁)

【到達目標】

1. 電磁気力を電場、磁場が電荷、磁荷、電流に及ぼす作用として理解する。
2. 電荷分布が作る電場を簡単な場合求めることができ、電荷と電場に関する一般法則について理解する。
3. 磁荷 (磁石)、電流分布が作る磁場について簡単な場合求めることができ、磁荷、電流と磁場との一般法則について理解する。
4. 電位と電場との関係を理解する。
5. マクスウェルの電磁方程式の物理的意味を理解する。

【授業の計画】 1. クーロンの法則と静電場 2. ガウスの法則 3. 電位と電位差 4. 導体とコンデンサー 5. 静電場のエネルギー 6. 定常電流と定常電流の保存則 7. 電流密度、電荷保存則 8. オームの法則とジュール熱 9. 磁場から荷電粒子、電流に働く力:ローレンツ力とアンペールの力 10. 電流が作る磁場:ビオ・サバールの法則 11. アンペールの法則 12. 物質中での電磁場 13. 変位電流とアンペール・マクスウェルの法則 14. 電磁誘導の法則 15. 学期末テスト 16. まとめ

【教科書】 『詳解物理学』, 原 康夫著, 東京教学社, 2002 年, 2310 円 (本体 2200 円)

【参考書等】 物理入門コース「電磁気学 I, II」, 長岡洋介著, 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストに小テスト, レポート, 演習点を加味する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 前期の力学は基礎となるので充分理解しておくこと。理解を進める一助としてなるべく多く小テストを行う。ベクトルを多用するので自信のない方は高校のテキストを復習しておくこと。また高校で物理を未履修の方は、高校テキストの電磁気の章を一読しておくことをお勧めする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180940>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 浦西 (オフィスアワー: 火曜日 PM3:00~ 総合科学部3号館2階実験準備室)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 II・物理学概論

General Physics 2

(函 (函))

浦西 佐々也・非常勤講師

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 生体を含む諸現象は多く電磁気力に支配されていて、生命活動の理解には電磁気学の理解が不可欠である。電磁気学を中心とする知識、考え方を修得することを目的とする。

【授業の概要】 電荷、電流、磁石が周囲に電場、磁場を作り、電磁場が電気、磁気を持つ物体と相互作用することを示す。簡単な、電磁現象の理解の積み重ねから、電磁場が従う法則、マクスウェルの電磁方程式を導き、その意味を考察する。

【キーワード】 電磁気力、電磁場、電位、電流、マクスウェルの電磁方程式

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学』(1.0, ⇒109 頁)

【関連科目】 『基礎物理学実験/基礎物理学実験 A』(1.0, ⇒221 頁), 『基礎数学/線形代数学 I』(0.5, ⇒113 頁)

【到達目標】

1. 電磁気力を電場、磁場が電荷、磁荷、電流に及ぼす作用であることを理解する。
2. 電荷分布が作る電場を簡単な場合求めることができ、電荷と電場に関する一般法則について理解する。
3. 磁荷 (磁石)、電流分布が作る磁場について簡単な場合求めることができ、磁荷、電流と磁場との一般法則について理解する。
4. 電位と電場との関係を理解する。
5. マクスウェルの電磁方程式の物理的意味を理解する。

【授業の計画】 1. クーロンの法則と静電場 2. ガウスの法則 3. 電位と電位差 4. 導体とコンデンサー 5. 静電場のエネルギー 6. 定常電流と定常電流の保存則 7. 電流密度、電荷保存則 8. オームの法則とジュール熱 9. 磁場から荷電粒子、電流に働く力:ローレンツ力とアンペールの力 10. 電流が作る磁場:ビオ・サバールの法則 11. アンペールの法則 12. 物質中での電磁場 13. 変位電流とアンペール・マクスウェルの法則 14. 電磁誘導の法則 15. 学期末テスト 16. まとめ

【教科書】 『詳解物理学』, 原 康夫著, 東京教学社, 2002 年, 2310 円 (本体 2200 円)

【参考書等】 物理入門コース「電磁気学 I, II」, 長岡洋介著, 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストに小テスト, レポート, 演習点を加味する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 前期の力学は基礎となるので充分理解しておくこと。理解を進める一助としてなるべく多く小テストを行う。ベクトルを多用するので自信のない方は高校のテキストを復習しておくこと。また高校で物理を未履修の方は、高校テキストの電磁気の章を一読、しておくことをお勧めする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180941>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 浦西 (オフィスアワー: 火曜日 PM 3:00 ~ 総合科学部3号館2階実験準備室)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 g・電磁気学概論

Electricity and Magnetism

(工 (化))

岸本 豊・教授/工学部

2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 学部における専門教育を理解する上で必要となる基礎的な電磁気学的知識及びその考え方を拾得するとともに、応用能力を身につけることを目的とする。基礎的な電磁気現象を中心にそれらの数学的記述法を理解する。

【授業の概要】 静電場、定常電流、電流と磁場、電磁誘導等の身近な電磁気現象の考察により、その現象を記述する法則を説明する。そこに現れる電磁気現象の多くは高校物理で既に取り扱われているが、より一般的な定式化を行い、電磁場を支配するマクスウェルの方程式の導入部分までを講義する。

【キーワード】 電場、ガウスの法則、磁場

【到達目標】

1. 電磁気現象を理解し、それを記述する法則を理解する。
2. 法則を用いて、簡単な応用例を解くことが出来る。

【授業の計画】 1. はじめに 2. クーロンの法則と静電場 3. ガウスの法則 4. 静電位 5. 電気容量 6. 定常電流と電気抵抗 7. 定常電流のつくる静磁場 8. アンペールの法則 9. まとめ I-静電場および静磁場の基本法則 10. 電磁誘導 11. 準定常電流 12. 変位電流 13. マクスウェルの方程式と電磁波 14. まとめ II 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 D. ハリディ他, 野崎光昭監訳, 物理学の基礎 [3] 電磁気学, 培風館

【成績評価の方法】 期末試験 (70%), および授業への取り組み状況 (30%) で評価する。なお、授業のまとめを兼ねてレポートも課し試験点数に加える。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 基本的な電磁気現象を中心にさまざまな法則などが導かれる過程に重点を置き、初歩的な微積分学による数学的な記述を交えながら話を進める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180936>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 岸本 (A 棟 202, 088-656-7548, yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 16:00-17:30)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 g・電磁気学概論

Electricity and Magnetism

(工 (生))

金城 辰夫・非常勤職員

2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 我々の周りに見られる様々な電気的・磁気的現象を理解し、その背後にある基本的な法則を学ぶ。

【授業の概要】 前期に学んだ基礎物理学・力学概論での力の作用をもとにして、まず、電気における力のはたらき方、電気的な力場である電場の考え方、電気的位置エネルギーである電位について学ぶ。次に、電気回路の素子であるコンデンサー、電気の流れである電流、抵抗器について解説する。さらに、磁気の間力、磁場、電流のつくる磁場について学ぶ。また、電磁誘導、電磁波についても述べる。

【キーワード】 静電場、電流と磁場、電磁誘導、電磁波

【先行科目】 『基礎物理学/基礎物理学 f・力学概論』(1.0, ⇒117 頁), 『高大接続科目/物理学』(1.0, ⇒9 頁), 『高大接続科目/数学』(1.0, ⇒9 頁)

【到達目標】

1. 電気的、磁気的現象を理解し、それを表現する法則を理解できる。
2. 法則を用いて計算をおこない、現象を数値的に表せる。

【授業の計画】 1. 電気量、電気力とクーロンの法則 2. 電場 3. ガウスの法則 4. 電位 5. コンデンサーと静電容量 6. コンデンサーの接続 7. 誘電体 8. 電流とオームの法則 9. 抵抗の接続、キルヒホフの法則 10. 磁石と磁場 11. 定常電流のつくる磁場、アンペールの法則 12. 電磁誘導 13. 交流 14. 電磁波 15. 期末試験 16. 総括(まとめ)

【教科書】 小出昭一郎著「物理学」(三訂版) 裳華房 2,310 円

【参考書等】 参考書: 竹内淳著「高校数学でわかるマクスウェル方程式」講談社ブルーバックス 860 円

【成績評価の方法】 レポート、期末試験、受講態度により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有(但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者のメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、そのような予備知識がなくても理解できるように平易に解説する。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180937>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金城 (オフィスアワー: 木曜日11時50分~12時50分工学部M棟119号室)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論
Mechanics

(工(知))

日置 善郎 教授

2 単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)
(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 力学は現代科学の基礎である物理学の出発点である。この講義の目的は、その力学の基本的な構成をわかりやすく解説することである。

【授業の概要】 力学を記述するために必要なベクトルおよびその微分積分を整理し、力学の基礎である運動の法則を学ぶ。次にその応用を通じて理解を深め、力学的エネルギー保存則へと話を進める。続いて、角運動量とそれを土台とした惑星の運動を扱ったのち、より現実的な題材である多体系および剛体の力学の初歩を解説する。

【キーワード】 ベクトル、運動の法則、運動方程式、運動量保存則、力学的エネルギー保存則、角運動量保存則、剛体

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0, ⇒113 頁), 『高大接続科目/数学』(1.0, ⇒9 頁), 『高大接続科目/物理学』(1.0, ⇒9 頁)

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 II』(0.5, ⇒215 頁)

【到達目標】

1. 運動方程式を理解し、その簡単な応用が出来るようになること。
2. 運動量、力学的エネルギー、角運動量とその保存則について理解すること。
3. 多体系および剛体の運動を扱う基本的な方法を理解すること。

【授業の計画】 1. 物理量とベクトル 2. 運動の法則 3. 運動量保存則・力積 4. 自由落下(空気抵抗のない場合) 5. 自由落下(空気抵抗がある場合) 6. 放物運動 7. 単振動 8. 仕事とエネルギー 9. 偏微分と全微分 10. 力学的エネルギー保存則 11. ベクトル積(外積)と角運動量 12. 角運動量保存則 13. 惑星の運動 14. 多体系と剛体の力学 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 自製テキスト使用(詳しい説明は第 1 回目に行う)

【成績評価の方法】 レポート・小テスト・受講態度・期末試験を総合して判定する。詳しい説明は第 1 回目の講義において行う。なお、言うまでもないことだが、講義中の私語・携帯電話の使用などは厳禁する。これが守れない受講者は、その時点までの成績には一切無関係に、その場で再受講とする。

【再試験の有無】 有(但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者のメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、しかしそのような予備知識は前提としない。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185627>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 日置(総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

基礎物理学実験 (Basic Physics Experiments)

基礎物理学実験 A
Laboratory Physics

(医・歯((医歯)A))

中山 信太郎 教授, 小山 晋之 教授
齊藤 隆仁 准教授, 伏見 賢一 准教授
2 単位 後期 金 7・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学実験』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 物理学は、数多くの実験事実から法則性を見出し、仮説法則を実験的に確かめながら体系化されてきた。その過程が物事の探求の仕方(方法論)として確立された。一方で今日、医学・歯学の分野でも物理的な原理を応用した機器が多数利用されるようになってきている。この授業では、実験を通じて基礎的な物理現象および法則性について理解を深め、基本的な計測機器の取扱いを修得し、科学的方法論を体得することを目的とする。

【授業の概要】 自然科学においては、現象に伴う量を定量的に測定し、その測定値の精度や誤差を評価する必要がある。その方法を学んだ後、以下に示す基本的な物理現象について実験を行い、その現象や法則性について理解を深める。(1)力学: 斜面、単振り子 (2)熱: 熱の仕事等量、緩和現象 (3)波動: 気柱の共鳴、屈折率、光の干渉 (4)電気と磁気: 円電流と磁気双極子、電気抵抗の温度変化、電気回路の基礎 (5)現代物理: 半導体の特性、電子の比電荷、プランク定数、放射線の特性。

【キーワード】 物理学実験

【到達目標】

1. 基本的測定機器の原理を理解し、その取り扱いができる。
2. 測定値の精度や誤差を評価できる。
3. 物理法則と測定結果から物理現象の考察ができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、測定と誤差 (1) 2. 測定と誤差 (2) 3. 基本測定 1(棒の密度の測定) 4. 基本測定 2(エレクトロニクス) 5. パソコンによるデータ処理 6. 誤差の分布 7. 実験の解説 8. 実験 1 9. 面接 1 10. 実験 2 11. 面接 2 12. 実験 3 13. 実験予備日 14. 実験 4 15. 面接試験 16. 総括

【教科書】 「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編

【参考書等】 基礎物理学の教科書

【成績評価の方法】 出席して、実験を行い、レポートを提出する。提出されたレポートについての面接試験を行う。これらをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 指定の実験ノート、グラフ用紙、電卓、フロッピーディスクまたは USB フラッシュメモリを準備する。

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185628>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山(1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月~金 17:30~18:00)

⇒ 小山(総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 齊藤(総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 11:55~12:50)

⇒ 伏見(総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

基礎物理学実験 (Basic Physics Experiments)

基礎物理学実験 B
Laboratory Physics

(医・歯((医歯)B))

中山 信太郎 教授, 菅原 仁 准教授
真岸 孝一 准教授, 浦西 佐々也 非常勤講師
2 単位 後期 水 7・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学実験』)

(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 物理学は、数多くの実験事実から法則性を見出し、仮説法則を実験的に確かめながら体系化されてきた。その過程が物事の探求の仕方(方法論)として確立された。一方で今日、医学・歯学の分野でも物理的な原理を応用した機器が多数利用されるようになってきている。この授業では、実験を通じて基礎的な物理現象および法則性について理解を深め、基本的な計測機器の取扱いを修得し、科学的方法論を体得することを目的とする。

【授業の概要】 自然科学においては、現象に伴う量を定量的に測定し、その測定値の精度や誤差を評価する必要がある。その方法を学んだ後、以下に示す基本的な物理現象について実験を行い、その現象や法則性について理解を深める。(1)力学: 斜面、単振り子 (2)熱: 熱の仕事等量、緩和現象 (3)波動: 気柱の共鳴、屈折率、光の干渉 (4)電気と磁気: 円電流と磁気双極子、電気抵抗の温度変化、電気回路の基礎 (5)現代物理: 半導体の特性、電子の比電荷、プランク定数、放射線の特性。

【キーワード】 物理学実験

【到達目標】

1. 基本的測定機器の原理を理解し、その取り扱いができる。
2. 測定値の精度や誤差を評価できる。
3. 物理法則と測定結果から物理現象の考察ができる。

【授業の計画】 1. オリエンテーション、測定と誤差 (1) 2. 測定と誤差 (2) 3. 基本測定 1(棒の密度の測定) 4. 基本測定 2(エレクトロニクス) 5. パソコンによるデータ処理 6. 誤差の分布 7. 実験の解説 8. 実験 1 9. 面接 1 10. 実験 2 11. 面接 2 12. 実験 3 13. 実験 予備日 14. 実験 4 15. 面接試験 16. 総括

【教科書】 「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編

【参考書等】 基礎物理学の教科書

【成績評価の方法】 出席して、実験を行い、レポートを提出する。提出されたレポートについての面接試験を行う。これらをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 指定の実験ノート、グラフ用紙、電卓、フロッピーディスクまたは USB フラッシュメモリを準備する。

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180943>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月～金 17:30～18:00)
- ⇒ 菅原 (総合科学部 3 号館 1N06, 088-656-7229, sugawara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12:00-13:00 (これ以外でも教官室にいれば出来るだけ対応します))
- ⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 浦西 .

4.3 《基礎化学》 (Basic Chemistry)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 II (医 (医))
Basic Chemistry 2 伊藤 孝司・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

- 【授業の目的】** 医学部医学科の学生が専門教育を受けるに当たって知っておくべき生体成分に関する有機化学的・生物化学的事項の修得を目的とする。
- 【授業の概要】** 主要成分である糖質、タンパク質、脂質、核酸についてその化学構造、反応性などの基礎的事項を講義する。
- 【キーワード】** 生体成分、アミノ酸、ペプチド、糖質、脂質、核酸
- 【先行科目】** 『基礎化学/基礎化学 II・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』(0.5, ⇒118 頁)
- 【到達目標】** 1. 糖質の化学 2. タンパク質の化学 3. 脂質の化学 4. 核酸の化学 の基礎を理解する。
- 【授業の計画】** 1. 有機化学の基礎 1 2. 有機化学の基礎 2 3. 有機化学の基礎 3 4. 有機化学の基礎 4 5. タンパク質・ペプチドの化学 1 6. タンパク質・ペプチドの化学 2 7. 糖質化学の基礎 8. 複合糖質の生化学 1 9. 複合糖質の生化学 2 10. 糖鎖科学の基礎と応用 11. 核酸の化学 1 12. 核酸の化学 2 13. 脂質の構造と機能 1 14. 脂質の構造と機能 2 15. 脂質の構造と機能 3
- 【教科書】** 教科書は特に指定しない。プリントなどの資料を準備するが、参考書などについては適宜、指示する。
- 【成績評価の方法】** 出席、期末テストの成績を基に評価する。
- 【再試験の有無】** 有り
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180859>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**
⇒ 伊藤孝司, Tel: 088-633-7290, E-mail: kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 I・物理化学 (化学平衡と反応速度論) (医 (栄))
Basic and Physical Chemistry (Chemical Equilibrium and Kinetics)
今井 昭二 教授
2 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

- 【授業の目的】** 理系学科に入学した学生が、今後必要だと考えられる厳選した無機化学および物理化学の基本的な内容について理解し、専門科目の基礎となることを目的とする。
- 【授業の概要】** 原子、イオン、分子、化学結合、物質の三態、化学平衡、反応速度、エンタルピー、エントロピー、無機化合物などについて理系学科の学生の基礎となる内容について講義する。
- 【キーワード】** 化学熱力学、反応速度、化学平衡、化学基礎
- 【到達目標】**
1. 化学熱力学、化学平衡、反応速度論の基礎を理解し応用ができること
2. 無機化合物について知識を得ること
3. 物質の三態、化学結合の基礎を理解し応用ができること
- 【授業の計画】** 1. 原子と周期律:原子構造、イオン化ポテンシャル、電子親和力、電気陰性度 2. 化学結合:イオン結合、共有結合、配位結合、水素結合、分子間力 3. 物質の三態:固体、気体、液体 4. 溶液の構造と物性:相転移、沸点上昇、凝固点降下、相図 5. 溶液:酸塩基、加水分解、緩衝溶液、pH と溶存イオン種の関係 6. 溶液:溶解度、溶解平衡、溶解度積と沈殿生成 7. 酸化還元平衡:酸化と還元、酸化還元反応、化学平衡 8. 化学熱力学 1 9. 化学熱力学 2 10. 化学熱力学 3 11. 化学熱力学 4 12. 化学平衡と化学ポテンシャル 13. 反応速度論:反応速度、一次反応、二次反応、半減期 14. 反応速度論:衝突理論、アレニウスの式、遷移状態理論 15. 期末試験 16. 総括授業
- 【教科書】** 『現代物理化学』培風館 阿武ほか ISBN 4-563-04502-0
- 【参考書等】** 参考・演習問題集:トース 著, 生物物理化学 I 基礎と演習 (共立全書)
- 【成績評価の方法】** 平常の学習姿勢と努力が反映されるような定期試験を実施する。
- 【再試験の有無】** 希望により行う
- 【受講へのメッセージ】** 推奨指定された関数電卓が必要。CASIO FX-350 程度のもの。プログラム電卓、パソコンは不可、カード電卓では機能不足です。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180855>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

【備考】関数電卓、定規、グラフ用紙を準備してください。

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 IIA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) (歯 (歯))
Basic Chemistry 2: Organic Chemistry 三好 徳和 教授
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

- 【授業の目的】** 生体内で起こっている様々な複雑な反応も、分子のレベルで見れば各々単純な有機反応が幾つか連続して進行していると考えられる。そこで、歯学部学生の対し、生体反応を理解する基礎知識としての有機化学を教える。
- 【授業の概要】** 化学反応は何故起こるか。先ずそのことを理解する。また、有機化合物の 3 次元構造に関する基礎知識を学び、立体と化学反応との関連について学ぶ。さらに、基本的な有機化学反応を理解する。
- 【キーワード】** 基礎化学、化学、有機化学
- 【先行科目】** 『基礎化学/基礎化学 I・物理化学 (平衡と反応速度)』(1.0, ⇒119 頁)
- 【関連科目】** 『基礎化学/基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』(0.5, ⇒118 頁)
- 【到達目標】** 化学反応は何故起こるか、そして有機化合物の 3 次元構造に関する基礎知識を理解する。さらに、基本的な有機化学反応を理解する。
- 【授業の計画】** 1. 有機化学の歴史と現代有機化学の意義・役割 2. 有機化合物の構造と種類 (化学結合) 3. 有機化合物の構造と種類 (酸と塩基) 4. 有機化合物の構造と種類 (有機化合物の分類と命名) 5. 有機化合物の立体構造 (立体異性体) 6. 有機化合物の立体構造 (立体配座) 7. 反応は何故起こるのか 8. 電子の流れの書き方と考え方 (求核置換反応) 9. 官能基の性質と反応 (脂肪酸化合物) 10. 官能基の性質と反応 (脱離反応) 11. 官能基の性質と反応 (酸化反応と還元反応) 12. 官能基の性質と反応 (アルデヒドとケトン) 13. 官能基の性質と反応 (ケト-エノール平衡と付加反応) 14. 官能基の性質と反応 (カルボン酸とカルボン酸誘導体) 15. 試験 16. 総括授業
- 【教科書】** 『はじめて学ぶ大学の有機化学』深澤義正 笛吹修治 著 化学同人 2, 800 円+税
- 【成績評価の方法】** 授業への取り組みを勘案しつつ、期末試験の成績により判定
- 【再試験の有無】** 有
- 【受講へのメッセージ】** 授業の初回に、本授業に関する注意事項を話すので、遅刻せず必ず出席すること。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180860>
- 【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】**
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 月曜日 11時55分 ~ 12時50分 三好研究室(総合科学部3号館2階), E-mail:miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 II・原子と分子 (薬 (薬))
Basic Chemistry 2: Atoms and Molecules
植野 哲・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

- 【授業の目的】** 専門教育を学ぶ上で基礎となる化学の中でも、もっとも基礎となる原子構造の理解を目的とする。すなわち、核外電子の配置や周期律等についての理解を目的とする。
- 【授業の概要】** 前期量子論および量子力学に基づいた原子模型を中心に、原子構造の基礎を概説する。
- 【キーワード】** 前期量子論、周期表
- 【関連科目】** 『無機化学』(0.8)
- 【到達目標】**
1. 原子模型が理解できる。
2. 量子数が理解できる。
3. 諸元素の核外電子の配置が理解できる。
- 【授業の計画】** 1. 原子を構成する素粒子 2. 原子を構成する素粒子 3. Bohr の理論 4. Bohr の理論 5. Sommerfeld の量子条件 6. Sommerfeld の量子条件 7. Schrödinger の波動方程式 8. Schrödinger の波動方程式 9. 電子スピン、スピン量子数、内量子数 10. 電子スピン、スピン量子数、内量子数 11. Zeeman 効果 12. 諸元素の核外電子の配置 13. 諸元素の核外電子の配置 14. 諸元素の核外電子の配置 15. 学期末試験 16. 総括授業
- 【教科書】** 使用しない。適宜プリントを配布する。
- 【参考書等】** 田中、佐野共著 原子・分子の現代化学 学術図書

【成績評価の方法】 学期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 「自ら学ぶ」という積極的な姿勢を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180862>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 植野 (088-633-7268, sueno@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:水~ 金曜日 製剤学研究室(薬学部5階))

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 III・細胞生物化学の基礎

(薬 (薬))

Basic Molecular Cell Biology

山崎 尚志・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 薬学など、生命科学を主体とした学問領域を専攻するにあたって必要と思われる生物化学の基礎、とりわけ生命現象を司る最小単位である細胞を構成する分子の構造とそれらの機能を中心に講義を進めます。

【授業の概要】 細胞は様々な分子によって形作られ、それらの働きによって生命活動を営んでいます。本講義では代表的な生体分子(糖、脂質、タンパク質、核酸)の構造を中心に、生体分子同士の関わり合いや細胞内小器官の役割などについて説明します。

【キーワード】 細胞生物学、生物物理化学、生化学

【到達目標】

1. 生物学や化学の基礎知識を持ち、自分で教科書を読み進める能力の育成を目指します。
2. 生化学や生物物理化学に関連した学部専門講義をスムーズに理解できるようにすることを目指します。

【授業の計画】 1. 講義を開始するにあたって 2. 原子の構造 3. 原子や分子の相互作用 4. 水の性質・細胞内での水の役割 5. 細胞の構成・生体膜 6. 糖 1・生体分子の立体構造 7. 糖 2 8. 脂質 9. アミノ酸 10. ペプチド・タンパク質 11. 核酸 12. 核酸 2 13. 酵素・補酵素・ビタミン 14. 酵素反応・化学反応 15. まとめ

【教科書】 スライドを使用して説明を行いますので、スライドの縮小コピーを毎回配布します。

【参考書等】 自習・復習用に比較的年価でコンパクトにまとめられている共立出版「生体分子化学」秋久俊博・長田洋子編をお勧めします。これ以外に、学部専門講義で使用する教科書も参考書として使ってください。

【成績評価の方法】 基本的に毎回出席を取ります。規定の出席回数を満たした人に定期試験の受験資格を与えます。ただし成績は定期試験の点数のみで評価し、出席回数は考慮しません。小テストやレポートを課す場合はそれらも評価の対象とします。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者のメッセージ】 高校までに学んだ化学や生物の復習的な内容を中心としますが、それに関連する細かい事項も説明する予定です。比較的広範囲に及びますが、「生物化学の基礎」ですので講義中に理解する、あるいは頭の片隅に入れるように心がけて下さい。その日のうちに復習したり、ノートをとることを推奨します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180864>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山崎 (088-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも、ただし事前にメールなどで連絡を取られた方が確実です。)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学概論

(工 (建))

Outline of Chemistry

村田 勝夫・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 今日、私たちの生活の中には、衣食住を通して人間が造り出した様々な製品にあふれている。化学の進歩とともに、新しい機能を持った物質が作り出され、私たちに快適な環境をもたらしている。一方、物質文明は人類に環境汚染などの深刻な問題をもたらしている。これらの問題は化学の力のみで解決することはできないが、化学の力なくしては解決することのできない問題である。このような状況を考えると、今まで以上に多くの学生が化学を理解することが重要である。本授業では、高校教育における物理や化学と現代の学問としての化学とのスムーズなつながりを意識しながら、理工系大学生として学問的雰囲気を感じて知的好奇心が刺激され、高学年となってからも役に立つことを目的とする。

【授業の概要】 広範囲な化学の領域をすべて網羅して学習することは困難であるので、本授業では抽象的な概念の思考を主とする熱力学を割

愛し、化学結合、化学反応、化学平衡などの基礎的な学習と、触媒や電池などの反応速度や電気化学などの応用例の理解から構成した。つまり理工系学生が化学的現象の根本的な原理を理解できるような授業をする。

【キーワード】 電子配置、周期律表、化学結合、化学平衡、イオン化傾向

【先行科目】 『基礎数学/微積分学』(1.0, ⇒109 頁), 『基礎物理学/力学及び熱力学』(1.0, ⇒115 頁)

【関連科目】 『量子力学』(1.0), 『基礎物理学/力学及び熱力学』(1.0, ⇒115 頁)

【到達目標】

1. 原子の構造と軌道の性質、そして量子化学の基礎が理解できる。
2. 気体、液体、固体の基本的な性質と状態変化、化学平衡や反応速度の応用ができる。
3. 触媒や電池の基礎的な理解を深め、多くの最先端の応用例を知る。

【授業の計画】 1. 概論と SI 単位 2. 水素原子のスペクトルとエネルギー 3. 原子の電子配列と周期表 4. 化学結合 5. 分子の極性 6. 化学反応の種類 7. 有機化合物の反応 8. 気体分子運動論 9. 相変化と相平衡 10. 状態図と相律 11. 固体と結晶構造 12. 溶液 13. 反応速度 14. 化学平衡 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 篠崎 開・大窪 潤・大野清伍・柴 隆一・鈴木隆之・藤本 明 共著 『理工系一般化学』 東京化学社

【成績評価の方法】 小テスト、学期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180865>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村田 (オフィスアワー: E-Mail: vision2owater@yahoo.co.jp)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験

(医 (栄))

Basic Chemistry Experiments

増田 俊哉・教授、山本 裕史・准教授

山本 孝・准教授/総合科学部、大西 美智子・非常勤講師

2単位 後期 火 5・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学実験』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 化学実験を通して、基本的な実験操作を修得すると同時に化学的知識を深めます。また、実験結果に基づいた結論の出し方を学びます。

【授業の概要】 酸塩基滴定、酸化還元滴定などの定量分析、比色分析、滴定曲線などの分析・物理化学実験、簡単な有機合成や物質の単離などの有機化学実験を行います。

【キーワード】 化学実験、分析化学、物理化学、有機化学

【先行科目】 『基礎化学/基礎化学 II・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』(1.0, ⇒118 頁)

【到達目標】

1. 基本的な実験操作を習熟する。
2. 定量操作について習熟する。
3. 実験のデータ処理の基本を身につける。

【授業の計画】 1. 受講にあたって、安全教育 (全般) 2. 中和滴定 3. 酸化還元滴定 4. ヨウ素滴定 5. キレート滴定 6. 滴定曲線 7. 吸収曲線と比色定量 8. 連続変化法 9. 有機化学実験の説明、安全教育 (有機化学編)、有機定性試験 10. アセトアニリドの合成 11. メチルオレンジの合成 12. カフェインの抽出 13. カゼインの単離 14. DNA の分解 15. まとめ

【教科書】 共通教育化学分野にて作成したテキストを使用 (初日に購入してください)

【成績評価の方法】 出席・レポート・試験の結果を総合して行います。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本授業は実習です。従って与えられた課題について実験を行い結果をレポートにして提出することが必要です。なお、課題は、時間内に行えるものを用意していますが、失敗等により時間内に終わらない場合もありますので 9. 10 講時の他授業の履修には注意してください。また、実験開始前に当日の課題について説明するので遅刻は厳禁です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180868>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244,) (オフィスアワー: 後期:水曜日 12 時~ 13 時 総合科学部3号館2階)

【備考】 上記の担当のほか栄養学科教員 1 名が担当する予定です。また、まとめは提出されたレポートを元に毎週行うことにすることがあります。(その場合特にまとめ週 [16 週目] をとりません)。

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験

Basic Chemistry Experiments

(工(化2))

三好徳和・教授

菊池 淳・助教/総合科学部, 富山 黎子・非常勤講師, 林 陽子・非常勤講師

2 単位 後期 水 5・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学実験』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 化学実験を通じて、化学実験操作に慣れると同時に授業で学習した内容を深めること、および実験結果に基づいた結論の出し方、結果のまとめかたを身につけることを目的とする。

【授業の概要】 陽イオンと種々の試薬との個別反応を観測し、陽イオンの性質を把握するとともに、定量実験を試みる。また、機器分析を利用して物理化学的実験や簡単な有機化学的実験を行う。

【キーワード】 化学実験

【到達目標】

1. 定性・定量分析化学、物理化学、有機化学実験における基本的な化学実験を行うこと。
2. 定性・定量分析化学、物理化学、有機化学における基礎的な知識と原理を実験をとうして理解すること。
3. 実験についてレポートにまとめて報告すること。

【授業の計画】 1. 実験概要の解説、実験レポートの書き方、化学実験時の安全教育 (試薬の性質と取り扱い)、 2. 陽イオンと NaOH との反応と生成物の濃 NaOH 水に対する溶解性 3. 陽イオンと NH₃ 水との反応と生成物の濃 NH₃ 水に対する溶解性 4. 陽イオン (特に III 族陽イオン) の酸化還元反応 5. III 族陽イオンの分離 6. 混合試料の分離定性試験 7. 定量分析の仕方 (座学) 8. 標準溶液の調整と中和滴定 9. 酸化還元滴定 10. キレート滴定による天然水の硬度測定 11. 吸収曲線-MnO₄⁻イオンの吸収曲線・検量線の作成と、未知試料の濃度決定 12. 滴定曲線-酢酸と炭酸の滴定曲線を作成と、酸解離指数の決定 13. アセトアニリドの合成実験 14. 有機定性反応 15. 試験 16. 総括 (予備日)

【教科書】 担当教員側で作成した実験指導書を使用 (実費購入していただきます)

【参考書等】

- ◇ 化学実験を安全に行うために (化学同人)
- ◇ 統・化学実験を安全に行うために (化学同人)

【成績評価の方法】 各実験のレポート、テストの結果を総合して評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者へのメッセージ】 実験はまず出席し、自分で実験を行い、結果を考え整理することが大事で、この点を重要視して下さい。必ず予習復習を行ってください。11&12) のテーマは 2 班に分けて実施します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185556>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 月曜日 11時55分 ~ 12時50分 三好研究室(総合科学部3号館2階))

4.4 《基礎生物学》 (Basic Biology)

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 MII
Basic Biology

(医 (医))

六反 一仁 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
棚橋 俊仁 助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
河合 智子 講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎生物学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎生物学』)

【授業の目的】 基礎生物学 M1 の知識をもとに、生体を構成する細胞の種類とそれぞれの機能について、特に、生体の三大調節機構 (神経、内分泌、免疫) を重点的に取り上げ、その破綻による病気の発症のメカニズムを理解することを目的とする。

【授業の概要】 生体を構成する細胞のうち特に重要な細胞を取り上げ、基本的な働きと病気との関連について講義する。

【キーワード】 生体調節機構、神経、内分泌、免疫

【到達目標】

1. ホルモンが産生される仕組みとそれぞれのホルモンの働きを説明できる。
2. 神経細胞の種類、構造、及びニューロンネットワークの仕組みを説明できる。
3. 免疫担当細胞の種類とそれぞれの細胞の基本的な働きを説明できる。

【授業の計画】 1. 体のストレス反応の仕組み (神経・内分泌・免疫反応) (六反, 棚橋, 河合) 2. 視床下部, 下垂体 (六反, 棚橋, 河合) 3. 甲状腺, 副腎 (六反, 棚橋, 河合) 4. 睪, 性腺ホルモン (六反, 棚橋, 河合) 5. 循環調節ホルモン, カルシウム調節ホルモン (六反, 棚橋, 河合) 6. 神経細胞学総論 (六反, 棚橋, 河合) 7. シナプス伝達とニューロンネットワーク (六反, 棚橋, 河合) 8. 中枢神経系の各部位の主な機能 (六反, 棚橋, 河合) 9. 大脳皮質, 大脳辺縁系, 大脳基底核の働き (六反, 棚橋, 河合) 10. 免疫反応総論: 自然免疫と獲得免疫 (六反, 棚橋, 河合) 11. T 細胞の機能 (六反, 棚橋, 河合) 12. B 細胞と抗体の働き (六反, 棚橋, 河合) 13. 抗原提示細胞の機能 (六反, 棚橋, 河合) 14. サイトカインの働き (六反, 棚橋, 河合) 15. 本試験 (六反, 棚橋, 河合) 16. 総括授業 (六反)

【教科書】

- ◇ トートラ 人体解剖生理学 原書 6 版 丸善 ¥6,900 円
- ◇ その他、適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】 学期末試験で評価する。試験は筆記試験で行い、合計 100 点満点とする。60 点以上であれば合格とする。不合格者については再試験を行う。

【再試験の有無】 再試験は筆記試験で行い、1 度限りとする。不合格者は次年度に再受験とする。

【受講者のメッセージ】 とにかく授業に出ること。授業では「独学」では味わえない多面的かつダイナミックなテーマの展開も体験できる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180919>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 六反 (088-633-9007, rokutan@basic.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8:30~17:00)
- ⇒ 棚橋 (088-633-9004, tana@basic.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 河合

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 N
Basic Biology

(医 (栄))

金丸 芳 准教授

2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎生物学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎生物学』)

【授業の目的】 これから栄養士課程において高度な専門知識や技術を習得しなければなりません。その習得度のレベルを上げるためには、人体を中心とした生物学の基礎知識をもっていることが不可欠です。そして、生命とはどのようなものかを知ることが必要です。そのためには、生命の基本単位である細胞について理解することが必須です。栄養士過程に必要な基礎生物学として、細胞生物学の基礎知識を概説します。

【授業の概要】 細胞の営みや生命現象に関する細胞の分子生物学

【キーワード】 細胞、生命、遺伝、情報、機能

【到達目標】 細胞や生命現象のしくみ・面白さ・美しさを知る。細胞生物学の基礎知識を習得

【授業の計画】 1. 細胞とは 2. 細胞の化学成分 3. 生物の多様性と一様性 4. 遺伝情報の複製 5. 遺伝子の発現 6. 遺伝子発現の調節 7. 細胞の膜構造と細胞内小器官 8. 細胞骨格 9. 代謝 10. エネルギー 11. シグナル伝達と細胞の増殖 12. 発生と分化 13. 細胞間のコミュニケーションと組織構築 14. 生殖と減数分裂 15. まとめ 16. テスト

【教科書】 「生命科学」ISBN4-89706-115-6 羊土社 (東京大学教養学部理工系生命科学教科書編集委員会編)

【成績評価の方法】 期末のテストを中心に、小テストや出席状況を加味して評価します。

【再試験の有無】 行いません。

【受講者のメッセージ】 出席回数が規定に達していない場合はテストを受けられません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180920>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 H
Basic Biology

(医 (放検))

渡部 稔 准教授

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎生物学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎生物学』)

【授業の目的】 あらゆる多細胞生物の体の基本的な構成要素は細胞である。さまざまに分化した細胞が集まり、器官を形成し、個体が成立する。またおのおのの細胞の中には遺伝子が存在し、その細胞の性質を決定している。本講義では、細胞や遺伝子に対する理解を深め、これらを概念 (ソフト) としてだけではなく、物質 (ハード) としても理解することを目的とする。

【授業の概要】 まず、細胞の進化、細胞の種類、細胞内小器官について説明する。次に遺伝現象と遺伝子について学ぶ。また遺伝子やタンパク質のはたらきを通して、細胞の増殖、再生、ガン化、老化を理解する。最後に ES 細胞を用いた再生医療について概説する。

【キーワード】 細胞、遺伝子、原核生物、真核生物、遺伝

【到達目標】 細胞、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質という用語を、構造と機能の両面から自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の計画】 1. 生命の誕生 (細胞の進化) 2. 細胞とは (細胞の種類) 3. 細胞とは (細胞の構造) 4. 遺伝のしくみ (遺伝の概念) 5. 遺伝のしくみ (メンデル遺伝) 6. 遺伝のしくみ (遺伝子研究の歴史) 7. 遺伝子とは (複製、修復) 8. 遺伝子とは (転写) 9. 遺伝子とは (翻訳) 10. RNA と生命の起源 11. 細胞のガン化 (突然変異, ガン遺伝子) 12. 再生のしくみ 13. 細胞の老化 14. ES 細胞を用いた再生医療 15. 学期末テスト 16. 総括授業

【教科書】 毎回授業に必要なプリントを配布

【参考書等】 「エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著、中村桂子他監修、南江堂)

【成績評価の方法】 小テストと学期末テスト

【再試験の有無】 再テスト有

【受講者のメッセージ】 予習、復習、試験勉強のため「エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著、中村桂子他監修、南江堂) を精読することを勧める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180917>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日12:00-13:00(総合科学部1号館北棟2階3211室))

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 DII
Basic Biology

(歯 (歯))

細井 和雄 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1 単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎生物学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎生物学』)

【授業の目的】 本講義は前期に開講している基礎生物学 DI と一体で、歯学部学生が専門基礎教育科目を履修する際に必要な生物学の基礎知識を習得させることを目的とする。

【授業の概要】 生物の設計図である DNA の構造、複製機構、タンパクとしての発現機構などを第 7・8 章で学ぶ。生体の構造、機能の解析のみならず、病気の治療法としても重要である遺伝子操作について第 9 章で学ぶ。植物の光合成、動物の解糖と呼吸におけるエネルギーの獲得機構を第 10 章で学ぶ。神経の構造、末梢神経系・中枢神経系の働き、興奮とその伝導の機構、シナプスと神経ネットワークを第 11 章で学ぶ。蛋白質の機能と筋収縮の分子機構を第 12 章で学ぶ。また、細胞間のシグナル伝達について第 13 章で学ぶ。

【キーワード】 遺伝子発現、エネルギー代謝、神経系、シグナル伝達

【先行科目】 『基礎生物学/基礎生物学 DI』(I.0, ⇒I21 頁)

【到達目標】 遺伝子の構造と機能が説明できる。同化と異化、神経細胞、細胞骨格の機能、細胞間のシグナル伝達の基礎が理解できる。

【授業の計画】 1. 7 章 遺伝子としての DNA 2. 7 章 遺伝子としての DNA 3. 7 章 遺伝子としての DNA 4. 8 章 DNA からタンパク質

へ 5. 8章 DNA からタンパク質へ 6. 9章 DNA の組替え操作 7. 9章 DNA の組替え操作 8. 10章 同化と異化 9. 10章 同化と異化 10. 11章 神経細胞と興奮 11. 11章 神経細胞と興奮 12. 11章 神経細胞と興奮 13. 13章 細胞間のシグナル伝達 14. 13章 細胞間のシグナル伝達 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】教科書:中東美著『生命の科学』培風館 1,900円 参考書:補助プリントを配付する。

【成績評価の方法】筆記試験と出席率で評価する。本試験の結果が極端に悪い場合は再受講となる。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】入学試験で生物学を選択しなかった学生は全学共通教育の教養科目と基礎教育科目で生物学の基本事項を学ぶことを強く求められる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180916>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 細井 (088-633-7323, hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 17時~18時 口腔生理学第1研究室(歯学部6F))
- ⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 月~金 8時~9時 口腔細菌学セミナー室(歯学部4F))
- ⇒ 金森 (オフィスアワー: 毎週 木曜日 17時~18時 口腔生理学第1研究室(歯学部6F))
- ⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 月~金 17時~18時 口腔細菌学セミナー室(歯学部4F))
- ⇒ (オフィスアワー: 毎週 月~金 8時~9時 口腔細菌学セミナー室(歯学部4F))
- ⇒ 赤松 (口腔分子生理学 第2研究室, 088-633-7324, akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 17時~18時 口腔生理学第2研究室(歯学部6F))
- ⇒ (オフィスアワー: 毎週 木曜日 17時~18時 口腔生理学第1研究室(歯学部6F))
- ⇒ 村上 (088-633-7330, mkejji@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 月~金 8時~9時 口腔細菌学セミナー室(歯学部4F))

基礎生物学実験 (Basic Biology Experiments)

基礎生物学実験 A

(医・歯 ((医歯)A))

Basic Biology Experiments

山城考 准教授
2単位 後期 水 7・10

(平成19年度以前の授業科目:『基礎生物学実験』)

(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】生物の形態, 生理現象などの観察を通じて生命現象の一端を理解するとともに, 顕微鏡その他の使用法を身につける。また, 毎回のレポート作成により, 内容はもちろんのこと, 見やすく分かり易いレポートを作成することを目的とする。

【授業の概要】下記のような多彩なテーマで実験を行う。原則, 毎回異なる教官が異なるテーマで実験を担当する。内容, 順番は変更する場合がある。

【キーワード】顕微鏡, 細胞, 組織, 分類, 胚発生

【先行科目】『基礎生物学/基礎生物学 DI』(1.0, ⇒121頁), 『基礎生物学/基礎生物学 MI』(1.0, ⇒121頁)

【関連科目】『基礎生物学/基礎生物学 DII』(0.5, ⇒226頁), 『基礎生物学/基礎生物学 MII』(0.5, ⇒226頁)

【到達目標】実験にあたっての心構えを身につけ, 実験器具の使用法に習熟し, レポート作成技術を向上させる。

【授業の計画】1. 全般的説明および顕微鏡の使用法 2. 人体寄生虫卵の観察 3. 生きた心筋細胞の単離と細胞死の観察 4. 動物の同種個体間関係の定量的測定 5. 遺伝子組換え実験講習会 6. 真核生物の DNA 抽出 7. プラスミド DNA による大腸菌の形質転換 8. カラムクロマトグラフィーによる生体高分子の分離 9. DNA フィンガープリンティング法 10. 組換え DNA 技術における倫理的側面 11. 微生物の分類と同定 12. 植物の形態の観察 13. 人体主要臓器の肉眼観察 14. メダカの色素胞の観察 15. ウニの初期発生 16. 総括授業

【教科書】教科書として実習用テキストを配布予定

【成績評価の方法】毎回のレポートを100点満点で採点し, 平均点をもって成績とする。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】欠席するとその回の成績は零点になるので, 健康に留意し, 必ず出席するように務めること。再試験の機会はない。掲示により, 使用教室や必要な物の通知が行われることが多いので見落とさないこと。開始時間に遅れないこと。実験中は, 担当教官の指導, 助言などに細心の注意を払い, 注意を守ること。実験態度の著しく悪いものは欠席扱いにする場合があります。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180923>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小山 (3N06, 088-656-7256, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで予約 (および研究室のドアに表示))

- ⇒ 中鉢 (2119, 088-656-7254, chubachi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 樋浦 (633-9121, hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 12-13時または16時半-19時)
- ⇒ 佐野 (088-633-7063, sano@basic.med.tokushima-u.ac.jp)

【備考】高校で生物未履修者は, 高大接続科目/生物学 (前期木曜 5・6限, 担当:渡部) の履修が望ましい。

基礎生物学実験 (Basic Biology Experiments)

基礎生物学実験 B

(医・歯 ((医歯)B))

Basic Biology Experiments

山城考 准教授
2単位 後期 金 7・10

(平成19年度以前の授業科目:『基礎生物学実験』)

(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】生物の形態, 生理現象などの観察を通じて生命現象の一端を理解するとともに, 顕微鏡その他の使用法を身につける。また, 毎回のレポート作成により, 内容はもちろんのこと, 見やすく分かり易いレポートを作成することを目的とする。

【授業の概要】下記のような多彩なテーマで実験を行う。原則, 毎回異なる教官が異なるテーマで実験を担当する。内容, 順番は変更する場合がある。

【キーワード】顕微鏡, 細胞, 組織, 分類, 胚発生

【先行科目】『基礎生物学/基礎生物学 DI』(1.0, ⇒121頁), 『基礎生物学/基礎生物学 MI』(1.0, ⇒121頁)

【関連科目】『基礎生物学/基礎生物学 DII』(0.5, ⇒226頁), 『基礎生物学/基礎生物学 MII』(0.5, ⇒226頁)

【到達目標】実験にあたっての心構えを身につけ, 実験器具の使用法に習熟し, レポート作成技術を向上させる。

【授業の計画】1. 全般的説明及び顕微鏡使用法 2. 人体寄生虫卵の観察 3. 生きた心筋細胞の単離と細胞死の観察 4. 動物の同種個体間関係の定量的測定 5. 遺伝子組換え実験講習会 6. 真核生物の DNA 抽出 7. プラスミド DNA による大腸菌の形質転換 8. カラムクロマトグラフィーによる生体高分子の分離 9. DNA フィンガープリンティング法 10. 組換え DNA 技術における倫理的側面 11. 微生物の分類と同定 12. 植物の形態の観察 13. 人体主要臓器の肉眼観察 14. メダカの色素胞の観察 15. ウニの初期発生 16. 総括授業

【教科書】教科書として実習用テキストを配布予定

【成績評価の方法】毎回のレポートを100点満点で採点し, 平均点をもって成績とする。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】欠席するとその回の成績は零点になるので, 健康に留意し, 必ず出席するように務めること。再試験の機会はない。掲示により, 使用教室や必要な物の通知が行われることが多いので見落とさないこと。開始時間に遅れないこと。実験中は, 担当教官の指導, 助言などに細心の注意を払い, 注意を守ること。実験態度の著しく悪いものは, 欠席扱いになる場合があります。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180924>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小山 (3N06, 088-656-7256, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで予約 (および研究室のドアに表示))
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中鉢 (2119, 088-656-7254, chubachi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 樋浦 (633-9121, hiuraaki@dent.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 12-13時または16時半-19時)
- ⇒ 佐野 (088-633-7063, sano@basic.med.tokushima-u.ac.jp)

【備考】高校で生物未履修者は, 高大接続科目/生物学 (前期木曜 5.6限, 担当:渡部) の履修が望ましい。

5) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

歴史と文化

中国語Ⅱ ... / 葭森 / 後期 月 7・8	230
中国語Ⅰ ... / 郡 / 後期 火 5・6	230

人間と生命

(医) 放射線医学入門 ... (医(保)) / 上野・生島 / 後期 金 7・8	230
---	-----

自然と技術

(歯) 歯学概論 ... (歯(歯)) / 歯学部教授・吉本 / 後期 木 1・2	230
(工) 生物工学概論 ... (工(生)) / 辻・松木・堀・高麗・長宗・野地・中村・宇都・間世田・友安・長浜・大内 / 後期 木 5・6	231

中国語 II (Chinese Language 2)

中国語 II

Chinese Language 2

葭森 健介 教授

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『中国語 (2)』)

【授業の目的】中国語 (2) の前期で身につけた中国語の能力に更に磨きをかけ、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業の概要】前期に引き続き、教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。後期はインターネット等で探した、最新の中国についての記事を扱う。そのために必要な中国語サイトの閲覧方法、中国語ワープロの使い方などの知識も身につけてもらう。

【キーワード】中国語、時事問題、情報処理

【到達目標】中国語の新聞やインターネットの記事が速読できること、指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業の計画】1. 前期の復習・中国語の文法と表現 2. 日常生活で聞く中国語 3. 中国語のテレビ番組を見てみよう (リスニング練習) 4. 中国語のホームページの閲覧方法 5. インターネットの記事を読む (1-a) 6. インターネットの記事を読む (1-b) 7. 中国語の文法と表現 (2) 8. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 9. 中国語ワープロを打ってみよう (2) 10. 中国語ワープロを打ってみよう (3) 11. インターネットの記事を読む (2) 12. インターネットの記事を読む (3) 13. インターネットの記事を読む (3) 14. 中国語 II の総復習 15. 後期試験 16. 後期試験の講評

【教科書】教材はプリントで配付する

【参考書等】1 年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【成績評価の方法】授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う

【再試験の有無】基本的には「無」、ただ受講態度をふまえ再試験を行うこともある。

【受講者へのメッセージ】総合科学部学生は学部専門科目として登録すること。総合科学部以外の受講希望者はあらかじめ相談のこと。共通教育で中国語初級、あるいは中国語 (1) 4 単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力を有していることが絶対条件である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181150>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~15:00)

【備考】総合科学部全学生と医学部の平成 17 年度以前の医学部保健学科の入学学生をのぞき平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化 / 中国語 II』として 2 単位が認定される。総合科学部の平成 16 年度以前、医学部保健学科の 17 年度以前 入学学生は授業科目:『中国語 (2) / 中国語 (2)』として 1 単位が認定される。◇総

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワーは一応水曜日の昼休みに設定するが、随時質問・相談可、研究室は総合科学部 1 号館 3 階中棟 (邵), E-Mail: shaoyingjian@yahoo.co.jp)

【備考】総合科学部全学生と医学部の平成 17 年度以前の医学部保健学科の入学学生をのぞき平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化 / 中国語 II』として 2 単位が認定される。総合科学部の平成 16 年度以前、医学部保健学科の 17 年度以前 入学学生は授業科目:『中国語 (2) / 中国語 (2)』として 1 単位が認定される。◇月 7.8 葭森教員と連携して進行

人間と生命 (Humanity and Life)

(医) 放射線医学入門

(医 (保))

Introduction to Radiation Medicine

上野 淳二 教授 / 大学院ヘルスバイサイエンス研究部

生島 仁史 教授 / 大学院ヘルスバイサイエンス研究部

2 単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】医療における放射線診断および放射線治療の役割を理解させることを目的とする。

【授業の概要】人体に対する各種放射線の影響を理解させ、放射線の作用、医学的利用等について分りやすく概説する。

【到達目標】放射線の概略について、物理学・生物学的に認識を深めるとともに、医学的利用につき理解する。

【授業の計画】1. 放射線診断 1 総論・歴史 2. 放射線診断 2 各種センサー技術 3. 放射線診断 3 投影像から断層像、三次元画像へ 4. 放射線診断 4 造影検査 5. 放射線診断 5 低侵襲医療・IVR 6. 放射線診断 6 デジタル化・PACS 7. 放射線診断 7 コンピュータによる支援 8. 放射線治療 1 臨床腫瘍学総論 9. 放射線治療 2 放射線腫瘍学総論 10. 放射線治療 3 放射線治療装置 11. 放射線治療 4 中枢神経系腫瘍の放射線治療 12. 放射線治療 5 頭頸部腫瘍の放射線治療 13. 放射線治療 6 胸部腫瘍の放射線治療 14. 放射線治療 7 腹骨盤部腫瘍の放射線治療 15. 試験

【成績評価の方法】成績は受講姿勢、試験、レポートによって評価する。

【再試験の有無】有り。

【受講者へのメッセージ】医療および放射線、画像情報の医学利用などに興味を持つ学生に受講してほしい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181245>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 上野 (088-633-9020, ueno@medsci.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 16:30-17:30)

⇒ 生島 (088-633-9051, ikushima@medsci.tokushima-u.ac.jp)

【備考】この授業はどの学部学科の学生が受講した場合も教養科目の単位となる。

自然と技術 (Science and Technology)

(歯) 歯学概論

(歯 (歯))

Outline of Dental Science

歯学部教授

吉本 勝彦 教授 / 大学院ヘルスバイサイエンス研究部

2 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】この歯学概論では、現在歯科医学で関心が持たれている研究と技術開発に焦点をしばって講義を行い、歯科医学を学ぶ学生としての自覚と意識を高めることを目的とする。

【授業の概要】歯科医学では、歯・顎・口腔・顔面・唾液腺の構造と機能、ならびにこれらの領域に発生する疾患の病因、病態、治療、予防に関する研究が行われている。上記の身体領域は、全身各部位と分かれて存在するのではなく、機能発現において緊密に関連している。また、口腔に発現する病気も全身系統疾患と関連していることがある。故に、歯科医学では、医学・生物学の基本的な知見に基づいて構築されていることは言うまでもない。この歯学概論では以下に述べる内容につき講義する。

【到達目標】歯、唾液腺を含む顎、口腔領域の構造と機能ならびにこれらの領域に発生する疾患の病因、病態、治療および予防に関する基本的な概略を説明できる。

【授業の計画】1. 歯科医学の概要 2. 口腔とその周辺の構造 3. 歯の種類とその組織学的構造についての概説 4. 歯の種類とその組織学的構造と機能並びに分泌とその調節 5. 唾腺の構造と機能並びに分泌とその調節 6. 顎顔面領域の形態形成における遺伝子の動き 7. 歯の死に至る病気、口腔の難病、老化と性差について概説 8. 感染症をひきおこす病原微生物およびヒトの防御機構について 9. 全身疾患と口腔内疾患の関連 10. ヒトのバイオマテリアル概説、その成形法と生体内での挙動 11. 歯の

【教科書】

歴史と文化 (History and Culture)

中国語 I

Chinese Language 1

部 迎建 教授

2 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『中国語 (2)』)

【授業の目的】中国語 (1) で学んだ文法の基礎の上から立ち、名文に触れ、ことばの感性を育てながら、語彙を増やし、表現を豊かにします。中国語力を高めることを目指します。

【授業の概要】現代の短い小説を読解します。朗読、翻訳をした後、言い回しや文型を用いて作文の練習をします。後期はピンインなしのエッセイや小説にチャレンジします。

【到達目標】確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。

【授業の計画】1. ガイダンス 2. 第六課「愛好」を朗読、翻訳 3. 作文練習 4. 第七課「軍犬黒子」を朗読、翻訳 5. 作文練習 6. 以上のステップで次の文章を読む。 7. 期末試験 (『人民日報』のコラムを翻訳する、辞書持込可)。 8. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】

◇ 渡辺晴夫・大川完三郎編『心あたたまる短い小説 10 選』(同学社、2006)2,300 円。

◇ 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】平常点及び期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】受講希望者はあらかじめ相談のこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=181309>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

全学共通教育 (2009) 〉 後期・【学部が開放する授業題目】

- ◇ 教科書: 使用しない。
- ◇ 参考書: 随時プリントを配布する。授業に参考となる著書、論文は、授業中に随時知らせる。

【成績評価の方法】 記述形式によるテストを実施する。

【再試験の有無】 有

【受講者のNext-Step】 口腔の構造と機能及びその異常について、興味を持つよう努力すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=180985>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 試験は試験期間に行う。

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 生物工学概論

(工 (生))

Outline of Biotechnology 辻明彦・教授/工学部, 松木均・教授/工学部

堀均・教授/工学部, 高麗寛紀・教授/工学部, 長宗秀明・教授/工学部

野地澄晴・教授/工学部, 中村嘉利・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究所

宇都義浩・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究所

間世田英明・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究所

友安俊文・准教授/工学部, 長浜正巳・准教授/工学部

大内淑代・准教授/工学部

2 単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 生物工学 (バイオテクノロジー) は、ナノテクノロジーや情報技術 (IT) と共に 21 世紀を拓く革新技術として期待されている。特にバイオテクノロジーは、医療、環境、食糧、資源、エネルギーなどの分野に広く活用されようとしており、人類の直面する諸問題の解決に大きく寄与し、人類の福祉に貢献するものと考えられている。バイオテクノロジーを支える生命科学から応用技術にいたるまで広く浅く学び、全体として生物工学に関する知識が修得できることを目的とする。

【授業の概要】 生物工学科の各教員がそれぞれの専門分野を踏まえて、バイオテクノロジーの入門から最先端バイオテクノロジーまでのトピックスについてわかりやすく解説する。トピックスの内容は担当教員ごとに異なり、毎回の課題についてレポートを作成する。

【キーワード】 バイオテクノロジー、遺伝子、タンパク質、微生物

【到達目標】 生物工学の基本的な考え方や生物工学の現状が理解できる。

【授業の計画】 1. 授業概要ならびに生物工学大系について講述する。 2. 生体関連物質の両親媒的性質と界面現象が関与した生体コロイドについて講述する。 3. 生物活性物質分子設計の技法を学ぶメディシナルケミストリー入門: 生命の誕生と進化における合成の意味論について講述する。 4. 地球環境における物質循環の根幹を支える微生物の役割と機能について講述し、バイオテクノロジーへの応用について講述する。 5. 環境中の有害および有益微生物の制御方法に関する最近のトピックスを講述する。 6. 各種疾病治療における抗体工学やワクチン工学の応用について講述する。 7. 先端医療における生物工学の役割について講述する。 8. DNA の戦略“発生と進化のメカニズム”について講述する。 9. 生物資源の有効利用について講述する。 10. 発育鶏卵を用いた種々の薬剤評価法について講述する。 11. 抗生物質と細菌の多剤耐性機構について講述する。 12. 細菌 (バクテリア) 研究の歴史について講述する。 13. タンパク質合成と細胞および個体機能との関連について講述する。 14. 遺伝子の発現機構について講述する。 15. 微生物酵素の産業利用と機能開発について講述する。 16. 生物工学概論のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度とレポートによって評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185560>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 辻 (化生棟 710, 088-656-7526, tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

